

せず、慨然として舟を泛へて采石に溺り、李白の祠に謁す。之と對飲し、を誅するに文を以てす、曰へるあり、不知我者謂我狂且遠、知我者謂我不同時、飲罷別君去、長江吞天紅日沈と。嘗て雪中失白鳥詩を作る。甚だ工なり。

キウハクギヨク

夫。宋に仕へて戸部侍郎と爲る。上疏して致仕を乞うて云ふ、骸を乞ふに老を以てす、敢て漢傅之高風を希ふ、腹を鼓して嬉す、願くは呉氏之至樂を遂げむと。

キウハン

告犯 (周) 狐偃を見よ。

キウバンケイ

裴萬頃 (宋) 字は元重。新進の人。孝行節操あり。學問純然、一に正に出づ。淳熙の進士に登り、樂平簿となる。清聲播聞す。大理寺直に累遷す。力めて外を求めて江西撫幹に補佐せらる。朝に在り時を賦して曰ふ、新築書堂壁未乾、馬蹄催我上長安、兒時只道爲官好、老去方知行路難、十里關山千里念、一番風雨一番寒、何如靜坐蒲席下、翠竹蒼梧仔細看と。後致仕を乞ひて歸る。著す所竹齋文集あり。

キウヒツメイ

丘必明 (宋) 保昌の人。少にして氣節を負ふ。咸淳中、進士。官、韶州倉判たり。饒中、元兵城下に逼る。必明屈せず、賊の爲に殺さる。家人其忠節を哀み、祠を立て、之を祀る。

キウワイウテイゼンウ

丘澤尤韞車子 (漢) 南匈奴主。名は莫。比の弟。立て一年にして死す。

ギウフウ 牛富 (宋) 霍邱の人。勇にして義を知る。侍衛馬軍司統制と爲り、襄陽を成る。後、樊陽に守たり。城破る。死士百人を率ゐて巷戰し、遂に頭を以て柱に觸れ、火に赴きて死す。靖江軍節度を贈る。忠烈と諡す。裨將王福曰く、將軍國事に死す、吾豈獨り生くるを容さむやと。亦火に赴きて死す。

キウフウコク

丘富國 (宋) 字は行可。建安の人。嘗て學を朱子の門人に受く。淳祐中登第して丹陽令と爲る。宋社既に傾く。遂に仕へず、周易解十卷、經世補遺三卷、易學說約五篇を著し、朱氏の宗旨を發明す。

キウホ

裴甫 (唐) 浙東の人。懿宗の時、兵を起して象山を攻陥し、尋て州邑を侵掠す。觀察使王式、討て之を斬る。

ギウホウキフ

牛鳳及 (唐) 長壽中、唐書斷を撰す。武德より弘道に終るまで百有十卷と爲す。

ギウボクチウ

裴牧仲 (周) 魯の人。孟獻子の友。

キウミンキヤウ

邱民仰 (明) 字は長白。渭南の人。萬曆中、鄉舉を以て州縣に歴任す。崇禎間、官巡撫に至る。松山の役、食糞して城破れ、遂に戦死す。

キウシ

希運 (唐) 高僧。閩人。初め高安に黃粟山寺に投じて出家す。後法を百丈海禪師に嗣く。裴相國大禪院を建て請して法を説かしむ。運、黃粟を以て其寺に名づく。大中四年八月示寂す。語録あり、傳心法要

といふ。勲して斷際禪師と諡す。

キウユ

邱瑜 (明) 宣城の人。天啓五年の進士。庶吉士より檢討に改められ、崇禎中、禮部左侍郎兼東閣大學士に累擢せらる。十七年都城陥り、清兵の爲に害せらる。

キウヨク

弓翊 (三國) 博陵太守。曾孫逸唐、陳倉令たり、義之、遠之を生む。義之、德州刺史たり、志弘、志和、志元、彭祖を生む。志弘、陳州刺史たり、禮部員外郎嗣宗、洛州司馬嗣業の二子を生む。志元、右金吾將軍相州刺史たり。彭祖、揚州刺史蒲州刺史たり。嗣初、嗣説を生む。嗣初、雍州司功たり。

キウライ

丘來 (宋) 字は少潛。礪の子。常熟の人。紹興中、海鹽に知たり。學宮を治め、海堤二十里を築く。民宿違あれば、縣廩を檢して羨餘を得れば悉く代輸と爲す。郡に疑獄あり、一時平反す。

ギウラウ

牛牟 (漢) 字は君直。世祖布衣たりし時、牟と交遊す。嘗て夜共に談説し、賦言して云ふ、劉秀當に天子と爲るべしと。世祖曰く、安んぞ我萬一にも果して然らざるを知らんや、各爾の志を言へと。牟、黙然たり。世祖之を問ふ。牟曰く、丈夫義を立つ、帝と友たらすと。衆大笑す。世祖即位するに及びて邱を徵す。牟、病と稱して至らず。詔して毎に家に就きて之を存問す。牟恒に髮を破り、疾と稱して詔命に答へず。

キウラン

仇覽 (漢) 字は季智。一名は香。

陳留考城の人。年四十にして潘亭長と爲る。亭人陳元なるものあり、母、元の不孝を告ぐ。覽親ら其家に到り、爲に人倫を陳ぶ。元、悟して卒に孝子と爲る。考城令王漢、覽を署して主簿と爲し、謂て曰く、陳元罰せずして之。化す、鷹鷂の志を少くも無きを得んやと。覽曰く、以爲らく鷹鷂は鷹鷂に若かずと。漢曰く、根葉は鷹鷂の棲む所に非ず、百里豈に大賢の路ならんやと。乃ち一月の俸を以て資と爲し、覽をして大學に入らしむ。郭泰、符融と共に覽が房に就きて之に見え、起ちて床下に拜して曰く、君は泰の師、泰の友に非ざる也と。覽、後に微辟に應ぜずして卒す。三子、皆文史の才あり、少子玄、最も名を知らる。

キウランシチクコウテイゼンウ

休蘭尸返侯 魏車子 (漢) 南匈奴主。名屯屠何。長の子。北匈奴の亂るに乘じ之を併せんと欲し上書して漢の援兵を求む。永元元年車騎將軍薁鞬と兵を合して北に出て大に之を破り首虜二十餘萬人。二年又左谷蠡王師子等を遣り北伐して其水壘を獲。此時南匈奴最盛にして戸を領すること三萬四千、口二十三萬七千三百、勝兵五萬一百七十。屯屠何立て六年にして死す。

キウリジユ

弓里戍 (漢) 騎都尉たり。建武 年兵に將として北州を平定す。英俊を歴訪し、温序を薦めて侍御史となす。

キウリン

弓林 (漢) 安陵の人。方望と共に孺子嬰を立つ。

キウラン

弓林 (漢) 安陵の人。方望と共に孺子嬰を立つ。

キウラン

弓林 (漢) 安陵の人。方望と共に孺子嬰を立つ。

キウラン

弓林 (漢) 安陵の人。方望と共に孺子嬰を立つ。

ギウリン 丘麟 (宋) 字は起潛。連城の人。嘉定十三年特に奏名せられて頼州頼陽尉と爲る。廉聲あり。歸りて紹定の寇に値ふ。麟、奮計して寇を撃ぎ、民を率ゐて東田原に登らしむ。全活する者甚衆し。招撫使陳譚其功を奏す。辟されて邵武軍に知たり。

ギウリン

牛麟 (元) 字は伯祥。太原の人。詞賦に精し。能く大字を作る。兼て墨竹を畫く。風格瀟灑なり。

ギウリヤウ

牛諒 (明) 字は士良。東平の人。洪武元年秀才に擧げられ、累遷して禮部尚書に至る。嘗て蕭向等と同じく命を奉じて朝禮を更定し、旨に稱ふ。後職を罷めて著述に従ふ。世に傳誦せらる。

キウレイキク

丘靈鞠 (南北) 嘗て猪彦回に隨る。彦回起たずして曰く、この頃脚疾、復起つ能はず。靈鞠曰く、脚疾亦是大事。公は一代の鼎臣たり、復た爲に鍊を覆すべからずと。

キウフイ

丘爲 (唐) 嘉興の人。繼母に事へて孝なり。時に靈芝あり、堂下に生ず。官、太子右庶子に至る。致仕するに及んで年已に八十餘。母恙無し。給するに俸祿の半を以てす。卒する年九十六。

キウフイ

丘維屏 (清) 字は邦士。世々寧都の河東に居り。地古松多し。之を望めば蒼龍なし。維屏、書を其下に著す。松下先生と稱す。其學尤も六經左國史漢を本とし、旁ら諸子百家に及び、並に泰西の諸書に通ず。心悟神解。僧無可、常に與に交游

キウフイ

丘維屏 (清) 字は邦士。世々寧都の河東に居り。地古松多し。之を望めば蒼龍なし。維屏、書を其下に著す。松下先生と稱す。其學尤も六經左國史漢を本とし、旁ら諸子百家に及び、並に泰西の諸書に通ず。心悟神解。僧無可、常に與に交游

す。退て人に語て曰く、此神人也と。康熙己未卒す。年六十有六。

キウフイ

丘允 (宋) 字は執中。長溪の人。元符中、進士に擧げられ、累官して柳州に知たり。蔡京、新に茶法を行ふ。州縣違奉す。蔡右勢を恃みて良民を欺詐す。官吏敢て詰責せず。允、其奸を窮治す。遠近法を敬ふ。時に朝廷方に黃老を崇尙す。允上疏して力めて之を斥く。徽宗稱獎す。又廣西撫課の弊を論す。朝廷其法を西廣に下す。民以て便と爲す。官、朝議大夫に終る。

キウエツ

仇鎮 (明) 字は廷威。饒原の人。初め備卒たり。會々都指揮僉事仇理卒して嗣無し。鎮之を襲ぎ、正徳中、都督僉事に進み、寧夏總兵官に任ぜられ、威寧伯に封ぜらる。世宗の時、卒す。年五十七。武襄と諡す。子昌。

ギウランジユ

牛温舒 (遼) 涿州范陽の人。性剛直、節義を尙ぶ。咸雍中進士に擧ぐられ、乾統の初、參知政事、知南院樞密使事に累官す。五年、宋、夏を攻む。夏、和を請ふ。温舒、使事を奉す。時に宋、方に大に宴す。宋の優人道士の裝を爲し、土を索めて藥爐に泥す。一優曰く、土少くして和する能はず。温舒遽かに起ち、手を以てを籍し之を懷にす。宋主其故を問ふ。對て曰く、臣天子の威命を奉じて來る、和若し從はざれば、則ち土を卷て收め去るべしと。宋人大に驚き、遂に夏に和を許す。還りて中書令を加へられて卒す。

キウラン

牛温舒 (遼) 涿州范陽の人。性剛直、節義を尙ぶ。咸雍中進士に擧ぐられ、乾統の初、參知政事、知南院樞密使事に累官す。五年、宋、夏を攻む。夏、和を請ふ。温舒、使事を奉す。時に宋、方に大に宴す。宋の優人道士の裝を爲し、土を索めて藥爐に泥す。一優曰く、土少くして和する能はず。温舒遽かに起ち、手を以てを籍し之を懷にす。宋主其故を問ふ。對て曰く、臣天子の威命を奉じて來る、和若し從はざれば、則ち土を卷て收め去るべしと。宋人大に驚き、遂に夏に和を許す。還りて中書令を加へられて卒す。

キウラン

牛温舒 (遼) 涿州范陽の人。性剛直、節義を尙ぶ。咸雍中進士に擧ぐられ、乾統の初、參知政事、知南院樞密使事に累官す。五年、宋、夏を攻む。夏、和を請ふ。温舒、使事を奉す。時に宋、方に大に宴す。宋の優人道士の裝を爲し、土を索めて藥爐に泥す。一優曰く、土少くして和する能はず。温舒遽かに起ち、手を以てを籍し之を懷にす。宋主其故を問ふ。對て曰く、臣天子の威命を奉じて來る、和若し從はざれば、則ち土を卷て收め去るべしと。宋人大に驚き、遂に夏に和を許す。還りて中書令を加へられて卒す。

キウラン

牛温舒 (遼) 涿州范陽の人。性剛直、節義を尙ぶ。咸雍中進士に擧ぐられ、乾統の初、參知政事、知南院樞密使事に累官す。五年、宋、夏を攻む。夏、和を請ふ。温舒、使事を奉す。時に宋、方に大に宴す。宋の優人道士の裝を爲し、土を索めて藥爐に泥す。一優曰く、土少くして和する能はず。温舒遽かに起ち、手を以てを籍し之を懷にす。宋主其故を問ふ。對て曰く、臣天子の威命を奉じて來る、和若し從はざれば、則ち土を卷て收め去るべしと。宋人大に驚き、遂に夏に和を許す。還りて中書令を加へられて卒す。

**ギエイカイ** 魏裔介 (清)字は石生。貞華と號す。一に崑林と號す。直隸柏郷の人。順治三年進士となり、官、保和殿大學士加太子太傅に至る。文毅公と號す。在官數十年、直道にして行あり。曹路に在る最も久しく、先後二百餘疏、言々皆中正なり。懸車十六年、農桑を課督し、田夫野老の間に混ず。人舊相たるを知らず。著、聖學知統錄、致知格物解等の書あり。

**ギエイシ** 魏詠之 (晉)字は長道。任城の人。家貧しうして躬ら耕し學を好んで倦まず。初め州の主簿となり嘗て劉裕と遊ぶ。桓公位を慕ふに及び、詠之、義謀に協賛す。才敗る。建威將軍を授けらる。桓欽、歷陽に寇す。詠之、衆を率ひ之を走らす。荊州刺史に轉す。詠之初め布衣に在り貧賤を以て恥ぢなす、顯位に居るに及び富貴を以て人に驕らず。卒して太常を贈り、陵縣公に追封せらる。諡を桓といふ。弟順之、瑯琊内史たり。

**ギエン** 魏延 (三國)字は子休。吳郡の人。漢書尚書となる。性狷廉、好んで清議をなす。時に郎曹沛混、多く其の人に非ず。藍臧否區別し賢愚異貫す。

**ギエン** 魏延 (三國)漢中太守を領す。昭烈問うて曰く、今卿に委するに重任を以てす、卿之に居り如何せんと欲するかと。延對へて曰く、若し曹操天下を擧げて來らば請ふ爲に之を拒む、偏將十萬の衆請ふ爲に之を呑むと。衆其の言を壯とす。

**ギエンシ** 魏攸之 (宋)字は子貴。建陽の人。幼にして大志あり、胡憲に師事し朱熹と遊ぶ。乾道中、遠遊に擧げられ、布衣を以て入見して當世の務を極陳し、勸むるに徳業を修め人心を正し士氣を養ひ恢復の本をなすべきを以てす。孝宗嘉納し、同進士出身を賜ひ大學錄を授く。卒して直秘閣を贈らる。

**ギオウ** 魏應 (漢)字は君伯。任城の人。經に明らかに行を脩む。弟子遠方より至る者、常に數千人。永平の初博士と爲り、諸儒を白虎觀に會して五經同異を講論す。孝帝甚だ之を重んず。

**キカ** 魏嘉 (漢)子南君に封ぜらる。

**キカ** 魏嘉 (晉)祁孔實を見よ。

**キカ** 魏嘉 (元)貞婦なり。蒙古氏。天曆の初、夫海南に貶せらる。詔して貴哥を近侍に賜ふ。車騎其家に至る。貴哥陽に喜色を見はし陰に既に如き自經して死す。

**キカ** 魏嘉 (周)楚の考烈王の時、天下合従す。趙、魏嘉を使して楚の春申君に見えしむ。

**キカイ** 魏開 (宋)孝謙の人。建炎中、朝散郎を以て蕪湖令に仕ふ。

**ギカイ** 魏愷 (南北)曲陽の人。北齊召して青州長史に拜す。就かす。顯祖怒て曰く、何物の漢子ぞ故らに我命に逆ぶと。愷に問ふ、死と長史と孰れか優る。愷云ふ、能く臣を殺す者は陛下、長史を受けざる者は愚臣と。顯祖大に之を奇とす。

**キカウ** 魏康 (漢)中大夫。漢末の時、董卓の難を避け、姓を抱と改む。

**ギカウ** 魏絳 (周)魏武子の子。順の弟。晉の悼公に事へて軍司馬と爲る。因て戎と和するの五利を言ふ。公之を悦び、絳をして諸戎に盟はしむ。公に勸めて政を脩め民を息はしめ、而して諸侯平らか也。蕭魚の會に、下軍佐と爲る。卒して莊と號す。

**ギカウ** 魏皓 (漢)尚書郎。才略あり。國典に明達す。寶武、朝に薦む。

**ギカウ** 魏校 (明)字は子才。崑山の人。其先蘇州封門の莊渠に居り。因て自ら莊渠と號す。弘治間の進士。南京刑部郎中を歴。尋て憂に丁る。服闋りて國子祭酒太常卿に累遷す。致仕して卒す。恭簡と號す。大學指歸、六書精蘊を著す。

**ギカウイウ** 魏孝友 (宋)字は移可。鳳翔の人。卓犖不羈、弱冠にして大學に入り、詔に應じて時政の得失を論じ凡十餘疏を上る。皆切ならざるはなし。金人關を犯し欽宗留めらる。孝友、歌一篇を作る。情辭慷慨、隣營に傳播す。躬ら軍前に詣りて粘罕を辨せむと欲し、地に伏すこと兩日、粘罕を得ず。定遠に命たり。時に群盜邑境を犯す。孝友兵を出して之と戦ふ。會邑邑朝奉郎を贈り、其の一子を官す。

**ギカウカ** 魏行可 (宋)字は當時。建安の人。建炎中、大學生を以て募に應じ、禮部侍郎を假りて金に使す。因て抑留せらる。

嘗て書を金人 遺り、誓しむるに載めされば自ら焚くの禍を以てす。金人其仕へを逼る。從はず、天を仰て請ふ、鳩を飲んで死す。紹興中、秘閣修撰官を追贈し其二子一弟を官す。

**キカウセウ** 危昂霄 (宋)字は次房。光澤の人。經史に耽嗜して仕進を樂まず。詩詞多くは豪俊超邁、人の慕ふ所と爲る。

**ギカウホ** 儀行父 (周)陳の靈公の大夫。公の十五年夏徵舒、靈公を弑す。行父、難に殉ぜず、孔寧と共に奔りて楚に入る。

**キカク** 執事 (周)歴算に精し。

**ギカクイ** 魏學淨 (明)字は子敬。大中の子。學を好み文、工みに、至性あり。父獄中に跪る。懼哭幾んど絶す。綱を扶けて歸り晨夕號泣、遂に病みて卒す。崇禎中、詔して其孝を旌表す。

**ギガクソウ** 魏學曾 (明)字は惟貫。涇陽の人。嘉靖三十二年の進士。世宗穆宗神宗の三代に仕へて戶部主事より兵部右侍郎に累遷す。賊東陽朝を討ちて克たす、勅罷せらる。已にして復官し、數年にして卒す。

**ギガクレン** 魏學謙 (明)大中の次子。崇禎十六年の進士。庶吉士に除せらる。明年自南京師に迫る。同官吳某と共に慷慨論議する所あり。帝召して之を任用せんと欲す。幾くもなくして京師陷る。死する能はず。賊の戶部司務の職を受けて其家壁を墮す。既にして自ら漸ら、絶命詞二章を賦して絶死す。

**ギカン** 魏閑 (宋)字は震夫。陝州の人。野の子。トして好みて詩を爲り鼓琴を學びて仕進を樂まず、父の志に違ふ。皇祐二年仁宗明堂を祀り、詔して遠逸卓犖年輩徳茂の者を求む。知府直史館李詔遣、閑が再世高節あるを薦む。上之を嘉みし、誠を清逸處士と賜ふ。

**ギカンキ** 魏咸熙 (宋)仁壽の子。姓仁孝。仕へて屯田郎中と爲り、累遷して大僕射少卿に至る。嘗て賓客を會す。家僮、案を覆し器を碎く。容皆驚愕す。咸熙、色變ぜず、更に饌具を設けしむ。其寛厚かくの如し。

**キキ** 魏基 (唐)高僧。字は洪道。姓は尉遲氏。京兆長安の人。十七歳にして出家し、勅を奉して玄奘の弟子となり、唯識宗を受く。二十五歳、勅を奉じて經を譯す。又論疏を著すこと凡百本、時に百本疏主と號す。其性豪侈、出づること必ず三車を治む。人之を呼びて三車和尚といふ。永祿元年十一月十三日慈恩寺に寂す。春秋五十一。

**キキ** 魏々 (元)字は子山。正齋と號す。不忽兀の子。回々の弟。禮部尚書に歴拜す。順帝、古名畫を觀むと欲す。魏々、郭忠恕比干の圖を取りて進む。時に中書平章阿魯剌、之を任用せむと欲す。然れども病むと七日にして卒す。文忠と號す。生平意を翰墨に刻す。單緙片楮人争ひて之を寶とす。

**キキ** 歸義 (金)僧なり。内典に博通す。亦善く山水を畫く。

**ギキ** 魏杞 (宋)字は南夫。壽春の人。進士に擧げられて宣州運驛に知たり。錢端禮其の才を薦む。召されて太府寺主簿となり、宗正少卿に遷り金通問使となる。孝宗嘗論す、一に名を正す、二に師を退く、三に歳幣を減す、四に隣附の人を廢せすと。杞陸辭して奏して曰く、臣將に旨を奉じて禮を出てむとす、其れ敢て勉めざらむや、萬一厭く無くんば願はくは速かに兵を加へよと。既にして會に至る。金人、國書大宋と稱するを以て脅かして大字を去らしむ。杞之を拒み卒に敵國の禮を正す。後、參知政事を歴。

**ギキ** 魏淵 (宋)字は天隨。福清の人。林光朝に師事し徳を潜めて耀かす。其の昆仲に雪堂天遊あり、亦仁名士なり。

**ギキ** 魏驥 (明)字は仲房。蕭山の人。永樂中の進士。訓導を授けられ召されて永樂大典を修む。御史に擢んでらる。宣德正統の間、南京吏部尚書に累遷す。景泰元年、年七十七にして致仕す。卒する年九十八。文靖と號す。

**ギキ** 魏禧 (清)字は永叔。句容また裕甯と號す。寧都の人。際瑞の弟なり。甲申の變、愍帝社稷に死す。禧、號鶴、義兵を擧げむと謀りしが果さず、乃ち諸生の服を拵て、亂を翠微峰に避け隱居教授し、力を古文に肆にす。喜びて史を讀み、尤も左氏傳及び蘇洵の文を好む。其の文を爲るや議論凌厲雄傑を主とす。年四十、出遊して江を

涉り淮を踰え吳越に至り交を天下の名士に  
 ぶ。康熙十九年、年五十七にして卒す。  
 著、文集目錄左傳經世の諸書あり。  
 ギケイ 魏季景 (南北) 下曲陽の人。父  
 驚、容儀あるを以て奉車都尉と爲る。季景  
 博學文才あり。魏の莊帝の時、中書侍郎と  
 爲り大司農卿に歴官す。卒するに及びて家  
 に餘財無し。遺命して薄葬せしむ。著はす  
 所、文章二百餘篇あり、子澄。  
 ギキヨウ 魏順 (元) 字は伯昂。天台の人。  
 山水を畫くに工なり。  
 キキヨウシン 危拱宸 (宋) 字は耀邦。南  
 城の人。性純孝。年十四、父に代りて初月  
 の詩を題す。令尹これを異とし、専ら學を  
 修めしむ。淳化の間、進士に登り、歴官し  
 て光祿卿に至る。  
 キクエイ 鞠詠 (宋) 進士に擢てられ、文  
 を以て知を王化基に受く。化基政に盡する  
 や、首として詠を以て薦む。天聖中、監察  
 御史となり、應變五事を條上す。天章待制  
 に除せらる。  
 キクカウ 鞠果 (宋) 吳川の進士なり。上  
 書して黨籍に入らんと願ふ。  
 キクシフク 鞠嗣復 (宋) 何許の人たるを  
 知らず。宣和の初、休寧を知す。方臘の黨、  
 縣を破りて降を逼らんと欲す。嗣復つて曰  
 く、爾ら當に逆を去りて順を效すべし、何  
 爲ぞ我を脅かして降らしむるを。自ら必ず  
 死するを知り少しも懼れず。賊曰く、我は  
 縣人なり、明府、邑を宰して善政あり、我

れ之を委するに忍びず。遂に去る。  
 キクシンケイ 鞠眞卿 (宋) 字は顔叔。熙  
 寧中、蘇州を知す。政事、他の施設なし。  
 而して人自ら之を憚る。庭訟寂然。治平中、  
 南安軍に駭せられ道蘇州を過ぐ。民戒めて  
 敢て其泊舟の處を過ぎず。其の憚らるゝと  
 此の如し。  
 キクシヤウ 鞠祥 (明) 字は景德。永平の  
 人。父亮、金山衛百戸たり。祥年十四にして  
 日本に掠られ、改めて元貴と名けて仕ふ。  
 然れども一日も中國を忘るゝ能はず、久し  
 うして歸るを得たり。母子相失する者二十  
 年。竟に復た相遇ふ。  
 キクジヤウ 鞠常 (宋) 字は可久。高密の  
 人。少より學を好む。進士に擢てられて著  
 作郎となる。楊徽之、李若拙、趙鼎等と同  
 じく時に名あり。所著、禮經二十卷あり。  
 子仲謀。  
 キクセウ 鞠紹 (南北) 梁陽の人。占を善  
 くす。侯景之を試みんと欲し、郭生と俱に  
 二伏牛何れか先つ起つとせしむ。火兆を  
 得たり。郭生曰く、赤者先つ起つ。紹曰  
 く、青者先つ起つ。景其故を問ふ。郭生  
 曰く、火色赤し、故に赤牛先つ起つを知る。  
 紹曰く、火將に燃えんとすれば烟先つ起つ、  
 烟上る色青し、故に青牛先つ起つを知る。  
 既にして紹が言の如し。  
 キクチウボウ 鞠仲謀 (宋) 常の子。景德  
 二十四賢中の人。端拱一年、連江に知たり。  
 大に東湖の水利を興す。民、今に至るまで

之を徳とす。  
 キクチン 鞠參 (南北) 涇陽の人。騎射を  
 善くす。帳内を以て齊の神武。從ひ、安康  
 郡王に封せらる。  
 キクブ 鞠武 (周) 燕太子丹の傅。初め丹、  
 秦に質たり。亡げて歸る。時に秦、日に兵  
 を山東に出して諸侯を蠶食し、禍まさに燕  
 に及ばんとす。丹之を思ひて太傅鞠武に問  
 ふ。鞠武乃ち處士田光を薦む。  
 キクワ 危和 (宋) 開禧の初、上元主簿と  
 なる。大に祠宇を闢きて以て程灝を祀る。  
 眞德秀これ記を作る。  
 ギクワ 魏順 (周) 晉の魏武子の子。初め  
 武子嬖妾あり。武子疾む。順に命じて曰く、  
 必ず是の妾を嫁せ。疾革るや則ち曰く、必  
 す以て殉と爲せと。卒するに及びて順、命  
 に從ひ之を嫁す。秦の師、晉を伐つ。順  
 之れを敗り、杜回を獲。蓋し順、老人の草  
 を結びて回に抗するを見る、故に之を獲た  
 り。夜夢む。老人曰く、は則ち而ち嫁  
 する所の婦人之父也、爾先人の治命を用ふ、  
 余是を以て報すと。  
 ギクワウ 魏宏 (宋) 字は損之。景祐中進  
 士に第し岳州司理となる。因あり、口を閉  
 じて食はず。宏曰く、吾能く之を食して食は  
 しめむ。乃ち引き問うて曰く、若し鼻を  
 塞ぐも能く久しく食はざるかと。囚懼れ、  
 遂に鼻に服す。人因て其の故を問ふ。曰  
 く、彼必善く氣を服せむ、鼻を塞がば則ち  
 氣閉づ、故に懼ると。後、朝奉郎に遷る。

ギクワウコウ 魏皇后(宣憲) (五代) 唐の  
 明宗の后。潞王從珂の母なり。鎮州平山の  
 人。初め平山の民王氏に適す。子を生む。  
 既にして明宗將と爲りて平山を掠め、其  
 子母を得て以て歸る。居る數年にして魏氏  
 卒す。太原に葬る。其子潞王從珂と爲す。  
 明宗の時、從珂已に王たり。乃ち魏氏を追  
 封して魯國夫人と爲す。廢帝即位し追尊し  
 て皇太后と爲し、陵寢を建つるを諫す。時  
 にたましく石敬瑭反す。乃ち京師河南府の  
 東に於て廢宮を立つ。清泰三年六月丙寅、  
 皇太后の寶冊を奉上し諡して宣憲と曰ふ。  
 ギクワウコウ 奇皇后 (元) 順帝第三の  
 后。名は完者忽都。高麗の人。初め入て宮  
 女と爲り若飲を供す。性媚佞、帝の寵幸を  
 得て皇子を生む。時に答納失里皇后、驕妬  
 なり。奇氏の帝意に當るを知り、數々之を  
 讒辱す。后皆に遇ふに及びて帝奇氏を立て  
 むと欲す。伯顔争ひ不可と爲す。伯顔既に  
 罷む。立て后と爲り興聖宮に居り。后もと婦  
 飾を能くす。閑暇には書史を閱し、歷代賢  
 后の行事を訪問せり。至正十八年京城饑う。  
 后命じて糜粥を作り以て賑す。時に生子愛  
 猷識理達臘、已に立ちて皇太子と爲り、帝  
 頗る政に怠る。后太子と國政を専らにす。帝  
 怒りて之を疎んす。初め奇氏の族高麗に在  
 る者、后の勢を恃みて驕横なり。高麗王伯  
 顔帖木兒、盡く其族を誅す。后怒りて高麗  
 王を廢し、別に其弟塔思帖木兒を以て王と  
 爲す。人臣奏す、后國政を撓亂す、宜しく

外に遷出すべしと。帝答へず。幾ばくもな  
 くして后崩す。後、奇氏三世を追封し皆王  
 爵とす。  
 ギクワウ 魏華存 (晉) 任城の人。字は  
 賢安。司徒劇陽文康公の女なり。幼にして  
 道を好み閑處に別居せんを欲す。父母許さ  
 ず。年二十四、強て劉文に適かしむ。二子  
 を生む。乃ち室を離れて別に居る。一夜群  
 仙來降す。華存乃ち形を化して去る。世に  
 南嶽魏夫人と稱す。  
 ギクワウ 魏桓 (漢) 安陽の人。清節を以  
 て數ば召さる。郷人之を勸めて聘に應ぜし  
 む。桓曰く、夫れ嫁を干め進を求むるは志  
 を行ふ所以なり、今後宮百數、其れ損す可  
 きか、厖馬十匹、其れ減す可きか、左右の  
 權豪、其れ去る可きか。皆對へて曰く、  
 不可なりと。桓乃ち歎じて曰く、桓をして  
 生きたがら死歸を行はしむ、諸子に於て何  
 か有らむと。遂に身を隠して出でず。  
 ギクワウ 魏瑾 (宋) 眞宗の時、廣州に知  
 たり。子城を築くを以て功あり。再任五年。  
 感懷の詩あり、云ふ、麻々霜髮一衰翁、蹤  
 跡年來類斷蓬、萬里遠辭雙闕下、一身長在  
 衆人中、瓊頭輪對恩難厚、雄傑論功事亦空、  
 淮上有山歸未得、獨揮清淚洒春風。又云ふ、  
 人言嶺外無霜雪、何事秋來亦滿頭。文潞公  
 其詩を採りて呈進す。龍圖學士を加へられ  
 廣州に召還せらる。入賢堂、瑾は其一に居  
 り。  
 ギクワン 魏觀 (明) 字は杞山。蒲圻の人。

元季、蒲田に隱居す。太祖武昌に下り、國  
 子助教に聘す。再遷して浙江按察司僉事た  
 り。祭酒に累擢せらる。孔子を祀るの禮を  
 考へ、時を以て奏せざるに坐し、知龍南縣  
 に謫せられ、課績天下の最たり。四川行省  
 參知政事に遷る。民留るを乞ふ。詔して還任  
 せしむ。後治水の事に坐して誅せらる。帝  
 尋て其冤を知り、命じて歸葬せしむ。  
 キクヤウ 魏允 (晉) 金城の人。秦族なり。  
 四州の語に曰く、魏興蓋年、筆下數頭、南  
 開朱門、北望青樓と。允、永嘉中、累官し  
 て左僕射に至る。  
 キケイ 祁奚 (周) 晉人。悼公の時、中軍  
 尉たり。老を請ふ。公之に代る者を問ふ。  
 解狐を稱す。狐は蓋しその仇なり。狐卒す。  
 又問ふ。對て曰く、臣の子午、可なりと。  
 羊舌職、死す。公同ふ、孰れか之に代る者  
 ぞ。對て曰く、赤、可なりと。是に於て祁  
 午をして中軍尉たらしめ、羊舌赤、之を佐  
 く。君子謂ふ、奚、其仇を稱して爲に固は  
 ず、其子を立て、爲に比せず、其偏を擧げ  
 て爲に竊せずと。平公立ちて奚を起して公  
 族大夫と爲す。午の子順、順の子勝。  
 ギケイ 魏京 (宋) 高安の人。天禧の進士。  
 博學能文、鄉里魏夫子を以て之を稱す。其  
 の居る所を名けて儒樂堂といふ。  
 ギケイ 魏敏 (明) 善く竹及び禽鳥を畫  
 く。  
 キケイキヤウ 季敬姜 (周) 戴巳と號す。  
 莒の女也。魯の太夫公穆伯の妻となる。博

邊にして禮を知る。穆伯死するや、子文伯を守護して道あり。後、文伯魯に相たり。敬姜教ふるに法理を以てす。仲尼焉を賢とす。

ギケン 義支 (唐)高僧。臨濟宗の祖。刑氏。曹州南華の人。諸方に參詣す。後黃檗に見えて法を嗣く。辭して郷土に歸り城南の臨濟院に住し大に宗風を暢ぶ。後大名府の興化寺に移り居る。咸通七年四月十日寂す。慧照禪師と諡す。學者其風を慕ふもの多く之を推尊して臨濟宗と稱す。

ギケン 魏源 (清)字は默深。湖南邵陽の人。嘉慶甲辰の進士。出で興化縣に知事なり。高郵州に遷る。洩む所政聲あり。源、文筆雄行、學故に熟す。尤も心を時務に悉し輿地の學に精し。著、海國圖誌、聖武記の諸書あり。

ギケンカウ 冀元亨 (明)字は惟乾。武陵の人。王陽明の學を篤信す。寧王宸濠叛く。或は元亨賊と通すと誣ふるものあり。詔獄に下さる。世宗立つ。其冤を白して獄を出で、五日にして卒す。

ギケンチウ 魏元忠 (唐)宋州の人。大學士と爲る。高宗召見し之を目送して曰く、名虚しく傳へず、眞宰相也と。聖曆中、鳳閣侍郎に拜す。郷に還りて拜掃す。宰相諸

司長官に詔して上東門に送らしむ。上、白馬寺に幸して之を送り、錦袍一領、銀一圓を賜ふ。制に曰く、衣錦還郷、在乎茲日、散金數萬、諒屬斯辰と。中宗復位して中書令に拜せらる。

ギケンドウ 魏玄同 (唐)字は和初。裴炎と交を結び、善く終始を保つ。時に耐久朋と號す。則天武后の朝、同鳳閣鸞臺一品たり。

キコウ 睦公 (南北朝)趙郡高邑の人。少にして大度あり。曹傳を好み、未だ嘗て世務を以て心に經せず。高尙仕へず。崔浩と莫逆の交を爲す。浩、司徒と爲り、奏劾して耶中となさんぞとす。就かず。後、崔浩誅せらる。奪これが爲に素服して郷人の甲冑を受く。嘆じて曰く、睦公死す、誰か能く更に睦公を容れんと。

キコウ 發公 (周)齊の君。姜姓呂氏。名慈母。乙公の子。

キコウ 倍公 (周)魯の君。姬姓。名は申。莊公の子。慶父閔公を弑す。季友申を奉じて陳より魯に入り慶父を殺して之を立つ。國を享くること三十三年。

キコウ 釐公 (周)燕の君。姬姓。此時三晉列して諸侯と爲る。立て三十年にして卒す。

キコウ 釐侯 (周)燕の君。姬姓。惠侯の子。周宣王の時に當る。國を享くること三十六年。

キコウ 釐公 (周)齊の君。姜姓呂氏。名慈母。乙公の子。莊公の子。慶父閔公を弑す。季友申を奉じて陳より魯に入り慶父を殺して之を立つ。國を享くること三十三年。晉列して諸侯と爲る。立て三十年にして卒す。

は疎雨。莊公の子。國を享くること三十三年。年。

キコウ 釐侯 (周)晉の君。姬姓。名司徒。靖侯の子。周宣王の時に當る。立て十八年にして卒す。

キコウ 睦公 (漢)魯國蕃の人。少にして侯を好む。長じて乃ち節を變じ、明經を以て諸郎と爲る。元鳳中、泰山の大石、自ら立ち、上林苑の僊柳、復た起つ。弘、春秋の意を推して以爲へらく、當に匹夫より天子と爲る者あるべしと。靈光之を惡み獄に下す。死して後、民間に興り、弘の子を徵して耶と爲す。

ギコウ 魏公 (周)魯の君。姬姓。名潰。幽公の弟。國を享くること五十年。

ギコウジユ 魏公恣 (宋)字は元齡。歐陽の人。行可の嫡孫。初め龍游に尉たりし時、大將劉資、三衢に屯し、需むる所給せざるなし。劉基之を喜ぶ。太守張嶠、公恣を見る毎に爲に顔色を降し、且つ刑法を以て薦む。再び、陽法樵に調せらる。直閣林孝澤、家居して賓客あり、獨り公恣を見れば必ず延いて與に語ること竟日。執政黃祖勝、其の賢を聞き書を以て招き、之を論議せむと欲す。公恣曰く、其の來を招いて之を薦めむと欲す、禮を知る者に非ずと。遂に往かず。復た韶州推官と爲る。帥臣復た才智練達を以て薦む。

キコウヒン 祁孔賓 (晉)名は嘉。字を以て行はる。清實にして學を好み博く經史に

通す。終身榮達を求めず。

ギコクイ 魏谷倚 (宋)太原源氏。晉陽尉富嘉謨少微と友とし善し。皆文辭を以て著名なり。時に北京三傑と稱す。

ギコクカ 魏克家 (明)高陽の人。舉人。都平知縣たり。善政あり。崇禎年間、喬若嬰と共に國難に殉ず。

ギコクク 魏克愚 (宋)了翁の子。寶祐中知徽州たり。政をなすや先務を知り、買鬻を闢き橋梁を作る。政恬事簡、民其の化に安んず。

キコクシ 鬼谷子 (周)楚人。隱居して智を習む。その鬼谷に居るを以て人呼んで鬼谷先生といふ。蘇秦、張儀の徒、嘗て之に師事す。世に傳ふる所の鬼谷子はその著なりと云ふ。

ギコクタイチヤウコウシユ 魏國大長公主 (宋)太祖の女。開寶三年昭慶公主に封せらる。王承衍に下嫁す。第を景龍門外に賜ふ。祥符元年薨す。賢蕭と諡す。

ギコクタイチヤウコウシユ 魏國大長公主 (宋)英宗の女。嘉祐八年寶安公主に封せらる。神宗立ち舒國長公主に進む。左衛將軍王誦に下嫁す。姑に事へて孝順を以て稱せらる。平居妬忌せず。詭計て官を脱せらる。帝命じて之を復し、以て公主の意を慰む。元豐三年疾篤し。太后及び帝臨問す。竟に薨す。年三十公主好みて古文章を讀み筆札を喜び、族黨を調恤す。中外之を惜む。朝を敬むる五日。薨薨魏二 公主に累改す。賢

ギコクイ

惠と諡す。

ギコシ 魏姑姊 (周)魯野の婦人也。齊、魯を攻む。時に婦人怨に在り。齊の師を見て其子を棄て兄の子を抱き以て走る。齊の將怪みて故を問ふ。對へて曰く、今爾子を護る能はず、己の子は私愛にして兄の子は公義なり、公義に背き私愛に憐ひなば魯人吾に與せじと。齊將歎じて曰く、魯未だ伐つ可らずと。遂に師を還へず。魯君之を聞きて婦人を賞し、束帛百端を賜ひ號して魏姑姊といふ。

キサイ 祁寧 (金)字は彦輔。江淮の人。宋季、醫術を以て官に補せらる。後、海陵の怒に觸れて市に戮せらる。

ギサイズキ 魏際端 (清)字は善伯。寧都の人。邑の諸生なり。博く群書を極め、兵刑禮制律法に於て皆能く源委を窮折す。性慷慨、難に死す。子世傑喪を迎へて歸り、呼號二十日にしてまた死す。

ギサウトク 魏漢德 (明)順天通州の人。崇禎十三年の進士。修撰に除せらる。帝頗る其異才を稱す。累遷して首輔に至る。會々都城陥り執へらる。酷刑に處せられ、腦裂けて死す。

キサツ 季札 (周)吳の泰伯が二十世の孫。父壽夢、四子あり。長諸樊、次餘祭、次餘昧、次季札。壽夢、季札が賢なるを見て之を立てんと欲す。季札辭す。乃ち諸樊を立て。復た季札に讓る。季札、謝して曰く、曹人、子職を立てんと欲す。賊之を

ギコシ

去り、以て曹君を爲す。季札不才と雖も願くは子職の職に附かん。諸樊卒して餘祭立つ。傳ふるに次を以てし必ず國を季札に致さんと欲す。卒に受けず。延陵に封せらる。故に延陵の季子と號す。嘗て魯に使し途、徐を過ぎる。徐君、季札が劍を好み、口致て言はず。季札心に之を知る。而かも上國に使用するが爲に未だ獻せず。使して還るに及び、徐に至る。徐君已に死す。乃ち劍を解き徐君の家樹に掛けて去る。從者曰く、徐君已に死す、尙ほ誰にか予へんと。季札曰く、始め吾れ已に心に之を許す、豈に死を以て吾が心に背かんやと。

キン 箕子 (周)殷紂の親戚。或は云ふ名晉餘。紂始め象箸を爲くる。箕子歎じて曰く彼象箸を爲らば必ず玉杯を爲らん、玉杯を爲らば必ず遠方珍怪の物を思て之を御せん、與馬宮室の漸此より始まんぞと。故に之を諫む。紂を諫むれども聽かず。乃ち髪を被り伴り狂して奴と爲る。周武王既に殷に克て箕子を訪問す。箕子爲に洪範を陳す。武王箕子を朝鮮に封じて之を臣とせず。箕子殷の故墟を過ぎ宮室毀壞して禾粟を生ずるを見て之を傷む。哭せんと欲すれば不可なり泣かんぞ欲すれば婦人に近しと爲す。乃ち夢秀の詩を作り以て之を歌詠す。其詩に曰く、夢秀漸々兮、禾黍油々、彼狡童兮、不與我好兮。狡童とは紂をいふ。殷の民之を聞て皆流涕す。

キン 姬氏 (周)衛侯の女也。邵王其賢を

ギコシ

聞き請ひて之を聘す。未だ至らざるに王薨す。太子之を留めんと欲す。女禮かず。深宮に拘へられて歸らんと欲するも得ず。琴を授て自ら懷を述べ、終に縊して死す。

ギン 魏氏 (唐)魏求己の妹。に工なり。宮に入るに當り、大呼して曰く、我輩必ず賊に汚を受けむ、志ある者は早く計を爲せと。遂に躍て御河に入りて死す。從死する者二百人。

ギンウ 魏肇 (周)所謂魏武子なり。晋の文公、未だ公子たる時、外に死亡するとし九年。魏武子、狐偃、趙衰、顛頤、介子推と五人、常に之に従ふ。文公既に即位するに及んでまた之に仕ふ。

ギンクワウ 魏之璜 (明)字は孝叔。金陵人。書を善くす。山水を寫すに粉本を襲はず、自ら規製を規む。巖壑樹石特に靈異なり。晩に濃墨を用ひ蒼老を貴ひ、稍や風韻を輸す。年八旬に近くして秦の淮水關に卒す。

ギンヤウ 魏相 (漢)字は弱翁。定陶の人。地節中、相に拜せらる。嘗て白して副封を去りて壘蔽を防ぐ。時に宣帝、勳績治を爲し、群臣を撰び名實核ぬ。相、衆職を總領し甚だ上意に稱ふ。蔚として一代の賢良たり。高平侯に封せられ麒麟閣に圖形せらる。

ギンヤウ 魏相 (漢)字は弱翁。定陶の人。地節中、相に拜せらる。嘗て白して副封を去りて壘蔽を防ぐ。時に宣帝、勳績治を爲し、群臣を撰び名實核ぬ。相、衆職を總領し甚だ上意に稱ふ。蔚として一代の賢良たり。高平侯に封せられ麒麟閣に圖形せらる。

ギンヤウ 魏相 (漢)字は弱翁。定陶の人。地節中、相に拜せらる。嘗て白して副封を去りて壘蔽を防ぐ。時に宣帝、勳績治を爲し、群臣を撰び名實核ぬ。相、衆職を總領し甚だ上意に稱ふ。蔚として一代の賢良たり。高平侯に封せられ麒麟閣に圖形せらる。

之に委ねて教練せしむ。其冬賊、蕪州河口に據る。而かも時光を憚て敢て逼らず。俄にして賊大に至り、部卒皆散す。時光、執へられ、風せすして死す。廣濟主簿を贈り、恤典を予へらる。

ギンケン 魏子建 (南北)字は敬忠。下曲陽の人。太尉從事中郎に累遷し東益州刺史に遷る。布くに恩信を以てし、遠近清淨、斬獲甚だ衆く、威名赫然たり。帝之を嘉みし詔して尙書を兼ねしめ行臺刺史となす。

ギンクワウ 魏時敏 (明)字は和叔。一に叔和に作る考叔の弟なり。善く山水を畫く。筆法、兄に似たり。ギンサイ 魏志才 (三國)曹操に仕ふ。ギンシヤウ 危仔昌 (唐)南城の人。金諷の弟。乾符末、兄と共に衆を聚めて郷里を保つ。新、梅、饒、信、四州の刺史に歴官す。子德昭に至りて姓を元と改む。

ギンヤウ 魏相 (漢)字は弱翁。定陶の人。地節中、相に拜せらる。嘗て白して副封を去りて壘蔽を防ぐ。時に宣帝、勳績治を爲し、群臣を撰び名實核ぬ。相、衆職を總領し甚だ上意に稱ふ。蔚として一代の賢良たり。高平侯に封せられ麒麟閣に圖形せらる。

ギンヤウ 魏相 (漢)字は弱翁。定陶の人。地節中、相に拜せらる。嘗て白して副封を去りて壘蔽を防ぐ。時に宣帝、勳績治を爲し、群臣を撰び名實核ぬ。相、衆職を總領し甚だ上意に稱ふ。蔚として一代の賢良たり。高平侯に封せられ麒麟閣に圖形せらる。

ギンヤウ 魏相 (漢)字は弱翁。定陶の人。地節中、相に拜せらる。嘗て白して副封を去りて壘蔽を防ぐ。時に宣帝、勳績治を爲し、群臣を撰び名實核ぬ。相、衆職を總領し甚だ上意に稱ふ。蔚として一代の賢良たり。高平侯に封せられ麒麟閣に圖形せらる。

ギンヤウ 魏相 (漢)字は弱翁。定陶の人。地節中、相に拜せらる。嘗て白して副封を去りて壘蔽を防ぐ。時に宣帝、勳績治を爲し、群臣を撰び名實核ぬ。相、衆職を總領し甚だ上意に稱ふ。蔚として一代の賢良たり。高平侯に封せられ麒麟閣に圖形せらる。

請て漢王の車に乗り黄屋左纛以て楚を説く。漢王間を得て出づ。信遂に烹らる。後廟を順慶に立てし忠祐といふ。

ギン 魏尊 (唐)魏徴の子。尙書右丞兼諫議大夫に拜せらる。其の叔瑜、草諫を善くし、筆意を以て其の子華及び甥薛魏に傳ふ。世に稱す、書を善くする者、前に虞裕あり、後に薛魏ありと。

ギンシヤウ 魏新之 (宋)字は徳夫。桐廬の人。咸淳辛未の進士。慶元府教授を授けらる。試を永嘉に考す。事を竣りて何列即ち裝を治めて行く。新之故を問ふ。皆曰く、士の黜げらるる者將に諱を生ぜむとす、之を避くるに如かずと。新之笑て獨り留る。果して一士有り、状を問ふ。辞色甚だ厲し。新之曰く、爾の文固より嘉し、不可を犯すを如何せむ、某行某字は正に廟諱に係る、吾れ筆を以て之を圍せりと。左右に命じ取て之を示す。士慙沮して引き退く。官に在り、濂洛關閩の正學を以て己の任と爲し、中庸性道の教の奥旨を推明し、反覆殆ど盡す。徳祐丙子、元兵臨安府に入り、游軍節に至る。時に學、兩教授を設け、東西廳を號す。教授王樺、憤甚し、曰く、吾儕死生今日に決すと。新之從容答て曰く、止だ今日のみならず、生あるの初め已に定まれり、之を聽すよ若かずと。顔色少しも變ぜず。

ギンシヤウ 魏相 (漢)字は弱翁。定陶の人。地節中、相に拜せらる。嘗て白して副封を去りて壘蔽を防ぐ。時に宣帝、勳績治を爲し、群臣を撰び名實核ぬ。相、衆職を總領し甚だ上意に稱ふ。蔚として一代の賢良たり。高平侯に封せられ麒麟閣に圖形せらる。

ギンシヤウ 魏相 (漢)字は弱翁。定陶の人。地節中、相に拜せらる。嘗て白して副封を去りて壘蔽を防ぐ。時に宣帝、勳績治を爲し、群臣を撰び名實核ぬ。相、衆職を總領し甚だ上意に稱ふ。蔚として一代の賢良たり。高平侯に封せられ麒麟閣に圖形せらる。

ギンシヤウ 魏相 (漢)字は弱翁。定陶の人。地節中、相に拜せらる。嘗て白して副封を去りて壘蔽を防ぐ。時に宣帝、勳績治を爲し、群臣を撰び名實核ぬ。相、衆職を總領し甚だ上意に稱ふ。蔚として一代の賢良たり。高平侯に封せられ麒麟閣に圖形せらる。

ギンシヤウ 魏相 (漢)字は弱翁。定陶の人。地節中、相に拜せらる。嘗て白して副封を去りて壘蔽を防ぐ。時に宣帝、勳績治を爲し、群臣を撰び名實核ぬ。相、衆職を總領し甚だ上意に稱ふ。蔚として一代の賢良たり。高平侯に封せられ麒麟閣に圖形せらる。

らるゝ及び、元昭を以て五郡を典せらるむ。人稱して長者と爲す。卒して宣懿と諡す。子咸信、咸熙。

ギンヤウ 魏相 (漢)字は弱翁。定陶の人。地節中、相に拜せらる。嘗て白して副封を去りて壘蔽を防ぐ。時に宣帝、勳績治を爲し、群臣を撰び名實核ぬ。相、衆職を總領し甚だ上意に稱ふ。蔚として一代の賢良たり。高平侯に封せられ麒麟閣に圖形せらる。

ギンヤウ 魏相 (漢)字は弱翁。定陶の人。地節中、相に拜せらる。嘗て白して副封を去りて壘蔽を防ぐ。時に宣帝、勳績治を爲し、群臣を撰び名實核ぬ。相、衆職を總領し甚だ上意に稱ふ。蔚として一代の賢良たり。高平侯に封せられ麒麟閣に圖形せらる。

ギンヤウ 魏相 (漢)字は弱翁。定陶の人。地節中、相に拜せらる。嘗て白して副封を去りて壘蔽を防ぐ。時に宣帝、勳績治を爲し、群臣を撰び名實核ぬ。相、衆職を總領し甚だ上意に稱ふ。蔚として一代の賢良たり。高平侯に封せられ麒麟閣に圖形せらる。

ギンヤウ 魏相 (漢)字は弱翁。定陶の人。地節中、相に拜せらる。嘗て白して副封を去りて壘蔽を防ぐ。時に宣帝、勳績治を爲し、群臣を撰び名實核ぬ。相、衆職を總領し甚だ上意に稱ふ。蔚として一代の賢良たり。高平侯に封せられ麒麟閣に圖形せらる。

ギンヤウ 魏相 (漢)字は弱翁。定陶の人。地節中、相に拜せらる。嘗て白して副封を去りて壘蔽を防ぐ。時に宣帝、勳績治を爲し、群臣を撰び名實核ぬ。相、衆職を總領し甚だ上意に稱ふ。蔚として一代の賢良たり。高平侯に封せられ麒麟閣に圖形せらる。

ギンヤウ 魏相 (漢)字は弱翁。定陶の人。地節中、相に拜せらる。嘗て白して副封を去りて壘蔽を防ぐ。時に宣帝、勳績治を爲し、群臣を撰び名實核ぬ。相、衆職を總領し甚だ上意に稱ふ。蔚として一代の賢良たり。高平侯に封せられ麒麟閣に圖形せらる。

吾無からむと。乃ち仲遠に見え叩頭して曰く、家事憚に在り、胤何ぞ知らむや、乞ふ身を以て罪せよと。仲遠、職として之を捨す。

ギンシヤウ 魏相 (漢)字は弱翁。定陶の人。地節中、相に拜せらる。嘗て白して副封を去りて壘蔽を防ぐ。時に宣帝、勳績治を爲し、群臣を撰び名實核ぬ。相、衆職を總領し甚だ上意に稱ふ。蔚として一代の賢良たり。高平侯に封せられ麒麟閣に圖形せらる。

ギンシヤウ 魏相 (漢)字は弱翁。定陶の人。地節中、相に拜せらる。嘗て白して副封を去りて壘蔽を防ぐ。時に宣帝、勳績治を爲し、群臣を撰び名實核ぬ。相、衆職を總領し甚だ上意に稱ふ。蔚として一代の賢良たり。高平侯に封せられ麒麟閣に圖形せらる。

ギンシヤウ 魏相 (漢)字は弱翁。定陶の人。地節中、相に拜せらる。嘗て白して副封を去りて壘蔽を防ぐ。時に宣帝、勳績治を爲し、群臣を撰び名實核ぬ。相、衆職を總領し甚だ上意に稱ふ。蔚として一代の賢良たり。高平侯に封せられ麒麟閣に圖形せらる。

ギンシヤウ 魏相 (漢)字は弱翁。定陶の人。地節中、相に拜せらる。嘗て白して副封を去りて壘蔽を防ぐ。時に宣帝、勳績治を爲し、群臣を撰び名實核ぬ。相、衆職を總領し甚だ上意に稱ふ。蔚として一代の賢良たり。高平侯に封せられ麒麟閣に圖形せらる。

ギンシヤウ 魏相 (漢)字は弱翁。定陶の人。地節中、相に拜せらる。嘗て白して副封を去りて壘蔽を防ぐ。時に宣帝、勳績治を爲し、群臣を撰び名實核ぬ。相、衆職を總領し甚だ上意に稱ふ。蔚として一代の賢良たり。高平侯に封せられ麒麟閣に圖形せらる。

ギンシヤウ 魏相 (漢)字は弱翁。定陶の人。地節中、相に拜せらる。嘗て白して副封を去りて壘蔽を防ぐ。時に宣帝、勳績治を爲し、群臣を撰び名實核ぬ。相、衆職を總領し甚だ上意に稱ふ。蔚として一代の賢良たり。高平侯に封せられ麒麟閣に圖形せらる。

吾無からむと。乃ち仲遠に見え叩頭して曰く、家事憚に在り、胤何ぞ知らむや、乞ふ身を以て罪せよと。仲遠、職として之を捨す。

ギンシヤウ 魏相 (漢)字は弱翁。定陶の人。地節中、相に拜せらる。嘗て白して副封を去りて壘蔽を防ぐ。時に宣帝、勳績治を爲し、群臣を撰び名實核ぬ。相、衆職を總領し甚だ上意に稱ふ。蔚として一代の賢良たり。高平侯に封せられ麒麟閣に圖形せらる。

ギンシヤウ 魏相 (漢)字は弱翁。定陶の人。地節中、相に拜せらる。嘗て白して副封を去りて壘蔽を防ぐ。時に宣帝、勳績治を爲し、群臣を撰び名實核ぬ。相、衆職を總領し甚だ上意に稱ふ。蔚として一代の賢良たり。高平侯に封せられ麒麟閣に圖形せらる。

ギンシヤウ 魏相 (漢)字は弱翁。定陶の人。地節中、相に拜せらる。嘗て白して副封を去りて壘蔽を防ぐ。時に宣帝、勳績治を爲し、群臣を撰び名實核ぬ。相、衆職を總領し甚だ上意に稱ふ。蔚として一代の賢良たり。高平侯に封せられ麒麟閣に圖形せらる。

ギンシヤウ 魏相 (漢)字は弱翁。定陶の人。地節中、相に拜せらる。嘗て白して副封を去りて壘蔽を防ぐ。時に宣帝、勳績治を爲し、群臣を撰び名實核ぬ。相、衆職を總領し甚だ上意に稱ふ。蔚として一代の賢良たり。高平侯に封せられ麒麟閣に圖形せらる。

ギンシヤウ 魏相 (漢)字は弱翁。定陶の人。地節中、相に拜せらる。嘗て白して副封を去りて壘蔽を防ぐ。時に宣帝、勳績治を爲し、群臣を撰び名實核ぬ。相、衆職を總領し甚だ上意に稱ふ。蔚として一代の賢良たり。高平侯に封せられ麒麟閣に圖形せらる。

ギンシヤウ 魏相 (漢)字は弱翁。定陶の人。地節中、相に拜せらる。嘗て白して副封を去りて壘蔽を防ぐ。時に宣帝、勳績治を爲し、群臣を撰び名實核ぬ。相、衆職を總領し甚だ上意に稱ふ。蔚として一代の賢良たり。高平侯に封せられ麒麟閣に圖形せらる。

智勇多く騎射を善くす。紹興の末、金人南侵す。勝義士を聚めて漣水軍及び海州を取り、廣く兵を募り以て恢復を。金人と戦ひ存戦甚だ衆し。或は危逼中に當れば輒ち叱して曰く魏勝此に在り。人皆辟易す。嘗て圍を侵して突出す、人近づく能はず。又嘗て如意軍を造る、行けば則ち輜重を載せ止まれば則ち驚と爲す。金人來犯す、力を極めて之を禦ぐ。援兵至らず馬より墜て死す。事聞す。保寧節度使を贈り、忠壯と諡す。

キシヨク 杞植 (周)杞梁を見よ。

キシヨク 姫汝作 (金)字は欽之。性豪宕にして細行に拘はらず、平日才量を以て稱せらる。汝州の人梁鼎、亂をなす。時に汝作宣使となりて汝州に留る。鼎、州人に告げて曰く、汝作糧斛を積みて軍民を恤まざ、宜しく之を誅すべしと。衆乃ち之を殺す。

キシヨク 李如太 (明)善く花鳥を畫く。布置深思あり。

ギジリヤウ 魏時亮 (明)字は工甫。南昌の人。嘉靖三十八年の進士。中書舍人より兵科給事中に擢てらる。隆慶萬曆の交、言事を以て罪を得ると再三。南京刑部尙書に累官して卒す。天啓中、莊靖と諡す。

ギスウ 納嵩 (漢)楚人。

ギセイ 義青 (宋)高僧。姓は青氏。青社の人。大陽玄に嗣ぐ。舒州投子山に住す。元豊六年五月四日寂す。世壽五十二。

ギセウ 魏邵 (漢)河東の人。太守史雍、誣を受けて當に棄市せられむとす。邵、同郡の人と共に邸を賣りて要路に賂し、以て死を減ずるを得たり。

ギセウ 魏照 (漢)童子たる時、郭泰に入事して供給灑掃す。泰曰く、義を精うし書を講すべし。何ぞ來りて相近づく。照曰く、經師は得易く人師は遭ひ難し、素絲の質を以て朱藍に附近せむと欲す。時に泰、名顯はれ士争て之に歸す、載刺常に軍に益つ。

ギセウ 魏劄 (南北)字は顯。下曲陽の人。博く群書に涉り當世の才あり、兼て文武に通す。北齊の世祖南下せしとき、召して之を語り大に悦び曰く、我今此行、是れ卿が建功の日なり、之を勉めよ。建忠將軍を加へらる。子長賢、博く經史に涉り著作耶なる。

ギセウ 魏紹 (宋)權の子。字は承之。父の任を以て將作監主簿と爲る。後、諸官を歴て右朝散郎を以て嘉州に知たり。洩む所弊あり。紹聖年間、卒す。

ギセウ トク 危昭德 (宋)邵武の人。寶祐の初、進士となる。侍御史權工部侍郎に累官す。子徹、咸淳の進士。

ギセウ ユ 紀少嘯 (晉)字は幼瑀。丹陽秣陵の人。早く孤なる。志節あり、年十三能く文を屬す。嘗て夢に陸倕授くるに青鸞管の筆を以てす、其又これに因て遺勳なり。王僧儒見て之を賞す。

ギセキ 姬夔 (周)世に召公といふ。武王の弟。周公と共に武王を相く。夔、南國を巡行し、嘗て棠樹の下に就きて民の疾苦を問ふ。去りて後、國人之を思ひ、之が爲に甘棠を賦し、戒めて剪伐する勿らしむ。

ギセキ 希績 (宋)字は紀常。儀真の人。神宗元豐間、淮南發運副使と爲り、己れを行つて堅操あり。元祐の黨に坐す。

ギセキ 貴遷 (漢)廬江太守たり。

ギセキ 紀瞻 (晉)字は思遠。秣陵の人。少うして方正を以て自ら勵む。陸機兄弟と善し。機亡して幼女あり、瞻裝を拾めて厚く之を嫁し、己が出に異ならず。

ギセキ 希遷 (唐)高僧。陳氏。端州高安の人。法を青原に嗣ぐ。著す所の參同契、盛に世に行はる。貞元六年十二月二十五日寂す。年九十一。穆宗、無師大師と諡す。其後三派となる、四世にして曹洞となり、六世にして雲門となり、八世にして法眼となる。

ギセキ 魏丹 (周)秦の昭襄王の母宣太后の弟。魏侯に封せられ後陶に益封せらる。

ギセキ 魏宜 (南北)宋の孝武帝孝穆中、荊州刺史を以て南郡王に封せらる。竊に賊賈謀りて叛旗を飄す。奪て誅せらる。

ギゼン 魏全 (金)壽州の人。泰和六年、宋、壽州を圍む。全、募に應じて敵營を破り、遂に宋兵に執へられ風せせして死す。ギゼンフウ 危全諷 (唐)南陽の人。義勇にして氣に任ず。乾符の末、所在寇亂あり。

全諷、衆を聚めて郷里を保つ。中和年間、詔して全諷を以て安撫使と爲す。流亡を招懐し百廢具に興る。弟仔昌。

ギソ 義楚 (五代)高僧。裴氏。相州安陽の人。夙に俱舎の極微に殊り、大藏を該覽す。白樂天六帖に擬して釋氏六帖を著す。顯徳元年、功を擧りて進呈す。世宗勅して史館に付し紫衣を賜ひ、明教大師と號す。開寶年中示寂す。

キソウクワウテイ 僖宗皇帝 (唐)第十八世。姓は李、名は儂。懿宗の少子。年十三にして宣者の爲に立てらる。黃巢亂を起して天下大に亂る。帝蜀に出奔す。既にして朱全忠節賊を討じ帝を長安に還へす。在位十五年。改元五、乾符、廣明、中和、光啓、文徳。

キソウクワウテイ 徽宗皇帝 (宋)姓は趙氏。諱は佶。神宗の第十一子。性暗愚、人を知るの明なし。蔡京父子用ひられ、反亂相繼ぐ。尋て金兵來る。力敵する能はず、遂に内禪す。在位二十六年。改元六つ、曰く建中靖國、崇寧、大觀、政和、重和、宣和。後、金の五國城に於て崩す。壽五十四。

キソウクワウテイ 熙宗皇帝 (金)姓は完顔。諱は合刺。亶と改む。豊王宗峻の子。太宗の嫡孫。帝即位の初、四方無事、百姓樂を樂む。末年、皇后裴滿氏悍妬なり。帝怒りて之を殺す。尋て平章亮、群臣の震恐に因りて帝を弑す。時に年三十一。降して東昏王と爲す。改元二、曰く天眷、皇統。

大定の初、武靈皇帝と追諡し、別廟を立て、閔宗と號す。其後増諡して弘基續武莊靖孝成皇帝と曰ひ、廟を熙宗と號す。

キソウクワウテイ 熈宗皇帝 (明)第十六世。姓は朱、名は由校。光宗の長子。在位七年。改元一、天啓。

キソウケイ 歸崇敬 (唐)字は正禮。蘇州吳の人。禮家の學を治む。玄宗に事へて翰林學士に累官す。

キソウシウ 繡宗周 (漢)字は子時。靈帝の時、黃門令と爲る。

キソウチン 紀宗珍 (五代)齊の武帝に仕へて恩倖比無し。

キソウレイ 蔡崇禮 (宋)字は叔厚。三世、進士明經科を取り、遂に北海の名家と爲る。建炎中、翰林學士に除せらる。著、文集あり。退きて台州に居り。客門に到れば、一介の士、亦厚く之を禮す。故家の子弟論落する者、棄金を推して以て其乏を濟ふ。

キソウレツクワウテイ 毅宗烈皇帝 (明)第十七世。姓は朱、名は由檢。熈宗の弟。初め信王に封せらる。熈宗崩なし。入つて位に即く。此の時濟登大にして北邊に迫り、國內流賊縱橫す。李自成京師を陥れ、帝萬歲山に自經す。在位七十年。改元一、崇禎。

ギソコクタイチヤウコウシユ 魏楚國大長公主 (宋)英宗の女。嘉祐八年德寧公主に封せられ、治平三年、徐國長公主に進封せらる。王師約に下嫁す。元豐八年薨す。燕國大長公主に追封し、惠和と諡す。

キソン 暨遜 (晉)字は茂言。餘杭の人。仕へて廣昌長となる。關内侯に封せらる。孝行を以て聞ゆ。咸康五年閏月に薨す。

ギソン 義存 (唐)高僧。泉州南安縣の人。姓は曾氏。法を德山に嗣ぐ。僖宗皇帝、其風を聞き、眞覺大師の禪并に袈裟を賜ふ。靈峰山に居り。四方の禪人争ひて法席に趨るもの冬夏一千五百人に減せず。開平二年五月二日示寂す。春秋八十七。師備可休、智孚、文偃、惠稜等、各燈を分ちて光を續ぐ。

キタイ 冀體 (明)武安の人。萬曆中、御史たり。言事を以て罷めらる。後累薦すれども起らず、家に卒す。

ギタイ 魏泰 (宋)襄陽の人。文章を善くす。臨漢隱居集二十卷を著はし、又東軒雜錄十五卷を著はす。嘗て襄陽形勝を賦す。識者之れを偉とす。章惇之れを官にせむと欲す。竟に就かず。

キタイコウ 紀太后 (明)孝宗の生母。賀縣の人。本と蠻土の官女。嘗て文字に通す。憲宗命じて内蔵を守らしむ。時に萬貴妃寵を專らにし妬深し、後宮嬪むあれば皆墮せしむ。柏賢妃皇子を生み、爲に害せらる。帝偶々内蔵に行く。妃氏、應對旨に稱ふ。帝之を幸す。遂に身むあり。萬貴妃知て患ると甚し、婢をして探らしむ。婢、瘡を疾むと報す。乃ち安樂堂に謫居す。孝宗を生む。門監張敏、粉餌鉛蜜を哺し之を他室に藏す。貴妃日に伺ふも得る所なし。是より先、吳

后廢せられて四内にあり、密に其事を知りて哺養す。帝知らず。一日帝、鏡を照し老て子無きを嘆す。張敏具に其事を奏し罪を乞ふ。帝大に喜び潜に使を遣はして皇子を迎ふ。皇子時に六歳也。萬貴妃、日夜泣す。其年六月、妃暴に薨す。或は曰く、萬妃之を毒殺す。孝宗位に即き、詔して追諡して孝穆太后と爲す。帝太后を悲念して其父兄親族を訪求すれども、其實を得る能はずして止む。

ギタイシヨ 魏大初 (宋)字は仲遠。氷壺と號す。營道の人。先に詞賦を以て名あり。尋て舍て去り、濂溪之學を宗す。淳熙戊戌進士に登る。性行端方なり。周益公、楊誠齋、朱晦菴、趙端明、皆之と遊ぶ。高環二藩を歴典す。著に氷壺詩十卷、易集註五卷、文集二十卷あり。

ギタイチウ 魏大中 (明)字は孔時。嘉善の人。萬曆の末の進士。工科給事中に擢拜せらる。是時恤典冒濫なり。乃ち一切裁するに典制を以てす。又魏忠賢の專横を憤り、上疏して其罪を極言す。忠賢大に怒り、旨を矯め遠へて詔獄に下す。號泣送る者數十人。獄卒旨を受けて之を斃す。時に天啓五年也。莊烈帝位を嗣ぎ、太常廟を贈り忠節と諡す。

ギタウ 整陶 (宋)字は粹夫。崇安の人。聲律に長じ、賦を以て名を知らる。元豊の進士第一たり。官、承議に至る。登第の時初め陶を定めて第一と爲す。賦唱者、泊聲

を以て之を呼ぶ。迄に應せず。蘇頌奏す、當に入聲を以て之を呼ぶ可しと。陶果して出つ。上曰く、卿何を以て入聲たるを知るか。頌曰く、必ず三國聖賢之裔ならんと。陶の郷貫を問ふに及びて建州と云ふ。上喜びて曰く、果して吳人也と。官、奉議郎に至る。

ギダウジン 危道人 (元)其名を逸す。獨り善く魚を齎く。足跡、麻姑山を出てず。蓋し有道の士なり。

ギタン 姬且 (周)世に周公と稱す。文王の子。世々岐山に居り。生れて聖徳あり。武王を相けて紂を伐ち以て天下を安んず。又成王を輔けて禮を制し樂を作し、以て周家の治を爲す。嘗て曰く、我に如かざる者は我れ共に處らず、我に累すれば也、我と齊しき者は我れ共に處らず、我に益なければ也、惟だ賢者は已より賢なる者と共處り、已より賢なる者と共處るを得るは之を禮すれば也、主賢にして世治まれば則ち賢者上在り、主不肖にして世亂るれば則ち賢者下在り。子伯禽弟康叔往きて周公に見ゆ。三たび見ゆて三たび答る。廉叔駘色あり。伯禽に謂て曰く、商子といふ者あり、賢人也、子と共に之を見むと。乃ち商子を見ゆて滿を問ふ。商子曰く、南山の陽、木あり、名づけて喬と曰ふ、二三子往きて之を觀よと。喬を見るに實に高々然として上反す。以て商子告ぐ。商子曰く、喬は父の道也、南山の陰、木あり、梓

と曰ふ、二三子復往きて之を觀よと。之を見るに實に晋々然として俯反す。以て商子告ぐ。商子曰く、梓は子の道なり、二三子明日周公を見よと。門に入りて趨り堂に登りて跪く。周公その首を拂ひ勞して之に食はしめて曰く、汝何くにか君子を見たると。伯禽、封に就く。周公之を戒めて曰く、我は文王の子、武王の弟、今王の叔父、我の天下に於ける亦賤しからず、然れども我一沐に三たび髪を握り、一飯に三たび哺を吐きて起ち、以て士を待つ、猶ほ恐らくは天下の賢人を失はんとを、子、魯に之を告げ、慎んで國を以て人に譲る勿れと。

ギタン 魏譚 (漢)琅邪の人。少時亂を逃れて饑寇に獲らる。等輩數十人、皆束縛し、次を以て之を烹る。賊、譚の謹厚なるを見つて獨り髪を主ごらしめ、暮に輒縛に就く。賊に夷長公なるものあり、特に譚を哀念し、密に其縛を解き語て曰く、汝曹皆食に就く可し、急に此れより去れと。對て曰く、譚諸君の爲に饑に遺餘を得たり、餘人は草菜の如し、我を食するに如かずと。長公之を義とし、相曉して赦し遣す。並に俱免かるゝを得たり。永平中、主家命と爲る。

ギタン 魏澹 (隋)字は彦深。專精にして學を好み博く經史を涉り善く文を屬す。隋に仕へて禮部侍郎と爲り著作郎に遷る。高祖、魏收の後魏書が褒貶實を失し平論の中興書が事論序ならざるを以て、澹に詔して別に魏史を成し收論の失を矯めしむ。甚だ

簡要と爲す。又た集三十卷あり。

ギタンシウ 姬端修 (金)字は平叔。汝州の人。學を好み名節を喜ぶ。蕭貢と俱に大定二十二年の進士に登る。泰和四年大理丞に遷りしが罪を以て職を解かる。久しうして節度使に遷り遂に官に卒す。端修始終直道、衆の容るゝ所まならず、官亦た顯はれず、然れども自ら守ること愈篤し。士論之を高しとす。

ギチ 儀智 (明)字は居眞。高密の人。洪武の末、善儒に擧げられて訓導を授けられ、知州に歴す。永樂中、禮部侍郎に累進し、老を乞ひて家に卒す。年八十。洪熙の初、太子少保を贈り文簡と諡す。

ギチウ 季仲 (上古)八元の一人。高辛氏の才子。舜その族を擧げて五教を四方に布かしむ。

ギチウケン 魏忠賢 (明)初め進忠と稱す。河間蕭寧の人。曾て神宗の母なる王才人の典膳となりて深く王安に結ぶ。時に熹宗猶ほ太孫たりしが、忠賢其乳母客氏と通じ、兩人志を同じくして私を爲す。熹宗立つに及びて、王安、諸大臣と同じく政事を扶く。王安、忠賢の優權を見て重く懇す所あらんとするや、忠賢客氏と謀りて安を殺せり。安既に死す、忠賢益憚る所なし。左副都御史楊漣、上疏して忠賢の二十四罪を論ず。忠賢大に恐れ泣いて帝に訴ふ。客氏また中より調停す。帝遂に漣の疏を却下す。之より忠賢益專横を極め、其腹心崔呈秀を

任用し、疑獄によりて東林黨の正士趙南星、楊鶴等を獄に下し、大に誅殺を恣にする。既にして帝在位十年にして崩じ、信王中檢立つ。是を毅宗皇帝といふ。時に忠賢の黨朝廷に林立す。御史楊漣等、首として賢が腹心崔呈秀等を糾し、語、忠賢を誣す。是より其勢漸く衰へ、尋て上疏して忠賢を攻むるもの多かりしかば、帝、遂に之を鳳陽に遷して其罪を治せんす。忠賢遂に自殺す。帝命じて其屍を戮し、客氏及び崔呈秀を誅す。

ギチカウ 魏持術 (明)里居太僕卿たり。崇禎十四年、賊寇を陷る。朱敏汀、馬繼健と共に死す。

ギチゲン 季知元 (宋)龍泉の人。崇慶癸未、果學を以て出で、官、撫州發曹轉に除せらる。江陰に知たり。寬簡樂易、苛ならず擾ならず。召されて國子主簿となる。宣和二年朝散郎を以て致仕す。

ギチコ 魏知古 (唐)深州の人。黃門侍郎に官す。時に盛夏玉貞觀を稱む。知古諫て之を罷む。宋璟曰く、叔向は古の遺直、子産は古の遺愛、之を兼ねる者は其れ魏公平と。

ギチザウ 吉晟 (唐)高僧。姓は安氏。金陵の人。七歳にして興皇寺道朔によりて出家し、大義を咨決す。後會稽に遊び、嘉祥寺に止まり、法華を講し、車疏を著す。後法華玄義を一覽して大に感悟し、乃ち章安頂に投して觀法を咨受す。隋煬帝の時、勅

して京師日嚴寺に住し教法を布演せしむ。四衆雲集す。唐高祖詔して延興寺に居らしむ。道風益々振ふ。武德六年六月示寂す。春秋七十五。歲世に在りとき三論を講ずること百餘遍、法華三十餘遍、大品、智論、華嚴、維摩等の經論を講ずること各數十遍。其著す所の注疏頗る多し、並に世に行はる。ギチヤウジュ 儀長儒 (漢)西河の人。善く馬を相す。

ギチヨウ 冀重 (唐)冀子五卷を著す。ギチヨウ 魏徵 (唐)字は元成。或は曰く玄成と。下曲陽の人。太宗の時、諫議大夫に拜せらる。徵、狀貌揚らず膽氣あり、顔を犯して敢諫す。上怒ると甚しと雖も徵神色自若たり、上も亦徵の爲めに憂戚す。徵嘗て上に諷告して還る。曰く、人は言ふ、陛下南山に攀せむと欲す。外皆殿殿已に攀る、陛下竟に行かざるは何ぞや。上笑て曰く、塞に此心あり、卿を長る、故に中にして趨む耳。上嘗て佳駒を得て自ら之を臂にす。徵の來るを望見し、之を懷中に匿す。徵事を奏す、故さりに久くして已まず。諷竟に懷中に死す。徵、前後凡二百餘奏を上る。劉切帝心に當らざる者無し。後、韓齊監を以て朝政に參預す。卒するに及び帝嘆じて曰く、古を以て鑑と爲せば與嘗を見るべし、人を以て鑑と爲せば得失を知るべし、徵没す、朕一鑑を失ふと。凌祥閣に登り、畫像を觀て詩を賦し痛悼す。鄭國公に封し文貞

と諡す。嘗て隋書本紀外傳を撰す。叔玉、叔琬、叔璉の四子あり。  
 ギチヨウ 義澄 (宋)富陽の人。疾んで傷を作ると、曰く、本来無質、豈有去住、識要汎歸、南來北去と。遂に端坐して逝く。年百二十八歳。  
 キツイフ 吉挹 (晋)字は祖冲。忠孝に篤し。秦の苻堅、丁穆と並べて其忠を賞す。  
 ギツウ 義通 (宋)高僧。台宗第十六祖。高麗の王稱に生る。幼にして出家し、華嚴起信を學び、名聲あり。石晋の天福中、渡來し、螺溪義寂に謁して台教を傳ふ。明州寶雲院に位す。端拱元年十月十八日寂す。  
 キツエイソ 吉永祚 (明)輝縣の人。崇禎中、鳳縣主簿たり。事を謝して將に歸らんとす。賊の至るに會し、知縣城を棄て、遁る。永祚義を唱へて拒守す。城陷る。北面再拜して曰く、臣小吏と雖も、賊を朝に食む敢て事を謝するを以て責を逃れずと。大に罵て之に死す。漢中衛經歷を贈らる。  
 キツカウ 顔衡 (上古)賢者なり。  
 キツカン 吉翰 (南北)字は休之。馮翊の人。宋の武帝の中軍事に參す。清謹剛正、武帝に知らる。徐州刺史に累遷し、豫州梁郡諸軍事を監す。  
 キツキヨク 吉頊 (唐)武后の朝、右肅政臺中丞に擢てらる。後相に拜せられ、能く武を抑へて唐を興す。  
 キツキヨシヤウ 吉巨昌 (宋)澤州の人。大志を蘊み小節を捐つ。萬石山卓元帥古始

楊公と相友し善し。  
 キツケイエウ 吉景曜 (南北)宣都王饒、十歳の時、景曜と相見し、往事を先言す。  
 キツコウカ 吉孔嘉 (明)洋縣の人。崇禎三年鄉試に擧げらる。寧津知縣を授けらる。順德知府に累遷す。十五年冬、清兵城に臨む。孔嘉力を悉くして拒守す。力屈し、城破れて妻子と俱に死す。太僕少卿を贈らる。  
 キツシゲン 吉志元 (清)人と爲り短小精悍、目に兎光あり、殺戮を喜む。咸豊中往て賊に歸し、暴虐を極む。後、捕斬せらる。  
 キツシケン 吉士瞻 (南北)夢に鹿皮を覆み、従つて之を敷へて十一を得。喜て曰く、鹿は疎なりと。後梁に仕へて值開將軍たり。清約にして家に私積なし。  
 キツチウフ 吉中孚 (唐)鄆陽の人。大歴間、盧綸等と皆詩を能くするを以て名あり。大歴十才子と號せらる。官、戶部侍郎に至る。  
 キツフクケンキ 乞伏乾歸 (晋)西秦主第二世。國仁の弟。在位二十四年。兄の子公府の爲に殺さる。武元王と諡し、廟を高祖と號す。  
 キツフクコクジン 乞伏國仁 (晋)西秦主第一世。隴西の鮮卑種。初め苻堅に仕へて鎮西將軍と爲り四胡を討す。苻堅淮南に敗れ、國仁遂に自立して隴右に據る。自ら單于と稱し勇士城を築て之に都す。在位四年。宣烈王と諡し廟を烈祖と號す。

キツクシハン 乞伏熾盤 (晋)西秦主第三世。乾歸の長子。果敢にして權略人に過ぐ。在位八年。文昭王と諡し、廟を太祖と號す。  
 キツクボマツ 乞伏暮末 (晋)西秦主第四世。字は安石。熾盤第二子。立て三年、夏人の爲めに滅さる。  
 キツフン 吉粉 (南北)字は彦膏。馮翊の人。天監の初、父、吳興原郡令たり。吏に誣ひられ大辟に當る。粉年十五、登聞鼓を搥ちて父の命に代らんと乞ふ。帝、其の人に教を受けたるを疑ひ、廷尉に教して誘實を取らしむ。對、終に風撓せず。乃ち其父を宥す。後、丹陽尹王志、擧げて純孝に充てんと欲す。粉曰く、父辱められて子死す、斯道固より然り、是の擧に當るが若きは是れ父に因りて名を買ふなりと。此を拒みて止む。  
 キツブン 吉啟 (唐)九老會中の人。官、御射卿たり。卒する時、年八十九。  
 キツブンゲン 吉文元 (清)廣西の老賊胡以耽に屬して亂を助く。後、北軍して誅に伏す。  
 キツヘイ 吉平 (漢)曹操の將に漢の天下を篡はんとするや、太醫令吉平、丞相司直范曄と謀りて共に操を誅せんとす。克たずして屠らる。  
 キツホ 吉甫 (唐)柳州刺史たり。奸盜の窟穴を討破し、治稱流聞す。  
 キツボウ 吉茂 (南北)字は叔陽。汾陰令

たり。其の官に居るや清靜自ら守る。吏民欺くに忍びず。  
 キツラウ 吉期 (晋)愍帝の時、御史中丞たり。四朝守らず。期歎じて曰く、吾智謀る能はず、勇死する能はず、何ぞ君臣相隨ひ北面して賊虜に事ふるに忍んびやと。乃ち自殺す。  
 キツレツクワウコウ 乞烈皇后 (元)英宗の后。名は速哥八刺。昌國公主益里海涯の女。至治元年十二月、冊して后と爲す。泰定四年六月崩す。諡して莊靜懿聖皇后と曰ふ。  
 キツレツヒ 乞烈妃 (元)武宗の妃。世祖の皇子安四王忙哥刺の女なり。和世球を生む。是を明宗と爲す。天曆二年、仁獻聖皇后と追諡す。至正六年改めて徽誠に號し莊獻聖皇后と曰ふ。  
 キツラン 吉温 (唐)性陰脆。李林甫之を引用するや、羅希奭と與に相易めて虐を爲す。世に羅紺吉綱と號す。  
 キテイ 危損 (宋)字は吉達。臨川の人。淳熙中の進士。詩名を以て著はる。屯田郎中に歴す。上書して國家治亂の故を言ひ事を用ふる者に忤ふ。出て、漳州に知たり。後、歸りて郷老と共に眞率會を爲る。著、巽齋集あり。  
 ギテイ 義帝 (漢)芋姓。名は心。楚霸王の孫。項梁兵を起して秦に向ふや、范增が謀を以て楚懷王の後を求む。心時に人の爲めに羊を攸す。立て、楚の懷王と爲し、以

て民の望に従ふ。項羽遂に秦を滅し尊んで義帝と爲す。後、陰に九江王呂布をして之を江中に殺さしむ。  
 ギテイ 魏良 (明)懷遠の人。正統中の進士。御史に官たり。英宗正統十四年八月、土木の變に死す。  
 ギテイジン 魏呈淵 (明)字は中殿。龍溪の人。崇禎元年の進士。庶吉士より兵科給事中に改めらる。後黨比に坐して三級を貶し外に調せらる。晩年また光祿署に任ぜられ、官に卒す。  
 ギテイシヨク 魏廷式 (宋)字は君憲。宋城の人。少うして法學に明かに。廟氣あり。進士に登り益州轉運使に累官す。嘗て入て事を奏す。太宗謂へらく、事有らば當に中書に白すべしと。廷式曰く、臣遠く驛に乗じて至る、機事を以て上る、願はくば宸斷を仰がむ、宰相の爲に來るに非ざるなりと。即ち不時召對して旨に稱ふ。數州に歴知し、至る所嚴明を以て稱せらる。官、右諫議大夫に至る。  
 キテイバウ 危良叻 (明)字は孟陽。臨海の諸生。父孝先は洪武四年の進士。陵川縣丞に官す。法に處して江浦に輸作す。良叻嗣に隨り上疏して曰く、臣が父、吏議に註りて輸作す、筋力衰に向ひ勞苦に任せず、而て大母は年九十を踰ゆ、恐くは霜露の疾に染みて臣が父終天の恨を貽さん、臣犬馬齒方に壯なり、願くば父に代りて勞を作し、父をして歸養を獲しめば、死も且つ辭せず

と。詔して之に従ふ。良叻力作勞に勝へず七月を閲し、病て卒す。  
 キテウ 歸眺 (唐)寶曆間、餘杭令と爲りて水路を通じ以て漕運運輸を便にす。  
 ギテウセイ 魏超成 (清)粵西の人。殺人を嗜み、其暴勝げて計ふべからず。咸豊同治間、義寧武寧諸縣を犯す。遂に捕斬せらる。  
 キテン 凱恬 (漢)馮昌の大豪。  
 ギテンキ 魏天驥 (明)字は應祥。善く墨竹を畫く。夏仲昭の正傳を得たりといふ。  
 キテンシヤク 紀天錫 (金)字は齊卿。泰安の人。醫術に精しく、集註難經五卷、世に名有り。大定十五年其書を上り醫學博士を授けらる。  
 キト 癸度 (周)武王の臣。武王嘗て之に問ふ。對へて曰く、金は汝漢の右衛に出つ、珠は赤野の未光に出つ、玉は陽氏の旁山に出つ、此れ皆周を距ると七千八百余里、其途遠くして其至ること阨し、故に先王用を其重に度り、因て以て珠玉を上幣となし、黄金を中幣となし、刀布を下幣となし、上下の用を制す、則ち天下定ると。  
 キドウシチクコウテイゼンウ 醜億戸逐侯驍單子 (漢)南匈奴主。名は適。比の子。立て四年にして薨す。  
 キトクケイ 危德馨 (元)字は蘭玉。雷震の妻。書記に通じ作字楷法あり。建安郡君を贈らる。  
 ギトクシン 魏德深 (南北)初め文帝の挽郎となり、能を以て貴郷の長に遷る。爲政



清浄、嚴ならずして。會ま遼東の役興り、徵稅百端、累を郡縣に及ぼす。是より王綱紐を解き吏賊賄多し。到る所征歛苛酷、民皆其命に堪へず。惟だ徳深の一縣のみ有無相通じ、其の力を竭さずして求むる所皆給し、百姓擾がず。時亦盜賊群起し、武陽の諸城多く渝陷を被りしも、惟だ貴郷のみ全し。キトクセウ 危徳昭 (唐)南城の人。仔昌の子。家に居りて孝友。吳越に事へて文翰を掌る。機務悉く以て之に委す。累遷して丞相に至る。人と爲り厚重にして多謀。輔弼の才あり。性、酒を嗜む。沈醉すれば、事息むる無し。姓を元と改む。孫元鋒、宋の事へて參知政事と爲る。

ギハ 魏霸 (漢)字は奇卿。濟陰の人。世々禮義あり。建初中孝廉と擧げらる。和帝の時、鉅鹿の太守となり、簡樸寛舒を以て政をなす。僚吏過有れば先づ其の失を諭し、改めざる者は乃ち之を罷む。吏或は相毀誣す。霸他吏の長を稱し、終に人の短及ばず。言者愧慙し譖訟遂息む。官、太常に至る。キバイ 貴梅 (清)姓は唐。池州貴池の人。昇年として朱某と適く。夫貧しうして且弱く、老姑憚りして淫なり。富商の路を受け婦淫を誨ふるもの百數を以てするも聽かず、乃ち不孝を以て官と訟ふ。商猶ほ其の色令きを憐みて姑らく之を保出す。乃ち夕後園の古梅樹の下に懸經す。楊升菴その傳を作る。

キハク 岐伯 (上古)北地の人。黄帝、共ニ醫を論ず。素問内經あり。世に傳はる。ギハクヤウ 魏伯陽 (宋)吳人。參同契、五相類を作る。其說周易を解するに似て、其實は丹を作る意を論ず。復た補塞遺脱一篇を作り、丹經の奥を演ぶ。寓言を以て事を借り、隱言異文多し。ギハン 魏攀 (南北)鉅鹿の人。人を知り古を好む。名一時盛なり。高邑の陸参少くして大度あり、好んで書傳を耽り高尚にして仕へず。情を丘壑に寄すと聞き、乃ち女を以て之を妻はす。情好朋友と同く、未だ嘗て翁婿の禮を備へず。奪亦朋友論を作り以て之を答ふ。辭義時と稱せらる。ギパン 魏萬 (唐)王屋山人と號す。嘗て嵩より宛を歴て梁に遊び吳に入る。道程數千里、李白を來訪す。遇はず。因て江東下り、諸名山を尋れ、謝公石門を觀る。後廣陵に於て白と相見る。自其美にして文を愛し古を好み、物表に獨往するを稱し、詩を作り以て之を贈る。萬亦た李が驚き答ふる有り。李詩集中、并白詩自序に見ゆ。キハンソン 祁班孫 (清)字は奕喜。小字は季郎。山陰の人。甲申の變、班孫、故國の喬木を以て自ら任じ、故臣遺老屠沽負版の流、兼收并蓄す。事聞す。遂左を成らしむ。繼ぎて脱し歸り、祝髮して僧と爲る。好んで古今を議論し佛法を談せず。談、先朝に及ぶ毎一則ち面を掩うて哭す。著、東行風俗記等の書あり。

キフエン 汲冢 (宋)大中祥符の間、龍溪縣知縣に任ず。キヒ 魏丕 (宋)字は齊物。相州の人。復州刺史より果官し左驍衛大將軍と遷る。工作を典り、朝廷征討ある毎に器械を修制せしむ。精ならざるは無し。雅と歌詩を好む。嘗て南星に使し、李煜と昇元閣に登り詩を賦す。朝宗海濱拱唇生の句あり。キヒウス井 祁彪佳 (明)字は弘吉。浙江山陰の人。天啓二年の進士。推官に除せらる。崇禎間、御史より右僉都御史に擢んてらる。南都陷る。家人を給き、池中に端坐して死す。年四十有四。唐王、少保兵部尚書を贈り忠愍と諡す。ギヒツシヤウ 魏必昌 (宋)字は世復。晋江の人。福州懷安尉三山戸を授けらる。法律に通じ詩書を知る。必昌年少して兀として老蒼の如し。家、田を訟へ數年決する能はず。必昌、折するに禮法を以てす。兩争遂に息む。興化縣事に移る。廉を持して壁立し、敢て干すに私を以てせず。獄市一清なり。新貴人あり、中官の氣勢を挾み仇吏を獄に羅織し、必昌に囑して之を殺さしめ且つ脅すに危語を以てす。必昌、竟爲に動かさず。吏、免かるを得たり。劉克莊、詩を以て之を贈る、曰く、守法仁人勇、防身處女嚴と。人以て實録と爲す。キヒン 季實 (明)字は汝和。紹興の人。善く菊花を蓄く。キフ 季布 (漢)楚人。項羽の將と爲り、

去る。趙王、郿を以て無忌、湯沐の邑と爲す。無忌、趙に留ること十年。秦、無忌の在らざるに乘じ、日夜兵を出して魏を伐つ。魏王、無忌を召す。無忌、王の已れを怒らんとを恐れ、敢て從はず。趙人毛公、薛公、無忌を諫む。無忌乃ち魏に歸りて將と爲り、秦軍を逐うて函谷關に至る。秦兵また出づる能はず。乃ち厲々反間を放ちて無忌を魏王に問す。魏王遂に人をして無忌に代りて將たらしむ。無忌、病と稱して朝せず。日夜賓客と宴飲するもの四年。竟に酒を病みて卒す。其後、秦漸く魏を蠶食し、十八歳にして遂に魏を併す。キフクシ 危復之 (元)字は見心。江西撫州の人。博く羣書を讀み、尤も詩に工みなり。元初に至り幣を以て數す。起たす、紫霞山中に隱る。學者私諡して貞白先生と曰ふ。キフコ 汲冢 (南北)季文帝の時、袁州の從事たり。刺史李式事に坐して取めらる。吏人皆之を河上に送る。時に式の子憲、生れて始めて月に滿つ。式大言して曰く、程嬰杵曰は如何なる人ぞと。固曰く、古今豈殊ならんやと。遂に便ち潛に還り來りて城に入り、式の婦により憲を抱きて藏る。捕者至り憲の屬を収む。一婢あり、男を産む。乃ち婢の兒を以て之に授く。事尋て泄る。固乃ち憲を携て逃遁す。後ち赦に遇ひ始めて歸る。後ち高祐、袁州の刺史となる。固の節義を嘉して主簿と爲す。

之を招くも來らず、之を揮ふも去らず、貧賈と雖も之を奪ふ能はずと。上の曰く、然り、古社稷の臣あり、汲黯之に近しと。上嘗て帳中に坐す。冠せず。黯前みて事を奏す。人をして其奏を可せしむ。其の敬せらる此の如し。キフエン 汲冢 (漢)汲黯の子。諸侯の相たり。キブガイ 蔡母蘭 (漢)漢川の人。五經章句を撰む。キフキ 傅負羈 (周)彭城の人。曹の大夫なり。晋の重耳、曹を過ぎる。曹の恭公、之を禮せず。負羈の妻、夫に勸めて之を好遇せしむ。後、重耳、兵を曹に加ふ。而かも令して負羈の室に入る無からしむ。重耳は蓋し文公なり。ギブキ 魏無忌 (周)魏の昭王の少子。安釐王の異母弟なり。昭王薨して安釐王立ち、無忌を封じて信陵君と爲す。人となり仁にして士に下る。食客常に三千人。諸侯その賢なるを聞き、敢て兵を魏に加へず。秦の昭王、趙の邯鄲を攻む。無忌の姉、趙の惠文王の弟平原君の夫人たり。屢々魏王及び無忌に書を遣りて救を請ふ。魏王、將軍晋鄙をして十萬の衆に將として趙を救はしむ。秦、魏王を嚇す。魏王恐れて晋鄙をして鄴に留らしむ。平原君の使者、無忌を讓むると急なり。無忌乃ち侯嬴の言を用ひ、單車、鄴に往き、魏王の令を矯めて自ら晋鄙に代り、兵を進めて趙を救ふ。秦軍解け

數々漢祖を窘めます。羽滅び、漢千金を賭けて布を購ふ。匿す者は三族を誅す。布乃ち髡削して自ら魯の朱家に賣る。朱、其の布なるを知る。乃ち洛陽に之を、汝陰侯滕公に見せて曰く、布何の罪ぞ、臣各其生の爲めにする耳、項臣得て盡く誅す可けむや、且つ布の賢なる、漢之を求むる急ならば、北胡に走らざれば南越に走らんのみ、壯士を以て敵國を資く、子胥荆平を鞭うつ所以也、上始めて天下を得、私怨を以て一人を求む、何ぞ之に廣がらざるを示すやと。滕公上に言ふ。乃ち之を赦し召して郿と爲す。楚人の諺に曰く、得黄金百斤、不如季布一諾。曹丘生、布の爲めに游揚す。故に布の名天下に滿つ。其弟心、功臣なり。威國侯に表封せらる。初め任俠を爲す。名關中を蓋ふ。キフアン 汲黯 (漢)字は長儒。濮陽の人。性倨りて禮少し。人の過を容れず。景帝の時、太子洗馬たり。嚴を以て憚らる。武帝の時謁者たり。往て東粵を視せしむ。便宜か以て節を持し、倉粟を發して貧民を賑はす。面折廷諍、武帝之を憚る。出て、淮陽の太守となる。淮陽、僞錢を鑄る。吏、禁ずる能はず。黯太守となり、一錢を擲たず一人を刑せず。枕を高くして臥す。淮陽政清し。建元の末、入て主爵都尉となる。武帝、莊助に問て曰く、汲黯は如何なる人ぞ。助曰く、黯をして朝に立たしめ官に居らしむるも以て人に踰ゆることなし、其の少主を輔くるに至りては賊操を守ること堅く、

キフクシ 危復之 (元)字は見心。江西撫州の人。博く羣書を讀み、尤も詩に工みなり。元初に至り幣を以て數す。起たす、紫霞山中に隱る。學者私諡して貞白先生と曰ふ。キフコ 汲冢 (南北)季文帝の時、袁州の從事たり。刺史李式事に坐して取めらる。吏人皆之を河上に送る。時に式の子憲、生れて始めて月に滿つ。式大言して曰く、程嬰杵曰は如何なる人ぞと。固曰く、古今豈殊ならんやと。遂に便ち潛に還り來りて城に入り、式の婦により憲を抱きて藏る。捕者至り憲の屬を収む。一婢あり、男を産む。乃ち婢の兒を以て之に授く。事尋て泄る。固乃ち憲を携て逃遁す。後ち赦に遇ひ始めて歸る。後ち高祐、袁州の刺史となる。固の節義を嘉して主簿と爲す。

去る。趙王、郿を以て無忌、湯沐の邑と爲す。無忌、趙に留ること十年。秦、無忌の在らざるに乘じ、日夜兵を出して魏を伐つ。魏王、無忌を召す。無忌、王の已れを怒らんとを恐れ、敢て從はず。趙人毛公、薛公、無忌を諫む。無忌乃ち魏に歸りて將と爲り、秦軍を逐うて函谷關に至る。秦兵また出づる能はず。乃ち厲々反間を放ちて無忌を魏王に問す。魏王遂に人をして無忌に代りて將たらしむ。無忌、病と稱して朝せず。日夜賓客と宴飲するもの四年。竟に酒を病みて卒す。其後、秦漸く魏を蠶食し、十八歳にして遂に魏を併す。キフクシ 危復之 (元)字は見心。江西撫州の人。博く羣書を讀み、尤も詩に工みなり。元初に至り幣を以て數す。起たす、紫霞山中に隱る。學者私諡して貞白先生と曰ふ。キフコ 汲冢 (南北)季文帝の時、袁州の從事たり。刺史李式事に坐して取めらる。吏人皆之を河上に送る。時に式の子憲、生れて始めて月に滿つ。式大言して曰く、程嬰杵曰は如何なる人ぞと。固曰く、古今豈殊ならんやと。遂に便ち潛に還り來りて城に入り、式の婦により憲を抱きて藏る。捕者至り憲の屬を収む。一婢あり、男を産む。乃ち婢の兒を以て之に授く。事尋て泄る。固乃ち憲を携て逃遁す。後ち赦に遇ひ始めて歸る。後ち高祐、袁州の刺史となる。固の節義を嘉して主簿と爲す。

ギブシ

ギブシ 魏武帝 (周)魏武帝を見よ。  
ギブジン 汲仁 (漢)汲黯の弟。官、九卿に至る。

ギブジン 魏夫人 (晋)左僕射舒の女。太保公孫南陽劉幼彦の室。光祿勳の母也。天才卓異、少にして莊老及び春秋二傳五經百子を読み、後世を修めて道を得たり。また書を善くす。

ギブシユン 養母俊 (漢)上虞の人。左氏春秋を修む。永初中、孝廉に擧げられ左校令に拜し仕へて交州刺史となる。

ギブス井 養母遼 (晋)史記を著す。  
ギブセイ 汲清 (元)山水を善くす。曹知伯の授くる所。

ギブセン 養母潜 (唐)字は季通。州南の人。開元十四年進士に擧げらる。宜壽縣に入りて集賢待制となり、右拾遺に遷り著作郎に終る。詩名あり。

ギブチンシ 養母珍之 (南北)宋の明帝の時、一銅鏡を有す。背に三公の字あり。常に人に誇りて曰く、微祥此の如し、何ぞ三公に至らざるを患へんと。  
ギブチヤウ 養母張 (周)晋の人。左傳に見ゆ。

ギブツマ 魏海妻 (南北)魏の房湛の女。幼にして烈操あり。年十六、溥、萬疾に遇ふ。謂て曰く、死は恨むに足らず、但だ母老い子弱に家貧なるを念ふと。房氏垂泣して曰く、幸に先人の餘訓を承けて出て、君子に事ふ、必ず身其難に當らむと。

ギブンシ

溥卒す。大敵に及び、左耳を割きて之を棺中に投ず。流血滂然たり。喪を助くる者哀懼す。姑劉氏曰く、新婦何ぞ此に至る。對て曰く、新婦少年にして寡す、父母の至情を量らざるを慮る、此を以て自ら誓ふのみと。時に子生れて十旬、後ち房の内に鞠育す。遂に終身絲竹を聽かず。後十二年を經て父母の存するを以て歸寧す。父兄尙ほ異議あり。房氏哀嘆して聽かず。其意を執る此の如し。一子を訓導するに母儀あり。年六十五にして終る。

ギブンシ 季文子 (周)家に帛を衣るの妾無く、粟を食ふの馬無し。金玉を藏する無く、重器無し。君子是に於て文子の公家に忠なるを知る。三君に相とせし、家に私積なし、事毎に三思して後ち行ふ。孔子再思を以て之を誡す。

ギブンシ 姬文允 (明)字は士昌。華州の人。郷に擧げらる。天啓二年、藤縣知縣を授けらる。事を視る甫めて三日、白蓮賊徐鴻儒、城に薄る。文允、徒歩叫號、吏卒を驅て陣に登る。兵三百に滿たす。賊を望んで鞭ち走り戦ふ。存す者僅に數十。文允、身長赤面、鬚髯張す。賊望み見て神人と爲し、皆墮呼羅拜す。俄にして箭を西隅に發して二賊を斃す。賊、文允に欺かれて大に憤り、肉薄して城に登る。衆潰ゆ。文允緋衣して堂に坐し、齒を嚼んで賊を罵る。賊前んで冠裳を擲裂し、械して之を繋ぐ。罵りて風せず。遂に自殺す。太僕少卿を贈る。

ギブンラ

ギブンラウ 魏文翁 (宋)了翁の弟。進士に擧げられ、眉山の尉となり、後、舒州に知たり。常に禮を讀み、將に善思をなし父母に令名を貽さむとす。必ず終日諷吟して釋く能はず。自ら果齋と號す。

ギブイチウ 祁秉忠 (明)陝西の人。萬曆中、官、涼州副總兵たり、清兵を西平に拒ぎて大に潰れ、創を被りて矢石の間に斃る。少保左都督を贈る。

ギボ 義母 (周)齊の女。二子あり。宣王の時、道に死者あり、一創を被る。二子傍に立つ。吏、之を問ふ。二子各報せられんことを請ふ。吏決する能はず、王に聞す。王曰く、母必ず二子の善惡を知らんと。母を召して問ふ。母泣て曰く、其少なるを殺さん。其其故を問ふ。母曰く、少者は妾が子にして長者は前妻の子也、兄を殺して弟を活すは私愛を以て公義を廢つる也。王之を聞きて其義を美とし其行を高しとして皆殺さす。其母を尊んで義母といふ。

ギボ 魏善 (唐)字は申之。微の五世の孫。文宗、貞觀政要を讀むに因て詔して微の後を訪ふ。楊汝士、善を薦む。右拾遺起居舍人と爲す。上問ふ、家書存する者ありや。對て曰く、惟だ故笏在りと。詔して上送せしむ。鄭隱曰く、人に在て笏に在らず。帝

曰く、此の笏は乃ち今の甘棠也。宣宗の朝、相に拜せらる。御前に事を議するや、規諷諷切。上曰く、善は名臣の孫、遂に祖風ありと。年八十六にして薨す。司空を贈る。

ギボウ 已茂 (漢)太常卿たり。  
ギボウ 燕整 (宋)端平中、休寧縣に知たり。廉平愷悌を以て民心を得。去るに及んで民、俵を立て、之を記る。

ギボウ 魏懸 (漢)邱數及び姓譜に見ゆ。  
ギボウ 魏懸 (宋)字は覺民。臨海の人。進士に第す。紹興の初、處州零都令に調せらる。時に江西盜起り、處の諸邑多く守を失ふ。懸、私財を出して士卒を勞ひ、自ら誓つて死守す。巨寇謝直、克つ能はず。乃ち遁れ去る。大将岳飛、之を稱賛す。後ち范女、寇をなし、郷邑、懸が先の墓を發掘する者あり。懸號働して曰く、此れ共に天を戴かざるの讐なりと。即ち官を棄て、歸る。至る比ほひ寇に平ぐ。懸、二兒を輯得して之を墓右に屬し、狀を上りて自ら勅す。郡將之を義とし釋して問はず。後、南昌縣に知となり、卒す。

ギボウコ 魏奉古 (唐)初め仕へて蓬州尉と爲る。九日、公宴に客あり、五百言を草序す。奉古曰く、此れ舊文也と。筆を授て倒に之を誦す。徐ろに笑て曰く、適ま之を覽記する耳と。是に由て名を知らる。

ギボウシヤウ 季逢昌 (宋)字は子明。吏能あり。魏了翁の知遇を受く。  
ギマウ 眭孟 (漢)魯人。公羊春秋を嚴影

ギボウ

祖に授く。  
キンアンセツ 金安節 (宋)休寧の人。經史に博洽し日に千言を記す。宣和中、進士に擧げられ、新建主簿に遷らる。紹興の初、官を累れて戸部侍郎に至る。尙書に擢てられ侍讀を兼ね、嘗て秦檜を拒き淵凱を排す。堅きこ金石の如く孤立して黨なし。死生禍福一も其心を動かさず。著す所、文集三十卷、奏議、表疏、周易解あり。

キンイウ 金甯 (清)字は遠三。雲間と號す。休寧の人。墨梅を畫くに工なり。筆力老幹時習を脱す。

キンイクトウ 金毓嗣 (明)字は輝鶴。保定府の人。父銓、戸部員外郎たり。毓嗣、崇禎七年の進士に擧げられ、中書舍人を授けらる。十四年、漕務を面陳す。旨に稱ひて御史を授けらる。十七年三月、李建泰の軍を監し、馳せて山西に赴き保定に抵る。賊騎已に逼る。遂に邵宗元等と共に守る。毓嗣、西城を分守し、家資千餘金を散じて士を稿ふ。賊、書を射て降を説く。衆頗る懈る。毓嗣厲聲して曰く、正に君父の爲に復讐すべし、敢て異議する者は斬らん。銀牌を懸けて、賊を撃つ者をして自ら取らしむ。衆争ひ奮ふ。而かも城遂に陥り、井に墮ちて自ら死す。

キンイチリヨウツマ 金一龍妻 (明)黃氏。夫早く歿す。黃氏指を斃りて自ら誓ひ、從子を立て嗣と爲す。富家之を娶らむと欲す。母黨其財を利し約を爲す。黃氏免る可

キンアン

からざるを知り、夜深に至り刀を引て自刎す。

キンエイ 斬穎 (宋)乾徳の登科なり。  
キンエイ 金鏡 (明)字は汝澄。鉞の仲子。書を善くす。父の風あり。

キンエウシ 金幼孜 (明)名は善。字を以て行はる。新淦の人。建文二年の進士。戶科給事中に除せらる。成祖の時、文淵閣大學士に進む。宣宗の時に至りて禮部尙書兼大學士に擢てられ、宣徳六年十二月卒す。年六十四。少保を贈り文靖と諡す。

キンオウ 金應 (宋)吉水の人。文天祥の書史となる。天祥に従て勤王し、京に入る。又た從て元營に詣り留めらる。天祥通て刑州に入るに及びて、天祥、置制李庭芝に疑はれ、逐はれて通州に赴き、海を渡りて行在に歸らむと欲す。應曰く、門を出づれば即ち暗あり、通州を去ると尙ほ五百里、何に内、か邊せむ、其の途に死せんよりは揚州に死せむに如かず、且つ猶ほ未だ必ずしも死せざるを冀ふと。丞相遂に夜高郵に趨き、道を失うて暗兵の爲に執へらる。懷にする所の金を解て之を與へて免るゝを得たり。乃ち復た通州に趨く。道途に狼狽し備に眼苦を嘗む。通州に至りて憂鬱病を獲て死す。

キンオウケイ 金應桂 (元)字は一芝。掾壁と號す。錢塘の人。宋の時、嘗て縣令たり。元に入りて風箏嶺に隱居す。書は歐陽洵を法とし、畫は李龍眠を學ぶ。當時目して一絶となす。

キンエイ

キンオウゲン 金應元 (明)浙江山陰の人。...

キンカウ 琴高 (周)趙人。能く琴を鼓す。...

キンカウノゾロ 斬康女 (晉)何處の人。...

キンカク 金革 (宋)字は貴從。休寧の人。...

キンガクガク 斬學顔 (明)字は子愚。濟寧の人。...

キンカクヲウ 金赫籍 (元)休寧の人。...

キンキフ 斬欽 (漢)漢高祖、元功十八人の位次を定む。...

キンキヤウ 斬彊 (漢)汾陽侯たり。...

キンギヨク 金極 (宋)樂平の人。...

都御史に擢せらる。後遷歸す。福王の時、...

キンクワウチヨ 金光勛 (清)字は謙名。...

キンケイブン 金景文 (宋)字は唐佐。...

京に入る。傑、代を請て行く。徐氏時より...

キンケン 金堅 (漢)成郡の人。...

キンケンシヨ 斬謙書 (明)舉人。...

州の人。成化二十年の進士。行人に除せらる。...

キンコクシン 金琛 (清)字は逸亭。...

キンコクホウ 金國鳳 (明)宣府の人。...

下に匿る。后衣を以て之を蔽ふ。左右曳き出し首を斬る。血、后の衣に凝る。伯顔奏して曰く、豈兄弟逆を爲して后之に驚する者あらむと。遂に併せて后を執る。后帝を呼んで曰く、陛下我を救へ。帝曰く、汝兄弟逆を爲す、豈能く相救はむ。乃ち遷して宮を出す。尋て開平の民舎に焼殺す。

キンジウリヨウ 金從龍 (宋)字は誠之。嘉定間の進士。涪州樂温に知たり。時に虜寇、蜀を犯す。將に王全なる者あり、兵を擁して境に入る。從龍、供餉に任ぜられ、留りて戍守す。邑頼て以て全し。魏了翁四歸して、樂温の歸然とし獨り存するを見、大に嘉して稱賞す。改て知瀘州納溪縣通判たり。未だ幾ばくならず寇大に至る。力支ふる能はず、竟に死す。

キンシカウ 金士衡 (明)字は秉中。長洲の人。雲南參政應徵の子。萬曆二十年の進士。知縣より南京工料給事中に歴し、屢々時務を疏論す。天啓中、太僕少卿に累遷す。疾を以て去り、尋て卒す。

キンシツ 金質 (清)字は野君。太和の人。山水を善くす。筆意澹雅、軒几を層疊障を爲る。詩は専ら少陵の五言律句を學ぶ。著す所甚だ多し。六安の楊希洛、其尤も雅なるもの三百餘篇を撰びて之を板行す。

キンジツ 金質 (明)開化之人。永樂の初、上書して治道を言ふ。世宗之を嘉納す。復た對策して旨に稱ひ翰林典藉に除せられ、太祖實錄永樂大典を修むるに與る。累官

して衛府左長史に至る。正統の初め卒す。人々爲り孝友行誼に敦し。經史を閱する、日に程限あり、老に至りて廢まず。

キンシヤウ 金質 (漢)金日磾の子なり。昭帝の時、弟遂と共に侍中となる。賞、霍光の女を娶る。宣帝位に即きて太僕に遷る。霍氏の事崩芽するや、賞上書して妻を去り獨り罪に坐せざる事を得たり。

キンシヤウ 金敏 (漢)安上の子。元帝の時、侍中となり、蕭望之、周堪、劉向等と同心謀議す。

キンシヤウ 金敏 (清)字は廉明。靖江の人。無錫に居り同志と静坐して書を讀む。興起するもの甚だ衆し。

キンシヤウ 靳常 (唐)韶陽の人。吏部郎中たり。

キンシヤクシユ 金若沐 (宋)字は子方。休寧の人。書を程若庸に受く。寶祐の間、郷に薦められて對江縣の令たり。宋亡びてまた仕へず、歸りて東園を築き、隱れて書を讀む。其間著す所、東園集、四咏吟編、性理字訓集義等あり。

キンシユン 金澹 (明)字は元善。松居と號す。醫に精し。旁ら繪事に及ぶ。

キンジュン 金澗 (明)字は伯玉。靜慮と號す。山水に工に、神會天出、世に傳はるもの甚だ稀なり。

キンジュン 金純 (明)字は德修。泗州の人。洪武中、國子監生より吏部文選司郎中に歴し、仁宗の時、刑部尚書に累遷す。宣

德中、事に坐して太子賓客に落す。致仕して去り、正統五年卒す。山陽伯を贈る。

キンジュン 金順 (明)本名は阿魯哥失里。永樂中、來歸し、太寧都指揮僉事を授けらる。積功して都督僉事に累遷す。宣德四年順義伯に封せらる。子忠。

キンジュンメイ 金俊明 (清)字は孝章。自ら不寐道人と號す。吳人。任俠自ら喜ぶ。縣の學生に補せらる。兵乱の後、隱居す。書畫を善くし、梅竹に長ず。康熙十四年卒す。年七十四。門人私に貞孝先生と諡す。著す所春閒草房詩集あり。

キンシヨク 金澁 (明)四明の人。字は本清。太瘦生と號す。晩に朽木居士と號す。竹石を寫す甚だ佳、其鉤勒竹は尤も妙也。

キンセイ 金聲 (明)字は子駿。正希と號す。崇禎戊辰の進士。學を好み、また書を能くす。後、國難に死す。

キンセイ 金聲 (明)字は正希。休寧の人。崇禎元年の進士。庶吉士に除せらる。唐王の時、右倉部御中兼兵部右侍郎に擢てられ總督諸道軍となる。竟に王事に死す。禮部尚書を贈り文毅と諡す。

キンセイキヨ 靳聖居 (明)字は淑孔。長垣の人。崇禎元年の進士。濟源萊陽の二縣を歴知す。屢々請せられて復た起つ。慶陽推官に任せられ、已にして刑部主事を授けらる。未だ行くに及ばざるに慶陽、賊に圍まる。守將段復興を佐けて死守す。城破れて執へらる。罵口に絶えずして死す。

キンセイタクワン 金聲桓 (清)遼東の人。初め明の總兵たり。國變の後、清に仕へて寇賊を征し、屢々功を立てつ。然も叙録せられずして遂に江西に叛す。力支ふる克はず水に投じて死す。其尸を獲す。

キンセン 靳先 (漢)宛陽の令たり。

キンセン 金旋 (三國)字は元機。京兆の人。初め魏に仕へて武陵の太守に任ぜらる。久しく城に據りて降らず、遂に甲を脱ぎ戈を伏す。

キンソウ 金祚 (南北)安定の人。性驍勇、氣俠を尙ふ。魏に仕へ、軍功を以て大中大夫に至る。曠勳刺史に歴任す。仇池氏の楊紹先を討つ。還て安定縣公に封せらる。

キンソウクワウテイ 欽宗皇帝 (宋)姓は趙氏。諱は桓。徽宗の子。東宮に在る時失徳なし。既に位に即き優游不斷、和議に惑ひて心決せず。在位二年ならずして國破れ、金人に驅られて北に去る。改元して靖康と曰ふ。後ち金の五國城に崩す。壽六十。

キンソク 倉息 (周)秦の大夫。百里奚を經公に薦む。公納れず。一日公出づるに及びて、息、車に當り頭を以て關を撃つ。關破れ精出づ。即ち曰く、臣生きて國に補なし、死するに如かざる也と。經公感悟して百里奚を用ふ。秦以て大に化す。

ギムチ 魏無知 (漢)嘗て陳平を高帝に薦む。既にして平、周勃等に毀らる。帝、無知を召して之を讓む。無知曰く、臣の言ふ

所は能也、陛下の間ふ所は行世、今尾生、孝己の行有るも、成敗の数に益なくんば、陛下何の暇ありてか之を用ひむと。帝之を善しとす。後ち平、月陽侯に封せらる。評して曰く、魏無知に非ざれば臣安くんぞ進むを得むと。上曰く、子の若きは本に背かざと謂ふ可しと。乃ち復た無知を賞す。

キンチウ 金忠 (明)斬人。初め率伍より起り、成祖の時、兵部尚書兼詹事府に累擢せられ、致仕して卒す。洪熙元年榮祿大夫少師を贈り忠襄と諡す。

キンチウ 金忠 (明)蒙古王の子。永樂中、成祖に降る。姓名を賜ひて金忠といひ忠勇王に封せらる。其陣に臨むや、毎に前鋒たり。仁宗の時、太子太保を加へられ、宣德四年太保を累加せらる。尋て卒す。

キンチヨウ 琴女 (秦)殿上の女也。世に傳ふ、荆軻、秦王を刺さんとて右手に匕首を執り左手其袖を把ふ。王曰く、乞ふ琴聲を聽て死なんと。琴女乃ち曲を奏して曰く、羅敷車衣可掣而絶、三尺屏風可超而越、鹿盧之劍可買而拔と。王其の計に従ひ遂に劍を抜て軻を斬る。軻琴を解せず。故に難に及ぶ。

キンテウコウ 金朝興 (明)巢人。衆を率ゐて太祖に來附す。征伐皆預りて功あり。洪武十五年、雲南の役、會川に卒す。沂國公に追封し武毅と諡す。子あり、鎮といふ。

キント 忻都 (明)元の將たり。君弼等と兵を擁へ、遂に擒へらる。

キントクカ 金德嘉 (清)字は會公。豫齊と號す。廣濟の人。康熙二十一年の進士。官、檢討たり。明史を修するに與り、殉節の諸臣を表彰す。又一統志を分撰す。楚中の鄧邑に於て考訂猶ほ精核なり。致任二十年、足跡城市に入らず。卒する時年七十有八。

キントクサイ 欽德載 (宋)吳縣の人。仕へて都督計議官となる。宋亡ぶ。德載、降款を送るを肯んぜず。碧岩山中に隱遁し、自ら壽農老人と稱す。楊維禎嘗て詩歌を作て以て之を吊す。

キンドン 金鈞 (明)字は汝礪。鉉の長子。儒に工にして父の風あり。

キンニツクワン 金日觀 (明)天啓中、參將に歴す。崇禎の初、副總兵に進み、左都督に累擢せらる。十年四月、力支へず陣歿す。特進光祿大夫太子太師を贈る。

キンニツツキ 金日追 (清)字は夔國。嘉定の諸生。書を讀みて開通を求めず、十三經皆校本あり。而して儀禮尤も精し。儀禮正詁十七卷を著す。

キンニツテイ 金日碑 (漢)字は叔翁。張掖の人。休屠王の子。没して宮に入る。武帝其狀貌を奇とす。拜して侍中せしむ。姓金氏を賜ふ。嘗て其女を後宮に納れむと欲す。日碑辭す。後、車騎將軍となる。靈光と同日く遺詔を受けて昭帝を輔く。功を以て栢侯に封せらる。卒す。諡して敬と曰ふ。子二人あり、曰く賞、曰く述。

キンノウ 金農 (清)字は壽門。一字は冬

心。錢塘の人。乾隆元年布衣を以て鴻博科に擧げらる。就かず。奇を嗜み古を好む。金石の文千卷を収む。足跡天下に半す。詩格高簡奇氣あり。工に梅を寫し間々佛像を寫す。冬心集の著あり。

キンハウ 琴彭 (明)交趾の人。永樂中、又安知府を以て茶籠州事を遷す。善政あり。宣德元年、黎利反し、衆を率ゐて城を圍む。彭拒守する。七月、糧盡き卒る。援兵未だ至らずして城陥り、之に死す。詔して交趾左布政使を贈り、一子を官にす。

キンバウ 金榜 (清)字は萬中。一字は繁齋。歙人。江慎修先生の弟子なり。乾隆三十七年の進士、一甲一名たり。修撰を授けらる。性冲淡、癖を養うて書を讀み、復た出でず。禮を治めて鄭康成を宗とす。博く書聞を采り、據秘撰要、以て禮學十卷を著す。

キンバク 斬伯 (唐)景龍中侍御史たり。キンフ 黔夫 (周)戰國の時、齊の威王、魏の惠王と郊に會出す。魏王問ふ、齊に實ありや。威王曰く、吾に黔夫なる者あり、徐州を守らしむれば燕人北門に祭し趙人四門に祭す、徒りて從ふ者七十餘家。

キンフ 金剛 (明)字は用文。常熟の人。山水梅竹蘭石を畫く、佳趣あり。竹泉生と號す。

キンブンカウ 金文剛 (宋)字は子潜。安節の孫。敏悟にして學を嗜む。遺恩を以て將仕郎に補せられ、潭州司馬に調ばる。時書に累擢せられ尋で戸部少書に改められ太子太保を加へらる。景泰五年官に卒す。榮墓と諡す。

キンロウ 黔婁 (周)齊の隱士。道を守りて風せず。威王之を師とす。家貧し。卒す。覆ふに布被を以てす。頭を覆へば則ち足露はれ、足を覆へば則ち頭露はる。曾西曰く、其被を斜にすれば則ち露せられむと。其妻曰く、斜にして露あらむは正うして足らざるに若かずと。康と諡す。著書四篇。道家の要を言ふ。名づけて黔婁子といふ。

キンワウ 均王 (五代)梁第二世。姓は朱氏。名は友貞。太祖の子。郡王友珪、太祖を弑して自立す。諸將皆悦ばず。友貞密に附馬都尉趙巖と謀り、招討攝師厚に説き、其兵を以て友珪を伐つ。友珪自殺す。均王乃ち位に大梁に即く。之を末帝と爲す。帝入と爲り容貌美に、沈厚寡言、閑雅にして儒士を好む。荒淫の失なし。但だ趙巖、張希逸等を寵信して、敬翔、李振等の舊臣を疎棄し、又王彦章を用ゐて兵を任ずる能はず。晉王存勗兵を擧げて梁を伐つ。王彦章敗れ晉軍長驅して大梁に至る。諸兄弟の危めて哭して曰く、運祚盡くと。諸兄弟の危に乗じて亂を作さんことを慮り添く之を殺す。尋で其臣皇甫麟をして已を殺さしむ。梁亡ぶ。在位十一年。改元するもの二。貞明、龍德。

キンキ 金祥 (漢)字は德祿。京兆の人。累代漢の臣たり。乃ち憤を發して耿紀章兇

に眞希元、潭に帥たり、文剛を得て其端厚を喜ぶ。是に由て知を受け遂に眞氏の門人となる。奉新縣通判與國軍監左藏及び封樁庫に歴知し出で、臨江軍常德府に知たり。太府丞浙西提舉將作監に遷り、直龍圖閣に進みて卒す。文剛莊重修潔、燕居するも肅實の如し。官に泣むに嚴明、教化を崇ぶを以て先となす。少より老に至るまで身を持し行を制して益々力む。寶祐間、眞魏二公諫を得て去るや、門人或は名を他師に更む。文剛獨り音問して絶えず。擧歩出言一に文忠を以て準となす。

キンブンシン 金文選 (明)字は玄輝。筠石と號す。蘇州の人。善行多し。墨竹を寫し、喜で裝褙の状を作る。

キンヘイ 斬平 (漢)印戯に見ゆ。キンホ 斬輔 (清)字は紫桓。漢軍鎮黃旗人。官は河道總督に至る。卒して工部尙書を追贈せられ、文襄と諡す。その官に在るや利澤民を潤す。河道を督せし時、入事を疏陳す。大略に謂ふ、當に古を師とすべき者あり、當に今を酌むべき者あり、當に先後を分別すべきものあり、當に一時並舉すべきものあり、而して大旨勢に因つて利導するを以て主なきまむと。學生の精力河工に瘁し、中河の役の如きは國家萬世の利を起す。撰する所の治河方畧一書、實に千古河防の龜鑑なり。

キンボウ 錦峰 (明)成都の僧。山水を能くし唐子華を宗とす。

ギメイ 紀明 (唐)吳人。嘗て秘訣を隱士周廣に授けられ、人の顔色を觀て便ち疾の深淺を知る。

ギメイ 儀銘 (明)智の季子。字は子新。宣宗即位の初、禮科給事中に除せらる。正統中、宣廟實錄を預修し、侍讀に遷る。景帝の時、太子太保兵部尙書に累進す。官に卒す。忠義と諡す。一子あり、長を海といひ次を泰といふ。

ギモン 義問 (唐)嘗て曾孝寬に從ひて河東に使す。還りて事を奏するに利害綱目を筋に記す。帝覽畢以て問ふ。應對流るゝか如し。

キンメイ 欽明 (宋)百官階次三卷を撰す。キンラン 金鑾 (唐)白居易の女。十歳の時忽ち北山移文を著して家人に示す。

キンリシヤウ 金履祥 (元)字は吉甫。金華蘭溪の人。景文の曾孫。少くして經世の志あり。河北山王魯齋の二先生に師事す。講貫精詳、踐履篤實。宋、史館編修を以て召す。用ふるに及ばずして國亡ぶ。遂に意を進取に絶ち隱居して書を著す。學者稱して仁山先生となす。晩年學を麗澤書院に講ず。弟子之に従ふ者、許遷、柳實、皆高弟なり。著す所、大學疏義、尙書表註、通鑑前編、論孟考証、中庸標註、仁山文集あり。文懿と諡す。三子あり、穎、頴、頴といふ。穎も亦三子あり若龍、若龍、若契といふ。若龍は臨海縣の丞に任ぜられ徒て金華の東藕塘に居り。子孫に家す。

キンリン 金倫 (漢)山碑の弟。救駕にして智あり。仕へて侍中となり、侯に封ぜらる。倫が子安上、四子あり、常、敏、寧、明。敏、元帝の時侍中となり、蕭望之、周堪、劉向と心を同じうして謀議す。敏が子涉、成帝の時侍中に拜せらる。涉の從弟欽、平帝の時京兆尹となる。家世々忠孝なるを以て光祿大夫に遷る。

キンレイケイ 金麗卿 (宋)杭人の婦。夫に從て廣信道を過ぎ、詩を作りて懷を述ぶ。キンレン 金濂 (明)字は宗瀚。山陽の人。永樂十六の進士。御史に官たり。宣德中、陝西副使に歴。正統の間、刑部尙

訪ふ。仲先葛巾布袍長履す。議論雅相得て甚懽ぶ。曰く、盛刺復た還さず、留めて山間の實と爲すと。曾て寇萊公と陝郊の僧寺に同遊す。後再び到る。萊公の時、紗籠を用ひ、魏の詩は墨滿つ。從行の官妓、袖を以て之を拂ふ。仲先云ふ、若し時に紅袖を以て拂ふを得ば紗籠を着くるに勝るべしと。後、萊公に與ふる詩に云ふ、好去上天許將相、却來平地作神仙と。子閑、亦仕へず、清逸居士と號す。

キヤウ 歸陽 (元)字は彦温。汴梁の人。母、朝日出て輕雲來り掩ふと夢みて生る。故に陽と名く。精敏人に過ぐ。至順の初の進士。知穎州事たり。順帝の時、皇太子學に就く。陽を召して贊善と爲す。

キヤウイウ 匡裕 (周)字は子孝。魯の匡邑寧句須の後。春秋の時、柱下史老聃を師として長生の術を得たり。兄弟七人同じく廬を南嶽山中に結ぶ。周の定王嘗て問ふ、方今神仙の世に在る者幾何ぞ。老聃、五嶽の神仙を擧げて之に對ふ。裕は其一なり。王、之を徵す。見ず。後、使者をして其隱所を訪はしむれば、僅かに草廬の存するのみ。邦人遂に匡山と呼び、又廬山と曰ふといふ。

て桑を種う。歳餘にして新桑野に徧れし。野人名づけて太子桑と爲す。河南陝西按察使に累遷す。病を以て濟南に歸り卒す。年七十六。

キヤウイン 姜隱 (明)字は周佐。山東黃縣の人。人物仕女花果を善くす。細潤工緻。古人の妙を得。

キヤウウ 姜宇 (漢)字は子居。少より孤貧。河北の陳不識の牧羊たり。年十五、身長七尺九寸、丰儀美にして性聰慧なり。終夜讀書し、且に達して止む。不識之を奇とし、妻はすに女を以てせんと欲す。妻従はず。其女曰く、其姿才を觀るに、豈久しく人の牧羊たる者ならんやと。遂に之に妻はす。

ギヤウエンセン 仰延宣 (明)筠石と號す。維陽の人。萬曆中陳章に來る。凡ち山水を作る、先つ水を淨凡に擘し生紙をその上に鋪き隨て寫字筆を用ふ。點染以て煙潤の態を取る。作る所の松風水月の圖、萬曆森疎孤光沈靜の趣ありといふ。

キヤウオウイウ 姜應熊 (明)輿の子。初め指揮使となり、右都督に累遷し、總兵官に拜せらる。尋て事に坐して調せらる。穆宗立ち、赦されて還る。子あり顯靜といふ。キヤウオウリン 姜應麟 (明)字は泰符。慈谿の人。國華の子。萬曆十一年の進士。神光熹思の四朝に仕へ、太僕少卿を以て致仕し、崇禎三年卒す。太常卿を贈る。ギヤウカ 行可 (元)高僧。宣行と號す。

傳く台宗に遇す。天台佛龍修禪寺に住す。キヤウカウ 匡衡 (漢)字は稚圭。東海承の人。累官して太子太傅に至る。朝廷政議あれば輒ち經を引きて對ふ。言、法義多し。數々上書して便宜を陳す。後、相に拜せられ樂昌侯に封ぜらる。初め衡、家貧にして學を好み、常に隣壁を鑿ち光を引きて讀書す。精詣人に絶し、十年の間、長安城門を出てず。而して遂に相位に至る。子言、亦た經に明かに、位、九卿に歴す。家、世々多く博士たり。衡の同邑に富民あり。其家、書多し。衡、之を爲に備作して直を取らず。曰く、願くは主人の書を借りて之を讀まん。

キヤウカウ 姜皎 (唐)上邳の人。父は柔遠、官尙書に至る。皎、初め尙衣奉御たり。玄宗即位し、殿中少監を授けらる。尋て太常卿に遷り國史を監修す。禁中の語を洩すに坐して飲州に流され、病みて死す。世、以て寃となす。

キヤウカウ 姜浩 (宋)字は浩然。明州の人。承信郎を以て平江郡稅務を監し、志を官業に勵す。建炎中、將に平江を陥れんとす。浩、力めて捍禦す。郡人之を徳とす。キヤウカウ 姜昂 (明)字は恒頰。太倉の人。成化八年の進士。知縣より御史に擢てられ河南知府に轉り、尋て福建參政に遷る。キヤウカク 姜確 (唐)字は行本。善の子。貞觀中、將作少監となる。幹力を以て稱せらる。

キヤウクワウコウ 向皇后 (宋)神宗の后。河内の人。宰相敏中の曾孫。神宗の穎邸に在りし時、聘して夫人と爲し、位に即くに及び立て皇后と爲す。哲宗立ち尊んで皇太后と爲す。徽宗の時、政に參して軍機を斥け稍々賢人を用ふ。而かも熾に六月にして政を還し、年五十六にして崩す。欽聖憲肅と諡す。帝追念して已まず、兩男宗真、宗固を封して郡王と爲す。

キヤウゲイ 薑薨 (宋)環州に知たり。歷興間、金兵、環を圍む。薨、孤城を堅守し、招降すれども屈せず。城陥り、之に死す。キヤウケフ 姜協 (唐)寶誼の子。葉籜を善くす。夏州都督を歴。成紀縣侯に封ぜらる。

キヤウケン 姜妍 (宋)字は大民。淳安の人。七歳にして孤、二兄と母を養ひて至孝なり。母死す。兼哀慕、幾んど絶つ。既に葬る。獨り墓下に居り、朝夕荒山の中に哭罵す。躬自ら樵採して、一裘麻、寒暑易へず。同里の陳氏載氏の子、其父母に事ふるに能はず。妍の行を聞き、感な感悔愧悔し、皆親を迎へて養ひ、卒に孝子と成る。

キヤウケン 姜源 (上古)帝の元妃。野に出て、巨人の跡を見、心に欣然として之を踐む。既にして棄を生む。以て不祥と爲し之を監禁に棄つ、馬牛避けて踐まず。徒して山林に置く。適ち林中に人多きに會ふ。之を水上に遷す、鳥これを覆翼す。以て神と爲し遂に之を収む。棄は即ち后稷。その

十六世の孫を周の武王と爲す。キヤウケンメイ 強猷明 (宋)饒塘の人。熙寧中、兄弟相繼ぎて五人登第し、皆顯官に至る。猷明官工部架閣に終ふ。弟浚明は尙書郎に、淵明は翰林學士に至り、偉明、陟明は外任に歴して皆治蹟あり。キヤウゴ 向諤 (宋)字は伯源。子諤の仲子。靜重端確。綽として父の風あり。邵陽に吏たり。未だ幾ばくならずして冠を掛けて販る。

キヤウコウ 姜后 (周)齊侯の女なり。宣王の妃と爲る。賢にして徳あり、事禮に非れば言はず、行禮に非れば動かず。宣王早く臥し晏く起く。姜后、警珥を脱して罪を永善に待ち、傅母をして言を王に通ぜしめて曰く、妾の不才妾の淫心見はれたり、君王をして禮を失して晏く朝せしむるに至る。王曰く、寡人の不徳、夫人の罪に非ずと。姜后を復して早く朝し晏く退き、卒に中興の名を成す。

キヤウコウホ 姜公輔 (唐)德宗の朝、相に拜せらる。上、唐安公主の爲に塔を造り厚く之を葬らんと欲す。公輔、上表して切諫す。上、隨費に謂て曰く、唐安の造塔、其費甚だ微なり、公輔が論ずべき所に非ず、公輔、正に朕が過失を指して自ら名を求めんと欲するのみ、何を相負くと此の如き。公輔曰く、凡そ事を論ずる、當に理の是非を問ふべし、豈に事の大小を計らんや、今、公輔の言ふ所、陛下又た安くんぞ忍せし

ギヤウキン 仰祈 (宋)字は天賜。永嘉の人。力学篤行を以て稱せらる。年五十餘、母の喪を執り孝を盡す。躬自ら土を負ひ墓側に廬す。慈烏白竹の瑞あり。紹聖中、郡守楊藩、其里に表す。大觀二年、郡に擧げらる。卒して將仕郎を贈らる。キヤウキヨウジン 姜養壽 (清)字は靜寧。號は香巖。父の號は東陽外史。如阜の人。乾隆丁卯の舉人。花草竹木を畫くを善くす。筆法、逸瀟灑、時習を脱去す。キヤウキヨウセンウ 姜暹單子 (漢)南匈奴主。初め右賢王たり。單于呼徴、漢將張修の爲に殺さる。よりて立つ。立て十年、部衆の爲に殺さる。キヤウク 向栩 (漢)字は甫興。長の後。侍中に累官す。朝廷大事ある毎に侃然正色少しも撓屈せず、百官之を憚る。キヤウクワ 向化 (明)靜海衛の人。その父衛指揮たり、海に落ちて死す。化、號泣して屍を求む。得ず。亦海に投ず。既にして化、父の衣を頂きて一處に浮ぶ。衆之を救す。キヤウクワイ 姜晦 (唐)善の弟。仕へて蒲州參軍に至り、累遷して長安令たり。人之を長愛す。御史中丞に擢てられ、吏部侍郎に改めらる。事を處する精明、皆以て神とす。後、春州司馬に貶せらる。キヤウクワイ 向瓊 (五代)澧陽の人。刺史呂自牧を殺し、澧州に據つて叛す。遂に誅せらる。

十六世の孫を周の武王と爲す。キヤウケンメイ 強猷明 (宋)饒塘の人。熙寧中、兄弟相繼ぎて五人登第し、皆顯官に至る。猷明官工部架閣に終ふ。弟浚明は尙書郎に、淵明は翰林學士に至り、偉明、陟明は外任に歴して皆治蹟あり。キヤウゴ 向諤 (宋)字は伯源。子諤の仲子。靜重端確。綽として父の風あり。邵陽に吏たり。未だ幾ばくならずして冠を掛けて販る。

十六世の孫を周の武王と爲す。キヤウケンメイ 強猷明 (宋)饒塘の人。熙寧中、兄弟相繼ぎて五人登第し、皆顯官に至る。猷明官工部架閣に終ふ。弟浚明は尙書郎に、淵明は翰林學士に至り、偉明、陟明は外任に歴して皆治蹟あり。キヤウゴ 向諤 (宋)字は伯源。子諤の仲子。靜重端確。綽として父の風あり。邵陽に吏たり。未だ幾ばくならずして冠を掛けて販る。

て而して念ふ勿かるべけんやと。上、意猶怒り、竟に公輔を罷めて左庶子とす。

キヤウコクワリ 姜國華 (明)嘉靖中の進士。官は陝西參政たり。廉名あり。子あり應麟といふ。

キヤウコクジヤウ 姜克讓 (宋)字は仲謙。高安の人。世々儒業を興とす。早に父を喪ひ、刻志讀書、百家の學、通ぜざる所無し。尤も易に深し。初め意幕に仕へて豪強の名を博し宛滞を雪ぎ、廉能にして聲あり。年四十、致仕す。篤意孝友、淡然として勢力を以て意に介せず。

キヤウサイ 姜才 (宋)濠州の人。貌短偉。兵を知り騎射を善くす。通州の副都統たり。元兵と屢々戦ひて屢々勝つ。復た揚州を守る。元將、人を使して之を招く。才曰く、吾れ寧ろ死するも豈に降將軍たらんやと。後、疽發し戦ふ能はず、執へられて之に死す。

キヤウサイ 姜珠 (明)字は如農。萊陽の人。崇禎四年の進士。知縣より兵科左給事中に歷進す。官を以て獄に囚へらる。福王立ちて救に遇ひ、故官に起つ。國變の後、蘇州に流寓して卒す。

キヤウサウ 向巢 (周)向成の曾孫。宋の景公に事へて左師となる。征戰功あり。後命を奉じて曹を平け、擲つて以て叛く。

キヤウシ 姜詩 (漢)廣漢の人。母に事へて至孝。龐の女を娶りて妻とす。龐、姑に奉じて尤も謹む。母、打水を飲むを好

應麟の從子。少より孤。天啓二年の進士。崇禎三年御史に擢てられ天下の五大難を陳す。又時相を劾す。出でて河東の鹽政を視る。秩滿ち、乞ひ歸りて卒す。

キヤウシド 姜師度 (唐)玄宗の朝、河東の尹たり。同州刺史に遷る。清白を以て稱せらる。棄地二千餘頃を收めて皆腹田とす。

キヤウシノツマ 姜詩妻 (漢)廣漢の人。龐盛の女。姜詩に嫁す。姑に事へて至孝。姑好みて江水を飲む。水舎を去ること六七里。妻常又流に浙て汲む。姑又魚鱗を好む。夫婦力作して之を供す。會忽忽魚鱗あり、味江水の如し。日毎に載ち雙鯉魚を出す。赤眉賊、詩の里を經 曰く大孝を驚かさば必鬼神に應れん。一擲遂に事なきを得たり。

キヤウシピン 向子恣 (宋)紹の弟。敏中四世の孫。字は宣卿。紹興中、呂頤浩、朝に薦む。對を賜ひて直秘閣を加へられ、湖北憲に歷任す。衛人之を懐ひてその像を祀る。晚年伊山に居り。乃多晋の桓伊が書堂の故基なり。胡公明中、其所居に名つけて有裕堂といひ、仍て之が記を爲る。

キヤウシン 強伸 (金)容貌極めて陋、而かも膂力人に過ぐ。天興元年、中京留守元帥左都監に拜せらる。二年、元兵と戦つて執はれ遂に殺さる。

キヤウシニエイ 姜宸英 (清)字は西溟。漢園と號す。浙江慈谿の人。少より詩、古文に工に、書法に精し。諸生と爲りて、名、

み、また魚膽を嗜む。妻、毎日出て汲む。一旦、舍前に忽ち泉湧出す。味、江水の如し。毎日載ち雙鯉を出す。永平中、孝廉に擧げらる。明帝、詔して大孝と曰ふ。

キヤウシ 強至 (宋)字は幾卿。錢塘の人。文を爲る簡古俗に泥まず。進士に擧げらる。韓琦屢々薦めて館閣に充つ。果さず。祠部郎に終ふ。金紫光祿大夫を贈る。獻明等の父たり。

ギヤウシ 行思 (唐)高僧。姓は劉氏。吉州安城の人。六祖大鑿禪師の法を嗣く。後青原山靜居寺に住し、季玄の徒を接す。開元二十八年十二月十三日寂す。

キヤウシイン 向子謹 (宋)紹の弟。子恣の兄。湖東安撫たり。自ら郡林居士と號す。

キヤウシウ 向秀 (晉)字は子期。河内の人。少にして同郡の山濤の知る所となる。又稽康呂安と友とし善し。並に拔治の韻あり。是より先、莊子を註せし者數十家、而かも能く其旨を究むるなし。秀、舊注の外に於て解義を爲り、妙行奇致大ひに玄風を起す。唯だ秋水至樂の二篇未だ竟へずして卒す。子幼にして貧、遂に零落す。然れども別本あり。郭象なる者、人となり薄行にして備才あり。秀の義の世に傳はらざるを以て、遂に竊かに以て己の注となし、乃ち自ら秋水至樂の二篇を注し、又た馬蹄の一節を易へ、其餘は或は文句を定點せしのみ。後ち秀の義、別本出づ。故に今向郭 注あるも其義は一なり。竹林七賢の一。

九重に徹る。聖祖嘗て侍臣に謂て曰はく、聞く、江南に三布衣ありと、尙は未だ仕へざるかと。三布衣とは、秀水の朱整、無錫の殷繩孫、及び宸英、これなり。宸英、性高介、當道の爲に梗かれ、連蹇 志を得ず。康熙丁丑、進士と成りて編修を授けらる。年已に七十。其文、雅健、北宋人の意あり。詩は浣花を宗として之に參ふるに玉局を以てし、以て其變を盡す。書は鍾王に法ざりて神品に入る。著、江防海總論、詩文集の集あり。

ギヤウジンケン 仰仁謙 (宋)吳興の人。大平興國間、太子舍人を以て永嘉に知たり。廉靜にして能あり、民を撫する子の如し。時に錢氏方に遷土を歸し 仁謙始めて邑令と爲る、政事一新す。

キヤウジヤウ 姜瓖 (清)陝西榆林の人。順治二年清に降り、流賊を平けて戦功多し。官、大同總兵たり。五年十二月、城に據りて叛す。明年、英親王等に討滅せらる。

キヤウジユ 姜綬 (宋)麗水の人。靖康の初、金人、汴を圍む。忠勇の士を召募し、機書を賣らして援を求めしむ。綬、忠翊郎を以て幕に應じ、股に封じて書を藏し、南壁を鎗下す。運卒に獲らる。賊を罵りて辱させず。遂に害せらる。建炎中、詔して其子に官し、特に立て承信郎とす。

キヤウシニクセイ 姜淑齊 (清)膠州宋方伯の子。書を善くす。筆力矯健、女子に似ず。

ギヤウジ 姜瓖 (清)陝西榆林の人。順治二年清に降り、流賊を平けて戦功多し。官、大同總兵たり。五年十二月、城に據りて叛す。明年、英親王等に討滅せらる。

ギヤウシウ 行秀 (元)高僧。姓は蔡氏。河内の人。靈巖滿に嗣ぐ。天童淨の七世。還りて報恩に住す。晩に從容菴に退居す。得法のもの一百三十人。世壽八十一にして寂す。著はすとこら從容錄あり。

キヤウシキ 姜凱 (宋)方士なり。自らいふ、神術、能く死者をして復生せしむ。時に仁后薨じ、英宗、悲慕已まらず。其術を試みしむ。旬日にして効あらざらず。乃ち曰く、臣、太皇太后の仁宗と白玉蘭に臨みて牡丹を賞し、また人間世に意無きを見んと。

キヤウシコ 向士虎 (宋)字は伯虎。子謹の孫。七歳の時、祖子謹が節南山の詩を誦するを聞き、悉く誦して得る所あるが如し。子謹、大に之を異とす。後、度名尉を授けらる。親の側を去るに忍びずして遂に仕へず。適意詩を賦し毎に物外の趣あり。

キヤウシノツマ 姜士道妻 (明)蔣氏。幼にして穎悟、文章を能くす。嫁して数年、夫死す。殉死せんとす。父情を知り之を救ふ。後、首を缸中に濡して死す。存する所の續列女傳及び夫を哭するの文等四篇あり。御史、朝に聞す。其門に榜して文章貞節と曰ふ。

キヤウシヤウ 姜士昌 (明)字は仲文。丹陽の人。實の子。萬曆八年の進士。戶部主事より員外郎に進む。省親を以て去る。還りて吏部侍郎に補せらる。官を以て請せられ成所に卒す。天啓の初、太常少卿を贈る。キヤウシシユン 姜思睿 (明)字は瑞愚。

キヤウジユン 強精 (唐)雍州參軍たり。韓原水無く、人畜多く渴死す。精、渠水を引き田を灌し、一方之を利す。號して強公渠と曰ふ。

キヤウシユンギョク 姜舜玉 (明)竹雲居士と號す。隆慶の間、菴院妓たり。詩に工みに兼りて楷書を能くす。

キヤウシヨ 姜嶼 (宋)景德中、劉文質、鄂内の官、高輔之、李易直、文仲儒、梅詢、高貽慶、姜嶼等の治迹あるを奏す。置書を賜ひて褒諡す。

キヤウシヨウ 況鐘 (明)字は伯律。靖安の人。初め儀制司主事に除す。宣德中、知府に擢てられ聲名あり。正統間、民に留められて再任し、七年十二月、官に卒す。

キヤウシレイ 姜志禮 (明)字は立之。丹陽の人。萬曆十七年の進士。推官より天理評事に除せらる。嘗て確視の害を極陳す。天啓中、尙書卿に累遷す。老を乞ふ。太常少卿を加へられて致仕す。

キヤウセイ 向靖 (南北)字は華仁。山陽の人。宋の文帝と善あり。永初の間、功を以て曲江縣侯に封せられ太子太傅に位し散騎常侍を加ふ。身を立つる儉約、時人之を稱す。子柳。

キヤウセウ 向韶 (宋)敏中四世の孫。字は仲卿。清約奉士の如し。人其の相門后族の子姪たるを知らず。強學自動して曰く、先丞相の事業衰莫たるもの久しと。永嘉の劉安節、其言壯をさし、引きて忘年の交を

なす。靖康の初、淮寧に守たり。金人入寇す。詔親ら甲冑を覆して矢石を冒す。城陷る。金人酒を前に酌み膝を屈せしむ。詔植立して動かず、手を揮ひて之を罵る。遂に害に遇ふ。忠毅と諡す。

キヤウセウ 杏僧 (宋)吳七郡王の女。音律詩詞を善くす。梅嬌の妹也。

キヤウセキ 姜夔 (明)漢の子。朝廷父の難に殉せしを憫み、嘉靖の初、都指揮僉事に超擢す。副總兵に進み大同を協守す。後、總督翁萬に効能せられ、尋で卒す。

キヤウセン 姜潛 (宋)字は至之。兗州の人。孫復に従ひて春秋を學ぶ。田況、之を擧ぐ。學士院に召試せられて明州録事參軍たり。母を郷を思ふを以て致仕を求む。吳奎、韓絳、共々薦む。兗州に徙る。又薦められて國子直講となる。神宗其賢を聞き、召して訪ふ。治道を以てす。對へて曰く、幾舜二典の在る有り、陛下惟之を致すの道何如と顧みるのみと。陳留に知たると數月、青苗令下る。潛、即ち疾と稱して去る。縣人府に詣りて之を留むれども得ず。

キヤウセン 仰瞻 (明)長洲の人。永樂中、虎賁衛經歷より大理寺丞に遷り、景帝の時に至りて大理少卿に擢せらる。

キヤウソウ 印疏 (漢)周封吏なり。能く氣を行形を煉り、石髓を煮て之を服す。石髓乳と謂ふ。

キヤウソウケイ 向宗同 (宋)徽宗の時、蔡州に知たり。劉賊并に其黨を擒にす。歳

飢う。虞を發き役を興し民其飢を免れ、官舍府廩亦一新す。

キヤウソウタン 向宗旦 (宋)河南の人。太常博士知縣事兵馬都監及び管河塘溝漕公事。歷任す。治平二年順民會を建つ。

キヤウタイ 向鼎 (周)宋の共公に仕へて大宰に任ず。蕩澤の乱、主家の難を棄て、順みず楚に奔る。

キヤウタイ 向魁 (宋)向鼎の弟。景公に侍せらる。征戰功あり。曾て左師を請ふ。尤されず。後、曹に入りて叛す。

キヤウタウサ 唐佐 (唐)環山の人。蘇軾に従ひて文を學ぶ。軾、嘗て贈るに詩を以てして曰く、滄海何曾陷地脉、白袍端合破天荒と。蘇轍亦云く、環山唐佐、吾兄に従つて遊び、氣和にして通ず、中州士人の風ありと。

キヤウチヤウ 向長 (漢)字は子平。朝歌の人。隱居して仕へず。性中和を尙ぶ。貴にして資給するなし。嘗て易を讀みて損益卦に至り、喟然として嘆じて曰く、吾已に富の實に如かず貴の賤、如かざるを知る、但未だ死と生との如何を知らざるのみと。建武中、男女皆嫁娶既に畢る。遂に同好禽慶と俱に五嶽各山に遊ぶ。

キヤウチヤウ 向長 (漢)尙長を見よ。

キヤウチヤウチイ 况長寧 (漢)諸葛恪の傳に云ふ、况長寧は君子たり、事に臨みて懼れ謀を好みて成す、蜀は葛蘭の國たり、規する所、圖る所、惟だ守と戰とのみと。

キヤウチヨウ 向寵 (三國)諸葛亮の表に曰く、將軍向寵は性行淑均にして軍事に曉暢す、昔時に試用し、先帝之を稱して能といへり、愚以爲らく營中の事悉く以て之に咨らば必ず能く行陣をして和睦ならしめ優劣宜しきを得んと。

キヤウド 姜度 (唐)子を生みて將に月を彌らんとす。李林甫、書を以て之を賞して云く、聞く弄筆の喜ありと。蓋し璋を錯り寫して鑿し作る也。

キヤウドク 姜蕚 (晋)賊石冰の將たり。兵數萬を帥めて死を拒ぐ。遂に支ふる能はず、敗れて死す。

キヤウトクイン 姜德隱 (五代)蘭谿の人。唐蜀主、號を禪月大師と賜ふ。苦節峻行、書を善くしまた詩を能くす。四嶽集あり。

キヤウニツクワウ 姜日廣 (明)字は居之。新建の人。萬曆末の進士。庶吉士より編修に歷。崇禎中、詹事に擢られ南京翰林院を掌る。後、議合はずして罷め歸る。國變の後、金聖祖、兵を江西に擧げて清に抗し、日廣を招く。既にして聲桓破れ、日廣また之に死す。

キヤウチイ 向寧 (周)宋の平公元公に歷事す。元公十年、宋に叛きて陳に入る。

キヤウハウ 姜寶 (明)字は廷善。丹陽の人。嘉靖三十二年の進士。官、編修たり。果遷して南京國子監祭酒と爲る。請ふ所皆可かる。南京禮部尙書に終ふ。

キヤウハウ 向實 (明)字は克忠。進賢の

人。洪武中の進士。應天府尹に擢でらる。宣德の初、南京右都御史に拜せらる。

キヤウハウギ 姜寶 (唐)上郡の人。父は暹、後周の秦州刺史たり。寶、嘗て太學に遊びて書を受け、積勞を以て鷹揚郡將に遷り、唐高祖に従ひて監を太原に督す。兵を起すに及びて右武衛大將軍に歴し、宋剛と戦ひて害せらる。幽州總管を贈り、諡して剛と曰ふ。子あり協といふ。

キヤウハクフン 向伯奮 (宋)字は元伯。樂平の人。靖康の時、在京市易の事を監す。尋で僞詔あるを聞き官を棄て、去る。高宗召して建州に知とし襄陽に帥とす、皆功あり。孝宗の時、戸部侍郎に拜せらる。著、時論十卷、興稿三卷、詩十卷あり。

キヤウヒ 行丕 (明)高僧。字は大基。寧波鄞縣の人。寧波浮陀寺に居り。宗說並に通じ、行解相應す。

キヤウビンチウ 向敏中 (宋)字は常之。太平五年春雨如膏の賦を試み、及第す。西京に留あり、人を殺すと稱し冤獄已に具る。公其非を察して其實を得たり。人之を神とす。太宗、飛帛に張詠敏中の名を書し中書に付して曰く、二人は名臣なり、朕の爲めに之を記せよ。眞宗の朝、左僕射に進む。上、人をして之を視せしむるに門閤悄然たり。上曰く、敏中大に官職に耐へん。敏中、寇準と同年なり。敏中既に釣を棄てず、使相を以て長安に守たり、詩を寄せてふ、玉殿登科四十年、常時僚友盡英賢、

義舉惟有公兼我、白首猶特將相權と。卒して文簡と諡す。文集十五卷あり。子傳正、傳式、傳亮、傳範、傳亮の子溼。溼の女神宗の後たり。敏中、世の孫を嗣といふ。

キヤウボ 姜希 (唐)山西の襄族。高祖、擢て、秦州刺史と爲し、曰く、昔人稱す、錦を衣て郷に還ると、今、本州を以て相授くるは功を償ふ所以と。

キヤウメイブ 姜名武 (明)字は我揚。德州の人。天啓二年武舉す。大同威遠守備を授けらる。崇禎中、通州副總兵に擢でらる。十五年春、開封の役、賊中に陥りて磔せらる。特進榮祿大夫右都督を贈る。

キヤウラウ 向朗 (三國)字は巨遷。襄陽の人。初め臨沮の長たり。先主に叛して江南を定む。功を以て巴西の太守となり後ち光祿勳となる。心を典籍に潜め年八十を踰えて猶手自ら書を校し謬誤を判定し、積聚して篤卷をなす。門を開きて賓に接し後進を誘夜す、人皆敬慕せざるはなし。

キヤウラヤンヤ 薑良耶舍 (南北)高僧。此には時稱といふ。西域の人。元嘉の初、遠く沙河を冒して京邑に至る。太祖文皇、深く歎異を加ふ。初め鍾山の道林精舍に止まる。元嘉十九年、岷蜀に遊び、處處に道を弘む。後還りて江陵に卒す。春秋六十。キヤウリフカウ 姜立綱 (明)字は廷憲。東路と號す。永嘉の人。薑は黃子久の家法を得。

キヤウリンノツマ 匡倫要 (明)商州の

人。邵氏。流賊至り驅て饑を執らしむ。罵て曰く、何ぞ狗賊の爲に飯を作らむやと。賊怒りて之を殺す。

キヤウリヨウ 姜龍 (明)昂の子。字は夢實。正徳三年の進士。禮部郎中を歴て雲南副使に累遷す。貴にして妻妾に妬られ、竟に藥を仰ぎて死す。

キヤウレン 強練 (唐)容貌長壯、語默時ならず。人之を測る莫し。若し意説く所あらんと欲するるとき人に違へば鞭ち言ひ、若し其の言ふを欲せざるとき人々に値へば、縦ひ苦口新請するも相酬答せず。初め其言を聞くも解せず、事過ぎて往々驗あり。人皆之を敬信す。後、其終る所を知らず。

キヤウワウ 匡王 (周)周第二十世。姬姓。名は班。頃王の子。在位六年。

キヤウフ 姜維 (三國)字は伯約。天水の人。蜀に仕へて征西將軍に拜せらる。諸葛孔明の甥裔に與ふる書に曰く、伯約は忠勤、涼州の上士也と。孔明卒するに及び、維、繼ぎて其兵を領し、自ら才武を自ひ、毎に兵を興し大舉して王經を洮西に敗らんと欲す。後、鍾會の兵劍閣に至る。維、計を設けて力め禦ぐ。會、克つ能はず。後、帝典親出て降る。維、帝の教を得て始て降り、密に諸將と謀し、以て鍾會を殺して復た蜀主を立つるを計る。會々將士亂を作して會を殺し、並に維を格殺して其屍を剖く。大さ斗の如し。

キヤウフジン 向爲人 (周)宋に仕へて官



は大司寇たり。薄澤の亂、節に死する能はず、楚に出奔す。
キヤウエンメイ 強淵明 (宋)至の子。字は德孝。進士に第して禮部尚書翰林學士承旨を歴、資政殿學士に終ふ。文憲と諡す。
ギユギ 魏喻義 (清)字は實剛。桂陽州の人。咸豐の末、陳公士杰に從て郴永の間に戦ひ數ば功あり。同治元年左公に從ひて賊を雷州に破る。喻義、軍を移して銅欄に至る。地は嚴州を去ると六十里。未だ幾ばくも無くして嚴州を復す。其の後また左公に從ひて富陽を抜く。官、溫處兵備道に至る。
キョアンジン 許安仁 (金)字は子靜。獻州交河の人。幼にして孤、能く自ら刻苦讀書し、善く文を屬す。大定七年登第す。諸官を歴て汾陽軍節度使に升り、泰和五年卒す。年七十七。文簡と諡す。安仁、實無無華、澹然として古君子の風あり。子古。
キョウウジン 許有壬 元字は可用。先世瀋に居り、後鴻陰に徙る。幼にして穎悟。延祐の進士に第す。英宗の時召されて監察御史と爲る。泰定中、十事を上言す。元統二年參知政事に拜せらる。徹里帖木兒奏して科擧を罷めんことを有壬力めて之を争ふ。侍御史に拜せられ中書左丞に轉じ明仁殿に進讀す。諶に由て病と稱して退く。後また起て河南左丞と爲り、集賢大學士に改めらる。老を以て致仕して卒す。文忠と諡す。有壬七朝に歴事し仕官五十年に盡んことを著す。所至正集一百卷あり。

キョインソウ 許胤宗 (南北)陳に仕へて新蔡王外兵參軍たり。王太后風を病みて言ふ能はず、醫家窮す。胤宗曰く、餌液進む可からず、即ち黃蓍を以て風を防ぎ湯數十斛を床下に置けり。既にして氣、霧の如く重なりて之に薄る。是の夕忽ち語るに至る。
キョウ 季鏞 (宋)字は伯韶。括倉の人。淳祐十二年睦州に知たり。時に饑饉う。鏞既に至り、己を虚しうして俗を問ふ。首として私茶を調き、朝に力請して京府權驛の令を寛うし、倉を發して賑を分つ。民これを徳とす。
キョウアイクワウコウ 恭哀皇后 (漢)許皇后を見よ。
キョウウイセイ 龔頤正 (宋)嘉泰元年旨を奉ず、學問該博。特に同進士出身を賜ふ。と。官秘書丞に至る。
キョウウエイ 龔穎 (宋)字は同秀。天資穎悟、博く經史に通す。初め南唐に仕へて内史學士と爲る。李主宋に歸するに隨ひ、擢てられて御史大夫と爲る。叔父慎儀、庶縁の害する所と爲る。穎、宋に歸するに及び穎と朝を同じうす。穎、徽簡を袖にして入朝す。會々縁陸見す。穎、速に進んで之を撃つ。太祖驚いて其故を問ふ。穎、穎以て狀し罪を待つ。奏して曰く、一に國家の爲に害を除く、二に叔父の爲に讎を報ず。而して縁が狼子野心、朝に蓄ふべからざるを極言す。太祖嘆じて曰く、江南の小國、義士是の若きあるか。遂に縁を誅し、穎を

殺して之を釋す。世、忠を以て之を稱す。號して端公と曰ふ。
キョウウエイ 龔詠 (明)官、知縣たり。世宗位を嗣ぎし歲、寧の盜起り、轉掠して歸平に至る。詠、吏民を率ゐて禦ぎ、力風して殺さる。濟南通判を贈らる。
キョウウカイ 龔開 (宋)字は聖子。淮陰の人。宋亡びて仕へず。家貧、賓客造訪するも、凡庸なきに至る。紙を按じて唐馬の圖を作る。甚く工なり。一たび出づれば人輒ち數十金を以て之を易ふ。曾て文天祥陸秀夫の爲に傳を立つ。時に班固も及ばずと稱す。恐らくは下の龔開と同人。
キョウウカイ 龔開 (元)字は聖與。翠巖と號す。淮陰の人。隸書を作る、極て古雅。又書を善くす。山水は二米を師とし、人馬は曹霸を師とす。描法甚だ細。尤も墨筆の皴皴を善くす。
キョウウガイ 龔愷 (明)字は次元。松江華亭の人。嘉靖二十六年の進士。官、御史たり。馬市を論じて廷杖せらる。尋て靖江王が驕恣の狀を列し、また粵寇を征するを疏止す。湖廣副使に終ふ。
キョウウカク 龔敷 (明)船山の人。行誼を以て郷に重んぜらる。官、國子司業を歴て祭酒に至る。
キョウウカセイ 龔可生 (明)嘉定の諸生。嘉靖中、日本入寇し、其祖母を殺さんことを可生身を以て蔽ひ、竝に殺さる。
キョウウカン 龔鑑 (清)字は輪上。又の字

は明水。錢塘の人。早く母を喪ひ父に事へて孝なり。雍正の初、拔貢を以て甘泉縣を授けらる。惠政天下に著る。鑑また經學に深く、著、毛詩疏說等の書あり。世に行はる。
キヨウキ 龔祁 (晉)字は益道。風姿端雅。容止觀るべし。范述、之を見て嘆じて曰く、此れ荆楚の仙人也。
キヨウキセン 龔基先 (宋)字は平叔。高郵の人。進士。太府卿に累遷し、尋いで太常に除せらる。平生士を愛し、嘗て滄海海書院を建て以て進士の流離する者を處す。
キヨウキフ 龔伋 (漢)侍中たり。忠貞の節を著る。
キヨウキヤウ 共嬰 (周)衛の世子共伯の妻。共伯蚤く死す。共嬰義を守る。父母之を再嫁せしめんことを共嬰許さず、栢舟の詩を作りて死す。
キヨウキヤウ 龔况 (宋)字は之。程の子。進士に登る。學術文章を以て蘇過と俱に朝に名あり。龔蘇と號す。祠部員外郎に終る。
キヨウキキ 龔其位 (清)奉節縣の人。文玉の弟。嘉慶中、兄と俱に鐵瓦寺に據り、已として徐王と合して所在を擧す。遂に誅せらる。
キヨウクワ 共華 (周)晋惠公の時の人。
キヨウクワイ 龔夫 (宋)字は彦和。瀟州の人。少にして重名あり。清介自立、進士に擧げられ殿中侍御史に累官す。上書して

章傳、蔡京の罪狀を言ふ。卒して節齋と號す。
キヨウクワウテイ 恭皇帝 (晉)重晉第十世。姓は司馬。名は德文。安帝の母弟。立て一年、位を宋王劉裕に禪り、晋亡ぶ、已にして弒せらる。改元するもの一、元熙。
ヨウクワウテイ 恭皇帝 (南北)四魏主。姓は元。名は廓。文帝の第四子。立て三年、位を周に讓る。四魏亡ぶ。
キヨウクワウテイ 恭皇帝 (隋)第三世。姓は楊。名は侑。煬帝の孫。父は太子昭。立て半年、位を唐に禪る。隋亡ぶ。
キヨウクワウテイ 恭皇帝 (五代)周第三世。姓は柴。名は宗訓。世宗の第四子。七歳にして位に即く。明年位を趙匡胤に禪り。周亡ぶ。
キヨウケン 龔賢 (清)字は半千。號は柴道人。崑山に家し金陵に流寓す。人々爲り古風あり。詩文に工に書畫を善くす。畫は北苑の法を得て沈雄深厚、世の推重する所と爲る。
キヨウゲン 龔原 (宋)遂昌の人。進士。徽宗の初、給事中と爲る。時に郎官五人を除す。皆執政の姻戚なり。悉く擧げて之を劾す。後、兵工部侍郎を歴中宗正丞に至る。著す所、易解あり。
キヨウゲンキ 龔彦暉 (元)易州の人。武勇絶倫。宋兵を追って湖中に入り、伏出て、圍まる、こゝ數回。免れざるを度りて水中に投ず。敵之を授ひ、載せて江州に詣る。

風せずして死す。
キヨウゲンシ 龔玄之 (晉)武陵漢陽人。好學潛默。初め茂材に擧げられ公府辟す。皆就かず。孝武、其名を聞き、徴して教讀常侍と爲す。固辭す。子元義、黎民、孫所、皆名聲あり。
キヨウゲンシヤウ 龔元祥 (明)字は子禎。長洲の人。郷に擧げらる。崇禎四年、靈山教諭と爲る。廉隅を厲まし名教を以て自任す。八年、賊鳳陽を陥る。元祥子民を督して固守す。或人之を避けんとを勸む。元祥曰く、殊を食みて而かも難を避くるは不忠なり、危に臨みて而かも城を棄つるは不義なり、吾が平日講説する所は何ぞや、備し測られずんば死せんのみ。城陥りて賊に至る。元祥衣冠を整へて危座し、侃々として諭すに大義を以てす。賊之を風せんを欲す。厲聲して曰く、死何ぞぞ。賊之を執へて去る。口聲を絶たず遂に害に遇ふ。國子助教を贈らる。祠を建て、忠孝と曰ふ。
キヨウコウ 共工 (上古)少皞氏(金天氏)の號、黃帝に次ぐの裔。不才子なり。舜之を流す。
キヨウコウ 共公 (周)秦の君。蘇姓。康公の子。立て五年にして卒す。
キヨウコウ 共公 (周)燕の君。姬姓。悼公に嗣ぐ。國を享くること五年。
キヨウコウ 共公 (周)魯の君。姓姫。名實。穆公の子。國を享くること二十二年。
キマウコウ 姜肱 (漢)字は伯淮。廣成の

人。二弟仲海季江と俱に孝友を以て聞ゆ。兄弟、被を共にして臥す。各々妻を娶るに及び、兄弟相戀ひて房室に入らず。後、徐穉と俱に徴さる。至らず。桓帝、畫工をして其形状を圖せしむ。肱、閤室に臥し、被を以て面を隠し、眩疾を感ずと言ひて敢て出でず。工、竟に見るを得ず。復た徴して太常とす。肱、遂に海濱に遁る。清隱の名、天下に震ふ。仲季二人、亦高尚にして仕へず。

キヨウコウシ 共工氏 (上古)三皇の時の諸侯。女媧氏の條下を見よ。

キヨウサウ 嬰壯 (宋)渠人。己を清くして道を守る。父、人の爲に殺さる。壯、卒に計を定めて仇を執へ以て報ゆ。朝廷徴召すれども就かず。文籍を以て自ら娛む。

キヨウサクバク 嬰作梅 (明)陳州の人。年十七、父母共に亡し、舍に墮す。團賊民居を火く。作梅極前に跪て焚死す。

キヨウシキ 嬰識 (宋)字は黙而。慎儀の子。吳に徙居す。進士に登り監察御史に擢てらる。才術淳正、操履端方、平江軍節度副使に歴す。子宗元。

キヨウシフ 嬰樵 (宋)字は清道。父原、兵部侍郎たり。崇寧中、和州に謫居せられ、因て家す。樵、金人郡縣を陥るを聞き、輒ち忿恚食はず。兀朮、和州に據る。樵、家人を率ゐて之を襲ひ、數百人を得。金の救兵大に至る。樵、其衆を麾きて曰く、今日闕死す、亦以て義士と爲るに足れりと。遂

に之に死す。キヨウシフ 嬰傑 (宋)字は深文。中奉太夫に累官し、長洲令に歴知し、官、司農に至る。郷國、亡ぶ。士大夫班行に居る者、例に隨ひて北上す。傑、行きて華亭に至り、食はずして卒す。

キヨウシン 登信 (宋)安豐郡の人。荆湖の老将たり。沈勇にして謀あり。淮士數千を招きて自ら隨ふ。文天祥の永豐に趨かんとするや、大兵其後を追ふ。信、方石嶺に戦ひ、身數矢に中り、傷重くして戦ふと能はず、自ら崖石に投じて死す。清遠軍承宣使を贈り廟を立て之を旌す。

キヨウシンギ 嬰慎儀 (宋)字は世則。邵武の人。南唐に仕へて禮部侍郎と爲る。開寶の初、入貢す。太祖命じて書を讀し往きて嶺南を招かしむ。執へらる。漢亡びて歸るを得たり。後、李主宋に歸す。鄧州中を以て欽州刺史と爲る。宜春の盧綬、福建に據らむと欲し、衆を領する數千。新安より欽に入る。慎儀、朝服して黃堂に坐し、目、綬を顧みず、神色自若たり。綬曰く、聞く公素謀略ありと、今欽に下るは特に公が謀主たるを請ふ也と。慎儀聲を厲して曰く、吾已に命を宋に授く、一日授を失ふと雖も肯て賊に従ひ叛を爲さむと。綬怒りて之を殺す。衆皆害を被る。

キヨウシヤ 嬰舍 (漢)字は君情。五經に通じ詩書を以て教授す。孔休、卓茂、蔡勳、鮑宣、鮑宣と志を同じうして仕へず。初め

嬰勝の薦を以て徴されて諫議大夫と爲り復た光祿大夫に拜せらる。終に起たず。二人並に名節を以て著る。世之を楚の兩嬰と謂ふ。

キヨウシヤウ 登翔 (周)魯の景公の大夫。キヨウシユク 嬰濬 (宋)字は子敬。高郵の人。聰明にして善く文を屬し、刻意學問す。當路者交々宜しく閣館に在るべきを薦む。報ぜず。嬰濬と忘年の交を爲す。世之を漢の兩嬰に比す。

キヨウシニクタン 共叔段 (周)鄭の武公の子。初め武公、申に娶る。之を武姜といふ。莊公及び共叔段を生む。姜氏、段を愛して之を立てんと欲し、數ば武公に請ふ。公許さず。莊公即位するに及び姜氏、段の爲に京を請うて之に居らしむ。之を京城大叔といふ。既にして段、將に鄭を襲はんとす。莊公、子封に命じて車二百乘を率ゐて京を伐たしむ。段、鄆に奔る。莊公、これを追ふ。また共(地名)に奔る。

キヨウシヨウ 嬰勝 (漢)字は君實。彭城の人。三たび孝廉に擧げらる。哀帝時、徴されて諫議大夫と爲る。王莽政を乘るに及びて郷里に歸隱す。莽、使を遣し印綬を奪じ、安車駟馬之を賜し、上卿に拜す。勝、門人高暉等に語て曰く、豈豈一身二姓に事へむと。遂に食はずして死す。

キヨウスフ 嬰遂 (漢)山陽の人。昌邑王の郎中令と爲る。王不正あれば、遂、諫諍す。王、其を掩ひて起ち走る。宣帝位に即

き、渤海盜起る。遂に命じて渤海太守と爲す。單車郡に至り民に農桑を勸む。民皆劍を賣りて牛を買ひ、刀を賣りて糧を買ひ、境内大に治る。徴されて入る。功曹王生隨行す。陸見に及んで王生醉呼して曰く、天子若し君に何を以て渤海を治むるかを問はむ、君但だ、皆主上の徳、小臣の功に非ざる也と曰へと。上果して問ふに治狀を以てす。遂答ふる王生の言の如し、上笑て曰く、卿安くんぞ長者の言を得る。遂曰く、臣が功曹之を教ふる也と。即ち遂を水滸都尉に拜し、王生を水滸丞と爲す。

キヨウセイ 嬰聖 (宋)邵武の道人也。問々異道あり。龍に乗りて往來す。勅して神濟妙應太師に封す。居る所の峰上、磐石あり。歲旱、雨を祈るに、淨瓶を石下に置き水瓶中に滴る。水滿つれば即ち止む。

キヨウセイワウ 恭靖王 (明)有瀛周定王の第八子。學を嗜み吟咏を工にし、兼て畫を能くす。恭謙あり。

キヨウセキ 嬰石 (三國)字は顯光。南昌の人。吳の謝嬰、會稽太守と爲りて罪を大帝に獲。石、爲に衰を具して陳訴し頓首流血す。時に天大に風雷、流血水と成る。帝之が爲に嬰を釋す。

キヨウゼンアン 嬰全安 (明)蘭谿の人。進士に第して工料給事より左通政に累遷す。正統十四年八月、土木の變に死す。通政使を贈らる。

キヨウソウゲン 嬰宗元 (宋)識の子。幼

にして穎悟人に絶す。天聖中、進士に擢てられ、父讒疾を以て、乞ひて侍養す。後句容に知たり。奸を發し伏を捕する神の如し。都官員外郎に歴す。子程。

キヤウソウジン 強存仁 (明)金陵の人。童蒙。周天球に教ひ穎風殊に劣れり。

キヨウタン 嬰端 (宋)新昌の人。元符の初の進士。朝に立ちて未だ嘗て世に隨ひ俯仰せず。欽宗の時、時事を極論し危言諫論す。欽宗、其の瀟々として直臣の節あるを謂ふ。後、使を河東に奉じ、路、二帝の北狩するを聞き憤慨して卒す。

キヨウタン 嬰鄒 (宋)字は疊伯。寧徳の人。曾祖允昌、祖必翁、俱に善士と稱せらる。鄒、早く朱文公に従ひ、學、口耳を務めず、一意躬す。晩に楊復と理氣先後の説を辯論し、尤も造詣あり。自ら南峰居士と號す。詩文、著數卷あり。

キヨウテイ 嬰程 (宋)宗元の子。字は信民。剛正自ら守り禍福を怵れず。進士より朝議大夫に歴す。子況。

キヨウテイキン 登廷均 (宋)錢塘令と爲り、嘗て錢塘湖山遊覽記を撰す。

日食す。則ち賢を進め奸を遠け以て皇極に應ぜむと請ふ。尋いて事を以て王安石は忤ひ、出で、兗州に知たり。再び青州に知たり。

キヨウテイシヤウ 嬰廷祥 (明)字は伯興。無錫の人。馬世奇の門人。崇禎十六年の進士。中書舍人に除せらる。城破る。衣冠歩して武定橋に至り水に投じて死す。

キヨウニツシヨウ 嬰日昇 (宋)性剛直。嘗て成院の貴龍ある者を讒撃す。度宗の初年、鼎州に守たり。苛政を除き德を寬にし賦を薄くし、大に學校を備め以て士類を風す。早を禱りて應多し。

キヨウハン 恭播 (晋)漢書音義十二卷、漢書注四十卷を著す。

キヨウパンロク 嬰萬祿 (明)貴州の人。目に書を知らざるも、膽志あり。膂力人に過ぐ。劉綎に従ひて楊應龍を征し、海龍圍に先登す。守備を襲し、建武を成る。天啓の初、奢宗明反す。萬祿推されて遊擊將軍となり、兵事を主る。崇明成都を犯さんとするも、萬祿其後を牽かんと揮り、都將張令をして降を執かしむ。令萬祿と結び、崇明を給くに降を以てす。崇明果して他將を遣して來り成る。萬祿脅かして降す。誘殺算なし。既にして賊衆を悉くして建武を攻む。萬祿十里の外に遊擊し、兵少くして敗れて還る。城遂に陷る。萬祿自刎して殊せず。稍を擲り馳出て、大呼して曰く、我は嬰萬祿なり、孰か能く我を追ふ者ぞと。賊敢て

二〇七

運らず、已にして官軍を江門に敗るに會し、賊四面より來り攻む。萬祿力戰三日、數十人を刃して死す。都督倉事を贈らる。

キヨウブンギヨク 張文玉 (清)奉節縣の人。嘉慶中、鐵瓦寺に據り亂を唱ふ。徐王等と與に誅に伏す。

キヨウヘイカウ 張炳衡 (明)崇禎中、流賊來り攻む。炳衡號呼して賊を罵り、遂に其殺す所となる。

キヨウホ 恭輔 (宋)隰州に通判たり。善政あり、世に稱せらる。

キヨウボウ 張懋 (宋)字は君美。順昌の人少にして俊偉。仁宗の朝、茂才異等に擧げられ、房州推官を授けらる。張方平と相友とし善し。太平、諫院に知たり。懋十詩を作りて之を寄せ、備き、交契の厚きを言ふ。慶曆の初、近臣之を薦む。召されて館職と爲る。未だ幾くならずして卒す。

キヨウボウリヤウ 張茂良 (宋)兩田の人。紹興の進士。吏部郎官と爲り、敵を撃ぐの得失を論じて曰く、景德の勝は能く斷ずるに本つき、靖康の禍は疑を致すに由ると。孝宗の時、參政を以て相の事を行ふ。卒して莊敬と諡す。

キヨウマウキ 張孟葵 (宋)字は龍文。臨川の人。咸淳の進士。隆興監獄推官に除す。文法を妙悟し斷決流るるが如し。賈似道、見むと欲す。孟葵往かず。歸りて山中に講學すること十年。性剛直、町畦を絶つ。時の矜式たり。

キヨウマウジヨ 張孟舒 (晉)金華の人。毛詩に通ず。樞に仕へて潯陽郡丞と爲る。元帝江州に在り、之を遇する甚厚し。官、大中大夫に至る。

キヨウメイシ 張明之 (宋)字は照仲。幼にして孤。祖母李氏に鞠養せらる。李嘗て之に語て曰く、吾少時夢に綠袍の判官あり、曰く、汝に七十七を與ふと。後、この數に及びて病重なり。明之、香を頂に焚き、己が五年を減じて祖母の壽を益さむとを願ふ。祖母遂に愈む、年八十八にして卒す。

キヨウヨ 張興 (宋)湘陰の人。乾道の進士。剛介廉潔、浙東檢法と爲る。憲に隨ひて部を按じ、郡縣皆受けず。後、梓潼に知たり。民道官賦、己れの俸を以て代輸し、家に儉石の儲なし。

キヨウリツ 張履素 (晉)南昌の人。兩晉山に居る三十余年、産を傾けて書を買ひ、徒を聚めて教授し、講授の暇、錦を荷びて躬ら耕す。弟子遠きよりして至る者、皆之に衣食を給す。貞元三年家に卒す。

キヨウレイセイ 張麗正 (清)字は開賢。仁和の人。嘉慶丙辰の進士。官、郎中。段若賢を以て師と爲し能く其學を傳ふ。著、國語章詁註あり。

キヨウレツフ 張烈婦 (明)江陰の人。年十七劉玉に嫁す。家甚だ貧し、力作して姑を養ふ。姑死し夫亦尋て没す。里人其婦の色を愛し強るに淫を以てす。張、其脱す可ら

ざるを知り幼子を携へて母家へ奔食す。尋て一夜火を擧げ夫屍を抱きて焚死す。

キヨウワウ 共王 (周)周第六世、姓は姬。名は堅。一ノ伊厲といふ。穆王の子。在位十二年。

キヨウワウ 共王 (周)楚の君。莘姓。名は審。莊王の子。在位三十年にして卒す。

キヨウワウ 共王 (漢)趙王。姓は劉。名は恢。高祖の子。初、梁王たり。趙の幽王死して之に徙さる。呂太后、呂産の女を以て趙王后と爲す。后、權を專にして王自ら恣まにするを得ず。王、愛姫あり。后之を鸞殺す。王乃ち歌詩四章を作り樂人をして之を歌はしめ、悲思して自殺す。

キヨウワウ 共王 (漢)梁王。姓は劉。名は買。梁の孝王の子。景帝の時、封せられて梁に王たり。其後、立に至り、元始年間、國除せらる。

キヨウワウ 恭王 (漢)魯王。姓は劉。名は餘。景帝の子。好て宮室を治む。孔子の舊宅を壞ちて古文經傳を得たり。其後文王崩に至り、子なくして絶つ。

キヨウワウ 共王 (漢)六安王。姓は劉。名は慶。膠東康王の子。武帝の時、故衡山の地に封せらる。其後、育に至り王莽の時絶つ。

キヨウワウ 恭王 (漢)東海王。姓は劉。名は嬰。光武帝の子。母は郭皇后。初め皇太子たり。郭皇后の廢せらるるや、強常に自ら威々として安んぜず數々蕃國に備らん

ことを請ふ。光武之を許して東海王と爲す。其の太子を廢せらるるや過を以てせず、去就禮あり、是を以て之を優遇するよと封を以てし、虎賁旄頭を賜ひ、宮殿を鐘鼓の縣を設けて、乘輿を擬せしむ。薨するに及び明帝殊禮を以て之を葬り諸侯王と詔して會葬せしむ。其後漢に至り、魏の初に崇徳侯と爲る。

キヨウワウ 共王 (漢)定陶王。姓は劉。名は康。元帝の子。材藝多く音聲を習知す。上之を愛して幾んと皇太子に代らしめんとせり。其子欣、入りて漢を嗣ぐ。之を哀帝と爲す。

キヨウワウ 恭王 (漢)城陽王。姓は劉。名は祉。字は巨伯。光武の族兄春陵侯康侯の子。光武に從ひて功勞あり城陽に封せらる。疾て將に死せんとするまき、王の置候を上り、列侯を以て先人の祭を奉せんことを請ふ。光武乃ち其子を封じて蔡陽侯と爲す。

キヨウエイキ 許永祿 (明)曲沃の人。鄉舉により上蔡知縣と爲る。惠政多し。性耿介、頗笑假す所無し。崇禎十五年春、李自成數騎を遣して城下を抵る。永祿吏民を督して城を守る。賊大に呼て曰く、今日降らずんば明日屠らん。永祿懼る。永祿嘆て曰く、賊勢猖獗して我兵少し、豈に能く守らんや、吾一死して賊を盡さんのみと。衆皆泣く。明日賊大に至る。守者驚き潰ゆ。永祿袍笏を具し、案に據り燭を乘りて端座

す。賊入る。遂に自刺す。

キヨウエキ 許奕 (宋)蘭州の人。慶元五年擢んでられて進士第一たり。東川節度判官を授けらる。韓侂胄開邊を諫す。奕書を貽つて曰く、今日の勢、元氣僅かに屬するが如きも、以て寒暑の侵に當るに足らずと。給事中を以て金に使す。金人禮送甚恭し。後寶訓閣直學士を以て瀘川府に知たり。奕朝に在つて論議甚だ多し。帝嘗て其の骨硬を稱す。天性孝友、典籍に通ず。著はす所、毛詩說、論語尙書周禮講義あり。

キヨウエン 許瑛 (明)字は玉仲。吳縣の人。幼にして至性あり。嘗て臂を刺て父の疾を瘳す。諸生と爲る。磊落不羈。明末、京師陥りて、帝社稷に殉ふと聞き、誓て義兵を擧げて賊を討たんと欲す。志成らず、憤懣して古廟に趨て自經す。人よ解かる。乃ち去て河に投ず。また潞王の舟に拯はる。瑛を載る者掖して以て歸る。遂に粒を絶ちて卒す。郡人私諡して潛忠先生と曰ふ。

キヨウエンツマ 許延妻 (晉)杜氏。何許の人なるを知らず。延、益州別駕と爲り、李驥に害せらる。驥、杜氏を納れて妻と爲さむと欲す。杜氏號哭、夫の尸を守り驥を罵て曰く、汝輩逆賊無道、死に先後あるも寧ぞ久く活くへけむ、我は杜家の女、豈に賊の妻と爲らむやと。驥怒りて遂に之を害す。

キヨオン 許恩 (明)新水の人。隣家火を失す。驚き出て、偏に母を尋ねるも得ず。復た突き入る。遂に母と俱に焚く。

キヨウカウ 許亨 (南北)字は亨道。新城の人。晉の徵士。詢六世の孫なり。父懸梁に仕へて、官、散騎常侍に至る。學藝を以て聞ゆ。毛詩風雅比興義類十五卷。行記四卷を撰す。亨少くして家業を傳へ、孤介にして節行あり、博く群書に通じ多く前代の舊事を識る、名譽皆之を推許す。高祖の入つて輔くる亨が貞正古人の風あるを以て常に師禮を以て之に事ふ。禪を受くるに及び亨に授くるに中散大夫を以てす。後、累遷して衛尉卿に拜す。年五十四にして卒す。初め齊書并に志五十卷を撰びしも亂に遭ひて亡失す。後、梁史五十八卷を撰す。

キヨウカウ 許衡 (元)字は仲平。懷州河内の人。家世々農を業とす。後、蘇門山に移居す。程朱既に遠く、天下方に兵争を事とするの時、慨然として道を以て己が任となす。其質平正篤實にして講學を好む。其父亦た質樸なり。世祖即位す。衡を以て國子祭酒に任ず。既にして病漸して歸る。屢々書を上りて政事を切論す。至元十八年卒す。年七十三。四方の學者計を聞き號哭す。成宗大徳の初、文正と追諡す。武宗至大二年、魏國公に封せられ、仁宗皇慶二年詔して孔子の廟廷に從祀す。

キヨウカウ 許誥 (明)字は廷綸。進の次子。弘治十二年の進士。戶科給事中を授く。出で延綏軍の儲を視、丁糧丁草の害を論ず。帝之を褒納す。翰林檢討に累遷す。嘗て上疏して釋教を斥け、聖道を恢復す。南京戸

部尙書に拜す。當時兄弟南北兩京にありて邦計を司る。婦紳以て榮となす。尋て卒す。太子太保を贈り、莊敬と諡す。

キヨカウ 許昂 (明)字は世顯。梅花を畫く。清楚にして俗を脱す。

キヨカウ 許珩 (清)字は楚生。儀徵の人。詩を能くし、經を治めて心得あり。周禮獻儀七卷を著す。

キヨカン 許幹 (宋)字は崧老。襄邑の人。元祐三年、進士となる。翰林學士に累官し、同知樞密院事たり。高宗の時尙書右丞に拜せられ、終に資政殿大學士たり。幹經術に通じ、正直不撓、三朝に歴任して功を政府に封せり。議論剴切。著はす所論語解、春秋傳有り。

キヨキ 許規 (宋)許遠四世の孫。嘗て宣州の客邸に於て、傍舍に客の病める者有るに遇ふ、客は乃ち建康の人なり。規、爲めに醫を請ふ。終に愈えず。其の人因て囊中の金百兩を以て規に付し託する。後事を以てす。規、之が爲に棺殮し併せて餘金を以て家人に還す。人稱して長者となす。

キヨキ 許幾 (宋)資溪の人。少うして諸生を以て韓琦に謁す。琦勸めて大學に入らしむ。及第して南陵縣に知たり。治蹟あり。後、實議閣待制を以て鄆州に知たり。幾、素と吏弊あり兼れて理財を善くす。嘗て四たび戸部に入り、尋て尙書となる。

河南を犯す。輝賊の爲に掠めらる。大入罵て殺さる。

キヨキ 許遠 (明)字は汝登。固始の人。正徳三年の進士。身長巨口、猿臂燕頤。沈にして謀畧あり。樂陵知縣を授けらる。六年春、流賊劉七等、城邑を屠り長吏を殺し、勢甚猖獗なり。遠、慨然として戰守の計を爲す。縣初め城無し。民を督して版築す。月を踰して城成る。死士を募りて巷中に伏せ、城門を洞開す。賊果して至る。旗擧り伏發す、賊大に驚竄す事聞して秩二等に進められ、遂に兵備倉事に超擢せらる。駐して武定州に在り屢々賊を敗りて威名大に著はる。十二年、江西副使に遷る。時に寧王宸濠、暴横を極む。遠、屢々法を執りて之に抗す。宸濠孫鑑を縛するに及び、遠、之を争ふ。宸濠素と遠を忌む。問ふ許副使何をか言ふ。遠曰く、副使は惟赤心のみ。宸濠怒て曰く、我れ汝を殺す能はざらんや。遠罵て曰く、汝能く我を殺さば、天子能く汝を殺さん、汝は反賊、萬段して汝を殺せば、汝悔ゆるも何ぞ及ばん。宸濠大に怒り並に縛して其頸を斫るも遠屹として動かす。賊衆共に推抑して跪かしむ。能はず。遂に死す。年三十六。世宗の時、左副都御史を贈り、忠節と諡す。嘉靖元年改めて、禮部尙書を贈り、庭を指揮倉進事にむ。

キヨキ 許貴 (明)字は用和。江都の人。永新伯成の子。羽林左衛指揮使を襲ぐ。景

泰天順の交、都督同知に進み、左府の事理し尋て、副總兵に任じ、山都寧邊を征し、道に卒す。賜諡祭葬制の如し。

キヨギフ 許義夫 (元)陽山の人。夏邑縣尹と爲る。親から郷社に詣て民を教へ、勸者は賞し、惰者は罰す。未だ三年ならずして境内饑足す。至正中盜賊起る。單騎賊壘に至り之を諭す。賊怒して去る。縣賴て以て安きを待たり。

キヨキンメイ 許欽明 (唐)欽寂の弟。武后萬歲通天元年、涼州都督常輕驍按部となる。會ま突厥默啜の兵に執へられて、賊と與に靈州に至る。賊、之に降を説かしむ。欽明城下に至り呼んで曰く、我の食美醫有りや、梁米有りや、并せて墨一枝を乞ふと。時に賊營四面水を阻て、惟だ一路入ることを得、故に欽明將を遣ひ兵を練り、夜に乗じて賊を襲はむと欲する也。而も城中其の説を悟る者無し。遂に害せらる。

キヨクウ 許邁 (清)字は不寒。侯官の人。官は知縣たり。善く松石を蓄く。其父祖皆松石を蓄くを以て名あり、不寒尤も勝れたり。蓄く所巨幅多し。

キヨクエイ 玉英 (唐)其姓氏を詳にせず。符鳳の妻。容貌殊美。鳳、罪を以て南海に至る。獠賊に殺さる。玉英を脅かし之に私せむとす。玉英始て曰く一婦人を以て衆男子に事る能はず、請ふ一長者を推さむと。賊之を然りとなす。乃ち更衣せんとを請ふ。既にして疊履して舟端に立ち、罵て

曰く、賊の辱を受くるは死するに如かずと。自ら海に沈む。

キヨクエキ 玉波 (明)女子。詩書を善くす。

キヨクヤウ 玉况 (漢)字は文伯。性明敏。建武、陳留太守たり。德を以て人化す。大司徒に遷る。

キヨクワン 曲環 (唐)俠州の人。好んで兵法を學び、騎射を善くす。天寶中、金吾大將軍に遷る。德宗の朝、左僕射に拜し、晉昌郡王に封せらる。

キヨクツメイシツ 玉笏迷失 (元)塔々統阿の長子。渾都海の亂に死す。

キヨクシ 玉芝 (明)高僧。嘉禾の人。姓は富氏。諱は法聚。泉と號す。幼にして儒業に就き、王陽明に師事し、良知の旨を受く。後出家して法を夢居禪師に嗣ぐ。乃ち麓を荆山に結ぶ。小芝山下に生ず。人玉芝和尚と稱す。後天池に居りて終老す。一時の道學先生唐一菴、王龍溪、蔡白石の如き、芝を山中に訪ひて儒道を叩く。著す所の録世に行はる。

キヨクジウチヨク 曲從直 (明)遼東の人。崇禎中、楊州同知たり。福王の時、可注及び其士等と與に國に殉す。

キヨクシヨウ 趙信陵 (唐)吳人。貞元中、望江令となる。惡政あり。元早に雨を斬る。即ち驗あり。百姓之が爲に祠を立て、白居身、爲に秦中吟を作る。

キヨクセウ 玉簫 (唐)姜使君の侍女。韋

貴を弱め富を極む。  
キヨクワウコウ 許皇后 (漢)成帝の皇后。車騎將軍嘉の女也。后聰慧史書を善くす。寵あり。後、趙飛燕譖して皇后媚道を挾むと爲す。帝因て之を廢す。后姉諷誅死を蒙り、親屬皆故郷に歸る。后、昭臺宮に處り藥を仰て自殺す。延陵交道既西に葬る。

キヨクワウコウ 許皇后(燕哀) (漢)宣帝の皇后也。平君と曰ふ。許廣漢の女なり。宣帝未だ位未即かざるの時娶りて一男を生む。帝立つに及びて平君立て皇后と爲る。時に霍光の夫人其女を嬖貴ならしめんと欲し、女醫淳于衍と謀りて皇后に毒藥を盛らしむ。皇后頓絶して崩す。許后立て三年にして崩す。諡して恭哀皇后と曰ふ。杜南に葬る。後五年許后の子を立て、太子となす。元帝之なり。

キヨケイ 許荆 (漢)字は少楨。許武の孫。仕へて郡吏たり。兄の子世、嘗て警を報いて人を殺す。怒む者兵を操つて之を攻む。荆跪き言て曰く、世、無狀、罪荆が子道を訓ふる能はざるに在り、兄惟だ一子、死せば滅絶せむ、願はくば身を殺して之に代はらむと。怒者曰く、許荆は郡中賢を稱す、吾何ぞ敢て相侵さむと。遂に委して去る。後孝廉に擧げらる。和帝桂陽の太守となす。孫あり、靈帝の時太守となる。

キヨケイ 居敬 (明)高僧。字は心淵。蘭雪と號す。永樂の初、詔を奉して大藏經を校す。上海の廣福、松江の普照に歴住し、

大に法席を開く。  
キヨケイ 巨敬 (明)平涼の人。初め御史たり。尋て戸部主事に改められ、史官に充てらる。清慎を以て稱せらる。後、燕王の爲に誅せらる。

キヨケイ 許懸 (清)字は念因。笑仙と號す。秀水の人。醫を業とす。花草を寫すに善し、毎に長紳の葉を寫すに好んで一点結ぶが如き者を作る、頗る別趣あり。點綴せる草虫亦生動す。  
ギヨケイ 魚慶 (宋)金縣の人。賢良に擧げられ、翼城縣丞となる。

キヨケイカウ 許景衡 (宋)字は小尹。瑞安の人。兄景亮嘗て治説二十篇を上る。報せず、遂に歸隱す。景衡程伊川先生に従つて學ぶ。元祐中進士たり。高宗の時尙書となる。金人南のかた建康を侵す。建康に幸せむと請ふ。黃潛善等其の異を惡み、已に禮して之を罷む。京口に卒す。忠簡と諡す。景衡、志慮忠純、事に遇へば敢て言ふ。故を以て高宗永く之を追憶せりといふ。

キヨケイクワン 許敬觀 (元)母に事へて至孝。一日舟に乗りて北渡す。雷其上に墜ち來皆震死す。敬觀亦昏絶す。而も忽ちにして甦へる。人以此孝感の報と爲す。  
キヨケイソウ 許敬宗 (唐)新城の人。性輕傲、自ら高うして人を凌ぐ。孫あり遠といふ。  
キヨケイハン 許景樊 (明)小字は翠娥。元許筠の妹也。幼にして書史に工みに、六

藝に通ず。筆を擧れば文を成す。年二十にして寡居す。才名兄と並び著はる。  
キヨケイリヤウ 許景亮 (宋)許景衡の兄なり。嘗て治説二十篇を上る。報せず。遂に歸隱す。

キヨゲツケイ 許月卿 (宋)婺源の人。父大寧、學行あり。月卿登第して權貴を攻撃し少しも顧忌する所無し。數ば上書して丁買の奸邪を斥く。出で江西の漕を佐く。宋亡ぶ。三年言はず亦狂を病めるか如し。卒す。年七十。謝疊山嘗て其の門に書して曰く、要知今日謝枋得、便是當年許月卿と。

キヨケン 許儉 (宋)字は幼度、開清の人。朱文公の門人なり。儉私財を盡はず私器を置かず、孝友の二字を題して以て其室に屬す。  
キヨケン 許謙 (元)字は益之。其先は京兆の人。少くして金履祥に師事す。至元三年卒す。年六十八。世に白雲先生と稱す。諡して文懿といふ。理一分殊の學を以て、心と爲せり。

キヨケン 許慶 (漢)劭の兄。字は子政。謝子微、慶が兄弟を見、嘆つて曰く、平輿の淵、二龍あり。子政の若きは幹國の器有り。正色忠書は則ち陳仲舉の匹、惡を伐て不肯を退くるは范滂傳の風と。  
キヨケン 許元 (明)許存仁を見よ。  
キヨケンキ 魚玄機 (唐)字幼微。才思ありて善く文を屬す。咸通中補闕李德の爲に笑稱を執る。愛衰ふるよ及びて咸宜觀に入

て女道士と爲る。後、女直録を答殺せるの事を以て獄に下さる。獄中詩を作る。後、京兆温璋の爲に殺さる。集あり世に行はる。

キヨゲンタンノツマ 許元忱妻 (明)胡氏。元忱、徐視師の養子と爲り巫祝を習ふ。胡氏之を諫む。從はず。元忱、死す。胡氏許氏の廬に殯し其傍に苦臥し夜は一刀を擲して臥し、以て許氏の族を求む。後遂に夫弟の外に流移する者を求めて之を復す。許氏賴て復た起るを得たり。

キヨコ 許古 (金)字は道真。許安仁の子。明昌五年同賦進士に登す。諸官を歴。哀宗の位に即くや俄に左司諫に遷る。正大七年、卒す。年七十四。生平直諫を以て稱せられ、亦好んで詩、書を爲る。然れども性素と酒を嗜み上大夫の重んずる所とならず。

キヨコウ 巨構 (金)字は子成。蔚州平谷の人。幼にして篤學、二十にして登第す。大定二十五年南京副留守に除せらる。車宗位に即くや横海軍節度使に擢てられ、承安五年致仕して卒す。人となり廉慎法を守り、外淳質にして内明悟、寬厚寡言にして世に推重せらる。

キヨコク 許國 (明)字は維楨。歙縣の人。嘉靖四十四年の進士。庶吉士より檢討に歴す。神宗の時、太子太傅に歴す。五たび疏して休を乞うて歸る。關に在ること九年。廉慎自ら守り、舉朝一指を染むる能はず。卒す。太保を贈り、文穆と諡す。

キヨコン 許渾 (唐)字仲晦。丹陽の人。

進士に擧げらる。太尉を授く。監察御史に遷り、二州刺史を歴す。賦する所の詩、丁卯集と號す。

キヨサン 許讚 (明)字は廷美。進の第三子。弘治九年の進士。大名推官を授く。性、清介權貴を避けず。官、文淵閣太學士に至る。年七十を踰えて休を乞ふ。帝其君を忘れ身を愛し、落職閉住するを責む。歸る。三年にして卒す。太子少師を贈り、文簡と諡す。

キヨシ 許孜 (晉)字は季義。東陽の人。孝友恭儉、敏にして學を好む。二親没す。哀毀骨立、躬ら土を負ひて墳を爲る。時に鹿あり其の上の松を犯す。孜悲嘆して曰く、鹿獨り我を念はざるかと。明日鹿猛獸の殺す所となり松下に横はる。郡孝廉に擧げ、其の居を號して孝順里となす。

キヨシ 許氏 (宋)許虞部の女也。學を好み詩を能くす。方勉の妻と爲る。勉、文士と市に飲み夜樂を犯して囚へらる。許氏詩を二尹に投ず。鄭毅夫詩を見て大に喜び遂に之を釋す。

キヨジ 許恣 (漢)字は仁德。南陽の人。鄭氏學に善し。易尙書三禮毛詩論語を治む。又胡潛なるものあり、學沾治せずと雖も然とも卓犖強識なり。恣、潛並に博士となる。

キヨジウジツ 許從實 (五代)初め萬子の將となり、會に居り。遂に萬子を殺し、自ら延州刺史と稱す。後、梁師に亡さる。

ギヨシウジエン 魚周詢 (宋)雍邱の人。幼にして孤なり。素と學を好む。進士の第に擧げられ、右諫議大夫權御史中丞に累官して建白する所頗る多し。仁宗其敏を嘉して安州の知となす。時に圍吏、大蛇の圍欄に垂る、を見、附いて之を視れば乃ち周詢の醉て假寐するなり、世其異を傳ふ。

ギヨシケン 魚思賢 (唐)開元の初 邱令に任ぜられ、渠を通じ陂を築きて、地二百餘頃を得。百姓之を利とし、其陂を號して魚君陂といふ。

キヨシコ 巨師古 (宋)高祖の時、統制官たり。戚太を討つて、三たび戦ひ三たび勝つ。

キヨシジウ 許士柔 (明)字は仲嘉。常熟の人。天啓二年の進士。庶吉士より檢討に擢つ。崇禎中、左庶子掌左春坊事に歴遷す。事に坐して尙書司に貶せられ、尋て少卿に遷る。卒す。後其官を復し詹事兼侍讀學士を贈る。子あり琪といふ。

キヨシソウ 許嗣宗 (唐)義興の人。義興大守となる。醫に精し。或ひと其の書を著はして後世に貽さむことを勸む。嗣宗答へて曰く、醫は意なり、吾が意解する所、能く宣ふる莫し。

キヨシタツ 許仕達 (明)歙人。正統十年の進士。御史に擢つ。景泰の初官を上る。帝深く之を納る。福建左參政に拜す。天順中、山東貴州左右布政使に歴し、官に卒す。キヨシフ 許樸 (元)字は公度。太原忻州

の人。世祖の時勳農副使に擢んづ。京兆の西、荒野に屯田を置く。三年の後、其利を獲。縣民歲饑に因り寇を爲す。楫、單騎賊巢に趨り説諭す。賊兵を投して降る。官東平路總管に至る。

キヨシ 許慎 (漢) 邵陵人。字は重叔。性敦篤、少うして博く經籍を學ぶ。馬融常に推して之を敬ぶ。時人の語に曰く、五經無雙許叔重と。慎、素と五經傳説の臧否同じからざるを慨せり。晚年五經異議を爲り、又説文解辭十四篇を作る。獻帝の時、孝廉に擧げらる。

キヨシ 許慎 (唐) 資性放曠にして小節に拘はらず。親友と宴を花園の中に結ぶ。未だ嘗て帳を張らず、坐を設くる紙だ僅儀をして落花を聚り坐下に鋪かしむるのみ。曰、吾に花相ありと。

キヨシ 許申 (宋) 字は繼之。潮陽の人。咸平中、陳堯佐、潮州に通知たり。申、布衣を以て之に見え、與に語りて之を奇とす。爲る所の文を觀るに及び、益々器重を加ふ。祥符の初、賢良に擧げらる。天子東に封す。賦頌を獻する者數百人。召試三人、申、與かる。學士院其文を檢し申を擢んで、第一となす。將仕郎秘書省校書郎を授く、蓋し特賜也。出て相州鄆縣に知たり。鄆州に知たり。更に吉慶二州に遷る。廣西提點刑獄を歴、江西河南路轉運使に轉じ、終に刑部郎中たり。嘗て災異に因て事を言ふ、時弊を直誥して遽然直臣の風あり。人となり姿

宇軒特、識見通敏。讀書一たび目を經れば終身忘れず。文亦一世の雄たり。子因、仕へて太子中舍に至る。孫三人、聞誨、南尉寺丞たり、聞義、國子監博士たり、聞一、皇祐進士に登る。曾孫珪、太宗の曾孫女德安縣主を娶り左班殿直を授けられ、元進士に登る。五世の孫居安、元符進士に登る。珪の子仲禮、仕へて武節郎に至る。入世孫、紹熙進士に登る。嘗て弟宜も進士に登る。申よりして以下仕ふるもの總べて文武四十有一人なり。

キヨシ 許進 (明) 字は季升。靈寶の人。成化二年の進士。御史に除し、甘肅山東を歴按す。皆聲譽あり。其間盜を捕へ、寇を伐ち、狂を伸べ、冤を自し、民の心を待。後致仕し、尋て卒す。年七十有四。嘉靖五年葬穀と諡す。諡讀詩詞論の五子あり。

キヨシ 許紳 (明) 京師の人。嘉靖の初め、太醫院使に累遷す。宮中道を謀り帝を縋り、帝の氣已に絶す。紳急に藥を進む。忽ち聲を作す。乃ち禁血數升を去り史に數劑を投じて漸く愈ゆ。功を以て太子太保禮部尚書に拜し、賜賚甚厚し。卒す諡して恭信と賜ふ。

キヨシ 許進 (明) 金陵の人。善く人物を鑑く。キヨシノツマ 許仲妻 (明) 蕪氏。蘭溪人。夫家貧にして通州に卒す。蕪晝夜跪哭す。成人之に食及び金を饋る。受けず。水漿口に入らざる者十四日、竟に尸傍に死す。年

二十。州人爲に棺を買ひて合葬す。キヨシヤウ 許將 (宋) 字は冲元。閩縣の人。進士第一に擧げらる。歐陽修其の文を讀て曰く、王沂公の流なりと。章惇、蔡卞等、元祐黨を求め漢唐の故事を擧げて大に誅戮を行はむと欲す。將諫めて曰く、本朝の治道遠く漢唐に過ぐる者は、未だ嘗て大臣を殺戮せざるの故なりと。惇卞又司馬光の墓を發かむと欲す。將又諫めて之を止む。卒して文定と諡す。子あり份といふ。

キヨシヤウケイ 許相卿 (明) 字は伯台。海寧の人。正徳十二年の進士。嘉靖中、兵科給事中を授けらる。疏諫する所あり。皆聽れず。病を謝し還る。夏言は故同僚たり。既に政を棄り、之を招けども謝して應ぜず。

キヨシヤウケイ 許相卿 (唐) 字は延基。句容人。詩禮に達し。貞觀中晉王府參軍に遷り私文館學士に拜せらる。詩書數十篇を獻す。太子高して司經に付す。高智周之を見て曰く、經を明にせむと欲する者宜しく先づ之を讀むべしと。

キヨシヤウケイ 許相卿 (宋) 眞州の人。志經史に篤く、尤も醫に達し。建炎の初大疫あり。叔徽親ら里巷を行り、之が爲に診療して、活かす所甚だ衆し。キヨシヤウ 許俊 (唐) 少うして才氣を以て自ら雄たり。韓翃が妾柳氏あり、番將沙

叱利の取る所となる。胡情に勝る能はず。一日後羽相會して酒樓に飲む。後、羽を見るに神色沮喪す。乃ち劍を抜し起つて曰く、必ず故ありむ、願はくば、たび用を効さむと。羽具さに以て告ぐ。後曰く、是の何の難きことあらむ、請ふ足下の數字を得ば當に立ところに之を致すべしと。乃ち胡縵を衣、雙鞭を佩び、一騎を從へて徑ちに沙叱利の宅に這る。會ま沙出獵す。其の門を出る里余なるを候ひ、圍を排し急に趨つて呼て曰く、將軍病に罹り、夫人を召さしむと。僕侍數百致して仰ぎ觀るもの莫し。後乃ち羽の札を出して柳氏に示し、之を挾み馬に跨り、候忽として至り、裾を引て前みて曰く、幸にして命を辱めずと。四座大に驚く。後侯希逸、其の狀を上る。上其の雄邁を壯とし飲して錢二百萬を賜ふ。

キヨシユン 許詢 (晋) 字は元度。山水に遊ぶを好み、而かも休、登陟し便なり。時人云ふ、詢徒だ勝景を有するに非ず、實に濟勝の具有りと。

キヨシユン 許遵 (南北) 字は雍丘。高陽の人。易に明かに筮を善くす。兼て天文風角占相も通曉す其の驗神のことし。齊の神武引て館客となす。自ら謀と命を言ふ、富貴ならず、横死せずと。是を以て性に任せて疏誕、犯す所多し。神武帝に之を容惜す。

キヨシユン 許惇 (南北) 高陽の人。東魏に仕へて司徒主簿となる。明敏果決、鉄主簿と號す。後尙書に遷り、朝に立て威望あり。

キヨシユン 許惇 (南北) 高陽の人。東魏に仕へて司徒主簿となる。明敏果決、鉄主簿と號す。後尙書に遷り、朝に立て威望あり。

り。美髯髯に垂る。省中長髯公と號す。キヨシヨウ 苜蓿 (漢) 蔡氏命。キヨシヨウ 許升 (宋) 字は順之。同安の人。朱熹の同安簿となるや、從遊最も早し。恬淡寡慾にして切問す。近思語録に其の問答の語を載する者多しとなす。朱任を去るや復た從つて建陽に遊び、其の學益々進む。卒するに及び朱深く之を惜み、文を爲り以て祭る。今文公の祠に配饗す。

キヨシヨク 許稷 (唐) 字は君苗。莆田の人。少うして關に入る。陳舍人諒等の會酒するに遇ふ。稷の語を輕んずる者あり。稷杯を投じ憤懣して終南山に入り、而して隱れて學ぶ。三年。出て、府薦に就き、遂に擢てらる。貞元中進士となる。歌詩に工なり。嘗て江南春三首を爲る、其の詞綺麗なり。後南相省員外郎を歴て、衡州刺史に終る。

キヨシノゾヨ 許初女 (明) 人に嫁す。其夫、飲博して生を治めず。諸博徒、夫に謂て曰く、汝が婦少艾、我に許さば錢を得べしと。夫以て婦に諭す。婦之を叱す。因て鑊釜を加ふ。則ち刀を抜き頭を刎て地に仆る。

キヨシラン 許思溫 (明) 字は叔雍。吳人。國子生より刑部主事に署し、北平按察副使に累官す。成祖の時、刑部侍郎に累擢せらる。高煦の語を蒙り、獲死す。仁宗即位の初、吏部尙書を贈る。

キヨス井 許遂 (宋) 字は伯通。宣城の人。

夙に父を喪ひ、母に事へて孝を以て聞ゆ。里人自ら其の子を勸ますに輒ち曰く、汝獨り許伯通に慚ぢずやと。弟遂、子諱。

キヨセイ 蓮政 (漢) 順帝の時、中常侍となる。永和三年、張達等と謀り、曹騰等を擯排せんとし、事覺はれ反て殺さる。キヨセウ 許劭 (漢) 字は子將。平輿の人。少くして名節を稱き、郷黨の人物を駁論するを好み、毎月輒ち品題を更ふ。故に汝南の俗、月且評あること劭に初まる。樊子昭を市肆に拔き、虞承賜を客舎に出し、李叔才を無聞に召し、郭子瑜を小吏に擢んづ。後郡の功曹となる。太守除豫基た之を敬す。府中劭の吏となりしを聞き敢て飭行を操らざるもの莫し。司空楊彪方正敦樸に擧ぐ。徵せざむと就かず。兄を慶といふ。

キヨセウ 許紹 (唐) 安陸人。兄たりし時高祖と同じく學ぶ。隋末、夷陵邊守に任せられ、詔を矯めて會を開き、流民數十萬を活す。王世充位を篡ふに及び、三都を以て唐に歸す。譙國公に封せらる。

キヨセウクワウ 許昭光 (南北) 義興の人。叔父肇之、事を生じて獄に繋る。七年判せず。子姪二十人。昭光の家最も貧し。資産既に盡き宅を賣つて以て之に充つ。肇之が諸子倦怠す、惟だ昭光のみ未だ懈怠せず。是の如きもの七歳。尙書沈演之其の操行を嘉みし、肇之の事此に因て釋くるを得たり。徵して征虜參軍となす、親の老を以て固辞す。

キヨセイ 許劭 (漢) 字は子將。平輿の人。少くして名節を稱き、郷黨の人物を駁論するを好み、毎月輒ち品題を更ふ。故に汝南の俗、月且評あること劭に初まる。樊子昭を市肆に拔き、虞承賜を客舎に出し、李叔才を無聞に召し、郭子瑜を小吏に擢んづ。後郡の功曹となる。太守除豫基た之を敬す。府中劭の吏となりしを聞き敢て飭行を操らざるもの莫し。司空楊彪方正敦樸に擧ぐ。徵せざむと就かず。兄を慶といふ。

の人。世祖の時勳農副使に擢んづ。京兆の西、荒野に屯田を置く。三年の後、其利を獲。縣民歲饑に因り寇を爲す。楫、單騎賊巢に趨り説諭す。賊兵を投して降る。官東平路總管に至る。

キヨシシ 許慎 (漢) 邵陵人。字は重叔。性敦篤、少うして博く經籍を學ぶ。馬融常に推して之を敬ふ。時人の語に曰く、五經無雙許叔重と。慎、素と五經傳説の臧否同じからざるを慨せり。晩年五經異議を爲り、又説文解辭十四篇を作る。獻帝の時、孝廉に擧げらる。

キヨシシ 許慎 (唐) 資性放曠にして小節に拘はらず。親友と宴を花園の中に結ぶ。未だ嘗て帳を張らず、坐を設くる紙だ僅儀をして落花を聚め坐下に鋪かしむるのみ。曰、吾に花裙ありと。

キヨシシ 許申 (宋) 字は繼之。潮陽の人。咸平中、陳曉佐、潮州に遷りたり。申、布衣を以て之に見え、與に語りて之を奇とす。爲る所の文を觀るに及び、益々器重を加ふ。祥符の初、賢真に擧げらる。天子東に封す、賦頌を獻する者數百人。召試三人、申、與かる。學士院其文を檢し申を擢んで、第一となす。將仕郎秘書省校書郎を授く、蓋し特賜也。出で相州縣に知たり。相州に知たり。更に吉慶二州に遷る。廣西提點刑獄を歴、江西河南路轉運使に轉じ、終に刑部郎中たり。嘗て災異に因て事を言ふ、時弊を直詆して凜然直臣の風あり。人となり姿

字軒特、識見通敏。讀書一たび目を經れば終身忘れず。文亦一世の雄たり。子因、仕へて太子中舍に至る。孫三人、聞誨、南尉寺丞たり、聞義、國子監博士たり、聞一、皇祐進士に登る。曾孫珪、太宗の曾孫文德安縣主を娶り左班殿直を授けられ、元進士に登る。五世の孫居安、元符進士に登る。珪の子仲禮、仕へて武節郎に至る。八世孫審、紹熙進士に登る。審の弟宣も亦進士に登る。申よりして以下仕ふるもの總べて文武四十有一人なり。

キヨシシ 許進 (明) 字は季升。靈寶の人。成化二年の進士。御史に除し、甘肅山東を歴按す。皆聲譽あり。其間盜を捕へ、寇を伐ち、狂を伸べ、冤を自し、民の心を待。後致仕し、尋て卒す。年七十有四。嘉靖五年襄毅と諡す。詩讀詩詞論の五子あり。

キヨシシ 許紳 (明) 京師の人。嘉靖の初め、太醫院使に累遷す。宮中逆を謀り帝を縊り、帝の氣已絶す。紳急に藥を進む。忽ち聲を作す。乃ち紫血數升を去り史に數劑を投じて漸く愈ゆ。功を以て太子太保禮部尚書に拜し、賜寶甚厚し。卒す諡して恭信と賜ふ。

キヨシシ 許進 (明) 金陵の人。善く人物を蓄く。

キヨシシ ツマ 許伸妻 (明) 蕪氏。蘭溪人。夫家貧にして通州に卒す。蕪晝夜跪哭す。成人之に食及び金を饋る。受けず。水漿口に入らざる者十四日、竟に尸傍に死す。年

二十。州人爲に棺を買ひて合葬す。

キヨシヤウ 許將 (宋) 字は冲元。國縣の人。進士第一に擧げらる。歐陽修其の文を讀て曰く、王沂公の流なりと。章惇、蔡卞等、元祐黨を求め漢唐の故事を擧げて大に誅戮を行はむと欲す。將諫めて曰く、本朝の治道遠く漢唐に過ぐる者は、未だ嘗て大臣を殺戮せざるの故なりと。惇下又司馬光の墓を發かむと欲す。將又諫めて之を止む。卒して文定と諡す。子あり份といふ。

キヨシヤウケイ 許相卿 (明) 字は伯台。海寧の人。正徳十二年の進士。嘉靖中、兵科給事中を授けらる。疏諫する所あり。皆聽れず。病を謝し還る。夏言は故同僚たり。既に政を乘り、之を招けども謝して應ぜず。キヨシヤウケイ 許叔牙 (唐) 字は延基。句容人。詩禮に達し。貞觀中管王府參軍に遷り私文館學士に拜せらる。詩書數十篇を獻す。太子高して司經に付す。高祖周之を見て曰く、經を明にせむと欲する者宜しく先づ之を讀むべしと。

キヨシヤクビ 許叔微 (宋) 鳳州の人。志經史に篤く、尤も國に達し。建炎の初大疫あり。叔微親ら里巷を行り、之が爲に診療して、活かす所甚だ衆し。

キヨシヤン 許俊 (唐) 少うして才氣を以て自ら雄たり。韓琦が妾柳氏あり、番將沙

叱利の取る所となる。朗情に勝る能はず。一日後翊相會して酒樓に飲む。後、翊を見るに神色沮喪す。乃ち劍を抜し起つて曰く、必ず敢あらむ、願はくば、たび用を効さむと。翊具さに以て告ぐ。後曰く、是何の難きことあらむ、請ふ足下の數字を得ば當に立ところに之を致すべしと。乃ち胡綬を衣、雙龍を佩び、一騎を從へて徑ちに沙叱利の宅に造る。會ま沙出獵す。其の門を出る里余なるを候ひ、圍を排し急に趨つて呼て曰く、將軍病に罹り、夫人を召さしむと。僕待數百敢て仰ぎ視るもの莫し。後乃ち翊の札を出して柳氏に示し、之を挾み馬に跨り、快忽として至り、翊を引て前みて曰く、幸にして命を尋めずと。四座大に驚く。後侯希逸、其の狀を上る。上其の雄邁を壯とし欽して錢二百萬を賜ふ。

キヨジュン 許詢 (晉) 字は元度。山水に遊ぶを好み、而かも体、登陟し便なり。時人云ふ、詢徒だ勝景を有するに非ず、實に濟勝の具有りと。

キヨジュン 許遜 (南北) 字は雍丘。高陽の人。易に明かに筮を善くす。兼て天文風角占相し通曉す其の驗神のごとし。齊の神武引て節客となす。自ら祿と命を言ふ、富貴ならず、横死せずと。是を以て性に任せて疏誕、犯す所多し。神武帝に之を容惜す。キヨジュン 許惇 (南北) 高陽の人。東魏に仕へて司徒主簿となる。明敏果決、鉄主簿と號す。後尙書に遷り、朝に立て威望あ

り。美髯帯に垂る。省中長壽公と號す。キヨシヨウ 葛誦 (漢) 魏氏令。キヨシヨウ 許升 (宋) 字は順之。同安の人。朱熹の同安藩となるや、從遊最も早し。恬淡寡慾にして切問す。近思語錄に其の問答の語を載する者多しとなす。朱任を去るや復た從つて建陽に遊び、其の學益々進む。卒するに及び朱深く之を惜み、文を爲り以て祭る。今文公の祠に配饗す。

キヨシヨク 許稷 (唐) 字は君苗。莆田の人。少うして關に入る。陳舍人誦等の會酒するに遇ふ。稷の語を輕んずる者あり。稷杯を投じ憤懣して終南山に入り、而して隱れて學ぶこと三年。出で、府薦に就き、遂に擢てらる。貞元中進士となる。歌詩に工なり。嘗て江南春三首を爲る、其の詞綺麗なり。後南相書員外郎を歴て、衡州刺史に終る。

キヨシノゾヨ 許初女 (明) 人に嫁す。其夫、飲博して生を治めず。諸博徒、夫に謂て曰く、汝が婦少艾、我に許さば錢を得べしと。夫以て婦に噓す。婦之を叱す。因て簪鏡を加ふ。則ち刀を抜き頭を刎て地に仆る。

キヨシヤン 許思溫 (明) 字は叔雍。吳人。國子生より刑部主事に遷し、北平按察副使に累官す。成祖の時、刑部侍郎に累擢せらる。高煦の語を蒙り、瘦死す。仁宗即位の初、吏部尙書を贈る。

キヨス井 許遂 (宋) 字は伯通。宣城の人。

風に父を喪ひ、母に事へて孝を以て聞ゆ。里人自ら其の子を勸ますに輒ち曰く、汝獨り許伯通に慚ぢずやと。弟遂、子俞。

キヨセイ 蓮政 (漢) 順帝の時、中常侍となる。永和三年、張遂等と謀り、曹騰等を擠排せんとし、事覺はれ反て殺さる。

キヨセウ 許劭 (漢) 字は子將。平輿の人。少くして名節を稱き、郷黨の人物を駁論するを好み、毎月輒ち品題を更ふ。故に汝南の俗、月且評あること劭に初まる。樊子昭を市肆に拔き、虞承賜を客舎に出し、李叔才を無聞に召し、郭子瑜を小吏に擢んづ。後郡の功曹となる。太守除豫甚だ之を敬す。府中劭の吏となりしを聞か敢て飭行を操らざるもの莫し。司空楊彪方正敦樸に擧ぐ。徴せども就かず。兄を慶といふ。

キヨセウ 許紹 (唐) 安陸人。兄たりし時高祖と同じく學ぶ。隋末、夷陵通守に任せられ、詔を矯めて會を開き、流民數十萬を活す。王世充位を篡ふに及び、三都を以て唐に歸す。譚國公に封せらる。

キヨセウクワウ 許昭光 (南北) 義興の人。叔父肇之、事を生じて獄に繋がる。七年判せず。子姪二十人。昭光の家最も貧し。資産既に盡き宅を賣つて以て之に充つ。肇之が諸子倦怠す、惟だ昭光のみ未だ懈怠せず。是の如きもの七歳。尙書沈演之其の操行を嘉みし、肇之の事此に因て釋くるを得たり。徴して征虜參軍となす、親の老を以て固辞す。

キヨセツ 居節 (明)字は士氣。文獻中の高弟なり。山水は梅道人の筆意を得。キヨセツノツマ 許劍妻 (明)潘氏。海寧人。子准を生む。期年にして劍死す。潘自經す。老嫗あり薬を投ず。更に勉む。族兄懐を以て誣ひ家僕數十人を率ゐて門を推して入る。潘垣を踰りて逸す。追者追る。潘河に投じ、浮木に憑りて渡り母家に達し遂に止る。准年十九諸生に補せらる。婦を娶り五子を生む。宗人聚り罵す。族兄亦至る。潘北向拜して曰く未亡人三十年來死に顔する者數たび、獨准の故を以て強生す、今幸に成立して子多し復何ぞ憾みむと。語畢り室中に縊死す。

キヨゼンシ 許善心 (隋)字は務本。新城の人。性聰明、博學多聞。家に萬卷の書あり、獨く覽ざる無し。時稱して神童とす。仕へて禮部侍郎に至る。父亨梁史を撰著し未だ就らずして卒す。善心述べて父の志を成す。子は即ち敬宗。

キヨセンハイ 許宣平 (唐)歙縣の人。景隆中、城陽山南嶺に遊び、粒を絶てて食はず。顔四十許の如し。行くに奔馬に及ぶ。時に靴を買ひ市に賣る。嘗て獨り吟じて曰く、負薪朝出賣、沽酒日四歸、借問歸何處、穿雲入翠微と。李白、山に入て之を尋ねれども見えず、乃ち其の庵に題して歸る。是の庵冬火の焚く所となり遂に見えず。後百余年咸通七年に至り探樵者あり、之を南山の石上に見たりと。

ギヨソウゲン 許宗彦 (清)字は積卿。又周生と字す。浙江德清の人。嘉慶己未進士となり、兵部主事を授けらる。性孝友、其の親を離るゝに忍びず。政を觀ること兩月、即ち假歸す。博學にして親旁せざる所なく、道藏釋典名物象數に及ぶまで、必ず其の奥に到りて後已む。尤も天文に精しく、西洋推歩の秘法を得。著書十餘種、世に行はる。五十一にして卒す。

キヨソウヤウ 許宗揚 (清)性狡捷にして善く戰ふ。咸豐中、亂を作し林鳳祥に應ず。曾て曹縣に踞し、官軍に逐はれ、黃河に赴き死す。

キヨソクツ 許則祖 (元)字は則天。樂平の人。至正間、亂兵四に起る。則祖轉戰皆捷つ。追擊して賊巢に入る。馬渾泥中に墜ちて死す。

キヨソン 許遜 (晉)字は徽之。南昌の人。吳猛に従つて神方秘法を得、修煉を事となす。太康の初、旌陽令となり大いに濟利を施す。尋で官を棄て東に歸る。諸母に遇ひ傳ふるに道術を以てし、遂に蛇を斬り蛟を誅し、悉く民の害を除く。處預章、游州と名る。蛟蟻穴する所、乃ち牙城の南井に鐵を鑄て柱となし下に八案を施し地脈を鎮鎮す。是より水妖跡を屏め城邑無し。又周く江湖諸郡を行ぐり善事を珍視す。乃ち蕭隱に歸り精修し康壽二年に至る。一百三十歳。キヨソン 許巽 (宋)字は少陽。仙遊の人。乾道中進士に擧げられ、知歸善縣たり。尉

に民を捕へて監と爲す者有り。郡守に賂して必ず賞を得むと欲す。巽諭するに寔に非ず、格して行はず。守強ふる處はす。秘書郎を歴て潯州に知たり、屬吏長服し敢て賂を受けず。提點成都路刑獄に除せらる。固辭して知漳州に除せられむと乞ふ。未だ上らず、召されて行在に赴いて卒す。巽官に居り、至る所廉潔を以て稱せらる。人耐貧先生と号す。

キヨソウジン 許存仁 (明)名は元。字を以て行はる。金華の許謙の子。太祖素より謙の名を聞く。金華に克ち、訪うて存仁を得、大に悦び、國子博士に擢つ。祭酒に進む。後歸を告ぐ。劉丞直曰く、主上方に天に應じ人に順ふ、公宜しく待つべしと。存仁聽かず。果して旨に忤ひ、且つ孔昭、其隱事を劾す。遂に遠はれて獄中に死す。

キヨタウ 許棠 (唐)晩年を以て登第す。曰く、一第を得しより、輕健少年に愈る、乃ち知る一名孤進の選丹たるを。キヨタウ 御刀 (周)梅蟲兒等と時に八要と稱せらる。キヨタクザン 許錫山 (元)工に神佛を畫く。

キヨタン 許端 (明)畫龍に工なり。但し蜿蜒飛動の勢なし。ギヨチウシウ 洪仲修 (宋)元豐元年、宣德郎を以て來りて慶都に尹たり。奸を發し伏を捕し、農を勤め農を課す。人多く之を徳とす。

キヨチゲン 許知言 (宋)閩人。弟知百、知什、知億、俱よ詩書を業とす。母病む、知言兄弟朝夕側を離れず。三年を越えて藥効あらす。知言乃ち齋戒し、天に叫び股を割き烹調して以て母に進む。病遂に愈ゆ。年七十、始めて卒す。知言兄弟、哀毀禮を踰ゆ、俱に香を臂裏に燃し以て冥福に資す。進士許叔度爲に傳刻を職師院に立つ。後知億の子萬錫、其の里を改めて孝順となさむと請ふ。之に従ふ。

キヨチサウ 許智威 (隋)高陽の人。少うして醫術を以て自ら達す。文帝以て員外散騎侍郎となす。揚州に詣る。會々秦王俊、疾あり。上馳せて之を召して曰く、智威至り後の爲に脈を診せよと。曰、疾心に入れり即ち當に瀉を發すべし、救ふ可らざるなりと。後數日、秦王果して其の言の如くにして薨す。文帝其の妙を奇として物百段を褒ふ。

キヨチヨ 許褚 (三國)魏國の人。身長八尺余、腰の大き十圍、勇力人に過ぐ。曹操之を壯として都尉を拜す。從つて袁紹を討つ。振威將軍に累拜す。卒して壯侯と諡す。褚能く牛尾を逆挽す。軍中其の虎の如く、して而も痴なるを以て、號して虎痴といふ。嘗て馬超と大に戰ふ。

キヨチヨク 許直 (明)字は若魯。如皋の人。崇禎七年の進士。文震孟の門に出づ。知縣より考功員外郎に歷遷す。十七年春、李自成の難に殉す。太僕卿を贈り、忠節と

諡す。清の世祖亦忠愍と諡す。キヨツウ 許通 (明)繪事を善くし畫牛は獸畜を亂る可し。晩年自ら心を用ふるの誤りを悔ひ、善類に墮ちんことを恐れ、廻ち専ら佛像を畫く。キヨテイ 許楨 (元)許有王の子。少くして才を負ふ。一門の倡和を集めて圭塘歌乃集を爲る。

キヨテイ 許貞 (清)字は靈臣。海澄の人。康熙の朝、三藩倡亂して東西交々訂す。潭岳撫信の賊中相隔闕する者處州一綫地のみ。貞屯閩に崛起して、其の吭を扼す。賊遂に平ぐ。貞軍を持する嚴正、部下に禁つて掠むる勿らしめ、淫する勿らしめ、降を殺す勿らしめ、良民を驅ふる勿らしめ。專に泣むこと十四年、坐ながら其の間を觀す山海晏然たり。位に卒す。少傳を贈り、郵を賜ふこと例の如し。

キヨテイクワウ 許廷燦 (清)字は子燾。長州の人。康熙庚子舉人となり、武平縣に官す。善政有り。其の時、唐宋の界より嚴かなり、五言律七言絶句尤も工なり。著に竹葉園集あり。キヨテウ 許朝 (明)萬曆間、賊に投じて亂を作す。後誅せらる。

キヨテキ 許遜 (宋)字は景山。祁門の人。遠五世の孫なり。少うして江南に在り、數ば上書して事を言ふ。校書郎に擢てられ遂に侍御史に遷る。李氏の國除かれて宋に入るや、族を以て北に遷り、其の文を獻じ、

召試を得て、汲冢冠氏主簿となる。二歳縣民七百人京師に詣り、以て令と爲すを得んことを願ふ。校書郎知縣事に遷る。數ば書を太宗に上りて北邊の事を論す。時に趙晉相たり、四方の奏疏其の意に可とせざる者、悉く二壘中に投ず。壘滿れば輒ち出して之を焚く。而かも獨り逃を稱して能となす。

キヨテンシヤク 許天錫 (明)字は啓衷。國縣の人。弘治六年の進士。庶吉士と爲る。親を思ひ疾を成し、陳情乞假す。孝宗爲に傳を賜ふ。朝に還り吏科給事中を授けらる。時望あり。會建安の會林火あり。上書して時務を言ふ。報聞す。正德三年六月朔、内庫を清殿し、劉瑾が使臣數十事を得。典上すれば必ず禍に罹るを知り、身後に之を上らしめ、以て尸諫せんとし、乃ち具して自經す。聞者之を哀れむ。

キヨトクジヤクシチクテイゼンウ 去持若尸逐鞮單于 (漢)南匈奴主。名は休利。拔の弟。漢の永和五年左部句龍王吾斯車紐等背叛し三千餘騎を以て漢に寇す。漢、單于を責む。漢中郎將陳龜追て自殺せしむ。立て十三年。

キヨトクフ 許繼溥 (明)許直の族子。崇禎中、南に在り。莊烈帝崩じ、揚州亦陷る。之聞き、毎に獨坐慟哭す。食する毎に必ず崇禎錢一枚を几上に置き、祭つて而して後に食す。食し已り復哭す。又其兩臂を刺し曰く、生ては明臣と爲り、死しては明鬼と



爲らんと。遂に西市に死す。  
キヨトツ 居訥 (宋)高僧。靈氏。神州東川の人。延慶榮に關ぐ。廬山圓通寺に居り。靈門の第四世。祖印禪師の號を賜ふ。訥、一日歐陽修の排佛を挫く。修此より頗る省殺するところあり。熙寧四年二月八日寂す。  
キヨ子イ 許寧 (明)實の子。字は志道。正統末、舍人を以て從軍し、功あり。錦衣千戸に除せらる。父歿後其職を嗣く。弘治中、都指揮使に擢づ。十一年十二月卒す。都督僉事を贈る。

キヨハウ 許實 (明)南直の人。山水を畫く。細石短樹、千巖萬壑、撲奕して成る。大幅は筆氣亦秀勁。萬曆の初め、臨川の馬方州聘して其家に奉る。年僅かに二十許。未だ幾ならずして歸る。遂に卒す。

キヨハク 許博 (宋)字は公執。  
キヨハクギヨク 蓬伯玉 (周)名は瓊。字を以て行はる。衛人。年五十に至りて四十九年の非を知る。衛靈公嘗て夫人南子と夜坐す。車聲闐々聞に至りて止るを聞く。夫人曰く、此れ伯玉なり。公曰く、何を以て之を知る。曰く、君子は冥々を以て行を墮さず、伯玉は賢大夫なり。是を以て之を知る。

キヨハクメイ 許伯明 (明)時庸と同縣の人。同時に召さる。善く花鳥竹石の類を寫す。  
キヨヒン 許彬 (明)字は道中。寧陽の人。永樂十三年の進士。庶吉士より檢討に擢てらる。天順中、禮部左侍郎兼翰林院學士に

星遷す。石亭に忌まれ、陝西參政に貶せらる。乃ち休を乞ひ去る。憲宗立ち、侍郎に起つ。致仕して卒す。  
キヨブ 許武 (漢)字は季長。陽羨の人。太守第五倫、孝廉に擧ぐ。武其二弟晏、曾未だ顯はれざるを以て名を成さしめむと欲す。乃ち財産を割きて三となし、自ら肥田廣宅を取る。一弟得る所悉く劣る。郷人皆弟の克く讓れるを稱して武の貪婪を鄙しむ。晏每選舉を得。武乃ち宗親を會し、泣いて産を分ち讓りを取りし所以を言ひ、悉く財産を二弟に推す。於是郡中翕然として之を稱す。仕へて長樂少府に至る。孫荆。キヨブ 巨武 (漢)後漢の人。荊州刺史なる。

キヨブンウツ 許文蔚 (宋)字は衡甫。林寧の人。幼にして貧しく、苦學せり。嘗て朱熹呂祖謙に從つて遊ぶ。紹興庚戌を以て舍に上り第に擢んでらる。州に教授たり。又南陵の丞となる。著作郎に累遷し、家に卒す。

キヨブンキ 許文岐 (明)字は我西。仁和の人。祖子直は貴州を巡撫し、右倉部御史たり。父聯福は廣西左參政たり。文岐崇禎七年の進士。南京職方郎中を歴す。賊大に江北を擾る。尙書范景文を佐けて戎備を治む。景文甚だ之に倚る。黃州知府に遷さる。賊の前鋒一隻虎を射殺し、大驚を奪うて還る。獄に重囚七人あり、歸省を縱し、期を越して獄に就かしむ。皆約の如く至る。乃

ち上官に請うて之を貸す。十三年下江防道副使に遷り、蘄州に駐まる。十六年兵大に至る。文岐敵を發して賊を斃す甚だ衆し。夜半ならんとす。雪尺に盈つ。賊西門を破りて入る。雪甚しく敵發するを得ず。遂に執へらる。張獻忠其名を聞て殺さず、之を後營に繋ぐ。時に華人奚鼎鉉等數十人同じく繋る。文岐密に同心協力、賊を斃さんとし、四月を期して事を起さん欲し、柳圍を以て信と爲す。謀洩る。獻忠之を索む。果して柳圍を得たり。文岐を縛して斬る。死に臨み人に語て曰く、吾死せざりし所以のものは、賊を滅さんと志すのみ、今事成らざるは天なりと。笑を含んで死す。太僕卿を贈らる。

キヨフエン 許學遠 (明)字は孟中。德清の人。嘉靖末の進士。北部尙書に調せらる。尋て疾を以て去る。居ること數年、兵部右侍郎に遷る。半道論を被り休を乞ふ。數年にして家に卒す。南京工部尙書を贈る。恭簡を贈る。

キヨボウ 許懋 (南北)字は昭哲。國子博士たり。號して經史翁となす。  
キヨボウ 許懋 (宋)字は敏修。仙遊の人。慶曆の間、進士に登り、元豊中兩浙運轉副使となる。衛民私鹽に坐し久しく繋がれて決せず。懋至るや、爲に其の冤を明かにし悉く之を出す。民恩に感じ就て佛に詣て手づから僧に飯して齋を祝す。時に甘露州に降る。人謂へらく德政の感ずる所と。甘

らる。罪を得て籍を削らる。福王の時、光祿卿に起す。赴かず。國變の後、薙髮して僧と爲る。  
キヨラン 巨覽 (漢)順帝の時、梁商郡に椽吏たり。李固と名を齊しうす。  
キヨレキ 許歴 (周)趙人。趙奢の軍士たり。趙奢の閑與を救ふや、邯鄲を去ること三十里にして止り、軍中に令して曰く、軍事を以て諫むる者あらば死すと。歴軍事を以て諫めんと請ふ。曰く、衆人、趙の師の此に至るを意はず、其の來るや盛なり、將軍必ず厚く其の陣を率め以て之を待て、然らずんば必ず敗れむと。趙奢曰く、請ふ令を受けむと。許歴曰く、請ふ飲食の誅に就かむ。趙奢曰く、後令を待てと。許歴復た諫めて曰く、先づ北山の上に登る者は勝たんと。趙奢許諾す。即ち萬人を殺して之に趨かしめ、大に衆の軍を破り、閑與の圍を解いて歸る。趙の惠王歴を以て國尉となす。  
キヨロケンキヨゼンウ 虛閭權渠渠子 (漢)匈奴の主。靈術超單子の弟。漢の神爵二年に死す。

キヨロン 許論 (明)字は廷驥。進の少子。嘉靖五年の進士。順德推官を授けらる。兵を諫するを好む。幼にして父に従ひ邊境を歴、盡く阨塞險易を知る。因つて九邊圖論を著はし之を上る。帝之を嘉す。年七十二にして卒す。後穆襄と諡す。  
キヨワン 許完 (周)魏王將に中天台を起さむとす。令して曰く、敢て諫むる者は死

露頭を作る。左司郎に遷り直秘書閣に除せられ福州に知たり。  
キヨボク 許穆 (晉)許邁の子。華陽洞に入り道術を學ぶ。  
キヨマイ 許邁 (晉)字は叔元。句容の人。恬靜にして仕進を慕はず、精舍を餘杭縣の霽山に立て、家に遷りて父母を定省するのみ。父母既に終るに及び、遂に名山を彌遊す。時に南海の太守鮑融跡を隱し、人之を知る無し。邁往きて候ひ、其の至要を探る。後臨安の四山に入る。王羲之これに遭り、數日を彌り歸るを忘る。相與に世外の交をなす。邁殺を辭げ、氣を服す、一氣千里。後蘆竹山に入り地仙となる。子あり穆さいふ。

キヨマイノツマ 許邁妻 (晉)孫氏。江西の人。邁四山に入て道を修む。孫氏亦眞を修めて羽化す。  
キヨマウフ 魚猛威 (唐)咸通中、桂陽刺史たり。靈渠を修し石を以て鐸隄を爲る。延亘四十里、大木を植う。斗門を爲ると十八重。舟楫乃ち通ず。大に民利と爲る。  
キヨマン 許漫 (漢)平輿の人。祖父峻、卜占の術を善くし、多く顯驗有り。漫少うして峻の學を傳ふ。隴西の太守馮統始て郡に拜せらる、や、緩衝を開けば兩赤蛇あり南北に分れて走れり。漫漫をして之を試みしむ。卦象を成す。漫曰く、三歳の後君當に邊大將軍たるべしと。果して占の如し。其餘多く此に類すといふ。

キヨユ 許由 (上古)堯天下を以て許由に讓つて曰く、日月出て、燭火未だ息まず、其の光に於ける亦た難からずや、時雨降りて猶ほ浸灌す、其の澤に於ける亦た勞せずや、夫子立ちて天下治まらば、我猶ほ尸のごとし、請ふ天下を致さむと。由以て巢父に告ぐ。父曰く、何ぞ汝が影を隱し汝が光を蔽さざる、高麗窮谷に居らば誰か能く子を見むや、子世間に浮游して名譽を取る、吾が友に非るなりと。由慨然たり。乃ち往て答て曰く、子天下を治め天下已に治る、而も我猶ほ代らむや、鷓鴣深林に巢ふ、枝に過ぎず、颶風河に飲む滿腹に過ぎず、歸休せむか、天下の爲に用ふる所無しと。後箕山に隱れ手を以て水を掬す。人あり一瓢を遺る。飲み畢つて樹に挂く。風吹けば塵落として聲あり。以て煩はしとなして之を去る。  
キヨユ 許翕 (宋)邇の從父弟なり。母を喪ひ父に事へ、孝を以て聞ゆ。父年八十、翕に謂て曰く、汝の登科を見て吾没しなば憾み無しと。大中祥符五年登第して溥陽の從事を授けらる。未だ幾ばくもならずして父卒す。哀毀幾と性を滅す。毎に父が遊歴せる處を經れば必ず涕泣して日を竟ふ。服闋つて揚州從事を授けらる。  
キヨヨウ 魚容 (南北)梁人。性修飾を好む。

キヨヨケイ 許譽期 (明)字は公實。華亭の人。萬曆四十四年の進士。推官たり。天啓崇禎の間、御史より工部都給事中に擢て

す。館乃ち入て曰く、聞く大王將に中天台を起さんとすと、臣願はくば一力を加へむ。王曰く何如。曰く、臣聞く天地相去ること万五千里、今日因て之を半ばするも高さ七千五百里の台なるべし、是れ其の趾須からく八百里なるべし、王の城を盡すも以て台となすに足らず、王必ず此の台を起さむと欲せば、先づ諸侯を伐て盡く其の地を有し、尙ほ足らずんば又た四夷を伐ち、乃ち以て台を爲るに足らむと。魏王許の以て答ふるなし。乃ち罷む。

キヨキ 許園 (周)楚人。本許の大夫。曾て靈王と快からず。成然等と亂を爲す。

キヨキ 許維家 (清)字は蒼鳳。太康の人。事を以て旗下に隸たり。康既已卯即ち旗籍を以て幸康に擧げらる。官知縣に至る。其の詩文書畫俱に皆風雅なり。

キヨキ 許維誠 (元)字は周卿。遂州の人。至元の末、淮南總管府判官と爲る。屬縣に二虎あり人を噬む。維誠神に禱る。一虎去り一虎死す。境内早蝗甚だし。復禱る。大雨一晝夜蝗悉く死す。是冬蝗なし。維誠再禱す。已にして蝗深さ三尺。朝廷聞きて召用せむと欲す。未だ及ばずして卒す。

キヨキ 許遠 (唐)許敬宗の孫。安祿山の反するや、或人遠を玄宗に薦む。召して睢陽太守に拜す。適ま張巡兵三千に將として至り、遠と與に兵を合せて賊を拒ぐ。遠自ら材の巡に及ばざるを知り、請て軍事一切を巡に裏けしめ、獨り専ら軍糧數員を治す。圍まること數月、食盡きて士卒多くは餓死し、存する者亦皆瘡痍を蒙り無力乏し。遠、巡と與に謀して曰く、睢陽は江淮の保障なり、若し是を棄つれば賊勝に乗じ死を盡して守る。十月癸丑城遂に陥り巡と與に執へらる。尋て風せざるを以て死す。

キヨエン 許瑗 (明)字は果大。樂平の人。元末兩たび郷第一に擧げらる。太祖蔡州に駐まる。瑗諷して曰く、陛下天下を定めんと欲せば、英雄を延攬せざるば、功を成し難しと。太祖喜て幕中に置き、軍事に參せしむ。已にして命せられて太平を守る。陳友諒と戦ひ、城陥りて死す。

キヨエン 許瑗 (漢)長安の富賈。張湯、小吏たる時、湯叔と交りて甚だ懼ぶ。瑗、小吏たる時、湯叔と交りて甚だ懼ぶ。

キヨエン 許瑗 (漢)字は小英。上虞の人。太學に入り五經を受く。初め司徒府に辟せられ彭城令と遷る。後九真郡尉となり、吏兵を獎厲して賊を破る。斬首二千級。桓帝其の功を美みし。瑗に拜す。後黨獄に遇ひ自殺す。著書數篇。瑗子と號す。

キヨエン 許瑗 (漢)字は師說。新羅人。竊竊二年の進士。知縣より刑科給事中に擢てらる。敢言して旨に忤ひ、詔獄に下ること再々。竟に不諱と坐し籍を削らる。隆慶の初、詔して廢籍を起す。年老ゆるを以て、家に即き太常少卿。拜す。致仕して卒す。天啓の初、忠簡と諡す。

キヨエン 許瑗 (宋)字は延仲。龍泉の人。政和の初、上舍を以て三つび大博士に遷る。學術の正邪異同を論じ、語を被りて諷せられ舒城縣に知たり。建炎の初、從つて揚州に至り太常少卿となる。中書舍人に遷り建する所多し。官右文殿修撰に至る。文集十卷あり。

キリ 綺里季 (漢)南山四皓の一。名を齊しうす。天祿の初、上、命じて馬を馳せ遲疾を較し、以て勝負を爲さしむ。上、白及び季に問ふ、孰れか勝つと。白奏す赤馬勝つ。季曰く、馳馬勝つべし。二人爭論決せず。上其故を問ふ。白曰く、今日火王たり、故に赤の勝つを知る。季曰く、火王と雖も上に煙あり、煙を以て察するに、青必ず勝たむ。竟に季の言の如し。察制、逆を謀り季にトす。季曰く、大王の數一を得たり、宜しく之を慎しむべし。果して一日にして敗る。應曆中、周燕を犯す。上、勝敗を問ふ。對て曰く、周姓は柴、燕分は火、柴火に入れば必焚れむと。果て驗あり。嘗て羅徽葛の爲めに僧立の事をトし、烏古部に流さる。一日節度使を召す。適ま雙鯉を獻する者あり。獻れて曰く君トするに此魚何れの時か食するを得る。答て曰く、公と僕と今日を出てすして不測の禍あらむ、奚ぞ魚を食するに暇あらむと。急に命し之を烹る。未だ食せずして冠至り、俱に害せらる。

キリ 紀梁 (周)名は植。華周と俱に齊の人なり。仕へて大夫たり。莊公莒を伐ち、車五乘の兵を爲す。而て梁周與らず。

キリ 魏了翁 (宋)字は仲父。浦江の人。本姓は高。出でて、魏氏を繼ぐ。慶元の進士第三。吏部尚書。端明殿學士。同舍書樞密院事に累官す。是より先き事を論じて史彌遠に忤ひ靖州に謫せらる。鶴山書院を築き門を杜ぐこと六載。著はす所五經要畧あり。嘗て言ふ結髮聖人之門に遊びしより遠道を窮探す、今髮星々、大に年數の足らざるを懼る。其他道に於ては、蓋し未だ及ぶに遠あらざる也と。卒して文靖と諡し、秦公を贈らる。

キリヤウ 紀亮 (三國)吳に仕へて尙書令たり。子騰、中書令たり。朝會ことと靈母の屏風を以て坐を隔つ。

キリヤウ 魏良臣 (宋)字は潰翁。溧陽の人。高宗嘗て其大事を論ずべきを稱す。後ち參知政事と累官す。良臣語天下の事と及ぶ毎に、嘗て奮ひ筆を抵ち以て己の任と爲す。

キリヤウ ツマ 魏燧妻 (周)齊の在公宮を襲。燧戰て死す。莊公歸りて其妻に遇ひ、使者をして之を路に吊らほしむ。妻曰く、今燧あり君何ぞ命を辱うする。若し燧をして罪を免れしめば、則ち燧先人の弊廬の下にあるあり、妾郊吊と與る事を得ずと。是に於て莊公乃ち車を還し、其卒に詣りて禮を成して然る後去る。紀燧の妻、子無く内外皆其屬の親なく、既に歸る所なし。

キリヤウ ツマ 魏燧妻 (周)齊の在公宮を襲。燧戰て死す。莊公歸りて其妻に遇ひ、使者をして之を路に吊らほしむ。妻曰く、今燧あり君何ぞ命を辱うする。若し燧をして罪を免れしめば、則ち燧先人の弊廬の下にあるあり、妾郊吊と與る事を得ずと。是に於て莊公乃ち車を還し、其卒に詣りて禮を成して然る後去る。紀燧の妻、子無く内外皆其屬の親なく、既に歸る所なし。

キリヤウ ツマ 魏燧妻 (周)齊の在公宮を襲。燧戰て死す。莊公歸りて其妻に遇ひ、使者をして之を路に吊らほしむ。妻曰く、今燧あり君何ぞ命を辱うする。若し燧をして罪を免れしめば、則ち燧先人の弊廬の下にあるあり、妾郊吊と與る事を得ずと。是に於て莊公乃ち車を還し、其卒に詣りて禮を成して然る後去る。紀燧の妻、子無く内外皆其屬の親なく、既に歸る所なし。

キレウヲ 魏了翁 (宋)字は仲父。浦江の人。本姓は高。出でて、魏氏を繼ぐ。慶元の進士第三。吏部尚書。端明殿學士。同舍書樞密院事に累官す。是より先き事を論じて史彌遠に忤ひ靖州に謫せらる。鶴山書院を築き門を杜ぐこと六載。著はす所五經要畧あり。嘗て言ふ結髮聖人之門に遊びしより遠道を窮探す、今髮星々、大に年數の足らざるを懼る。其他道に於ては、蓋し未だ及ぶに遠あらざる也と。卒して文靖と諡し、秦公を贈らる。

キキキ 善城 (晋)高僧。天竺の人。華戎  
 一、周流し、常處あるなし。神異あり。既に  
 して四城に還り、終る所を知らず。  
 キキキ 紀昀 (清)字は曉嵐。一字は春帆。  
 晩に石雲と號す。河間の人。乾隆戊辰の進  
 士。官、弘辨大學七加太子太保に至る。明、  
 總裁たるもの五、禮部に長たるもの三。高  
 宗時、四庫全書館を開き、公を以て總裁と  
 す。昀、儒書を貫徹し、旁ら百家に通ず。凡  
 そ六經傳注の得失、諸集の同、子集の分  
 支別派より詞曲以下の類に至るまで、抉奥  
 網せざるなく、一舟を進むる毎に劉向曾  
 子の例に仿ひて提要を作り之を簡首に冠す。  
 又詔を奉じて簡明目錄を撰す。存書存錄多  
 きこと萬餘種に至る。皆昀が一手訂する所、  
 評陽翰墨、識力仰王寶阮孝緒の上。在り。  
 眞、四朝の大手筆なり。卒して文達と諡す。  
 キキキ 魏允中 (明)允中の弟。萬曆  
 中、諸生たり。副使正世の之を器とす。鄉  
 試に世貞、門吏を戒て曰く。魏允中第一に  
 非、ば、鼓を伐ち以て傳ふる無れと。已に  
 して果して然り。累官して更部勅勅主事  
 り。功に調せられ官に卒す。  
 キキキ 魏允中 (明)字は懋忠。南樂  
 の人。萬曆五年、進士。荊州推官に除せら  
 る。治行を以て御史を授けらる。時、  
 張居正を極す。兵部右侍郎に累  
 遷す。卒す。天啓の初、介廉と諡す。  
 キキキ 魏允中 (明)允中の弟。萬曆中  
 の進士。官刑部郎中たり。時に南樂の三魏

と稱せらる。  
 キキキ 義隆 (宋)高僧。陳氏。温州樂清の  
 人。貧賤に編ぐ。天衣に住す。嘉祐六年  
 示寂す。壽七十二。勅して振宗大師と諡す。  
 キキキ 歸誠 (明)字は汝成。嘉定縣の人。  
 早く母を喪ふ。繼母の虐に遇ひ、飢困して  
 道中に匍匐し、市中に販鹽す。正徳三年大  
 に饑。母自活する能はず。乃ち迎へて之  
 を養ふ。其情中卒す。  
 キキキ 危素 (宋)光澤の人。貧賤  
 にして學を業とす。靖康中、徽欽二帝の北  
 行するを叫び、哭すると三、骨立して死  
 す。寄蕘李炳、詩を以て之を吊ひて云ふ、  
 南郷老人危素一、歲晏兩晴扶杖出、  
 帝座再蒙、歸國榮、哭三、  
 帝座再蒙、歸國榮、哭三、  
 止、里、暗、  
 古干、葬、

クエイタツ 孔穎達 (唐)字は中達。冀州  
 衡水の人。八歳にして學に敏き。日に千餘  
 言を誦記し三禮義宗を闡記す。長けて、服  
 氏春秋傳、鄭氏尚書、詩、禮記、王氏易  
 注にかなり。又善く文を屬し、歩曆に通ず。  
 隋、煬帝、天下の儒官を召し、子、  
 士に詔して論議せしむ。穎達年最も少く、  
 老師宿儒、其下に出るを恥ぢ、客を遣して  
 之を刺さしむ。仲達幸に其咄を免る、を得  
 たり。太宗洛を平げて後、文館博士を授け  
 られ、國子博士、遷る、  
 後子、封、  
 釋菜を觀、  
 して卒す。初め穎達、  
 王恭、王瑛と詔を受けて、  
 顧る詳博さ。瀛州十八學士の一。  
 グエン 虞延 (漢)字は子大。陳留東昏の  
 人。身は八尺六寸、  
 扛ぐ。初め、  
 怒まる。故、  
 節に拘はらず、  
 へて洛陽令たり。永平中司徒に遷る。曾て  
 異議あり。曾て楚王英の叛、  
 りて誅、  
 グエン 虞汎 (宋)曾禧の弟。紹興三年、  
 知、  
 クカウ 聖果 (明)は炳陽。常熟、  
 人。性、  
 曉して自ら醉、

に名あり、高品に入る。  
 グガウカ 虞剛簡 (宋)允文の孫。兄弟  
 八人、皆學を好む。而して剛簡最も名を知  
 らる。嘗て魏了翁、范仲淹、李心傳の輩と  
 蜀の門外に講學し、程朱の微言を得たり。  
 易書論語記を著し、以て其義を發明す。蜀  
 人之を師尊す。嘉定中、召す。至らず。子  
 珪、知遂州たり。亦た文章を以て名を知ら  
 る。  
 グカク 區平 (宋)宣州の人。黃山谷と游  
 び、瓊州と爲る。山谷贈るに青玉案を以  
 てす。  
 グカク 虞革 (宋)慶曆中、冀州を知す。  
 クキ 區幾 (漢)功臣表に見ゆ。  
 クキ 區奇 (唐)越の人。年十一、二賊に  
 勾引せらる。奇、二賊を殺して逃れ歸る。  
 刺史之を奇とす。  
 グキ 虞姬 (漢)項羽の妾。愛せられて  
 常、  
 常、  
 今、  
 グキ 虞喜 (晋)字は仲寧。餘姚の人。預  
 の兄。志操以て俗を勵すに足り。博學以て  
 道を明むるに足る。辨堅研、  
 勤あり。靜に處り道を、  
 毛詩を釋し、孝經を注す。著述凡て數十萬  
 言。  
 グキ 虞熙 (南北)世其の子。南雍に殉す。  
 グキ 虞寄 (南北)餘姚の人。蔡の弟。少  
 にして聰慧、長ずる、

嘗て瑞雨頌を作る。梁の武帝之を見て、其  
 其兄に謂て曰く、此頌、  
 グキ 虞祺 (宋)紹興中、  
 グキウシ 虞丘子 (周)楚の令尹。孫叔敖  
 を薦めて自ら代らんと請ふ。莊王曰く、子  
 寡人を輔く、寡人、  
 の、  
 しく、  
 は、  
 人臣として君主に忠ならず、  
 以て臣とせん、  
 従ひ、  
 と曰ひ、  
 グキウシ 區九思 (明)字は睿父。黃海の  
 人。學、  
 薦を以て翰林待詔に除せらる。力辭して受  
 けず。詔して米六十石を給して其身を終へ  
 しむ。  
 卒する年七十一。  
 グキ 區金 (南北)字は南賞。南海の人。  
 齊に仕へて右衛武校尉と爲り、  
 累官す。子頌。  
 グク 虞詡 (漢)字は升卿。武平の人。祖  
 父經、  
 公、  
 れり于公に及ばずと雖も、

んと。故に詡を字して升卿とす。詡、  
 二、  
 げられ、  
 以てす。詡、  
 時に朝歌、  
 く、  
 器を別たんと。大に、  
 都太守と爲る。詡を以て兵を進め、  
 堯人を破る。官尚書僕射に至る。子恭、  
 才あり。女子頌。  
 グクワウカウ 虞黃昊 (清)字は景明。錢  
 塘の人。十歳即ち善く文を屬す。康熙丙午  
 の擧。官、  
 グクワウコウ 虞皇后 (晉)元帝の后。名  
 は孟母。濟陽外黃の人。帝琅邪王する時、  
 納れて妃と爲す。子無し。永嘉六年、  
 時に年三十五。帝立ちて追贈して后と爲す。  
 グクワウゼン 區廣春 (清)湖南善化の  
 人。  
 グケイ 區慶 (晋)明。遺宗三を遷す。  
 グケイ 區剛 (晋)姓名を遷す。太和の末、  
 宣城の春山に隱居す。山中、  
 て、  
 グケイ 虞卿 (周)游説の士。鴈を、  
 を、  
 命、  
 る。故に虞卿と號す。著書八篇。世、  
 春秋と曰く。  
 グケイシ 區景思 (五代)唐の廢明中、

満と兇賊を築めて探掠至らざる無し。遂に市斬せらる。

**クケイジ** 置景淳 (明)字は師道。常熟の人。八歳能く文を屬す。嘉靖二十三年の進士。編修を授けらる。隆慶中、禮部左侍郎に累擢せられ、永樂大典を總校するの勞を用つて、翰林院學士を兼り二品階を授けらる。經筵に侍し、嘉慶實錄を修す。病を耐して歸り卒す。禮部尚書を贈り文懿と諡す。エ汝履、汝説。

**クケイセイ** 虞世基 (清)字は東臯。金壇の人。康熙の進士。初め上虞縣を知し、後、吳縣教諭に改まる。山水を善くす。

**クケン** 虞謙 (明)字は伯成。號は長雲。金壇の人。洪武中、國子生より刑部郎中に擢てらる。大理寺少卿となり、宣德二年三月官に卒す。謙、儀制風彩瀟灑絶俗、詩文政治世の爲めに推重せらる。家に多く法書名畫を蓄ふ。餘に金錯刀竹及び山水木石を寫す。幽澗簡遠、倪雲林の韻致あり。多くは自ら詩を上にす。

**クゲン** 虞愚 (南北)字は士恭。餘姚の人。宋の明帝の時、晋安太守たり。郡に越王石あり。嘗て雲霧中に隱る。惟だ清廉の太守乃ち見るを得るのみ。愚、往きて觀る。清徹歡ふ所なし。郡、蝸蛇を産す。購、購さすべし。愚に蛇を遺る者あり。愚之を放つ。蛇踏る者再び。蓋し仁心の致す所といふ。

**クゴク** 虞國 (漢)淮南守たり。愚あり。雙湖、軒に隨つて舞ふ。

**クサク** 區簡 (唐)廣州の人。韓愈區簡を送るの序に云ふ、愈山陽に請がす、區もなる者あり、南海より舟を泛べて來る、儀觀甚だ偉なり、坐して之と語るに文義卓然たりと。

**クシウ** 苦蝟 (漢)靈帝の中平中、所在盜竄び起る。蝟亦黃巾の屬、至る所切冪を逞うす。後誅せらる。

**クシフ** 虞集 (元)字は伯生。道州の人。宋の丞相允文五世の孫。宋にびて、臨川に寓す。大徳の初、京師に至り、國子助教に除せられ、集賢館直學に遷る。後、翰林直學士に拜せられて、國子祭酒を兼む。病を以て至元八年に卒す。年七十七。性孝友にして、學問博洽なり。道園學古錄五十卷あり。

**クシフノハハ** 虞集母 (元)楊氏。祭酒楊文仲の女。虞波に歸して集及榮を生む。汲宋に仕へて黃州尉と爲る。宋亡び、亂を避るに渡り。干戈中、書の携ふべきなし。楊氏乃ち集及び榮に論語、孟子、左氏傳、歐蘇の文を口授す。長沙に遷るに及び始めて刻本を得、則ち已に盡く諸經の大義に通ず。文仲、世々春秋の名家なるを以て、楊氏の室に在りしとき既に其義に通ず。故に集と榮と皆業を家庭に受け、具に源委あり。

**グシン** 虞申 (宋)丹徒の人。性實和厚。義に赴くに勇む。宗族に大司農の母を負ふ者あり。悉く爲に之を償ふ。仲弟死す。其五女を嫁し幼孤を撫す。之を視ると己の子の如し。

**クシヤ** 區祉 (漢)字は景賢。靈陵の人。熹平中、曲江の長たり。

**グシヤク** 虞綽 (南北)字は士裕。餘姚の人。姿儀其だ偉なり。博學にして俊才あり。尤も草隸に工なり。陳傅縡の詞賦をりて歎して曰く、虞の文以て尙ふる無しと。隋の大業の初、秘書學士となり、虞世南等と、長州王親等の書十餘部を授す。

**グジュ** 虞授 (晉)餘姚の人。少にして經史を嗜み、壯にして志略を負ふ。文武の才幹を以て、擧げられて參贊となり、廣州刺史に歴任す。居常死節を以て自ら勵す。後竟に難に死す。

**グシユン** 虞舜 (上古)帝舜有虞氏を見よ。

**グシユン** 虞俊 (漢)字は仲剛。無錫の人。少にして孝友を以て稱せらる。春秋公羊左氏傳に明なり。哀帝の時、御史と爲り丞相司馬に遷る。王莽政を執り、召して司徒とす。後、天を仰ぎて嘆じて曰く、願くば漢の鬼とならん兩姓に仕ふる事はずと。藥を飲みて卒す。光武即位し、其墓に表す。

**グジュン** 虞惇 (字は寶成。號は興華。江蘇常熟の人。康熙丁丑の進士。官太僕少卿に至る。其文を爲るや群書を陶鑄す。歐曾と相近しと云ふ。

**クジヨシヨク** 豐汝臣 (明)古村と號す。その斷、王右丞に類す。

**クジヨシヨク** 豐汝履 (明)字は元立。景

淳の長子。族を以て官に補せられ、三遷して刑部主事たり。太僕少卿に累進し、致仕し卒す。博學にして文に工なり。

**クジヨセツ** 豐汝説 (明)字は星卿。景淳の次子。五歳にして孤。文を博して成れば、輒ち跪きて父の水主の前に薦む。萬曆中の進士。官胡廣提學僉事に至り、剛正を以て聞ゆ。子式紹。

**グジリヤウ** 虞似良 (宋)黃巖に寓居し、自ら横溪老樵と號す。篆隸韻書あり。世に行はる。

**グセイキ** 虞世基 (南北)字は茂世。餘姚の人。慕の子。博學にして高才あり。草隸を善くす。孔奐之を見て歎賞す。

**グセイナン** 虞世南 (唐)字は伯施。餘姚の人。慕の仲子。少にして兄世基と同じく學を顧野王に受く。十年精思不懈。文章博博。外謹儒にして中抗烈なり。太宗の時、房玄齡、杜如晦等十八人と共に文學館學士となる。之を十八學士と謂ふ。後、銀青光祿を以て致仕す。凌烟に圖形せらる。文懿と諡す。太宗、嘗て命じて烈女傳を屏風に寫さしむ。本無し。之を暗誦し、一字の謬る無し。帝、毎に其五絶を稱す。一に德行、二に忠直、三に博學、四に文詞、五に書翰。帝、嘗て出て行く、有司、書を載せて以て從はんと請ふ。帝曰く、虞世南、行に在り、これ秘書なりと。

**グセウホ** 虞曠父 (晉)淳の孫。孝武帝の時、門下侍中たり。

**クケン** 區潛 (清)字は又陶。華亭の人。花鳥に工なり。雅飾幽雅、風神韶亮。其水墨は之を望めば恰も五彩の如し。清朝、翎毛に工なる者、潛を推して最とす。

**グソウサイ** 虞宗濟 (明)字は思訓。常熟の人。父兄並に諱あり。吏遷治んんとす。宗濟兄に謂て曰く、事循役に涉り、佛法嚴なり、往けば必ず死せん、父は老いたり、兄は寡嗣なり、且未だ後あらす、我は幸に兒を産む、代て死す可しと。乃ち身を擬して吏に詣り、父兄の預る所無きを白す。吏疑て之を訊す。悉く自ら引伏す。洪武四年竟に市に斬らる。年二十二。

**グタイキ** 虞大猷 (宋)宜興の人。皇祐二年、進士に第す。神宗の朝、蔡襄、經筵に在り。治行を以て之を朝に薦む。累遷して侍讀に至る。

**グタイチウ** 虞大中 (宋)字は士明。龍興新建縣を歴知し康州に通判たり。皆惠政あり。嘉定間、知循州に除せられ、改めて南康軍に知たり。吏白す、贖、漢鐘萬緡あり、守、例として之を得と。大中問はす。吏復た請ふ。竟に斥け去る。

**グタイイ** 虞大猷 (宋)熙寧間、鄞縣に知たり。水利を興脩し、躬自ら相度りて疏濬宜きを得、田に溉ぐと五百餘頃。民甚だ之を利とす。

**クタク** 區澤 (隋)字は伯仁。連州の人。潯平郡の守たり。唐、隋に代る。澤、戸を閉じて事を耐し唐の官爵を受けず。士論之を高しとす。

**グタン** 虞潭 (晉)字は思忠。湘東守たり。蘇峻の亂に値ひ、兵を起して之を討つ。其母誡めて曰く、汝當に忠報國すべし、吾が老を以て累とする勿れと。吾が老を以て累と爲す勿れと。仍て盡く其家産を發し之に隨はしめ、其環佩を賣へて軍實と爲す。其憂國の誠此の如し。武昌侯夫人に拜し金章紫綬を加へらる。潭、養堂を家に立つ。王導以下皆就て拜謁す。咸和の末に卒す。年九十五。成帝使を遣はし弔祭す。諡して定夫人と曰ふ。

**グチウ** 虞仲 (殷)姬姓。周太王の子。其後周の代に至り虞一封せらる。

士を以て、湘州判官に除せらる。性壽古。柳子厚の非國語に對して非々國語あり。詩書春秋皆論述あり。而して春秋は乃ち其家學、故に尤も善し。集に至る毎に、僧道の學に在るを聞けば、輒ち去る。集と雖も亦之を嚴憚す。

グハシ 虞翻 (三國)字は仲翔。餘姚の人。少にして學を好み志氣あり。垂髫の時、客の其兄に候する者あり。翻に過ぎらず。翻書を遺りて曰く、琥珀は腐草を取らず、磁石は曲針を受けず、過て宜しきを存せずと。客大に之を奇とす。曹操辟す。就かず。吳の孫權用ひて騎都尉とす。著す所、史記國語訓註あり。

グヒ 虞翻 (晉)吳興守たり。王導嘗て曰く、孔愉、公才無し、之を兼ゆる者は卿乎と。望有つて公才無し、之を兼ゆる者は卿乎と。グビジン 虞美人 (漢)順帝の美人也。年十三選ばれて掖庭に入る。冲帝を生む。又女舞陽長公主を生む。冲帝早夭して梁冀政を乘り佗族を惡む。虞氏亦抑へらる。桓帝の時拜して憲陵貴人と爲す。グヒン 虞賓 (宋)字は舜臣。山陰の人。宣德郡を以て長洲縣に知たり。後、比部員外郎に遷る。グフ 虞溥 (三國)字は允源。高平昌邑の人。孝廉に擧げられて潘陽内史となり、大に庠序を修めて生徒を招き、屬縣に移告して學を勉勵す。政を爲す殿にして而かも猛ならず。風化大に行はる。嘗て春秋經傳を注

し、江表傳及び文章詩賦數十篇を撰す。グホウヂヤウ 虞鳳娘 (明)義烏の人。其姉徐明輝に適き死す。明輝鳳娘の賢を聞き、聘して繼室と爲さむとす。泣て曰く、兄弟未だ嘗て妻を向うせず、即姉妹知る可しと。父許さず女口を絶ち言はず自經して死す。グホコク 虞輔國 (宋)紹興中、澄海將軍たり。才略一世に雄たり。意氣を以て相許す。海寇、城を攻む。輔國之に死す。クマラジフ 鳩摩羅什 (晉)高僧。此には童壽といふ。龜茲國の人。姚秦弘始三年、始めて長安に來り、逍遙園に館す。姚興待するに國師の禮を以てす。什、是に於て衆經を譯す。遂に金剛般若、十住、法華、維摩、思益、首楞嚴、持世、佛藏等三百餘卷の經論を出す。什、又姚興の爲めに實相論を著し、並に維摩を注す。弘始十一年即ち晉の義熙五年八月二十日、病を以て長安に寂す。壽七十四。什門、凡そ三千人あり、其中道生、道融、僧肇、僧叡を以て什門の四聖となす。グンシンゼンウ 軍臣單于 (漢)匈奴の主。老上單于の子。漢武帝の時、漢の將王恢單于を誘ひ兵を伏せて之を捕へんとす。單于覺りて引き去る。是より又和親を絶つ。漢將衛青等屢軍を出て、匈奴を敗り遂に河南の地を取り蒙恬の故塞を繕ひ固めと爲す。漢元明二年軍臣單于死す。クンチウ 君囑 (上古)囑、嘗て君囑に學ぶといふ。

て之を過す。嘗て馬援をして成都に往き公孫述を觀しむ。援歸り囑に謂て曰く、子陽(述の字)は井底の蛙のみ、意を東方に專にするに如かずと。囑乃ち援をして書を洛陽に奉ぜしむ。既に歸る。囑問ふに東方の事を以てす。援曰く上、才明勇略、人の敵にあらず。囑曰く卿謂ふ高帝に何如。援曰く、如かず、高帝は可もなく不可もなし、今上は吏事を好み、動くこと法度の如し、又飲酒を喜ばずと。囑懼びずして曰く、卿が言の如くんば反て復勝れりと。子を遣て入て待せしむ。囑もなくして公孫述に通ず。述立て、朔寧王と爲す。光武遂に馬援を郷導として囑を撃つ。囑西城に奔り、病て餓死す。子純降る。

クワイエイ 懷羸 (周)秦の穆公の女。穆公の惠公の太子國の妃。國秦に質たり、穆公之に懷羸を妻はす。六年にして國逃れて晉に歸らんとす。因て羸氏に侍て以て與にせんとなしむ。羸氏曰く寡君妾をして侍して巾櫛を執らしむるは以て子を固くせんとなり、今吾以て子を結ぶに足らず、子に従て歸らば是君を棄つる也、子の謀を泄らさば是れ妾の難に負く也、吾子に従ふ事能はずと。羸子行け吾敢て言を泄らさじと。國遂に逃れ歸る。

クワイオン 荆恩 (晉)字は道恩。膽力人に過く。仕へて龍驤將軍たり。黃州積江館を建つ。杜牧の詩に云ふ、孫家兄弟晉龍驤、馳騁功名樂帝王、畢竟功名誰是主、答機空屬釣魚郎。

クワイガウ 隗囂 (漢)字は季孟。天水成紀の人。王莽の末に兵を起して漢に應ず。高祖太宗世宗の廟を起し將士を集めて其前に誓ひ、兵十萬を勒して雍州牧陳慶を擊殺し、又安定大尹王向を虜す。遂に諸將を分遣して隴西、武都、金城、武威、張掖、酒泉、燉煌を徇て皆之を下す。更始、以て右將軍と爲す。光武即位す。囂、更始に説き政を歸さしむ。更始聽かず。囂遂に疾を稱し亡げて天水に歸る。建武二年鄯善、赤眉を撃つ。將馮異叛して天水に向ふ。囂迎へ撃て之を破り、盡く輜重を獲。馮、制を承けて囂を西州大將軍と爲す。又赤眉を伐て之を敗る。囂乃ち使を京師に通ず。光武殊禮を以

クワイガウ 荆繁 (宋)宣城の人、少くして孤貧。乾德中慶州に入り書を讀み、業を太學に卒ふ。人となり廉直にして信義を重んじ、貧富を離れ未だ嘗て人に語はず。家に龍尾硯を藏す。客に之を欲する者あり、言ふに忍びずして去る。繁其の意を察知し、即ち數舎を馳せて之を與ふ。太平興國中、進士に擧ぐられて茶陵令を歴、殿中侍御史に遷る。尋て廬山に歸る。數年にして卒す。

クワイキ 隗禧 (南北)字は子牙。京兆の人。少うして學を好み、三輔の亂、禧經書を擔負して之を誦習す。郡中に拜せらる。享年八十餘。老を以て家に處るや、遠方より來り之を就て學ぶ者甚だ多し。クワイキン 荆欽 (晉)惠帝の時、楊駿太

クンチン 君陳 (周)成王の臣。クモ 瞿茂 (漢)漢南太守。クヤウカウ 公羊高 (周)コの條を見よ。クヨ 區璵 (宋)字は良玉。南海の人。仕へて德慶參軍と爲る。官に居りて廉介、聲あり。

グヨ 虞預 (晉)字は叔養。餘姚の人。兄喜、博學好古。散騎常侍たり。著書數十萬言。預、少にして學を好み文章あり。瘦亮等、其才行を薦む。太興中、秘書丞著作郎に遷る。晉書四千餘卷、會稽典錄二十篇を著はす。クリヨウヤク 虞龍躍 (清)字は天門。湖南武陵の人。崇禎の時、拔貢。性、游を嗜み兀傲自ら喜ぶ。明亡びて後常に逃亡して歸らず。至る所、題咏あり。自ら絕壁の上に鶴り稿を瓢中に納む。自ら一杓行脚道人と號す。詩、奇氣あり、曠塞の音多し。グレイ 虞荔 (南北)餘姚の人。年九歲、陸倕、五經の義を問ふ。荔、對て遺失なし。長ずるに及びて善く文を屬す。梁の武帝の時、士林館を附き、命じて學士とす。クレツ 野烈 (漢)豫章の人。許孫に事へて仙術を得たり。元康中上昇す。集仙傳に見ゆ。

クワイウ 和勇 (明)初名脱々字羅和。寧王阿魯台的孫。宣宗の時、指揮使を襲ぐ。天順元年、名を和勇と賜ふ。功を積み左都督に擢拜し靖安伯に封せらる。十年卒す、武敏と諡す。

クワイオン 荆恩 (晉)字は道恩。膽力人に過く。仕へて龍驤將軍たり。黃州積江館を建つ。杜牧の詩に云ふ、孫家兄弟晉龍驤、馳騁功名樂帝王、畢竟功名誰是主、答機空屬釣魚郎。

クワイガウ 荆繁 (宋)宣城の人、少くして孤貧。乾德中慶州に入り書を讀み、業を太學に卒ふ。人となり廉直にして信義を重んじ、貧富を離れ未だ嘗て人に語はず。家に龍尾硯を藏す。客に之を欲する者あり、言ふに忍びずして去る。繁其の意を察知し、即ち數舎を馳せて之を與ふ。太平興國中、進士に擧ぐられて茶陵令を歴、殿中侍御史に遷る。尋て廬山に歸る。數年にして卒す。

クワイキ 隗禧 (南北)字は子牙。京兆の人。少うして學を好み、三輔の亂、禧經書を擔負して之を誦習す。郡中に拜せらる。享年八十餘。老を以て家に處るや、遠方より來り之を就て學ぶ者甚だ多し。クワイキン 荆欽 (晉)惠帝の時、楊駿太

傳大都督たり。欽は其姑の子、少うして相昵む。直亮回らず、嚴正言を以て欽を犯す。欽の弟楊珙、楊濟之れが爲に寒心す。欽曰く、楊文長(珙の字)の無學なるも、猶ほ人の罪無きをば妾に殺すべからざるを知る、必當し我を誅んずべし、我疎外を得ば以て與に俱に死なざるべし、然らずんば宗を傾け族を覆へし其れ能く久しからむ乎と。

クワイク 過昱 (宋)字は彦明。南城の人。景祐間の進士。官、都官郎中に至る。性至孝なり、母没して木を刻みて像を爲る。父没して水漿口に入らざるもの累月。之を慕うて身を終ふ。クワイクワイ 回回 (元)字は子淵。饒々の兄。學を嗜み文を能くす。太常少卿より河南道廉訪使に累任す。文宗に奏し僧道を沙汰するを請ふ。弟饒々も俱に時望を負ふ。時に雙壁と號す。クワイケイワウ 會稽王 (三國)吳主第二世。姓孫、名亮、字子明。大帝の少子。十歳にして位に即く。孫峻孫資相繼て政を執る。吳主既に長じて政事を親覽し難問する所多し。蘇權れ疾と稱して朝せず。兄弟をして宿衛し又諸營に分屯せしめ以て自ら固む。吳主之を惡み之を誅せんと欲す。事發露し却て廢黜せられて會稽王と爲る。在位六年、改元するもの三、建興、五鳳、太平。クワイケンカカン 懷建可汗 (唐)回紇。名尼特勤。遏捻可汗四週して尼特勤可汗と稱す。唐宣宗乃ち之を冊立す。爾後回紇遂に

グチウ 虞備 (宋) 寧州の人。孤介にして拘はらず。隆興の初、進士に擧げられ、横溪令入監官す。飲食服用悉く給を家に取る。諸司其治状を上る。監察御史も累遷して貴近を排撃す。朝紀肅然たり。出て、浙東提刑知湖州と爲り、治聲あり。仕へて兵部侍郎に終る。

グチウブン 虞仲文 (金) 字は質夫。武州寧遠の人。少より聰慧日に千言を記す。七歳にして詩を作るを知り、十歳能く文を屬す。既に長じて刻苦學問す。遂の進士に擧げられ文行第一たり。金に歸して樞密使兼侍中を授けられ秦國公に封せらる。卒する年五十五。文正と諡す。仲文又書を善くす。李伯時を學び上に人馬を畫く。墨竹は又湖州を學ぶ。山林隱逸の氣あり。

グツクワン 風完 (周) 楚の大夫。專對長す。初め齊桓公、諸侯の師を以てて楚を伐つ。管仲責むるに包茅入らず、王祭せず、昭王南征して復へらざるを以てす。師進みて陸に次す。楚子、風完をして師に如

かしむ。師退き召陵に次す。齊侯諸侯の兵を陳し、完と乘じて之を観る。完曰く、君若し徳を以て諸侯を綏んせば、誰か敢て服せざらん、君若し力を以てせば、楚國、方城以て城と爲し、漢水以て池と爲さば、衆と雖も用ふる所なからんと。遂に諸侯と盟ぶ。

クツケン 風堅 (宋) 忠州防禦使。建炎の初、金人、陝府を圍む。堅兵を引きて之を救ひ、圍解く。金人堅を執ふ。堅曰く、吾來り、圍解け城全し、吾死すとも何をか憾みんと。金人を叱して速に之を殺さしむ。

クツクワウ 風見 (三國) 天台の人。吳も仕へ尙書僕射たり。時孫權、太子和を廢し亮を立んと欲す。亮諫て叩頭流血す。亮納れず、之を郷里に斥遣す。後皓即位して其十緒を封じ東陽亭侯とす。

るに必 菱を以てせよと。詳し及び祭に菱を用ひんとす。子建命じて之を去りて曰く、夫子は私を以て國の典を干すを欲せずと。建、字は子木。楚の公族。世々莫敖たり。

クツツツ 風突通 (隋) 仕へて虎賁將郎たり。官に洩みて勁正なり。其弟、長安令たり、亦た方殿を以て顯はる。時人詔りて曰く寧食二斗艾、不逢風突通、寧食三斗葱、不逢風突通と。通河東を守り、唐高祖と相拒ぎ、力屈して擒せらる。帝、之を釋して曰く、忠臣なりと。兵部尙書を授け蔣國公と封す。

クツツク 風復 (清) 字は見心。號は悔翁。蒲城の人。其詩を論ずる、輿賦比の外に於

て、専ら寄託を以て主とす。謂らく陶の飲酒、郭の游山、謝の登山、左の詠史、彼自ら傷心する所以の故あり、題を借りて以て之を變ず、未だ舟を刻んで劍を求むべからずと。妻死し再娶せず。人以て林和靖に比すと云ふ。

クツツヘイ 屈平 (周) 字は原。楚の同姓。懷王に仕へて三闖大夫と爲り、王族、昭、風景の三姓を掌る。入りては則ち王と政事を圖議し出て、は則ち諸侯に應對し謀行はれ難修する。王甚だ之に任ず。同列の大夫上官靳尚、其能を妬み之を讒毀す。王乃ち平を疏んず。平、忠貞にして讒せられ憂心煩亂、怒ふる所を知らず。乃ち離騷を作り王の反省を冀ふ。この時、懷王、張儀に欺かれて秦に入りて歸らず、秦に客死す。子の襄王また讒言を用ひ平を江南に遷す。平放たれて山野に在り。復た九章を作り天を授き聖を引き以て自ら明かにす。終に省みられず。清白を以て久しく濁世に居るに忍びず、遂に汨羅に投じて死す。

クツツメイコウ 屈明洪 (清) 字は甘泉。翁山の子。貢生。官教諭たり。亦詩を能くするを以て聞ゆ。

クツツヘイ 屈平 (周) 字は原。楚の同姓。懷王に仕へて三闖大夫と爲り、王族、昭、風景の三姓を掌る。入りては則ち王と政事を圖議し出て、は則ち諸侯に應對し謀行はれ難修する。王甚だ之に任ず。同列の大夫上官靳尚、其能を妬み之を讒毀す。王乃ち平を疏んず。平、忠貞にして讒せられ憂心煩亂、怒ふる所を知らず。乃ち離騷を作り王の反省を冀ふ。この時、懷王、張儀に欺かれて秦に入りて歸らず、秦に客死す。子の襄王また讒言を用ひ平を江南に遷す。平放たれて山野に在り。復た九章を作り天を授き聖を引き以て自ら明かにす。終に省みられず。清白を以て久しく濁世に居るに忍びず、遂に汨羅に投じて死す。

之を慕ひ多く門に造りて講解を求む。之に従ひ遊ぶもの數百人。居る所の地、舊と鱗州と名づく。而して適、登州に歸するに因り其地を更めて登州郷と爲す。

クナバツマ 求那跋摩 (南北) 高僧。此に功徳と云ふ。本刹利種。道化の聲、遐邇に播す。元嘉八年八月、舟を汎べて建業に達す。文帝、引見して勞問慰撫なり。敕して祇洹寺に住す。寺に於て法華及び十地を開講す。維心及四分羯磨、優婆塞五戒畧論、優婆塞二十四戒等、凡て二十六卷を譯出す。六十有五にして化す。

クナビチ 求那毗地 (南北) 高僧。此に安達といふ。中天竺の人。建元の初、京師

に到り、賦耶離寺に住す。百旬論經、十二因緣、及須達長者經等を譯す。大明以後、譯經始んど絶ゆ。進に及びて再興す。世成な之を美と稱す。中興二年冬、正觀寺に寂す。

クナラダ 拘那羅陀 (南北) 高僧。陳には親依と言ふ。或は波羅末陀といふ、譯して眞諦といふ。本四天竺の優羅尼國の人なり。大同十二年八月十五日を以て南海に達し、太清二年閏八月、京師に届る。梁武帝、寶雲殿に於て誠を盡して供養す。譯する所、金光明經、攝大乘論、廣義清門經、及唯識論等四十四部合せて二百七十八卷あり。陳の太建元年正月十一日午時遷化す。時に年七十有二。

クナラダ 拘那羅陀 (南北) 高僧。陳には親依と言ふ。或は波羅末陀といふ、譯して眞諦といふ。本四天竺の優羅尼國の人なり。大同十二年八月十五日を以て南海に達し、太清二年閏八月、京師に届る。梁武帝、寶雲殿に於て誠を盡して供養す。譯する所、金光明經、攝大乘論、廣義清門經、及唯識論等四十四部合せて二百七十八卷あり。陳の太建元年正月十一日午時遷化す。時に年七十有二。

士を以て、湘州判官に除せらる。性癖古。柳子厚の非國語に對して非々國語あり。詩書春秋皆論述あり。而して春秋は乃ち其家學、故に尤も善し。集に至る毎に、僧道の集に在るを聞けば輒ち去る。集と雖も亦之を嚴憚す。

グハン

グハン 虞翻 (三國)字は仲翔。餘姚の人。少にして學を好み志氣あり。垂髫の時、客の其兄に候する者あり。翻に過ぎらず。翻書を遺りて曰く、琥珀は腐草を取らず、磁石は曲針を受けず、過て宜しきを存せずと。客大に之を奇とす。曹操辟す。就かず。吳の孫權用ひて騎都尉とす。著す所、史記國語訓註あり。

グヒ

グヒ 虞駿 (晉)吳興守たり。王導嘗て曰く、孔愉、公才有つて公望無く、公潭、公望有つて公才無し、之を兼ゆる者は卿乎と。グビジン 虞美人 (漢)順帝の美人也。年十三選ばれて掖庭に入る。冲帝を生む。又女舞陽長公主を生む。冲帝早夭して梁冀政を乗り侘族を惡む。虞氏亦抑へらる。桓帝の時拜して憲陵貴人と爲す。

グヒン

グヒン 虞賓 (宋)字は舜臣。山陰の人。宣德郎を以て長洲縣に知たり。後、比部員外郎に遷る。

グフ

グフ 虞溥 (三國)字は允源。高平昌邑の人。孝廉に擧げられて潯陽内史となり、大に岸序を修めて生徒を招き、屬縣に移告して學を勉勵す。政を爲す嚴にして而かも猛ならず。風化大に行はる。嘗て春秋經傳を注

グホウヂヤウ

グホウヂヤウ 虞鳳娘 (明)義烏の人。其姉徐明輝に適き死す。明輝鳳娘の賢を聞き、聘して繼室と爲さむとす。泣て曰く、兄弟未だ嘗て妻を向うせず、即姉妹知る可しと。父許さず女口を絶ち言はず自經して死す。

グホコク

グホコク 虞輔國 (宋)紹興中、澄海將軍たり。才略一世に雄たり。意氣を以て相許す。海寇、城を攻む。輔國之に死す。

クマラジフ

クマラジフ 鳩摩羅什 (晉)高僧。此には童壽といふ。龜茲國の人。姚秦弘始三年、始めて長安に來り、逍遙園に館す。姚興待するに國師の禮を以てす。什、是に於て衆經を譯す。遂に金剛般若、十住、法華、維摩、思益、首楞嚴、持世、佛藏等三百餘卷の經論を出す。什、又姚興の爲めに實相論を著し、並に維摩を注す。弘始十一年即ち晉の義熙五年八月二十日、病を以て長安に寂す。壽七十四。什が門、凡そ三千人あり、其中道生、道融、僧肇、僧叡を以て什門の四聖とす。

グンシンゼンウ

グンシンゼンウ 軍臣單于 (漢)匈奴の主。老上單于の子。漢武帝の時、漢の將王恢單于を誘ひ兵を伏せて之を捕へんとす。單于覺りて引き去る。是より又和親を絶つ。漢將衛青等屢軍を出て、匈奴を敗り遂に河南の地を取り蒙恬の故塞を繕ひ固めと爲す。漢元朔二年軍臣單于死す。

クンチウ

クンチウ 君囑 (上古)舜嘗て君囑に學ぶといふ。

クンチン

クンチン 君陳 (周)成王の臣。クモ 瞿茂 (漢)漢南太守。クヤウカウ 公羊高 (周)コの條を見よ。クヨ 區瑛 (宋)字は良玉。南海の人。仕へて德慶參軍と爲る。官に居りて廉介、聲あり。

グヨ

グヨ 虞預 (晉)字は叔蕪。餘姚の人。兄喜、博學好古。散騎常侍たり。著書數十萬言。預、少にして學を好み文章あり。瑗亮等、其才行を薦む。太興中、秘書丞著作郎に遷る。晉書四千餘卷、會稽典錄二十篇を著す。

クリヨウヤク

クリヨウヤク 虞龍躍 (清)字は天門。湖南武陵の人。崇禎の時、拔貢。性、游を嗜み兀傲自ら喜ぶ。明亡びて後常に逃亡して歸らず。至る所、題咏あり。自ら絶壁の上に鐫り稿を瓢中に納む。自ら一杓行脚道人と號す。詩、奇氣あり、蕪塞の音多し。

グレイ

グレイ 虞荔 (南北)餘姚の人。年九歳、陸倕、五經の義を問ふ。荔、對へて遺失なし。長ずるに及びて善く文を屬す。梁の武帝の時、士林館を附き、命じて學士とす。クレツ 野烈 (漢)豫章の人。許孫に事へて仙術を得たり。元康中上昇す。集仙傳に見ゆ。

クワイウ

クワイウ 和勇 (明)初名脱々字羅和。寧王阿魯台的孫。宣宗の時、指揮使を襲ぐ。天順元年、名を和勇と賜ふ。功を積み左都督に擢拜し靖安伯に封せらる。十年卒す、武敏と諡す。

クワイエイ

クワイエイ 懷贏 (周)秦の穆公の女。晉の惠公の太子國の妃。國秦に質たり、穆公之に懷贏を妻はす。六年にして國逃れて晉に歸らんとす。因て贏氏に告げて以て與にせんを勸む。贏氏曰く寡君妾をして侍して巾櫛を執らしむるは以て子を固くせんとなり、今吾以て子を結ぶに足らず、子に従て歸らば是君を棄つる也、子の謀を泄らさば是れ妾の難に負く也、吾子に従ふ事能はずと雖も行け吾敢て言を泄らさじと。國遂に逃れ歸る。

クワイオン

クワイオン 蒯恩 (晉)字は道恩。膽力人に過く。仕へて龍驤將軍たり。黃州横江館を建つ。杜牧の詩に云ふ、孫家兄弟昔龍驤、馳騁功名樂帝王、畢竟功名誰是主、答機空屬釣魚郎。

クワイガウ

クワイガウ 隗囂 (漢)字は季孟。天水成紀の人。王莽の末に兵を起して漢に應ず。高祖太宗世宗の廟を起し將士を集めて其前に誓ひ、兵十萬を勸して雍州牧陳慶を擊殺し、又安定大尹王向を廢す。遂に諸將を分遣して隴西、武都、金城、武威、張掖、酒泉、燉煌を徇て皆之を下す。更始、以て右將軍と爲す。光武即位す。囂、更始に説き政を歸さしむ。更始聽かず。囂遂に疾を稱し亡げて天水に歸る。建武二年鄧禹、赤眉を撃つ。將馮異叛して天水に向ふ。囂迎へ撃て之を破り、盡く輜重を獲。禹、制を承けて囂を西州大將軍と爲す。又赤眉を伐て之を敗る。囂乃ち使を京師に通ず。光武殊禮を以

クワイキ

クワイキ 隗禧 (南北)字は子牙。京兆の人。少うして學を好む。三輔の亂、禧經書を擔負して之を誦習す。郡中に拜せらる。享年八十餘。老を以て家に處るや、遠方より來り之を就て學ぶ者甚だ多し。

クワイキン

クワイキン 蒯欽 (晉)惠帝の時、楊駿太子を過す。嘗て馬援をして成都に往き公孫述を觀しむ。援歸り囂に謂て曰く、子陽(述の字)は井底の蛙のみ、意を東方より專にするに如かずと。囂乃ち援をして書を洛陽に奉ぜしむ。既に歸る。囂問ふに東方の事を以てす。援曰く上、才明勇略、人の敵にあらず。囂曰く卿謂ふ高帝に何如。援曰く、如かず、高帝は可もなく不可もなし、今上は吏事を好み、動くこと法度の如し、又飲酒を喜ばすと。囂懼びずして曰く、卿が言の如くんば反て復勝れりと。子を遣て入て待せしむ。幾もなくして公孫述に通ず。述立て、朔寧王と爲す。光武遂に馬援を郷導として囂を撃つ。囂西城に奔り、病て餓死す。子純降る。

クワイガウ

-11 138 43 358" data-label="Text">

クワイガウ 蒯徹 (宋)宣城の人、少くして孤貧。乾德中廬阜に入り書を讀み、業を太學に卒ふ。人とたり廉直として信義を重んじ、貧窶と雖も未だ嘗て人に謝はず。家に龍尾硯を藏す。客に之を欲する者あり、言ふに忍びずして去る。其の意を察知し、即ち數舍を馳せて之を與ふ。太平興國中、進士に擢んでられ茶陵令を歴、殿中侍御史に遷る。尋て廬山に歸る、數年にして卒す。

クワイキ

クワイキ 隗禧 (南北)字は子牙。京兆の人。少うして學を好む。三輔の亂、禧經書を擔負して之を誦習す。郡中に拜せらる。享年八十餘。老を以て家に處るや、遠方より來り之を就て學ぶ者甚だ多し。

クワイキン

-11 378 43 612" data-label="Text">

クワイキン 蒯欽 (晉)惠帝の時、楊駿太子を過す。嘗て馬援をして成都に往き公孫述を觀しむ。援歸り囂に謂て曰く、子陽(述の字)は井底の蛙のみ、意を東方より專にするに如かずと。囂乃ち援をして書を洛陽に奉ぜしむ。既に歸る。囂問ふに東方の事を以てす。援曰く上、才明勇略、人の敵にあらず。囂曰く卿謂ふ高帝に何如。援曰く、如かず、高帝は可もなく不可もなし、今上は吏事を好み、動くこと法度の如し、又飲酒を喜ばすと。囂懼びずして曰く、卿が言の如くんば反て復勝れりと。子を遣て入て待せしむ。幾もなくして公孫述に通ず。述立て、朔寧王と爲す。光武遂に馬援を郷導として囂を撃つ。囂西城に奔り、病て餓死す。子純降る。

クンチン

クンチン 君陳 (周)成王の臣。クモ 瞿茂 (漢)漢南太守。クヤウカウ 公羊高 (周)コの條を見よ。クヨ 區瑛 (宋)字は良玉。南海の人。仕へて德慶參軍と爲る。官に居りて廉介、聲あり。

グヨ

グヨ 虞預 (晉)字は叔蕪。餘姚の人。兄喜、博學好古。散騎常侍たり。著書數十萬言。預、少にして學を好み文章あり。瑗亮等、其才行を薦む。太興中、秘書丞著作郎に遷る。晉書四千餘卷、會稽典錄二十篇を著す。

クリヨウヤク

クリヨウヤク 虞龍躍 (清)字は天門。湖南武陵の人。崇禎の時、拔貢。性、游を嗜み兀傲自ら喜ぶ。明亡びて後常に逃亡して歸らず。至る所、題咏あり。自ら絶壁の上に鐫り稿を瓢中に納む。自ら一杓行脚道人と號す。詩、奇氣あり、蕪塞の音多し。

グレイ

グレイ 虞荔 (南北)餘姚の人。年九歳、陸倕、五經の義を問ふ。荔、對へて遺失なし。長ずるに及びて善く文を屬す。梁の武帝の時、士林館を附き、命じて學士とす。クレツ 野烈 (漢)豫章の人。許孫に事へて仙術を得たり。元康中上昇す。集仙傳に見ゆ。

クワイウ

クワイウ 和勇 (明)初名脱々字羅和。寧王阿魯台的孫。宣宗の時、指揮使を襲ぐ。天順元年、名を和勇と賜ふ。功を積み左都督に擢拜し靖安伯に封せらる。十年卒す、武敏と諡す。

クワイク

クワイク 隗囂 (漢)字は季孟。天水成紀の人。王莽の末に兵を起して漢に應ず。高祖太宗世宗の廟を起し將士を集めて其前に誓ひ、兵十萬を勸して雍州牧陳慶を擊殺し、又安定大尹王向を廢す。遂に諸將を分遣して隴西、武都、金城、武威、張掖、酒泉、燉煌を徇て皆之を下す。更始、以て右將軍と爲す。光武即位す。囂、更始に説き政を歸さしむ。更始聽かず。囂遂に疾を稱し亡げて天水に歸る。建武二年鄧禹、赤眉を撃つ。將馮異叛して天水に向ふ。囂迎へ撃て之を破り、盡く輜重を獲。禹、制を承けて囂を西州大將軍と爲す。又赤眉を伐て之を敗る。囂乃ち使を京師に通ず。光武殊禮を以

クワイオン

クワイオン 蒯恩 (晉)字は道恩。膽力人に過く。仕へて龍驤將軍たり。黃州横江館を建つ。杜牧の詩に云ふ、孫家兄弟昔龍驤、馳騁功名樂帝王、畢竟功名誰是主、答機空屬釣魚郎。

クワイガウ

クワイガウ 隗囂 (漢)字は季孟。天水成紀の人。王莽の末に兵を起して漢に應ず。高祖太宗世宗の廟を起し將士を集めて其前に誓ひ、兵十萬を勸して雍州牧陳慶を擊殺し、又安定大尹王向を廢す。遂に諸將を分遣して隴西、武都、金城、武威、張掖、酒泉、燉煌を徇て皆之を下す。更始、以て右將軍と爲す。光武即位す。囂、更始に説き政を歸さしむ。更始聽かず。囂遂に疾を稱し亡げて天水に歸る。建武二年鄧禹、赤眉を撃つ。將馮異叛して天水に向ふ。囂迎へ撃て之を破り、盡く輜重を獲。禹、制を承けて囂を西州大將軍と爲す。又赤眉を伐て之を敗る。囂乃ち使を京師に通ず。光武殊禮を以

クワイキ

クワイキ 隗禧 (南北)字は子牙。京兆の人。少うして學を好む。三輔の亂、禧經書を擔負して之を誦習す。郡中に拜せらる。享年八十餘。老を以て家に處るや、遠方より來り之を就て學ぶ者甚だ多し。

クワイキン

クワイキン 蒯欽 (晉)惠帝の時、楊駿太子を過す。嘗て馬援をして成都に往き公孫述を觀しむ。援歸り囂に謂て曰く、子陽(述の字)は井底の蛙のみ、意を東方より專にするに如かずと。囂乃ち援をして書を洛陽に奉ぜしむ。既に歸る。囂問ふに東方の事を以てす。援曰く上、才明勇略、人の敵にあらず。囂曰く卿謂ふ高帝に何如。援曰く、如かず、高帝は可もなく不可もなし、今上は吏事を好み、動くこと法度の如し、又飲酒を喜ばすと。囂懼びずして曰く、卿が言の如くんば反て復勝れりと。子を遣て入て待せしむ。幾もなくして公孫述に通ず。述立て、朔寧王と爲す。光武遂に馬援を郷導として囂を撃つ。囂西城に奔り、病て餓死す。子純降る。

クワイコ

振はず。クワイコウ 懐公 (周) 晋の君。姫姓。名は周。恵公の子。立て一年秦穆公兵を發して獻公の公子重耳を内る。國人亦内應して懐公を殺す。

クワイコウ 懐公 (周) 秦の君。姫姓。懐公の弟。立て四年庶長重耳に弑せらる。クワイコク 喙鷁 (周) 孝子。鷁珠を啣み之を與ふ。

クワイサイ 隗崔 (漢) 隗西の人。隗黨の叔父。白虎將軍たり。素より俠名あり。黨に勸め漢に歸して王莽を伐たしむ。クワイシンカカン 懐信可汗 (唐) 回紇主。名骨咄祿。本跋跌氏。奉誠可汗に相たり。可汗死して子なし。國人之を立つ。永貞元年死す。

クワイジンカカン 懐仁可汗 (唐) 回紇主。名骨力裴羅。護輪の子。天寶の初烏蘇可汗を撃て之を敗り、後三年襲て頓跌伊施可汗を斬る。唐封じて奉義王と爲す。後に骨咄祿毗伽懐仁可汗と爲す。裴羅攻戰して斥地愈々廣く、東は室韋を極め、西は金山、南は大漠を控へ、盡く古匈奴の地を得。クワイシヤウ 隗相 (漢) 隗爲の人。母に事へて孝なり。母江邊の水不潔なるを惡み、必ず江心の水を得て乃ち就て飲食す。相舟を以て之を汲む、其の流の急なるを患ふ。後江心忽ち一石を出す舟乃ち依るべし。人以此孝の致す所となす。朝廷徵して拜して耶と爲す。

クワイズ

クワイズ井ケイ 會瑞卿 (元) 湯夫と號す。錢塘に居り。畫を善くす。山水は范寬を學ぶ。

クワイセイ 黃暉 (周) 孔子の弟子。クワイセウ 隗炤 (晉) 汝陰の人。終りに臨み板に書し妻を授けて曰、後五年春當に詔使來る有らむ、姓は隗、此人吾に金を負へり、即ち此の板を以て往いて責めよと。其期に至り果して使あり至る。妻板を齎らして往く。使者悵然其や久しうして乃ち悟り、若を取て之を篋し嘆じて曰、吾金を負はず、汝が夫自ら金あり、汝が漸く困しむを知る、故に金を藏し以て知るを待てり、我易を善くす故に板に書し以て意を寓するのみ、金五百斤盛るる背篋を以てし、覆ふに銅并を以てす、屋東に在り、壁を去ること一丈、地を入ること九尺と。之を知るに果して是の如し。

クワイソ 懷素 (唐) 高僧。京兆の人。范氏。初め玄奘に從つて學を受く。後専ら律部を攻め、遂に別に一家を立つ。詔を奉じて西太原寺に住す。著す所、開四分律記、俱舍論疏、遺教經疏、拾遺鈔、四尼僧尼羯磨文、四分僧尼戒本等あり。七十四歳にして示寂す。

クワイテイ 懷帝 (晉) 孝懷皇帝を見よ。クワイツ 華軼 (三國) 字は彦夏。少にして才氣あり當世に聞ゆ。汎愛博納なり士論之を美とす。江州の刺史を歴し甚だ威惠あり江表の歡心を得。流亡の士、之に赴くこと歸するが如し。

クワイテツ 蒯徹 (漢) 字は通、涿郡の人。楚漢の時の説士。權變あり。武信君嘗て其の策を用ひ、燕趙三十餘城を降す。韓信其の計を用ひ、遂に齊の地を定む。自ら其の説を序し、號して尙永と曰ふ。凡八十一首。クワイト 懷都 (元) 幹魯納台氏。祖阿朮魯は太祖の功臣。懷都其職を襲く。李璉の叛せしとき親王哈必赤に從ひ征討し、功最に居り。至元の初、山東統軍使に拜せらる。宋軍と戦ひ屢々之を破る、行省參政に累官す。

クワイマシ 外麻思 (元) 杭忽思の妻。杭忽思戰死す。外麻思に勸して、兵を領し國を守らしむ。輒ち躬ら甲冑を撰き叛亂を平定す。

クワイリヤウ 蒯亮 (五代) 南唐に仕へ海州録事參軍たり。多く徐鉉と往還す。鉉送るに詩を以てして云ふ、昔年聞有蒯先生、二十年來道不行、抵掌曾談天下事、折腰猶有俗人情、老還上國風光薄、實理歸裝結束輕、遷客臨流重惆悵、晚風黃葉滿都城、クワイワウ 懷王 (周) 楚の君。芊姓。名は熊槐。威王の子。十一年蘇秦六國に遊説し從を約し秦を攻む懷王を以て從の長と爲す攻めて函谷關に至る。十六年秦惠王齊を伐たんと欲す楚と齊と從親するを患ふ。乃ち張儀をして楚王に説かしめて曰く、王關を閉ちて齊に絶たば請ふ商於の地六百里を獻せんと。懷王之を信じ勇士をして齊王を

クワイテ

宮甚だ之を器遇す。關門宣贊舍人に除せられ、後、疾を以て間を乞ふ。齊宗立ち、召し帶御器械に除す。改められて武衛將軍に在り。金使至る。夷行に命じて武衛副使に充つ。武功大夫に轉す。クワイワカン 黃夷簡 (宋) 字は明舉。福州の人。父廷樞、王審知に事ふ。夷簡、少より孤、學を好みて名あり。初め吳越に仕へて光祿大夫を襲す。後、錢俶に隨ひて入朝す。官、平江軍節度副使に終ふ。夷簡、喜んで談論し、善く文を屬す。尤も詩に工に、老て廢まず。太宗、其嘗て叙に勸めて入朝せしめしを以て、寵遇を加ふ。クワイクキ 黃毓祺 (明) 崇禎末の貢生。屢清兵に抗す。力足らず、執へられて戮に就く。クワイツ 光逸 (晉) 字は孟祖。博昌小吏たり。縣令命じて客を送らしむ。歸途雨雪を冒し、舉體凍濕す。還りて令の不在に値ふ。衣を解き煉り、竟に令の被中に入り臥す。令還りて之を見て大に怒り、將に嚴罰を加へんとす。逸曰く、家貧にして衣の代ふ可き無し。若し暫らく温まらざれば、必ず凍死を致さん、奈何ぞ一被を惜み、一人を殺さんとはすると。令、奇として之を釋す。初め逸、難を避け江を渡り胡母彦國に投せんと欲す。正に彦國謝鯨諸人の散鯨深を排し入らんとす。守者之を止む。逸便ち戸外に於て衣を脱し頭を露はし、狗糞より

クワイウ

辱しめしむ。齊王大に怒り秦と合ふ。楚王一將軍をして秦に入り地を受けしむ。張儀曰く某より某に至る廣袤六里と。王大に怒り秦を伐て大に敗る。三十年秦昭王書を遣り武關に會せんとす。王往く秦之を執へて歸る。王遂に秦に客死す。楚人之を憫む。クワイワウ 懷王 (漢) 齊王。姓は劉。名は閔。武帝の子。子なくして絶つ。クワイワウ 懷王 (漢) 梁王。姓は劉。名は揖。文帝の少子。馬より墮ちて死す。子なくして絶つ。クワイワウ 懷王 (漢) 城陽王。姓は劉。名は淑。章帝の子。子なくして絶つ。クワイワウ 懷王 (漢) 平原王。姓は劉。名は勳。和帝の子。子なし河間孝王の子異をして祀を嗣がしむ安帝之を廢す。クワイエツ 劇越 (漢) 字は異度。南郡の人。劉表荊州の刺史たり。時に寇賊縱橫、道路梗塞す。表單馬宜城に入り、南郡の名士蒯良蒯越に請ひ與に謀る。越其れをして賊帥を誘ひて之を襲はしむ。至る者五十五人、皆之を斬て其を衆を取る。遂に治を襄陽に徙し、郡縣を鎮撫し、江南悉く平ぐ。クワウアン 黃安 (漢) 代郡の人。年萬歳餘にして貌童子の若し。常に殊砂を服す。舉身皆赤し。衣を着けず。一神龜に坐す。龜の背三三尺。時人、安に龜に坐すると幾年と問ふ。曰く、三千歳にして乃ち一たび頭を出す、我龜を得てより以來已に五出頭と。行くには則ち龜を負ひて趨る。武帝其

クワイウ

異を聞き、毎に風禮す。帝の泰山に封するに及び、董調、李充、孟岐、郭瓊、黃安の五人に詔して登を同じうす。之を五曲臣と謂ふ。帝崩す。即ち去りて之く所を知らず。クワイウ 黃友 (宋) 字は龍友。平陽の人。初め大學に入る。曰く、大丈夫國の爲に功を立てる能はずんば亦た遺物中の贅物のみと。後、兵を太原に提げ、敗れて敵に執へらる。曰く、降らば汝を赦さん。友、厲聲して曰く、男兒死ば則ち死のみ、肯て賊に降らんやと。遂に害に遇ふ。クワイウガン 黃友顔 (宋) 字は顔徒。貧樂齋を作る。黃山谷二詩を以て之を詠す。其一に曰く、小山作朋友、義重子與桑、香草當姬妾、不須珠翠裝、鳥鳥窺凍硯、星月入幽房、兒報無炊米、浩歌遠屋梁と。クワウイウブン 黃友聞 (宋) 字は聞善。都氏兄弟と杯酒相交る。山谷詩あり云く、自入醉鄉無畔岸、心與黃伯爲友朋、更爾罵坐客星散、午過未蘇髮鬢鬢と。クワウイカウ 黃夷行 (宋) 字は用之。浦城の人。父革、宣和の間、武舉に中りて官、武功大夫に至る。夷行、蔭を以て官に補せられ監分寧酒稅に調せらる。嘗て論を建て、將帥に委れて舟師を訓へ、及び銓選人を用ふるの利害をいふ。會々其説を以て孝宗に聞する者あり。乃ち便殿に召對して旨を授く。尋て假泉州觀察使知關門事として金使し、還りて主管左右春坊事たり。東

クワイウ



魏の大に呼ぶ。彦國驚きて曰く、他人能はず、必ず我が孟祖ならんと。遽に呼び入れて與に飲む。

クワウイツ 黃鑑 (宋)七歳、言ふ能はず。其祖、風骨の美なるを喜び、物に遇うて之を侮ふ。一日携へて池上に至る。祖曰く、正馬池中走。對へて曰く、游魚波上浮。後、台閣に任ず。一、黃鑑と云ふ。

クワウイチイ 黃以寧 (宋)字は永宗。永春の人。慶元中上舍、稱揚して嘉陽に分教す。太學録に擢てられ、淮西漕司幹官に差せらる。暮暈明辨なり。漕使之を憚る。改秩して通判建寧たり。守、其の抗直を忌み、蓋人を曠して之を劾す。父老遽り留むるも、數千を以て計ふ。里に歸り門を杜ぢ、後進を延接し、經籍を講論し、聲々として倦を忘る。後、權臣に忤ふ者皆召さる。而かも以寧は已に先つて卒す。

クワウイン 黃隱 (宋)字は仲光。浦田縣の人。唐の校書郎五世の孫。隱、從父理と同じく治平四年の進士。第す。是歲族父君毅、先づ開封を試みられて第一たり、四たび禮部を點す。隱、上書して得る所の恩命を以て君毅に命ぜられんと乞ふ。君毅遂に召試せらる。を得て梅州司戸に除せらる。隱は無錫を乞ふ。最を以て開。元豐中、召されて監察御史となり、殿中侍御史に遷る。剛直敢言、長過する所無し。初め召對するや、神宗、學術を問ふ。時に王氏の學を尊尙す。而かも隱、司馬光を以て

對ふ。旨に稱はる。福建茶鹽の利を問ふに及び、條對甚だ悉くす。上、之を嘉納す。元祐の初、國子司業に守たり。力めて王氏の新を排し、三經の板を取りて之を火く。出て、泗州に守たり。監司郡官を歴ると凡べて此に七任。司馬氏の學を尊ぶに坐して元祐の黨籍に入る。臨終に家人を戒めて致仕を請ふを得る母からしむ。徽宗聞て之を異とし、二子に官を與ふ。靖康の初、直龍圖閣を追贈し、再び其二子に官にす。

クワウイヨク 黃以翼 (宋)字は宗台。維の猶子。永春の人。陳の淳熙和の門人。莊毅にして立つ有り、折理精詣。暮年、記問益々富む。易周禮記あり。

クワウウ 黃瑀 (宋)字は德謙。閩縣の人。郡縣を歴知す。己を潔くして人を愛す。御史に擢てらる。時に王繼先、書を以て争を得、繼先威勢を弄す。中外目を側づ。瑀、之を論せんと欲す。病て未だ上つるに及ばず。杜華老、來りて疾を問ふ。三呼すれども應ぜず。華老曰く、今日王繼先を撃ち去りぬと。瑀即ち躍然起つて曰く、君能く職に任ず、此の若くば吾が願ひ足ると。因て袖中の草を出して之を示す。即ち繼先を劾するの疏なり。奄然として逝く。子幹。

黄戦の業を終めて以て北甸の嶺たらしむ。官、正議大夫に至る。

クワウエイチン 黃永年 (清)字は靜山。號は崧甫。江西廣昌の人。乾隆元年の進士。累官して常州府たり。臨む所政聲あり。永年、京師に在るや、方望溪、雷學蔭等の諸儒と文學を討論し、志節を以て自ら勵ます。著す所の詩古文を南莊類稿といふ。

クワウエキウ 黃松芸 (清)曾て金田の朱錫珉と兵を合して逆賊に黨す。咸豐中、軍敗れ、黄河に赴きて死す。

クワウエツ 黃鵠 (金)簡を善くす。將尉に精し。

クワウエンハイ 黃延平 (宋)字は曼卿。永豊を知す。紹興四年、盜起る。曼卿、尉將に命じ、出て、之を捕へしむ。先づ首惡に途に遇ひて皆之を殺し、且つ其同惡二人を戮し、其徒九人を俘にして之を上る。事遂に平く。

クワウオウウンノツマ 黃應運妻 (明)顔氏。亂兵其家に至り姑を殺さむと欲す。顔氏泣訴して代るを願ふ。顔氏を受くるを見、妾又奔り來て曰く、主母を殺して我を殺せと。兵卒其義に感じ阿ながら之を放つ。クワウオウシン 黃應中 (明)何許の人なるを知らず。隆慶中、溥梧左參將に補せらる。萬曆の間、無敵嗣王鮑時秀を伐て之を降し、又倭寇を却け、功を以て倉左軍府に累遷す。尋て罷め歸る。

クワウカ 黃何 (宋)字は景蕭。休寧の人。

賊は爲すべからずと。皆に長子觀を遣はし、陳靖と與に兵を漕使陽克國に乞はしむ。賊之を聞て怒り、萬錫と其次子とを帳下に坐せしめ、双を持して頸に臨む。父子神色自若、爲し屈せず。既にして觀等、兵を以て至り、賊平ぐ。詔して其忠を嘉す。尋て老を請ひ、疾を以て終ふ。觀、家を新州司法に起し、薦められて省府に歷任す。紳として能聲あり。兵部員外郎に終ふ。

クワウエイ 黃頴 (宋)字は仲實。嘗て陳襄に從ひて馬陵に學ぶ。襄、其文行を愛して經社を置く。孫華老、廣德を治す。穎、詩の疑義を授き以て問ふ。華老、之を奇とす。元祐間、經明行修科に擧げらる。時に天下就かざる者二人、穎は其一なり。哲宗その人と爲り問ふ。適々華老、中丞たり因て其學行を録して以て對ふ。詔して袍笏を降し、三たび其家に就て之を起す。始めて清溪尉に調せられ、劍浦簿に歷す。郡守方全道、官を改むるを以て穎を罵む。力辭して同列に譲らんと請ふ。後、知長泰縣たり。學舎を修治し、一も備はらざる無し。晨に邑事を治し、日中に諸生と經言を講肄し、暮に退びて歸る。權龍溪尉と爲りて卒す。二縣の士民、金帛を齎らし以て贈す。其子公温、一も受くる所無し。

クワウエイソン 黃永存 (宋)字は堅叟。中美の第四子。紹興二十四年登第す。才能を以て世に聞ゆ。召されて尙書郎官軍器監たり。淳熙中、出て、淮南轉運副使たり。

乾道中の進士。大治簿に調せらる。邑、鉄を産す。尉、巡警すれば、盜賊者四千、起つて敵を爲す。何、至り、匹馬往き驗し、其具を焚く。一境晏然たり。遂に朱文公の門人萬人傑を延きて學者の師とし、趨向を知らしむ。後、知岳州たり。廉頗を以て稱らせる。朝議大夫に歴官す。子開、斬州通判たり。

クワウカ 黃嘉 (宋)澤郷の人。靖康の初、太學生たり。陳東に從ひ關に伏し上書して蔡京を誅し及び李綱を用ひんと請ふ。後、廉州司事參軍に終る。

クワウカ 黃珂 (明)字は鳴玉。遂寧の人。成化二十年の進士。龍陽知縣を授けらる。治行を以て聞ゆ。官工部尙書に至る。卒して太子少保を贈り、簡肅と諡す。

クワウカイ 黃玠 (宋)字は伯成。定海の人。震の曾孫。幼より聰敏善記。長ず。比ひ先訓を服膺し、博洽通ぜざる所無し。志尙卓然、俗に墮ちず。躬行力踐、古聖賢を以て自ら期す。隱居教授し、二老を孝養す。其名を聞く者、争うて彼を遣り之を迎へ致す。浙を渡りて四する毎、富家官族、其德學を尊び、爲に館命を築き之に居らしむ。嘉興山水の勝を樂み、室を弁山に築きて隱る。趙子昂黃皆卿と相友とし善し。著、弁山集、知非集、真韻錄、唐詩選、各々若干卷あり、世に行はる。卒する年八十。

クワウカイ 黃介 (宋)字は剛中。意氣卓越。德祐元年、北軍、岩に至る。衆奔潰す。

介、堅守して去らず。且つ射、且つ詔る。六矢面に中る。爲に動かさず。顧みて家僅陣力に謂て曰く、爾力を盡して走らざれと。力曰く、主此に在り、何ぞ走るとせんぞ。介、身、鏃を被ると朝の如く、面頸復た十三矢に中り、棚に倚りて死す。力亦死す。妻劉、掠めらる。子用中、逃れて死せざるを得、壯に及びて母を四方に求む。十年を遡えて京師に得、以て歸る。州里稱して黃孝子とす。

クワウカイ 黃璽 (三國)字は公覆。零陵の人。赤壁の役、璽、周瑜に謂て曰く、曹操が軍、方に船艦を連れ、首尾相接す、燒きて走らすべしと。璽、十船を以て、先つ進み乾荻枯柴を載せ、油を其中に灌ぎ、帷帳を裏み、上に旌旗を建て、豫め走射を備へて其尾に繋ぎ、先づ書を以て操に遺り、詐りて降らんと欲するまねす。操の軍皆指していふ、蓋降ると。時に東南の風急なり。益乃ち火を放ち、衝きて操の艦を燒く。操大に敗る。功を以て偏將軍を加へ、江表の虎臣とす。

クワウガイ 黃概 (宋)字は平叔。龍溪の人。學を好み行を力む。父忠助、疾に遭ふ。皆を傾けて醫を求む。或は言ふ、子孫の計にあらずと。概、泣きて曰く、苟も疾愈はば子孫飢饉すと雖も亦憾無しと。父年九十六。母鄭氏、年九十九。將に卒せんとし曰く、人の子として爾が若き者は少し、吾願くば爾が子孫と爲り以て報せん。言ひ

訖つて卒す。後、概、承議郎となる。月を  
彌りて其舅を夢む。曰く、吾れ某月某日某  
時、爾が子とならんと。産するに及び、果  
して男を得たり。彦臣と名く、幼より聰慧、  
後、官、朝散大夫に至る。朝廷、概を封じ  
て承議郎とし、緋を賜ひ、累れて朝散郎を  
贈る。子孫登科絶えず。人、以て孝行の報と  
す。子彦臣。

クワウカイ 黄艾 (宋)字は伯馨。莆田の  
人。乾道の進士、第二人。光宗の朝、名儒  
を以て嘉王贊え充てらる。寧宗の時、左司  
諫權工部侍郎兼侍講に擢てらる。既にして  
中書舍人に除せられ、刑部侍郎に改めらる。  
クワウカウ 黄香 (漢)字は文強。安陸の  
人。年九歳にして母を失ひ、父に事へて至  
孝。夏月は枕席を扇ぎ、冬は則ち身を以て  
被を温む。太守劉護、召して門下に署す。  
甚だ愛敬せらる。香、經典に博通し、文章  
を能くす。京師號して天下無雙、江夏黃童  
と曰ふ。肅宗詔して之を召す。乃ち東觀に  
詣り、未だ見ざる所の書を讀む。又召され  
て安福殿に詣り、政事を言ふ。尙書郎に拜  
せられ、尙書令に遷る。子瓊。

クワウカウ 黄浩 (唐)黄巢の従子。乘を  
率ひ江湖間に盜し、自ら涇蕩軍と號す。後  
に殺さる。  
クワウカウ 黄亢 (宋)字は清臣。浦城の  
人。少より聰穎人に過ぐ。文詞奇偉。嘗て  
錢塘に遊び、詩を以て處士林逋に贈る。逋  
之を激賞す。時に杭州守王隨、奏して西湖を

禁して放生池となす。亢、詩數百言を作り  
以て諷す。士人之を傳誦す。東溪集二十卷  
あり。

クワウカウ 黄衡 (宋)字は平國。浦城の  
人。建炎中、進士に第し、安福令となる。  
郡守呂源方、六月に城壁を修せんと欲す。  
衡、書を以て諫め、且つ謂く、慶陵の諸邑、  
累り兵火に困み、之を加ふるに尤早あり  
豈重役に堪へんやと。郡守書を得て之を効  
す。朝廷、其事を憲司に下す。體殿して實  
を得たり。因州教官と爲る。未だ幾ならず。  
丞相趙鼎參政孟度の薦を用て館職に試せら  
れ、秘書正字に除せられ、校書郎に遷る。  
累りに補外を丐ひて邵武軍倅を得、家に至  
りて卒す。

クワウカウ 黄灝 (宋)字は商伯。都昌の  
人。父唐鑿、平陽丞たり。廉正にして通達。  
灝、幼より穎悟、書史目を過ぐれば終身忘  
れず。進士に擧げられ、歴官して廣西轉運  
判官たり。初め朱熹、南康に守たり。時に  
灝、質疑問難す。熹、歿す。灝、蔡方に嚴な  
り。灝、單車往赴して少しも懼れず。卒し  
て文簡と諡す。

クワウカウ 黄鑑 (明)字は叔高。侯官の  
人。正統十二年の進士。御史に擢てらる。  
天順中、南京戸部尙書に歴進す。十九年致  
仕し道に卒す。太子少保を贈り、襄敏と諡  
す。  
クワウカウ 黄鰲 (宋)連江の人。六歳、  
詩を能くす。博思敏捷なり。對を設くる者

あれば聲に應じて答へ、的に中らざる無し。  
祥符八年、童子に擧げられ、進士出身を賜  
ふ。

クワウカウケン 黄向堅 (清)字は端木。  
江蘇吳縣の人。清の初、父孔昭、雲南に官  
す。兵に阻てられて歸る得ず。向堅、子身  
往きて之を尋ね、白旗井に至りて父母及び  
從弟に遇ふ。皆慈なし。一年を踰え、親を  
奉じて歸る。順治の朝の八年十二月より始  
めて十年六月に訖る。往返二萬六千餘里。  
吳人、樂府を作りて以て其事を傳ふ。向堅、  
繪事を善くす。寓す所は皆其の歴る所の滇  
中の山水なり。

クワウカウセン 黄孝九 (宋)字は子思。  
浦城の人。廣州尉たり。宿州司理に改まる。  
死罪を活す者十有六人。呂遵路輩、善く  
獄を治するを以て薦む。大理丞に遷り、知  
咸陽縣たり。太常博士通判石州に終る。太  
中大夫職方郎中を累贈す。著す所の詩二十  
卷あり。蘇軾、爲に之に序す。  
クワウカク 黄覺 (宋)字は民先。景德二  
年の進士。殿中丞に任ぜらる。詩名あり。  
楊文公、劉子儀、章節公、宋宣獻公、之ミ  
唱和す。仕官意の如くならず。客を都門の  
外に送り、至れば則ち客已に去る。一道士  
の側に在るを見る。因つて携ふる所の酒肉  
を取りて與に同く飲む。既に罷む。道士  
水を掬して呂字を寫す。始めて其の呂洞賓  
道士たるを悟る。曰く、明年江南に相見ん  
と。後、果して官を江南に得、期に及びて

道十を見る。道士、火錢七文、次は十文、  
又た小錢三文を出して之に與へて曰く、數  
は益す可からず。又た藥數寸を與ふ。藥  
も亦盡くるに垂んとす。詩を作りて曰く、  
牀頭歴日無多字、屈指明年七十三と。果し  
て是の歳を以て卒す。

クワウカク 黄岳 (唐)雍德の人。經典に  
博通し、尤も易中庸の二學に達し。唐末、  
郷貢に由りて大學に入る。巢寇、闕に入る。  
地を避くる者衣食する所無し。岳が施に勤  
め長者の風あるを聞き、從ひ歸するもの市  
の如し。賴つて死せざるを得る者甚だ多し。  
乾寧中、王審知、節度威武軍たり。屢々辟  
して歸となさんとす。力辞して就かず。已  
にして朱溫、唐を篡ふ。審知、王號を竊み、  
必ず岳を起さんと欲す。岳、拒む能はざる  
を度り、遂に淵に投じて死す。邦人之を哀  
み、相與に祠を立て、祀る。

クワウカクカウ 黄學行 (宋)字は上文。  
惠安の人。嘉定戊辰の第に登り、全州に教  
授す。嘗て歴代の褒封、先聖の故實、冠服  
箕享の儀注を疏して之を上る。旨あり、胃  
監を領す。後、知循州たり。時に竊寇、松  
梓山に據る。招捕使、兵を合して之を破る。  
嶺外に奔逸す。學行、激厲、追うて其首を  
擒にす。勞を以て遷秩す。史記通鑑類集あ  
り。  
クワウカクカウ 黄學舉 (宋)字は習之。  
龍溪の人。博く經史に通ず。初め儒學の流  
として翻けらる。之を久しうして始めて第

に擢てられ、再轉して鄆陽丞と爲る。嘗て  
采文公語錄を校勘し、また評話一冊を著し、  
及び東坡詩集を補註す。  
クワウカクキウヂウ 黄福九住 (金)臨漢  
の人。明昌中諸官を歴して彰德府事たり。  
元兵に遇て戰歿す。

クワウカクケイ 黄覺經 (宋)南城の人。  
五歳、亂に因りて母を失ふ。稍長じて天に  
誓ひ佛書を誦し、母の所在を求むるを願ふ。  
乃ち江を渡り淮を渉り、行く行く乞うて往  
き、風を衝き雨を冒し、備に艱苦を歴ると  
凡て三十八年。汝州梁縣に至りて之を得。  
至治中、其門閭に旌表す。  
クワウカクシユ 黄學朱 (清)甌寧の人。  
邑の諸生たり。賊に遇ひて弟と俱に執へら  
れ、兩りながら全きと能はざるを度り、乃  
ち賊を給きて曰く、家に薄産あり、吾が弟  
を釋さば歸りて其直を以て我を贖はんと。  
賊遂に其弟を釋き歸らしむ。實は業の售る  
べきもの無きなり。未だ幾ばくもなくして  
竟に害せらる。聞く者之を哀む。  
クワウカクテキコホン 黄福敵古本 (金)  
阜統六年、軍功を以て世襲千戶を授けられ、  
棟州防禦使に終る。

クワウカクツ 黄歎 (周)黔中の。戰國の  
時、楚の相となり、春申君と號す。楚に相  
たる二十餘年。門下の食客三千人、其上  
客は皆珠履を躡む。趙の使者之を見て大に  
慚づ。趙人李園の妹を娶る。其の娠むる  
を知り、乃ち之を出して謹て舎せしむ。時

に楚の考烈王、子無し。歎、これを王に言  
ふ。王召して之を幸す。遂に男を生む。立  
て太子と爲し、園の妹を后と爲す。王薨す。  
太子立つ。是を幽王とす。李園亦た貴くし  
て事を用ふ。乃ち春申君を忌み、甲士を朝  
内に伏せて之を刺殺す。

クワウカツ 黄福 (唐)國の人。學問を喜  
び軒然として志あり。同列に其筆を假る者  
あり。怒りて曰く、是の筆、他日當に大事  
を斷ずべし、他に假すべからずと。後、董  
昌に害せらる。  
クワウカフ 黄洽 (宋)侯官の人。大學士  
を以て致仕す。嘗て言ふ、家に居て天を欺  
かず、仕へて君を欺かず、仰いて天を欺か  
ず、俯して人を欺かず、幽は鬼神を欺かず  
んば、何ぞ福報を求むるを用ひんやと。洽、  
直質にして端亮、兩朝の名臣たり。  
クワウカフン 黄甲雲 (清)字は唱韓。  
河南の人。書に工に、能を善くす。順治間、  
拔貢を以て樂安縣知縣を授けらる。任に在  
むの後、其土田を相して邱田法を作り、圖  
を繪きて之を大府に上る。大府、以聞す。  
天子之を奇として圖を留め、特に屯田御史  
を設く。甲雲また詩に工に、楚游草の著あ  
り。

クワウカン 皇侃 (南北侃、學を好み、  
尤も三禮に長ず。國子助教たり。梁武帝召  
して壽光殿に至り禮記を説かしむ。帝甚だ  
之を嘉し、散騎常侍を加ふ。  
クワウカン 黄鑑 (宋)字は唐卿。浦城の

人。少より敏慧人に過ぐ。進士に擧げられ...

クワウカン

黄鑑 (宋) 黄鑑を見よ。...

クワウカン

黄謙 (明) 陝の關縣の人。...

クワウカン

黄侃妻 (清) 休寧派漢の人。...

クワウキ

黄驥 (明) 全州の人。...

クワウキ

黄照 (清) 字は維紐。...

クワウキ

黄九霄 (明) 餘姚の人。...

各弱冠を以て尚聲を儒林に負ふ。...

クワウキ

黄贊 (宋) 字は仲實。...

クワウキ

黄暉 (宋) 字は景微。...

クワウキ

黄希毅 (明) 工に松を畫く。...

クワウキ

黄龜年 (宋) 字は德昭。...

クワウキ

黄聖 (明) 字は仲固。...

クワウキ

黄玉 (五代) 上猶の人。...

世實を以て官に補せられ、初め特化尉に任...

クワウキ

黄希 (宋) 字は夢得。...

クワウキ

黄輝 (明) 字は平情。...

クワウキ

黄玉崑 (清) 桂平の人。...

クワウキ

黄去私 (宋) 臨川の人。...

クワウキ

黄去疾 (宋) 邵武の人。...

クワウキ

黄劍 (明) 字は珍夫。...

九出て、逆撃す。軍を分ちて三となし、銅中軍に將たり、其二軍の師は皆執務子なり。日本銳卒を以て中軍に當る。銅、勁弩巨礮を發して戦ふこと良久し。偶々二軍の師敵を擊つ。銅腹背敵を受け、遂に執はる。之を脅かして降さんとす。風せず。責むるに金贖を以てす。銅笑ひ且つ罵て曰く、爾が黄大夫の錢を愛まざるを知らざるかと。日本入怒り、裸して之を寸斬す。浙江參議を贈らる。

クワウクンユ 黃君翁 (宋)字は廷食。校書撰の玄孫。父問、字は公裕。五經に博通す。上林義齋を創め以て英傑の士を聚め、立て五規を爲る。一に曰く修身謹行、二に曰く立志抗節、三に曰く潜心經術、四に曰く留意世務、五に曰く限日取功と。卒す。皇甫秘、之を誅して義威逸士と曰ふ。君翁幼より強學、書百卷を著し、名、京師を動かす。開封に試みられて進士第一たり。四たび禮部に點す。鄭綱、滕甫、王珪、交々章して論薦す。舍入院に召試せられて國子監直講に除せられ、太常主簿兼禮院檢詳文字密學に遷る。陳襄また朝に薦む。眞州軍事推官に除せられ、金壇縣を治し、崇文院校書に歴官し、館閣校勘に遷りて卒す。

仕へて禮部侍郎に至る。學行あり、典禮に習ふ。陳迪に愛敬せらる。後燕王に禽はれ屈せずして死す。

クワウクワン 黃桓 (唐)郡武の人。母の喪に居り、慕に廬する三年。芝あり、墓側に産す。貞觀中、門閭に旌表す。同郡の張巨錢、亦た母の喪に居り、墓に廬する十三年。永淳の初、其賦役を蠲く。

ひて學ぶ。時、之を器重す。工曹たるに及び、守將、其才を高しとし、數々奏するに事を以てす。適々諸邑大水あり。吏、多くは使者の意を希ひ、實を以て聞せず。錢、獨り實を告げて田祖十の八を蠲く。使者怒る。錢、占筮詳雅、卒に初め請ふ所の如し。再び西安丞に調せらる。靖康の初、李綱、河東を宣撫す。辟して幕屬とす。高宗、監察御史に拜す。首として十事を陳し、深く嘉納せらる。江西提點刑獄に除せられ、力めて奉祠を求め以て卒す。著、奏議雜著、論語類觀、唐史萬論、共二十卷あり。

クワウクワン 黃紹 (明)字は宗賢。黃巖の人。侍郎孔昭の孫。祖族を承け、後府都事に官たり。嘗て謝鐸王守仁を師とす。嘉靖の初、南京都察院經歷に除せらる。病を謝し歸る。六年召して光祿少卿に拜せらる。明倫大典を修す。典成り、詹事錦衣衛事に進む。後累に坐して貶せられ、家に卒す。

路に徒り、右文殿修撰を加へらる。建炎三年、事を以て秩を削らる。未だ幾ならずして盡く原官に復す。

クワウクワンコク 黃煥國 (宋)字は卓卿。洛陽の人。天資明敏、經史に涉獵す。紹興辛亥の進士に登る。初め臨汀を宰す。政、民心に協ふ。亂の功あり。朝奉より朝議に轉じ、汀州を通判す。秩滿つ。汀民、轍に臥して之を留め、嬰兒の慈母を失ふが如し。祠を南安に立つ。再び鄞江に遷り、三載にして卒す。

き、遂に恬として進仕の意無し。時に年未だ四十ならず。性尤も善を樂しみ、識る所に給せざる者有れば之を嘲す。郷人其家を名けて黃長者と曰ふ。

クワウクワン 黃綱 (明)字は季侯。光州の人。天啓二年の進士。崇禎中、陝西按察使に歴進す。李自成、使を遣はし降を勸む。綱聽かず。然れども其竟に支ふべからざるを知り、師孔等と井に赴き死す。是れ崇禎十五年十月十一日なり。後に太常廟を贈る。

クワウケイ 黃瓊 (漢)香の子。字は世英。永建中、公卿の瓊を薦むる者多し。徵され至りて議郎に拜せられ、稍々尙書僕射に遷る。瓊、朝堂に爭議す。敢て抗奪するもの莫し。尋て大尉に遷り、邗州侯に封せらる。瓊、首め公位に居り、貪汚を擧奏す。海内翕然として之を望む。卒す。車騎將軍を贈り、諡して忠侯と曰ふ。孫琬。

クワウケイ 黃景昉 (明)字は太輝。晉江の人。天啓五年の進士。庶吉士より庶子直日講に歴進す。崇禎中、太子太保を加へ、吏部尙書文淵閣に累進し、後乞ひ歸る。唐王の時、召されて入直す。幾ならずして家居し、國變の後卒す。

クワウケイ 黃景仁 (清)字は漢編。一字は仲則。江蘇武進の人。八歳にして文を爲る。筆を授りて立るに就る。嘗て九華に遊び、匡廬に陟り、彭蠡に泛び、洞庭に浜る。獨り名山に遊ぶ毎に日を經て出でず。大風雨に値へば或は大樹の下に瞑坐す。牧豎見る者、皆以て異人と爲す。景仁、詩に工に、北宋諸家に入出入す。其の詣る所、青蓮に近しと爲す。著、兩當山房集あり。

クワウケウ 黃曉 (宋)南城の人。太中の進士。流落餘調二十年。嘗て謂ふ、大丈夫當に自ら奮拔すべし、豈能く碌々として人の門下に出てんやと。廬州を通過す。轉運使陳果、威を以て下を攝す。吏、果を訟ふる者あり。朝廷曉を遣はして之を鞠せしむ。人皆危懼す。曉、之を治するに理を以てし、略ぼ意させず。識者歎服す。累官して職方員外郎に至る。

閩中の人。初め劉璋に仕ふ。劉備、四川を襲ふに及び、諸郡皆風を望みて降附す。獨り

クワウケン 黃堅 (宋) 字は東暉。鳳臺の人。紹興の初、登第す。後、曹の屬縣を知

建州に在ると数年、切々民の爲に利を興し

クワウケンホ 黃彦輔 (宋) 得禮の子。金谿の人。政和二年の進士。平江府教授たり

歸りて東菴に隱居す。五經指南、運氣要覽、東菴文集等の書を著す。時に忠孝の家と稱す。

クワウコウセウ 黃公詔 (宋) 字は眞翁。號は在軒。大昌の子。顔會を著す。

與の初、進士第一に擧げらる。時に工に、文を能くす。所著、漢書補誤、及び知稼集あり。

クワウコウバウ 黃公望 (元) 字は子久。一峰と號す。又大癡道人と號す。誦讀の餘

クワウコクサン 黃克讓 (明) 字は紹夫。晉江の人。萬曆八年の進士。知州より右副

太子太師を加へ、歸るを允さる。崇禎元年、南京吏部尙書に起さる。勅する者あり、就かず。家に卒す。

クワウコクチン 黃國楨 (宋) 字は子若。元符三年登第す。福清尉たり。孤介犯すべからず

クワウコウイ 黃采 (清) 字は亮工。南城の人。言動苟もせず。程山に師事す。篤志力学。父母に事へて純孝。繼母周、狂を病む。

家禮を以て後進を指引す。風俗爲に一變す。著、聖廟圖學錄、聖學彙編あり。卒する年八十有四。

クワウコウイコウ 黃再興 (清) 洪秀全に仕へて點檢に任せらる。後誅せらる。

クワウコウサク 黃策 (宋) 彦の子。字は子虛。九歳にして能く文を屬す。梁の昭明太子の時

引きて上書す。甚だ切なり。蔡京、之を衝む。初め、欽宗の東宮に在るや、策の名を聞き、隨録室の三字を大書して以て賜ふ。自ら隨録居士と號す。

クワウサン 黃山 (宋)得禮の子。クワウサン 黃璣 (明)字は蘊蘇。永嘉の人。書を善くす。

クワウジ 黃時 (宋)字は景純。寧徳の人。紹熙の初、武舉第四人たり。開禧の初、復た進士の第に登り、累官して知廣徳州に至る。文章政事皆時に聲あり。嘗て聖賢の言行、鑑すべき者百餘條を撰取し、名けて親身録と曰ふ。著す所の詩文辭軒等の集數あり。

クワウジ 黃璽 (明)字は廷暉。餘姚の人。兄は伯震。商して十年歸らず。置出て、求むるに、經行萬里、踪跡を得ず。最後に衡州の南岳廟に禱りて神夢を得、乃ち道州に至る。一日傘を道旁に置きて厠に入る。伯震適々之に過ぎて曰く、此吾郷の傘なりとて、其柄を見るに、餘姚黃廷暉記の六字あり。置出て、同ふ。則ち其兄なり。遂に奉じて歸る。

クワウシイウ 黃子游 (宋)字は叔復。浦城の人。紹興中、倉部郎官より知池州たり。政、中和を尙ぶ。六邑の稅籍を檢察するに唯だ膏陽の稅のみ偏す。惻然として曰く、六邑は皆池州の民、賦入の輕重、何ぞ迥ち相違かると此の如きと。乃ち獎の從つて始まる所と民の久阨伸びざる者とを求め、歸

り之を獎す。旨あり、悉く五邑の例の如くす。命下るの日、百姓呼舞し、相與に祠を建て、之を祀り、且つ之が爲に碑を立つ。クワウシイウ 黃師雄 (宋)字は子敬。福州の人。少より黃幹に從つて學ぶ。實慶の初の進士。婺州教授たり。文學の名あり。知龍溪縣たり。最行あり。監察御史に拜せられて史書之を効罷す。禮部侍郎に終る。簡淡寡慾、醇厚にして守あり。邪正の辨に明かに、甚だ名節を愛護すと云ふ。

クワウジウリヨウ 黃從龍 (宋)永豊の人。嘉定中の進士。鄞州推官たり。元兵、襄陽に入る。鄞、要衝に當る。守將潛に還る。乃ち印を抱き城に登りて大呼す。兵聞ふ。曰く、張總許違の事、正に今日に在り。指を嚙みて死戰報國の四字を書寫し、子孫と共に力戰して死す。

クワウシキ 黃士毅 (宋)字は子洪。莆田の人。號は壺山。徙りて吳に居り。幼より學を嗜む。慶元に道學を詆誹するに方り。徒歩して閩に趨き朱文公を師とす。命じて日に一書を觀、夜は見る所を叩かして、皆ぐるに靜坐して雜喚すると勿く醒めて昏する勿きを以てす。居ると數月、授くるに大學章句を以てす。其身を終るまで斯に従事す。著述甚だ富む。儀禮を注し、文公の書說七卷を撰次す。文集一百五十卷あり。又語錄に因て言を成し、門を分ち序を次して語類一百三十八卷を爲る。嘗て言ふ、孔孟の道は周程に至りて復明かに、朱子に至り

クワウシシユン 黃之鶴 (清)字は石牧。華亭の人。康熙辛丑の進士。官、編修たり。詩を以て鳴る。著、唐堂集あり。時、推して詩學の中興と爲す。

クワウシチヨウ 黃子澄 (明)名は湛。字を以て行ばる。分宜の人。洪武十八年、會試第一たり。累遷して太常寺卿に至る。惠帝即位し、翰林學士を兼ね國政に參す。後燕を圖るの事に坐し疎せらる。クワウシヘキ 黃之璧 (明)字は百仲。上

て大に明かなりと。歳者以て知言と爲す。クワウシシン 黃子信 (宋)長泰の人。文章履行を以て學者の師と爲る。初め新會鹽場に調せらる。師楊長孺、其の老いたるを以て榜して監當と爲し、心に之を易る。嘗て其簿書を撰述す。子信將衣を拂ひ去んとし、投するに詩を以てす。曰く、六年兩度拜宸旒、換得青衫白上頭、飛鶴只因無樹逸、窮猿何暇擇林投、明知著脚當誤我、幾欲抽身不自由、安得有錢了官債、便無三徑也歸休と。長孺、詩を得て之を知るの晩きを恨む。既、歸りて又詩に曰く、笑倩西風拂舊埃、歸時行李似初來、也知三歲清貧好、博得一家強健回と。

クワウシシユン 黃士俊 (明)順徳の人。萬曆三十五年の進士。修撰より吏部尙書に歴仕す。崇禎中、入閣し少傅を累加せらる。侍養を以て歸る。唐王之を召せども赴かず。永明王の時、相に任せらる。辭し歸りて卒す。

クワウシシユン 黃仁榮 (宋)字は輝之。孝先の元孫。恩を以て承務郎に補せらる。帥臣李陵、辟して錄事參軍とし、復た薦めて知金溪縣とす。累官して直務郎たり。建康して盡く州縣の閭閻を賑がんと請ふ。對に及び、高宗、獎諭して曰く、何ぞ田を賑ぐを論ぜん、戸部、總錢五百萬を得るは卿なりと。遂に度支郎中に除す。之を注する者あり。浙東提點刑獄に改め、復た命じて知秀州とす。執政、數々更易するを以て名とす。上曰く、一州、人を得ば、之を更ふる何ぞ害せん。明年、兩浙轉運副使に除せられ、尋て直敷文閣を加へられ、兩江臨安府を知し、知穎州に移りて卒す。

クワウジンケン 黃仁儉 (宋)字は約之。前を謝し歸り數年にして卒す年八十一。江夏郡公に追封し、文獻と諡す。潛業行挺立、五朝に歴仕す。巋然として斯文を以て己の任と爲す。足、銀公勢人の門に登らず。一時其介節に服す。文を爲くるに唯刻にして數萬言。經史の疑義及び古今の因革制度名物の屬を剖析する、旁引曲證、先儒未發のもの多し。著に日損齋集三十三卷、義烏志一卷あり。

クワウジン 黃任 (清)字は莘田。永福の人。康熙壬午の舉人。官、四會知縣たり。詩を以て天下に名あり。著、香草齋集あり。芬芳悱惻、能く人情を移す。乾隆壬午重刊て鹿鳴の筵宴に赴く。閩人士、以て榮と爲す。

クワウジンエイ 黃仁榮 (宋)字は輝之。孝先の元孫。恩を以て承務郎に補せらる。帥臣李陵、辟して錄事參軍とし、復た薦めて知金溪縣とす。累官して直務郎たり。建康して盡く州縣の閭閻を賑がんと請ふ。對に及び、高宗、獎諭して曰く、何ぞ田を賑ぐを論ぜん、戸部、總錢五百萬を得るは卿なりと。遂に度支郎中に除す。之を注する者あり。浙東提點刑獄に改め、復た命じて知秀州とす。執政、數々更易するを以て名とす。上曰く、一州、人を得ば、之を更ふる何ぞ害せん。明年、兩浙轉運副使に除せられ、尋て直敷文閣を加へられ、兩江臨安府を知し、知穎州に移りて卒す。

クワウジンケン 黃仁儉 (宋)字は約之。前を謝し歸り數年にして卒す年八十一。江夏郡公に追封し、文獻と諡す。潛業行挺立、五朝に歴仕す。巋然として斯文を以て己の任と爲す。足、銀公勢人の門に登らず。一時其介節に服す。文を爲くるに唯刻にして數萬言。經史の疑義及び古今の因革制度名物の屬を剖析する、旁引曲證、先儒未發のもの多し。著に日損齋集三十三卷、義烏志一卷あり。

クワウジン 黃任 (清)字は莘田。永福の人。康熙壬午の舉人。官、四會知縣たり。詩を以て天下に名あり。著、香草齋集あり。芬芳悱惻、能く人情を移す。乾隆壬午重刊て鹿鳴の筵宴に赴く。閩人士、以て榮と爲す。

クワウジンケン 黃仁儉 (宋)字は約之。前を謝し歸り數年にして卒す年八十一。江夏郡公に追封し、文獻と諡す。潛業行挺立、五朝に歴仕す。巋然として斯文を以て己の任と爲す。足、銀公勢人の門に登らず。一時其介節に服す。文を爲くるに唯刻にして數萬言。經史の疑義及び古今の因革制度名物の屬を剖析する、旁引曲證、先儒未發のもの多し。著に日損齋集三十三卷、義烏志一卷あり。

黄 (宋)字は伯起。浦城の人。少うして學子の業を習ひ自貢人に過ぐ。試職も遂げず。後辭章書畫を攻む。北京師に遊び四明屠儀部陸と相友とし善し。因て公卿の間に往來す、名一時に重し。

クワウシ 黃申 (宋)并研の人。開慶の初の進士。德安尉を授けられ安樂城を調す。廉蔣にして聲あり。元兵、撫州を以て降狀を索む。安樂令、其僚屬を率ゐる聯署して以て上る。申、獨り抗して往かず。吏民強ひて之を戮致す。申、伴り死す。今、之を如何ともする無し。申、惠愛あり。暮に至り、來、臂き入れて中堂に漬く。爲に免るゝを得たり。遂に逃れて巴山に隠れ以て終ふ。

クワウシ 黃震 (宋)字は東發。慈谿の人。寶祐中の進士なり。仕へて史館檢閱に至る。直言を以て出されて廣徳軍を判す。人となり清介自ら守り、獨り朱子學を崇ぶ。卒す。門人諡して文潔先生と曰ふ。

クワウシ 黃伸 (楚)字は彦發。邵武の人。遠祖惟淡、子に教ふ。皆登科す。世に黃五經と號す。兄、弟、皆名を齊しす。時、河東三鳳に比す。仲、嘉祐六年進士の第に登り、河南縣を知す。文忠烈、之を薦む。賜ふに束帛を以てし、泉州に知さす。學校を建つ。芝、梁に生ず。建州に改めらる。未だ幾ばくならずして殆を稱す。瑞興あり、屬邑に生ず。最治を以て聞ゆ。司農卿に登る。子、沂、沔、皆克く其官を舉ぐ。

クワウシ 黃震 (宋)字は伯起。浦城の人。少うして學子の業を習ひ自貢人に過ぐ。試職も遂げず。後辭章書畫を攻む。北京師に遊び四明屠儀部陸と相友とし善し。因て公卿の間に往來す、名一時に重し。

奉化の人。幼より警悟、肥間に長ず。恬淡  
... 淳安主簿に調せられ、監台州支鹽倉に轉じ、  
郡幕を攝す。軍衣を給するに、糞溲の者あり。  
郡卒、臂を揮ひて縛辱す。坐上、皆措  
福を以てす。羅拜して曰く、黃佛子の言、  
敢て聽かざらんやと。仁儉、書法甚だ精。  
今に至りて石刻猶ほ存する者あり。

クワウシヤウ 黃昌 (漢)字は聖良。餘姚  
... 蜀郡太守に遷る。七百餘訟を斷理して所を  
得ざる莫し。密に盜帥を捕へて諸縣強暴の  
人の姓名居處を條せしめ、掩討して遺脱あ  
ると無し。宿惡大奸是に於て他境に奔走す。  
クワウシヤウ 黃相 (宋)小字は小德。庭  
堅の子。  
クワウシヤウ 黃庠 (宋)分寧の人。博學  
... 崇政殿に引かる。比ほひ、疾を以て時  
に入らず。天子、内侍郡を邸舍に遣はして  
撫問せしめ藥を賜ふ。時に庠の名、京師を  
動かす。作る所の文章、天下に傳誦せらる。  
江南に歸りて五年、病を以て卒す。

クワウシヤウ 黃裳 (宋)字は冕仲。南劍  
... 志あり。元豐四年、郡の黽門の一柱、迅雷  
に擊たる。裳之を聞き、四句を口占して云  
く、風雷昨夜破枯株、借問天公有意無、真  
是臥龍蹤跡困、放教頭角直亨衢と。次年、  
對策天下第一たり。政和間、知福州たり。  
禮部侍郎に擢てられ、後、尙書に遷る。卒  
して資政殿大學士を贈り、忠文と諡す。裳、  
端純孝友、事に因りて忠を納る。所著、春  
秋讀義、及び演山集あり。

クワウシヤウ 黃裳 (宋)字は元吉。寧德  
... 稱せらる。長軍に守たり。夷酋得頼得丙等、  
清平寨を攻む。裳、兵を遣はし、熱夷骨結  
等と同じく大に之を破る。三たび郡を歴し、  
俸入多くは以て親舊に給す。子に任ずるの  
恩は必ず兄の子を先にして己の子を後に  
す。人、其義を高しとす。子師且、詩を能  
くす。沈悔謹厚。人、長者を以て之を稱す。  
クワウシヤウ 黃裳 (明)字は元吉。曲江  
... 八月、土木の變に歿す。贈郵せらる。  
クワウシヤウ 黃湘 (清)采の子。丙午の  
... 之を記る。  
クワウシヤウ 黃昌言 (明)嘉靖中の  
... 衡山の下にあらず。

クワウシヤウシツ 黃尙質 (明)餘姚人。  
... 略は相上下す。寮、毎に其の企及すべから  
ざるを嘆ず。其文は喜んで太史公を學び、  
詩は屈宋曹劉を喜び、下りて章應物に及ぶ。  
尤も琴書を喜む。隸法甚だ古にして、魏晉  
以前の筆意を得たり。其の題詞に於ける、  
能く楚聲古韻を以て之を爲る。既に卒す。  
寮、爲に其集に序す。

クワウシヤウ 黃尙質 (明)餘姚人。  
... 其、賦に下さる。朱建の策を以て之を帝に  
言ふ。帝、之を獄より出し、太后と共に交  
々之を歎ぶ。  
クワウシヤウ 黃衝 (清)左良玉を勤め叛を  
... 謀り、俱に誅せらる。  
クワウシヤウ 黃叔英 (宋)字は彦  
... 甚だ經術に達し。嘗て晉陵蕪湖宣城三學教  
諭と爲り、又た和靖采石同院山長たり。叔  
英、經史百氏に於て目を過ぐれば輒ち誦を  
成す。文を爲るに意氣奔放、くべからざる  
ものあり。賴蓬下筆三卷、詩文集著共に二  
十卷あり、家に藏す。  
クワウシヤウ 黃叔璚 (清)字は玉  
... 御史たり。後、道員に外放せらる。その御

史たるや、權貴を効して少しも屈せず。河  
... 水利を興す。至る所政聲あり。また心を宋  
の五子に究む。嘗て曰く、道學は即ち正學  
也、正人を親み正言を聞き正事を行ふ、斯  
を實學とす、然らざれば空しく性命を談ず  
るも何にかせん。著、近思錄集註あり。  
クワウシヤウ 黃叔璚 (宋)庶の子。  
... 同じく法雲禪師に謁し、夜歸る。白衫を衣  
て、驢に騎り、道に緣ひて頭を搖かして歌  
ふ。履常は後より行く。一市驚き以て異人  
とす。明日、李伯時、畫きて以て圖とし、  
邢敦夫は歌を作る。

クワウシヤウ 黃叔琳 (清)字は眞  
... 卒する年八十有五。叔琳、文學政事を以て  
知を三朝に受く。當代、推して鉅儒と爲す。  
時に呼んで北平先生とす。性學を嗜み、賢  
を薦むるを以て己が任とす。嘗て江南に主  
試す。拔取する所の者、理學は則ち任啓運  
の如き、政事は則ち胡寶琛の如き、經學は  
則ち祖珣の如き、文學は則ち徐文靖の如き、  
其餘の名士宿儒、未だ彈く數ふべからず。  
方望溪、諸生となりて來り謁し、一見莫逆  
の交と稱す。他の周大蓮等の若きもの數十  
輩、千里就いて正す。學ぶ所の人に及ぼすや  
遠し。著、硯北易鈔、詩經統說等の書あり。

クワウシ

クワウシ

クワウシヤウ 黃晉 (宋)庭堅の姪孫。嘗  
... 居る者、播越流落す。晉、収めて之に教ふ。  
郡に在り、先に勸めて後に禁ず。訟牒消縮  
す。郡、平治を稱す。袁州に遷る。著、復  
齋集あり。  
クワウシヤウ 黃漳耀 (明)字は蘊  
... 然として大息し、遂に弟淵耀と相對して縊  
死す。年四十六。陶菴集十五卷あり。其門  
人私に諡して貞文と曰ふ。弟淵耀、字は偉  
恭。敦行其兄の如し。  
クワウシヤウ 黃淳熙 (清)字は子春。  
... 之を破る。又た江華の寇を嶺東に襲ひて大  
に之を破る。十一年春、駱秉章、蜀に之く。  
公萬縣より山を出て、之に赴き、寇を追ひ  
て瀘川府に至り、竟に害に遇ふ。公の兵を  
將うるや、猛進を務め持重を言ふを耻づ。  
是役、公、銳を率ゐて猛進し、大軍尙ほ後  
に在り。故に敗る。果官して按察使に至る。  
忠壯と諡す。

クワウシヤウ 黃潤玉 (明)字は孟  
... 刑律を暗んせざるに坐し、知縣に謫せらる。  
クワウシヤウ 黃潤玉 (明)字は孟  
... 清。鄭人。永樂間、鄉舉を以て訓導に歷仕  
す。宣德正統の交、廣西僉事に擢てらる。  
刑律を暗んせざるに坐し、知縣に謫せらる。

クワウシ

クワウシ

老を以て歸る。卒する年八十有九。南山先  
... 十年、李君榕に從ひて潯山太湖に克ち、程  
學啓を招降す。十一年、太軍に隨ひて安慶  
に克つ。明年、從つて太平蕪湖及び管港金  
杜關東梁山の諸要隘に克つ。同治三年、江  
寧に克つ。八年、黔に入りて賊を勦し、鎮  
遠及び施秉に克つ。先後投誠する者三十有  
奇。三月、黃瓢山に戰死す。年二十九。官、  
按察使に至り、壯忠と諡す。  
クワウシヤウ 黃庶 (宋)字は亞父。分寧の  
... 大臨、庭堅、叔達。  
クワウシヤウ 黃鍾 (宋)字は器之。興化  
... 道中、進士の第に登る。漳州錄事參軍に累  
官す。平生著述を喜ぶ。周禮集解、荷楊續  
注、杜詩注釋、史要の諸書あり。  
クワウシヤウ 黃乘 (明)黃裳の子。書に  
... 工にして山水は黃子久が筆意を得。亦詩文  
を善くす。  
クワウシヤウ 黃承吉 (清)字は春  
... 谷。江都の人。嘉慶乙丑の進士。官、知縣  
たり。漢儒の學を爲して研究精究なり。また  
曆算に通じて能く支那西洋の異同を辨ず。  
尤も詩古文に工に、能く自ら機軸を出して  
空しく依傍するを無し。

クワウシ

クワウシヨウゲン 黄承彦 (三國) 河南の名士。諸葛孔明に謂て曰く、聞く、君、婦を擇ぶと、家に醜女あり、才、相配するに堪ふと。孔明、婦を許す。即ち之を載送す。諺に曰く、孔明が婦を擇ぶを學ぶ莫れ、正に阿承の醜女を得んと。

クワウシヨク 黄憲 (宋) 字は師是。陳州の人。進士の第に登り、襄文閣待制知定州に累官して卒す。龍圖閣直學士を贈る。實、孝友敦睦、世、其内行を稱す。蘇軾兄弟と友とし善し。章惇の甥たるを以て黨禍を免るゝを獲たりと雖も、亦た久しく朝に於て著はるゝを得ず。

クワウシヨク 黄湜 (明) 黄子澄を見よ。

クワウシヨク 黄汝楫 (宋) 諸暨の人。家頗る富む。義に依り財を疏んず。宣和、中、方臘、亂を作し境を犯し。士女千餘人を掠めて空室中に閉づ。汝湜、財物二萬緡を以て之を贖ふ。夜夢に神告げて曰く、上帝汝が人を活す多きを以て、五子の科第を賜ふと。其後、子開、闢、開、闢、皆相繼て登科す。

クワウシヨク 黄如徽 (元) 江西の儒人。至正五年、官を遣はし、諸道を宣撫し民の疾苦を問はしむ。奉使の者不職多し。如徽京師に走り、駕を遊へ上書して其事を言ふ。帝書を覽て色喜ぶ。權豪に中てられむを慮り、近官を顧みて外に館せしむ。越えて數日、江西儒學提舉を授く。如徽命を受けて、職を領せず。天下共に之を賢とす。

クワウシヨヘイ 黄初平 (晋) 丹谿の人。年十五、羊を牧す。道士に遇ひ、引かれて金華山中の石室に至る。居ると四十餘年。其兄初起、之を尋れて獲ず。後、道士の善く卜するに遇ひ、之を問ふ。曰く、金華山中に一牧羊兒ありと。初起即ち往きて初平を見る。問ふ、羊は安く在る。曰く、山東に在り。往て之を視れば但だ白石を見る。初平之を叱すれば、石皆起つて羊數万頭と成る。初起、亦妻子を棄て、道を學び、後亦た仙と成る。宋元の時、皆封疆あり。一に皇初平に作る。

クワウシレン 黄嗣謙 (宋) 字は景美。弱冠にして太學に入り、以孝事君則忠賦を試みらる。破題に曰く、家國雖異、君親則同、以此因心之孝、移爲事上之忠と。遂に魁選に中す。紹興戊辰、進士の第に擢てらる。宣撫郎に終ふ。

クワウスイキ 黄萃 (宋) 覺の孫。官に居て歸省すれば、父必ず治むる所の事を問ひ、其状を備せしめ、若し理に當れば默然として飲をなす。嘗て之に謂て曰く、吾が仕へざる所の者は、子あり以て吾志を行ふに足るを以て也、汝、義利是非を視ば、宜しく陷む所を謹しむべしと。仕へて職方郎中に至る。

クワウセイ 黄晟 (五代) 鄭人。官、散騎常侍たり。盜賊四方に起る。獨り相戒めて曰く、黃公の境を犯す母れと。江東の士多く之に依る。

クワウセイ 黄齊 (宋) 臨桂の人。紹興間、進士に擧げられ、富川尉に調せらる。時に曹成寇起る。齊、奮つて七十輩を擒獲す。縣以て安堵す。知昌化軍に遷る。對を賜ひて具にいふ、桂に俊秀あり、實與の數狹く、地瘠せ民貧にして折納の輪重しと。詔して郷貢を増し軍輸を減す。民之を利とし祠を立て、祀る。

クワウセイ 黄齊 (宋) 字は思賢。建安の人。祖展、進士の第に登り、仁宗の朝、都官郎中たり。齊も亦進士の第に登り、御史を歴て起居舍人に除せられ、中書舍人兵部尙書に拜せらる。蔡京、事を用ふ。齊、時に非ずんば私弟に見ず。顯謨閣待制を以て通州に知たり。

クワウセイ 黄靜 (宋) 字は至一。涪七世の孫。政和に登第して校書郎に任ぜられ澧州を通判す。朝に力請するに、湖外四可罷の事あるを以てす。曰く、博易務、茶鹽司、弓弩手、廉防使と。皆施行すること章の如し。提舉西京路鹽事に終ふ。

クワウゼイ 黄丙 (唐) 歙縣の人。建中の初、繼母洪氏病む。股を割き羹に饋す。病乃ち愈ゆ。貞元中、父卒す。號泣聲を絶たず。墓に廬し、終身會せず。墓側に芝及び連理木を産す。刺史其事を上る。謝して其門に旌す。

クワウゼイ 黄銳 (宋) 字は新之。淳安の人。淳祐の進士第二人。學博くして正、文を作るに稿を留めず。人、其片紙隻字を得

るも必ず之を珍蔵す。建昌軍食判より大理卿に遷る。至る所文學を以て名を知らる。未だ幾ばくならずして歸り、家に老ゆ。

クワウセイシヨク 黄正色 (明) 字は士衡。無錫の人。嘉靖八年の進士。仁和知縣に除せらる。親の喪を以て歸り、服闋り起つて香山を知す。南京御史に累遷す。禮せられ遼東に調成せらる。穆宗立ち、召て大理丞に拜し、少卿に進み、南京太僕卿の官に卒す。

クワウセイセイ 黄世清 (明) 字は澄海。藤縣の人。父中色は吏部員外郎。世清、崇禎七年の進士に登る。戶部主事に除せらる。辭職を請ふ。清操あり。員外郎を歴す。累に右參議に遷る。商榷を分守し、商州に駐まる。十六年十月、李自成、孫傳庭の軍を敗り、長驅して關に入る。世清城に憑て守る。奸民あり賊に投ず。城下に至り陣を脱く。世清之を斃し、其首を城上に懸て曰く、二心を懷く者は此を視よと。士民皆死を効す。賊矢盡く。繼ぐに石を以てす。石盡く。街衢を掘りて之に繼ぐ。城陷る。世清堂上に座す。僕朱化鳳なる者あり。賊命て世清を奪き下らしむ。化鳳叱して曰く、奴輩無禮なりと。賊其頰を批す。化鳳聲色愈々厲し。賊之を罵せんと欲す。化鳳曰く、吾が主は堂々たる憲司、肯て賊を拜せんや。賊先づ之を殺す。世清に防禦札を授けんとす。罵て受けず。亦た遂に害に遇ふ。光祿卿を贈らる。

クワウセイヒン 黄正賓 (明) 歙人。萬曆中、賢を以て舍人たり。武英殿に直す。賢より入るを耻ら、遂に清議に推さる。熹宗の時、尙書少卿を以て致仕す。魏忠賢に陥れらる。思宗の時、復官し尋て致仕す。

クワウセイフウ 黄成富 (清) 連江の農家の子。六世同居す。男女六十餘口、雍睦、間無し。子弟各々其業を執り、毎日田間に作す。衆無不往き、一婦を留めて家を視しむ。兎を籠に臥し、飢うれば則ち之に乳す。其の體の兒たるを問はざる也。衣を桁に懸け出づるに之を脱し入るに之を衣、垢つけば之を洗ふ。其の誰の衣たるを問はざる也。

クワウセイラウ 黄性老 (元) 字は子肅。邵武の人。天資穎悟、五歳にして日に數千百を記す。泰定中、進士に擧げられ、累官して翰林編修たり。提擧たるに及びて人才を作成するを甚だ業し。時に其學行を重んず。詩、盛唐の風あり。存する者數千篇。又た春秋經旨、四書一貫、數十卷を著す。時人樵水先生と號す。詩集を樵川集といふ。

クワウセウケツ 黄紹杰 (明) 萬安の人。天啓五年の進士、中書舍人たり。崇禎中、刑科左給事中に改めらる。言を以て諫せらる。後、南京吏部郎中に遷り、崇禎八年、官に卒す。

クワウセウチウ 黄煥仲 (宋) 字は道夫。漳州の人。淳熙の第に登る。家に居り、毎日子弟を率ゐ、衣冠して家廟を見、退て默坐終日す。飲食衣服、鮮美を求めず。妻に居る三年、人未だ嘗て其笑容を見ず。郷里に非を爲す者あれば煥仲、これを知るを恐る。汀州録參に調せられて善終あり。自ら屏に書して曰く、儂薄儂亦足、官卑清自尊と。禮記解、小學口義あり、世に傳ふ。

クワウセキ 黄頌 (宋) 字は興周。乾道丙戌の間、擧げられて御題に奉對す。首めに舜、堯の後を紹ぎ、垂衣拱手して天下治まるを問ふ。頌言く、聖人出で、之を治む、初めより無爲に安んずべからず、必ず大有爲を先にす、物物、之を恬摩し、事事、之を整齊し、然る後以て無爲を馴致すべし、舜の堯に紹ぐ所以は此の道を用ふるなりと。

クワウセキ 黄績 (宋) 字は德遠。酒の後、初の淮浙編參の諸老に游び、已にして陳密潘柄に從ひて游ぶ。密柄卒するに及び、同門の友を率ゐて東湖書堂を築き、田を官に請ひて之を祀る。讀約聚議、密柄の規約の如くす。是に由りて學者皆就て績に正す。郡守推して尊德堂に入れ、以て劉瀾邵に繼かしめ、又辟して滄江書院山長に充つ。績獨不懼を以て齊に名く。著す所、四書遺說、近思錄義類あり。

クワウセキコウ 黄石公 (秦) 隱者。書一



編を遺して張良に與ふ。曰く、此を讀めば王者の師を爲るべし、後十三年、濟北穀城山下に黃石を見れば即ち我なりと。良、其書を讀み、遂に漢の高祖を佐けて天下を定む。後十三年、高祖に従ひて濟北穀城を過ぎ、黃石を得、取て之を祠る。良死して石を并せ葬る。

クワウセン 黃宣 (宋) 莆田の人。知蔡州。遂平縣たり。召されて太學博士となる。靖康の初、旨ありて襄封せられ、一子に官を與へらる。

クワウゼンソウ 黃善聰 (明) 女子。南京の人。年十三、母を失ふ。父香を販ぎ、善聰をして男子裝を爲さしむ。父死す。善聰其業を習ひ、姓名を變し張勝と云ふ。李英なる者あり、亦香を販ぐ。與に伴侶と爲る者數年。其女たるを知らず。後ち返り其姉を省す。姉初め識らず、其故を詰り、怒罵して曰く、男女亂群、我を辱しむと。拒て納れず。善聰死を以て自ら誓ふ。乃ち鄰嫗を呼び之を察せしむ。果して處女也。相持して哭す。後ち李英、母に告げて歸を求む。善聰從はず曰く、若し英に歸せば瓜李を如何と。有司之を聞き聘を以て夫婦と爲す。

クワウセンワウジヤウハウ 廣川王常保 (漢) 姓は劉。章帝の孫にして清河孝王の子。孝王薨じて其封土を二分し常保を廣川に封ず。子なくして國除かる。

クワウソウ 黃祖 (三國) 建安の初、兵を起して亂を作し、所在勢威を振ふ。十三年、

吳師銳を盡して來り、遂に其城を屠り、擒へて其首を梟す。

クワウソウ 黃琮 (宋) 字は子方。莆田の人。元符中、登第す。初め長溪尉たり。父の難に遭ふ。邑令、千緡を以て贖す。辭す。徒歩、梶を扶けて歸る。閩縣清に遷る。又た俸を捐て民に代りて租を輸す。閩清清過伯夷清の諺あり。同安縣令に移り、福州方田指教官と爲る。人甚だ之を徳とす。時に陳麟翁谷と共に三衢吏と號せらる。年五十、母老いたるを以て丐ひ歸る。傳松卿、薦むれども起たず。母の喪に哀痛して食せず。甘露、徳帷に降ると三日。郡縣、廉清に擧ぐ。琮曰く、豈敢て冥漢を以て人を要し君を歎かんやと。

クワウソウエン 黃宗炎 (清) 黃は晦木。宗義の弟。世に立齋先生と稱す。崇禎中、明經を以て太學に貢せらる。嘗て弟宗會と共に、門を明て盡く天下の書を讀み而して後出づ。順治庚寅、事に坐して死に當る。馮尚書道濟、陰に死囚を以て之に代ふ。乃ち免る。宗炎、生平詩を作る幾萬首。象緯律呂軌革壬遁の學に於て皆造詣有り。また繪事を善くし、小李將軍趙千里を宗とす。又製硯を善くす。著、周易象詞專門論學圖辨惑あり。

クワウソウカ 黃崇燾 (五代) 女子。臨邛の人。僞つて男子と爲り、詩を以て蜀相周庠に謁す。庠極府僚事に薦む。明敏にして吏胥長服す。庠其才を愛し女を以て妻はせ

んとす。綴辭するに詩を以てす。庠驚て之を問へば乃ち黃使君の女也。

クワウソウギ 黃宗義 (清) 字は太冲。號は黎洲。浙江餘姚の人。明の御史尊素の長子。年十九、長鉅を袖にして都に入り、父の寃を訟へんと欲す。至れば即ち逆閹已に磔せらる。歸りて益々力を學に肆にす。宗義、濂洛の統を以て諸家を宗會す。稽渠の禮教、康節の象數、東萊の文獻、長齋止齋の經術、水心の文章、皆旁推交通す。自來儒林の未だ有らざる所。康熙乙亥卒す。年八十有六。著作、一家に名けす。

クワウソウクワイ 黃宗會 (清) 字は澤望。宗炎の弟。號は縮齋。學者、石田先生と稱す。國變の後、梓厓に隱れて名山に浪遊し、疾を以て終ふ。宗會、讀書、經史より外、釋道の二藏、未だ嘗て一周せずんばあらず。詩文は古澹にして根柢あり。著す所を縮齋集と曰ふ。

クワウソウクワウテイ 光宗皇帝 (宋) 姓は趙。名は惇。孝宗の第三子。年四十四にして禪を受く。皇后李氏悍にして妬。速に太子嘉王を立てんと欲す。上制する能はず。一日忽ち地に仆れて崩す。在位五年、改元一、紹熙。

クワウソウウサイ 黃宗載 (明) 一名は宦。字は厚夫。豊城の人。洪武三十年の進士。行人たり。永樂宣德の交、南京吏部尚書に歴遷す。休を乞て歸り、九年七月家に卒す。年七十九。

クワウソウシヤウ 黃宗昌 (明) 字は長情。即墨の人。天啓二年の進士。崇禎の初、御史たり。連りに奸臣を劾斥して名を除かる。崇禎十五年、寇を禦ぎ之に死す。

クワウソウタン 黃宗旦 (宋) 惠安の人。總角の時、祖萬錫、早春の詩を賦するを命ず。就中喜自龍門客、躍出洪波只待雷の句あり。當時皆之を器重す。後進士に第し、累官して知襄州たり。文集十卷あり。

クワウソウテイクワウテイ 光宗皇帝 (明) 第十五世。姓は朱。名は常洛。神宗の子。立て一年にして崩す。改元一、泰昌。

クワウソウデン 黃宗傳 (宋) 明は景孟。寧徳の人。淳熙中の進士。問學醇博、尤も易に長ず。門を開きて徒に授く。履、恒に月門の外に滿つ。嘗て自贊して曰く、何事窮能到骨、只緣氣要衝冠と。著す所、易傳あり、世に行はる。

クワウソウメイ 黃宗明 (明) 字は誠甫。鄞人。正徳九年の進士。南京兵部主事より員外郎に進む。宸濠の反するや、江防三策を上る。尋て告げ歸る。嘉靖中、南京刑部郎中に起ち、累擢せられて兵部侍郎に至る。是より先き明倫大典を預修す。左侍郎の官に卒す。

クワウソクワイ 黃則有 (清) 字は古愚。湖南邵陽の人。家貧にして少より孤、其母も亦節を以て著はる。則有母に事へて至孝なり。蠶更、其事を上る。節母孝子、同時に旌はさる。邦人之を敬す。

クワウソウシユン 黃祖舜 (宋) 福清の人。進士に擧げられ仕へて同知樞密院事に至る。卒す。莊定と諡す。祖舜、嘗て奏して楊愚の恩を奪ひ棄絶の秩を祝ふ。直氣尙ぶ不足る者あり。著述、易說、國風小雅說、禮記說、歷代史議、及び遺文十五卷あり。

クワウソツマ 黃楚妻 (清) 張氏。五城の人。楚の家貧しく父は督にして母は老い兄弟鮮し。張紡績して楚を佐く。子鍾生れて機かよ六月、楚死し舅姑相繼て歿す。會々浙西迄起り、遠近逃れ置る。或は張に去らむことを諷す。張曰く、吾が極果然たり、吾が孤子然たり、將に安にかゆかむと。惟だ誠備して天に叫ぶ。已にして冠平ぐ。亟かに三柩を扶けて葬り、孤雛を撫して成立せしむ。其の門を旌して節孝といふ。

クワウソツン 黃存 (唐) 巢の兄。咸通の間、共に亂を作す。後に誅斬せらる。

クワウソツン 黃損 (五代) 連州の人。梁の龍徳の初、進士に擧げらる。南漢に仕へて官、左僕射に至る。桂香集あり、世に行はる。宋齊丘桑維翰と共に善く天下の事を論ず。二人自ら以て及ばずと爲す。

クワウソツン 黃尊素 (明) 字は眞長。餘姚の人。萬曆末の進士。寧國推官に除せらる。官に居り精敏強執なり。數々時政の失を陳す。帝用ふる能はず。時に魏忠賢に誣ひられ、獄に下る者多し。尊素爲めに之を解く。奸黨其智慮多きを惡み、之を殺さむと欲す。俄に使者を遣はし至る。尊素囚服

して吏に詣り自ら獄に投す。獄卒の己れを善せむとするを知り、詩を賦して遂に死す。年四十三。崇禎の初、太僕卿を贈る。福王の時忠端と諡す。

クワウタイコウ 黃大洪 (明) 毓祺の次子。父に先ち國難に殉ず。

クワウタイシヤウ 黃大昌 (宋) 永存の孫。隱居して仕へず。兼山齋解あり。

クワウタイタン 黃大湛 (明) 毓祺の長子。父に先ち國難に殉ず。

クワウタイボウ 黃大鵬 (明) 字は文若。建陽の人。崇禎十三年の進士。知縣に除せらる。唐王の時、兵科給事中に改めらる。順治三年八月、仙霞嶺の役歿す。

クワウタイリン 黃大臨 (宋) 庶の子。字は元明。自ら黃菴と號す。黃山谷の黔州に讀せらる。や、元明、送つて驢園山に至り涙を掩ひて手を握り、別に臨みて誓句あり云く、急雪鷓鴣相並影、驚風鸞鳳下成行と。

クワウタウ 黃滔 (唐) 字は文江。莆田の人。乾寧の初、進士に第す。光化中、國子四門博士に除せられ、監察御史裏行に遷り、威武軍節度推官に充てらる。王審知、全閩を據有し、乃ち其身を終るまで節將たるは、滔の規正、力あり。唐既に亡びて、遂に復た西せず。其文字亦た僅く閩南に見る。論者謂く、莆田の文章家は滔を以て初祖とすと。集十五卷、泉山秀句集三十卷あり。

クワウタウ 黃唐 (宋) 字は雍甫。福州の人。寧宗の朝、考功郎中たり。時に韓侂胄、

父誠の爲に陳して誰を作らんと乞ふ。唐、覆讎に當る。乃ち宰相京鏗に見て奉承する能はざるを言ひ、因つて去るを求む。

クワウダウケン 黄道賢 (宋)泉州の人。嫡母唐、子無し。道賢既長じ、屢々父に請ひて召し歸し、二母を孝養す。父、疾篤く、効無し。乃ち天に禱り、己が年紀を減じて父の壽を益さんと願ふ。尋て愈ゆ。卒する比ひ果して一紀を延ぶ。元の至元の初、其門に産して孝子黄氏之門といふ。

クワウダウシウ 黄道周 (明)字は幼平。漢陽の人。天啓二年の進士。編修に歴仕す。崇禎中、武英殿大學士に累擢せらる。會々恢復を圖り、清軍に怒源に敗れて幽囚せられ、竟に殺せらる。道周、天文曆數皇極諸書に精し。著はす所、易象正、三易洞璣、及太函經あり。卒者石齋先生と曰ふ。卒する年六十二。

クワウダウシン 黄道真 (晋)武陵の人。大康中、魚を捕へて溪に練りて行く。忽ち桃花の岸を挟むを見、之を異として其林を窮むれば一山あり。山に小口あり。舟を捨て、試に入る。初めは狭くして、僅かに人を過す。行くと數十歩、豁然開朗し、土地平曠、屋舍桑竹雞犬、依然たる人間なり。從りて來る所を問ひ、雞黍を具す。村中咸な來りて問訊し、自ら言ふ、是より先、秦の亂を過げ、妻子邑人を率めて此に來り、復た出てずと。また問ふ、今は何の世ぞと。

し。累官して兵部尙書に至り、龍圖閣學士を以て致仕す。年八十五にして卒す。簡憲と諡す。典讀十卷あり。郷に祀らる。

クワウチウ 黄中 (宋)字は仲庸。平陽の人。閩洛を以て宗とす。純文子、一見して期するに國士を以てす。紹興の第に登り、累遷して起居舎人兼侍講たり。出で、貴州泉州を知し、右文殿修撰を以て卒ふ。中、進士第三人を以て第に中り、三十載を越えて官に居ると僅に十考。故に大に其力を學に肆にするを得たり。朱晦庵と往復講論、實地に功を用ひんと欲す。徒に之を空言に託するのみにあらず。嘗ていふ、平居利餘を以て其心に入れず、培植滄桑、木の根あり水の源あるが如く、之を用ふれば既倒の狂瀾を回し、用ひざれば寂寞の濱に唱和す、亦以て世に名あるに足る、此實に任する者は難歟と。晦庵、後之を見えて曰く、近年此等の若き議論、人をして歎服せしむと。初め純文に入る。寧宗曰く、朕は正に卿を補佐に頼ると。之を尋ると再三、中、前後三十餘疏。傾心忠懇、回撓する所無し。純文、以て古の遺直と爲す。

クワウチウケン 黄仲元 (宋)字は善甫。饒の子。咸淳中、登第す。陸秀夫、薦めて益王府攝選官に充つ。武舉陳太常博士兼閩廣宣撫司機宜に除せられ、國子主簿兼福建招捕使兼選官に改めらる。皆勉かす。宋亡ぶ。其名字を改めて湖天叟と曰ひ、又其の四如の號を改めて韻藻賢翁と稱す。年八十二に

漢あるを知らず。漁人具さに言ふ。各延きて家に至り、酒食を具へて相待つ。數日にして醉し去る。舟既に腐る。乃ち歩いて回る。其跡を認して家に歸るに復た時人無し。郡守に言ふ。郡守、與に再び往かんと欲す。而かも復た路を得ず。

クワウタク 黄澤 (元)字は楚望。蜀人。慨然經道を以て志と爲す。家貧しく年老い、教授を謝絶す。歲饑う、木實草根を以て饑を療す。之に居て晏如たり。惟聖經の傳を失ふを以て、己の大戚と爲す。至正六年卒す。年八十七。

クワウタク 黄澤 (明)閩縣の人。永樂十年の進士。河南左參政に擢てらる。世祖仁宗宣宗英宗に歴事し、浙江布政使たり。事に坐して黜けらる。

クワウタン 黄旦 (宋)字は昇之。咸平二年登第、許昌の幕官に除せられ、德化縣を知し、後、錢塘を知す。引薦せられて大理評事に除せられ、出で、光州を知す。還りて秘書丞に遷り、また黎州を知す。黎は南詔と境を接す。鎮むるに清静を以てす。疾で卒す。黎人、旦の徳を思ひ、相與に廟を立て、歲時之を祀る。後、子孫蕃衍昌盛なり。

クワウタンシヨ 黄丹書 (清)字は虛無。順徳の人。隱居して親を養ふ。書に工に、畫を善くす。其詩と並に三絶と稱す。乾隆中の人。

クワウタンハク 黄燭伯 (明)字は元公。して卒す。四書講義、經史辨疑、四如文稿あり、世に行はる。

クワウチウジヤク 黄燭若 (宋)得禮の曾孫。進士に第して新陽簿を主り、知盧州に遷る。周必大、其の子路治滯の政あるを稱す。進みて知成都たり。兵部尙書に召さる。力辭して歸るを丐ふ。命じて貢舉を知らしめ、禮部尙書に試す。著す所、竹坡集あり。曾孫燭。

建昌新城の人。崇禎元年の進士。推官たり。福王の時、儀制主事に拜せらる。五月南都破れて捕へらる。降ることを肯せず。遂に殺さる。

クワウチウ 黄忠 (三國)字は漢升。南陽の人。劉の昭烈、南、諸郡を定む。忠、質を委す。後、從つて蜀に入る。毎に先登して陣を陷れ、勇三軍に冠たり。夏侯淵を定軍山に斬る。功を以て爵關内侯を賜ふ。昭烈帝即位し、關羽、張飛、趙雲、馬超等と共に封せられて五虎將軍といふ。

クワウチウ 黄中 (宋)字は通克。邵武の人。幼より書を受け、一再にして輒ち誦を成す。紹興中、廷試第二たり。秘書監となる。言盡く用ひられざるを以て、浩然として歸思あり。乃ち十要道の説を陳ぶ。朱子嘗て書を義して以て見ゆ。曰へるあり、明公は兩朝の元老、印綬を上還す、天子几杖を賜ひて言を乞ふ、天下知徳の上、下風を仰慕せざる莫し、俱に執鞭の願あり、今日來るは將た堂下に再拜せんとするなり、惟だ明公坐して之を受け、門弟子の列に進ましめよと。其の人に敬慕せらるゝと此の如

集を秋聲集と名く、十卷。

クワウチヨク 黄直 (明)字は以方。金谿の人。業を王守仁に受く。嘉靖二年登第す。漳州推官に除せらる。敢言して罪を得、雷州南に謫せらる。赦され還る。貧甚し、其妻紡績して以て朝夕を給す。直、書を讀み道を談ずる、こと自如たり。之を久うして卒す。隆慶の初、光祿少卿を贈らる。

クワウツウ 黄通 (宋)字は介夫。邵武の人。嘉祐の初の進士。大理丞に除せらる。毎に浩歌長嘯す。目して異人と爲す。元夕燈の詩を爲る者あり、曰く、誰將萬斛金蓮子、撒向皇都一夜開と。通、詞語の未だ壯ならざるを以て、自ら作りて云く、秦樓十二玉梯傾、紫府千門夜不關、疑是嫦娥弄春色、彩雲移下一天星と。其雄俊此の如し。

クワウチイ 黄定 (宋)字は泰之。永福の人。乾道中、進士第一たり。知潮州に累官す。政を爲すに務めて弊を刻り懲を蘇す。潮民之を徳とす。官、國子祭酒直顯謨閣廣東提舉に終る。文集あり、世に行はる。今、潮州賢守祠に祀らる。

謂く、石谷は古今の名畫を看盡し、筆を下す具に淵源あり、尊古は九州の山水を看盡し、筆を下す具に生氣ありと。並に大家と稱せらる。雍正八年、年八十一を以て卒す。クワウテイ 黃鼎 (清)字は彝封。四川崇慶州の人。諸生と爲りて大略あり。咸豐の末、漢逆、蜀を亂る。路文忠、鼎が名を聞き召して軍事に參せしむ。功を漢南に立つ。同治三年、漢逆曹燦章友、川匪藍朝柱、華陽に竄す。鼎之を入里坪に破り、直に洵陽壩に抵りて盡く賊衆を焚く。十月、張德愚を八橋に破る。西安、以て完固なるを得たり。燭年、進みて回疆を規し、寧州慶陽合水驪原等の城を修復す。光緒三年、降賊に刺されて死す。官、按察使に至る。クワウテイケン 黃庭堅 (宋)庶の子。字は魯直。號は山谷。治平四年、鄉試に赴く。廬陵の李詢、庭堅を試す。詩に渭水空秋月、傳巖深鎖烟の句あるに至り、節を撃ちて嘆じて曰く、此の人惟だ文理の冠揚たるのみならず、異日當に詩を以て四海に雄たるべしと。遂に首薦に膺る。後、進士に擧げられて北京に教授す。國子監蘇軾、其詩文を見て、其の萬物の表に獨立するを嘆じ、表して之を薦めて云く、瑰奇の文は當世に絶妙に、孝友の行は古人に追配すべしと。著作佐郎に遷る。神宗實錄成る。起居舍人に擢てらる。紹聖の初、鄂州に知たり。章惇蔡京等に惡まれ、謫せられて涪州別駕黔州安置を授けられ、戎州に移り、尋てまた坐

して宜州に謫せらる。江西の詩派は庭堅その祖たり。世、其詩を以て蘇軾に配し、蘇黃と稱すと云ふ。其行書尤も工なり。山谷嘗て云く、士大夫三日書を讀まざれば、理義胸中に入らざらず、鏡に對して面目憎むべきを覺れば、人に向ひて言語無味ならんこと。山谷嘗て、吾無隱乎爾の義、詮釋再三すれども解する能はざるを以て因つて、黃堂寺晦堂老子に問ふ。晦堂答へず。時に暑退き涼生じ、秋風院に滿つ。晦堂因つて問ひて曰く、木樨の香を聞くや。山谷曰く、聞く。晦堂曰く、吾無隱乎爾と。山谷嘆服す。山谷の子相、小字は小德。生母は徽服に出づ。故に谷の詩に云く、解著潛夫論、不妨無外家と。東城の次韻あり、云く、名騎已汗血、老蚌空泥沙と。山谷、黔中に在り、王瀘州に與ふる帖に云く、小子相、今年十四、骨相差々體厚と。又詩に云く、小兒未可知、客或許敦龐と。クワウテイケンエンシ 黃帝軒轅氏 (上古)五帝の一人。公孫姓又姬姓。少典の子。生れて神靈、弱にして能く言ひ、幼にして洵齊、長じて敦敏、成て聰明なり。軒轅の時に神農氏世衰へ諸侯相侵伐して百姓を暴虐す而して神農氏征する能はず。是に於て軒轅乃ち干戈を習用し以て不享を征す。炎帝と阪泉の野に戦ひ三戰して後に其志を得。諸侯軒轅を尊び天子と爲し、神農氏に代はる是を黃帝と爲す。天下に順はざるものあれば黃帝從て之を征す。平らぐ者は之を

去る。山を披き道を通じ未だ嘗て寧居せず。天下を巡狩して深鹿の阿に邑す。遷徒往來常處なし師兵を以て營衛と爲す。左右大監を置き萬國を監せしめ風后、力牧、常先、大鴻を擧げて以て民を治めしむ。黃帝二十有五子あり其姓を得る者十四人。黃帝は五帝の一なり。クワウテツ 黃徹 (宋)字は晦叔。四歳にして能く書を誦し、日に數千言を記す。治平四年、進士乙科に擢てられ、處州司理に調せらる。秩滿ちて衡の安仁令を得。徹、民を率ゐて田疇を墾き溝洫を治め、子弟の秀なる者を學に進む。時に蒲宗孟、荆湖南北路を察訪す。辟して本司幹官と爲し、且つ其才を薦む。著作佐郎に遷り新昌縣を知す。奸を發き伏を摘し、善を撫摩す。人欺く能はず。部使者、其課を奏して第一と爲す。奉議郎監泗州排岸に改む。母の憂に丁る。服闋りて大理丞に拜せらる。補外を丐ひて筠州を通判し、朝に還りて卒す。年四十四。官、朝奉郎に至る。クワウド 黃度 (宋)字は文叔。新昌の人。隆興の進士。御史と爲りて數々韓侂胄の奸を論ず。寧宗の時、累官して煥章閣學士たり。度、嘗て知建安たり。救荒、法あり。民を活すこと百萬。因つて生祠を立つ。著作所、詩書禮記說、及び史通諸集あり。クワウトウ 黃登 (宋)字は君滂。少にして上庠に遊び、陳覺民と研席の好あり。覺民、泉を守るに及び、未だ嘗て干すに私を以て

せず。卒す。覺民、文を以て之を誅して謂く、其の經を窮むるや一命を受くるを耻ぢ、道を學ぶや遂に大方に造る、蕘薪を視ると大宰を享くるか如く、蕘處に在りて五戒を奉ずるか若しと。張讀も亦隱君子を以て之を目す。クワウトクコウ 黃得功 (明)字は虎山。開原南の人。其先は合肥より徙る。早に孤。稍長じて經路に隸し親軍となり、功を累らて遊擊より總兵に至り、太子太師を加へらる。尋て左柱國を加へらる。太平の役、清兵の鋒刃に斃る。クワウトクレイ 黃得禮 (宋)豊城の人。進士に擧げられて柳州推官たり。建中靖國の初、詔に應じて言ふ、持平守正、彭汝礪、葉適の徒の如きは當に其言を省みるべしと。子彦輔、歴官して吏部員外郎たり。數々事を論じて外に補せられ提點湖南刑獄たり。著す所、三餘集の書あり。クワウトンゲン 黃敦彦 (宋)錫の孫。朝請大夫江南東路提點刑獄公事に累遷す。クワウトンシヨ 黃敦書 (宋)錫の孫。中奉大夫直徽猷閣兩浙路轉運副使に累官す。クワウニツクワウ 鄺日廣 (明)番禺の人。崇禎十年の進士。官に居り守あり。機を率べて、軍儲を荆州に聚す。十四年、張獻忠人をして督府軍の符を假り、監して襄陽城に入る。時に日廣張克儉を佐けて城にあり。夜分、賊中より起りて襄王府を焚く。

遂に及んで死す。クワウノウ 黃農 (清)字は古處。江蘇元和の人。性至孝、父の病甚だ危し。父年五十一。農、黃紙十餘に書して己れの第二十一年を減じ父に益さんとを願ひ、諸神祠に詣りて之を焚く。是夕、寢覺めて喜びて曰く、神我に許せりと。已にして父果して七十二歳を以て終へ、農三十二歳を以て卒る。妻金氏、賢にして且つ孝。翁に事へ孤を撫し節を守り以て終ふ。クワウハ 黃霸 (漢)字は次公。陽夏の人。文法に習ひ、善く衆を御す。武帝の朝、錢をに入れて官を賞せらる。廉能を以て河南丞に遷る。宣帝召して廷尉正すとす。數々疑獄を決す。廷中、平と稱す。潁川太守に遷る。仁政大に行はれ、嘉禾生じ鳳凰至る。帝、黃金百斤を賜ひ、楊州刺史に遷す。霸、外實にして内明かに、吏民の心を得、戶口歳に増す。治、天下第一たり。天子詔を下して稱揚し、許關内侯を賜ひ、徵して京兆尹に拜す。後、丞相となり、建威侯に封せらる。霸、嚴なる時、善く相する者と同じく出で、一婦人を見る。相者曰く、此婦人は當に貴かるべしと。之を訪へば乃ち巫家の女なり。霸、即ち之を娶り、與に身を終ふ。クワウハウキ 保儀 (五代)南唐後主、選んで保儀と爲す。江夏の人也。書學技能多く天性に出づ。初め元宗、後主、皆筆札に妙に、博く古書を収め獻する者あれば厚く之を賞す。宮中の圖書萬卷、尤も多く王の墨

蹟を鍾む。皆保儀の掌る所たり。クワウハウキノツマ 鄭抱義妻 (明)何氏。崇禎の末、賊に執へらる。乃ち給くに疫を病むを以てす。賊懼れ之を釋す。賊退き家人皆喜ぶ。何氏泣て曰く、今身を置す固からず、面目を以て賊に對す、汚辱を免るも何ぞ以て人と爲さむと。忿患食せずして死す。クワウハウシユン 黃邦俊 (宋)永福の人。父連、進士に擧げられ南田縣を知す。嘗て心經を解く。世に行はる。邦俊、元和の初め進士に擧げられ、累遷して大理寺丞たり。後、英州を知す。真陽共理集二卷、晉語文三卷、纂韻譜六卷、強記集八卷あり。クワウハク 黃璞 (唐)字は德温。侯官の人。少くして歐陽詹と名を齊しうす。大順中、進士の第に登り、官、崇文館校書郎に至る。昭宗の世に當り、門を杜ちて仕へず。黃巢の兵、閩に入る。璞、儒者なるを以て、相戒めて其居を燬く母からしめ、遂に炬を滅し兵を勸して去る。璞、自ら霧居子と號す。所著、閩川名士傳、及び文集二十卷あり。クワウハクシ 黃伯思 (宋)字は長睿。履が孫。元符中の進士。秘書郎たり。開府の職書を縱觀し、腹食を忘るゝに至る。六經より子史百家に至るまで、精詣せざる無し。篆隸正行草飛白皆妙絶に至る。頗る道を好み、自ら雲林子と號す。所著、文集十

クワウバ

クワウバンケイ 黃萬頃 (宋)同安の人。進士に第し雷州を知す。嘗て馬政を陸言するを甚だ悉くす。太常少卿に推さる。所著、文數百篇あり。又今古の詩話を集めて筆花五卷とす。

クワウヒツ 黃駘 (宋)字は公碩。南安の人。父の喪に居り。芝、靈堂の前に産す。其喪、百を累ぬ。政和中登第し、崇安尉に調せらる。鄭主簿なる者あり。實なれども妄りに取らず。官に卒ふ。駘、蓋を傾け以て其行を闡す。人皆之を義とす。南劍州通判に終ふ。

クワウヒン 黃彬 (明)江夏の人。初め歐普祥に屬す。普祥死す。彬其爲す所に反し貴州を治す。民甚之に安んず。江西已に定る。江淮行省中書左丞に累遷し、宜春侯に封せらる。後胡惟庸の黨に坐して死す。爵除かる。

クワウビンイ 黃敏頤 (宋)鶴の子。中散大夫。  
クワウビンヨウ 黃敏用 (宋)鶴の子。朝散大夫提點四川茶馬事たり。  
クワウヒヨウ 黃泳 (宋)靜の從子。字は永平。三歳にして書、目を過ぐれば即ち瞽を成す。大觀二年、童科に應じて五経及第を賜ふ。

クワウフウサイ 黃富才 (清)太平の黨。嘉慶中、添富等と連結し、城口鞍子坪に據りて亂を作し、互に救援す。戰敗れ崖に墜る。

クワウフ

クワウフク 黃復 (宋)字は乾更。沙縣の人。寶慶二年、進士に第して山陽郡に除せらる。閩汀の寇、猖獗なり。廟堂に三冊を獻す。境、頼て以て安し。眞德秀、陳騭、交々之を薦む。高郵郡に教授し、改めて興化軍興化縣を知し、轉じて徐州に通判す。守陳廣と協力して寇を拒ぐ。廣、四門を主り。復、北門を主り、虜衆を射殺すると數千人。後、廣、砲に中りて死す。復守るふと八十餘日、援至らず、前後數百戰して死す。園中に在り、子に書を遺りて曰く、父老いたり、君の味を食み、之に繼ぐに死を以てす、死すと雖も猶ほ生けるが如しと。總制趙葵、相臣吳潛、其事を上り、乞うて爲に廟を立つ。著書凡そ三十卷あり。子壘、廣、皆從事耶たり。

クワウフク 黃福 (明)字は如錫。昌邑の人。洪武中、太學生より、金吾前衛經歷に遷り、工部右侍郎に超拜せらる。建武永樂の交、工部尙書を以て布政使蔡二司事を兼攝す。正統五年正月、少保參贊の官に卒す。年七十八。成化の初、太保を贈り、忠宣と諡す。

クワウフクケイ 黃復圭 (元)字は均端。安仁の人。博學にして詩を好む。身、賊庭に陥り、詩を爲り其志を寓す。賊見て怒り之を殺す。

クワウフツ 黃叔 (明)字は用章。其先は封邱の人。曾祖平、越に徙り、遂に家す。

クワウブ

クワウブテイ 光武帝 (漢)世祖光武帝。統は正統十三年の進士。初め行人に除し、南京刑部郎中に至る。性剛廉なり、人之を硬黄と呼ぶ。累官して南京戸部尙書に擢てらる。歴官四十年、性下急にして物を容る能はず。然れども操履潔白、至る所建樹あり。弘治四年休を乞ひ、未だ行かずして卒す。

クワウブンセイ 黃文政 (宋)淮人。戎蜀軍潰ゆ。間道より靜江を走る。馬蹏、遊へて與に同じく守る。城破る。文政執へらる。大に詈りて屈せず。元軍其舌を斷ち、次を以て之を刺す。文政、含胡叱咤、死に比るまで聲を絶たず。

クワウブヘイ 黃炳 (宋)黃安の宰たり。兵を鳩めて守備す。嘉熙の間、峒丁、吉州に反し、一日五たび報を更ふ。寇至る。即ち巡尉をして兵を領じて敵を迎へしむ。皆曰く、空腹と。炳曰く、第だ行け、飯即ち至らん。炳乃ち吏役を率ひ、竹籬木桶を携へ、市門に沿ひて曰く、知縣飯を買ふと。時に人家新に炊きて方に熱し、皆熱飯熱水あり。厚く其直を給し、之を買ひ以て往く。士皆飽饜し、一戰して寇を破る。

クワウベウ 黃霖 (宋)字は水心。鳳臺の人。父嗣、宋季に東部郎中たり。森、書史に通じ、諸經百家皆精讀す。景定間、鄉薦

に預る。宋亡びて復仕へず。湖山に隱れ、室數椽を築きて四面松を植み、毎自ら能く爽齊の韻死するが如くならざるを愧づ。著す所、正一齋集あり。

クワウホ 黃輔 (晉)建城の人。高行あり。親に事へて孝を以て州郡に聞ゆ。孝廉と擧げらる。種帝の時、仕へて御史と爲り、清直にして節操あり。晉の政機はず、權臣命を擅にするを以て遂に隱遁す。子仁賢、仕へて青州從事に至る。

クワウホ 黃輔 (宋)字は元章。隱の曾孫。餘杭の人。乾道間の進士。太常博士と遷る。論對、旨を稱ひて秘書郎と進む。尋て兩浙轉運副使を知す。時に毘陵の民饑ふ、糶糶糶糶の根を取りて食とす。郡縣以聞せず。輔、以て奏聞し、乞うて糶錢を捐て之を濟ふ。活を全うするもの甚だ衆し。仕へて權刑部侍郎に至る。

クワウホ 黃輔 (宋)字は季全。酒の後。父端、紹興中の進士。惠州教授に歴仕し、安溪縣令と終ふ。輔、父に惠州に侍せし時、永嘉の陳鵬飛、此に謫居す。因て之を師友とす。其學を爲すや、専ら心を内に用ひて世間の利達少しも其心を動かさず。已にして其學を以て郷に教授す。門人及ぶもの數百人。時に林朝、城南に講學し、輔、城東に在り。鶴人、名を齊しうす。乾道八年、特科に登りて高州文學を授けられ、高要縣尉に調せられて卒す。九經等書の書あり。

クワウボウ 黃謀 (宋)字は德稱。煥の兄。

クワウホ

朱熹呂祖謙の門に從ひて遊ぶ。  
クワウボウエン 黃夢炎 (宋)字は如晦。新昌の人。景定の初の進士。官、饒縣尉に至る。少うして姚勉、胡仲雲、劉元高と名を齊しうし、錦江四俊と號せらる。嘗て相與に書庫に詣り、其籍を借り一覽して之を焚き、各紙を具して黙読す。蠹悉遣す無し。夢炎、後に姚勉と俱に義を守り以て終ふ。

クワウボウシヤウ 黃鳳翔 (明)字は鳴周。晉江の人。隆慶二年の進士。編修に除せらる。世宗實錄を編し成りて修撰に進む。萬曆中、南京禮部尙書を以て致仕す。天啓の初、文簡と諡す。

クワウボカ 皇甫選 (南北)汾陰の人。少くして父を喪ひ母に事へて孝なり。母の喪、墓側に廬し土を負ひて墳を爲り粥を食ひ塊を枕とし、櫛風沐雨、形容枯悴して家人も識らず。鷓鴣二鳥あり、墓側に悲鳴して哀を助くる者の若し。郡縣以聞す。詔して之を旌す。

クワウボカウ 皇甫洋 (明)字は子安。長州の人。性沈靜寡欲。官に居る廉直なり。儀制員外郎主客郎中に歴官す。議を以て廣平通判に左遷せらる。愆々病を發して卒す。

クワウボキ 皇甫規 (漢)字は威明。安定朝歌の人。賢良に擧げられて對策す。梁冀其已を刺るを怒り下罪す。冀んと陥死せんを。中郎將に拜し、討ちて先帝を平ぐ。黨獄の起るや、與かるを得ざるを恥ぢ、上書して自ら訟ふ。後赦に遇ひて歸り弘農守

クワウホ

遷る。文章を以て世に名あり。羌人を降服せしを以て度遠將軍に拜せらる。故に又皇甫度遠と稱せり。官を解き郷に歸る。時に貨を以て雁門太守を得たる者あり。刺を書し諷を投ず。度遠、臥して起きず。既に入て見ゆ。問うて曰く、君郡に在り雁を食ふと聞く、美なるか。頃刻にして入あり告げて曰く、王節信、門に在りと。度遠、驚起して衣帶履履に及ばず出て迎へ手を控きて入る。時人曰く、徒見二千石、不如一蓬萊と。

クワウボキ 皇甫暉 (五代)南唐江州の節度使なり。周の師、淮南を伐つ。暉、江州の屯兵を率ひ以て之を拒ぐ。軍陣整肅、士卒命を用ふ。故に中原の名將往々之を憚る。

クワウボキノツマ 皇甫規妻 (漢)規の後妻也。善く文を屬し軍書を能くす。規卒する時妻年猶盛にして容色美なり。董卓相國と爲り、其名を聞きて厚く之を聘す。妻乃輕服して卓の門に詣り自情を陳ぶ。辭甚酸愴なり。卓侍者をして悉く刀を擬せしめ以て屈せしめんとす。妻卓を罵りて敢て從はず。卓因て車を庭中に引かしめ、其頭を輓に懸け鞭撻して之を殺す。後人圖畫して號して禮宗と曰ふ。

クワウボク 黃朴 (宋)字は文卿。世貧を以て懷集尉に補せられ邑事を攝す。寇あり、至る。官吏色を失ふ。朴、郷兵を調して之を禦ぐ。賊畏れて遁れ去る。陽江尉に調せ

クワウホ

らる。邑の大衆、吏の長短を待す。或は朴に調す。朴、其過を數へて郡に申べ、之を法に賞く。一邑肅然たり。海寇劉承興、且に南思を吞噬せん。朴、船を率ゐて迎へ撃つ。賊聞きて宵に遁る。秩を改めて安漢を宰す。學校を崇び農桑を課す。徹して詔州を攝せしむ。就かず。力めて祠を巧ふ。

クワウホコク 黃輔國 (宋)字は應圖。徽の子。元豊中、進士に第して知高郵軍を歴す。時、淮右、早蝗す。輔國、極力賑濟す。民頼つて死せざる者數萬。帥曹列に薦められて樞密院編修官を得、尋て大臣の薦を以て右進言を知し、右司諫に遷る。嘗て惠民の政及び學校の法を論列す。皆著はして令典とす。太常少卿に改めんと擬す。上、親擢して起居舎人す。時に旨あり、元符元祐の臣僚の章疏を檢し、籍して蒸煎と爲さんと欲す。輔國、詔を奉せず。出で、袁州江寧府に知たり。詔して落職し、知光州たらしむ。大觀の初、泉福二州を知す。召されて給事中と爲る。

クワウホシユン 皇甫僞 (漢)安定郡尉たり。稜を生む。稜の子。八子あり。號して八祖となす。  
クワウホシヨク 皇甫湜 (唐)字は持正。淳安の人。元和中第に擢でられ、仕へて工部郎中に至る。韓愈、其才を愛し之を厚禮し、李翱、楊勳と名を齊しくせり。文集あり。世に行はる。元和中、裴度、辟して判官となす。度、福先寺を修し碑文を白居易に求

む。湜曰く、近く湜を捨て、遠く居易を求む。請ふ辭せんと。度、乃ち之を作らしむ。立どころに就る。酬ゆるに千緡を以てす。湜怒りて曰く、碑文三千字、毎字一緡、減するを得ずと。裴笑て之を足す。  
クワウホシヨク 皇甫軾 (宋)朱熹の門人なり。

クワウホスウ 皇甫嵩 (漢)皇甫規の甥として節の子なり。字は義真。少くして文武の才あり、詩書を好み弓馬を習ふ。靈帝の時北地の太守たり、黃巾を破るの功を以て冀州の牧を領し、太尉に拜し槐里侯に封ぜられ、威名天下に震ふ。節を折りて士を禮す、豪傑争うて之に附す。時人名將を號せり。初め中郎將朱儁と兵を合せて張角兄弟を討ち、斬首數萬級、賊黨悉く擒せなる。嵩養して冀州一年の田租を免し以て饑を贖す。百姓歌て曰く、天下大亂兮市爲墟、母不保子兮妻失夫、頼得皇甫兮復安居と。  
クワウホセイ 皇甫政 (唐)貞元の初、浙東の觀察使たり。

クワウホセツ 皇甫節 (漢)規の兄。雁門の太守と爲る。子嵩。  
クワウホセン 皇甫冉 (唐)字は茂正。丹陽の人。十歳にして文を能くす。騷九體、呼びて小友となす。官、右補闕に至る。弟曾と共に詩名あり。  
クワウホソウ 皇甫曾 (唐)字は季常。丹陽の人。冉の弟。官は御史たり。兄と共に詩名あり。

クワウホタン 皇甫誕 (南北)瑤の子。隋に仕へて御史と爲る。  
クワウホタン 皇甫坦 (宋)文江の人。醫を善くす。高宗、召見し、何を以て身を治めんかと問ふ。對て曰く、心、無爲なれば身安し、人主、無爲なれば天下治まると。太后目疾あり、立どころに癒ゆ。厚く賜ふに一も受くる所なし。高宗、清靜の二字を書して以て其菴に名づく。隆興の初、入朝す。孝宗、稱して皇甫先生と名し名いはず。又た相を善くす。嘗て荆南大師李道中に言て曰く、其女必ず天下の母たらんと。後ち果して光宗の后となる。

クワウホチウ 皇甫冲 (明)字は子浚。長州の人。其詩、三謝の体を仰ぐ。  
クワウホチウクワ 皇甫仲和 (明)睢州の人。天文推歩の術に精し。景帝の時、寇都城に逼る。城中の人皆哭す。仲和曰く、憂ふる勿れ、雲、南に向ふ、大将の氣至る、寇退かんと。明日楊洪等入援す。寇果して退く。一日衛士に謂て曰く、汝の室中、人あり相闘ふ、速く返るべしと。人其故を問ふ。曰く適々兩鶴の屋上に闘ふを見る、是を以て知る也。其占事大抵此に類す。  
クワウホテイ 皇甫湜 (明)字は子循。長洲の人。子浚の弟。其詩、三謝の体を仰ぐ。  
クワウホトクシン 皇甫德参 (唐)太宗の時、中丞たり。上言して曰く、洛陽宮を修して人を勞し地を収め、租は飲を厚くし、俗は高麗を好む、蓋し、宮中の化する所

名之士なり。著書數十篇あり。  
クワウホリククワイ 皇甫六回 (漢)諱の子。少にして文才あり。門を閉て問居し、未だ嘗て城府に入らず。置して而して后ち衣、耕して而して後ち食ふ。  
クワウホリヤウイ 皇甫亮 (南北)三日、省に上らず。文宣親しく其故を詰る。亮曰く、一日は雨、一日は酔ふ、一日は酒を病むと。  
クワウン 花雲 (明)懷遠の人。親衛にして黒く、驍勇絶倫なり。至正十三年癸巳、劍を杖いて太祖に臨濤に謁す。太祖其才を奇とし、兵に將として地を略せしむ。至る所輒ち克つ。懷遠を破り、全椒を拔き、縵家の寨を取る。太祖將に滁州を取らんとす。雲、彼を擧げて太祖を翼け、劍を抜き身を躍らし陣を衝て進む。賊驚て曰く、此黒將軍の勇甚しと、遂に滁州に克つ。甲午和州を取る。管勾を授けらる。其後數度の戦皆捷つ。庚子閏五月、陳友諒舟師を以て來寇す。雲陣を結びて迎へ戦ふ。賊攻むるこゝ三日、入るを得ず。巨舟を以て漲に乗じ、舟尾に縁り楫に攀ちて上る。城陥る。雲縛せらる。雲身を奮ひて大呼す。縛悉く裂く。起て守者の刀を奪ひて五六人を殺す。罵て曰く、賊は我主の敵にあらずや、何ぞ降らざる。賊怒て其首を碎く。暗れを楯に縛し殺て之を射る。賊を罵ること少しも變ぜず。死に至るまで聲猶壯なり。年三十有九。太祖吳王の位に即き、東邱郡侯に追封し、忠臣祠を立て、祀る。

なりと。上怒り諷諭の罪を以て治せんと欲す。魏徵曰く、賈誼、文帝の時に當り上書していふ、痛哭すべき者一、流涕すべきもの二と。古より上書激切ならざれば、人主の心を動かす能はず、所謂狂夫の言も、聖人、之を擇ぶものと。上、乃ち相廿匹を賜ふ。他日、徵また奏して曰く、近日陛下直言を好まず、勉強して含容せらるると雖ども、曩時の豁如にあらずと。乃ち更に優賜を加へて監察御史に拜す。  
クワウホハウ 皇甫汭 (明)字は子循。詩を善くす。工部主事に官す。俊才を恃み自負す。故に數々貶せらる。聲色を近づけ狎遊を好む。兄弟中に於て壽を以て終る。年八十一して卒す。

クワウホハン 皇甫播 (南北)字は景瑜。周に仕へて隋州刺史となる。政簡にして惠あり。民、之に安んず。恒し清白を以て自ら處り。時に稱して善人となす。  
クワウホヒツ 皇甫謐 (漢)皇甫嵩の曾孫。字は士安。年二十、學を好まず游蕩度なし。後、叔母任氏の教誨により、乃ち感激し、郷人席坦に執て書を受け勸力怠らず。實に居て自ら稼穡し、經を帯びて耕す。遂に典籍百家の言を博綜するに至れり。沈靜寡欲にして始んど高尚の志あり。著述を以て務まなし、自ら元晏先生と號す。或は體に動むるに、名を修め交を汎くせんことを以てす。謐曰く、聖人にあらざれば就か能く出處を兼存せん、田里に居る、亦以て堯舜の道

を樂むべし、何ぞ必しも世に接し事を利し、日夜執掌して然る後ち名を爲さんやと。玄守論を作り以て之に答ふ。後ち魏郡、上計掾に召し、孝廉に擧げ、景元の初、相國辟すれども皆行かず。其後郷親、命に應ずるを勸む。釋論を作り以て志を通す。武帝頗りに詔を下し教く逼て已まず。上疏して之を辭す、辭切に言至る。遂に聽許せらる。自ら表して帝に就き書を借らんと請ふ。帝一車の書を送りて之に與ふ。謐風疾と雖ども披閱して息まず。葬送の制を著はし名づけて篤終と云ふ。  
クワウホヒン 皇甫斌 (明)壽州の人。先に興州右屯衛指揮同知たり。才を以て遼海衛に調せらる。忠勇にして智略あり。嘗に遇へば輒ち身士卒に先つ。宣德五年十月、兵を勸して寇を禦ぐ。密城東峪に至り、且より備に及ぶ。力戦矢盡き援絶ゆ。子弼身を以て父を衛る。俱に戦死す。

クワウホブイツ 皇甫無逸 (唐)武德中益州大都督の長吏たり。嘗て部を按して民家に宿す。燈炷燼す。無逸、刀を抽き帯を斷ち炷となす。其廉介なること此の如し。  
クワウホヨウ 皇甫繡 (唐)臨涇の人。進士に擧げられ河南尹に累官す。兄繡相となり權寵大甚し。毎に之を極諫す。繡悦ばず。繡、時に家に働哭して繡が必ず族を滅すと言ふ。後ち繡果して敗る。朝廷、繡を賢なりとし國子祭酒太子少保を授く。繡、寡言正色にして世務を屑とせず、交る所は皆知

クワウンノツマ 花雲妻 (明) 徽氏の女。雲、院判を以て太平に守たり。陳友諒其の城を攻む。城遂に陥り、雲執へらる。擲時に一子あり雨めて三週。家人に謂て曰く、城且きに破れむとす。吾が夫必ず死なむ。吾が夫死なば必ず獨り生きず、然れども花氏をして後無からしむ可らず、嬰兒在り若等善く撫育せよと。遂に水に赴いて死す。クワウンリヨウ 華雲龍 (明) 定遠の人。初め衆を聚め非山に居る。太祖の起るに方り來り歸し、行々諸寨を陥れ、群賊を討滅し、累擢せられて都督同知兼燕王左相たり。淮安侯に封せらる。洪武七年卒す。クワウモウ 黃蒙 (明) 字は養正。黃養正を見よ。

クワウヤ 鄭登 (明) 字は孟質。宜寧の人。永樂九年の進士。監察御史に除せらる。正統中、兵部尙書に擢づ。十四年八月、賊瓦刺の難に死す。年六十五。景泰の初、少保を贈り、成化の初、忠肅と諡す。子儀。クワウヤウセイ 黃養正 (明) 名は養正。字を以て行はる。瑞安の人。書畫を善くす。中書舍人を授けらる。累官して太常少卿たり。正統十四年八月、土木の變に死す。太常卿を贈る。クワウユ 黃由 (宋) 長州の人。進士に擧げられて第一たり。刑部尙書兼直學士院に累官す。侍御史張巖、其の黨與を植つるを奏す。遂に退いて奉祠す。嘉定の間、起つて浙東安撫使たり。仍ほ官、刑部尙書直學士院たり。卒して少師を贈る。

クワウヨ 黃預 (宋) 字は幾先。登第して汝州教授に調せられ、薦を以て太學生に除せらる。出で、桐廬縣を治し、惠政あり。入りて監察御史となり、直言を以て蔡京に忤ひて邪の宜疎に貶せらる。尋て起ちて廣東倉たり。未だ行かざるに復た宜疎に貶せられて卒す。書解あり、世に行はる。クワウヨクシヨウ 黃翼升 (清) 字は昌岐。湘鄉の人。少にして鉄工を業とす。曾國藩、水軍を勦滅す。翼升應じて賊下し諱す。咸豐十一年、國藩推揚水師一支を増し、翼升を以て總統とす。八月、從つて安慶に克つ。同治二年、蘇州に克ち、師を還して浙を授く。過ぐる所の郡縣皆下る。三年、江寧に克ち粵邊平ぐ。幾はくもなくして撫寇、棘す。翼升舟師を率ゐて淮北を勦し山東に抵る。向ふ所皆捷つ。明年、撫寇平ぐ。光緒二十年、官に卒す。官、提督に至り、武壇と諡す。クワウヨケン 黃興堅 (清) 字は廷表。江蘇太倉州の人。順治十六年の進士。康熙十八年、鴻臚科に召試せられて編修を授けられ、贊善に遷る。著、忍菴集あり。吳梅村祭酒、襄東十子の詩を選び、興堅を以て冠と爲す。

クワウリ 黃里 (明) 雲内州同知。洪武五年の秋、蒙古の兵突いて城に入る。里兵を率ひ、巷戦して死す。クワウリン 黃璣 (宋) 字は邦美。幼より父の任を以て官に補せられ、孝宗の朝、陳俊卿の薦を用ひて知南雄州たり。廣東轉運判官に遷る。嶺右、銓法弊甚し。一切奏して之を罷む。深く廉郡に入りて民の疾苦を問ひ、湖南に移漕し行部して衡陽に至る。彬桂の蠻獠、變を爲すと聞き、一夕彬に至る。賊驚き潰ゆ。乃ち諭すに禍福を以てし、廉を顧みて賑給す。事遂に定まる。クワウリシ 黃維之 (宋) 字は叔章。永春の人。紹興中、進士に第し、國子監簿、大理丞等を歴。嘗て朱熹と學を論ず。人皆、鄭先生を以て之に事ふ。クワウリシアン 黃筠菴 (清) 石を畫くに工なり。其小方幅を見るに、淡墨を以て瘦石を作り、渲染を用ひすして凸凹自ら具はる。

クワウリヨウ 黃龍 (漢) 常山の人。中平二年、衆を聚め所在劫掠す。已にして誅斬せらる。クワウリヨウ 黃龍 (明) 遠東の人。初め小校を以て從つて歸州を復す。功を積み參將に至る。崇禎中、總兵官に擢てらる。六年七月、旅順の役、其脱する能はざるを知り、自刎して死す。左都督を贈る。クワウレイ 廣禮 (明) 大鏡と號す。報恩寺の僧なり。陳子野授くるに竹を畫くの法を以てす。クワウレツ 黃烈 (宋) 字は元功。浦城の

士院たり。卒して少師を贈る。クワウヨ 黃預 (宋) 字は幾先。登第して汝州教授に調せられ、薦を以て太學生に除せらる。出で、桐廬縣を治し、惠政あり。入りて監察御史となり、直言を以て蔡京に忤ひて邪の宜疎に貶せらる。尋て起ちて廣東倉たり。未だ行かざるに復た宜疎に貶せられて卒す。書解あり、世に行はる。クワウヨクシヨウ 黃翼升 (清) 字は昌岐。湘鄉の人。少にして鉄工を業とす。曾國藩、水軍を勦滅す。翼升應じて賊下し諱す。咸豐十一年、國藩推揚水師一支を増し、翼升を以て總統とす。八月、從つて安慶に克つ。同治二年、蘇州に克ち、師を還して浙を授く。過ぐる所の郡縣皆下る。三年、江寧に克ち粵邊平ぐ。幾はくもなくして撫寇、棘す。翼升舟師を率ゐて淮北を勦し山東に抵る。向ふ所皆捷つ。明年、撫寇平ぐ。光緒二十年、官に卒す。官、提督に至り、武壇と諡す。クワウヨケン 黃興堅 (清) 字は廷表。江蘇太倉州の人。順治十六年の進士。康熙十八年、鴻臚科に召試せられて編修を授けられ、贊善に遷る。著、忍菴集あり。吳梅村祭酒、襄東十子の詩を選び、興堅を以て冠と爲す。クワウリ 黃里 (明) 雲内州同知。洪武五年の秋、蒙古の兵突いて城に入る。里兵を率ひ、巷戦して死す。クワウリン 黃璣 (宋) 字は邦美。幼より

人。宣和の間、處州を守る。時に背漢盜發り、先づ杭嚴徽三郡を破り、遂に衢婺を陥る。是の時、處も亦た守を失ひ、麗水松陽遂昌青田、皆賊に没す。而して劍川獨り完し。烈、詔を奉じて劍川に即き、事を治して能く勇を奮ひ、軍力區畫立しきを得たり。民賴て以て全し。クワウレン 黃廉 (宋) 分寧の人。進士に第して州縣に歴官す。神宗召して時務を訪ふ。對へて甚だ悉くす。提點河東刑獄に擢てらる。元祐の初、戶部郎中たり。陸師閔、成都路の茶場を提舉す。民、或は之を苦む者あり。廉を遣はして按察せしむ。奏して其の甚しき者を罷む。累遷して陝西都轉運使給事中たり。クワウワイ 黃淮 (明) 字は宗謙。永嘉の人。性の子。洪武末の進士。中書舍人たり。成祖の時、右春坊大學士に擢てらる。累を得て囚はる。仁宗即位の初、復官して少保戶部尙書兼大學士に擢てらる。宣德元年致仕す。正統十四年六月卒す。年八十三。文簡と諡す。クワウワウ 黃橫 (漢) 字は平仲。琅琊の人。魏徐敷に從つて毛詩并に古文尙書を學び、また東萊の費直が卜筮に長するを聞きて之に師事す。漢の平常元始中、大司空掾となる。時に河決す。帝、橫の言に従ひて水を治む。クワウワウ 黃清 (宋) 字は清臣。臨寧の人。父鏡、崇寧中に第して朝請郎に終る。清、

父の任を以て官に補せられ、孝宗の朝、陳俊卿の薦を用ひて知南雄州たり。廣東轉運判官に遷る。嶺右、銓法弊甚し。一切奏して之を罷む。深く廉郡に入りて民の疾苦を問ひ、湖南に移漕し行部して衡陽に至る。彬桂の蠻獠、變を爲すと聞き、一夕彬に至る。賊驚き潰ゆ。乃ち諭すに禍福を以てし、廉を顧みて賑給す。事遂に定まる。クワウリシ 黃維之 (宋) 字は叔章。永春の人。紹興中、進士に第し、國子監簿、大理丞等を歴。嘗て朱熹と學を論ず。人皆、鄭先生を以て之に事ふ。クワウリシアン 黃筠菴 (清) 石を畫くに工なり。其小方幅を見るに、淡墨を以て瘦石を作り、渲染を用ひすして凸凹自ら具はる。クワウエツ 黃越 (清) 字は左君。一字は左田。當塗の人。乾隆五十四年の進士。官、禮部尙書たり。勤敏と諡す。鍼、書に工に、畫を善くし、久しく譽賞を邀ふ。内府の名蹟、均しく其鑑定を經。晚年、名益々重し。目、明を失す。自ら盲左と號し、猶ほ能く書を作る。著、西齋集あり。クワウエン 黃琬 (漢) 瓊の孫。字は子瑛。瓊、初め魏郡太守たり。建和元年、日蝕す。京師見えす。琬、狀を以て聞す。太后、食

する所の多少を問ふ。瓊未だ所況を知らず。琬、年七歳、旁に在りて曰く、何ぞ日食の餘は月の初めの如しと言はざると。瓊大に驚き、即ち其言を以て應ふ。後、徵されて少府に拜せられ、又た豫州の牧となる。寇賊を擊平し、威聲大に振ふ。關内侯に封せられ、更に陽泉侯に封せらる。クワウエンカイ 黃瑗介 (清) 字は皆令。嘉興の人。楊世功の妻なり。詩詞楷書を善くす。又畫に工にして元人の筆致あり。長安の團秀多く之に師事す。クワウワウ 黃泓 (晉) 父沈、天文術を善くす。泓、父に從ひて業を受け、精妙愈深し。兼て經史を博覽し、尤も禮易に明。はり。性忠勤。懷帝永嘉の亂、渤海の高瞻と與に地を幽州に避く。後、石季龍、虢を攻む。虢將に遼東に走らんとす。泓曰く、賊に敗氣あり、憂ふべき無し、二日を過ぎず必ず當に奔潰すべし、宜しく殿に士馬を勒して之を追撃すべしと。虢曰く、今寇の盛んなる此の如し、卿は必ず走ると言ふも、孤は未だ敢て信ぜずと。泓曰く、陛下の盛なりと言ふものは人事のみ、臣が必ず走ると言ふものは天時なり、胡ぞ疑を爲すに足らんと。期に及びて季龍果して逐れ去る。虢益々之を奇とし、愈々敬禮を加ふ。クワウエン 華實 (周) 衛の靈公に仕ふ。齊豹の亂、公乘驅して閉門より入る。實をして副車に乗らしむ。公實を載せて出づ、齊氏の門を通ぎ實をして肉袒し蓋を執て以て

クワガイ

其國に當らしむ。齊氏公を射る。寅郭門を閉ち、輪はて公に従ふ。

クワガイ 華亥 (周)宋の大夫。元公信なくして私多く、而して華向と隙あり。華定、華亥、向寧と謀て曰く、亡ぐるは死するに愈れり、之を先せん。僞りて華亥疾ありと稱し、以て群公子を誘ふ。公子之を問ふも、のあれば乃ち之を執ふ。遂に六公子を殺し、五公子を拘ふ。公も亦華亥向寧及華定の子を取て質と爲す。公遂に質子を殺して華氏を攻む。華亥等陳に奔る。

クワカウ 華高 (明)和州の人。詭通海等と巢湖の水師を以て太祖に歸す。總管を授けらる。行省平章政事に進み、廣徳侯に封せらる。性怯にして征討する所あるも疾と稱し行かず。洪武四年四月、廣東邊海城堡の事竣り、瓊州に至り卒す。巢國公を贈り、武莊と諡す。

クワガク 華嶽 (元)工に山水を畫く。クワカフ 和洽 (三國)字は陽士。孝廉に擧げられ後に尙書令と爲る。清貧にして約を守り、田宅を賣て自ら給するに至る。西陵侯に封ぜらる。

クワガン 華崑 (清)字は秋岳。新羅山人と號す。閩の人。杭州に寓居せり。人物山水花鳥草蟲を善くす。時習を脱去し其動物を寫す尤も佳なり。詩を能くして亦古質あり。維揚に客たる最も久し。晩年西湖に歸り家に卒す。年八十に近し。

クワギヨ

王期と與に船に乗り難を避く。一大夫あり依附せんと欲す。欲、之を離んず。期曰く幸に尙くば寛なれ、何すれぞ不可あらんと。遂に之を納る。後ち賊追ひ至る。期彼の一大夫を捨てんとす。欲曰く初め擬せしは正に此が爲めなり、已に既に其の託を納る、寧ろ急を以て相棄つべけんやと。遂に携へ逃へり。初め大尉に官せり、凡そ疎賜は悉く以て貧乏の者を賑はし、自から淡海に甘んぜり。少にして郡原、管寧と善し。號して一龍となす。欲は龍頭たり寧は龍腹たり原は龍尾たり。

クワギヨウ 和凝 (五代)字は成績。郟州須昌の人。梁の時進士に擧げられ、漢、周を歴て、官、太子太傅に至り、魯國公に封ぜらる。嘗て買學を知どり、取る所皆一時の秀、稱して人を得と爲す。凝、進士に擧げられしとき、名十三に居り。後、擧選を知どりしとき、范質も亦十三に居り。之に謂て曰く、以て老夫の衣鉢を傳ふと。後、歴官皆凝と同じ。詩を作て曰く、從此廟堂添故事、登庸衣鉢亦相傳と。嘗て進士李凝を擧ぐ。凝が大に拜せらる。及び、凝制を草し、盡く開中の器皿を取り去り、詩を留めて云く、座主登庸歸鳳閣、門生批詔立螭頭、玉堂舊閣多珍玩、可作西齋潤筆不と。凝少くして才名を負ふ。賀瓌諸子に謂て曰く、和凝は凝に志すの士、後當に富貴なるべし、爾後凝て之に事へよと。因て凝は子に女を以てす。後果して相と爲る。凝朝に在りて

外疏に内密なり。與に交はる者之を愛す。クワクエイ 郭永 (宋)元成の人。剛明勇決。古今に傳通す。錢を得れば即ち書を買ふ。家に藏書萬卷。仕へて丹州司法參軍たり。河東提點刑獄に遷る。金人大名を犯す。宗澤、永を徵して戦守せしむ。城陷る。永、賊目大いに罵り、金人に殺さる。一家皆害に遇ふ。紹興の初、資政殿學士を贈り勇節と諡す。

クワクエイ 郭英 (明)臺昌侯與の弟。年十八、兄と俱に太祖に事へて親信せられ、輔中に留宿するに至る。從征して殊功あり。河南都指揮使に進み、武定侯に封ぜらる。建文靖難の後、罷て第に歸る。永樂元年卒す。年六十七。營國公を贈り、威襄と諡す。子十二人。

クワクエイノツマ 霍榮妻 (元)股氏。夫死す。年少し。家人皆百方改適を勸む。乃ち廢室に入り、針を引き面を刺して之を墨漬し、死を誓て臥せず。

クワクエイメイ 郭幼明 (唐)子儀の弟。性謙愚過ちなし。武藝に工ならずと雖も善く賓客宴飲し、家に居て衆を御し、皆其懐心を得。子儀が勳業を以て大將監に累官す。卒して太子太傅を贈らる。

クワクエイキ 郭奕 (晋)字は樂業。太原陽曲の人。果世舊族たり。奕才望あり。雍州刺史を歴。羊祜洛に還り界に至る。人を遣はし之を要せしむ。郭便ち自ら往く。既に見、歎じて曰く、羊叔子何ぞ必ずしも郭泰

同列を率ひ、遷日茶を以て相飲む。味の劣る者は罰あり。號して湯社達人といふ。亦鬪茶を以て若戰と爲す。子觀。

クワキヨク 過易 (宋)字は相古。源の從孫。博覽能文。性至孝なり。通神集三十卷あり。壽陽に收めらる。

クワキヨ

クワキヨク 華鈺 (明)字は德夫。丹徒の人。萬曆二十三年の進士。荊州推官に除せらる。稅監陳奉に讒せられ、詔獄に下る。釋され民となり卒す。天啓中、尙書少卿を贈る。

クワクアイ 郭愛 (明)女子。鳳陽の人。字は善理。性穎敏機巧なり。宣宗其賢を聞き徵して京に至らしむ。病んで卒す。後に國權に封ぜらる。

クワクアンコク 霍安國 (宋)建炎中、知鎮州を以て節に死し名を顯はす。延康殿學士を贈らる。李綱曾はく、義に仗り節に死する者、内に在りては李若水あり、外に在りては霍安國ありと。

クワクアリン 郭阿隣 (金)郭仲元の弟。宣宗の時兵に將として各處に轉戰して屢々功あり。興定元年元帥右都監に遷る。秦州より出て、宋を伐ち、宗の統制吳玠及び將校二百人、馬數百匹、糧萬石を獲。復宋兵を襄家莊に敗り五百級を斬り、又之を寒山嶺、龍門關、大石渡に敗り、粟二千餘石を獲。復之を稍子嶺に敗り斬首二千餘級、生擒百人。時に宿夢方に滋し。兵を留めて之を守らしむ。宋兵大に至る。阿隣戰没す。後金

業に滅せんと。復た羊の許に往き、少頃して還る。又歎じて曰く、羊叔子人を去る遠しと。詰既に去る。突之を送り且に綱り、數百里に至る。償ち境を出づるを以て官を免せらる。復歎じて曰く、羊叔子何ぞ必ずしも顔子に滅せんと。

クワクエン 郭衍 (隋)字は彦文。隋の武帝に并州に從ひ、功を以て驪國公に封せらる。隋の開皇五年、瀛州に知たり。飢民を賑す。上大いに之を善みし、朔州總管を授く。

クワクエンタク 郭延澤 (宋)字は德淵。南唐試秘書省正字たり。宋の初、殿中正を歴知建州たり。太宗、延澤及び董元亨の皆學を好むを聞き、宰相に詔し召して經史を問はしむ。條對旨に稱ふ。命て史館檢討とす。國子博士を歴。咸平中休退を求め、虞部員外郎を授けらる。致仕して驪州即城內小園に居り以て自ら娛しむ。詠牡丹千餘首あり。圖籍を集むる萬餘卷。

クワクエンロ 郭延魯 (五代)父鏡、驍勇を以て晋の高祖に事へ功あり。泌州刺史たること九年。政を爲すに惠愛あり。州人之を思ふ。延魯、魯を善くするを以て將たり。從つて汴京を攻む。先登の功を以て復州刺史に累遷す。延魯嘆じて曰く、先君泌州刺史たる九年、民今に到るまで之を思ふ、吾今幸に刺史たるを得、其れ致て先君の志を忘れんやと。是より益廉平を以て自ら勵む。民甚だ之に頼る。秩滿ちて州人留を乞ふ。許

紫光疎大夫を贈らる。

クワクワイウ 郭裕 (明)清江の舉人。襄陽知縣たり。始めて事を視る。張獻忠至る。左良玉近邑に屯す。裕單騎遊へて與に共に禦ぐ。賊却き去る。是に至り賊將劉福來り攻む。裕礮石を發し擊傷多し。賊憤攻益々力む。城陷る。身に數創を被りて大に罵る。賊之を支解す。門を圍ち害に遇ふ。

クワクワイチヨウ 郭以重 (明)黃州の人。世々衛指揮たり。崇禎十六年賊至り城陷る。以重、難に赴く。既にして賊に遇ふ。賊、脅かして去らしめんとす。堅く從はず。刃を露はして之を惱す。乃ち賊に謂て曰く、汝に従ふは難きに非ず、但小兒を抱く者は吾妻なり、汝我爲に之を殺せ、吾果無からん。賊其言の如くす。以重即ち賊刀を奪ひて一賊を斬る。群賊擁し至る。遂に水に赴きて死す。

クワクワウ 郭鴻 (南北)字は元瑜。少より拔俗の韻あり。張天錫、使をして禮を備へ之を傲さしむ。元瑜翔鴻を指し使人に示して曰く、此の鳥安ぞ籠すべきと。其女劉鳳に適く。

クワクワン 郭雲 (明)南陽の人。長八尺餘。狀貌魁偉。元季裕州に據り、太祖に抗す。執へられて節を折り獻替す。南陽衛指揮食事に累擢せらる。後郷に還りて其地を成り、凡そ數年にして死す。長子洪。

クワクワイ 郭榮 (隋)字は長榮。太原の人。高祖受禪。太僕に拜す。榮容貌魁岸、

クワクワイ

クワクエ

クワクエ

まず、皆道を遮りて泣く。  
**クワクオウキヤウ** 郭應鑾 (明)福清の人。兵備副使。萬曆丙午、鄒試に擧げられ第一たり。寧遠の餘賊り犯す。應鑾之を禦ぎ、賊富山虎等十五人を斬る。是に至り混天猴、衆を率ゐて夜突き至る。應鑾、北關に登り士卒を集めて拒守す。手つから三賊を殺し、力支へず遂に死す。光祿少卿を贈り、忠烈と諡す。祭葬を予へ、一子を監に入れて書を讀ましむ。

**クワクオウヘイ** 郭應聘 (明)字は君賢。莆田の人。嘉靖二十九年の進士。戸部主事より郎中に擢てらる。穆宗神宗の朝、中外に歴官し、兵部尙書參贊機務に累擢せらる。之に久うして疾を引き歸り、萬曆八年七月卒す。太子少保を贈り、襄靖と諡す。

**クワクオン** 郭恩 (宋)開封の人。初め謀賂班たり。出で、左侍禁たり。累りに戦功あり。積官して重儀使并に鈴轄管勾驛府軍馬事たり。初め夏人賊に、野河の地を侵す。耕種の時に至れば、賊兵を河西に屯して以て待つ。官軍經略使龐勳將を戒しめて與に戦ふ勿からしむ。月餘食盡きて去る。是の如くする屢なり。内臣黃道元、巡邊を以て名とし往て之を按視す。諱者言く、虜兵沙黍浪に屯する十五里絶えずと。恩止らんと欲す。道元怒り、言を以て恩に逼る。恩遂に夜歩騎士四百人を率ゐ、風野河北に循ひ行く。臥牛峯の舉火を見て曰く、虜、吾輩の出るを知る。道元曰く、此れ若が輩

脚躡するが爲なり。明くる比ひ、賊虜四方より圍み東山に合撃し城東掖門に趨り以て入るに遇ふ。恩、道元と皆賊に陷る。恩之に死す。觀察使を贈らる。

**クワクオン** 霍恩 (明)字は天錫。易州の人。弘治十五年の進士。正徳中、上蔡縣を歴知す。六年賊四方に起り、中原の郡邑多く殲破し、節に抗して死する者多し。恩、梁遠と共に守る。城陷るに及び恩執はる。賊脅かして跪かしむ。罵て曰く、吾此賊肯て賊の爲に屈せんや。賊曰く、人を殺して以て之を懼れしめんや。罵ること益厲し。賊刀を以て其口を抉て之を支解す。

**クワクカ** 郭荷 (晋)字は承休。洛陽の人。六世祖整、漢安順の世、公府入たが辟し、公車五たび徵すれども皆就かず。整より荷に及ぶ、世々經學を以て位を致す。荷群籍を明究し特に史書を善し。州郡の命に應ぜず。張仲使者を遣り、安車束帛を以て強ひて之を徵して博士祭酒とす。至るに及び太子友に擢す。荷上疏し還るを乞ふ。之を許す。安車蒲輪を以て送還す。東山に張掖し、年八十四にして卒す。諡して元徳先生と曰ふ。

**クワクカ** 郭荷 (晋)字は仲和。德海の子。鷲勇にして謀畧あり。憲宗に從て汴を攻め功を以て千戸に擢てらる。又宗王に從ひ西征し、向ふ所戦功あり。四城を經營する。こご前後凡る七年。名王を誅する一、其國を降す。こご十餘、城を得る千を以て計ふ。世祖位に即く。侃上疏して宋を平ぐるの策を陳す。帝其言を是として萬戸に擢づ。江南平らぎ遷て寧州を知す。居る。こご一年にして卒す。侃軍を行るに紀律あり、野露露宿、風雨と雖も民舎に入らず。至る所學を興し農を課す。吏民畏服す。

**クワクカン** 郭侃 (元)字は仲和。德海の子。鷲勇にして謀畧あり。憲宗に從て汴を攻め功を以て千戸に擢てらる。又宗王に從ひ西征し、向ふ所戦功あり。四城を經營する。こご前後凡る七年。名王を誅する一、其國を降す。こご十餘、城を得る千を以て計ふ。世祖位に即く。侃上疏して宋を平ぐるの策を陳す。帝其言を是として萬戸に擢づ。江南平らぎ遷て寧州を知す。居る。こご一年にして卒す。侃軍を行るに紀律あり、野露露宿、風雨と雖も民舎に入らず。至る所學を興し農を課す。吏民畏服す。

**クワクカン** 郭鑑 (明)嘉靖三年、五堡遠築き、大同の鎮卒をして之を成らしめんとす。鑑其孤懸なるを以て之を止めんと請ふ許さず。遂に巡撫を殺して叛す。

**クワクガン** 郭岩 (明)雷家。郭詡の子。其業を世々にす。

**クワクキ** 郭琦 (晋)字は公偉。晉陽の人。少より方直、五行を善くす。天文志、五行傳、註殺梁京氏易百卷を著す。趙王倫位を奪ひ、琦を用ひんと欲す。琦曰く、我れ已に武帝の吏たり、豈復今世の吏たるべけんやと。終身隱逸す。

**クワクガ** 郭賀 (漢)字は喬卿。洛陽の人。祖堅伯、父游君、並に清節を修む。賀、光武の時に尙書令たり。曉に故事を習ひ匡益する所多し。荊州刺史に拜せられ殊政あり。顯巡狩して南陽に到る。賜ふに三公の服を以てす。行部に敎し捕縛を去り百姓に其容服を見せしめ、以て有徳を彰はす。

**クワクカウイウ** 郭孝友 (宋)字は次仲。龍泉の人。進士に擧げられ累官して工部侍郎たり。時に秦檜、金と和を約す。孝友がもと同會生なるを以て、其の己れを助くるを冀ひ、私に之を防ふ。孝友曰く、和は本と至計に非ず、因て一時の患を儲するも後患を如何んと。檜懼はす。尋て直獻文閣を以て致仕す。卒して學に嗣らる。

**クワクカマ** 郭蝦蟇 (金)會州の人。兄疎大と世々保甲射手たり。平時矢を發するに、掖下、甲の掩はざる所を伺ふ、射て中らざる無し。會州破れ兄弟俱に夏人に執へらる。夏人其技を憐みて之を囚ふ。俱に死を誓て風せず。奔を謀り免れ、疎大竟に死し、蝦蟇獨り身を抜いて歸る。上其忠を思ひ靈州鈴轄を授く。後屢々戦功あり、元帥左都監に遷る。既にして金亡び西州皆元に降

**クワクキ** 郭杞 (宋)字は堯章。岐が曾孫隆興癸未、進士第に登る。翁源令、縣尉たり。寇あり境を侵す。策を以て敵を迎へ擒を成す。提刑楊萬里、保獎して承事郎を加へ章服を賜ふ。陝西を食判す。承儀郎主管四外總宗院に擢じて卒す。人となり剛峭、家に餘資なし。當時の名士、權輿、黃仁傑と相友とし善し。尤も楊萬里に知らる。

**クワクキ** 郭遠 (宋)字は仲通。其先邢より洛に徙る。康定中、兄運、敵に死す。遠を録して三班と爲し職を奉ぜしむ。范仲淹、之に勸めて學問せしむ。後累官して簽書樞密院事となり、檢校太尉を加へらる。哲宗の時、左屯衛將軍を以て致仕す。

**クワクキ** 郭照 (宋)詩山水寒林に工みなり。東坡の詩に云く、玉堂臥對郭照華、發興已在青山外と。六副驟雨の圖に撰するに因て筆法大に進む。

**クワクキ** 郭義 (明)濟寧の人。洪武中、功を累れて燕山千戸たり。成祖の時、左都督に累遷し、安陽侯に封せらる。亦奉天靖難武臣の號を授けらる。時に南京に在りて疾率なり。命を聞て即ち卒す。

る。蝦蟇猶ほ孤城に據りて奮戦す。城已に破れて、猶屢戦して息まず。獨り大草積に上り、門扉を以て自ら蔽ひ、二三百矢を發す。悉く中らざるなし。矢盡き、弓劍を投じて自焚死す。年四十五。城中一人も肯て降る者なし。土人爲に祠を立つ。

**クワクカン** 郭翰 (晋)姿度秀美。月夜に乗じて庭中に臥す。空中一少女あり、冉冉として下る、明艷絶代。曰く、吾は織女なり、上帝命じて人間に遊び、佳偶を尋擇せしむ、清風を仰慕して此の宿契を伸ぶと。居ること一年、七夕、忽ち翰が手を執て泣て曰く、帝命程あり、便ち當に永訣すべしと。七寶枕一枚を以て留存し、空を履みて去るといふ。

**クワクカン** 郭翰 (唐)御史を以て隴右を巡察し、搜劾する所多し。賓州に次する時、狄仁傑刺史たり。民争て言ふ、異政ありと翰、僚屬に謂て曰く、其境に入れば其政知るべし、願くば朝に薦めん、久く留まるなかれと。駕を命じて去る。



尹だり。子孫公に至る者一人、廷尉七人、侯三人、刺史侍中二十餘人、御史より監平に至るもの甚だ衆し。

クワクキチウ 郭企忠 (金)字は元獨。唐の粉陽王子儀の後。世々北方の節鎮たり。父昌金、遼の時、天德軍副使と爲る。企忠幼にして孤、母に事へて孝謹。父の官を襲き左散騎常侍を加へらる。天輔中、金の大軍、雲中に至る。企忠諸部を率ゐて之に附す。太祖厚く之を遇す。天會六年、靜江軍留後となり、天德軍節度使、汴京歩軍都指揮使、金吾衛上將軍、權遼州刺史等を歴て卒す。年六十八。

クワクキチヨウ 郭重義 (宋)字は處仁。蒲田の人。早に太學に遊び操術を以て稱せらる。年四十餘、錢唐に客たり。母の喪を聞き徒跣して喪に奔る。一働毎に輒ち嘔血す。土を聚めて墳を爲り、其傍に廬す。甘露降り鳥鵲馴集す。紹興間、事聞し其間に旌す。後義重特科より仕へて德慶府將軍録事に至る。

クワクキフ 郭汲 (漢)字は細侯。茂陵の人。建武中、潁川太守に除せらる。帝勞して曰く、賢良太守、帝城を去る遠からず。河九里を潤す、冀くば京師皆其福を蒙らん。嘗て并州に在り。素より恩徳を結ぶ。後部を行り西河に到る。兒童數百、竹馬に騎して迎へて道に拜す。次で徵されて大中大夫となる。年八十六、卒す。

クワクキボク 郭希朴 (宋)華陽の人。博

聞を以て聞ゆ。尤も易に通ず。任玠、以て漢郭林宗に方ぶ。有道先生と號す。能く死生の故を前知す。李敷知命録を爲りて其事を載す。

クワクキン 郭欽 (漢)榆廩の人。哀帝の時、丞相司直たり。廉直を以て名あり。王莽攝政す之に事ふるを耻ぢ病を以て免官す。郷里に歸り汧陽に遷す。臥て出でず、家に月す。

クワクキンジヤウ 郭金城 (明)崇禎中、李自成斬州を陷る。金城、羅田守將たり。賊城に逼る。所部五百人を率ゐて戦ひ、斬級百餘、之を英山に追ふ。既にして賊また大に集る。圍を突いて出づるを得ず、遂に執へらる。降を脅すも從はず、殺さる。

クワクキンタイ 郭金臺 (明)字は幼陽。湘潭の人。本姓陳氏。格勳の祖。年十二、家難に遭ひ、郭氏に匿れて脱するを得。郭初め子なし、遂に之を子とす。明亡びて後、衡山に歸隱し、徒に授け自ら給す。卒するに及び、自ら其汗に題して遺民郭金臺之墓と曰ふ。

クワクキヨ 郭巨 (漢)隆慮の人。家貧なり、母を養ひ孝を盡す。供饌毎に母必ず孫に分與す。巨、妻に謂て曰く、兒母の饌を分つ、貧にして供する能はず、子は再び有るべく、母は再び得べからず。其子を埋めん欲し、地を掘ること三尺、黄金の一釜を得たり。上に丹書あり曰く、天郭巨に賜ふ。官奪ふを得ず、人取るを得ず。

クワクキヨウ 郭登 (明)遷安の人。萬曆官給事中たり。魏忠賢に附するを以て、驟に兵部侍郎に至る。崇禎の初、逆案を定めて削籍せらる。後遷れて清に入り、譴戍せらる。

クワクキヨク 郭玉 (漢)漢の初老父子あり。何れの出なるを知らず。常に潜水に漁釣す。因て涪と號し、食を人間に乞ふ。嘗て疾ある者を見、時に針石を下せば、輒ち時に應じ效あり。乃ち針經診脈法を著す。世に傳ふ。

クワクキヨテイ 郭居鼎 (清)海澄の人。歲貢に由り、戶部郎中に歴官す。幼にして恃特を失ひ、哀毀其身を傷ふ。兄居昌、亂に因り相失す。跋渉數千里、挈へて以て歸り、産を分ち之を共にす。痴賢に祀らる。

クワクキヨヘイ 霍去病 (漢)平陽の人。大將軍衛青の姉の子なり。人となり少言洩らさず、氣あり敢往す。年十八、騎射を善くす。武帝の朝、驃姚校尉たり。凡ろ六たび出て匈奴を撃つ。狼居胥山に封じ、姑衍に禱し、瀚海に登臨す。冠軍侯に封じ、驃騎大將軍を加へらる。後益封五千八百戶、賞賜甚多し。匈奴を烏蘭山下に討ちしとき、渴に苦しみ、糲を以て地に卓つ。五泉湧出す。渾邪王降を請ひ、地を辟くこぞ千里。上嘗て之に教ふるに孫吳の兵法を以てせん欲す。對て曰く、方畧如何を願ひのみ、必ずしも古兵法を擧げずと。上爲に第を治め之を視せしむ。對て曰く、匈奴

未だ滅びず、何ぞ家を以てすることをせん。是に由て上益々之を重んず。

クワクキリン 郭希林 (晉)翻が曾孫。高志仕へず。徵召一も就く所なし。子家、亦隱居して仕へず。

クワクク 郭詔 (明)字は仁弘。清狂道人と號す。江西泰和の人。名山を遍歴して曰く、豈に證を必とせんや、實は是に在り。時に江夏に吳偉、北海に杜蕡、姑蘇に沈周あり、詔之を名を齊す。百金を以て其畫を求むるものあり。

クワククワイ 郭隗 (周)燕人。昭王賢を招き以て燕を強くせんと欲す。隗曰く、昔千里の馬を求むる者あり、千金を費し往けば、馬已に驚る、五百金もて其骨を買ひ還る、曰く死馬すら尙之を買ふ、况んや生者をやと、期年ならずして、千里の馬至る者三、大王賢を招んと欲せば、先づ隗より始め、士豈に千里を遠しとせんやと。乃ち臺を築き之に師事す。樂毅、鄒衍、劇辛、風を聞きて至る。乃ち伐つて強齊を敗る。

クワククワウ 霍光 (漢)字は子孟。去病の異母弟。武帝の朝、奉車都尉たり。武帝の子弗陵、年七歳、形體壯大にして多知なり。上之を奇愛し、心に立て、太子とさん欲す。其年種く母少きを以て、霍豫之を久す。大臣を以て之を輔けしめんと欲す。群臣を察るに、惟霍光のみ忠厚にして大事を任ずべし。乃ち黃門をして、周公の成王を輔くるの圖を畫かしめ、諸侯を朝せし

め以て光に賜ふ。上病篤きに及び、霍光涕泣して問うて曰く、如し不諱あらば、誰か當きに嗣かしむべき者ぞ。上曰く、君未だ前番の意を諭らざるか、少子を立て、君周公の事を行へと。乃ち光を以て大司馬大將軍とし、金日磾を車騎將軍とし、同じく遺詔を受けて少主を輔けしむ。光禁閉し出入する二十餘年、小心謹慎、未だ曾て過あらざ。人と爲り沈黙詳密、出入する毎に殿門を下るに進止常處あり。即ち僕射密に之を監視するに尺寸を失せず。甘露中、麒麟閣に圖形す。光第一に居り。大將軍博陸侯霍氏と云て名いはず。

クワククワウ 郭鉉 (明)合肥の人。初め彭城衛指揮使たり。都指揮僉事に累遷す。武舉に中り、同知に擢でらる。後漕運を總督す。正徳中卒す。

クワククワウコウ 郭皇后 (漢)光武帝の皇后。眞定薬の人。郡の著姓たり。父は昌、母は眞定恭王の女郭主。更始二年、光武、王郎を撃ちて眞定に至る。因て后を納る。寵あり、皇子彊を生む。建武二年立て皇后と爲る。其後后寵稍々衰ふるを以て數々怨對を抱く。十七年遂に廢せられて中山王太后となる。后の中山王輔、沛王に徙封せらるゝに及びて、后、沛太后となる。二十八歳歿す。

クワククワウコウ 霍皇后 (漢)宣帝の皇后。霍光の女。母顯既に淳于衍をして許皇后を殺さしめ、光を勸めて之を宮に内る。

果して立て皇后と爲る。光薨じて後一歳、許皇后の男、太子と爲る。顯惡慮食せず、嘔血して曰く、此れ乃ち民間の時の子、安んぞ立つを得ん、后子あらば反て王たらしめんとするかと。復た皇后をして太子を毒せしむ。皇后毒を挾んで未だ行はず、許后を殺し、事頗る泄る。顯及び謀に與る者皆誅せられ、皇后廢せられ昭靈宮に處り。後十二歳、雲林館に徙りて自殺す。

クワククワウコウ 郭皇后 (三國)魏の文帝の后。安平廣宗の人。后少なるとき父永之を奇として曰く、此れ乃ち吾が女中の王也と。遂に女王を以て字となす。早く二親を失ふ。太祖魏公たる時東宮に入るを得、黃初三年皇后と爲る。后常に兄妻、姉子武等を戒めて曰く、漢氏椒房の家能く自ら全うする者少し、皆驕奢に由る、慎まざる可けんやと。青龙三年崩す。文徳郭皇后と曰ふ。

クワククワウコウ 郭皇后 (三國)魏の明帝の后。西平の人。世々河右の大族たり。明帝甚愛幸し、遂に立て、皇后となす。齊王位に即き、后を尊て皇太后と爲し、永寧宮と稱す。景元四年十二月崩す。

クワククワウコウ 郭皇后 (宋)仁宗の后。金城の人。節度使崇の孫。仁宗張美人を立てんと欲す。而かも章獻に阻まれて乃ち后を立つ。頗る疎せらる。後、尙美人、楊美人、俱に幸せられ、屢々后と忿争す。后、尙氏の頰を批つ。帝自ら起て之を救ふ。誤

て上の頸を批つ。圖文應、帝に勤め、瓜瓞を以て執政に示して后を廢せんことを謀る。后遂に廢せられて淨妃玉京神妙仙師に封ぜられ、名を清悟と賜ふ。孔道輔等十人、關に伏して后の過なきを言ひ、俱に黜けらる。後、帝顧る后を念ひ、使を遣はして存問す。賜ふに樂府を以てす。后和答す。群臣憤慨、后小疾あり。帝文應を遣はして醫を挾んで診視せしむ。數日にして暴に薨す。中外文應の毒を進めしを疑ふ。上深く之を悼みて皇后に追復す。

クワクケウコウ 郭皇后 (宋)眞宗の后。太原の人。宣徽南院使守文の女。秦國夫人に累封せらる。後立て皇后と爲る。年三十二にして崩す。后謙約下を慕み、族屬家事を以て上に言はんことを求むるも后終に許さず。崩するに及びて上深く嗟悼す。莊穆と諡す。後章穆と改む。

クワクケウコウ 郭皇后 (宋)孝宗の妃。開封の人。莊文太子、魏惠憲王、及光宗を生む。年三十一にして薨す。福國夫人を贈る。後追冊して皇后と爲し、恭懷と諡す。クワクケウコウ 郭皇后 (明)光宗の后。順天の人。父は維城。萬曆二十九年冊して皇太子妃と爲す。四十一年十一月薨す。孝元と諡す。

將に刺さる。詔して撫寧を大尉中書平章政事と爲し父の軍を繼べしむ。進で益都を拔き、叛將田豊、王士誠を擒にして父を祭り、餘黨皆誅に就く。遂に兵を分けて莒州を取り、山東悉く定まる。又詔を奉じて字羅帖木兒を討す。左丞相に拜せらる。時に中原略定まる、而して江淮吳蜀皆轉輸で淪陷す。詔して撫寧を河南王に封じ、天下の兵馬を總べ征伐せしむ。權勢太に熾に、官屬を置くに朝廷と均し。李思齊、張夏、張瑄等與に兵を擁して相抗す。撫寧遂に南征する能はず。既にして不臣の迹漸く現はる。順帝詔して其官爵を褫ひ諸軍をして之を伐たしむ。撫寧上疏して自ら陳す。帝亦悔悟する所あり。時に明の兵既に京城を陥る。撫寧平陽より退きて太原を守り、遂に沙漠に遁れ終る所を知らず。

クワクケウ 郭賈 (元)字は安道。保安の人。才行を以て推さる。詔を承けて江北沿淮の地を巡察す。民の風水を妄信するの害を陳す。朝廷之を好みて典章に著す。成宗の時太子詹事に進む。調告して家に還り卒す。年八十二。蔡國公に追封し文憲と諡す。賈博學にして篆籀に精はし。當世の冊寶碑額、多く其手に出づ。

クワクケイ 郭登 (明)字は子車。襄縣の人。太祖の時、朱文正に從ひて其軍事に參す。文正罪を得るに及び坐して誅せらる。クワクケイシヤウ 郭景祥 (明)潞人。鳳陽の李夢庚と共に天祖に從つて文書を典り

謀議を佐く。景祥、文吏にして而かも折衝禦侮の才あり、顧る太祖に親信せらる。後、浙江行省參政に終ふ。クワクケイスク 郭景嵩 (明)崇禎年間、流後、商州を陥る。景嵩之に死す。クワクケン 郭憲 (漢)字は子慎。建武中、帝自ら龍を征せんことを、憲軍に當り佩刀を抜き車轆を斷ち以て諫む。帝從はず。潁州盜起るに及び、乃ち郭子横の言を用ひざるを悔ゆ。

クワクケン 郭憲 (三國)西平の人。建安中、郡功曹を嘗す。韓約衆を失ひて還り苑中より憲に依る。衆人多く約を取り以て功を邀へんと欲す。憲曰く、人窮し來り我に歸す、如何ぞ之を厄せんことを。後約病死す。田樂等就て約が頭を斬り之を魏主に送る。操、憲の名を緣疏せんと欲す。憲肯かず。操其忠義を歎じ、樂等と同じく野關内侯を賜ふ。

クワクケン 原雲 (晉)字は休明。廣陽の人、少より志あり。嘗て京師に詣る。賈游子弟皆一見を求む。同郡劉岱將に之を擧げんとす。會々疾革まる。其子況に教し曰く、原道を慕てひ清虚なり、汝當に之を慕むべしと。山居積年、門徒百を以て數ふ。况國大中正たるに及び、原を進て司徒す。就かず。後主禳するに賈真を以てして數すれども亦就かず。クワクケン 郭彦 (南北)陽曲の人。少より名を知らる。文帝雍州に隨み、辟して西

曹奮佐とす。兵部郎中に累遷す。恭帝元年兵部從柱國に除す。子護南口陵を伐つや、驃騎大將軍開府儀同三司に進み、爵を伯に進む。孝閔帝踐祚して出て、涇州刺史たり。蠻夷生梗、農業を營まず。彦勤むるに耕稼を以てす。人皆本を務む。亡命の徒皆賦役に從ふ。齊安南城主馮顯、密に使を遣り歸降す。其衆未だ之を知らず。彦兵を率へ應接す。顯自ら其衆を拔き、果して拒戦す。彦兵を縱ち奮戦勇を并せ之を獲。尋て安南備なきを以て、軍を引き掩襲し、遂に其城を有す。晉公護之を嘉し、爵を懷德縣公に進む。クワクケンセイ 郭顯星 (明)郷に擧げられ、翰林待詔と爲る。崇禎十四年正月、賊兵來りて洛陽を陥る。顯星節に抗して死す。クワクケンセイ 郭元靖 (唐)建昌の人。才文武を兼ぬ。隋末、兵を以て郷里を保障し、唐に復歸す。功を以て官を授けらる。後嘗陽山に隱れ、終る所を知らず。クワクケンチン 霍元鎮 (元)霍家。董北苑、米南宮父子を規模とす。山水人物を畫く、妙に風格あり。クワクケンヘイ 郭原平 (南北)字は長恭。世通の子。天性至孝、親を養ふ必ず己が力を以てす。備質以て給す。父篤疾年に彌る。原平衣帯を解かず。父亡す。哭踊絶。數日方に蘇す。高陽の許瑤之、建安郡丞を罷め家に還るとき綿を以て之に遺る。受けず。瑤之住て謂て曰く、今歳過寒、建安の綿好し、以て汝が母に奉ずるのみと。原平乃ち

拜して之を受く。母終るに及び、毀瘠愈甚し。既に葬る。墓前田數十畝あり、原平に屬せず。農月に至る毎に、耕者の課租其墓坎を斃すを見、原平輒ち往て之を哭す。乃ち家資を賣り其田を贖す。宅常に竹を種う。夜其笋を盜む者あり。原平過々之を見植うる處の溝上に小橋を立て通せしめ、又笋を採て籬外に置く。隣里慚愧し、復取る者なし。クワクケンマイ 郭元邁 (宋)吳の人。字は英遠。經史に博通す。學に入りて上舍に魁たり。建炎二年右武大夫を以て魏行可に副として金に使し河朔に次す。尺紙を以て家に付し云く、封疆當に艱難の時、生を保全し難し、此身已に國に許すと。虜廷に至り會帥に上書して二聖を歸さん乞ふ。金人之を留め置さず。元邁肯て鬻髮換冠せず。虜中に卒す。クワクケンキ 郭彦威 (五代)字は子重。洛州曲周の人。少くして兵亂に遇ふ。梁將霍存其簡爽を愛し養て子と爲す。嘗て存に従つて戦に臨み、矢に中り一目を眇す。後梁の太祖に仕へて邠寧節度使と爲る。晋軍と相持して屢々敗る。遂に莊宗に降る。名を李紹眞と賜ふ。徒つて武寧に鎮す。明宗に從つて契丹を伐つ。明宗甚だ之を親厚す。後明宗を擁して位に即かしむ。内外の機事皆彦威に決す。徒つて平盧に鎮す。天成三年卒す。明宗報を得て涕泣し爲めに朝を廢

むるこま一月。大師を贈り忠武と諡す。クワクコ 郭濟 (宋)德順軍中安撫の人。軍に従ひ官を積み武經郎に至り、經原第八副將たり。金人陝西を犯す。帥以下叛降す。獨り許す。帥罪を以て之を獄に下す。濟奮呼する三たび。曰く、大丈夫宜しく死所を待べし、終に汚を受くる能はず、叛逆は大惡、天地の容れざる所也。衆其言を聽き之を殺す。建炎中、中州刺史を贈る。クワクゴ 郭侯 (金)字は伯有。澤州の人。大定二十二年の進士。諸官を歴て、貞祐三年中都路及河北西路轉運使と爲り六部尙書の事を行ふ。致仕し、元光二年卒す。クワクコウ 郭洪 (明)雲の子。父の勳を以て特に開國功臣の列に入る。宣武衛將軍飛熊衛親軍指揮使兼事を授けらる。クワクコウ 郭興 (明)漢人。一名子興。太祖の時、宿衛に備はる。功を累れて管軍總管を授けらる。其常州を圍むや、晝夜甲を解かざる者七月。累りに秦王府傅兼陝西行都督府兼事に擢てられ、鞏昌侯に封せらる。洪武十六年卒す。陝國公を贈り、宣武と諡す。二十三年、胡惟庸の黨に追坐し、爵除かる。クワクコウワ 郭弘化 (明)字は子弼。安福の人。嘉靖二年の進士。知縣より御史に擢てらる。上疏して怒に觸れて斥けらる。之に久うして家に卒す。穆宗立ち、光祿少卿を贈る。クワクコケイ 郭古瓊 (清)字は非恭。濬

山人と號す。江陵の人。山水を善くす。筆力蒼勁、尺幅長卷に長ず。人々爲り間靜

クワクサイ 郭載 (宋)字は威熙。汝儀の人。其父暉、義州刺史たり。載、暉を以て右班

クワクサンウン 郭山偉 (唐)河東の人。少より三禮に通ず。景龍中、果して國子司

クワクシ 郭士 (隋)縣卒。嘗て巫に從ひて一女の跡に在るに遇ふ。巫曰く、女、當

クワクシ 郭實 (宋)字は仲儀。襄邑の人。乾德中の進士。參知政事に累官す。時に會

彬、弭德超に謂せらる。贊其誕を辨す。嘗て太宗に對へて曰く、臣遇を不次に受く、

クワクシ 郭詒 (宋)平棘の人。聰敏人に過ぐ。進士に擧げられ、殿中丞を歴。嘗て

クワクシ 郭氏 (明)大田の人。郭茂七の亂に郷人悉く東嶽に結ぶ。塞破れ、郭氏幼

クワクシウ 郭瑋 (清)字は華野。山東即墨の人。康熙九年進士たり。越十年、吳江知

クワクシ 郭實 (唐)字は元振。魏州貴郷の人。少より大志あり。十六大學生となる。

クワクジウギ 郭從義 (宋)太原の人。謀畧あり。飛白の書を善くす。初漢周に仕へ、

クワクシギ 郭子儀 (唐)華州郿の人。身長七尺二寸。玄宗の朝、朔北節度使たり。

クワクシ 郭振 (宋)字は希聲。詩に工なり。宿流家に云く、幾代生涯滄海、兩

クワクシ 郭振 (宋)字は希聲。詩に工なり。宿流家に云く、幾代生涯滄海、兩

クワクシ 郭振 (宋)字は希聲。詩に工なり。宿流家に云く、幾代生涯滄海、兩

クワクシ 郭實 (明)字は伯華。高邑の人。萬曆十一年の進士。知縣より御史に歴

クワクシ 郭實 (明)字は伯華。高邑の人。萬曆十一年の進士。知縣より御史に歴

クワクシ 郭實 (明)字は伯華。高邑の人。萬曆十一年の進士。知縣より御史に歴

クワクシ 郭實 (明)字は伯華。高邑の人。萬曆十一年の進士。知縣より御史に歴

クワクシ 郭實 (明)字は伯華。高邑の人。萬曆十一年の進士。知縣より御史に歴

クワクシ 郭實 (明)字は伯華。高邑の人。萬曆十一年の進士。知縣より御史に歴

クワクシ

クワクシン 郭進 (明)字は時用。幼の名進。新安の人。永樂の初、太學生より戸部主事に擢てらる。宣宗の時、吏部尚書に歴進す。正統中、災異を以て大臣を罷めんとすを請ふ。帝之を宥す。後受賂に坐し、致仕せしめらる。

クワクジン 郭任 (明)丹徒の人。廉慎にして能あり。建文の初、左戸部に除せらる。時方に諸藩を討削す。任言ふ、天下の事、本末を明かにせば成し易し、且つ兵は神速を貴ぶ。燕王聞て之を惡み、後執へて之を殺す。

クワクシヤウ 郭申錫 (宋)魏人。進士に擢られ侍御史知雜事たり。屢權倖を低り避る所なし。柯陽州を以て自ら縋む。永嘉中、辟されて司徒掾たり。稍遷て黃門侍郎に至る。辨論十二篇を著す。

クワクシヤウ 郭象 (晋)字は子玄。河南の人。少より才理あり。老莊を好み。閉居文論を以て自ら縋む。永嘉中、辟されて司徒掾たり。稍遷て黃門侍郎に至る。辨論十二篇を著す。

クワクシ

併せて之を祠る。

クワクシヤウセイ 郭祥正 (宋)字は功父。當塗の人。母李白を夢みて生む。少より詩名あり。梅堯臣、一見歎じて曰く、眞に太白の後身なりと。進士に擢られ武岡縣を知し、殿中丞を以て致仕す。復出て、汀州を遷り、瑞州を知す。又遷て去つて青山に隱る。居る所詩吟著あり。蘇軾爲に像を作て贊す。詩文三十卷あり青山集と號す。

クワクシヤウヒン 郭尚賓 (明)字は朝聘。南海の人。萬曆間の進士。刑科給事中に累遷す。事に遇へば輒ち争論す。尤も中官の横を憤り敢言する所あり。竟に官を調せらる。崇禎の初、兵部右侍郎を爲りて卒す。尚書を贈らる。

クワクシユク 霍叔 (周)霍の君。姬姓。名は處。周文王の子。武王殷に克て霍に封せらる。其後春秋の時に至り晋の爲に滅せらる。

クワクシユケイ 郭守敬 (元)字は若思。順德邢臺の人。水利に習ひ、巧思人に絶す。世祖召見す。六事を面陳す。帝大に悦ぶ。又曆法に精はしく、命を奉じて新曆を制定す。又其推歩の式と、立成の數を比次編類し、整齊分抄して、推歩七卷、立成二卷、曆議擬議三卷、轉神選擇二卷、上中下三曆注式十三卷と爲す。二十三年太史令と爲り之を上奏す。又時欒儀注二卷、修改源流一卷、儀象法式一卷、二至晷景考二十卷、五星細行考五十卷、古今交食考一卷、新測二

クワクシ

十八舍雜座諸星宿去極一卷、新測無名諸星一卷、月離考一卷を著す。仁宗の延祐三年卒す、年八十六。

クワクシユク 郭守素 (唐)維澤の人。孝友を以て著はれ、馮仁海と名を齊しうす。クワクシユン 霍備 (漢)諱が子。桓帝謂が梁冀の罪を面陳するを嘉す。冀誅せらるるに及び、以て安定太守とす。

クワクシユン 霍峻 (三國)字は仲逸。伎江の人。昭烈の時、胡城を守護す。張魯人を遣はし之を誘ふ。峻曰く、小人の頭は得べく、城は得べからずと。功を以て梓潼太守に遷る。卒するに及び、昭烈詳像を率ゐ、甲祭して墓上を留宿す。子戈は太守たり。璿は中庶子たり。璿騎射を好み。戈古義を引き之を規諫す。

クワクシユン 郭峻 (宋)字は次山。零都の人。性洞達にして吟城なし。年十八、熙寧の進士に登り、南豊尉に調せらる。時に夏侯稱、命を爲り、訟、庭に滿ち決せず。會々提刑至る。稱懼る。峻曰く、患ふる勿れ、吾、子が爲に之を決せんと。囚を呼び數日廷下に坐せしめ、片言を以て之を折む。囚皆自服す。秘書郎崇仁令知洪州を歴、奸を發き伏を捕す。元豐中、倉糧密院事たり。クワクシユン 郭焄 (清)字は昆甫。善化の人。乾隆九年の舉人。文章を以て天下に鳴る。著に羅洋詩文章あり。

クワクシユン 郭洵 (隋)漢帝遼東を征す。洵を派鄆營務に拜す。吏人悅服す。遂に通

二七〇

クワクシ

州に遷る。山東盜起るに及び、諸郡復完き者なし。獨り派全きを得。

クワクジユン 郭純 (明)字は文通。機警と號す。永嘉の人。山水を善くす。布置茂密なり。

クワクジユン 郭循 (明)字は循初。慶陵の人。官より居り才譽あり。廣東參政に擢てられ勳寇の功あり。景泰の初、卒す。

クワクシヨ 郭諒 (漢)字は叔智。少より經に明なり。諒が舅宗光を大將軍梁商に誣ふる者あり。諒年十五、商に奏記す。商其才を高とし郎に調す。爲に奏して光が罪を原す。是に由り名顯はる。永康中、理めて黨人范滂等を出す。滂往て之を候す。謝せずして曰く、昔し叔向、祁奚を見ず、吾れ何をか謝せん。官尙書僕射に至る。

クワクシヨ 郭舒 (晋)字は雅行。順陽の人。幼より其母を請ひ、師を從ふと、歳餘、便ち歸る。粗々大義を識る。鄉人少府范曄、宗人武陵太守郭景、皆舒を稱すらく當に後來の秀となり終に國器を成すべしと。仕へて梁州刺史に至る。

クワクシヨウ 郭暉 (晋)陽翟令たり。水を阻し壘を築き、且耕し且戰ふ。石勒賊を討つて至る。伏を設け之を破る。

クワクシ

クワクシ

二七一

隴千人。仕へて拱率官たり。元豊中王師靈武に趨く。成源の兵を將、奇を出し奮撃して敵將を斬る。平夏城に築くに及び、車乘、成を擲び第十將とし平夏に駐す。都統制に陞る。成、財を輕んじ施を好む。名四隣に震ふ。

クワクセイ 郭成 (明)四川叙南衛の人。副總兵に歴任す。穆宗を経て、神宗の時に至り、參將に擡てらる。之を久うして官に卒す。

クワクセイイツ 郭正一 (唐)敦城の人。貞觀の時、進士より弘文館學士を歴。永淳中、中書侍郎に遷る。正一執政日久しく、故事文詞を明習す。詔教多く其手に出づ。

クワクセイシユン 郭簡世 (隋)字は弘文。文水の人。家門七世同居す。犬家同乳し、獨鵠同巢す。時人以爲く義之を感ずと。應州縣其事を上る。高祖平昌侯宇文弼を遣はし、其家に詣り勞問せしむ。

クワクセイソウ 郭正孫 (宋)邳州の人。進士に擧られ、累官して太府寺丞帥たり。興元の時、金人内訖を侵す。孤城を守り、三戰三却す。左右之に避るを勸む。正孫從はず。遂に敵に死す。

クワクセイツウ 郭世通 (南北)會稽の人。年十四歳、父を喪ふ。家貧なり、備力して以て繼母を養ふ。母亡して、土を負ひ墳を成す。服除して後思慕する終身。嘗て人と共に山陰にゆき、貨物を市り、誤つて一千錢を得。其主を追て之を還す。主驚嘆半を逝く。察其誠心と絶つ。

クワクソウカウ 郭宗阜 (明)字は君弼。福山の人。嘉靖八年の進士。庶吉士より刑部主事に進み、御史に擡てらる。専ら嚴明を以て治を爲す。後、兵部右侍郎となり、事に坐し貶せらる。隆慶の初、成所に起て兵部尙書に累遷す。老を告げて歸り、隆慶十六年卒す。年九十。太子太保を贈り、康介と諡す。

クワクソウタウ 郭崇紹 (五代)代州雁門の人。人と爲り明敏にして能く應對す。材幹を以て稱せらる。唐の莊宗に仕へ、兵部尙書、樞密使と爲り、大に親信せらる。莊宗の梁を滅して天下を取る、崇紹常々謀議に參し、功、佐命第一たり。位將相を兼ね、天下を以て己の任と爲す。後命を奉じて蜀を征して之を定む。官官の讒に遇ひ殺さる。

クワクソシン 郭祖深 (南北)襄陽の人。梁の武帝、佛に溺れ、朝政廢弛す。祖深、輿論して闕に詣り、卦事を上る。上其正直を嘉し、鐘陵令に擡つ。改めて南州雲騎將軍たり。州に至り、公嚴清刻、奸惡を搜捕す。所領皆精兵。令行はれ禁止み、威遠近に振ふ。長江爲に肅清す。

クワクタイ 郭泰 (漢)字は林宗。介休の人。容貌魁偉。博く墳典に通じ、家に居て弟子を教授す。數千人に至る。嘗て洛に遊び、河南尹李膺を見る。膺之を奇とす。遂に輿に友たり。行きて嘗て雨に遇ひ、巾の一角折る。時に争うて之に效ひ、故さらに

以て之に興ふ。世通之を委て去る。元嘉四年散騎常侍たり。袁噲其淳行を表す。文帝之を嘉し蘭門に敕榜す。居る所の欄楓里を孝行里とす。

クワクセイキキ 郭正域 (明)字は美命。江夏の人。萬曆十一年の進士。庶吉士より刑部左侍郎に累遷す。執政と合はずして去る。家に卒す。禮部尙書を贈る。後、光宗また太子少保を贈り、文毅と諡し、其子を中書舍人に官す。

クワクセウ 郭劍 (唐)子儀の後。姿儀偉にして身の長七尺。方口豊下、沈黙寡言。母は昇平長公主。恩寵等を踰え、家より起て、太常寺奉禮部たり。德宗の朝、累官して太子右庶子に至る。元和の初、左金吾衛大將軍檢校工部尙書兼州刺史兗海節度使たり。數歳、入つて司農卿となる。劍大勳の後に威里に姻聯す、而も謙和物に接し、恭慎自ら持し、家に居り民に臨む、驕奢の失なし。士人君子之を重んず。

クワクセウケイ 郭昭慶 (五代)永平の人。世々儒を業とす。父鳳は南唐の進士。官大理寺直に至る。昭慶博く經史に通ず。經に疑し唐春秋を作る。治書五十篇を著はし以て献す。後再び經國治民論各十餘篇を献す。後主之を悦び、著作郎を授く。時に歳々方物を宋に貢す。表箋詞章皆其手に出づ。

クワクセウラン 郭紹蘭 (唐)長安の人。家民郭行先の女なり。巨額任宗に適く。宗湘に賣して數年歸らず。紹蘭雙燕の梁上に

市の一角を折る。其處は、此の如し。卒するに及び、蔡邕碑銘を爲る。曰く、吾碑銘を爲る多し、未だ嘗て慚容あらずばあらず、惟郭有道の銘は愧る無きのみと。京師に遊び郷に還るゝ當り、送車十乘。李膺あり。衆人皆大槐の客會に詣り別る。獨り膺と林宗と共に滿策車の上に乗ず。大槐の坂、觀者數百人、領を引き之を望む。眇として喬松の霄漢に在るが若し。或人范滂に問ふ、郭林宗は如何なる人ぞ。滂曰く、隠れて親し遠はず、貞にして俗を絶たず、天子も臣とすを得ず、諸侯も友とすを得ず、吾れ其他を知らずと。泰好て海内の士を品題す。或は幼童にあり、或は里肆に在り、後皆失産を成す。凡そ六十餘人。自ら書一卷を著はし、取士の本末を論ず。亂し遭ひ亡失す。初め有道の君子を以て敬す。泰曰く、吾れ乾象人事を觀るに、天の廢する所支ふべからずと。遂に辭するゝ疾を以てす。

クワクタイ 郭大 (漢)黃巾の餘孽。中平五年、西河の白波谷に起り、太原河東に寇す。年を踰て討滅せらる。

クワクタイウ 霍紹 (明)字は渭先。南海の人。正德九年の進士。家に歸て讀書す。世宗即位の初、職方主事に除せらる。三たび上書して時弊を陳す。大禮の議起るや、疏を具し、嘉納せらる。大禮成り、禮部尙書に超拜し、詹事府事を掌る。尋て休を乞ふ。嘉靖十九年十月卒す。年五十有四。太子太

戯るゝを見て長吁し語て曰く、我聞く燕子は海東より來ると、往復必湘中を經ん、我が婿、家を離れて歸らず、死生存亡知る可らず、爾に附書して我婿に授けんを欲すと。言訖て涙下る。燕子上下に飛鳴して諸する所有るに似たり。爾乃詩を作り小書して其足に繫ぐ。燕飛鳴して去る。任宗時に荊州に在り忽一燕の飛鳴するを見、評つて之を見れば燕遂に其肩に泊す。見るに一書の足に繫がれたるあり。宗解て之を見れば乃妻の寄する所也。燕復飛鳴して去り、宗次年家に歸る。

クワクセン 霍道 (明)字は廷璧。鳳翔の人。正統天順の間、工部左侍郎と爲る。成化中、致仕し卒す。

クワクソ 郭祚 (南北)魏の晉陽の人。少より孤貧、姿貌偉ならず。凡人之を識るなし。女巫あり、祚を相すらく後に富貴ならんと。祚經史に涉り、尺牘文章並びに世に稱せらる。後果して吏部尙書たり。

クワクソウ 郭琮 (宋)王軒、華山に遊び、西子に遇ふと聞き、亦從つて遊ぶ。泉石の間に留連せしめ寂として遇ふ所なし。無名子の詩に曰く、三春桃李不無言、却被斜陽鳥雀喧、借問東鄰效西子、何如郭素學王軒と。

クワクソウ 郭琮 (宋)黃巖の人。少にして父を喪ひ母に事ふ。極めて孝。飲酒茹葷を絶つ三十年、へて母の壽を祈る。母年百有四歳、耳目衰へず。鄉閭之を異とす。至道中、詔して其門に旌す。母疾なくして逝

保を贈り、文敏と諡す。

クワクダウケイ 郭道卿 (宋)義重五世の孫。至道初、閩盜起る。弟佐胤と共に執へらる。兄弟各代りて死するを求む。賊惑じて爾ながら之を釋す。子廷儀、建寧路平準庫使たり。詳詣侍養す。道卿嘗て病を病み、危きと甚し。廷儀憂悴扶護す。一夕髮白し。有司狀を聞して之を旌す。

クワクタン 郭丹 (漢)字は少卿。鄧人。七歳にして孤。後母に事て孝なり。母之を憐み、笈を治め師に長安に従はしむ。丹慨然歎じて曰く、使者の車に乗らざれば、終に驛を出でずと。尋て陳驛大夫に拜せられ、節を持し果して高車に乗ら關を出づ。永平中、司徒に拜せらる。家貧にして洗ふが如し。詔を下して其嗣を求む。長子字、常山太守に拜せらる。

クワクタンイウ 霍端友 (宋)字は仁仲。武進の人。崇寧中及第し、四年を過ぎて知制誥たり。中書舍人ゝ遷る。始め庫部佩魚を命ぜらる。端及、附麗を肩とせずして蔡京の意に忤ふ。官遷驛大夫に至り、致仕し歸る。

クワクチウカウ 郭忠孝 (宋)程明道に事(易)中庸とを受く。後陝西に持憲し、國難に死す。子雍。

間、兵部尙書皇太后衛尉となりて卒す。其の將たるや沈毅謀多し。南渡後最も名有り也。號す。

クワクチウジン 郭忠順 (宋)字は移可。篤志學を嗜む。隆を以て官を得。程鄉主簿より江浦入遷る。時に朱喬年浦城に寓し、忠順忘年交をなす。張九成亦謂く、移可は博聞強記と。喜で之と遊ぶ。後襄陽縣令たり。慶、邊に寇す。唐鄧を成り、凡そ二十六萬斛を配運す。諸司交章して論薦し奉化尹に陞る。士を待つ禮を以てし、民を撫する寛を以てし、吏を束する法を以てす。尤も學校を崇重す。士人之を愛す。後太平州を遷す。

クワクチウジヨ 郭忠恕 (宋)字は恕先。洛陽の人。性剛直傲恣。善く文を屬し、九經に通ず。七歳にして童子に擧る。漢の湘陰公從事に辟す。肥室董喬事を争ひ謝し去る。宋の初、御史符昭文と廟堂に忿争し、乾州司兵に貶せらる。秩滿ち遂に仕へず。岐雍陝洛の間に放曠し、人に逢へば賈賤となく日に猶と稱す。佳山水に遇へば、輒ち留まる旬日。或は粒を絶ち食せず、盛夏日中に曝して汗なし。大寒氷を鑿て浴す。且書を善くす。求むる者あれば必ず怒て去る。意に當かんざ欲すれば即ち自ら之を爲す。岐に富人あり書を喜ぶ。醇酒を給し之を待つ甚だ厚く、久うして乃ち情を以て言ひ且匹素を致す。恕先爲に小童輿車を持し風に放つを畫く。輿を引くこと數丈之に滿つ。

富家子大に怒り遂に絶つ。時に役夫小民と市肆に入て飲食す。曰く吾が與に遊ぶ所は皆子に類なりと。太宗其名を聞き召して闕に赴かしめ、内侍者押班賈神興の舍に館せしむ。恕先嘗長くして美なり。忽ち盡く之を去る。神興驚き其故を問ふ。曰く聊か與に聲に效ふと。神興大に怒る。國子監主簿に除せられ、出て、太學に館す。益々酒を縱まにし、肆に時政を言ひ、頗も誇譎の語あり。杖して登州に配流せらる。濟州の臨清に至り、部送の吏に謂て曰く、吾れ遊んと。因つて地を指り坑を爲り、容るべきを度とし、面俯して歸焉として卒す。道左に藁葬す。

クワクチウン 郭知運 (唐)字は達時。瓜州の人。壯勇善く射る。狼臂虎口、格闘を以て功を果れ、奉州三度府に補せらる。後中書令に遷り、左武衛大將軍討虜待賢に拜せらる。自ら西陲に居り、甚だ蕃夷に懾らる。子英俊英義、相繼ぎ左衛將軍となる。クワクチン 郭績 (漢)字は恒鍾。嗣の弟子。少より家業を修む。太尉府に辟せらる。延光中、尙書たり。順帝の初、定策の功を以て尙書令に遷り、定類侯に封せらる。官廷尉に至る。昭武と諡す。クワクチヤウセン 郭長倩 (金)字は曼卿。文登の人。經籍科に登る。秘書少監兼禮部郎中修起居注たり。嘗て石決明傳を撰し、時人に稱せらる。所著崑崙集あり。クワクチヨ 郭緒 (宋)字は天錫。蒲城の

人。幼より岐嶷、讀書素習の如し。晩に上杭簿に調せらる。意を孤雅曠數の學に留め井に楊雄が據る所の列山易を取り、章會統元を以て之を推す。久うして書を成す、易春秋と名く。按圖布卦計二十萬言。釐めて二十卷とし、之を綜ふるに圖を以てす。陸與紀元其書を以て上る。方に推恩を講す。卒す。

クワクチヨ 郭緒 (明)字は繼業。太康の人。成化十七年の進士。戶部主事を授く。弘治中、四川督儲に擢てらる。武宗即位の初、雲南の功を以て俸一級を加ふ。明年致仕し歸る。クワクチヨ 郭瑋 (清)女子。字は素汝。長洲の人。埭川の顧氏に適く。畫を趙文淑に學び花鳥に工なり。書法は大小俱に古致あり。クワクチイ井 郭廷偉 (宋) 道卿の子。建寧路平準庫使と爲る。醉し歸りて道卿に侍養す。道卿嘗て疴を病み、危きこと甚し。廷偉憂悴扶護す。一夕髮盡く白し。有司、狀を言して之を旌す。クワクチン 郭傳 (明)字は文遠。洪武の間、宋濂其文を持し以て進む。曰く、學淵源あり、其文雄辯新麗、其議論六經に根據す、異才なりと。帝召見して翰林應奉を授く。出て湖廣布政司參政と爲る。クワクチンキツ 郭天吉 (明)崇禎中、官副將たり。崇禎十六年十二月、甘州城、李自成の爲に陥れらる。天吉之に死す。福王

の時、祭神を賜ふ。

クワクドウ 霍洞 (宋)字は太清。端友の從孫。喜んで詩を爲り、自ら鶴寮と號す。クワクドウ 郭登 (明)字は元登。武定侯英の孫。洪熙中、勳衛を授けらる。總兵官に累遷し、定襄伯に封せらる。成化八年卒す。侯を贈り、忠武と諡す。善詩を以て名あり。

クワクトクカイ 郭德海 (元)字は大洋。寶玉の子。資貌奇偉。金を伐ち八十三鎊を破る。功を以て右監軍に遷る。河南を討し、兵燹足を傷つく。疾を興し歸り卒す。

クワクトクセイ 郭德成 (明)漢の人。興の季弟。性通敏。寧妃は其姊たり。太祖是を以て賞顧せんとす。固辭して曰く、人生適意を貴ぶ、但多く錢を得て、醇酒を飲めは足る、餘は望む所に非ずと。太祖善と稱し酒百罇を賜ふ。常に伴狂自放す。後黨事起るも竟に免る。官驍騎舍人に止まる。

クワクトケン 郭都賢 (清)字は天門。湖南益陽の人。明季に巡撫江西たり。國變の後、祝髮して僧となる。城市と隔絶す。詩文工なり。書法瘦硬、兼て繪事を善くす。寫竹尤も妙に入る。人其片紙隻字を得、皆之を珍蔵す。女純貞、詩を能くす。自署して郭貞女と曰ふ。

クワクトツ 郭訥 (晋)字は敬言。官太子洗馬に至る。訥嘗て洛に入り、伎人の歌言佳なるものを聽く。石季倫其曲を問ふ。郭云く知らず。季倫笑て曰く、君曲を知らず、

郭が佳と言ふを得ん。訥答て曰く、嘗て四施を見るが如し、何ぞ必ず姓名を識り然る後美を知らん。

クワクトン 郭敦 (明)字は仲厚。堂邑の人。洪武中、郷舉を以て知府に歴す。惠政多し。宣德中、戶部尙書に累進す。興革する所諒からず。六年卒す。年六十二。

クワクナン 郭楠 (明)字は世重。晋江の人。正徳九年の進士。浦江知縣より御史に擢てらる。世宗即位す。上疏して先朝の賢臣を召還せんと乞ふ。會廷臣大禮を力争す。楠時に雲南を巡按す。罷せ返り之を極諫す。帝怒り速治削籍す。嘉靖六年、吉水教諭に起ち、南寧知府に終ふ。

クワクチイヒ 郭寧妃 (明)太祖の妃。濠人。郭山甫の女。父善く人を相す。太祖の貴相あるを知り、諸子をして従はしめ、並に妃を遣はし侍せしむ。後寧妃に封せらる。李淑妃薨じ六宮事を攝す。父に營國公を贈り、兄弟侯に封せらる。

クワクバイヨウ 郭培塘 (清)新郷の人。邑の諸生。母没して慮する三年。堂外に蕭先世の祠あり。一夕火を失す。培塘木主を抱き火を冒し出づ。倉卒中生母の像を遺す。復た烈燄の中に入り之を檢得す。身幾んと殞す。

クワクハウギヨク 郭寶玉 (元)字は玉臣。華州鄭縣の人。天文兵法に通ず。金將と爲り定州に屯す。既にして金の滅するを知り、元軍に就き降る。世祖用めて將と爲す。契

丹渤海諸國を收め功あり、斷事官に累遷す。賀蘭山入卒す。

クワクハク 郭瑛 (晋)字は景純。聞喜の人。博學高才、詞賦に工なり。時に郭公なる者あり、河東に居り。卜筮に精し。瑛之に従うて遊び、骨董中の九卷を得。是に由り五行天文卜筮の術を知り、占該甚だ多し。洞林、新林、卜韻、爾雅註十數篇を撰し、又三蒼方言、山海經、楚詞詩賦數十萬言を著はす。地を避け江を通る。元帝之を重じ以て著作郎とす。門人趙載骨董の書を竊み、未だ觀るに及ばず、火を焚かる。

クワクヒ 郭妃 (唐)憲宗の妃。汾陽王子儀の孫。父履、昇平公主に尙し后を生む。憲宗廣陵王となり聘して以て妃となす。順宗、其の家大功烈あり而も母もと貴きを以ての故に、之を禮する。諸嬪に異れり。穆宗を生む。元和八年群臣三たび立て后と爲さむと請ふ。帝歳の子午なるを以て忌む。又是時後庭嬪、多く妃の尊位を得むことを恐れ、鉗撃して肆なるを得ず、故に寵む。穆宗、敬宗、文宗、武宗、宣宗を歴。宣宗奉養の禮稍薄し。后嘗てとして聊んぜず。一二侍人と勳政權に登り將に自ら傾ちむとす。左右共に之を持す。帝聞きて喜ばず。是の夕后暴かに崩す。懿安皇后と諡す。

クワクヒ 郭妃 (唐)懿宗の妃。美人となり淑妃に進む。僖宗を生む。黃巢の難、閩里に流落して終る所を知らず。

クワクヒ 郭妃 (唐) 敬宗の妃。右威衛將の子。美容を以て選ばれて太子の宮に入る。太子即位して才人となす。晉王晋を生む。帝寵異して貴妃となす。

クワクヒ 郭妃 (五代) 梁末帝の次妃。父歸厚、梁に仕て登州刺史と爲る。妃少くして色を以て進む。梁亡び唐莊宗汴に入る。梁の故妃妾、皆號泣迎拜す。賀王友雍の妃石氏、色あり。莊宗之を召す。石氏罵罵す。莊宗之を殺す。次に妃を召す。妃懼れて命を乞ふ。已て度して尼と爲し、名を誓正と賜ひ洛陽に居らしむ。

クワクヒ 郭昇 (元) 字は克明。揚州の人。竹石を蓄く。文湖州を師とす。

クワクヒ 郭嬪 (明) 宣宗の妃。名は愛。字は善理。賢にして文あり。宮に入り二旬にして卒す。自ら死期を知り、以て自ら哀む。詞に曰く、修短有數分、不足成也、生而如夢兮、死則覺也、先吾親而歸兮、慚予之失孝也、心慄々而不能已兮、是則可悼也と。

クワクヒ 郭敏 (元) 字は伯達。杞縣の人。好て書を讀む。工に人物山水を畫く。武元直を學んで其意を師とし、而して其法を師とせず。墨竹最もなり。

クワクヒ 郭文 (晋) 字は文舉。軹人。大滌中に隱る。嘗て猛獸あり文に向ふ。其口中横骨あるを視、乃ち手を以て之を探去す。明日獸は腹を置き之を報す。王導其名を聞き迎へて朝に至る。士觀る者堵の如し。

クワクフ 郭文 (宋) 字は極之。太原の人。承安二年の進士。後軍功を以て諸官を歴す。

クワクフ 郭奉世 (宋) 知永新縣たり。時に泰和の民其命を苦み、上司に訴へて奉世の治を得んと欲す。永新の民可かず。奉世乃ち同縣の佛舎に寓して兼治す。

クワクフ 郭鳳程 (清) 湘鄉の人。咸豐六年羅澤南に従ひ武昌に復す。湖口を抜き九江に克ち、十年湖に克ち、撫新三千有奇。十一年英人德安隨州に據る。金國琛と會して之を勦破す。同治三年地運を以て江寧城を攻め、破に中り死す。勇烈と稱す。

クワクフ 郭朴 (明) 字は質夫。安陽の人。嘉靖十四年の進士。初め庶吉士を授けらる。謹直にして侍を得、累進して太子太傅兼武英大學士たり。家居二十餘年にして卒す。文簡と稱す。

クワクホ 郭翻 (晋) 字は長朔。武昌の人。少より志操あり。漁獵自ら娛む。貧に居て業なし。荒田を墾んじ欲し、先づ衣履を立つ。年を経て主なし。乃ち暫く之を業とす。稻將に熟せんとす。之を認る者あり。推して之を與ふ。縣令聞て之を詰り、稻を以て翻し還さしむ。翻遂に受けず。嘗て車を以て獵し、家を去る百餘里。道に病人に逢ひ、車を以て之を送り、徒走して歸る。士庶咸之を重んず。庚亮、公車博士に薦む。徵せども就かず。

クワクホ 郭密 (宋) 經城の人。太宗の時、指揮使と補せらる。淳化間、凡て八遷して貝州駐泊兵馬部署と移る。會夏人之寇す。密武略あるを以て、鎮安州觀察使に擢て、靈州兵馬部署に充つ。士卒を訓練するに號令嚴肅なり。夏人畏服して邊境寧し。

クワクホ 郭明龍 (清) 咸豐六年水師に入り、九江に克ち、安慶大通樞陽の賊屯を攻む。十一年池州に克つ。同治元年運漕無爲東西梁山を攻て皆下す。何くもなく蕪湖金柱關を克ち、破に中り卒す。官總兵に至る。

クワクホ 郭默 (晋) 字は彦雅。屬治を以て業とす。驍勇果捷、能く甲を貫して三丈の壘を跳る。人之を異として曰く、此の兒必ず郭氏を興さん。河内襄民陸允、女を以て之に妻す。後太守裴整に事へて督將となる。劉曜と敵を拒ぎ、征虜將軍を授けらる。

クワクヨウ 郭雍 (宋) 字は子中。其父の事を傳へ、陝州に隱居す。乾道中、旌召すれども起たず。號を冲晦處士と賜ふ。孝宗其賢を檢知す。更し願正先生に封す。郭使者をして官を遣り就て問はしむ。時に年八十三。雍、易に於て發明精到す。淳熙の初、學者忠孝を哀集す。雍が所著を七大家に列し、大易神旨と題す。

クワクヨウ 郭庸 (元) 字は允中。蒙古の人。至正中中書參知政事に拜せらる。明兵京城を破るや昇せられて齊化門に至る。衆之を叱して拜せしめんとす。庸曰く、臣各其主の爲に死す、死ば自ら吾が分なり、何ぞ之を拜せんやと。遂に死す。

クワクヨウ 郭用孚 (宋) 字は仲先。建安の人。母に事へて至孝。熙寧間、湖州德清潭に調せられ、関符令に遷る。嘗て蘇軾の門に遊ぶ。聲譽籍籍たり。母の喪に居り哀毀甚だ至る。既に葬り、墓に處する三年。郡守入行を以て薦めんと欲す。力辭す。服闋り、朝散郎を以て典國軍を遷列す。子擇仁。

クワクヨウ 郭輿 (明) 縉之子。進士に擧げられ、慈谿知縣を授く。鄒魯廟の部を行るや、輿輿禮せず。爲に効せられて罷む。後起つて鄒縣に知たり。之を久うして廣西僉事に終ふ。

クワクヨウ 郭元 (三國) 字は紹先。後主に仕へて建寧太守安南將軍となり、南郡の事を統ぶ。魏軍來ると聞き、弋成都に赴んじ欲す。後主防備既に定まるを以て聽かず。

クワクライ 郭嘉 (宋) 字は子奇。仙居の人。嘉定の進士。端平の初、右正言より右史に擢てらる。權倖を擯却し過る所なし。時に杜成之、徐元杰諸賢と端平の六君子と號す。天下方に其風采を想聞す。皆相繼て淪没す。

クワクライ 郭履 (明) 字は季林。湖南衡陽の人。崇禎壬午の舉人。國變の後、石湖嶺下に隱居して城市に入らず。竹塢樂圃、其中に吟嘯し以て自ら樂しむ。著述園草あり。

クワクライ 郭綸 (宋) 蔡州都監たり。官滿ちて實にして歸る能はず。權に嘉州の監税と爲る。蘇軾の時に云く、河西猛士無人識、日暮羣羊問過船、路人但知驪馬瘦、不知鐵槩大如椽、因言四方久不戰、鬣髮頓作萬騎先、我嘗憑軾與萬目、看君飛矢射鸞邊と。

クワクライ 郭亮 (漢) 字は恒直。期陵の人。童年洛陽に遊ぶ。時に太尉李固、梁冀の爲に殺さる。冀告戒すらく、敢て戸を收むる者あれば其罪を加へんと。亮、固が

クワクワ 郭泰 (宋) 紹興中、京西運漕副使たり。知潭州樞密に遷る。陳誠之曰く、蓋風力あり、必ず能く事を辨せん。上曰く、此人用ふべし。高宗、禁衛軍部に臨幸す。蓋曲盡直矣。中宮成く之を畏憚す。

クワクワ 郭祿大 (金) 會州の人。弟嶺嶽と與に世々保甲射生手たり。與定の初、功を以て平涼府同知兼會州刺史を授けらる。夏人會州を攻む。其主兵者を望見するに人馬皆金甲なり。一發其の吭に中つ。又一人を射て、矢兩手を射に貫く。城破れて執はる。夏人其技を憐みて之を囚ふ。兄弟俱に死を誓て服せず。後奔るを謀りて成らず。祿大竟に死し、嶺嶽獨り遁る。朝廷祿大の子伴牛に特に巡尉の職を授く。

クワクワ 郭淮 (三國) 字は伯濟。太原陽曲の人。關中都督となり甚だ民情を得たり。屢戰功あり。淮が妻は王凌の妹、凌の事に坐し並に罪に當る。使者數擗甚だ急なり。淮戎裝日を勉し發せしむ。州府の文武

クワクワ 郭元 (三國) 字は紹先。後主に仕へて建寧太守安南將軍となり、南郡の事を統ぶ。魏軍來ると聞き、弋成都に赴んじ欲す。後主防備既に定まるを以て聽かず。

百姓淮に勤め兵を擧げしむ。淮許さず。期に至りて妻を遣る。姓呼號する者數萬。淮の五子叩頭流血して淮に勤む。淮視るに忍びず、乃ち命じて之を追はしむ。是に於て文武奔馳身首の念に徇ふが如し。既に還る。淮、宣帝に書を與へて曰く、五子母を哀みて其身を惜まず、若し其母無ければ是れ五子無きなり、若し五子亡ければ亦淮無きなり、今輒ち追還す、若し法に於て通を求めば、淮當に罪を受くべしと。書至る。宣帝乃ち之を表原す。

クワクキ 郭威 (五代) 周の太祖皇帝を見クワクキ 郭維 (宋) 字は仲逸。當塗の人。少より苦志、書を石城山に讀む。鄉黨之に師事す。大中祥符八年進士に登る。初め泰州司理參軍に調ばる。賦を治めて能名あり。南豐縣を知す。郡邑の豪猾を籍す。任を終ふるまで敢て犯す者なし。改めて新都縣に知たり。廉幹を以て閉ゆ。既に去る。百姓道に遮り留むれども獲ず、生祠を立つ。郭使者交々薦む。除せられて推州を知す。王業正、明肅太后に聯姻し、民田を侵す。幾百家。數々訴ふる者あれども敢て其事を直すなし。維に詔して之を治せしむ。維批根節解、秋番も貸す所なく、田を以て民に歸す。業正坐して除名せらる。維、後に屯田員外郎に除せらる。クワクキ 郭偉 (宋) 太平州に知たり。建炎の初、金兵采石及蕪湖を犯す。偉將士を

率ひ之を敗る。又死士を募り、夜其攻具を焚く。姑嫂の水を決して其營に灌ぐ。賊勢窮蹙乃ち遁る。クワクキ 霍暉 (宋) 字は明甫。南海の人。篤志問學す。奇古にして俗と合はず。元祐の初、太學に入る。八行を擧げしき暉を以て命に應ず。クワクキ 郭惟賢 (明) 字は哲卿。萬曆二年の進士。清江知縣より左副都御史に歴任す。再び戸部左侍郎に起つ。未だ上らずして卒す。右副都御史を贈る。天啓の初、恭定と諡す。クワクキ 郭允升 (宋) 字は彦信。泰和の人。徽宗の時、知零陵縣たり。變僚歸伏す。徙りて安化に知たり。虎害を爲さず。民に變虎威の謠あり。允升初て學校を興す。慶元中、蔡宗、復た藏書閣を創む。開禧中、趙公道、相繼ぎて葬理し、文教の化僻曠大同す。クワクキ 郭啓直 (明) 無錫の人。萬曆中、官四川參政たり。聲あり。允誠の祖たり。

クワクキ 郭允升 (宋) 字は彦信。泰和の人。徽宗の時、知零陵縣たり。變僚歸伏す。徙りて安化に知たり。虎害を爲さず。民に變虎威の謠あり。允升初て學校を興す。慶元中、蔡宗、復た藏書閣を創む。開禧中、趙公道、相繼ぎて葬理し、文教の化僻曠大同す。クワクキ 郭啓直 (明) 無錫の人。萬曆中、官四川參政たり。聲あり。允誠の祖たり。クワクキ 郭允升 (宋) 字は彦信。泰和の人。徽宗の時、知零陵縣たり。變僚歸伏す。徙りて安化に知たり。虎害を爲さず。民に變虎威の謠あり。允升初て學校を興す。慶元中、蔡宗、復た藏書閣を創む。開禧中、趙公道、相繼ぎて葬理し、文教の化僻曠大同す。クワクキ 郭啓直 (明) 無錫の人。萬曆中、官四川參政たり。聲あり。允誠の祖たり。クワクキ 郭允升 (宋) 字は彦信。泰和の人。徽宗の時、知零陵縣たり。變僚歸伏す。徙りて安化に知たり。虎害を爲さず。民に變虎威の謠あり。允升初て學校を興す。慶元中、蔡宗、復た藏書閣を創む。開禧中、趙公道、相繼ぎて葬理し、文教の化僻曠大同す。クワクキ 郭啓直 (明) 無錫の人。萬曆中、官四川參政たり。聲あり。允誠の祖たり。

あり。朝野其能く風俗を振ひ人倫を理するを許す。穎川太守に遷る。政を爲すこと清簡、甚だ百姓の歡心を得。東觀見て嘆じて曰く、和嶠森々として千丈の松の如し、礫洞にして節目多しと雖も、之を大厦に施せば棟梁の材ありと。嶠が富王者に擬す。杜預其錢癖あるを諱ふ。クワケン 和峴 (宋) 涪州の子。初め周に仕へて著作郎と爲る。宋に入りて太常博士たり。後、京東轉運使と爲る。太祖以へらく、雅樂聲高くして悲哀に近く、中和に合せずと。峴の音樂に善きを以て、詔して改定せしむ。峴、王朴の律準を以て洛陽司天台の表影石の尺に較して律呂を制す。是に於て八音始めて和暢す。クワケン 戈彦 (宋) 池州兵馬都監。

クワケン 過源 (宋) 字は時源。臨川の人。少くして穎異。其父に問うて曰く、聖賢の學は何の學ぞ。曰く、心の學なり。曰く、何ぞ古に多くして今に少き。曰く、古今あるに非ず、人の之を爲すに在るのみと。是に於て篤く聖賢の學に志す。嘗て曰く、人は終身只是一箇の窮理、元と知行を分たず、行の至りは知の極なりと。曰く、情は性に發す、性によれば則ち明、明なれば則ち聖、情に任ずれば則ち蔽、蔽なれば則ち愚と。學者浩齋生先と稱す。語録二卷あり。クワコウ 華恒 (三國) 字は敬則。廣の子。尉馬都尉を以て太常に累遷し郊祀の禮を定む。後ち故あり封爵を削られしも、王敦を

討つ功を以て更に縣侯に封せられ、復た太常を領す。蘇漢の亂常に帝の左右に侍し備きに艱苦を歷たり。初め州に在り、郷人任讓、輕薄にして行ひなし。恒の爲めに黜けらる。讓が汝の軍中に在るに及び、恒を見れば輒ち恭敬す。讓、劉超の死せしとき亦まさに恒に及ばんとす。讓、心を盡して敬衛す、故に免かるゝを得たり。帝の元服を加へ后を納るゝに及び、恒、蕭典を推尊して禮儀を撰定す。卒して敬と諡す。

クワコウ 和洪 (隋) 汝南の人。戦功を以て車騎大將軍儀同三司に累遷す。時に龍巖の任公忻、李國立等、衆を聚めて亂を爲す。刺史獨孤善、御する能はず。朝議洪が武略あるを以て、善に代へて刺史と爲す。月餘にして公忻國立を擒にして皆之を斬る。餘黨悉く平ぐ。クワコン 華混 (三國) 廣の子、恒の弟。父讓を被り官を免せらる。混、表の世孫なるを以て當に侯爵を襲ぐべし。乃ち逃避して斷髮伴狂、瘡を疾み言ふ能はざるを以て拜せざるを得たり。世咸之を稱す。クワサツ 華察 (明) 字は子潛。無錫の人。其詩、章柳の風を希ふ。クワシウ 華周 (三國) 表の弟。博學にして文才あり。仕へて黃門侍郎常山の太守となる。クワシウ 華秋 (隋) 汲郡臨河の人。家貧なり備實して以て其母を養ふ。母終る。土

を負ひて墳をなし容貌毀瘠なり。冕あり奔りて秋の廬中に入り其膝下に墜る。縣其孝感を嘉みし以て聞す。詔して其門閭に旌す。隋の末盜寇常に往來す。必ず相戒めて曰はく、孝子の郷を犯す勿れと。秋に賴り全きを待たるもの甚だ衆し。クワシン 和説 (宋) 城の子。薩を以て河北副將と爲り、官、威州刺史知維州に至る。嘗て制勝強遠弓の式を上る。能く堅を三百歩の外に破る。邊人號して風凰弓と爲す。雄に在ること十年、頗る能く敵を偵す。クワシンベツキツコウシユ 火臣別吉公主 (元) 太祖の女。字亮の繼室と爲る。昌國大長公主に封せらる。クワシンケン 華舜欽 (明) 無錫の人。嘉靖中、瑞州知府たり。惠政あり。民之に頼る。クワシユンヂヤウ 華春娘 (宋) 華椿年の女。美麗にして詩を能くす。幼婢小玉を介して鄰士徐君亮と通す。椿年覺り之を獲て官に訴ふ。官判じて夫婦と爲す。クワシヨ 華齊 (清) 字は義逸。無錫の人。畫に工みなり。人物士女、密緻にして傷ならず、刻畫は清麗にして逸、古意猶存す。其水墨なるものは直ちに龍眠の座に參す。クワジヨウ 周拯 (五代) 字は叔濟。欽人。南唐に仕へて保大間の令たり。湖濱の餘、撫綏方あり。民之を感じて去思碑を立つ。クワシヨヘイ 華初平 (宋) 鎮の子。進士に登り太常博士たり。典故を討論するに經

に據り古を考ふ。二聖北狩す。憂憤を以て卒す。クワズキフジン 花葉夫人 (五代) 實氏。幼にして善く文を屬し詩に長す。孟昶に仕へて幸を得たり。宋の太祖蜀を平ぐるに及びて之を繼室に輸す。後罪を以て死を賜ふ。クワソクカアンレイ 和連嘉安禮 (金) 字は子敬。本名駒。大名路の人。穎悟博學、淹く經史を貫く。大定二十八年進士に登る。至寧の末、泰安州刺史たりしが城破れ執へられて死す。堅貞と諡す。クワダ 華陀 (漢) 字は元化。譙の人。徐上に游學せり。經史に通じ兼れて養生の術を曉り、年百歳なるも猶ほ且つ壯容あり、人以此を仙とせり。舉辟皆就かず。方藥に精しく、處劑數種に過ぎず。心に分殊を識りて稱量を借らず。針藥の及ばざる所は腹背を割割し、腸胃を斷裁して其疾を除き、而して之を縫ひ、傳くるに神膏を以てし即ち癒ゆ。曹操、頭風を苦しむ陀を召して針せしむ。手に隨ひて而して癒ゆ。後ち召せども至らず竟に害せらる。クワタン 華譚 (三國) 字は令思。廣陵の人。博學多通、口辯あり。楊州の刺史周浚、其才器を愛し待つに賓友の禮を以てせり。後ち秀才に擧げられ尙書郎を歴官す。永寧の初め出て、郷令となる。時に境内飢饉なり。譚、心を傾け撫卹して甚だ政績あり。官秘書監に至り散騎常侍を加ふ。書書三十卷名づけて辯道といふ。



クワチン 華鎮 (宋)字は安仁。進士に登り、官は朝奉大夫に至る。學を好みて古に博く、一時の名宗師、多くはこれを稱道す。

クワツクワツシユツ 潤々出 (元)世祖の子。至元の末、寧遠王に封ぜらる。大徳の初、備禦に怠るを以て罪を得。武宗の時、寧王に封じ金印を賜はる。至大の初、或は逆謀ありと。高麗に徙さる。皇慶の初、還るを賜ふ。次年薨す。

クワツクワツクワ 潤々不花 (元)魁岸。誓力あり。太祖命じて五部前鋒都元帥と爲す。頗る威信を以て人々懐附す。後疾を以て官に卒す。

クワツシユツ 潤出 (元)太宗の三子。七年命を受けて、胡土虎と與に宋を伐つ。次年十月師に薨す。

クワツタン 潤端 (元)太宗の次子。命を奉り成都を取り、諸路を招降す。大徳元年來朝して道に薨す。幣帛五百疋を賜ふ。

クワテイ 和帝 (南北朝)齊第七世。姓蕭。名寶融。字智昭。明帝の第八子。立て一年位を蕭衍に譲り後に弑せらる。齊亡ぶ。改元一、中興。

クワテイシヤウ 過庭章 (明)德秋と號す。無錫の人。松栢竹石を蓄く。

クワトク 華督 (周)宋の廢公に事へて大宰となる。曾て孔父の妻の美にして醜なるを見、遂に孔父を殺て之を奪ふ。莊公痛く之を責む。奪之を衝み、遂に公を弑す。

クワハウ 華實 (晉)無錫の人。父義、義熙の末、長安に成たり。時に實八歳なり。別に臨み謂つて曰く、我遣らば汝の爲めに冠せんと。後長安陷る。實年七十に至るも冠せず。或は之を問へば答ふるに忍びず。朝に號日を稱る。齊の建元三年詔して其門閭に表せらる。

クワハク 華博 (三國)襄の弟。三縣内史を歴て治跡あり。

クワヒン 和城 (宋)字は明之。濮州鄆城の人。嶺南に累官し歩軍虞部侯に至る。將と爲るに老け、恩信を以て邊人の心を得。嶺南の珍貨一も著ふる所なし。邊吏功を希はんと欲する者、皆彈りて致て殺せず。至る所事なく、士大夫咸之を稱す。

クワビン 華敏 (明)南京錦衣衛軍たり。公餘に書を讀み大義に通ず。景泰三年九月、時政十事を上書す。廢めて行はれず。

クワフケン 華奮賢 (明)字は以愚。東吳老人と號す。洪武中の人。善く山水を畫く。クワヘウ 華表 (漢)欽の子。字は偉容。尚書たり。苦節を以て名を垂る。平原高唐の人。年二十にして散騎黃門侍中尚書に拜す。時事便ならざれば朝ち尚書と共に其意旨を論盡し、已を得ずして共に之を奏す。司空陳泰等此を以て之を稱せり。晉に仕て太常卿を以て致仕す。性清淡なり。司隸王密等嘗て之を稱して曰く、此の若き人は得て貴うべからず、得て賤うべからず、得て親むべからず、得て疎んずべからず。卒して親むべからず、得て疎んずべからず。

クワボウカン 富謙 (金)烏魯の兵を擧るに及び、往て之に投す。其敗るや、併せ誅せらる。

クワホウゲウ 和遜 (唐)岐州岐山の人。武后の時、舉を貢ひ關に詣り、上書して自ら言ふ、願くば天子を助けて任を和せんと。坐して莊州に流さる。十餘年、乃ち進士に擧げらる。突厥、主を尙せんと請ふ。遣使、御史中丞を以て、使節を攝す。報可し、諷するに義を慕ふを以てす。突厥遂に臣と稱し、子を遣はして入朝せしむ。達斡爾部侍郎に擢てらる。

クワンイ 桓伊 (晉)字は叔夏。武幹あり。王濛劉惔の知る所となり、嘗て豫楊二州の軍事を督す。至る所無敵し、百姓之に頼る。謝玄と共に符堅を淝水に破る。功を以て號を右將軍に進め、永修縣侯に封ぜらる。伊、性謙、素と伐らず。音樂を善くし、一時の妙を盡し、江左第一となす。蔡伯喈柯亭の笛を得て、常に之を吹く。王徽之、召に京師に赴き、舟を清溪の側に泊す。伊素より徽之と相識らず。時に岸上を過ぐ。船中の客、伊を識る者あり。伊の小字を稱して曰く、此れ桓野王なり。伊の小字を稱して曰く、此れ桓野王なり。伊の便ち人をして曰く、試に我が爲に一たび奏せよ。伊は時已に貴顯、素より徽之の名を聞く。便ち船に下り、胡床に踞して三調をなす。弄し畢りて便ち車に上りて去る。客主一言を交

クワンイ 桓彝 (晉)字は茂叔。第九世の孫。人倫の鑑あり。才を拔き士を取る、或は無聞に出て、或は之を孩抱に得。東晉の初、吏部郎に遷り、後宣城内史となる。蘇峻反す。彝兵を起して難に赴く。長史劉惠曰く、郡兵寡弱なれば宜しく甲を按じて以て待つべしと。彝聲を厲して曰く、君に無禮なるを見れば、猶ほ鷹鶴の鳥雀を逐ふが如くなるべし、今社稷危逼、義安なしと。遂に進みて蕪湖に屯す。賊、建康を陷る。彝も亦兵を率進み、彝之を斥けて曰く、吾、國恩を受く、義、死を致すにあり、豈賊と問を通すべけんやと。遂に龍岷を遣りて關石を守らしむ。韓晃之を攻む。將に敗れんとす。或る人軍を退げんことを勸む。彝曰く、吾桓侯の重恩を受く、當に死を以て之に報すべし、吾の桓侯に負くべからざるは猶ほ桓侯の國に負かざるが如しと。遂に力戦して死す。淝城を攻む。城陷り、彝節を守りて死す。子冲。

クワンイク 桓郁 (漢)榮の子。字は仲思。忠厚篤敦、學父の業を傳へ、尚書を以て教授す。門徒常に數百人。郁、爵を廢ふに當りて、上書して兄の子に讓る。許さず。乃ち悉く租入を以て之に與ふ。官、侍中に至る。二帝に經業を授く。門人楊震、朱龍、皆三公に至る。子焉。曾孫典。

クワンイゴ 管夷吾 (周)齊人。世々管仲

といふ。少時、鮑叔と友とし善し。鮑叔の賢なるを知りて善く之を遇す。後、之を桓公に薦む。管仲既に用ひられて齊の政に任す。桓公、諸侯を九合して遂に天下に覇たるは、蓋し管仲の力なり。管仲常に云ふ、我を生む者は父母、我を知る者は鮑子と。世に傳ふる管仲の書は蓋し一人の筆に成る者に非ず、後人の附會せるもの其中に過ぐるに似たり。

クワンイン 桓胤 (晉)冲の孫。嗣の子。清操あり。位、中書令に至る。

クワンウ 關羽 (三國)字は雲長。解州人。劉玄德と生死を同じくせんと誓ふ。曹操、兵を進めて下邳を圍ち羽を囚へ、張遼をして之に説きて降らしむ。羽三約以て己が志を明せんとを表す。操之に従ふ。羽を封じて漢壽亭侯となす。時に備の甘糜二夫人亦操の獲る所となる。操其主臣の義を亂らんと欲し、羽をして二夫人と室を同トクせしむ。羽嫌を避けて船を乘りて侍立して天明に至る。翼紹、大將顔良をして曹操と戦はしむ。操、張遼關羽をして先登して之を擊たしむ。羽、翼が塵蓋を望見し、馬に墜ちて、翼を萬軍の中に刺し、其首を斬りて還る。紹が軍氣を奪はる。初め操、羽の人となりな壯とし、其の久しく留まるの意なきを察し、張遼をして之を問はしむ。羽歎じて曰く、吾、極めて曹公の我を待てること厚きを知る、然れども吾、劉將軍の恩を受け、共に死せんことを誓ふ、之に背くべ

クワンウ 桓雲 (晉)字は雲子。魏國龍元の人。彝の子。初め驍騎何充の參軍尚書郎となる。拜せず。爵、萬寧男を襲ぐ。位、建武將軍を歴て義府大守たり。母の憂に居り職を去る。葬り畢りて起して江州刺史となす。疾と稱して墓に處す。詔書致く暹れども固辭して行かず、服闋りて然る後職に莅む。司隸二州軍事に都督たることを加

ふ。鎮邊軍を領し西陽の太守たり。節を假す。雲、衆力を招集し、志、兵を足すにあり。狂濫する所多し。衆皆嗟怨す。時に温、政を執る。有志敢て彈劾せず。升平四年卒す。平南將軍を贈り、貞と諡す。

クワンウンセキカイガイ 貫雲石海涯 (元) 融齋と號す。英爽骨力あり。運葉風を生じ、觀る者辟易す。詩文清絶、草隸書に妙なり。其死生を視る晝夜の如く、世利に於て淡如たり。卒して京兆郡公に封じ、文靖と諡す。詩文若干卷、直解孝經一卷あり。

クワンエイ 桓榮 (漢) 字は春卿。沛郡龍亢の人。少にして長安に學ぶ、精力倦まず。建武中、議郎に拜し、太子に經を授け、太子少傅に遷る。車駕、大學に幸し、諸博士を會して前に論難せしむ。榮、經義を辯明し、毎に禮讓を以て相厭し、辭長を以て人に勝たず。帝賜ふに輜車乘馬を以す。榮大に諸生を會し、其車馬印綬を陳れて曰く、今日棄る所は積古の力なり、勉めざるべけんやと。明帝即位し、猶尊ぶに師禮を以てし、拜して五更となす。子郁。

クワンエイ 灌嬰 (漢) 淮陽の人。少うして酒を飲ぐを以て樂となす。高帝に從うて天下を定め、穎陰侯に封ぜらる。後周勃と諸呂を平げ、共に文帝を立て、功を以て太尉右丞相に進み、卒す。諡して懿侯と曰ふ。

クワンエイ 管銳 (宋) 浮梁南軍に知りたり。政を勤め、孝悌を以て民を教ふ。其學校に於ては尤も意を加ふ。

クワンエイケツ 關永傑 (明) 字は人孟。登昌衛の人。世々百戸に官す。永傑好んで書を讀み、忠義の事に遇ふ毎に、輒ち之を壁に書す。狀貌奇偉、世人繪く所の壯傑侯の像に類す。崇禎四年會試、壯烈祠に遊びて道士の神夢を聞く。已にして登第して開封推官を授けらる。強植阿らず、民畏愛す。憂を以て歸る。服闋り起て兵部主事に遷る。督師楊嗣昌、之を軍前に用ゐんと請ふ。乃ち唯陳兵備倉事に擢てられ、陳州に駐まる。陳は故と賊の衝、永傑日夜備を爲す。十五年二月、李自成數十萬衆來り攻む。永傑藥を分ちて守る。賊使を遣して降を説く。其頭を斬りて之を城上に懸く。賊怒りて攻め破る。永傑數賊に格殺せられ、身亂刃に中りて死す。光祿廟を贈らる。

クワンエイソ 桓榮祖 (南北) 下邳の人。初め南齊の驍騎將軍たり。性苛暴にして鞭撻を行ふを好む。泰始の勅、始安王遙光と同く反き、誅に伏す。

クワンエン 桓焉 (漢) 字は叔元。都の子。父の任を以て郎となる。明經篤行、名稱あり。安帝に經を授く。三遷して侍中となり、尙書の事を録す。弟子の衆を傳ふるもの數百人。黃璽、楊賜、最も顯貴となる。焉、二女あり、孫備及び李膺に適く。時に二女俱に龍に乗ると謂ふ。蓋し婿を得ること龍の如きを謂ふ也。

クワンオウ 關暉 (明) 字は中立。鎮國の人。被服儒素。雅より著述を好む。書法權

興を著はす。世に傳はる。クワンオウカウ 關應庚 (宋) 何許人なるを知らず。度宗の時、孝感顯著なる。咸淳九年、上書して邊防二十事を言ふ。尋いて詔を奉じて武寧軍節度推官を授けられ、司法京湖制司を兼ねぬ。

クワンオンド 觀音奴 (元) 字は志能。性廉明剛斷、發捕神の如し。歸德府に知りたり。淫祠を毀ち民の惑ひを解く。亳州蝗あり、蝗をとりて食ふ。是歳蝗災を爲さず、官都水監に至る。

クワンカウ 桓康 (南北) 蘭陵の人。齊武帝に隨て兵を起し堅を摧き陣を陷る。江南人之を畏る。其形貌を畫けば瘧疾を愈すべし。後、吳平縣侯に封ぜらる。

クワンカウシ 關康之 (南北) 字は伯倫。河東の人。性清約にして獨り一室に處り、妻子と相見ること希なり。顯延之、一時の諸名士と嘗て山に入りて之を俟ふ。其散髮して黃巾を被り松葉を席とし白石に枕して臥し了に相盼みざるを見て、延之等咨嗟して退く。徽群一も就く所なし。弟子衆を以て傳授す。尤も左氏春秋を善くす。撰ぶ所、論あり。齊高帝絶之を愛賞し、崩するに臨み遺詔して以て元宮に入る。

クワンガンアツク 完顔渥 (金) 字は仲澤。太原の人。性明俊不羈、博學にして談論を善くし、尺牘を工にす。字畫清美、晉人の風あり。右司都事に遷る。

クワンガンアツタ 完顔阿骨打 (金) 太祖皇帝を見よ。

クワンガンアツサ 完顔阿瑛 (金) 宗強の子。長身多力。天德二年、奉國金吾衛上將軍を累授せられて、中都に居り。世宗即位す。瑛殺と與に沙離を留守す。大定二年、横海軍節度使を授けられ、名を瑛と賜ふ。阿瑛時方に年少、帝詔して之を獎諭す。武定軍に改めらる。母の憂あり。起ちて復た興平軍に轉じ、襲衣駝馬を賜ふ。廣寧尹に遷り、職に坐して罪せらる。頃らくして起ちて平涼並濟南尹となり常武殿に入見す。帝申諭して之を戒む。未だ幾くならずして官に卒す。年二十七。

クワンガンアツサイ 完顔幹賽 (金) 世祖の第六子。幼より軍功あり。穆宗其の能を嘉みす。

クワンガンアツシヤ 完顔幹者 (金) 瑛の祖父。

年三十四。定肅と諡す。

クワンガンアツロ 完顔幹魯 (金) 景祖の次子。戦功を果れて西南西北兩路都統に至る。天會五年十二月乙亥薨す。皇統五年鄭國王に追封し太祖の廟庭に配享す。

クワンガンアツロコ 完顔幹魯古 (金) 世々勃董たり。戦功あり。天輔六年賊を牛心山に討ち病みて道に卒す。莊翼と諡す。

クワンガンアン 完顔晏 (金) 阿高合遷の子。本名は幹論。明敏にして謀畧多く、契丹の字に通ず。太尉に拜せらる。致仕して郷里に還り尋て薨す。

クワンガンアンコク 完顔安國 (金) 字は正臣。性沈雅にして謀畧あり、尤も騎射を善くす。諸官を歴て道國公に封ぜられ、泰和四年卒す。上爲一朝を殺む。安國、軍旅に在ると幾ど十五年、號令嚴明、卒伍を指揮すること左右の手の如し。又善く敵人の虛實及び山川の險易を伺ひ知り、戦必ず身士卒に先んず。

クワンガンアンシン 完顔接辰 (金) 衛紹王の子。泰和七年出で、鄭王永蹈の後を繼ぐ。大安二年立て皇太子となる。後、后徒單氏と共に名號を削られ、汴京破れて死す。

クワンガンアンタフカイ 完顔接答海 (金) 一名は阿魯補。宗雄の三子。性端重、輕殺せず、父の風あり。太子太保に累遷し蘭陵郡王に封ぜられ、觀農使に改められ金源郡王に進む。大定十四年薨す。年六十七。

クワンガンアリホ 完顔阿魯補 (金) 景祖の景祖に出づ。屢征伐に従ひて功有り。天會十二年元帥右都監に除せられ左監軍に遷る。天眷三年左副元帥に遷り、後、譚國公に封ぜられ、行臺左丞相となりて歿す。

クワンガンアリソ 完顔阿魯 (金) 宗雄の次子。穎悟辯敏、女直契丹大小字及び漢字に通ず。幼時嘗て宮に入る。熙宗見て之を奇として曰く、是兒他日必ず能く力を國家に宣べむと。年十八にして定遠大將軍順天軍節度使を授けらる。後、官、兵部尙書に

クワンガンアツタイ 完顔幹帶 (金) 世祖の第三子。太祖の同母弟。幼より衆弟中において最も愛せらる。人となり剛毅果斷、服用整肅、戦に臨みて策を決するに世祖の風あり。軍旅の事多く專任せらる。薨す

クワンガンアリガフマン 完顔阿高合遷

クワンガンアキ 完顔阿喜 (金) 性廉能にして學問を好む。諸官を歴て貞祐二年沁南

クワン

二八三

至る。  
クワンガンアリシ 完顔阿魯 (金)名は夷。宗強の子。太子太傅并に太師を経て榮王に封ぜらる。正隆二十三年歿す。  
クワンガンアリヲツ 完顔阿里刺 (金)名は青。諸官を歴て、承安二年尙書右丞に拜し、出て兼定軍節度使となり、知濟南府に移りて卒す。  
クワンガンアロ 完顔阿魯 (金)名は宗賢。太宗に親信せらる。諸官を歴て大定の初に卒す。  
クワンガカアロホ 完顔阿魯補 (金)治詞の子。魁偉にして智勇多く戦闘に勇なり。未だ冠せずして軍に従ひ、屢々功を立つ。官、歸德軍節度使に至る。嘗て汴に在り、官舎の材木を取り私第を恩州に構へ、爲に死に論ぜらる。年五十五。大定三年儀同三司を贈る。  
クワンガンイ 完顔彝 (金)字は良佐。豊州の人。小字は陳和尙。隆州同たり。從兄鋭烈、名は鼎、善く戦ふを以て名を知られ、古賢將の風あり。貞祐中、彝、元兵に掠めらる。其帥之を愛して帳下に置く。後、母を省すと詐りて豊州に歸り家を擧げて南に奔る。彝、天寶高明雅文、人秀才を以て之を自す。彝、病を以て先づ卒す。彝、定遠大將軍平涼府判官を授けらる。後また元兵の執ふる所となり、屈せずして死す。  
クワンガンイク 完顔昱 (金)勅孫の子。本名は蒲家奴。戦功を積みて天會の間大司

空となる。宗磐等の誅せらるゝや、其の辭連及して職を奪はれ、遂に歿す。  
クワンガシイク 完顔育 (金)本名は合住。常勝の子。南京副留守より入宗正丞兼勅農副使に遷る。人となり清廉父を奉しめず。  
クワンガンウ 完顔嵩 (金)本名は訛出。張翰と俱に大定二十八年進士と登す。諸官を歴て權元帥在都監に至り、興定四年密州破れて乱軍の殺す所となる。  
クワンガンウゴソク 完顔烏雅東 (金)世祖勅里鉢の長子。字は毛路完。遼の清寧七年生れ、乾統五年位を襲ぐ。是より先、盈歌の時、高麗と好を通ず。烏雅東立ちて高麗盟を渝ふ。在位十一年にして卒す。年五十三。獻敬恭簡皇帝と追諡し廟號を康宗といふ。弟阿骨打つぐ。之を大金の太祖皇帝と爲す。  
クワンガンウコシユツ 完顔烏古出 (金)昭興の子。初め昭祖、子無し。次室遼胡末と巫に禱る。巫曰く、男子の兆見はると雖も然も性剛直ならず、長じて耽酒嗜淫、親む無し、親の恩愛く可らずと。既に生れて之を烏古出と名く。昭祖歿するに及びて屢々悍戾なり。景祖之を苦せむと欲す。部人の怒を奈何とするなし。爲に免るゝを得たり。  
クワンガンウコダイ 完顔烏古迺 (金)石魯の子。遼の太平元年生る。時に完顔部の勢益々強大、傍近の部族來り歸するもの多し。遼主、以て生女直都統節度使と爲す。是

より漸く綱紀を立て官屬を置く。又鄰國より職を請ひて甲冑兵器を作る。遼の咸雍八年、命を奉じて五國擾攘部野物董を伐ち、疾みて軍中に卒す。年五十四。追諡して惠祖皇帝といひ、廟號を景祖といふ。子勅里鉢、節度使を襲ぐ。次盈歌、次盈歌。兄弟次を以て相傳ふ。  
クワンガンウヤ 完顔烏野 (金)諱は易。字は勅道。穆宗の第五子。生れて學を好む。國人呼んで秀才となす。年十六、太祖に從つて寧江州を攻む。尙書左丞、鎮東軍節度使、同中書門下平章事、左丞兼侍中、尙書省事等を歴て魯國王に封ぜらる。卒する年五十九。女直郡望姓氏譜を撰定す。能く契丹字を以て詩文を爲る。  
クワンガンウロ 完顔烏魯 (金)始祖國魯の長子。金建國の後、追諡して德皇帝といふ。子あり、長を政海といひ季を望魯といふ。  
クワンガンエイカ 完顔盈歌 (金)順刺淑の弟。字は烏魯完。盈、音場に近く、歌、音割に近し。故に訛りて楊割太師(遼、節度使を大師といふ)といふ。遼の重熙二十一年生れ、大安十年襲位す。在位十年にして卒す。年五十一。景祖烏古迺より盈歌に至るまで二世四主、志業相因り卒に東南、乙離魯烏魯補土骨輪に至り、東北、五國主限完魯に至るまで皆本部の法令に從ふを致す。金蓋し此に盛なり。天會間、軍順孝平皇帝と追諡し廟號を穆宗といふ。勅里鉢

の長子烏雅東つぐ。  
クワンガンエイコウ 完顔永功 (金)本名は宋萬。又の名は廣孫。水中の同母弟なり。性沈黙寡。勇健人に絶し書史を涉獵す。興定五年卒す。忠簡と諡す。  
クワンガンエイシヨウ 完顔永升 (金)本名は糾不出。母は才人石抹氏。判吏部尙書、定武軍節度使を歴て宣宗の時に卒す。  
クワンガンエイセイ 完顔永成 (金)本名は輔野。昭儀梁氏の生む所。風姿奇偉、幼より讀書を喜み、博學にして善く文を屬す。世宗尤も之を愛重す。自ら樂善居士と號す。文集あり、世に行はる。泰和四年卒す。忠獻と諡す。  
クワンガンエイセキ 完顔永錫 (金)名は合周。性、詩を作るを好む。而かも詞語鄙俚なり。人其の語を來り以て戲笑せし、目して雀兒參政となす。哀宗の時參知政事たりしを以てなり。軍職に在りて屢々事を敗る。  
クワンガンエイタウ 完顔永陶 (金)初名は狗兒。明昌二年鄒王に封ぜらる。後、事を以て死を賜ふ。  
クワンガンエイチウ 完顔永中 (金)本名は實魯刺。又の名は萬僧。太宗の庶長子。母は元妃張氏。後、罪あり死を賜ふ。  
クワンガンエイトク 完顔永徳 (金)本名は訛。興平五年、判府事となる。  
クワンガンエン 完顔堯 (金)本名は梧桐。宗幹の二子。官、太尉に進み、天德四年卒

す。  
クワンガンカイ 完顔玠 (金)本名は謀良。虎。允恭の子。幼より穎秀なり。性温厚にして學を好む。卒する時年僅かに十一。悼敏と諡す。  
クワンガンガイシヤ 完顔劬者 (金)景祖の長子。性柔和。世祖と邸を同じうす。兵を治めずして専ら家務を治めしむ。早く卒す。韓國公に追封す。  
クワンガンカイリ 完顔海里 (金)襄室の族子。体貌豊偉、善く稍を用ふ。官、廣寧尹に至る。  
クワンガンガイリハツ 完顔勅里鉢 (金)烏古迺の子。遼の重熙八年生る。咸雍十年父の位を嗣ぐ。其從父跋黒、異志あり、遂に桓被放逐、烏魯謀謀を誘ひて亂を爲す。勅里鉢、遼の助を乞ひ、弟順刺淑と共に討ちて之を平げ、蓋部悉く復歸す。時に遼の大安七年なり。明年、幹勅部の人孟乃、また烏魯謀謀に結びて兵を擧ぐ。また討て之を平ぐ。勅里鉢襲位の初、内外潰叛、結文寇を爲す。乃ち能く敗に因て功を爲し弱を變じて強を爲す。蓋部是に於て益大なり。卒する年五十四。追諡して聖肅皇帝といひ廟號を世祖といふ。弟順刺淑襲ぐ。  
クワンガンカウ 完顔亨 (金)字は逸ともいふ。宗廟の子。素と材武あり、勇力人に絶す。右衛將軍となる。海陵之を諷して曰く、爾を得て左右を斷らば慮無かる可き耳と。爾に其耳を以てす。諱して曰く、爾くし

て用ふ可らずと。海陵遂に之を思む。後間因て海陵を刺さんせしが、捕へられて殺さる。  
クワンガンカウサン 完顔謙山 (金)金末、蔡城破れて哀宗の崩するや、謙山に遺命して屍を燒かしむ。元兵突入して之を執ふ。帥奔差以て奇男子となし之を許す。乃ち其餘燼を撥し包むに敝裘を以てし汝水の旁に燻め、將に水に赴かむとして救はる。後その終る所を知らず。  
クワンガンカキ 完顔可喜 (金)宗強の子。忻州刺史たり。海陵を畏避し、來りて世宗に歸す。兵部尙書に除せらる。  
クワンガンカクジユ 完顔曠壽 (金)吾都補の次子。本名は吾都。契丹撤八反し、五院部の人老和尙をして之を招かしむ。從はず。遂に二子と與に殺さる。  
クワンガンガフタツ 完顔合達 (金)名は曠。字は景山。少より兵闘に長じて弓馬に習ひ、また能く人の死力を得たり。正太の末、軍敗れて釣州に走り、城陥りて殺さる。  
クワンガンガフヂウ 完顔合住 (金)烏魯補の次子。胡士門と時を同じうして朝入歸す。屢ば權柄を掌りて功あり、眞定府路安撫使兼曹州防禦使に遷る。子二人あり、布輝、福亮。  
クワンガンカンフ 完顔國魯 (金)其先は欽韓より出づ。國魯に至りて高麗より移りて完顔部に居り。會々部人、他族の人を殺して交々相闘ふ。國魯これを解諭して爲に

衆の信服を得たり。遂に完顔部の人と爲る。二子あり、長を烏魯といひ次を幹魯といふ。一女あり性思板といふ。烏魯の後、遂に國を建て、金といふ。金の天會十四年、國書を追証して景元皇帝といひ、廟號を始祖といふ。

クワンガンキ 完顔瑋 (金)本名は吾里不。允恭の子。人となり風儀秀時、性寛厚にして騎射を善くす。承安八年卒す。敦睦と諡す。

クワンガンギンジュツカ 完顔銀光可 (金)歴職あり。中書令となり國王に封ぜらる。天眷三年卒す。年六十八。

クワンガンクワウエイ 完顔光英 (金)海陵の子。天資警悟。皇太子となる。年十二、未だ即位するに及ばずして弒に遇ふ。

クワンガンクワウヤウ 完顔廣陽 (金)海陵の子。母は妃南氏。生れて二年にして卒す。

クワンガンクワコダイ 完顔訛古乃 (金)治訓の子。姿質魁偉。年十四、宗幹の軍中に隸す。馳驅を善くし日に能く千里なり。常に偵候をなす。天德四年臨洮尹に遷り金紫光祿大夫を加へらる。官に卒す。年五十五。

クワンガンクワツチヨ 完顔活女 (金)妻室の長子。軍功あり。諸官を歴て隨國公に封ぜらる。卒する年六十一。貞濟と諡す。クワンガンクワツリカフ 完顔活里甲 (金)幹魯の孫。海陵に慕まれ、遂に殺さる。

クワンガンクワント 完顔歡都 (金)祖は石魯、昭祖と同時同部同名の人。歡都、世祖完顔宗穆宗の四君に歴事し、出入四十年、頗る征伐の功あり。世祖嘗て曰く、吾れ歡都あり、則ち何事か成らざらん。宗、委任近屬に冠たり。穆宗凡そ遠を圖るの事、皆専ら倚信す。康宗、父叔の輩人たるを以て尤も敬禮を加へ補益する所多し。天會十一年二月薨す。年六十三。明昌五年忠敏と諡す。

クワンガンクワリヤ 完顔訛里也 (金)或平路賈吐忽河の人。諸官を歴て京兆尹となる。私闘多く百姓を惡む。

クワンガンケイ 完顔京 (金)本名は忽魯。宗望の子。判大宗正事なる。其の妻公壽。嘗て日者孫邦榮を召して京の味を推言せしむ。曰く、官は太師、爵は封王に至らん。京曰く、此の上更に加ふる無きか。邦榮其の意を察し、大定五年變を上る。詔して特に其の死を免して名を除く。

クワンガンゲンギ 完顔元宜 (金)本名は阿烈。一名は移持魯。本姓は耶律。皇統中海陵に屬して屢々宋を困しむ。後海陵を弒して世宗に降る。

クワンガンゲンジュ 完顔元壽 (金)母は大氏。始め大氏、阿里虎の妻たり。廢帝海陵追つて之を淫す。天德元年壽生る。元壽皇王に封ぜられ三年にして薨す。

クワンガンゲンド 完顔元奴 (金)名は永字は傳。弟の仲子。幼にして聰敏、

左氏春秋を口誦し其の大義に通ず。弟耶補兒と逃れて遂に歸す。後復た金に歸し、諸官を歴て彰德軍節度使となる。卒する年五十一。

クワンガンゲンド 完顔元奴 (金)金の内族。名は綱、字は正甫。使を西域に奉じて其國情に通ず。泰和六年蜀漢路安撫使となし四事を經略せしむ。嗣又宋の吳曦を誘ふ。曦款を通じて奉表す。七年陝西宣副使と爲る。後讒に遇つて死す。

クワンガンゴキツパイ 完顔吳乞買 (金)太宗皇帝を見よ。

クワンガンコクエイ 完顔敷英 (金)本名は達懶。銀光可の子。幼にして警敏、志膽あり。諸官を歴て大定十九年卒す。年七十四。

クワンガンコクシン 完顔谷神 (金)歡都の長子。名を希尹と改む。常に行陣に在り太祖に従ふ。太祖命じて契丹の藩制に因りて本國字を撰び、漢人の楷書に依倣し本國語に合せしむ。天輔三年成る。後熙宗亦た女直字を撰す。相與し並ひ行はる。希尹が撰する所之を女直大字と謂ひ、熙宗が撰する所之を小字と謂ふ。左丞相兼侍中に拜し開府儀同三司を加ふ。天眷元年罷めて典中尹となり、二年相に復し陳王に封ぜらる。禮を以て死を賜ふ。皇統三年、上るの實を知り、乃ち儀同三司郡國公を贈る。諡して貞憲といふ。

クワンガンゴツコツ 完顔吾札忽 (金)帥となり、應國公に封ぜられ、行臺左丞相となる。海陵の計る所となり、宗穆謀里野等と皆死す。大定の初、官爵を復す。莊憲と諡す。

クワンガンコジフモン 完顔胡十門 (金)曷蘇館の人。父達不野、遂に事へて太尉たり。胡十門漢語を善くし、勇にして善く戦ふ。高永昌東京に據りて曷蘇館の人を招く。衆争つて之に歸せむと欲す。胡十門肯かかず。其の族人と謀り部族を率ゐて曷蘇山下に營す。永昌之を攻む。胡十門力戦すれども敵する能はず、撤收に奔る。開州を攻むるに及び胡十門糧餉を以て軍に給す。後保州を攻む。遂將舟師を以て運る。胡十門遊撃して之を敗る。天輔二年卒す。

クワンガンコセキカイ 完顔胡石改 (金)宗室の子。汴京留守となり、天德三年世襲猛安を授けらる。卒する年六十八。

クワンガンコツタン 完顔骨 (金)治訓の子。騎射を善くし才幹あり。開府儀同三司に累遷す。卒する年八十五。

クワンガンゴツフカツ 完顔兀不喝 (金)會寧府海姑寨の人。年十三、女直字學生に選ばれて上京女直史に補し、再び小字を習ひ兼て契丹文字に通ず。諸官を歴て横海軍節度使に遷り、大定五年官に卒す。

クワンガンゴトホ 完顔吾都補 (金)世祖の末子。名を昂と改む。人となり悻悻、天眷三年平章政事となり、皇統元年漆水郡王に封ぜらる。二年薨す。

クワンガンゴボ 完顔吾母 (金)名は下。諸官を歴、金吾衛上將軍を以て致仕し卒す。

クワンガンコン 完顔夔 (金)本名は蒲甲。宗幹の子。桀驁強悍。海陵廢つて之を市し斬る。

クワンガンサイフ 完顔賽不 (金)始祖の弟保活里の後。狀貌魁偉、沈厚にして大略あり。諸官を歴て功勞あり。天興二年徐州尙書事を行ふ。既にして久しく疽を病み事を視ず。將士皆叛將に降る。賽不自ら州に縊る。子按魯。

クワンガンサウガフ 完顔掃合 (金)名は齊。穆宗の曾孫。諸官を歴て彰化軍節度使に轉じ、上京留守に擢てられ、承安二年致仕して卒す。人となり法令に明かに治体を識り、至る所聲あり。丞相承暉と並び稱せらる。

クワンガンサツカイ 完顔撒改 (金)上京納管運河の人。身長多力、善く槍を用ふ。大定四年宋を伐ち、邳州に至りて卒す。

クワンガンサツカイ 完顔撒改 (金)勃者の子。國相となりて能く諸部を馴服し、訟獄成な其の情を得。人となり敦厚にして多智、人を用ふるに長ず。家居純儉、稼穡を好み、毎に宗臣を以て内外の倚重たり。天輔五年卒す。忠毅と諡す。子宗翰、宗憲。

クワンガンサツソク 完顔撒速 (金)名は匡。始祖九世の孫。

クワンガンサツリカツ 完顔撒萬喝 (金)名は果。安帝六代の孫婆盧火の族胡魯補山の子。雄偉才異あり。世祖養つて子とす。太祖之を愛し常に軍中に居らしむ。右副元

クワンガンサンハウ 完顔三寶 (金)名は交。人となり貪鄙。章宗其の能あるを以て進めて之を委信す。承安二年同簽大陸親府事となる。

クワンガンジウ 完顔充 (金)本名は神土。瀋陽公に封ぜられ、吏部尙書となり、封を代王に進め、同判大宗正事に遷り、右丞相に拜せられ、左丞相に轉じ、天眷九年薨す。子禮奴、元奴。

クワンガンシウカン 完顔醜漢 (金)名は裏。世祖の曾孫。大睦親府丞となり、順義軍節度使に除す。人となり孝悌貞謹、深く本朝の禮に悉しく、皇族の婚嫁ある毎に之を相く。治また能あり。

クワンガンジウタン 完顔從坦 (金)宗室の子。諸官を歴て東平府同知權元帥左監軍を授けられ、李革と俱に平陽を守る。元兵と戦ひ執へられ、屈せずして死す。

クワンガンシケイ 完顔思敬 (金)本名は撒改。石土門の子。体貌雄偉鬚髮美なり。純直にして材幹あり。初め副武將軍と爲り、歴官して平章政事に拜す。大定十三年薨す。

クワンガンシフコダイ 完顔習古題 (金) 又、東宮留守に至る。弟故實改、子阿魯帶。クワンガンシフフシツ 完顔習不失 (金) 烏古出の子。長じて健捷、左右射を能くす。屢々軍功あり。天輔七年七月卒す。大定三年金源郡王に追封し忠毅と諡す。

クワンガンシフフシユ 完顔習不主 (金) 習不失の弟。年十六、宋を伐ち攻めて懷仁縣を下す。功最に居り。河南尹に累官す。卒する年五十八。

クワンガンシシヤホ 完顔烈思阿補 (金) 海陵の子。母唐括氏、名は石哥。定哥の妹にして乃ち宗室の子文の妻なり。海陵帝にして之を奪ひ、阿補を生ましむ。阿補三年にして卒す。

クワンガンシントマン 完顔紳士禮 (金) 宗室胡速魯改の子。官、婆速路兵馬都總管となる。

クワンガンシヤウ 完顔璋 (金) 幹者の子。本名は胡麻愈。勇略あり、女直契丹漢字に通ず。軍功を果れて臨洮尹となりて卒す。

クワンガンシヤウ 完顔襄 (金) 本名は曉。習古題の孫。幼にして志節あり、騎射を善くす。司空に進み、泰和二年卒す。年六十三。生平明敏、才武人に過ぎ、至る所功あり。武昭と諡す。

クワンガンシヤウ 完顔襄 (金) 本名は水慶。宗幹の子。海陵の同母弟。官、輔國上將軍に至る。

クワンガンシヤウシヨウ 完顔常勝 (金) 改名は元。宗峻の次子。天性賢哲、外儀の如く事に臨んで明敏人に過ぐ。世宗兄弟之間尤も欽密なり。後誣ひられて熙宗の殺す所となる。子育。

クワンガンシヤカ 完顔斜哥 (金) 宗翰の孫。資質鄙惡、食りて財賄を受く。刑部侍郎等に歷官す。罪罪を犯して死に當せしかば皆祖父の大功を以て特に免さる。後、勳農副使に終る。

クワンガンシヤボ 完顔閣母 (金) 世祖の第十一子。軍功を以て元帥左都監に擢んてらる。天眷、年卒す。年四十。莊嚴と諡す。

クワンガンシヤヤ 完顔斜也 (金) 世祖の第五子。名を果と改む。吳勃極烈、忽魯勃極烈、諸班勃極烈、都元帥を歴て天會八年卒す。都して智烈と曰ふ。

クワンガンシユキ 完顔守禧 (金) 字は慶之。禧の弟。子。風神秀徹。未だ三十ならずして病みて卒す。

クワンガンシユクワ 完顔殊顯 (金) 字は仲平。女直進士。崖立の變、阿虎帝等と自ら死す。

クワンガンシユダウ 完顔守道 (金) 歡都の孫。本名は智尼列。初め盧龍軍節度使となり、歴官して左丞相兼太子大師に至る。明昌四年卒す。年七十四。簡靖と諡す。嘗て國史を監修す。帝稱して直學とす。

クワンガンシユツロ 完顔尤魯 (金) 本路招安副使、謀見となり、天輔四年卒す。年

四十一。

クワンガンシユテイ 完顔守貞 (金) 歡都の孫。本名は左慶。人となり剛直明亮、凡そ朝廷の論議、皆理によりて以て對ふ。職官を歴て知濟南に遷り卒す。肅と諡す。

クワンガンシユノウ 完顔守能 (金) 歡都の孫。本名は胡刺。南州刺史に累官す。宋人南州を陥るゝに方つて遂に執へらる。後歸りて西北路招討使に任ず。貪墨自ら恣にするを以て名を除かる。

クワンガンシユジュン 完顔守純 (金) 本名は磐都。宣宗の次子。貞祐三年樞密使となり、四年平章政事に拜せらる。哀宗即位して南王に封せられ改めて睦親府に列たり。守純か反を謀るさ告ぐる者あり獄に下して推問せらる。皇太后、帝に言うて免がるゝを得たり。大典の初、守純の府第に肉芝一株を産す。高さ五寸許、色紅鮮愛すべし。既にして枝葉津液を滴し血臭をなす。削去すれども復た生ずる者再び。夜則ち房櫺の間群狐號鳴す。燭を乘りて逐捕すれば復た所在を失ふ。年を踰けて崖立の亂あり。諸宗室多く青城に死するを致す。蓋しその兆なりといふ。

クワンガンシヨウイウ 完顔承裕 (金) 本名は胡沙。頗る孫吳の書を讀む。泰和中、通遠軍節度使陝西兵馬副都統たり。秦州防禦使完顔麟と與に成紀の界に屯す。宋の吳曠の兵五万秦州を襲ふ。二人協力之を擊退す。章宗詔して之を勞ふ。大安三年參知政

事を以て兵事を主とす。是歲八月元兵野狐嶺に至る。承裕畏れて氣を喪ひ敢て拒ぎ戦はず、兵を引きて南行す。元兵之を踵撃す。明日、會河堡に至りて兵大に潰ゆ。承裕身を脱して走りて宣德に入る。元の游兵、居庸關に入る。諷者謂ふ、金の亡ぶるや是役に決すと。承裕、貞祐中、臨海軍節度使に終ふ。

クワンガンシヨウキ 完顔承暉 (金) 字は維明。本名福興。學を好み經史を淹貫す。章宗の時、諸官を歴、貞祐の初、尙書右丞より平章政事に拜せらる。中都の圍まるゝや、出て、和を請せしめ、金主汴に遷り、承暉を右丞相に進め、皇太子と中都を留守せしむ。承暉以爲らく一たび中都を失はば、遼東河朔皆我が有にあらずと。諸軍の道を倍して來り援はんことを乞ふ。高琪其成功を忌み之を沮み、一兵も至るものなし。承暉曰く、事勢此に至る、惟一死以て國に報すべしと。遺表を作りて自殺す。宣宗之を哭し諡を忠肅と賜ふ。

クワンガンシヨウリフ 完顔承立 (金) 字は獻甫。一名慶山奴。統軍使撈山の子。儀觀甚だ偉なり。貞祐の初、龍幸せられて殿前右副點檢に遷る。三年元帥右都監行帥府事となり元兵を拒ぐ。四年慶原路兵馬都總管となり、夏人と相拒く。正大四年元帥に擢てられ、兵に將として盱眙を守る。李全と戦て大に敗れ死する者萬餘人。降されて定國軍節度使と爲る。九年元兵と戦ひ敗れ

て擒にせらる。偃蹇風せず。刀を以て斫て其足を折る。亦降らず。遂に殺さる。

クワンガンシキカ 完顔綏可 (金) 跋海の子。時に國俗室慮なし。山水を其ひて地を坎し、木を其上に梁り覆ふに土を以てす。夏は則ち出て、水草に隨うて以て居り、冬は則ち入りて其中に居り、遷徙常なし。綏可、移りて海古水に居り、耕藝樹藝を事す。始めて室を築きて棟宇の制あり。人呼びて納葛里(漢語の居室なり)と爲す。是より遂に居を安出虎水の側に定む。金、建國の後、定昭皇帝と追諡し廟號を獻祖といふ。子を石魯といふ。

クワンガンセキコダイ 定顔石古乃 (金) 改名は仲。憲室の三子。体貌魁偉。女直、契丹、漢字に通ず。嘗て左都副點檢宿衛となる。嚴謹にして小心畏慎、事毎に規矩あり。北京留守となりて卒す。

クワンガンセキトモン 定顔石土門 (金) 始祖の弟保活里五世の孫。世々耶懶路に居り完顔部長たり。宗廟を同じうす。雖、久しく通問せず。景祖の時に至り互に交誼を通ず。世祖位を襲ぎ交好益深し。隣部悦ばず、兵を合して之を攻む。石土門擊て之を破り、因て諸部を招諭して世祖に附かしむ。人となり体貌魁偉勇敢にして善く戰ふ。質直孝友。匪記辯捷、事に臨みて果斷。從て高麗及び遼を伐て功尤も多し。年六十一にして卒す。金源郡王と封せらる。(石土門、或作神徒門)

クワンガンセキロ 完顔石魯 (金) 綏可の長子。父に嗣ぎて家を承く。時に國俗、書契約束なし。石魯稍々條教を立て、治を爲す。故に部落殷や強盛なり。遼、楊隆を以て之を官す。始祖國語より石魯に至るまで五世、時に未だ曆数を知らず。故に年壽の長短を攻ふ可らず。天會中、成義皇帝と追諡し廟號を昭祖といふ。子烏古題。

クワンガンセキロ 完顔石魯 (金) 歡都の祖。昭祖の時を同じうし部を同じうし名を同トす。交り相得。嘗て曰、生きては里居を同し、死しては谷葬を同じうせむと。土人呼んで賢石魯となす。而て別に昭祖を勇石魯となす。嘗て昭祖を佐けて武を背嶺白山に耀やす。又與に對東水人の二女長遠回、幼澤養を掠め、昭祖賢石魯と各一を納れて妾となす。景祖の時皇族來り歸す。

クワンガンソウ 完顔琮 (金) 本名承慶。允恭の子にして世祖の孫たり。克華に封せらる。人と爲り機觀豊偉にして、機警清辨、性寬厚學を好む。財を輕し施を好み、人の過を聞くを喜ばず。騎射繪塑の藝に至るまで皆精妙に至る。章宗の時郡王に封せらる。

クワンガンソウイウ 完顔宗雄 (金) 康宗の長子。謀長虎といふ。始め生れしとき世祖其の風骨の非常なるを見、他日必ず國器たるを知る。因て佩刀を解き其の側に置き、成人を俟つて之を佩びしむ。既に長じて風表奇偉、談辯を善くし、智畧多く、孝敬謙謹、人之を愛敬す。材武驍捷強を挽き遠を

射ること幾ど三百歩。太祖に勸めて遠を伐たしむ。戦て功あり、功を論じて世襲を授けらる。克出河店の役、鋒を推き力戦す。遼魯古城の戦、右軍に將として身士卒に先づ。遼の兵已に却き、復左軍を助けて繞て其後に出て之を撃つ。遼の衆大に潰ゆ。追撃して乙呂白石に至て還る。上其背を撫じ、賜ふに御服を以てして曰く、朕此子あり、何事か濟らざらんと。遼主七十万の衆を率ゐて至るに及び、諸將皆な遠巡す。宗雄曰く、遼兵衆しと雖も、將皆庸懦にして士卒懦々たり、畏るゝに足らずと。直に進て短兵を以て接し、大に遼兵を敗て還る。上其功を嘉し、賜ふに介冑戰馬寶貨奴婢を以てす。又宗翰等と耿守忠の兵を撃ち大に之を敗り、太祖に驚愕深に迎諷す。從て歸化州に至り病て卒す。年四十。太祖慟哭して曰く、此子謀畧人に過ぎ、陣に臨て勇決、其比を見る少しと。太定二年楚王に追封し、威敏と諡し太祖の廟庭に配享す。

クワンガンソウエイ 完顔宗永 (金) 衛國王幹賽の子。本名は挑撻。長身美髯、忠確勇毅。天眷の初、宗翰を誅するに預り、率遠大將軍に擢てらる。後震武軍節度使となる。

クワンガンソウカウ 完顔宗浩 (金) 漢國公奔賭の子。字は師孟。本名は老漢。諸官を歴、累功を以て左丞相に進む。宋人盟に背く。詔を奉し討征して大に兵を振る。宋人懼れて和を乞ふ。歳幣を増し、稿軍銀を備

へ、姦臣韓侂胄等の首を函にして献す。泰和七年薨す。上震悼して朝を輟む。通敏と諡す。

クワンガンソウカ 完顔宗幹 (金) 太祖の庶長子。本名は幹本。兵に將として四方を征伐して功あり。太宗位に即き政を輔く。既に遼に克ち、太宗に啓して制度を定め、服色を正し、學校を起し、選舉を設く。熙宗即位し、保傅の力あるを以て太傅に拜せられ、三省事を領す。天眷二年太師に進み、梁宋國王に封じ、殊禮を賜ふ。皇統元年薨す。次子海陵、篡立して廟を德宗と號す。後に帝號を削り、封じて皇伯太師遼王と爲し、忠烈と諡す。

クワンガンソウカン 完顔宗翰 (金) 金源郡王撒改の子。本名粘沒喝、漢語訛して粘罕となす。年十七軍中其の勇に服す。前後の議論多く太祖の意を合す。天輔五年從て遼を伐て大に功あり。十一月上言すらく、諸軍久しく駐り人々自ら奮を思ひ、馬も亦壯健なり、宜しく此時に乗じて進んで中京を取らべしと。群臣多く其不可を言ふ。太祖宗翰の言を是として遂に中原に克つ。太宗の時、夏國を經略す。夏人率表して藩と稱す。上其功を嘉して良馬十匹を賜ふ。又宋の約に背くに因て之を伐たんと乞ふ。以て左副元帥と爲し、太原路を進發せしむ。行々宋の諸城を降し、勢破竹の如し。天會四年十一月遂に汴を圍み、宋主を擒にす。翌年四月、宋の二主、并に宗族四百七十餘人、

及寶物圖書を以て凱旋す。七月功を以て鐵券を賜ひ、反逆を除くの外、餘は皆問はざらしむ。資與優厚なり。拜して國論右勃極烈と爲し都元帥を兼ね。熙宗即位し、太保尙書令を加へ、三省事を領せしめ、晉國王に封ず。天會十四年七月薨す。年五十八。後秦王を賜り、桓忠と諡し、太祖の廟に配享す。宋翰生平内能く國を謀り、外能く敵を謀り、策を決し勝を制する、古名將の風あり。

クワンガンソウキヤウ 完顔宗強 (金) 本名阿魯。太祖の子。天眷三年燕京留守となり、衛王に封ぜらる。太師に至る。皇統二年薨す。朝を輟むること七日。

クワンガンソウケン 完顔宗賢 (金) 金の内族。本名を賽里といふ。戦功を以て世襲謀克を授けらる。皇統八年太保左丞相に進む。尋て太師となり三省事を領し都元帥を兼ね。海陵、熙宗を弑し、詐て賽里を召して之を殺す。

郡王烏野の子。字は實甫。本名厮里忽。經史を涉獵し、契丹大小字に通じ、騎射を善くす。平陽尹昭義軍節度使を歴し廣平郡王に封ぜらる。嘗て歩騎三千を率ゐ、宋將岳飛の衝要を扼し、其軍を毫宿の間に破る。正隆二年卒す。年四十二。

クワンガンソウシユン 完顔宗簡 (金) 太祖の子。本名訛魯觀。左丞相、開府儀同三司兼侍中を歴、尙國王に封ぜらる。朋黨を交結するに坐し宗翰の爲に殺さる。

クワンガンソウシユン 完顔宗峻 (金) 名は繩果。太祖の嫡子。熙宗の父。征戰に從て功あり。太祖崩つて宗幹と宗室群臣を率ゐて太宗を立て。天會二年薨す。熙宗立てて景宣皇帝と諡し、廟を殺宗と號す。

クワンガンソウジヨ 完顔宗叙 (金) 晉王蘭母の子。本名德壽。奇偉にして大志あり、喜んで兵を講ず。屢々戰功あり河南路統軍使さなる。天德十一年詔を奉じて巡邊し軍に至り將に戰はむとして疾あり。朝政の得失及び邊防の利害を遺表して薨す。年四十六。上傷悼して朝を輟む。

クワンガンソウダウ 完顔宗道 (金) 隋國公阿高合漣の孫。本名八十。周易孟子に通じ騎射を善くす。嘗て河中府に知さなり惠政あり。民、儀を厚觀に立て時を以て之を祭る。卒して龍虎衛上將軍を贈る。

クワンガンソウウイ 完顔宗寧 (金) 隋國公阿高合漣の孫。本名阿土古。性醇厚にして明敏大志あり。世宗嘗ていふ、宗寧智慮

淺しと雖も、至る所人皆之を愛すと。即ち命じて行軍古翼都統と爲す。後に平章政事に拜せらる。明昌二年薨す。人さなり儉約寒素を好み事に臨んで苟くもせず。其の隣漢を鎮するや隣國警あり民糧に乏しきを聞知し、令して牛を以て粟に易ふ。敵食有るを知て連れ去る。後高幹の亂、邊民復た牛無きに苦しむ。仍て粟を入れしめ牛に易ふ。既にして民牛を得て倉粟蓄に倍す。

クワンガンソウバウ 完顔宗望 (金) 本名幹離不。太祖の第二子。征伐に從ふ毎に、常に左右に在り。遼を滅して大功あり。遼の宗室及び傳國の璽を得。太宗の時、又宋を伐ち大に之を破る。大定三年宋王に追封し、桓肅と諡す。

クワンガンソウパン 完顔宗磐 (金) 本名蒲魯虎。太宗の子。熙宗の時、太師に進み宗翰と並んで領三省事たり。宗翰没後日に益々跋扈し、恣驕不遜なり。後誅に伏す。

クワンガンソウヒツ 完顔宗弼 (金) 太祖の第四子。本名幹曷。金語に兀朮に作る。兄宗望と同じく軍に在り。嘗て百騎を率ゐ馳せて遼兵を撃ち之を敗る。矢盡き、敵の槍を奪ひ、獨り八人を殺す。從て遼を伐ち、又宋を伐て功あり。諸官を歴し皇統三年太師となり三省事となり越國王に封ぜらる。八年薨す。世宗嘗て言へり、宗弼の後惟だ宗弼一人のみと。宗翰死せしより、宗磐、宗弼、撻懶、富貴に湛溺し、人々自ら爲すの志あり。宗幹獨立して之を如何とす

クワンガンソウビン 完顔宗敏 (金) 太祖の子。本名阿魯補。曹國王に封ぜらる。海陵、熙宗を弑するに及び、其屬尊く且材勇なるを畏れ、擧げて之を殺す。天德三年太師に追封す。

クワンガンソウホ 完顔宗輔 (金) 本名は訛里朶。太祖の次子。生れて魁偉尊嚴望む者畏懼す。性復寬恕施惠を好み誠實を尚ぶ。常に帷幄に居り、諸子皆戎旅を總ぶ。左副元帥たり。天會十三年臨州に行次して薨す。年四十。其子を世宗と爲す。追尊して睿宗と號す。

クワンガンソウベン 完顔宗本 (金) 本名阿里罕。賽也の子。平章政事に拜し、代國公に封ぜられ、太子太傅を兼ね。世宗嘗て宰臣に謂はく、宗尹、家を治むること嚴密他人及ばずと。

クワンガンソウラン 完顔宗蘭 (金) 一名翼。字は伯揚。至寧元年策論進士。監察御史となる。宣宗の南遷せんとするや、素關上書して切諫す。又進見して高琪の姦を言ふ。未だ幾ならずして内侍厨直長に擢てらる。進言する毎に補益する所多し。尋て諫議大夫より侍御史に進む。金安軍節度使に累遷す。道にして害に遇ふ。素關官に居て苛細にして大事に任ずるに堪へずと雖も、修謹を以て時の重名を得たりといふ。

クワンガンソウケン 完顔宗賢 (金) 金の内族。本名を賽里といふ。戦功を以て世襲謀克を授けらる。皇統八年太保左丞相に進む。尋て太師となり三省事を領し都元帥を兼ね。海陵、熙宗を弑し、詐て賽里を召して之を殺す。

クワンガンソウキヤウ 完顔宗強 (金) 本名阿魯。太祖の子。天眷三年燕京留守となり、衛王に封ぜらる。太師に至る。皇統二年薨す。朝を輟むること七日。

クワンガンソウケン 完顔宗賢 (金) 金の内族。本名を賽里といふ。戦功を以て世襲謀克を授けらる。皇統八年太保左丞相に進む。尋て太師となり三省事を領し都元帥を兼ね。海陵、熙宗を弑し、詐て賽里を召して之を殺す。

クワンガンソウケン 完顔宗賢 (金) 金の内族。本名を賽里といふ。戦功を以て世襲謀克を授けらる。皇統八年太保左丞相に進む。尋て太師となり三省事を領し都元帥を兼ね。海陵、熙宗を弑し、詐て賽里を召して之を殺す。

クワンガンタウ 完顔瑋 (金)字は仲實。一字は子瑜。樛軒と號す。永巧の子。博學秀才。詩を善くし書に工なり。又喜んで墨竹を寫す。規格頗る自然に近し。

クワンガンタウ 完顔瑋 (金)本姓は程。名は瑋。何郡の人たるを知らず。智勇人に過ぎ、心を忠孝に存す。私財を以て壯士を募り、山西を恢復するの志有り。詔して國姓を賜ひ、昭勇大將軍同知西京留守と爲す。興定二年瑋、軍を平定の石仁寨に寓す。本州提控關德用、素より桀驁にして姦謀を蓄ふ。所部を率ゐて瑋を掩殺す。

クワンガンタウ 完顔瑋 (金)種宗の子。後名を昌と改む。行臺左丞相となる。宗翰既にして人の制するなし。驕肆不法、翼王鶴懶と謀る所あり。方に詔を下して誅を加へむとす。撻懶南走して將に宋に入らむとし、邠州に至りて殺さる。

クワンガンタウ 完顔瑋 (金)金の宗室。年十六太祖に事へ未だ嘗て左右を去らず。出河店の役、太祖親戦せんと欲す。其馬を控へて之を止め、槍を挺して手づから七人を殺す。已にして槍折る。復騎士九人を曳きて馬より下す。太祖之を壯として曰く、誠に此輩數十を得ば萬衆と雖も當る能はずと。其後歴戦皆功あり。海陵、太祖の陵を大房山に營みしとき、命じて石像を作り陵前に置く。

尙書右丞兼樞密副使に拜せらる。國亡び汝水に赴きて死す。仲德平生喜怒未だ嘗て妄に發せず、人の過を聞けば常に之を諷諫す。軍旅に在りと雖も手に巻を釋せず。門生故吏には毎に名分を以て之を教ふ。人材を擧ぐるに、凡る寸長あれば口を極めて稱道す。賞罰明信、號令嚴整なり。

クワンガンテイカ 完顔瑋 (金)本姓は李。名は二措。中都寶塔の人。騎射を善くす。財を輕んじ施を好み、鄉曲の譽を得。宣宗の時軍功を以て諸官を歴、安撫使歸德府同知と爲る。元光二年卒す。

クワンガンテイカ 完顔瑋 (金)吾都補の子。海陵宋を伐つ、浙東道副制となり、蘇保衛と舟師を以て海道より臨安に趨く。途に敵に燒かれ水に赴いて死す。

クワンガンテイカ 完顔瑋 (金)元奴の弟。諸官を歴、刑部尙書參知政事となる興定三年卒す。

クワンガンテイカ 完顔瑋 (金)石土門の弟。名は忠、字は阿思魁。太祖之を器重す。宗翰、宗幹、希尹と相從へて其の家を過ぎ、肩を馮りて語つて曰く、此の來る徒然に非ず將に汝に謀ること有らむとす、我が爲に之を決せよ、遂は名、大國たりと諡す。

クワンガンテイカ 完顔瑋 (金)性淳直、體貌雄偉。粗狂書に通ず。父の職を襲き廣威將軍を授けらる。下を制する惠愛なり。貞祐二年東北路招討使兼德昌軍節度使に遷る。蒲鮮萬奴其兵の強きを忌み、牒して所部の騎兵二千を取る。鐵哥其異志あるを察して遣らず。爲に隔られ獄に死す。勇毅と諡す。

クワンガンテイカ 完顔瑋 (金)字は正甫。素蘭の弟。策論進士と登る。正大四年吏部尙書に遷り、參知政事に拜せらる。天興元年、元兵汴に至る。哀宗親出で、之を拒き、軍利あらずして歸德に走る。奴申、阿不と汴を守る。内外通せず、民心恟々たり。崔立等遂に亂を作して二人を殺す。

クワンガンハウ 完顔方 (金)金の宗室。阿爾補の子。京兆少尹に果官し、陝西路統軍都監に遷る。職に在りて功無し、専ら財賄を事とし軍旅を恤まず。元帥右都監に遷り、左監軍に轉じ、順天軍節度使に改め、西南路招討使に除せらる。罪に坐して耀州刺史に降り、後樞密院使に遷り、入て同簽大宗正簽書樞密院事となる。

クワンガンハウ 完顔伯嘉 (金)蕭王の後裔。汴京破れて、崔立變を起す。伯嘉妻温特罕氏と與に一繩を以て縊る。

クワンガンハウ 完顔伯嘉 (金)字は補之。北京路の人。明昌二年登第。中都左警巡判官に調せらる。治獄、權貴を避けず。大安中三遷して西京留守同知と爲り、貞祐の初、翼武軍兼宣撫副使と爲る。西京副統完顔派を朝に勤む。元光二年徒て集慶軍を節度し、陝西の精銳を率ゐて河東を恢復せんとす。疾て卒す。伯嘉純直にして時を低昂する能はず。嘗て曰く、生れて男子と爲る、當に國を益し民を澤すべし、其他は學ぶべからざるなりと。

クワンガンハウ 完顔白徹 (金)後に名を承裔と改む。末帝承麟の兄。貞祐間、臨洮知府兼本路兵馬總管元帥右都監と爲り、瓜黎餘族諸蕃帳を掩襲して屢々之を敗る。興定元年鳳翔行府元帥左都監に轉じ、宋を伐て互に勝敗あり。正大五年、尙書右丞に拜せらる。本と恒怯無能、性又愼貪なる。

クワンガンハウ 完顔白徹 (金)後に名を承裔と改む。末帝承麟の兄。貞祐間、臨洮知府兼本路兵馬總管元帥右都監と爲り、瓜黎餘族諸蕃帳を掩襲して屢々之を敗る。興定元年鳳翔行府元帥左都監に轉じ、宋を伐て互に勝敗あり。正大五年、尙書右丞に拜せらる。本と恒怯無能、性又愼貪なる。

クワンガンハウ 完顔白徹 (金)後に名を承裔と改む。末帝承麟の兄。貞祐間、臨洮知府兼本路兵馬總管元帥右都監と爲り、瓜黎餘族諸蕃帳を掩襲して屢々之を敗る。興定元年鳳翔行府元帥左都監に轉じ、宋を伐て互に勝敗あり。正大五年、尙書右丞に拜せらる。本と恒怯無能、性又愼貪なる。

クワンガンハウ 完顔白徹 (金)後に名を承裔と改む。末帝承麟の兄。貞祐間、臨洮知府兼本路兵馬總管元帥右都監と爲り、瓜黎餘族諸蕃帳を掩襲して屢々之を敗る。興定元年鳳翔行府元帥左都監に轉じ、宋を伐て互に勝敗あり。正大五年、尙書右丞に拜せらる。本と恒怯無能、性又愼貪なる。

クワンガンハウ 完顔白徹 (金)後に名を承裔と改む。末帝承麟の兄。貞祐間、臨洮知府兼本路兵馬總管元帥右都監と爲り、瓜黎餘族諸蕃帳を掩襲して屢々之を敗る。興定元年鳳翔行府元帥左都監に轉じ、宋を伐て互に勝敗あり。正大五年、尙書右丞に拜せらる。本と恒怯無能、性又愼貪なる。

クワンガンハウ 完顔白徹 (金)後に名を承裔と改む。末帝承麟の兄。貞祐間、臨洮知府兼本路兵馬總管元帥右都監と爲り、瓜黎餘族諸蕃帳を掩襲して屢々之を敗る。興定元年鳳翔行府元帥左都監に轉じ、宋を伐て互に勝敗あり。正大五年、尙書右丞に拜せらる。本と恒怯無能、性又愼貪なる。

クワンガンハウ 完顔白徹 (金)後に名を承裔と改む。末帝承麟の兄。貞祐間、臨洮知府兼本路兵馬總管元帥右都監と爲り、瓜黎餘族諸蕃帳を掩襲して屢々之を敗る。興定元年鳳翔行府元帥左都監に轉じ、宋を伐て互に勝敗あり。正大五年、尙書右丞に拜せらる。本と恒怯無能、性又愼貪なる。

クワンガンハウ 完顔白徹 (金)後に名を承裔と改む。末帝承麟の兄。貞祐間、臨洮知府兼本路兵馬總管元帥右都監と爲り、瓜黎餘族諸蕃帳を掩襲して屢々之を敗る。興定元年鳳翔行府元帥左都監に轉じ、宋を伐て互に勝敗あり。正大五年、尙書右丞に拜せらる。本と恒怯無能、性又愼貪なる。

クワンガンハウ 完顔白徹 (金)後に名を承裔と改む。末帝承麟の兄。貞祐間、臨洮知府兼本路兵馬總管元帥右都監と爲り、瓜黎餘族諸蕃帳を掩襲して屢々之を敗る。興定元年鳳翔行府元帥左都監に轉じ、宋を伐て互に勝敗あり。正大五年、尙書右丞に拜せらる。本と恒怯無能、性又愼貪なる。

クワンガ

郡王襄室の子。勇力人に過ぎ、善く長矛を用ひて突戦す。功を以て榮國公に封ぜらる。人となり性忠厚、擊射獵を善くす。時論以て智略其父に及ばずと雖も而も勇武之有たりとなす。大定十一年薨す。

クワンガンボウエン 完顔謀漢 (金) 歙郡の次子。當阿性阿の驍、歙郡に代り兄谷神と與に質となる。後宗峻と與に太祖に侍す。特に眷顧を加へらる。宗峻嘗て其の上を坐す。命じて下に移り居らしむ。天輔五年卒す。太子少傅を贈らる。

クワンガンホウ 完顔蒲查 (金) 治河の孫。人となり性廉潔忠直、事に臨んで能く斷す。凡そ任使せらるるに稱はざるはなし。遼速路兵馬都總管西北路招討使と爲る。

クワンガンボツレツ 完顔沒烈 (金) 名を惟鏞といふ。慶都本の子。字は子鏞。駢骨多力、喜んで人に周給す。邳州經略使となる。

クワンガンホント 完顔奔踏 (金) 名を昂。景祖の弟字昂の孫斜幹の子。年十五、太祖に侍す。會ま敷人をして角力せしむ。之を顧みて曰く、汝此を能くする乎と。對へて曰く、命あらば敢て勉めざらむと。遂に連りに六人を仆す。漢國公に封じ、都元帥に拜せらる。薨する年六十四。上朝を暇め其に隨む。素より兄弟に親睦し、尤も善く施す。親族貧困なる者あるに遇へば必ず厚く之に給す。

クワンガンボンナフ 完顔盆納 (金) 始祖

クワンガ

の孫安帝の子謝香保が子。拔達、歙郡、治河、勅者と五人、世祖を佐けて功あり。盆納を推して首となす。時に國歩艱難。五人の者、入ては謀議に預り、出ては行陣に隨み、未だ嘗て左右を離れず、勳勞最も著はる。盆納勇毅にして射を善くす。時に名を同じうする者二あり。別つて惡盆納といふ。天會十五年開府儀同三司を追贈す。明昌五年、五人同じく世祖の朝廷に配葬す。

クワンガンマキツ 完顔麻吉 (金) 金源郡玉鎮尤可の弟。年十五軍中に隸す。凡そ大小三十餘戰を経、至る所皆捷つ。遠と高州境上に戰つて伏矢目に中り遂に卒す。殺敵と爲す。

クワンガンマントカ 完顔護都訶 (金) 景祖の子。天會二年阿捨勃極烈となり國政に參議す。明年薨す。鄭國公に追封し定濟と爲す。

クワンガンマントホン 完顔護都本 (金) 虞國公麻順の子。孝友恭謹。多謀にして善く戰ふ。太祖の時、與中府を攻め流矢に中りて卒す。年三十七。英毅と爲す。

クワンガロウシツ 完顔襄室 (金) 字は幹里行。父白答、完顔部七水諸部長たり。襄室、太祖に従て歴戰功あり。宗輔云く、

クワンガ

其王事に力拘する、古名將と雖ども何を以てか之に及ばんと。天會八年薨す。莊義と爲す。金源郡王に封じ、太宗の廟に配享す。

クワンガンロウシツ 完顔襄室 (金) 同時に三あり各長幼を以て別つ。大襄室、遼揚都尉と爲り、正大八年元兵と戰つて死す。中襄室、小襄室、共に領軍元帥と爲る。哀宗の時、皆宋人と戰て死す。

クワンガンロウキン 完顔六斤 (金) 中都路胡土愛割蠻猛安人。保大軍節度使となる。興定五年鄭州破る。自ら崖下に投じて死す。

クワンガンワイカ 完顔隈可 (金) 字は優鳴。康宗の子。驍勇美に、勇健にして才畧あり。大定元年宋國公に封ぜられ、勳農使となり官に卒す。

クワンガンキヨウ 完顔允恭 (金) 本名は胡士瓦。世宗の嫡子。母は烏林答氏。體貌雄偉、孝友謹厚。大定二年名を允迪と賜ひ立て皇太子となる。二十五年卒す。

クワンキウ 貫休 (唐) 高僧。字は德隱。姜氏。金華蘭溪の人。七歳にして剃染す。後豫章に往きて法華起信を研究し、其義に達す。休、畫を善くす。又詩を善くす。禪月集あり。蜀の玉氏、禪月大師と號す。

クワンキウシ 關九思 (明) 字は虛白。烏程の人。畫を善くす。

クワンキフ 管及 (宋) 全州の人。崇寧用申、黃山谷宜州に請せらる。凡そ平日の親知皆迹を絶つ。及、宜州理曹と爲り、權勢を避けず、山谷と交遊甚密なり。山谷、折桂

の二大字を書して之に貽り、且謂て曰く、君が家、慶を積む、後必進士科に登る者有らんと。後果して驗あり。

クワンクワン 桓寬 (漢) 字は次公。汝南の人。公羊春秋を治む。宣帝の時、擧げて郎となす。廬江太守に累官す。博通文を能くし、鹽鐵論十六篇を著す。

クワンケイ 桓景 (漢) 費長房に隨ひて學ぶ。長房、景に謂て曰く、汝が家九月九日當に災あるべし、速に家人をして各々絳紗囊を作り茱萸を盛りて臂に繫げ、高きに登りて菊酒を飲ましめよ、以て此災を消す可しと。景、言の如くす。舉家囊を繫げ高きに登りて酒を飲む。夕に及んで家に還る。大雞牛羊皆暴死す。房曰く、之に代れりと。

クワンケイジン 關景仁 (宋) 魯の子。字は彦長。性多能にして、鐘律曆數草隸圖書學ばざる所なし。尤も詩に長す。治平五年、進士を以て豐縣に知たり。嘗て兗寧亭を改作して宴游の處と爲す。詩の其事を詠するものあり。子四人、海、淳、演、注、皆進士に擧げらる。

クワンケイワウ 桓惠王 (周) 諱の君。姬姓。釐王の子。立て三十四年卒す。

クワンケン 灌賢 (漢) 武帝の時臨汝侯に封ぜらる。

クワンゲン 桓玄 (晉) 字は敬道。一名獻實。大司馬溫の孽子。形貌瑰奇、風神疎朗。善く藝術を綜べ、善く文を屬す。常に其才地を負み、雄姿を以て自ら處り。太元の

末、出て義興太守に輔せらる。嘗々志を得ず、歎じて曰く、父爲九州伯、兒爲五湖長と。官を棄て、國に歸る。後江州刺史となり尋て荆江等八州軍事を督す。江陵に據て兵を擧げ、建康に入る。安帝、玄を以て相國と爲し楚王に封じ九錫を加ふ。已にして帝を迫り位を譲らしむ。劉裕兵を起して玄を討す。玄走り首を江陵に斬らる。

クワンゲンハン 桓彦範 (唐) 字は士則。丹陽の人。武后の末、中丞となる。長東之等と謀りて中宗を復す。策を定むる功を以て侍中に擢てられ、譙郡公に封せらる。時に帝、後宮に惑ふ。彦範、書を上りて諫む。帝省みず。未だ幾くならずして政事を罷め、扶陽郡王に封せらる。武三思、爲めに誣ひられて瀧州の司馬に貶せらる。復た人を遣して制を矯めて之を殺す。睿宗位に即きて官爵を追復し、忠烈と爲す。

クワンコウ 桓公 (周) 秦の君。嬴姓。桓公の子。立て二十七年にして卒す。

クワンコウ 桓公 (周) 齊の君。媯姓。田氏。名年。太公の子。立て六年にして薨す。

クワンコウ 桓公 (周) 燕の君。姬姓。釐公に嗣ぐ。立て十一年にして卒す。

クワンコウ 桓公 (周) 燕の君。姬姓。襄公に嗣ぐ。國を享くること十六年。

クワンコウ 桓公 (周) 齊の君。姜姓。呂氏。名小白。襄公の弟。襄公淫虐なり。群弟、襄公の及ばんとを恐る。公子糾管に奔る管仲、召忽之に傳たり。小白宮に奔る鮑叔之に傳

たり。小白固より大夫高孫に善し。齊君無知殺さるるに及び高孫先づ陰に小白を召ぶ。管も亦兵を發して公子糾を送る。而して管仲をして別に兵に將として莒の道を遮らしめ射て小白が帶鈞に中つ。小白伴り死す。管仲人をして馳せて魯に報せしむ。魯の糾を送る者行くこと益速し。而して小白既に魯に入る。之を桓公と爲す。兵を發して魯と戰ふ。公子糾死し召忽自殺す。鮑叔牙桓公に謂て曰く君將に魯を治めんせば即ち高孫と叔牙にて足りなん、君稱王たらんさ欲せば管仲に非ざれば不可なりと。桓公乃ち管仲を迎へて大夫と爲し政を任す。鮑叔、隰朋、高孫と國政を修む。五家の兵を連れ輕重魚鹽の利を設けて以て貧窮を贖し賢能を録す。齊人皆悦ぶ。桓公南伐して召陵に至り、北は山戎、離枝、孤竹を伐ち、西は大夏を伐て流沙を渉る。兵車の會三たび、乘車の會六たび、九たび諸侯を合せ、一たび天下を匡す。周の天子伯を致す。五霸の首たり。國を享くること四十三年。

クワンコウ 桓公 (周) 魯の君。姬姓。名九。惠公の子。公妻を齊に娶り夫人と共に齊に如く。齊の襄公之に通す。公夫人を怒る。夫人以て齊侯に告ぐ。齊公魯公を襲す。魯公醉ふ。公子彭生をして魯公を抱き車に上らしめ因て其脅を挫ぎ之を殺す。國を享くること十六年。

クワンコウ 桓公 (周) 鄭の君。姬姓。名友。周厲王の少子にして宣王の庶弟なり。

クワンコウ 桓公 (周) 鄭の君。姬姓。名友。周厲王の少子にして宣王の庶弟なり。



宣王の時、鄭に封せらる。封せられて三十歳百姓皆之を愛す。幽王以て司徒と爲す。周の民を和集す。周の民皆悦ぶ。河洛の間、人々に懐く。司徒たること一歳、幽王褒后の故を以て政に邪多く、諸侯或は之に畔く。是に於て桓公太史伯に問ふ。王室多故なり。予安にか死を逃れんや。對て曰く。洛の東土、河濟の南に居るべし。其地饒。近し。饒の君、食にして利を好み。百姓附かず。今公司徒と爲り。民皆公を愛す。公誠に謂て之に居らば。饒の君、公の方き。事をを用るを見て。輕しく公に地を分たんと。公曰。善し。是に於て王に言ひ。東其民を洛東に徙す。饒果して十邑を獻す。二歳にして。大戎幽王を殺す。桓公之に死す。鄭の後。戰國に至り。韓哀侯の爲に滅さる。

**クワンコウ** 桓侯 (周) 燕の君。姫姓。宣侯の子。國を享くること七年。

**クワンコウ** 貫公 (漢) 趙人。賈誼に從て。春秋左傳を受け、河間獻王の博士たり。子長卿は毛公に從て詩を受け、仕へて陰陽令たり。

**クワンコウ** 關興 (三國) 羽の子。龍驤將軍となる。

**クワンサイ** 環濟 (漢) 博士。要畧十卷を撰す。

**クワンシ** 關氏 (唐) 南楚の人。關の妹也。甚聰慧にして文學書札人を動かさざるなし。後常修に嫁す。關氏修と書を讀むと二

十年。才學優博、流輩に超絶す。

**クワンシウ** 管修 (周) 楚の賢大夫。管仲之後。

**クワンジウ** 觀從 (周) 楚人。字は子玉。觀起の子。公子比等を佐けて靈王を殺す。平王即位するに及び、族夷せらる。

**クワンジン** 管師仁 (宋) 字は元善。龍泉の人。崇寧中の進士。龍昌軍を知して善政あり。樞密直學士に累官し、定州に知たり。時に邊備整はず、速に敵使再び至る。師仁預じめ備を設け、一日にして衆十萬を擧げ、轉附して成るの計度成す。日に賓客と燕集して以て閑暇を示す。召されて吏部尚書を爲る。同知樞密院事に終る。

**クワンシフク** 管師復 (宋) 龍泉の人。弟師嘗と俱に盛名あり。胡瑗に從て遊ぶ。師復詩を善くす。自ら臥雲先生と號す。仁宗召し至り問て曰く。卿得る所何如。對て曰く。滿場白雲耕不盡、一潭明月釣無痕、臣の得る所也と。爵命を受けず。

**クワンシホ** 管至父 (周) 齊人。連稱と共に無知の逆を助けて其君を弑す。

**クワンシン** 管辰 (唐) 管輅の傳三卷を撰ぶ。

**クワンシヤト** 完者都 (元) 欽察の人。廣類彙編、髯長く腹に過ぎ、驍勇にして善を樂む。世祖に從ひ鄂州を攻て功あり。又賊黃華を伐て之を降す。明日諸軍大獵す。華等之を觀る、適々一鳴あり空中に翔る。完者都之を射るに鳴弦に應じて墜つ。華大に

懼服す。江西樞密院副使に遷る。官に卒す。大徳の初、林國公に追封し、武宣と諡す。

**クワンシユク** 管叔 (周) 姫姓。名鮮。周文王の子にして武王の弟なり。武王の同母兄弟十人。母を太姒といふ。文王の正妃なり。其長子を伯邑考といひ、次を武王發といひ、次を管叔鮮といひ、次を周公旦といひ、次を蔡叔度といひ、次を曹叔振鐸といひ、次を成叔武といひ、次を霍叔處といひ、次を康叔封といひ、次を冉季載といひ。唯發と旦と賢にして左右して文王を輔く。故に文王伯邑考を捨て、發を以て太子を爲す。伯邑考を卒す。武王已に殷に克て叔鮮を管に封じ、叔度を蔡に封ず。二人が子武庚祿父を相けて殷の遺民を治せしむ。武王崩じて周公王室を専らにす。管叔蔡叔、周公の成王に利あらざるを疑ひ乃ち武庚を挾て亂を作す。周公之を伐ち武庚を誅し管叔を殺して蔡叔を放つ。之に車十乘徒七十人を與ふ。蔡叔遷されて死す。

**クワンシヨウヂヤウ** 官勝娘 (元) 建寧の人。虎あり夫を攫み去らむとす。勝娘棍を奮ひ之を連撃す。虎去る。夫を負つて歸る。中途にして夫死す。

**クワンジヨトク** 管如徳 (元) 黃州黃陂の人。江西左丞に累遷す。廣東の鍾明亮叛く。四省の兵を統へて之を討しむ。如徳往き諭すに禍福を以てす。明亮即ち降る。軍に卒す。平昌郡公を贈り、武襄と諡す。

**クワンセイメイ** 管世銘 (清) 字は緘若。

驪山と號す。武進の人。乾隆戊戌の進士。御史に官し直聲あり。詩古文に精しく、尤も經術に深し。特に詩文の爲に掩はるゝのみ。著に驪山堂詩文集あり、盛に世に行はる。

**クワンセウ** 關沼 (宋) 字は淵聖。杭人。元祐三年の進士に登る。羅士孔夷、嘗て贈淵聖學士詩あり、云く。吳越聲飛二十年、編衣空復嘆遺編、紫芝眉宇風塵外、太白文章錦繡前、可與石渠方載筆、未應水國欲歸田、他時雲裏相逢處、誰能騎驢孟浩然。孔夷、字は方平、滄阜先生と號す。劉放韓維の長友なり。其の沼を稱すること此の如くなれば則ち沼の才望して之を知るべし。

**クワンセキゲン** 桓石虔 (晉) 冲の姪。豁の子。字は鎮惡。才幹あり、趙捷絶倫。父に從て獵す、園中猛虎の箭を被りて伏するを見る。諸將素より其勇を知る。戯れに箭を抜かしむ。虔往きて之を抜き一箭を得たり。猛虎跳れば虔も亦跳ること虎よりも高し。猛虎伏す。虔復た一箭を抜き以て歸る。桓温に從て關に入る。威敵人を鎮す。冲、符健に圍まる。石虔馬を躍らして之に赴き、冲を數萬衆の中より抜きて還る。敢て抗するものなし。時に瘡を病む者あり。石虔來るといひ以て之を怖らせば多く愈ゆるを獲。豫州刺史となり、謝元と兵を率ゐて中原を經畧す。

**クワンセキシウ** 桓石秀 (晉) 冲の姪。豁の子。幼にして令名あり。風韻秀徹、博く

群書に涉り、尤も老莊に善し。常に一室に獨處し、應接に簡なり。四陽太守に任ず。性放曠、發背を以て其心に櫻けず。騎射を善くし、發すれば則ち命中す。

**クワンソ** 莞蘇 (周) 共王疾あり。令尹を召して曰く。莞蘇、常に我に忠する道を以てし、我を正すに義を以てす、我之と處りて安からず、見ざるも思はず、然れども吾を得るあるなり、申侯は吾が樂む所の者は之を爲し、好む所の者は吾に先ちて之を服す。吾之と處るこきは常に樂むなり、必ず亟に之を遣れ。令尹曰く。諾。明日王薨す。令尹、申侯を逐ひ、莞蘇を拜して上卿となす。

**クワンソウセイ** 管宗聖 (清) 字は體標。餘姚の人。孝友忠亮、強氣自克。言動必ず禮に準す。鄉人之に化す。孫景烈、嘗て從て聖學を請す。喟然嘆じて曰く。向きに嚆んで左國漢漢百家の書を讀む、先生我が爲めに洗ひ盡す。

**クワンソウセキ** 冠崇爽 (南北) 騎冠子の後といふ。本草衍義十卷を著す。

**クワンダウシヨウ** 管道昇 (元) 字は仲姬。趙孟頫の妻。延祐四年魏國夫人に封せらる。翰墨詞章學ばずして能くす。佛法を信じて金剛經を手書し數十卷に至る。亦蠶竹を作る筆意清絶なり。

**クワンタク** 完澤 (元) 土別燕氏。祖土薛太祖に從て朔方に起り都元帥に拜せられ、父練眞中書石丞に拜せらる。完澤小心慎密。初め大臣の子たるを以て選ばれて皇太子燕

王府僚屬と爲る。後尙書省右丞相に拜せらる。卒して興元王に追封し、忠獻と諡す。

**クワンタン** 桓譚 (漢) 字は君山。沛國相の人。父、成帝の時、太樂令たり。譚、父の任を以て郎となる。因りて音樂を好み、編く五經を習ひ、文章を能くし、尤も古學を好む。光武、即位し、譚郎に拜す。上疏して時政を陳す。帝、譚を以て疑を決せん。帝怒る。出で、六安郡丞となる。譚、書二十九篇を著し、當世の行事を言ふ。新論と號す。又賦詠書奏あり。

**クワンダン** 桓敏 (金) 國相雅達の長子。初め景祖に服事す。後世祖肅宗と酒を被り、言語紛争相歐擊す。是より相反目す。遂に兵を擧へ亂を作す。幾もなく自縛して降り、誅せらる。

**クワンチウ** 管仲 (周) 管夷吾を見よ。

**クワンチウ** 桓冲 (晉) 彝の子。字は子幼。性儉朴。其妻嘗て新衣を進む。冲怒りて持ち去らんことを促す。復た之を進めて曰く。衣新を經ずんば何によりてか故を得んと。冲乃ち笑て之を服す。孝武の朝、兄淵卒す。其子熙才弱なるを以て冲をして其衆を領し、代りて江州楊豫諸軍事に都督たりしむ。冲忠を王室に盡す。符堅兵を率ゐて入寇す。冲深く根本を以て憂となし、兵を遣し入りて京師を援けしむ。後楊州刺史に除す。冲、謝安、重名あるを以て、楊州を之に譲り、自ら徐州を領す。力めて外に

出てんことを求む。桓氏の族黨、苦諫せざるなし。仲之、慮して恬然たり。卒して魯城公に封ぜられ、宣穆と諡す。子三人、嗣、修、謙、兄謙の六子、石慶、石秀、石民、石生、石綏、石慶、俱に名を知らる。クワンチウ 襄中 (唐)高僧。盧氏。蒲坂の人。法を百丈に嗣ぐ。大慈山に住す。咸通三年二月十五に示寂す。年八十三。クワンチウ 關注 (宋)字は子東。景仁の第四子。世々錢塘の人たり。紹興五年の進士に登第す。嘗て湖州に教授す。胡瑗の孫、孫と、瑗の遺書を襲めて、易解中庸義を得、之を學習に載す。又瑗の言行を録して一帙となし、汪藻、之が序を爲る。官、大學博士に至る。香巖居士と號す。關博士集二十卷あり。

クワンチンカンノツマ 關陳諫妻 (明)呂氏。族女其夫に殉するあり。諫之に及ぶ毎に感慨嘆賞す。崇禎の末、賊鄒郡に及ぶ。魚網を取り其體に結ぶ。賊至り衣を縫はしむ。呂氏賊の面を擲て曰く、手は断つ可し衣は縫ふ可からずと。賊怒て之を殺す。クワンチヤウ 灌頂 (唐)高僧。字は實靈。姓は吳氏。臨海軍安の人。七歳にして攝靜寺慧極より出家し、復智者に關して攝觀法を禀け、台宗五世を嗣ぐ。是に於て頂の名朝野に震ひ、台教益々興る。貞觀六年八月、國清寺に寂す。春秋七十二。著す所、入教大意、智者別傳各一卷、觀心論二卷、國清百錄五卷、涅槃玄義二卷、涅槃經疏二

十卷、眞觀法師傳、南岳記各一卷等なり。クワンテイ 桓帝 (漢)孝桓皇帝を見よ。クワンテン 桓典 (漢)郁の曾孫。字は公雅。孝廉に擧げられ、郎となる。靈帝の朝、侍御史に拜す。常に驄馬に乗る。宦官之を畏る。京師之が爲めに語りて曰く、行行且止、避驄馬御史と。三遷して羽林中郎將に至る。弟彬。クワンテン 官箴 (明)膠州の人。家を任子に起す。汝寧通判を以て、往て縣事を攝す。崇禎十五年春、李自成の兵大に起り、上蔡陥り、城中の民舍盡く燬く。會々左良玉、城南に駐まり、兵士恣に淫掠す。衆吏皆城に入りて築に依る。村民難に遭ひ來り懇ふ。義乃ち良玉の營に入り、責むるに大義を以てして、其掠むる所を奪ひ還す。冬汝寧陥る。賊黨賀一龍、上蔡を掠む。築出て、之を禦ぎ、陣に陥りて死す。クワントウ 驪兜 (上古)黃帝の裔。不才子なり。舜これを放つ。クワントウ 管統 (三國)初め袁紹に従ひ東萊太守と爲る。後袁譚、更に以て樂安太守と爲す。譚敗る。諸城皆服し、統獨り樂安を守りて從はず。曹操、王修に命じて統の首を取らしむ。修、統は亡國の忠臣なるを以て、因て其服を解き、操に詣らしむ。操其忠鯁を悦び、赦して之を放つ。クワンドウ 管同 (清)字は異之。上元の姚姬傳の門に出づ。其文實するに足らず。

多し。越封没するや、時々蓄を念うて感せず。常に燕子樓に居り。一詩を作る。白樂天之に和す。時詩を得て、反覆讀んで泣いて曰く、公妾に背きてより妾死する能はざるに非ず、百世の後、人、我公を以て色を重んじ死に從ふの妾ありと爲さん恐る、是公の清範を玷くなりと。經旬食せずして死す。燕子樓詩集三百篇あり。クワンムシヤ 還無社 (周)蕭の大夫。春秋、宣公十二年冬、楚、蕭を伐つ。蕭潰ゆ。無社、司馬卯に因りて、申叔展を號び、晉井を目して之を拯ふ。クワンララ 關朗 (南北)字は子明。北魏の人。太和の末、王虬種公、晉陽に封ぜらる。朗、公府記室たり。朗に易を談す。虬曰く天下の奇才なりと。文中子に關朗あり。

クワンラン 桓鸞 (漢)字は始春。少にして操行を立つ。世濁り州郡多くは其人に非ざるを以て、耻じて肯て仕へず。太守向苗、名述あり。桓帝の時、鸞を孝廉に擧げ、膠東令とす。始めて官に到りて苗卒す。鸞即ち職を去る。喪に奔り三年を経て後歸る。人其義を高しとす。クワンリヤウシヤウ 管良相 (明)烏撒衛指揮たり。人となり奇節を負ふ。天啓の初、樊龍等四川に反す。巡撫李標召して麾下に致し、與に軍事を籌る。良相は安邦彦の必ず反せんを策り、標を佐けて固守の計を爲す。月を逾えて邦彦果して反し、其城を圍む。

クワンチイ 管寧 (漢)字は幼安。朱虛の人。鬚眉に美なり。少して華歆と席を同うし書を讀む。軒冕に乗る門を過ぐる者あり。歆書を廢して之を觀る。寧席を割き坐を分けて曰く、子は吾友に非ずと。嘗て歆と共に菜地を鋤き金に遇ふ。寧鋤を擲ひ顧みず。歆捉て之を擲つ。漢魏之際、遼東に居る二十年。孟觀、蔡邕、王基、之を薦めて曰く、寧、草蓐を含み、水澗を案にし、淵清にして景を照し光を蔽む、嘉遼浩を養ひ、金聲玉色、久しうして飄々然なり、前世未だ俗を勵ますこと寧の若き者あらざると。魏明帝安車蒲輪東帛加璧を以て聘す。寧家貧して學を好み一簞床五十年。膝に當たる處皆穿つ。卒する年八十四。子遼博士と爲る。幼安遼東に在りしとき鄰人の牛、幼安の田を暴すあり。幼安牛を牽て原處に著けて自ら飲食を與へ牛主に過ぐ。牛主牛を得て大に慚ち駭刑を犯すが若し。嘗て公孫度を見る。語唯だ經典、世事に及ばず。乃ち山に因て廬を爲り、坏を鑿りて室と爲す。海を越え難を避くる者皆之れに就き、旬月邑を成す。遂に詩書を講し、粗豆を陳れ、威儀を飾り、禮讓を明らかにす。從學者に非ざれば見ず。クワンビ 觀華 (明)觀樞の弟。亦詩書を以て名を著はす。クワンヒン 桓彬 (漢)典の弟。字は彦林。靈帝の朝、尚書郎に拜す。蔡邕と名を齊しす。邕曰く、彬人に過ぎたる者四あり、

其相固守して下らず。之を久うして外援至らず。城陥り、自ら縊れて死す。クワンリヨウホウ 關龍逢 (夏)桀を諫むるを以て死す。相傳へて今の安邑の人となす。クワンロ 管輅 (漢)瑯邪の人。公羊春秋を疏廣に受く。後仕へて御史中丞と爲る。孫寶之れを師とす。クワンロ 管輅 (三國)字は公明。平原の人。周易に明らかに、天文風角占相之術に精はし。言ふ毎に輒ち應あり。嘗て曰く吾恐らくは四十七八の間、男の婦し女の嫁するを見ずと。果して年四十八にして卒す。年十五、父に從ひて瑯邪に之く。太守單于春、輅の名を聞て會見を請ふ。時に客百餘人、皆才辯の士。輅曰く、輅年少く臆未だ然堅からず、請ふ先つ三升の清酒を飲み、然る後に談ずべしと。酒畢り太守に問ふ、今輅と對せんと欲する者は誰とか爲すと。子春曰く、吾れ自ら輅と旗鼓相當らむと。因て相與に劇談すること半日、衆能く難する莫し。子春歎じて曰く、絶はだ司馬長卿に似たりと。クワンロ 關公 (宋)進士を以て家を起し力を官に盡す。池州兩州を歴守し、尙書郎となり、年八十餘にして錢塘に歸老す。陳襄、鴻飛の詩を作りて以て之を送る。八子景葉、景元、景仁、希聲、祀、景山、景宣、景良、皆學行修立す。進士を以て同じく升る者五人、後相繼ぎて進士に第すること又

一け風智にして岐嶷なり、二は學優よして文麗、三は仕ふるに荷も疎せず、四は塵を辭して非に従ふなりと。乃ち碑を樹て、之を頌す。クワンフ 桓葵 (漢)沛人。桓鸞の女。劉長卿に嫁して一男を生む。長卿卒す。妻嫌疑を防護して肯て歸寧せず。兄亦天歿す。妻免れざるを慮り、乃ち其耳を割きて以て自誓ふ。沛相王吉、高行を上奏して其門閭を顯す。號して行義桓葵と曰ふ。クワンフ 灌夫 (漢)字は仲儒。孟の子。吳楚七國の亂に、父死せるに因て奮つて曰く、願くば吳王若くは將軍の頭を取り、以て父の仇を報いんと。遂に甲を撰ぎ戟を持して、往いて大に吳軍を破る。此れを以て名天下に聞ゆ。後淮陽の太守となり、入りて太僕となる。クワンフシ 桓夫人 (晉)書を善くす。唐人書評に曰く、桓夫人の書は快馬の陣に入るが如し、屈伸人々隨ふと。クワンブンエン 關文衍 (南北)散騎常侍たり。九華山の圖を白綾半臂に畫き、九華半臂と號す。自ら云ふ吾が此身をして常に雲泉の内を在らしむと。クワンヘイチウ 宣秉忠 (明)翰林衛の人。萬曆中、世隆を以て起つ。征戰功を奏し、總兵官に擢せらる。疾を以て歸り卒す。子撫民。クワンベンベン 關勝盼 (唐)徐州の人。節制張建封の妾也。善く歌舞を爲して風塵

クワンフシ 桓夫人 (晉)書を善くす。唐人書評に曰く、桓夫人の書は快馬の陣に入るが如し、屈伸人々隨ふと。クワンブンエン 關文衍 (南北)散騎常侍たり。九華山の圖を白綾半臂に畫き、九華半臂と號す。自ら云ふ吾が此身をして常に雲泉の内を在らしむと。クワンヘイチウ 宣秉忠 (明)翰林衛の人。萬曆中、世隆を以て起つ。征戰功を奏し、總兵官に擢せらる。疾を以て歸り卒す。子撫民。クワンベンベン 關勝盼 (唐)徐州の人。節制張建封の妾也。善く歌舞を爲して風塵

其義を高しとす。クワンリヤウシヤウ 管良相 (明)烏撒衛指揮たり。人となり奇節を負ふ。天啓の初、樊龍等四川に反す。巡撫李標召して麾下に致し、與に軍事を籌る。良相は安邦彦の必ず反せんを策り、標を佐けて固守の計を爲す。月を逾えて邦彦果して反し、其城を圍む。

クワンロ 關公 (宋)進士を以て家を起し力を官に盡す。池州兩州を歴守し、尙書郎となり、年八十餘にして錢塘に歸老す。陳襄、鴻飛の詩を作りて以て之を送る。八子景葉、景元、景仁、希聲、祀、景山、景宣、景良、皆學行修立す。進士を以て同じく升る者五人、後相繼ぎて進士に第すること又

クワンワ

三人。クワンワ 桓王 (周)第十四世。姬姓。名林。平王の孫。父洩父蚤く死す。十三年鄭を伐つ。鄭伯射て王を傷む。在位二十三年。

クワンケン 官惟賢 (明)萬曆の末、甘肅家營の守備たり。天啓中、副總兵と爲る。思宗の時、清兵と連化し戦ひ、陣陥り箭にて死す。時に崇禎二年正月九日。

クワンラン 恒温 (晋)字は元子。温嶠、啼聲を聞きて曰く、此れ眞に英物なり。長ずるに及て雄圖あり。嘗て曰く男子芳を百世に流す能はずば當に與を萬年に遺すべしと。翅翼に代り荆梁等の軍事を都督す。永和三年、漢を伐て之を取ら。十年又北伐して大に秦の師を敗る。轉戦して瀾上に至る。三輔皆來り降る。王猛、楊を披き温に隔す。其の太志なきを見て去る。温師を返へして關中又秦に復す。孝武の時卒す。

クワモ 花茂 (明)巢縣の人。初め陳楚先に従ひ、已にして太祖に歸す。累進、都指揮使に至る。嘗て請うて邊備を設く。是より盜寇至らず。之を久うして卒す。長子榮。次子英。

クワモウ 和暉 (宋)字は顯仁。峴の弟の子。至道の初、右正言に遷る。詩歌を獻じて上の旨に稱ふ。宰相に謂て曰く、文采ある和暉の如きは得べからざるなりと。制誥を知どり、詔を草する毎に片を閉ちて精思し、徧く群籍を討ねて而して後に成る。暉

クワヨウ

の弟、淳和中、文を獻じて大理評を授けらる。クワヨウフジン 華容夫人 (漢)燕刺王且の夫人也。且反跡露はれて自盡せんとする時、夫人歌うて曰く、髮鬢々兮實渠、骨籍々兮亡居、母求死子兮、妻求死夫、裴園兩渠間兮、君子將安居と。坐する者皆泣く。

クワヨク 華康 (三國)漢の華表の子。弘敏にして才思あり。黃門侍郎散騎常侍に歴官す。惠帝即位して光祿大夫に累進す。卒して元と諡す。

クワヤンセイ 華允誠 (明)字は汝立。無錫の人。天啓二年の進士。業を高舉龍に受く。崇禎中、營繕主事より職方員外郎に擢てらる。福王の時、驗封員外郎に除せられ、十餘日にして辭す。國變の後肯て難變せず、南京に斬らる。

クワランキ 華温琪 (五代)敬忠の子。本と農家なり。身長七尺、狀貌魁偉なり。後梁に事へて開道指揮使となり、累り功あり、終様二州の刺史となれり。棟州、河水患を爲すに苦しむ。温琪、新州に徙し以て之を避く。民其利に頼る。又晋齊二州に歴す。莊宗晋州を攻むるも月を踰て破る能はず。梁帝、温琪の能く守るを善みし晋州を升せて定昌軍となし、温琪を以て節度使となす。歴官して鎮國軍節度となり常侍を歴て太子太保を以て致仕す。天福元年卒す。太子太傅を贈らる。

クワヤンブン 虞九文 (宋)字は彬父。仁壽

クワイ

の人。七歳にして善く文を屬し、十歳にして詩を賦す。宋の紹興間、進士に第す。累官して中書舍人直學士院たり。金人入寇す。允文、江淮を督帥して采石の捷あり。劉錡、其手を執りて曰く、朝廷兵を委ふ二十年、今日大功備者に出づ、我輩魂死せん。孝宗の時、相に拜せられ雍國公に封せらる。卒して忠肅と諡す。出で、は將たり入りては相たる二十年に垂んとし、孜々として忠勤す。嘗て製材館を置き、四方の賢士を延く。懷袖に方冊あり、材館録と曰ふ。人の一等を聞けば必ず書す。首さして胡銜張震等二十人を薦む。一時人を得るの盛、儼然として慶曆元祐の風あり。著す所、詩義論等の集十餘卷あり。

クワイクワウコウ 敬哀皇后 (三國)蜀の後主の后。車騎將軍張飛の長女。章武元年太子妃と爲り、建興元年皇后と爲る。十五年薨す。

クワイウ 邢昺 (南北)鄭の人。少にして學あり、名を時に知らる。魏に仕へて平原の太守となり、爵承王男を賜ふ。

クワイウ 邢宥 (明)文昌の人。正統十三年の進士。右倉部御史に累遷す。之に久うして疾を移去る。

クワイウギ 刑有義 (清)太平の賊黨。徐添德等と勾結し、鞍士坪に據りて固く守り、

相呼應救援す。後敗れ崖に墮ちて死す。クワイウコウ 計有功 (宋)韓琦の幕府に居り。紹興中行在に詣り奏對し、著はす所の晉書を獻す。

クワイイ 范頌 (宋)字は公質。宋城の人。父適、石首主簿たり。仁政あり。頌、天聖中の進士。翰林學士に累官す。王曾、張知白、嘗て頌の謹厚篤學なるを見、並に其子弟と謂て曰く、若し曾の師表也と。張堯封嘗て頌に従うて文を學ぶ。後、其女韓中に入りて甚だ寵せらる。頌も求めて其父堯封の稱を繼次し、序を爲りて以て之を獻せんとす。頌、答へず。

クワイイ 桂英 (宋)山東の名妓。王魁と誓ひて他適かず。後、王魁が崔氏を娶るに及びて乃ち自殺す。

クワイイ 景英 (清)通江縣の人。嘉慶中、冉文德を首とし王家業を繼りて亂を作す。屢官兵を苦しむ。已にして誅滅せらる。

クワイエキ 邢縉 (宋)鄭の人。父億、鼎州人。因て家す。縉、隆を以て官に入り。後ち與國軍を知たり。秩滿ちて武陵に歸る。復遷居士と號す。

クワイエン 倪淵 (元)字は仲深。烏程の人。放翁公に學び禮經易數の奥を究得す。易說二十卷、圖說、序列各一卷を著す。湖州教授に官す。

クワイカ 荊軻 (周)衛人。燕太子丹、之を客とし、荆刺と稱す。之をして秦王を劫し、以て諸侯の饑饉を反さしめ、秦王若し可か

ずんば之を刺殺せしむ。軻曰く、今行きて信なくんば則ち秦未だ親むべからざる也。誠し樊於期の首、及び燕の地圖を得て秦王に奉獻せば、秦王必ず説びて臣を見ん、臣乃ち以て太子に報ゆるあらん。太子、其言の如くして之を遣す。賓客皆白衣冠して送りて易水に至る。高漸離、筑を撃つ。荆和して歌うて曰く、風蕭々兮易水寒、壯士一去兮不復還と。復た羽聲を爲す。士皆目み涙らし髪盡く冠を指す。時に白虹、日を買く。燕人これを畏る。軻、咸陽に至る。秦王之を見て大に喜ぶ。軻、圖を奉じて進む。圖、窮りては首見はる。王の袖を把りて之を撲く。刺して未だ身及ばず。王驚き起つ。袖絶つ。軻、之を逐ふ。王、劍を負ひて軻を撃ち、其左股を斷つ。遂に解體して以て殉ふ。

クワイカ 奚賈 (唐)常建の人。郭士元と時を同じうす。士元、嘗て奚賈を送る詩あり。

クワイカウ 荀康 (三國)字は叔夜。ろの先は本と上虞の人。姓は奚。怨を避くるを以て譙に徙り、荀山の家す。因て氏を命ず。康、丰姿俊逸、醒めては孤松獨立するが如く、酔うては玉山將頹れんとするが如し。老莊を好み性を養ひ、養生篇を著す。魏の宗室と婚して中散大夫と拜せらる。嘗て琴を彈じて以て自ら樂み、山濤、阮籍、阮咸、王戎、向秀、劉伶と竹林の遊を爲す。世に竹林七賢と號す。山濤、晉の吏部尚書たり。康を擧げて自ら代らん欲す。康、網交の

言を作りて之を拒む。康、燈下を彈す。人あり、其室に入る。初の時猶ほ小、斯須にして轉た大、遂に長さ丈餘に至る。顔色甚だ黒く、單衣草帶、復た人似す。康、熱視すると良久し。乃ち吹きて燈を滅し曰く、鬼魅と光を争ふを耻つと。康、性、鍛を好む。嘗て夏月、柳樹の下に鍛す。鍾會これに造る。康、鍛すること故の如くして一言を交へず。會去る。康曰く、何の聞く所ありて來り、何の見る所ありて去るか。會曰く、聞く所を聞きて來り見る所を見て去ると。會、大に之を耻ぢ、他事を以て文帝に言ふ。遂に害せらる。刑に東市に臨むや、神色變ぜず。琴を樂めて之を彈じ廣陵散を奏す。曲終りて曰く、袁孝尼、嘗て此散を學ばんと請ふ。吾れ斬みて與へず。陵廣散、今も於て絶ゆ。太學生三千人上書して以て師と爲さんと請ふ。許されず。後、文帝また之を悔ゆ。子紹。

クワイカウ 計衡 (宋)字は致平。紹興の進士。徽州教授より諸官を歴て監察御史に至る。監試察を失ふに因り、自ら劾して官を免す。已にして國子司業に遷り、出で池州に守となり、朝奉大夫に轉す。衡博洽強毅、太學に遊びし時、上書して天下の大計を言ふ者四たび。高宗嘆じて曰く、士有る此くの如し、教養に負かざるに庶しと。官に入るに及び毎に善政を著はす。死するの日に家に餘貨無し。子慶字は仲均、進士に第し官に入る。政聲あり。學字は仲石、學字

クワイカウ 計衡 (宋)字は致平。紹興の進士。徽州教授より諸官を歴て監察御史に至る。監試察を失ふに因り、自ら劾して官を免す。已にして國子司業に遷り、出で池州に守となり、朝奉大夫に轉す。衡博洽強毅、太學に遊びし時、上書して天下の大計を言ふ者四たび。高宗嘆じて曰く、士有る此くの如し、教養に負かざるに庶しと。官に入るに及び毎に善政を著はす。死するの日に家に餘貨無し。子慶字は仲均、進士に第し官に入る。政聲あり。學字は仲石、學字

ケイカウ

は仲山。ケイカウ 邢昂 (宋)太原の人。高潜して仕へず。時の宰相寇準、文彦博、王瓌、陳堯佐、范仲淹、みな之を推重す。

ケイカウセイ 奚康生 (南北)河南の人。少にして饒勇弓石を彎く。矢、常箭に異なり。魏に仕へて直閣將軍と爲る。吐京の胡、反す。康生等に命じて之を討たしむ。四軍俱に敗る。康生の軍獨り全し。胡を追うて車突谷に至る。殺傷數千人。

ケイガク 桂亨 (明)字は子實。安仁の人。正徳六年の進士。丹徒知縣に除せらる。性剛にして氣を使ひ、屢々上官に忤ふ。嘉靖の初、南京刑部主事に改めらる。大禮の議を贊して、漸く信任を得、荐りし機務に參す。既にして稍寡意なり。帝大に怒り官を奪ふ。後また召還して故官を授く。疾を引きて家に卒す。太傅を贈り文襄と諡す。

ケイガン 晉含 (晋)字は君道。惠帝の朝、中書侍郎に累官す。性、學を好み文章を能くす。家、壽丘に在り。自ら壽丘子と號す。門を歸厚之門といひ室を慎終之室といふ。

ケイキ 景毅 (漢)字は文聖。蜀郡の人。李膺黨に坐して死す。門生故吏皆株及す。毅の子碩、與からず。毅慨然として曰く、膺故と賢者、汝を道はし之を師とす、豈俸脱すべけん。自ら表して歸免す。

ケイキ 敬暉 (唐)字は仲暉。聖曆の初、衛州刺史たり。後二張を誅するの功を以て平陽郡王に封せらる。肅愨と諡す。

ケイキウ

ケイキウ 邢蚪 (南北)字は神彪。祐の從子なり。尚書左丞たり。凡そ糾正する所、台閣肅然たり。孝文、公事に因て與し語り朝謁燕享の禮を問ふ。蚪、經を以て對ふ。

ケイキマウ 景希孟 (宋)巴州縣に知たり。秩滿つ。嘗て詩あり云ふ、二載巴州縣、誰知是非非、還鄉何所有、載得一清歸。誰知是非非、還鄉何所有、載得一清歸。誰知是非非、還鄉何所有、載得一清歸。誰知是非非、還鄉何所有、載得一清歸。

ケイキン 焮焮 (漢)哀帝の時、師丹封事を上り獄に下る。博士焮焮上書して曰はく、丹が經行近世比無しと。秩二等を貶せらる。

ケイキン 邢昕 (南北)字は子明。誠の子。幼にして孤、學を好み才情あり。稱を解て邊寇將軍となり、太尉紀室參軍に累遷す。

ケイギョウ 邢暉 (三國)字は子昂。孝廉に擧げらる。時人語りて曰く、德行堂々刑子昂と。劉楨曰く、邢暉は北士の彦、少くして高節を秉る、眞の雅士なりと。魏の文帝の時尚書僕射に拜せらる。子友、曾孫文、

ケイカヨ

共に尚書に官す。ケイキヨジツ 邢居實 (宋)字は敦夫。恕の子。文あり。早く夭す。黃魯直云ふ、謝師復、年未だ二十ならずして、文章少年の語に類せず、方行万里、門を出て、車軸折る、甚だ敦夫と相似たりと。また絶句あり云ふ、詩到南州更老成、江山爲助筆縱橫、眼看白雲埋黃壤、何況人間父子情と。

ケイダン 邢祥 (唐)字は漢思。會昌五年戸部員外郎より虢州刺史たり。政嚴明を尙び吏人之を畏る。任に在りて刑清く事簡なり。黠吏を束縛し、良民を撫綰し、冗事弊政は必ず務めて其根株を拔盡す。去る日老稚泣きて途に送る。

ケイクンガ 邢君牙 (唐)樂壽の人。戰功を以て果毅折衝將軍に歴す。德宗出でて、奉天に狩す。君牙、兵を率めて難に赴く。河間郡公に封せらる。李晟、鳳翔に在り數々邊を行ぐる。常に君牙を以て守ららしむ。晟入朝す、代りて節度使となり屯紆驪戰す。吐蕃侵す能はず。

ケイクンクワウ 敬君宏 (唐)太平の人。顯備の曾孫。武徳中、驍騎將軍となり、黔昌縣侯に封せらる。已にして靈州將軍を加へらる。隱太子建城の誅せらるるや、餘黨尙擾る。君宏挺身出て戰ひ、害に遇ふ。屯衛將軍を贈る。

ケイクワイキ 刑劄 (周)齊の臣。崔杼莊公を弑す。劄、使して返り之を歸りて將に入て死せんとす。其僕曰く、君の無道な

るは四隣の諸侯知らざるなし、夫子を以て之に死す亦た難からずや。前漢曰く、吾聞く其祿を食ふ者は其事に死すと、吾れ亂君の祿を食ふ、又安んぞ能く治君にして而して之に死せんや。遂に驅りて入り死す。其僕曰く、人、乱君あり猶之に死す、我れ治長あり死なかるべけんやと。廻り轡を結び自ら刎れて死す。

ケイクワイリハウ 奚回禹保 (述)一名輪。字は接輿。騎射を善くし、播捷にして勇、其兄鼂里刺さるを齊うす。累官して奚六部大王兼總知東路兵馬事たり。所部を率めて金に降り、金の冊を受く。立て凡そ八月にして其黨耶律阿古咥等に殺さる。

ケイクワウ 番瑛 (清)字は尙佐。一字は載依。晩に自ら拙修と號す。江蘇長洲の人。曾均の子。九歳にして萬貫を讀み恍然として曰く、萬の水を治むる、皆下より上に及ぶ、蓋し下流宜通すれば則ち水自ら順流して下ると。衆之を驚異す。雍正七年、特旨を以て大臣の子弟一體に會試す。瑛、國子生を以て進士に登り、文淵閣大學士に累官す。重ねて鹿鳴に宴し、詩を賜ひて寵異し、紫禁城騎馬を賜ひ、肩輿入殿を許さる。帝、瑛が家學を承くるを以て、令して河務を督せしむ。前後、整端を疏陳して悉く舊患を除く。卒して太子太師を贈り文恭と諡す。

ケイクワウコウ 邢皇后 (憲節) (宋)高宗の后。高宗康邸に居る時之を聘す。嘉國夫人に封す。金入京師を犯し、時、三宮に從

て北遷す。上皇曹勳を遣はして歸らしめんとす。夫人御する所の金環を脱して内侍をして之に持付せしめて曰く、幸に吾が爲に大王に白せ、願はくは此金環の如く早く相見えんとす。帝位に即く及びて遙かに冊して皇后と爲す。紹興九年、后五國城に崩す。年三十四。金人之を秘す。高宗中宮を廢しうして以て待つと十六年、章太后回鑾して始て梓宮を以て還る。初め懿節と諡す。淳熙の末憲節と改む。

ケイクワウテイ 敬皇帝 (南北)梁第四世。姓は蕭。名は方智。字は懸相。小字法真。元帝の第九子。初め晉安王となる。元帝西魏に降り、蕭書帝を江陵に稱す。王僧辨亦貞陽侯淵明を奉じて帝と稱す。陳霸先、僧辨を殺し、淵明を廢して帝を立つ。立て三年ならずして位を陳霸先に讓る。尋て弑せらる。梁亡ぶ。改元二、紹泰、太平。

ケイクワウテイ 惠皇帝 (明)第二世。姓は朱。名は允炆。太祖の孫。懿文太子標高の子。立て一年、叔父燕王棧反す。四年遂に京師を陷る。帝竊に逃れて往く所を知らず。後英宗の時出て、四内に入る。在位四年。改元一、建文。

ケイクワ

ケイクワ 景皇帝 (明)第七世。姓

は朱、名は祁鈺。英宗の弟。英宗北隣の爲に擒にせらる。皇太子幼冲なり。太后乃ち帝を立つ。八年英宗復位し、帝を廢して祁王と爲す。尋て弑す。

ケイクワツ 敬括 (唐)河東の人。夙に文詞を以て稱せらる。進士に擧げらる。天寶の末、宰相楊國忠、已に附せざる者を出す。括亦例を以て果州刺史に出さる。累遷して給事中兵部侍郎大理卿たり。性深厚にして志尙簡淡なり。大歴六年卒す。

ケイクワボク 邢和璞 (唐)何許の人なるを知らず。瀛海の濱に隱居し、人心を算するの術を善くす。凡そ人心の微度する所、成能く算して之を知る。後ち嵩嶺の間に卜居し、顯陽書を著す。復たよく法を以て暴死者を活かす。明皇開元十二年都に至る。朝貢其の門に候する市の如し。後ち之く所を知るなし。

ケイクワン 景煥 (宋)野人寒語一書を著す。乾徳三年郡國に戒めて石碑を立てしめ四句を刻す。曰く、爾等爾祿、民膏民脂、下民易虐、上天難欺と。即ち其書中の語なり。

ケイクワン 邢煥 (宋)字は文仲。開封の人。父の任を以て兗州主簿に調せらる。樞密都承旨に累遷す。

ケイクワン 邢襄 (明)黃梅の人。正徳三年の進士。上書して時政數事を言ふ。直聲あり。

ケイクイ

ケイクイ 桂卿 (南北)貴溪の人。南唐に

ケイゲイ

仕へて官銀青光祿大夫に至り、柱國に上り、司空に進む。

ケイゲイ 景卿 (明)字は夢弼。善く小景花を畫く。

ケイゲイ 慶桂 (清)滿洲鎮黃旗人。官太子太師。文淵閣大學士に至る。三朝に歴任す。年七十、御製の詩を賜ふ。また嘗て濟美延禧の額を賜ひ、紫光閣に圖形せらる。

ケイゲイ 倪啓 (晋)正徳の初、江陰太守たり。

ケイゲイ 倪敬 (明)字は汝敬。無錫の人。正統十三年の進士。御史に擢てらる。景泰中、敢言して旨に忤ひ、廣西宣山典史に謫せらる。英宗位に復し、召して知縣を授く。都督府事に歴し、年を踰えて卒す。

ケイゲイシ 揭傒斯 (元)字は曼碩。江西富州の人。百氏に貫通し文名あり。其詩、清麗婉轉にして亦神骨秀削なり。嘗て太平政要策を編し、文宗に上る。元統の初、集賢學士に累遷す。至正の初、致仕を乞ふ。帝之を慰留す。旨を奉じて宋金二史を修む。寒疾を得て卒す。年七十一。豫章郡公に追封し、文安と諡す。

ケイケン 奚涓 (漢)高祖の六年、詔して元功十九人の位次を定む。涓第七に位す。封せられて列侯と爲る。

ケイゲン 警玄 (宋)高僧。姓は張氏。江夏の人。法を梁山觀に嗣ぐ。洞山の六世。鄂州太陽山に住す。至和元年示寂す。世壽八十五。

ケイゲン

ケイゲン 敬徽 (元)字は威卿。其先は河東の人。後易水に徙る。父元長は太常博士たり。徽は其仲子也。幼にして學を嗜む。御史中丞郭巨弼、薦めて殿中知班を爲す。憲章若干卷を著す。大徳中、監察御史に拜せらる。後累遷して中書參知政事に拜せらる。病を謝して淮南に居り。泰定中、集賢大學士商議中書省事を爲り、平章政事に進む。老を以て辭す。天曆の改元、廷議朝臣の上都在る者を黜せんとす。徽抗言して衆免るゝを得たり。易水に家する。年十餘年、俛して行く能はざるも猶書を玩びて文忠と諡す。

ケイケンシユン 敬顯備 (南北)字は孝英。平陽の人。性英俠。神武に従つて戰を信都に擧ぐ。又從て鄴を攻む。功を以て永安縣侯に封せらる。内を出て、多く顯官を歴、所在名著はる。子長瑜。

ケイゲンリヤウ 桂彦良 (明)名は德備。字を以て行はる。慈谿の人。元の鄉貢進士。平江路教授たり。罷め歸る。張士誠等謀すれども就かず。洪武六年、太祖徵して太子正字を授く。累遷して晉王府右傅に至る。嘗て治世の要を陳す。帝甚だ之を嘉す。後請うて告げ歸る。洪武二十年、壽を以て終ふ。

ケイゲンレイ 敬元禮 (唐)番馬の人。吉州參軍たり。武氏の乱、御史李福業、恒彦範、之を討平するを謀る。彦範等殺され

ケイゲン

福業も亦廣州に流さる。元禮見て之を敬重す。已にして武三思、吏を遣はして之を捕へしむ。元禮の家に匿る。捕へ得て俱に坐して死す。福業、刑に臨み元禮に謝す。元禮曰く、公窮して我に歸す、我何ぞ公を捨るに忍びんやと。見者之を傷む。

ケイゲンロ 倪元路 (明)字は玉汝。鴻寶と號す。上虞の人。天啓壬戌の進士。竹石水雲山草を畫く。蒼潤古雅頗る別致あり。詩文世の爲めに重せらる。初め莊烈帝の時、元路上疏して朝廷の清議漸く明かりなり。李自成京州を陷るゝに及んで遂に縊死す。

ケイコ 駐固 (漢)中平中、黃巾賊に徴ひ、衆萬餘を率ゐ、所在侵掠劫奪す。遂に誅に伏す。

ケイゴ 慶吾 (漢)王莽の將、劉永の部將。永の睢陽に敗るゝや、永の首を斬り、出て降る。遂に誅せらる。

ケイコウ 景公 (周)宋の君。姓は姫。名は頭曼。孔子の時に當る。樊噲心を守る。心は宋の分野なり。景公之を憂ふ。司馬子章曰く、相に移すべし。公曰く、相は吾が股肱なり。曰く、民に移すべし。公曰く、君は民を待つ。曰く、歳に移すべし。公曰く、歳は民を待つ。曰く、吾誰か爲に君たらん。子章曰く、天高くして卑きに聽く、君人に君たるの言三あり、樊噲宜く動くことあるべしと。是に於て之を候ふに果して徒ること三度。

ケイコウ 景公 (周)齊の君。姜姓呂氏。

ケイコウ

名は杵臼。莊公の弟。公栢殿に坐し嘆じて曰く、堂々たるかな、誰か此を有たんやと。群臣皆泣く。晏嬰獨り笑ふ。公怒る。晏子曰く、臣群臣の諷ふの甚しきを笑ふ。公曰く、懸星東北に出て宋の分野に當れり、寡人以て憂と爲す。晏子曰く、君を高くし池を深くし、賦歛得ざるが如く、刑罰勝へざるを恐る、懸星將に出てんとす、懸星何ぞ懼れんや。公曰く、覆ふべしや否や。晏子曰く、神をして祝して來るべからしめば、亦覆て去るべきなり、百姓若恐、萬を以て敷ふ、而して君一人をして之を覆はしむるも、安ぞ能く衆日に勝たんやと。是時景公好て宮室を始め奢侈に耽り、賦を厚くし刑を重くす。故に之を以て諫む。公晏子を相として齊國諸侯に強し。國を享くること五十八年。

ケイコウ 景公 (周)晉の君。姫姓。名は據。成公の子。二年楚莊王と戰て敗る。十一年將卻克をして齊を伐たしめ大に克つ。始めて六卿を作り天子に僭す。立て十九年にして卒す。

ケイコウ 景公 (周)魯の君。姫姓。名は匡。康公の子。國を享くること二十九年。

ケイコウ 景公 (周)秦の君。高姓。桓公の子。立て四十年にして卒す。

ケイコウ 惠公 (周)秦の君。蘇姓。哀公の孫。立て十年にして卒す。

ケイコウ 景侯 (周)韓の君。韓氏、本姓姫。名は虔。其先世々晉の卿士たり。韓厥

ケイコウ

に至り晉景公の時に功あり。所謂六卿の一なり。康子に至り趙魏と范、中行、智氏の地を分つ。其後周威烈王の時に諸侯に列す。之を景公と爲す。立て九年にして卒す。

ケイコウ 惠公 (周)秦の君。蘇姓。簡公の子。立て十三年にして卒す。

ケイコウ 惠公 (周)燕の君。姫姓。魏公の子。公緒大夫を去りて魏姫宋を立てんと欲す。大夫共に姫宋を誅す。公懼れて齊に奔る。齊の高偃、晉の平公と燕を伐て公を納る。公燕に至りて死す。國を享くること四年。

ケイコウ 惠公 (周)齊の君。姜姓呂氏。名は元。桓公の子。兄懿公弑せられ國人迎へて立つ。國を享くること十年。

ケイコウ 惠公 (周)魯の君。姫姓。名は非湟。孝公の子。國を享くること四十六年。

ケイコウ 惠公 (周)晉の君。姫姓。名は夷吾。獻公の子。初め獻公少子奚齊を立てんと欲し、太子申生を殺す。公子重耳は翟に奔り、夷吾は梁に奔る。獻公卒す。里克、奚齊及び其子悼子を殺して重耳を迎へんことす。重耳之を辭す。乃ち夷吾を迎ふ。夷吾の輔を得て以て入らんと欲す。約して曰く、即し入るを得ば、請ふ河西の地を以て秦に與へんこと。秦穆公乃ち兵を發して夷吾を送る。夷吾既に立つて秦の約を背き、又里克、邰鄭及び其黨七大夫を殺す。國人附かず。晉饒子雍を請ふ。秦之を與ふ。其後秦穆公して雍を請ふ。晉與へず、反て兵

ケイコウ

を發して之を伐つ。秦穆公怒り、韓厥に戰ふ。晉の師敗績す。惠公爲に獲らる。穆公亦禮して之を還へす。立て十四年にして卒す。

ケイコウ 惠侯 (周)燕の君。姫姓。召公九世の孫。周の共和の時に當る。國を享くること三十八年。

ケイコウ 頃公 (周)晉の君。姫姓。名は去疾。昭公の子。立て十四年にして卒す。

ケイコウ 頃侯 (周)燕の君。姫姓。魏侯の子。周幽王の時に當る。國を享くること二十四年。

ケイコウ 頃公 (周)魯の君。姫姓。名は驪。文公の子。立て二十四年、楚の考烈王の爲に滅さる。楚、公を卞邑に遷して家人と爲す。周公の祀絶つ。

ケイコウ 頃公 (周)齊の君。姜姓呂氏。名は無野。惠公の子。晉の大夫卻克齊に恐あり。齊の魯衛を伐つに因り、之を救て齊を伐つ。齊の師敗る。魏引父齊公の右たり。公の獲られんことを恐れ、乃ち處を易ふ。車水に挂て止る。晉の小將韓厥追て之に及ぶ。丑父、公をして下りて飲を取らしむ。因て脱し去る。公歸て苑圃を馳へ、賦歛を薄くし、狐を撫し疾を問ひ、積聚を虚うして以て民を救ふ。民大に悦服す。厚く諸侯を禮して之に交る。諸侯犯さず以て侯の世を卒ふ。國を享くること十七年。

ケイコウ 敬侯 (周)趙の君。蘇姓。名は章。烈侯の子。武侯に嗣ぐ。立て十二年にし

ケイコウ

名は杵臼。莊公の弟。公栢殿に坐し嘆じて曰く、堂々たるかな、誰か此を有たんやと。群臣皆泣く。晏嬰獨り笑ふ。公怒る。晏子曰く、臣群臣の諷ふの甚しきを笑ふ。公曰く、懸星東北に出て宋の分野に當れり、寡人以て憂と爲す。晏子曰く、君を高くし池を深くし、賦歛得ざるが如く、刑罰勝へざるを恐る、懸星將に出てんとす、懸星何ぞ懼れんや。公曰く、覆ふべしや否や。晏子曰く、神をして祝して來るべからしめば、亦覆て去るべきなり、百姓若恐、萬を以て敷ふ、而して君一人をして之を覆はしむるも、安ぞ能く衆日に勝たんやと。是時景公好て宮室を始め奢侈に耽り、賦を厚くし刑を重くす。故に之を以て諫む。公晏子を相として齊國諸侯に強し。國を享くること五十八年。

ケイコウ

に至り晉景公の時に功あり。所謂六卿の一なり。康子に至り趙魏と范、中行、智氏の地を分つ。其後周威烈王の時に諸侯に列す。之を景公と爲す。立て九年にして卒す。

ケイコウ

を發して之を伐つ。秦穆公怒り、韓厥に戰ふ。晉の師敗績す。惠公爲に獲らる。穆公亦禮して之を還へす。立て十四年にして卒す。

て卒す。

ケイコウ 惠后 (周)孟姚を見よ。  
ケイコウ 荆公 (周)行年十五にして相の事を攝す。孔子之を聞き、人をして往きて其の爲政を觀しむ。使者反りて曰く、其朝清くして事少しと。

ケイコウ 嘯鴻 (漢)洛陽の人。慷慨義節あり。會稽太守に歴任す。所在義政あり。  
ケイコウ 揭傒斯 (元)字は伯功。吳斯の子。翰林編纂より、燕南廉訪副使に至る。書に工みなり。子雲も亦書を善くす。

ケイコウ 惠孔時 (宋)提舉兼提刑たり。淳祐元年金の寇する。二年乃ち遂に遷城の議あり。而して居民從はず。三年乃ち都統王來に命じ、蕭に仍て修浚せしむ。孔時を以て提督とす。

ケイコウ 懷克 (周)齊の臣。嘗て靈公の母聲孟子に通し、國佐に殺かれ、尋て殺さる。  
ケイコウ タイチャウコウシユ 荆國大長公主 (宋)太宗の女。幼にして弄を好まず。眞宗位に即くに及びて萬壽長公主に封せらる。駙馬都尉李遵勗に嫁す。筆札を善くし。圖史を喜ぶ。能く狂歌を爲り、尤も女工の事を善くす。

ケイサ 景差 (周)楚人。風平を宗とし楚辭を善くす。續騷大招篇を作る。  
ケイサ 景佐 (周)齊人。克の子。封の弟。司徒たり。楹杵と俱に其書を試す。

ケイサイ 邢才 (南北)少にして盛名あり、京洛を鼓動す。秀才に擧げらる。當年の

作、一代の楷模たり。

ケイサイ 邢濟 (唐)乾天の初め桂管經界使となる。時に西源の變叛す。濟、擊ちて之を平らぐ。擢てられて防禦使となる。  
ケイサイ 邢贇 (南北)字は子真。蚌の子。北魏永安の初、東牟太守に除せらる。清愷にして法を奉じ、吏人之を愛す。和雅信厚にして長者の風あり。時人の爲に愛敬せらる。果官して安樂の太守に至る。

ケイサン 邢産 (南北)字は順實。祐の子。善く文を作る。少にして孤蓬賦を作り時の爲めに稱せらる。秀才に擧げられ著作郎に除せらる。

ケイサン 倪瓚 (元)字は元鎮。常州無錫の人。別號五あり、多く雲林の名を用ふ。素より潔癖あり、人號して倪迂と云ふ。詩を善くし尤も畫に工なり。林木平遠竹石を畫く。清疎澹遠、風致絶倫、殊に市朝塵埃の氣なし。山水を寫して人物を著けず、謂ふ天下人なし。元季に當り天下將に亂れんとするを知り、田宅を賣り盡く交親に散り、扁舟に乘り、五湖三泖の間に飄然たり。初め董源を以て宗となし、晩年に及んで愈々益々精詣、古法を一變して天真幽澹を以て宗となす。

ケイサン 倪榮 (清)字は開公。錢塘の人。康熙十六年の擧人。召試して檢討を授けらる。ケイサンノツマ 荆淑妻 (明)子氏。丹陽の人。其父乱兵に殺さる。變を聞き、夫に

運きに此れを歸るを見る。百歳に近しと。時に號して劉先生と爲す。  
ケイジセイ 邢慈靜 (明)貴州左布政馬拯の妻、少卿邢侗の妹也。書を善くす。李商隱を宗とす。  
ケイシソウ 奚士遜 (宋)寧國の人。兄士遠と同じく進士に登り、果官して大理卿に至る。會々韓侂胄死して史彌遠大獄を諫す。士遜曰く、侂胄誠々奸邪なり、而かも若し加ふるに大逆を以てせんと欲せば士遜の知る所に非ずと。是に由りて罷め歸る。子祀。ケイジハウ 景自芳 (宋)雅州の人。賊を破て功あり。嘗て二月十三日に於て寒食を作す。今に至り里人、春寒食と號す。  
ケイシフエイ 奚綬 (清)字は聖輝。江蘇寶山の人。父士林、孝行を以て門に旌せらる。綬嘗亦孝を以て稱せらる。父年七十餘、冬月惡寒す。綬、夜、父の足を抱きて且に達す。兩弟早世す。撫遺すると親ら生む所の如し。  
ケイシヤ 慶會 (周)齊の人。封の子。父の崔氏を亡すや、専ら之が腹心と爲る。後、封が政を亂るに及び共に族滅せらる。  
ケイシヤウ 敬翔 (五代)字は子振。深沈大略あり。梁の太祖に仕て佐命の功あり。樞密院使となる。崇正院を爲るに及び翔を以て使さす。金鑾殿大學士に遷る。  
ケイジヤウ 邢讓 (明)字は遜之。襄陵の人。正統十三年の進士。庶吉士より檢討に

己を殺さんことを請ふ。聽かず。怒て曰く、君殺さずして賊に與へむと欲するかと。漆劬哭して之に従ふ。

ケイシ 奚祀 (宋)寧國の人。士遜の子。進士に登り郡邑に仕へて廉能の備あり。  
ケイシ 荆嗣 (宋)信都の人。從祖學儒、晋州兵馬鈐轄たり。嗣、應募を以て累りに戦功を立つ。太宗の時、每戦率先して陣を陷る。信都指揮使に遷る。眞宗の時、邠寧環慶副都署となる。嗣、行間に入り、勞を以て方面に居り、百五十餘戰を経。

ケイシ 刑止 (元)老融を見よ。  
ケイジ 邢時 (南北)字は士峻。少にして三禮、左氏春秋を通し齊に仕へて國子助教となり經を以て入りて文宣帝の皇太子に授く。時、方正純直なり、庖人太子に膳を進む。邪高あり。時、之を去らしめて曰く、此菜不正の名あり、殿下の食ふべき所にあらずと。文宣聞きて之を喜みす。

ケイシ 倪思 (宋)字は正甫。歸安の人。禮部侍郎に任せらる。時に光宗久しく重華宮を過ぎらす。思、疏すると十たび。帝、會々嘉王を召す。思言ふ、上皇の陛下を見んと欲するは亦猶陛下の嘉王に於けるが如き也と。帝爲に容を動す。韓侂胄、史彌遠と共に權を擅にするや、思、これを攻めて尤も力む。卒して文節と號す。

ケイシ 倪氏 (明)女子。歸安の人。陳敏に許聘す。敏征に従ふ、相傳ふ已に死せりと。五十歳を踰えて始て歸る。倪氏猶嫁せず。

共に婚を成す。年六十一。

ケイシキ 敬嗣暉 (金)字は唐臣。易州の人。天眷二年の進士。懷安丞に調げらる。曾て才辨を以て海陵に寵異せらる。世宗即位の後、其優巧を惡み之を貶す。何もなく朝儀に練習し、應對閑雅なるに推され、丹州刺史と爲る。後參知政事に拜せらる。大定十年卒す。

ケイシキ 惠士奇 (清)字は天牧。一字仲孺。江蘇吳縣人。弱冠にして諸生たり。康熙己丑進士となり、編修を授けらる。博く六藝に通ず、凡う九經の經文、國語、戰國策、楚詞、史記、漢書三國志皆能く闡講す。廣東に督學たりし時學士争うて免冊冊を棄つ經に通ずる者愈多し。常に謂ふ古の校官は博士なり、今の校官は博士の才無し、弟子何に由て法を效げむと。因て輿論を採訪し、海陽進士翁廷資を得、即ち題を疏し韶州教授に補す。卒する年七十有一。侍讀學士に累官す。著、易說、禮說、春秋等の書あり。

ケイシキ 倪士毅 (元)字は仲弘。徽州祁門山に隱居す。親に事て至孝。四書輯釋三十六卷を著す。今存せず。僅に尙書作義要訣四卷の世に傳ふる者あるのみ。

ケイシキ 倪思輝 (明)祁門の人。天啓中給事中たり。言を以て罪を得。崇禎の時、故官に起ち、南京督儲に終ふ。

ケイシケン 薊子剛 (漢)建安中の人。長安に在りて一老翁と銅人を摩塗す。曰く、

運きに此れを歸るを見る。百歳に近しと。

ケイジセイ 邢慈靜 (明)貴州左布政馬拯の妻、少卿邢侗の妹也。書を善くす。李商隱を宗とす。  
ケイシソウ 奚士遜 (宋)寧國の人。兄士遠と同じく進士に登り、果官して大理卿に至る。會々韓侂胄死して史彌遠大獄を諫す。士遜曰く、侂胄誠々奸邪なり、而かも若し加ふるに大逆を以てせんと欲せば士遜の知る所に非ずと。是に由りて罷め歸る。子祀。ケイジハウ 景自芳 (宋)雅州の人。賊を破て功あり。嘗て二月十三日に於て寒食を作す。今に至り里人、春寒食と號す。  
ケイシフエイ 奚綬 (清)字は聖輝。江蘇寶山の人。父士林、孝行を以て門に旌せらる。綬嘗亦孝を以て稱せらる。父年七十餘、冬月惡寒す。綬、夜、父の足を抱きて且に達す。兩弟早世す。撫遺すると親ら生む所の如し。  
ケイシヤ 慶會 (周)齊の人。封の子。父の崔氏を亡すや、専ら之が腹心と爲る。後、封が政を亂るに及び共に族滅せらる。  
ケイシヤウ 敬翔 (五代)字は子振。深沈大略あり。梁の太祖に仕て佐命の功あり。樞密院使となる。崇正院を爲るに及び翔を以て使さす。金鑾殿大學士に遷る。  
ケイジヤウ 邢讓 (明)字は遜之。襄陵の人。正統十三年の進士。庶吉士より檢討に

歴す。景泰天順の交、禮部右侍郎に擢てらる。後事 坐して斥けらる。  
ケイシヤウシ 邢象之 (唐)詩人。  
ケイシヤウハン 京相璠 (晉)春秋書地名三卷を作る。  
ケイジヤウワウ 頃襄王 (周)楚の君。芊姓。名は横。懷王の子。二十一年秦の將白起楚の郢を拔き先王の墓陵を燒く。立て三十六年王卒す。  
ケイジヤクスキ 倪汜水 (唐)字は子泉。恒州藁城の人。進士に擢てられ尙書右丞に累官す。嘗て汴州刺史と爲り、政、靜を尙び風化大に行はる。徵されて戸部侍郎に拜せらる。  
ケウジヤクブン 壽若嬰 (明)臨城の人。萬曆四十七年の進士。中書會人を授けられ禮部主事に遷る。崇禎元年春、廷臣争うて魏忠賢の黨を討つ。若嬰また上書して兵部侍郎蔡士文、御史張訥、智要を彈劾す。尋て吏部に改められ員外郎に遷り、出て、兗州知府と爲る。城陥りて殺さる。  
ケイジユ 邢壽 (宋)嘉定中直道郎を以て出で、守たり。政寬平を尙び、才以て事を立つるに足る。九里河を浚らへ、外内の河渠をなす、咸成績あり。  
ケイシユク 敬肅 (清)字は弘倫。貞介を以て名を知らる。心鉄石の如く、老て愈篤し。大業中、郡國の守令舉く集る。帝左右に問ふ、天下清名の士は誰ぞと。次を以て對へ、肅第二に中る。帝賜ふに帛一百疋を

以てして之を旌異す。  
ケイシユクワウ 敬肅王 (漢)趙王。姓は劉。名け彭祖。景帝の子。人と爲り刻深にして法律を好む。上書して中國の盜賊を皆せんことを願ひ、常に夜走卒を從へて郡郡中を巡行す。過客彭祖の險険を以て致て郡郡に留るものなし。孫懷王尊に至り子なくして絶つ。宣帝又尊の弟哀王高を立つ。王莽の時に絶つ。

ケイジユン 桂詢 (晋)略例跡を著はす。ケイジユン 邢惇 (宋)字は君雅。雍邱の人。進士に擧げられ中らず、慨然として隱遁の意あり。眞宗、亳州に幸す、布衣を以て召して治道を對問す。對へず。眞宗、其故を問ふ。惇曰く、陛下東封西祀、皆以て擧げり、臣また何を言はん」と。眞宗大に悦ぶ。

ケイジユン 邢洵 (明)嘗論の人。弘治六年の進士。正徳の初、南京戸部郎中に歴官す。劉瑾に忤ひ、名を除かる。遷誅せられて南京工部に起つ。屢賊を平け、一秩を増す。宸濠の反くや、王守仁に從つて之を討滅し、賞賚最も多し。

ケイジヨ 邢恕 (宋)字は和叔。河東の人。程伊川に從ひ學ぶ。呂公著めて學政殿説書となす。元祐の初、御史に補せられ、從ち蘭州に遷せらる。

ケイシヨ 倪暉 (唐)字は孟暉。侯官の人。元和中、及第す。賦名あり。太常博士と爲る。

ケイシヨウ 稽登 (宋)高郵の人。居る所を稽家莊と爲す。時、登、文天祥が匡復の志あるを知り、迎へて之に事ふ。子德潤等をして護して秦州に至り、遂に海に航して行在に達せしむ。柳岳、降表を奉じて元人に至り、莊を過ぐ。登其賣國を憤て之を殺す。

ケイシヨウ 倪稱 (宋)字は文舉。南渡の後、錦山の下に居り。少にして學行あり。業を張橋浦の門に受く。芮國瑞、桐川の簿に調せらる。人皆詩を以て之を饒す。稱曰く、我子と交るに面を以てせず。而して交るに心を以てすと。芮曰く、珠玉の贈は藥石の賜に如かずと。三子恕、思、鹿、皆登科す。

ケイシヨク 邢璣 (明)珣の子。嘗て張璉に學ぶ。嘉靖の初の郷舉。璉實顯なるに及び璉之を援かんと欲す。辭して應ぜず。蒲城知縣を授く。徐浦なる者あり、公府に役す。一見之を異とし、子と同學せしむ。後登第して給事中に至る。

ケイジヨリン 桂如林 (宋)郵縣に知となり、學校を創建し愛を民生に遺す。ケイジイセウ 倪瑞璿 (清)婦人。詩に工なり。

ケイセイ 景清 (明)本姓は耿。景に諱る。眞寧の人。備儒大節を尙ぶ。讀書一過忘れず。洪武中の進士。累遷して御史大夫に至る。嘗て方孝孺等と殉節を約す。成祖即位して其官に仍る。一日絆を著け刃を懷にし入朝す。帝其者の言に激し、體を擣り刃を得。清奮起し曰く、故主の爲に誓を報ぜん

と欲するのみ。成祖怒りて之を磔す。ケイセイリヤウ 奚世亮 (明)字は明仲。黃岡の人。延平同知たり。嘉靖中、日本軍興化を陥る。世亮時に府事を署す。守る。と月を踰けて城陥る。力戦して死す。右參議を贈る。

ケイセウ 計詔 (三國)字は叔明。吳人。黃武中車騎將軍となる。孫皓の荒暴を見、遂に官を棄て馬山に隱居す。後晉宣帝累詔之を徵せども起たず。

ケイセウ 魯紹 (晋)字は延祖。譙國鉅の人。康の子。母に事へて孝なり。累官して侍中に至る。會々河間成都の二王兵を擧ぐ。紹、惠帝に從ひて二王と蕩陰に戰ふ。侍衛皆潰ゆ。惟だ紹、身を以て捍衛し、遂に害を被る。血、御衣に凝ぐ。事定る。左右、衣を浣はんと欲す。帝曰く、此れ哲待中の血なり、浣ふ勿れと。或人、王戎に謂て曰く、昨は朝人中に於て紹を見る、昂々然として野鶴の羣中に在るが如しと。戎曰く、君また其父を見ざるのみと。

ケイセウ 邢劭 (南北)字は子才。河間郡の人。書あり甚だ多きも甚だ警校せず。魏の太常貞の後なり。十歳にして能く文を屬し才思あり、日に萬言を誦す。少にして洛陽に在り、時の名彦と専ら山水の遊を以て娛となす。文章典麗にして瞻且つ速、年未だ二十ならずして衣冠を動かす。國子祭酒に至る。

ケイセキレイ 啓普禮 (元)朔方の人。太

祖を助けて功あり。懼で、千戸を爲り號を答刺罕と賜ふ。

ケイゼン 計然 (周)名は研。范蠡之師。蠡既に會稽之耻を讎ぐ。嘆じて曰く、計然之策十、越に於て其五を用ひて志を得たり。今吾之を家に用ひむと欲す。乃ち陶に之を庵を治め巨萬を致す。號して陶朱公と爲す。

ケイセン 倪閔 (宋)字は泰夫。沙縣の人。高宗の時の人。家貧みて施を好む。紹興中、憲國府教授に除せられ、私幣を出して齋舎を規め、黌學田を置く。得る所の俸、餘あれば兄弟姉妹に分給す。秩滿ちて廣夏提幹に遷りて卒す。

ケイセンリ 倪千里 (宋)東陽の人。紹興中、蘇州學教授に任ぜらる。

ケイソウ 景素 (南北)南齊に事へて建平主に封せらる。黃回等と讎を起し、事敗れて殺せらる。

ケイソウカウサウクワウテイ 敬宗孝莊皇帝 (南北)魏第九世。姓元、名子攸。孝文帝の弟、彭城王帝の第三子。初め胡太后の孝明帝を鸞殺し、清河王の子劄を立てんとするや、爾朱榮、兵を擧げて入り以て帝を立つ。而して胡后及劄を酒水に沈む。榮権を專にして驕虐なり。帝謀て之を誅す。其子爾朱世隆、爾朱兆と共に長廣王暉を立て、帝を晉陽に遷して之を弑す。在位二年、或元一、永安。

ケイソウキ 倪宗器 (明)江右の人。善く書を讀く。

ケイソウクワウテイ 敬宗皇帝 (唐)第十三世。姓李。名は湛。穆宗の長子。位に即いて三年、宦者の爲に弑せらる。或元一、寶曆。

ケイソウクワウテイ 景宗皇帝 (遠)姓は耶律。名は賢。字は賢寧。小字明敬。世宗の第二子。幼にして穆宗に養はる。穆宗弑せられ、群臣勸進して位に即く。信實必得、任用疑はず。群古山に獵し不豫なり。遂に崩す。壽三十五。或元二曰く保寧、乾亨。

ケイソウキ 慈賢獨 (清)字は松友。號は禮齋。江蘇昆洲の人。康熙四十五年の進士。文華殿大學士に累官す。會琦、河務に任する年最も多く、風雨寒暑を冒して河干を走り、暇食に違あらず。卒して少保を贈り、文敏と諡す。子璜。

ケイソウジヤウ 倪祖常 (宋)字は子武。嘗て川の人。寧宗理宗兩朝に仕ふ。

ケイソウ 郭巽 (周)字は欽。魯人。孔子の弟子。ケイソウクワウテイ 景祖翼皇帝 (清)姓は愛親覺羅。名は覺昌安。與祖の第四子。兄弟六人、各城を築き分居す。寧古塔の貝勒と稱す。景祖五部を率ゐて征伐し、盡く五嶺以東蘇克蘇河以西、二百里内の諸部を収む。尼堪外蘭なるものあり、沙克城を攻む。城主阿太章京、妻は景祖の女孫なり。景祖其子と共に之を救ひ敗死す。

ケイタイセイ 荆大聲 (宋)江都の人。曾を以て郷里を去り、臨安に賣卜す。曆に明

かなるを以て太史局に入り、靈台郎を歴て春宮大夫判太史局に終り、金紫を賜ふ。

ケイダウ 京鏗 (宋)字は仲遠。樞軍の人。紹興中の進士。高宗、趙師雄に謂て曰く、京鏗は公輔の器なりと。命を受けて金に使す。嘗て宴樂を受けず。使して還る。帝、之を敬勞す。何浩、劉德秀、胡紘と與に専ら儒學の業を講ぐ。寧宗慶元中、右相に拜せらる。子沆。

ケイダウ 桂堂 (宋)咸州を知して清介の聲あり。拘廢、保節、兩州交々黒く道阻りて通ぜず。堂自ら牛酒を携へ、二州の酋長と會し、諭すに禍福を以てす。乃ち降る。

ケイダウ 倪濡 (宋)字は巨濟。廣德の人。甲角にして能く文を屬す。博學強記、操履あり。年十五、太學に游びて試第一たり。大觀中、進士に登りて、左司員外郎に累官す。燕雲の事を論議するを以て王賊に忤ひ、監城酒稅に貶せられ、再び茶陵船場に徙りて卒す。明年金人關を犯す。朝廷その言を憶ひ、一子を官にす。

ケイダウケン 喬道元 (漢)公論を著はす。(喬、音桂)ケイダウシヤウノツマ 嘉道昌妻 (明)白氏。清潤の人。夫亡せしとき懷妊六月。殉死せんと欲す。泣て曰く、其人後ち無きを念はざるにあらず、但心痛み涙良も緩うする能はず。食せずして死す。

ケイタン 景丹 (漢)字は孫卿。樓陽の人。王莽の時四科に擧げられ、官階科に中る。

ケイタン

後光武に歸し、突騎を従へ王郎を破る。功を以て驍騎大將軍に拜し、樓陽侯に封せらる。帝謂て曰く、富貴にして故郷に歸らざれば、繡を衣て夜行くが如し、故に以て卿を封する耳と。形を雲臺に圖す。

ケイタン 注丹 (漢)字は子玉。南陽の人。世々孟氏易を傳へ、専心教授す。徒衆數百人。建武の初、博士と爲り、大鴻臚に遷す。易通論七篇を作る。世に注君通丹と號す。學義研深、易家之を宗とし、釋して大儒と爲す。

ケイタン 倪暉 (明)字は仲正。善く道釋人物を畫く。山水は馬遠を宗とす。亦花卉に工なり。

ケイタン 惠暉 (宋)字は叙之。江陰の人。進士に擧げらる。嘉平中仕官す。勤農時を以てす。瓦を擲て奸を捕し、政遂に成る。時に權權を景育に移し、郡府瘠路を開く。丞相曾布其居る所の圃に即き、題して景育といひ以て旌表す。

ケイタン 繼忠 (宋)高僧。廣智賢法師の法嗣。字は法臣。姓は丘氏。永嘉の人。開元、法明の諸刹に歷住し、大天台教を宣ふ。元壽五年十月八日示寂す。傳法の弟子凡百人。著すところ頗る多し。

ケイタン 桂琛 (五代)高僧。李氏。常山の人。法を玄沙に嗣ぐ。羅漢院に住す。後法眼文益を得て法を付す。春秋六十二にして示寂す。

ケイタン 敬長 (南北朝)顯備の子。りて傑然復章かなりと。乾隆戊寅五月卒す。年六十有二。

ケイトウ 計東 (清)字は甫阜。改亭と號す。吳江の人。順治十四年順天の鄉試に擧げられ、名長安を動かす。東、書に於て規はざる所無し。十三經廿一史諸書を取り盡く之を讀む、義理を求め、治亂得失を指して要に歸す。下は權術兵法陰陽占候の術に至るまで通曉せざるなし。著改亭集あり。

ケイトウ 慶童 (元)字は明德。康里氏。至正中、中書平章政事に拜せらる。俄に罷する者あり曰く、其子剛僧官人と私通せりと。帝怒つて之を殺す。慶童怏々として志を得ず疾を移して家居す。後陝西行省左丞相に拜せらる。明兵京城を破るに及びて遂に齊化門に殺さる。

ケイトウ 倪登 (宋)字は彦及。福清の人。時に朝廷、雲中に勅す。登、聘使と爲りて王事に歿す。著、論語解あり。世に行はる。

ケイトウ 倪暉 (明)上虞の人。萬曆中、撫州淮安州瓊州の四府を歴知す。至る所、當官の稱あり。子元略。

ケイバウ 京房 (漢)字は君明。易を治し、災變に長ず。六十卦を分ち、更に日用事は風雨寒温を以て候となす。初め焦延壽に仕ふ。延壽曰く、吾が道を傳へて以て身を亡ぼす者は京生ならんと。後、果して封事を上りて災異を言ふに因り、獄に下して塞市せらる。元帝の時、魏郡太守たり。秩八百石。

ケイトウ (漢)字は君明。易を治し、災變に長ず。六十卦を分ち、更に日用事は風雨寒温を以て候となす。初め焦延壽に仕ふ。延壽曰く、吾が道を傳へて以て身を亡ぼす者は京生ならんと。後、果して封事を上りて災異を言ふに因り、獄に下して塞市せらる。元帝の時、魏郡太守たり。秩八百石。

ケイチヨ

ケイチヨウ 敬澄 (南北朝)字は深源。無錫令たり。煩瑣と號す。爲政方あり。

ケイチヨウ 慶澄 (唐)廣德の初、左兵曹參軍兼武康德二縣令たり。邑、兵燹に罹る。澄瓦礫荆棘の場に宇舍城郭を創置す。未だ期年よ及ばずして其舊に復す。歳を越えて繁庶漸に過ぐ。

ケイチヨウ 奚陟 (唐)字は尹卿。京兆の人。少にして篤志、群書に通ず。大曆末の進士、文詞清麗科に登り、弘文館校書郎を授けらる。

ケイチヨウ 惠直 (宋)字は子温。嘗塗の人。崇寧三年進士に登第し、德化縣簿に調せらる。郡守、惠直に命じ樂を撰ばしむ。語中一聯に云ふ、從來汝輩之間固多草士、此去瀟湘之地遂逢故人。守之を讀み大に喜ぶ。初の名直方。朝廷天下の黨籍を噴ち、凡そ士夫の黨人と姓名を同じうする者は許して名を更め、自ら別たしめ。適ま惠直と姓名を同じうする者あり。惠直曰く、名は改む可し、直は去る可らずと。

ケイチイ 慶鄭 (周)晋の大夫。秦飢う、糶を晋に乞ふ、晋與へず。慶鄭曰く、背腹は親無く、幸災は不仁、食言は不祥、怒鄰は不徳、四徳皆無し、何を以て國を爲めんかと。ケイチイ 邢貞 (三國)魏に仕へて太常奉饗使たり。吳に使ひし其諸將を見て嘆じて曰く、吳に將相ある此の如し、久しく人の下たらずと。

ケイハウシツ 邢抱實 (遼)抱朴の弟。統和の末、南府宰相より兩院樞密使を知す。年老いたるを以て詔して小車に乗り入朝するを許す。開泰の初大同軍節度使と爲り、侍中を兼ね、時人之を榮えす。

ケイハウボク 邢抱朴 (遼)應州の人。性穎悟、篤學にして古に博し。保寧の初、政事舍人知制誥と爲る。顯慶四年山西の州縣兵を破る。宣諭招撫使に充てられ、往て之を鎮撫す。民大に安堵す。母の憂に丁り固く起復を辭す。尋て南院樞密使に除せらる。卒して朝を遷むる三日、侍中を贈る。

ケイハツ 稽發 (漢)貨殖傳に見ゆ。

ケイハン 敬播 (唐)貞觀中、令狐綯等と晋書を撰す。房玄齡嘗て陳壽の流たりと稱す。顏師古の所註漢書の文繁きを以て其要を撰り四十篇と爲す。

ケイバンエイ 桂萬榮 (宋)字は夢協。徽溪の人。慶元二年の進士。饒の餘干尉を授けらる。邑に豪右多し。一に裁するに剛介を以てし小民を御するに慈愛を以てす。秩滿つ、民爲めに留まるを乞ふ。子弟其訓迪を繼て不善を爲すを恥づ。建康司理に調せらる。時の相史彌遠、之れを招き致さむと欲す。萬榮諷せずして任に赴む。官を歴て秘閣に直し尙書右丞に遷る。奉祠家居す。嘗て室を東山の麓に築き書を其中に讀む。古人折獄に實する者を取り類して一書と爲し、名つけて棠陰比事と曰ふ。

ケイヒ 敬丕 (周)平陽の太守。秦人。

ケイヒ (周)平陽の太守。秦人。

ケイヒ (周)平陽の太守。秦人。

ケイテイ

ケイテイ 惠帝 (漢)孝惠皇帝を見よ。

ケイテイ 景帝 (漢)孝景皇帝を見よ。

ケイテイ 惠帝 (晋)孝惠皇帝を見よ。

ケイテイ 景帝 (晋)世祖景皇帝を見よ。

ケイテイ 敬超先 (唐)昭州刺史。善政あり。杜甫と友とし善す。甫の高清に寄する詩序に云く、今海内形を忘る、故人は獨り漢中王鶴と、昭州敬使君超先と在るのみ。

ケイテイ 倪天隱 (宋)桐廬の人。號は茅圃。博學能文なり。嘉祐中、縣尉江賢、講堂を先聖殿の後に建て、天隱に請うて之を主らしむ。士風振發、造就する所多し。嘗て縣令葉安道の爲に文を作りて古今治亂の理を論じ、頗る肯綮に中るといふ。

ケイトウ 邢侗 (明)字は子愚。萬曆の進士。陝西巡撫より太僕卿に終る。家資鉅萬、來禽館を古穆邸に築き、産を減し客に給す。善書を以て天下に名あり。

ケイトウ 惠棟 (清)字は定宇。松崖と號す。士奇の次子なり。初め吳興縣の學生たり。幼にして家法を承け、經史諸子百家雜說輿道二載より津逮せざる不し。其の父諱殿を破るに及び睦城に家す。棟京口に往來し、兩喪に遭ひ費を以て禮を廢せず、中年徒に課して自ら給す。行和至高、古書の眞偽に於て瞭然黑白を辨ずるが如し。後尤も易に造し、乃ち周易述一書を撰次す。謂へらく漢學の絶ゆる者千有五百余年、是に至

ケイヒカン 邢飛翰 (元)雲州の人。性剛介、内御史と爲る。伯顔の專政を憤り、其非を面斥す。時に容れられず出て、阿淮運運同知と爲る。至正の末、亂兵に執らへらる。風せずして死す。

ケイビギヨク 倪美玉 (明)女子。董韓に歸す。精病み妻に謂て曰く、吾兄弟無し、吾死せば吾屋を以て小祠と爲し、祀田數畝を置き春秋の享祀吾が父母に與かるを得ば憾み無しと。韓卒す。倪氏其從子を立て後と爲し、其叔父に告げて其言の如くし、事竣り沐浴衣を整へ曰く、亡夫我を召すと。訣別して逝く。年二十四。

ケイヒツカリヨク 契必何力 (唐)遼東道行軍總管を以て高麗を撃つ。敵精兵を以て鴨綠江を守る。水軍渡るを得ず。何力、兵を引き鼓譟して進む。奔るを追ふと數十里、斬首三万級。

ケイビンハウ 景潘王 (周)魏の君。姬姓。名は午。安釐王の子。立て十五年にして卒す。

ケイフ 黥布 (漢)六安の人。本姓は英。少時、客あり、之を相して曰く、刑に當りて而して王たらんと。社に及びて黥に坐す。因て姓を黥と改む。秦末、兵を以て項梁に屬す。項羽、封じて九江王と爲す。後、鄒食其の説に因りて漢に歸し、高祖を佐けて天下を定め、淮南王に封せらる。後、韓信彭越の誅せらるるを以て禍の己れに及ばんを懼れ、兵を發して命を拒む。高祖、討ち

ケイトウ

ケイハウ

ケイヒカ



ケイフ

て之を平ぐ。  
ケイフ 慶晋 (漢)字は孝公。沛の人。魏  
徳載聖と同じく禮を孟卿に受く。是より禮  
に大較小較慶氏の學あり。仕へて東平太守  
たり。

ケイフク 桂馥 (清)字は冬卉。曲阜の人。  
乾隆五十五年の進士。官知縣たり。書に於  
て疑はざるなし。尤も金石六書の學に造し。  
濟南周書昌と友たり。後進を誘接する甚だ  
篤し。卒する年七十。著説文義証及釋義分  
韻等の書あり。

ケイブンイツ 倪文一 (宋)字は元芳。福  
安の人。咸淳間、進士より安仁縣尉を授けり。  
隣境の响響に發す。文一、單騎奮に至り  
之を撫するに思を以てし之を諭すに理を以  
てす。响響成く信服す。再び湖州を授けら  
る。劉憲召して幕下に置き、疑歎あれば職  
ち委して之を謝さしむ。民以て冤なし。秩  
滿ちて行李蕭然たり。知清流縣に陞る。元  
兵南下するや遂に山林に隱居す。元世祖  
(忽必烈)之を徵せども起たず。嘗て詩を作  
りて曰く、編籟已種淵明菊、圖招還殺茂叔  
翁と。

ケイブンシユン 倪文俊 (明)元末、徐壽  
輝と共に兵を作し、所在擧掠す。友諒時に  
麾下に在り。文俊の專恣を惡み之を殺す。  
ケイブンワウ 惠文王 (周)景王の子。在位二十五年。  
名は貴。靈王の子。在位二十五年。姫姓。  
ケイワウ 惠王 (周)第十七世。姫姓。名  
は閔。景王の子。初め莊王、昭姫を嬖し、  
頤を生む。頤寵あり。惠王位に即くに及び  
其大臣の圍を奪て圍と爲す。大夫邊伯等五  
人亂を作す。燕衛の師を招き王を伐つ。王  
温に奔り既にして鄭に居り。頤自立して王  
と爲る。鄭の君、頤を伐て之を殺し復惠  
王を入る。十年齊桓公に賜つて方伯と爲す。  
在位二十五年。

ケイブン

ケイブンワウ 惠文王 (周)趙の君。高姓。  
名は何。武靈王の子。廉頗、藺相如、趙奢等  
を用ふ。立て三十三年にして卒す。  
ケイブンフ 邢文偉 (唐)全椒の人。咸亨  
中、太子典膳丞となる。太子學に宮臣に  
接す。文偉上書して之を諫じ。後右史闕  
く。高宗曰く、文偉は吾兒を切諫す、これ  
直臣なりと。遂に之を授く。鳳閣侍郎に累  
遷す。

ケイヘイ 邢昺 (宋)字は欽明。鄭の人。廷  
試の日、召されて外殿に至り、比師二卦を講  
ず。太宗之を嘉みし上第に擢んづ。眞宗の  
朝翰林侍講學士を授け、尋て刑部尚書に陞  
る。卒するに及び、眞宗親く喪に臨み、哀  
悼の意を表す。  
ケイヘンヘン 景嗣嗣 (明)女子。閩人。  
詩を善くす。

ケイホ 慶父 (周)桓公の子なり。惠王十  
五年、魯君を弑す。後ち宮に執へられ、  
殊に伏す。  
ケイホウ 慶封 (周)齊人。字は子家。又季  
と曰ふ。克の子。初め大夫たり。已にして  
杆等と協力して逆を行ふ。後族滅せらる。  
ケイモク 計默 (清)南阜の子。詩才あ  
り。筆硯を擲ひて四方に遊ぶ。名天下に轟  
く。  
ケイヨウシユン 奚容蒧 (周)魯の人。孔子  
の弟子。文才あり。志氣盛々たり。  
ケイヨウシヤウ 計用章 (宋)安仁の人。  
天禧中の進士。廷安に通判たり。時に范雍、

ケイラン

帥となる。用章、其の城を修め卒を練り以  
て不測に備へむことを勤む。雍、聽かず。  
元長城を圍むに及び用章を召して策を問  
ふ。用章、對ふるに一死國に報ゆるを以て  
す。會其の夜大に雪ふる、賊遂に退く。  
後ち臨州に知たり、尋て都員外郎に擧げら  
る。

ケイラン 景鸞 (漢)字は漢伯。東漢の時、  
詩解、易說を作る。  
ケイラン 邢昺 (南北祐の從孫。少にし  
て學を好み、清貧にして勳節、博く書史に  
通じ亦文才あり。昺に仕ふ。散騎常侍に累  
官し、尋て尚書を兼ね。

ケイリン 奎林 (清)姓は富察氏。滿州鎮  
黃旗人。聖烈公明瑞の弟なり。乾隆の朝、編  
甸金川を征す。奎林之に従ひ、身自戰を經、  
創を被るも動せず。騎馬飲酒自若たり。將  
領を待つと賊にして、士卒に與すると甚だ  
怒、甘苦共に與す。故に皆力を教すを樂  
む。金川平ぐ。紫光閣に圖形す。官、提督  
に至る。  
ケイリンシユ 景林株 (宋)通州の人。咸  
平間、王均叛す。州中賊に應ずるものあり。  
林株、郷兵を將つて州北に戦ひ、殺せらる。  
首領ちて身介れず。馬を跨り奔り州城東北  
隅に歸る。人訝て之を呼んで曰く、公、首  
無しと。是に於て地に墜つ。州人其地に即  
て祠を立て之を祀る。

ケイリヨウ 慶毅 (五代)高僧。孫氏。杭  
州靈官の人。法を靈峰に嗣ぐ。長慶院に住

して化を揚ぐ。長興三年五月十七日寂す。  
年七十九。

ケイワウ 景王 (周)第二十四世。姫姓。  
名は貴。靈王の子。在位二十五年。

ケイワウ 惠王 (周)第十七世。姫姓。名  
は閔。景王の子。初め莊王、昭姫を嬖し、  
頤を生む。頤寵あり。惠王位に即くに及び  
其大臣の圍を奪て圍と爲す。大夫邊伯等五  
人亂を作す。燕衛の師を招き王を伐つ。王  
温に奔り既にして鄭に居り。頤自立して王  
と爲る。鄭の君、頤を伐て之を殺し復惠  
王を入る。十年齊桓公に賜つて方伯と爲す。  
在位二十五年。

ケイワウ 惠王 (周)魏の君。姫姓。名は  
懿。武侯の子。王數々軍旅に敗る。是より於て  
禮を卑くし幣を厚くして賢者を招ぐ。鄒衍、  
淳于髡、孟軻皆至る。然れども終り用ふる  
能はず。立て五十二年にして卒す。

ケイワウ 惠王 (周)趙の君。姫姓。昭王  
の子。昭王樂毅を將として齊の七十餘城を  
下す。惠王太子たりし時より樂毅と隙あり  
位に即くに及び騎劫を以て之に代ふ。樂毅  
趙に奔る。齊の田單、騎劫を撃て之を破り  
齊く齊の故地を復す。立て七年にして卒す。

ケイワウ 惠王 (周)楚の君。芋姓。名は  
章。昭王の子。立て六年靈王の太子建が子白  
公勝、令尹子西子蕞に怨あり之を朝に殺す。  
因て惠王を劫して高府に置き之を弑せんと  
欲す。從者屈固王を負うて亡ぐ。白公自立し  
て王と爲る。一月餘。葉公之を誅して王を

ケイワウ

位に復す。立て五十七年にして卒す。

ケイワウ 頃王 (周)周第十九世。姫姓。  
名は壬臣。靈王の子。在位六年。

ケイワウ 敬王 (周)周第二十六世。姫姓。  
名は丐。景王の子。初め王子朝と立つ争  
ふ。國人悼王を立つ。子朝悼王を殺す。晋  
人子朝を攻め丐を立つ。子朝も自立す。  
敬王入ることを得ず。澤に居り。四年晋諸  
侯を率ゐて王を周に入る。子朝臣と稱す。十  
六年子朝の徒復亂を作す。王晋に奔る。翌  
年晋定公王を周に入る。敬王の四十一年孔  
子卒す。在位四十二年。

ケイワウ 敬王 (漢)燕王。姓は劉。名は  
澤。高祖の從祖昆弟。將として陳彭越、張敖  
を撃ち魯侯に封せらる。呂后の時琅邪  
王と爲る。呂后崩じて澤曰く帝少く諸呂事  
を用ひ諸劉孤なりと。兵を引て齊王と謀  
を合せ諸呂を誅せんと欲す。馳せて關に入  
る。後諸將相と代王を立て、帝と爲す。徒  
りて燕に封せらる。薨じて敬王と諡す。康  
王嘉嗣ぐ。嘉薨して子定陶嗣ぐ。亂行あり  
元朔中自殺す國除す。

ケイワウ 敬王 (漢)北海王。姓は劉。名  
は陸。靖王の子。少くして學を好み博く書  
傳に熟す。光武之を愛し數々延納す。明帝の  
東宮に在るや、尤も幸せられ、入りては  
誦し侍し出で、則ち尊を執る。性謙恭にし  
て士を好み千里交りを結ぶ。名儒宿徳門に  
造らざるものなし。是に由て聲價益廣し。  
永平中に法憲頗る峻なり陸乃ち賓客を謝絶

ケイワウ

し心を音樂に放ま、にす風仰時に従ひ以て  
世を終ふ。

ケイワウ 敬王 (漢)陳王。姓は劉。名は  
漢。明帝の子。其母惠王寵に至り冀術の爲  
に殺され國絶つ。

ケイワウ 景王 (漢)城陽王。姓は劉。名  
は章。齊悼惠の子にして高祖の孫なり。年  
二十にして氣力あり。朱虛侯に封せらる。呂  
氏權を専らにする時に當り劉氏の職を得  
ざるを忿る。嘗て入て燕飲し侍す。呂后章  
をして酒吏たらしむ。章請て曰く臣は將種  
なり、請ふ軍法を以て之を行ふことを得ん  
と。呂后之を可らず。諸呂の一人醉て酒を  
亡ぐる者あり章追て劍を抜き之を斬る。還  
り報じて曰く謹て軍法を行ひ之を斬ると。還  
太后左右大に驚く。呂后崩じて諸呂亂を作  
さんとす。章の妻は呂祿の女なり是を以て  
其謀を知る。人をして陰に其兄齊王に告げ  
兵を發して西せしむ。漢の諸大臣が呂氏を  
誅するに及び章の功最も大なり。文帝立て  
封じて城陽王と爲す。其後哀王雲に至り子  
なくして絶つ。成帝又雲の兄偃を立て王莽  
の時に絶ゆ。

ケイワウ 頃王 (漢)眞定王。姓は劉名は  
平。常山憲王の子。武帝の時に立てらる。  
其後陽に至り王莽の時に絶つ。

ケイワウ 頃王 (漢)平子王。姓は劉。名  
は偃。趙王彭祖の子。武帝の時に立てらる。  
其子櫻王元無道にして死し國除せらる。

ケイワウ 頃王 (漢)淮陽王。姓は劉。名

ケイワウ

ケイワウ

は嗣。明帝の子。子嘉王側に至り常山に徙  
さる。其後房に至り建安十一年國除かる。  
ケイワウ 惠王 (漢)廣川王。姓は劉。名  
は越。景帝の子。孫去に至り暴虐にして國  
除せらる。宣帝又去の兄戴王文を立つ。子  
海陽に至り廢せらる。平帝又文の弟を立て  
、廣德王と爲し惠王の後を奉ぜしむ。王莽  
の時に絶ゆ。

ケイワウ 惠王 (漢)濟北王。姓は劉。名  
は壽。章帝の子。其後政に至り子なし建安  
十一年國除かる。  
ケイワウ 惠王 (漢)下邳王。姓は劉。名  
は衍。明帝の子。其後哀王宜薨じて子なく  
建安十一年國除かる。

ケイワウ 倪維德 (明)字は仲賢。吳縣の  
人。祖父皆曾を以て顯れる。維德も亦曾を  
業とす。疾を治めて効を奏せざるなし。盛  
梁蘭の妻左右肩臂奇癢あり。之を診して曰  
く、左脉沈み右脉浮ぶ。此れ滋味過盛の致  
す所なりと。投ずるに劑を以てす、即ち愈  
ゆ。林仲實、熱疾に罹り、日の出入に隨ひ  
て熱に進退あると數に二年。診して曰く是  
七情内に傷み陽升らず陰盛なるを以て、  
温は進み涼は退くと。抄ずると劑を以てす  
忽ち愈ゆ。其療治多くは此に類す。洪武間  
卒す。年七十五。

ケウ 曉 (上古)帝堯陶唐氏を見よ。  
ケウアン 曉 (明)高僧。諱 善啓。字  
は東白。別號は曉菴。長州の人。姓は楊氏。  
大藏經を研窮し、百家諸子並に精窮せざる

ケウイウ

なし。永樂中、召に應じて永樂大典を纂修  
し、並に大藏經を校す。金僧伽梨を賜ふ。  
正統八年示寂す。  
ケウイウ 魏雄 (南北)字は休武。喧の孫。  
少にして驍勇、財を輕んじ氣を重んず。燕  
州刺史と爲り平城縣伯に封ぜらる。時に官  
司相與に聚飲す。惟だ雄、巖然る後に取る。  
下に拏するに恩を以てし甚だ吏民の懷思す  
る所と爲る。子あり。師といふ。  
ケウイツキ 喬一琦 (明)字は伯桂。上海  
の人。萬曆中、劉從に従ひて屢々功を遼東  
に奏す。竟に清兵に敗られ、崖に投じて死  
す。

ケウウ 喬宇 (明)字は希大。山西樂平の  
人。鳳の子。成化二十年の進士。禮部主事  
を授けられ、弘治中、郎中に擢んてらる。  
門に私謁なし。太常少卿に改む。武宗即位  
す。上疏して民の疾苦を陳す。乾清宮災あ  
り。時務十事を疏す。世宗の朝に至り、吏  
部尚書に任ず。上書旨に忤ひ、休を乞ふ。  
傳を馳せ夫屬を給ふ。穆宗立ち、官を復し、  
少傅を贈り、莊和と諡す。

ケウオウ 魏應 (南北)北海の高士なり。  
ケウカウカン 喬行簡 (宋)字は善明。東  
陽の人。紹熙の進士に登る。端平間、左右  
丞相に累官し、鄭清之と同心變を革め善類  
を召出す。少傅に進み益國公に封ぜらる。  
尋いで去るを求め、少師に除せられ、魯國  
公を以て致仕す。卒して文惠と諡す。  
ケウキヒ 喬貴妃 (宋)徽宗の妃。初、高

ケウケン

宗の母章妃と結て姉妹と爲る。靖康に同じ  
く北遷す。紹興中、章歸るとを得て將に行  
かんすとす。喬、金五十兩を以て金使高居安  
に贈て曰く、願はくは好く姉を護送して江  
南に還らしめよと。復酒を擧げて章に酌入  
て曰く、姉自愛せよ、歸らば即ち皇太后た  
らん、妹や還るの期なし、終に朔漢に死せ  
んと。遂に大慟して別る。  
ケウケンツ 魏君素 (隋)涇陰の人。仕官  
擊鷹郎將と爲り、風突通に従うて唐の師を  
河東に拒ぐ。木鶴を爲りて表を其頸に係け  
以て黄河に浮ぶ。河陽守、之を得て東都に  
達す。唐の太宗詔して曰く、桀犬吠堯、有  
乖例戈之志、疾風勁草、實表貞義之心と。  
又た節義序論に曰く、盛烈所著、與河海以  
爭流、節峻所標、共竹松而俱茂と。

ケウケン 橋玄 (漢)字は公祖。臨陽の人。  
曹操を見て之を異として曰く、安人の主也  
と。後、操、玄の墓を經て祠るに斗酒隻鷄  
を以てす。蓋し其の相知るを感ずる也。建  
寧中、司空と爲り、太尉に遷る。二女皆國  
色あり。孫策、大橋を納れ、周瑜、小橋を  
納る。策、瑜に謂て曰く、橋公の二女流難  
すと雖も吾が二人を得て婦と爲す、亦懼を  
爲すに足れりと。

ケウケン 魏暄 (南北)字は辟邪。長干の  
人。容貌美なり。千人軍將と爲る。太武、  
其恭謹なるを以て中散に擢ぶ。後、東道十  
三州使と爲る。孫あり雄といふ。  
ケウコ 橋固 (漢)禮記禮弓を註す。

ケウシ 喬氏 (唐)喬知之の妹。詩を善くす。  
ケウシ 堯師 (南北)雄の子。儀同三司た  
り。

ケウシフチウ 堯執中 (宋)經術を以て教  
授す。孫莘老(覺)、秦少游と名を齊しうす。  
三賢と號せらる。  
ケウシン 橋愷 (漢)字は仲彦。茂陵の人。  
少くして黃老を好み、遂に隱居す。穴に因  
て室を爲る。松喬導引の術を慕ふ。年七十  
餘忽然家に歸り、自ら死日を云ふ。期に及  
びて果して卒す。或は云ふ其後之を見し者  
ありと。

ケウジン 橋仁 (漢)大藏(德)に従うて禮  
記四十九篇を註す。橋君の學と號す。小藏  
(聖)博士を以て石渠を論じ、禮記を梁人橋  
仁橋榮に授く。是に於て橋楊の學あり。仁、  
武帝の時、大鴻臚たり。

ケウジュン 喬順 (南北)湘州樓巖谷に隱  
れ飛龍の類を服して二十年繼ふ。宋の文  
帝の時に云ふ、四山有仙童、不飲亦不食と。  
ケウジヨ 喬叙 (宋)字は萬功。太傅と爲  
り、欽州に知たり。東坡の時に云ふ、云侯  
湖蓮器、清廣常屬鹽と。再び麻州に知たり。  
東坡の時に又云ふ、愧無負郭田千頃、空有  
載行書五車と。

ケウスウ 堯須 (晉)鷲鵲一巻を撰す。  
ケウセキリ 喬威里 (元)未だ名字を詳か  
にせず。梅花竹石を畫くに巧なり。  
ケウソ 喬疎 (宋)高郵の人。學行を以て  
時に推され、鄉里に教授す。從學する者多  
ク。

ケウシ

し。文行を以て名を知らる。淮南數百里の  
間、高郵、齊魯の如きは疎より之を發す。  
孫覺は其の徒なり。  
ケウタイリン 喬大臨 (宋)政和間、海鹽  
令たり。時に平江の朱勳、花石を以て幸を  
得、其蒼頭、海鹽に至りて甚だ横なり。大  
臨追逐して十餘人を杖す。是に坐して官を  
罷らる。士論之を高しとす。

ケウタツ 喬遠 (元)字は達之。燕人。才  
藝多し特に丹青を善くす。山水は李成を學  
び、墨竹は王庭筠を學び、更に文湖州を學  
ぶ。皆其法を得たり。  
ケウタン 鄧坦 (周)字は子家。孔子の弟  
也。

ケウチラウ 喬智朗 (晉)字は元遠。鮮卑  
前部の人。晉に仕へて隱慮令と爲り德行を  
以て著稱せらる。人號して神君と曰ふ。  
ケウテウ 魏朝 (周)秦の大夫。晉の士會、  
秦に走る。晉人、秦の士會を用ふるを忌  
み、乃ら魏朝をして、偽り秦を攻め以て士  
會を誘ふ。秦、士會を使す。魏朝諫む聽か  
ず。士會行く。朝、之れに附るに策を以て  
す。曰く、子謂ふ無れ、秦に人なしと、吾謀  
適々用ひられざるのみと。

ケウドウ 喬同 (宋)道を學び、年八十に  
して壯なり。蘇東坡贈るに詩を以てす。上  
山如飛嶮人扶の句あり。  
ケウパウ 橋瑤 (三國)字は元輝。東郡太  
守。袁紹と與に兵を起して曹操を討つ。  
ケウヒ 橋庇 (周)晉人。易學に明かなり。

ケウタイ

ケウフジン 喬夫人 (金)暴竹を善くす。  
ケウヘキセイ 喬璧星 (明)臨清の人。萬  
曆中、官右倉部御史たり。

ケウボウフ 喬夢符 (宋)東陽の人。淳熙  
間、進士の第に登り、大理正に累官す。朝  
獄嚴明、權勢を畏れず。監察御史に進む。  
ケウヨウ 橋庸 (漢)魯人。易を射臂に受  
く。

ケウリン 喬琳 (唐)并州太原の人。少に  
して孤、而かも學に志し、進士に擢んでら  
る。性誕弱にして禮檢なし。初め郭子儀に  
知られ、累官高位に登る。太子位に即ちや  
舊老を以て之を禮す。既にして致仕し、祝  
禮聘以て吏部尚書に擢す。朱泚之を聞き、  
乃ち死を賜ふ。

ケウワガク 喬維岳 (宋)字は伯周。太宗  
の時、淮南轉運使と爲る。嘗て部を按じて  
泗州に至り賦法を慮る。操、誤りて囚を斷  
じて死に至らしむ。維岳、これを詰る。操、  
俯伏し且つ泣きて曰く、母今年八十餘、  
命を復せば則ち母活くる能はずと。維岳之を  
憫み因て謂て曰く、他日朝制按問せば、第  
だ轉運使、茲罪を處せしむと云へと。卒し  
其言の如く罪を獲。維岳坐して金二十斤を  
贖ふ。

ケウケンキヨウ 堯允恭 (宋)字は克遜。  
海陵の人。景定咸淳、兩たび鄉薦を領す。  
宋亡びてまた仕へず。意を經傳に専らにし、  
易に邃く、深く性命の理を得、貧に安んじ

ケウフジ

善を興じ。學者皆從遊す。自ら觀物老人と號す。大司農燕公、嘗て其の古心俗を絶ち清氣人に逼るを稱す。詩文集二十卷あり。ゲウケンシヨウ 喬允升 (明)字は吉甫。洛陽の人。萬曆二十年の進士。知縣より御史に擢てらる。天啓崇禎の交、刑部尚書に累進す。事に坐して嗣せられ、戍所に卒す。天下之を惜む。

ゲウエン 喬遠 (明)字は福孝。晉江の人。萬曆間の進士。禮部儀制郎中に歷官す。事に坐して廣西布政使に調せらる。疾を以て里居すると二十餘年。中外交薦す。起たず。喬遠、博覽にして著書を好む。嘗て明十三朝の遺事を録め、名山藏を爲る。又國書五十卷を纂す。順る世に行はる。

ゲキキウ 鄒羽 (南北)春秋問答十卷を著す。ゲキカキウ 劇可久 (五代)字は尙賢。范陽の人。法令に明かなり。晉に仕へて太子古論徳となる。侍御史張滂等と刑統三十卷を制定す。後、大連少卿に拜す。廷尉に在ること四十年、法を用ふる、こと平允にして仁恕。稱宗の初、光祿少卿を以て致仕す。ゲキキ 鄒綺 (周)鄒克の子。世々晉の卿たり。

ゲキクワウコウ 鄒皇后(德) (南北)梁の武帝の後。名は徽。高平金鄉の人。祖紹宋の國子祭酒領東海王師たり。父暉、太子の舍人たり早くして卒す。後の母は尋陽公主、宋文帝の女。后幼にして明謙謙書を善くす。

ゲキマウ 劇孟 (漢)洛陽の人。俠を以て顯はる。文帝の時、吳楚反す。周亞父、船に乗じて河南に至り孟を得て喜て曰く、楚大事を舉ぐ而して孟を求めず、吾其能く爲すなきを知る。孟常に高陵の真盜を過き。盜善く之を待つ。或人曰く孟は博徒耳。將軍何ぞ自ら屈するや。孟曰く孟は博徒なり、然れども世死して客の會葬する者千餘乘、これ亦人に過ぐる者あるなり。是より深く劇孟と結ぶ。

ゲツ 桀 (夏)帝履癸を見よ。ゲツイウミン 揭佑民 (宋)廣昌の人。邵武丞たり。性抗直にして權威に屈せず、私利誘はれず。善く訟を斷す。世に稱せらる。ゲツガ 月娥 (明)西域の人。元武昌尹職馬祿丁の女也。少くして聰慧。諸兄經史を誦するを聽き、輒ち大義に通ず。長して葛通に適く。上下を撫事し禮法を乘る。長似盧、諸婦を率ゐて其教を受く。太祖江を渡る六年、僞漢の兵上游より下る。盧曰く太

平城郭あり、且兵守を嚴にす、恃む可し。娥をして諸婦を挾きみ往て避けしむ。未だ幾ばくならずして城陷る。月娥歎じて曰く、吾詩禮の家に生る、節を賊に失ふ可けんやと。躍て水に投ず。諸婦女相從ふ者九人。七日にして屍漸く浮ぶ、顔色生るが如し。鄉人曰穴を爲て之を合葬し、題して十

女墓と云ふ。ゲツセキサツジ 月赤察兒 (元)失烈門の子。性仁儉。奮怒として桑哥の罪を劾奏す。帝之を嘉みす。成宗の時大保録軍國車事に拜す。北邊を鎮して功あり。至大同、疾を以て第に卒す。較して香木の棺を作りて歿す。忠武と諡す。ゲツデキ 桀溺 (周)葉人。避世隱居す。孔子葉に過き長沮桀溺の耦して耕すを見、子路をして津を問はしむ。長沮曰く是れ魯の孔丘か、是れ津を知れるなり。溺曰く、滔々たる者、天下皆是れなり、誰と以て之を易んやと。耕して緩まず。ゲツリマシ 月里麻思 (元)乃馬氏。太宗の朝、宋に往き和を議す。宋將之を脅かす。風せずして罵る。乃ち之を囚ふること三十六年にして死す。ゲツレツコウシユ 月烈公主 (元)世祖の季女。愛不化に下嫁す。薨じて武襄公主と諡す。趙國大長公主と號す。ゲツロチウウル 月魯帖木兒 (元)幼しして聰敏、讀書強記なり。仁宗擢て、監察御史に拜す。犯顏極諫して身を顧みず。泰定帝晏駕す。伯顔、制を矯めて魯寧王を迎へしむ。辭して行かず。伯顔怒る。また事を以て丞相別不花と隙あり。乃ち乾寧安撫使に調せらる。順帝の至元六年召し還さる。紅巾盜起るや、平章政事に拜せられ、往て打漸に至り、淳安縣等を恢復す。徽州に次し、疾を以て軍に卒す。

し史傳を讀み、女工の事閑習せざる無し。宋後廢帝將に納れて后となきむとす。齊の初、安陸王綱又婚を結ばむと欲す。郗氏并に辟するに女の疾を以てす、乃ち止む。齊建元の宋武帝に續し永興公主と號、永世公主と號、永康公主と號を生む。武帝雍州刺史となるに及び襄陽官會に祖す。年三十二。武帝踐祚するに及び追崇して皇后となす。諡を德さいふ。后酷だ妬忌、終るに及び化して龍となる。以て之を記る。故を以て帝卒に后を置かざりきといふ。

ゲキケツ 郗夔 (周)晉の大夫。芮の子。冀に歸す。其妻之に饋す。相敬すること實の如し。白季使して冀を過ぎ之を見て之と與に歸る。文公に言て曰く、敬は徳の聚なり能く敬せらる者必ず徳あらん、徳は以て民を治むる所以なり君請ふ之を用ひよと。文公用ひて下軍大夫となし、復之に冀を與へて來邑となきしむ。夔因て以て氏と爲し冀缺と稱せりと云ふ。ゲキコク 郗穀 (周)晉の人。晉の文公、被虜に蒐し、三軍を作り之が元帥を謀る。趙衰曰く穀可なり。公曰く何を以て其可なるを知るや。衰曰く、穀、禮樂を説き詩書に教し必ず兵を御するの道を知らんと。公乃ち穀をして中軍に將たらしめ、郗湫をして之が佐たらしむ。ゲキコク 郗克 (周)晉大夫郗缺の子。晉成公二年、魯の爲めに齊を伐ちて凱旋す。成公之に先鋒三命の服を賜ふ。獻子と諡す。

ゲキシ 郗至 (周)景公の時の人なり。郗縠郗驥と共に三郗と稱せらる。至、才辨あり。使者と爲つて禮あり、事を謀りて智あり、衣に縷みて武あり。世に稱せらる。ゲキウ 郗縠 (周)缺の從子。景公の時、大夫と爲り邑を襄陵に食む。郗至、郗縠と共に三郗と稱せらる。ゲキシン 劇辛 (周)戰國の時、燕の昭王、禮を辱くし幣を厚くして以て賢者を招く。是に於て辛、趙より往いて相たり。王國政に任ず。齊を下すの計、辛の功多きに居れりといふ。ゲキシン 別説 (晉)字は廣基。單父の人。博學多才、細行に拘らず。賢良に舉げられ對策第一たり。嘗て武帝に對へて曰く、臣は論は桂林の一枝、崑山の片玉の如しと。後仕を致して去る。(鄒)に作るは非なり)ゲキシヨウ 女稱 (周)晉の獻公薨す。里克等叛を謀る。稱、芮等と與に夷吾を擁立して兵を唱ふ。厲公即位するに方りて之を誅す。ゲキセイ 郗正 (三國)字は令先。博く墳籍に通じ、弱冠にして文を能くす。性榮利に濫なり。賦論を著はす。蜀に仕へて巴西の守となる。ゲキゼイ 郗胤 (周)字は子公。豹の子。冀に食邑す。故に冀胤と曰ふ。里克の奚齊及卓子を殺すや、梁に夷吾を説き、之を擁して乱を作す。後に殺さる。ゲキチウシン 郗仲信 (漢)博士たり。春

ゲツロフクワ 月魯不花 (元)字は彦明。山南道廉訪使に官す。鐵山を過ぎり倭寇に遇ふ。之を擡みて拜伏せしむ。背せず者せらる。遂陽行省平章を追贈し、忠肅と諡す。ゲフコクシキ 夾谷之奇 (元)字は士常。東平に寓居す。至元間左贊善に拜し、皇太子を輔く。進見する毎に順遇甚だ厚し。太子薨す。翰林直學士に除す。文を爲る、簡嚴法あり。多く世に傳ふ。ゲフシツコ 樂質庫 (清)咸豐中家資を竭して賊を助け軍資を司る。頗る石道に賞せらる。後皖に殲さる。ゲフフジン 陝婦人 (晉)姓字を知らず。年十九陝縣に發居す。叔姑に事へて甚だ謹む。其家之を嫁せむと欲す。婦自ら面を毀ら以て誓ふ。後叔姑病死す。其叔姑に女あり。誣告して曰く暇を乞ふを得ず、因て其母を殺す。有司察せずして之を誅す。時に群鳥あり戸上に悲鳴す其聲甚哀し。盛夏戸を暴らす十日腐せず。亦蟲獸に敗られず。其境を經て雨ふらず。呼延誤、太守と爲り、既に其寃を知る。乃ち其女を斬り、少年を以て其墓を祭る。諡して孝知貞婦と曰ふ。其日大に雨ふる。ケフレツ 怯烈 (元)西域の人。邊事に達練するを以て鎮西撫使に拜す。上の威徳を宣へ、雲南及緬甸を服せしむ。官、雲南行省右丞に至る。ゲンアイ 元曖 (隋)東海令たり。縣境に於て、西南は蒼梧山に接し、東北は巨平山

林岡嶽を以てす。ゲキハウ 郗萌 (晉)春秋吳興十五卷を撰す。ゲキマウ 劇孟 (漢)洛陽の人。俠を以て顯はる。文帝の時、吳楚反す。周亞父、船に乗じて河南に至り孟を得て喜て曰く、楚大事を舉ぐ而して孟を求めず、吾其能く爲すなきを知る。孟常に高陵の真盜を過き。盜善く之を待つ。或人曰く孟は博徒耳。將軍何ぞ自ら屈するや。孟曰く孟は博徒なり、然れども世死して客の會葬する者千餘乘、これ亦人に過ぐる者あるなり。是より深く劇孟と結ぶ。

ゲツ 桀 (夏)帝履癸を見よ。ゲツイウミン 揭佑民 (宋)廣昌の人。邵武丞たり。性抗直にして權威に屈せず、私利誘はれず。善く訟を斷す。世に稱せらる。ゲツガ 月娥 (明)西域の人。元武昌尹職馬祿丁の女也。少くして聰慧。諸兄經史を誦するを聽き、輒ち大義に通ず。長して葛通に適く。上下を撫事し禮法を乘る。長似盧、諸婦を率ゐて其教を受く。太祖江を渡る六年、僞漢の兵上游より下る。盧曰く太

平城郭あり、且兵守を嚴にす、恃む可し。娥をして諸婦を挾きみ往て避けしむ。未だ幾ばくならずして城陷る。月娥歎じて曰く、吾詩禮の家に生る、節を賊に失ふ可けんやと。躍て水に投ず。諸婦女相從ふ者九人。七日にして屍漸く浮ぶ、顔色生るが如し。鄉人曰穴を爲て之を合葬し、題して十

女墓と云ふ。ゲツセキサツジ 月赤察兒 (元)失烈門の子。性仁儉。奮怒として桑哥の罪を劾奏す。帝之を嘉みす。成宗の時大保録軍國車事に拜す。北邊を鎮して功あり。至大同、疾を以て第に卒す。較して香木の棺を作りて歿す。忠武と諡す。ゲツデキ 桀溺 (周)葉人。避世隱居す。孔子葉に過き長沮桀溺の耦して耕すを見、子路をして津を問はしむ。長沮曰く是れ魯の孔丘か、是れ津を知れるなり。溺曰く、滔々たる者、天下皆是れなり、誰と以て之を易んやと。耕して緩まず。ゲツリマシ 月里麻思 (元)乃馬氏。太宗の朝、宋に往き和を議す。宋將之を脅かす。風せずして罵る。乃ち之を囚ふること三十六年にして死す。ゲツレツコウシユ 月烈公主 (元)世祖の季女。愛不化に下嫁す。薨じて武襄公主と諡す。趙國大長公主と號す。ゲツロチウウル 月魯帖木兒 (元)幼しして聰敏、讀書強記なり。仁宗擢て、監察御史に拜す。犯顏極諫して身を顧みず。泰定帝晏駕す。伯顔、制を矯めて魯寧王を迎へしむ。辭して行かず。伯顔怒る。また事を以て丞相別不花と隙あり。乃ち乾寧安撫使に調せらる。順帝の至元六年召し還さる。紅巾盜起るや、平章政事に拜せられ、往て打漸に至り、淳安縣等を恢復す。徽州に次し、疾を以て軍に卒す。

に至るまで、兩堰を築きて以て海潮を排き、内は以て山間の流水を貯ふ。民、灌漑の利を得たり。

ゲンアン 殿安 (漢) 臨淄の人。武帝の朝、書を上て曰く、周之を失ふは弱なればなり、秦之を失ふは強なればなりと。上召し見て謂て曰く、公何くにか在りし何ぞ相見ることの晩きやと。郎中に拜し、後騎馬令となす。

ゲンアン 元安 (唐) 高僧。漢氏。鳳翔縣遊の人。夾山の末嗣。觀州洛浦山に住す。化元年十二月二日寂す。享年六十五。

ゲンアンシ 殿安士 (唐) 治を爲す殿。少宗嘗て誦を賜ふ事三日、五鳳樓に御す。御者喧しく淫樂奏するを得ず。命吾白挺雨の如きも止む能はず。上之を患ふ。高力士河南丞殿安の理を爲す殿なるを奏請して試みに之を止のしむ。安之至り手板を以て地を畫して曰く、此を犯す者は是死せん。三日其畫を指して以て相戒め敢て踰ゆるものなし。

ケンアンセツ 備安節 (宋) 字は信之。九江の人。知臨江軍たり。時に江水岸を囂み多、堤を傾くるに至る。安節、朝に請ひて縋綆ヲ干を得、重ねて修飾を加ふ。民甚だ之に賴る。

ケンアンワウ 建安王 (明) 中山と號す。善く翎毛を寫す。

ゲンイウ 阮裕 (晋) 字は思曠。陳留尉氏人。淹通有識、侍中に累遷す。疾を以て室

を會稽剡山に作る。命紫光祿大夫に徵す。就かず。嘗て好車あり借る者皆給せざる無し。人あり母を葬る。意借らむと欲して敢て言はず。裕後に之を聞て歎て曰く、吾に車あり而て人をして敢て借らざらむ、何を以て車となさむと。遂に之を焚く。裕、家に在るや蕭然として無事、常に懐に足るもの有るが如し。人あり、裕を王右軍に問ふ。右軍曰く、此の君寵辱に驚かず、古の沈寔と雖も何ぞ以て之に過ぎむ。

ゲンイウヨク 殿有翼 (宋) 紹興間南州に教授たり。學精しく理明に動もすれば師道を以て自任す。經髓を撰別して諸生に授く。意融りて言隨ふ。聞者争て之を聽き戶外履常に滿つ。

ゲンイツ 阮逸 (宋) 字は天隱。建陽の人。仕へて鎮東節度たり。景祐の初、樂事論十二篇を上り、胡瑗と與に召されて闕に赴き、同じく鐘律を校するを命ぜらる。分つて鐘磬各一處を造る。皇祐中更に太常鐘磬を鑄く。瑗逸近臣太常官と秘閣に議し、遂に作樂の事を興る。

ゲンイン 元愨 (晋) 樂書四卷を著す。ケンウ 甄宇 (漢) 字は長文。博士に拜せらる。曠日ごに詔して博士に各々一羊を賜ふ。宇、獨り其の瘦せたる者を取る。後、朝會あり。詔して瘦羊博士の所在を問ふ。ケンウ 阮瑀 (三國) 字は元瑜。陳留尉氏人。少うして學を蔡邕に受く。曹操屢ば許すれども起たず、乃ち山中に逃る。操、人を

をして山を焚かしむ。授くるに司空軍謀祭酒管記室を以てす。凡そ書檄多く瑤に出づ。帝適ま出づ。瑀隨從す。即ち馬上に草を具して之を呈す。帝覽畢つて改むる所あらむと欲す、而て竟に損益する能はず。建安七子の一。子籍、渾。

ゲンウ 殿羽 (宋) 字は丹丘。邵武の人。才名あり。詩に工なり。著す所の詩辨、議論精到なり。自ら滄海遺客と號す。滄浪集あり世に行はる。

ゲンウン 元雲 (南北) 魏の景種の子。雍州刺史となる。曠自ら修め庶獄を留め、豪傑を挫き、盜賊を息む。文明太后之を嘉みし、乃ち帛十疋を賜ふ。

ゲンエイ 殿英 (清) 字は臥山。烏程の人。山水を畫き、小米の法を得たり。猶松竹に工なり。人々爲り性癖、終身髮らず。晩歲游に倦み、盧を結び墓田に依て老ゆ。

ゲンエツ 元悅 (南北) 魏 宗室。開府儀同三司となり、尋て太保に遷り、出で、徐州刺史となる。能く異事を行ひ、盜賊屏息す。

ゲンエツ 阮閱 (宋) 字は閱修。建元の年冀州に知たり。初めて至り依本分の宋字を大書して四城の櫓壁に印榜す。郡民之に従て法を論まざ訟訴稀息す。乃ち四壁に榜して無訟堂となす。袁氏の爲に挿筆の勝を譽ぐ。後致仕して宜城に寓居し吟咏自適す。詩を撰す總て世に行はる。

ゲンエン 言偃 (周) 字は子游。吳人。孔罔辭し、遂に其廟を以て東夷に徙りて終身返らず。

ゲンカウ 原亢 (周) 孔子の弟子。字は子籍。魯人。

ゲンカウ 玄高 (晋) 高僧。姓は魏。本名は靈寶。馮翊萬年の人。浮馱跋陀禪師に師事す。僞魏太平五年九月十五日、福に就きて平城の東隅に卒す。春秋四十有三。宋の元嘉十一年なり。

ゲンカウ 殿顯 (宋) 字は威刑。吉水の人。皇祐の進士たり。河湟令と爲る。身を持するに廉を以てす。邑人其去るを惜み錢するに酒を以てす。舟行くと十餘里にして家人を發て金を得、之を顯に告ぐ。顯亟かに命じて舟を停め顯者を召して之を還す。

ゲンカウ 元衡 (宋) 字は公權。吳人。紹興間、進士を以て長州に知たり。年を踰えて湖南常平利州路提刑に改まる。至る所清操、官を踰えず。工部郎中に終る。

子の弟子。孔子より小きと四十五歳。文學も長ず。嘗て魯の武城宰と爲り絃誦を起して之を治む。孔子莞爾として笑うて云ふ、鶴を割くに焉んぞ牛刀を用ひんと。既にして又いふ、前言は之に載るものみと。澹臺滅明が賢を知り之を取る。

ゲンエン 元衍 (南北) 字は安樂。魏の宗室。性情慎なり。州刺史に位す。喪請合はず。徐州刺史に轉ず。州に至りて病む。帝、詔して之を勞ふ。

ゲンエン 源延 (南北) 賀の子。性謹厚、少にして學を好む。侍御となり、爵、廣武を賜ふ。諡して簡と曰ふ。

ゲンエンメイ 元延明 (南北) 後魏の宗室。先に徐州刺史となりて人の譽を得、元法僧を討ずるに及びて舊士を招懷し遠近之に歸す。後、徐州を都督す。徐州、師旅頻りにして人物凋散す。延明新故を招待す。人悉く樂に安んず。

ゲンオンギ 殿恩義 (宋) 字は仲和。臨川の人。乾道の初、進士たり。人を勵ふるに踐履を以て先と爲す。朱熹之を驚む。仕へて襄陽府府に至る。民活を全うするもの甚だ衆し。老て故里に歸りて卒す。年九十四。

ゲンカウ 弦高 (周) 鄭の穆公の元年、秦の穆公、三將に兵を率わしめて鄭を襲はんと欲し、滑に至る。鄭の賈人弦高、鄭伯の命を承めて十二牛を以て軍を勞ふ。故に秦の兵、鄭に入らずして還る。鄭、爲に存するをを得たり。鄭伯、高を賞せんとす。高、

眞に至る。

ゲンガ 源賀 (南北) 四平の人。容貌偉なり。魏に事へて、爵、四平侯を賜はり、功を以て平西將軍に進む。太武、梁州を征するを以て、源賀を遣はす。冀州刺史に累官す。魏西王に封ぜらる。嘗て十二陣圖を上る。卒して侍中を贈り、諡して宣と曰ふ。

ゲンガ 元雅 (明) 太原の人。巡撫と爲ること數月。崇禎二年十一月、清兵進化に臨むに遇ひ、自ら縊れて死す。

ゲンカイ 元諧 (隋) 洛陽の人。寧州刺史たり。威惠あり。州にあると數年、百姓之を徳とす。家世々貴盛、資性豪俠なり。少き時高祖と同じく學ふ。甚だ相友愛す。嘗て友に謂て曰く、我は是主人、殿上の者は賊と。遂に忌まれて殺さる。

ゲンカイサン 殿海珊 (清) 康熙末年の詩家。

ゲンカウ 權皋 (唐) 字は子由。安祿山の幕府に在り、其の必ず反するを度りて速かに去る。玄宗帝召して起居舍人と爲す。就かす。その名、車行傳入る。子あり徳興といふ。

ゲンカウ 弦高 (周) 鄭の穆公の元年、秦の穆公、三將に兵を率わしめて鄭を襲はんと欲し、滑に至る。鄭の賈人弦高、鄭伯の命を承めて十二牛を以て軍を勞ふ。故に秦の兵、鄭に入らずして還る。鄭、爲に存するをを得たり。鄭伯、高を賞せんとす。高、

ゲンカウ 弦高 (周) 鄭の穆公の元年、秦の穆公、三將に兵を率わしめて鄭を襲はんと欲し、滑に至る。鄭の賈人弦高、鄭伯の命を承めて十二牛を以て軍を勞ふ。故に秦の兵、鄭に入らずして還る。鄭、爲に存するをを得たり。鄭伯、高を賞せんとす。高、

ゲンカウ 殿汎 (清) 字は子雲。餘姚の人。

ゲンカウ 殿汎 (清) 字は子雲。餘姚の人。

ゲンカウ 殿汎 (清) 字は子雲。餘姚の人。

ゲンカウ 殿汎 (清) 字は子雲。餘姚の人。

順治乙未の進士。官、戸部侍郎に至る。詩を以て世に名あり。其詩を讀する者あれば時に照じて改定す。遠近稱して徳人と爲す。ゲンカウキン 元行欽 (五代)後唐の莊宗に仕ふ。李嗣源叛し、其將郭從謙、帝を攻む。帝、流矢に中りて崩す。行欽出奔して平陸に至り、野人、執へられて魏州に送らる。刺史石潭、其兩足を折り截するに檻車を以てして京師に送る。嗣源之を罵る。行欽屈せず。遂に洛陽の市に斬らる。市人之が爲に流涕す。

ゲンカウチヨ 阮孝緒 (南北)字は十宗。尉氏の人。一室に屏居し定省に非ずんば未だ嘗て戸を出てず。大中丞任助、望んで嘆じて曰、其の室は即ち運く其の人は甚だ遠しと。姉は鄱陽王の妃たり、王嘗て篤を命じて訪ふ。垣を鑿つて遁る。

ゲンカウブン 元好問 (金)字は裕之。遺山と號す。太原秀容の人。年十四にして陝川の郝晉卿に從ひ學ぶ。六年にして業成る。時に趙秉文、禮部に官して重名あり。好問の箕山琴臺等の詩を見て曰く、近代此の作なしと。之を招ぐ。好問の名、京師に震ふ。官は尚書省左司員外郎に至る。金亡びて仕へず、著作を以て自ら任ず。大に金國の實録を修む。卒する時年六十八。其詩文、俱に精妙にして元代の雄たり。

ゲンカク 玄覺 (唐)高僧。字は明道。載氏。一宿覺と號す。初め台宗を窮め、後曹溪に至りて疑ふ所を決す。先天二年十月十七日寂す。年四十九。眞覺大師と謚す。著す所、證道歌、永嘉集等あり、盛に世に行はる。ゲンガク 阮鵬 (明)桐城の人。官浙江提學副使たり。時に倭寇屢來り犯す。初め能く拒く。後賊、賂ふに羅綺、花金及庫銀を以てす。竟に斥けられて庶民に歸す。

ゲンカヒン 嚴嘉賓 (宋)字は道遠。嘉謀の弟也。乾道進士たり。強學倦ます。後進師表と爲す。孝友に篤く兄弟同肩する。こゝ二十餘年。益友愛に篤し。父子兄弟俱に學行を以て時に聞ゆ。士林之を重んず。ゲンカボウ 嚴嘉謀 (宋)字は道遠。九齡の子也。世々儒を業とす。里中に教授たり。嘗て其經術孝廉を以て朝に薦めらる。士大夫其行誼を列れて旌表を加へんことを請ふ。上其請を可す。

ゲンカン 阮咸 (晉)字は仲容。阮瞻の孫。任達不拘、當世其の所爲を怪まざる莫し。唯だ太原の郭奕之を見て心酔せり。籍と名を賢しうす。仕へて散騎侍郎となる。音律を妙解し善く琵琶を彈す。出て、始平太守に補せらる。咸、籍と道南に居り、晴阮道北に居り。北阮富み南阮貧し。七夕の日北阮衣を曬す、錦綺日に燻す。咸竹竿を以て横鼻を曬し、掛けて曰く、未だ俗を免るゝ能はず、聊か復た爾ののみさ。顧延年五言詠云、

仲容背雲器と。又云、果腹不入朝、一塵乃出守と。山濤成を擧て吏部郎となし、目して曰く清眞寡慾、萬物も移す能はざるなり、若し官に在り職を共にせば、妙時に絶せむと。竹林七賢の一。ゲンカン 元嬰 (南北)字は紹遠。後魏の宗室。沈重にして言少く、寛和にして士を好む。徐州刺史となる。徐兗大水に關し人多く飢餓す。嬰表して賑恤を加ふ。人頼りて以て安し。

ゲンガン 嚴顔 (三國)劉璋巴郡を守らしめし。飛飛の爲に擒せらる。顔曰く斷頭將軍あり、降將軍なしと。飛怒て命じて之を斬らしめんす。顔、色を變ぜずして曰く、頭を斬らんと欲せば便ち頭を斬れ、何をか怒る邪と。飛壯として之を釋す。

ゲンガン 元嚴 (隋)字は君山。洛陽の人。好みて書を讀み、名節を以て自ら許す。周に仕へて御史大夫に累官す。隋初、兵部尚書に拜せらる。世務に明達し、廷争面折、避する所なし。後、益州總管となる。蜀王化奢なり。嚴之を切諫す。後ち蜀王非注をなす。文帝曰く、元嚴若し在らば吾見豈に是に至らんやと。ケンギ 蹇義 (明)字は宜之。巴人。初名は塔。洪武十八年の進士。中書舍人となる。五世に歴仕し、老を乞て歸る。正統の初卒す。年七十三。太師を贈り、忠定と謚す。ゲンキ 嚴忌 (漢)中牟の人。初姓を莊と云ひ後、明帝の諱を避けて嚴と稱す。司馬

相如と俱に同賦を好む。時に景帝辭賦を好まずして志を得るに所なし。會々梁孝王文を好むと聞き徒歩して梁に入る。知を孝王に受け鄒陽枚乘と俱に尊重せらる。而して忌名尤著はる。世嚴夫子と稱す。

ゲンキ 元暉 (南北)字は叔平。洛陽の人。周に仕ふ。相國中兵參軍に補せられ、武伯下大夫に遷る。時に突厥入寇す。暉をして錦練を齎して出て、使せしむ。暉、説くに利害を以てす。可汗大に喜び、其名王を遣して方物を獻す。兵部尚書魏州刺史に累轉す。

ゲンキ 玄暉 (唐)嘗て朱余忠の腹心たり。朱友恭と謀り余忠の爲に帝を弑す。洛に遷るの後、余忠有司に命じて之を車裂す。ゲンギ 元暉 (唐)貞元中、邢州刺史たり。水利を備にして功あり。

ゲンキウ 源休 (唐)口辯あり。同統に使す。殺されんと欲する者數四。而かも屈せず。使して還り、光祿卿に除せらる。ゲンキウレイ 嚴九齡 (宋)字は德延。新喻の人。質敏にして學を嗜む。里塾に教授し高踏して仕へず。紹興の間、薦に擢りて出でず。年九十四にして卒す。

ケンキケツ 甄奇傑 (明)崇禎中の人。官副總兵たり。十五年春、開封の役に賊を河南に撃ちて戦殺す。ゲンキツ 元結 (唐)字は次山。汝州の人。嘗て安祿山の亂を避けて樊上に居り。自稱二あり。曰く酒徒、曰く漫叟。二子あり。

長は叔聞、呼て直者となす。次を叔靜といふ、呼て正者となす。韓愈、唐の文人を稱して獨り元結に及ぶ。結、嘗て道州刺史となる。杜甫嘗て曰く、天下をして結の報十數公を得て、參錯して邦伯たらしめば、萬物氣を吐き海内又安ならんやと。

ゲンキマウ 嚴希孟 (宋)沿海の人。文に博く史に通ず。尤詩に長ず。父文式蚤く卒す。家頗る寒約なり。母李氏衆を御するに法あり家を持する極めて嚴。希孟惟母命に是れ從ふ。家日に裕かなり。元祐三年母病瘵を感ず。希孟愛へて藥すれども効なく。禱れども驗なし。密かに股肉を割きて炊て以て母に啖はしむ。其疾遂に愈ゆ。鄉人之を稱す。母終に喪す。葬、禮の如し。是より人と相接する未だ嘗て其笑容あるを見ず。

ケンキン 權謹 (明)字は仲常。徐州の人。十歳父を喪ふ。即ち哀毀す。母に奉じて至學。永樂四年、樂安知縣を授けられ、光祿署丞に遷さる。省侍を以て歸る。母年九十にして終る。墓に廬すること三年。有司聞す。即ち文華殿大學士に拜す。謹辭す。仁宗帝曰く、朕卿を擢て、天下に子たる者を風す、他は卿の責に非らずと。尋て皇太子に扈從し、南京に監國す。宣宗位を嗣ぐ、疾を以て歸を乞ふ。通政司右參議に改め、白金文綺を賜うて致仕せしむ。

ケンキヨ 嚴璠 (唐)德興の子。官、監察御史たり。ゲンキヨ 嚴舉 (漢)巴郡の人。延熹中、

父の爲に喪を持して禮を盡し誠を盡す。因て閭に旌表せらる。ゲンク 嚴翽 (漢)哀帝の時潁川の太守たり。翽、孝行のものをして官せしむ。操更を謂て師友と爲す。若し過あれば鞭ら關を閉ちて自ら責め終に大言せずして、郡中治まる。王莽使を遣はして翽を徵さしむ。官屬數百人爲めに祖道を設く。翽地に據て哭す。操吏曰く、明府吉徵、宜しく此の如くなるべからず。翽曰く吾潁川の士を哀む、身豈憂あらんや、我柔弱を以て徵せらる、必剛猛を以て代へん、代到らば將に僱介するものあらんとす、故に相弔するのみと。拜せられて美俗使者と爲る。

ゲンクワイ 權會 (南北)南齊の人。少にして鄭易詩書禮を受け、文義該洽、諸儒の推す所たり。ゲンクワイ 源懷 (南北)源思禮を見よ。ゲンクワイ 嚴怪 (清)華亭の人。本名は載。畫に工みなり。其山水を畫くや好て奇境を立つ。嘗て一古藤の蔓延蟠して兩山頭を糾結し、一人崎嶇攀援して下るを畫く。大抵此類也。家極めて貧なれども多金を以て之を眩せしむる能はず、勢も亦風せしむ可らざるなり。故に人目して怪と爲す。怪之を聞て喜びて遂に自ら名とす。ゲンクワイケイ 元懷景 (唐)張說、その必貴きを知り、女を以て之に妻はす。屬文要義十卷を著す。ケンクワイシ 權懷思 (唐)萬年令たり。

賞罰明決、悪を見れば鞭打斥く。盛服する毎に妻子も敢て仰ぎ見ず。五州の刺史に歴任す。居る所威名赫々、吏民皆畏服す。

ゲンクワウ 嚴光 (漢)字は子陵。小字は狂奴。新野の人。少うして高名あり。光武と同じく游学す。光武帝に即くに及びて姓名を變じ身を隠して見えず。帝其賢なるを思ひ、物色して之を訪れしむ。後齊國上書す、曰く一男子あり羊裘を被て澤中に釣ると。帝其光ならんを疑ひ、乃安車玄纁を備へて使を遣はして之を聘す。三反して後至る。車駕即日其館に幸す。光臥して起たず。帝其臥所に即き光が腹を撫して曰く、唯々子陵相助けて治を爲す可からざるかと。後引て内に入れて道を論ず。因て共に偃臥す。光足を以て帝の腹に加ふ。明日太史、奏す、客風帝座を犯すこと甚だ急なりと。帝欺じて曰く、朕故人嚴子陵と共に臥せるのみと。諫議大夫に除す。風せず。富春山に耕す。後人其釣せし處を名けて嚴陵瀬と爲す。釣臺は桐廬縣の南、東西二臺あり高各數丈、下に羊裘軒、客星館、招隱堂あり。

ゲンクワウイウ 源光裕 (唐)乾曜の族孫。官に居る清感と號せらる。諸弟を撫する友義あり。中書舍人となる。楊泗留令植と同じく開元新格を刪著す。尚書左丞を歴す。會々諸司の長官を選びて刺史となす。光裕、鄭州に任ぜらる。世、良吏となす。官に卒す。子あり消といふ。

ゲンクワウコウ 甄皇后(文昭) (三國)魏の文帝の后。明帝の母。中山無極人。三歳父を失ふ。後天下兵乱、加ふるに饑饉を以てす。時に后の家甚富あり。后母に白して穀を以て親族郷里に賑給す。建安中袁紹、中子熙の爲に之を納る。熙出て、幽州たり。后留て姑を養ふ。冀州平ぐに及び文帝后を鄴に納る。寵あり。明帝及東郷公主を生む。鄴后李陰貴人愛幸せらる。に及び后失意して怨言あり。帝大に怒りて延康二年六月使を遣して死を賜ふ。鄴に葬る。文昭甄皇后と曰ふ。

帝の皇后。名は胡昭。魏文帝第五女。帝廢せらる、や后出俗して尼となる。建徳の初、皇后となる。革命の後出て、里第に居り。

ゲンクワウコウ 元皇后(敬) (南北朝)齊の文襄の皇后。魏孝靜帝の妹。容徳兼美。河間王孝琬及兩公主を生む。武平中崩す。ゲンクワウテイ 元皇帝 (三國)魏主第五世。姓曹。名奐。字景明。武帝の孫。燕王宇の子。司馬昭の爲に立てらる。政權凡て司馬氏に在り。立て六年迫られて位を司馬炎に譲り封じて陳留王とせらる。後晋人之を元帝と諡す。改元するもの二、景元、咸熙。ゲンゲイ 軒輅 (明)字は惟行。鹿邑の人。永樂末の進士。行人司副を授せらる。左都御史に累擢す。天順八年夏、老を以て骸骨を乞ひ、報を俟たず、徑に家に歸り、浴を具して欠伸して卒す。ゲンゲイ 殿卿 (三國)晋人。卜筮を善くす。ゲンゲイアン 元景安 (南北朝)洛陽の人。沈敏にして幹局あり。齊に仕て襄陽令より累遷して七兵尚書を兼ね。時に初めて長城を築き、鎮戍未だ立たず。景安に詔して、諸將と憲に練り以て守備せしむ。景安、毫も犯すなし。帝深く之を嘉す。ゲンゲイウン 權景運 (隋)南陽に守たり。また荊州を鎮す。到る所盛名あり。ケンケイセン 權景宣 (南北朝)字は暉遠。天水顯道の人。兵權に曉かに智畧あり。四魏に仕へて南陽郡守と爲る。郡、敵境に臨

む。舊制、人を發して防守し多く農業を廢す。景宣至りて惟だ城壁を修起し多く器械人馬を備ふるのみ。民、碑を建て、徳を頌す。後周の時、荊州刺史に累官す。爵、千金郡公たり。卒して恭と諡す。

ゲンケツ 原傑 (明)字は子英。陽城の人。正統十年の進士。南京御史より山東左布政使に歴遷し、成化中、右都御史より南京兵部尙書に擢し、南陽に卒す。年六十一。太子太保を贈る。子あり定敏といふ。

ケンケン 甄權 (唐)中山の人。嘗て母の病を以て、弟立言と與に心を醫方に専らにして、其旨趣を得たり。隋の開皇の初、秘書省正字と爲る。

ゲンケン 原憲 (周)字子思。魯人。或はいふ宋人と。孔子の門人。孔子より少きと三十六歳。嘗て耻を孔子に問ふ。子曰く、邦道あるに殺し、邦道なきに殺するは耻なりと。孔子卒して後、隠れて草澤の中に居り。

子貢、衛の相と爲り駟を結び駟を連れ藜藿を排きて憲が窮廬を過ぎる。憲、敝衣冠を挿けて子貢を見る。子貢曰く、夫子豈に病むか。憲曰く、吾れを聞く、財無き者、これを賢さいひ道を學んで行ふ能はざる者、これを病さいふ、憲が如きは貧なり、病に非ずと。子貢慚ちて懼はずして去り終身その言の過ぎたるを耻つ。

ゲンケン 元融 (晋)會稽の世子。性苛刻にして生殺其意に任せり。東土諸郡の免奴を發して客とし、樂屬と號す。後遂に驕殺

せらる。ゲンケン 嚴憲 (晋)杜有道の妻。京兆の人。貞淑謙量あり。年十三杜氏に適く。年十八にして娶居す。二子あり男は植、女は驪。憲嘗て節を守り之を撫育す。後、植名聲時に顯はれ、驪亦淑行あり。傳玄其女を求む。憲便ち之を許す。時に玄、何晏と隙あり、毎に之を害せむと欲す。憲許すに及び親戚憂懼を爲す。憲曰く晏等驕侈、必ず自ら敗るべしと、遂に婚を爲す。尋て何晏誅せらる。植後南安太守と爲る。從兄預、秦州刺史と爲り、誣ひられて還る。憲曰く諺に云ふ、辱を忍べば三公に至ると、卿今辱を謂ふべし、能く之を忍べ。後預預果して三公に至る。傳玄の子成、年六歳憲を省す。曰く汝は千里駒なり、必ず遠く至るべしと。成後海内に名あり。其知人の鑒、此の如し。卒する年六十六。

ゲンケン 阮元 (清)字は伯元。雲台と號す。江蘇儀徵の人。乾隆五十四年進士となり庶常散官第一に選はれ編修を授けらる。後累官して休仁閣大學士に至り太傅銜を加へらる。道光二十九年薨す。年八十有六。文達と諡す。元三朝に歴仕して聖眷皆隆なり。山東浙江に督學し浙江江西河南に巡撫たり。兩湖兩廣に總督たり。嘉慶の朝、道

光の朝御書福壽の字及亮功錫祐の扁額を賜ひ七十の壽をなす。重れて鹿鳴宴に赴く。宣宗の朝手教報じて曰く、願はくは卿の福壽

日に増さむことをと。元、浙を撫する時詰經精舎を立て、海寧安瀾書院を立て、玉環廳學宮を建て、奏して學額を設く。杭嘉等の郡に昭忠祠を立て、海塘志を修し、經郭及海運考阿浙金石志積古齋鐘鼎款識を撰す。史館に在り儒林傳を草し百四十六人を得たり。又四庫未だ收まらざるの書六十種を進め提要を作りて之を上る。兩廣に總督たるの時鴉片を嚴禁し、洋商夷商を賤視するを務となし、事毎に之を裁抑す。天下是より漸く多事あり。十三經校勘記皇清碑版録研手經室集等の著有り、先後刊行す。

ゲンケンエウ 源乾曜 (唐)相州臨漳の人。進士に第す。神龍中、殿中侍御史を以て、出て、江東を知す。諫議大夫に至る。開元中、相に拜せらる。帝、東幸す。京兆尹を以て京師に留守す。治、寬簡を尙ぶ。居ること三年、政、始めて至れるとよの如し。

ゲンケンヒ 權賢妃 (明)成祖の妃。朝鮮の人。永樂の時、朝鮮、女を貢し掖庭に充つ。妃與かる。姿質穠粹、善く舞を吹く。帝之を愛す。七年賢妃に封す。其父永均、光祿卿と爲る。明年十月北征凱還に侍し、臨城に薨す。

人。來りて興漢の關興寺に止まり、常に禪定を業となし、又律行に善し。隆安五年卒す。
ゲンゴ 玄悟 (金)僧。語言文字一切相忘れ、而して獨り意を詩畫に寓す。山水に工に、復た墨竹を善くす。士大夫其寸瓊片璧を得れば寶とせざるなし。然るに一筆の畫も皆宗旨あり、妄りに作らず、亦妄りに與へざるなり。

ゲンコウ 元公 (周)魯の君。姫姓。名は嘉。悼公の子。國を享くること二十一年。
ゲンコウ 獻公 (周)魯の君。姫姓。名は詭。武公の子。驪戎を伐つ。姫を得之を愛す。驪姫子奚齊を生む。之を立てんと欲し太子申生を公に讒す。申生自殺す。公子重耳、夷吾、皆出奔す。此時晉益強くして四河内を有して秦と境を接し、北魏に邊し、東河内に至る。立て二十六年にして卒す。

ゲンコウ 獻公 (周)魯の君。姫姓。簡公に嗣ぐ。十四年孔子卒す。國を享くること二十八年。
ゲンコウ 獻公 (周)魯の君。姫姓。名は師。懷公の子。出子の後を承く。立て二十四年にして卒す。
ゲンコウ 獻公 (周)魯の君。姜姓。呂氏。名は山。胡公の弟。胡公を殺して自立す。徒りて隨潛に治す。
ゲンコウ 獻公 (周)魯の君。姫姓。名は厲。厲公の弟。國を享ること三十二年。
ゲンコウ 獻公 (周)魯の君。姫姓。名は釐。釐公の子。立て十一年にして卒す。

ケンコウ 奉弘 (三國)招の次子。猛毅にして父の風あり。魏の將鄧艾に隨ひ蜀を伐つて功あり。振威護軍に拜せらる。
ケンコウ 元后 (華勝) (南北)周の宣帝の后。名は樂尚。河南洛陽の人。開府儀の第二女。年十五貴妃に拜せられ、後皇后となる。帝崩じ出家して尼となり、名を華勝と改む。

ケンコウ 元緯 (宋)字は厚之。饒塘の人。天聖中の進士。江西轉運使となる。儂智高、嶺南に反す。官軍、邕州に宿す。緯、軍餉を供して功あり。翰林學士に累遷す。文詞に工に、名人皆推して之を許す。參知政事に拜せられ、卒して莊簡と諡す。
ケンコウダウ 阮弘道 (明)潯人。家世儒たり。太祖に従つて江を渡り、初め郎中に除せらる。元果と簿書の事を掌り、勤勞十餘年。福建江西行省參政を歴、官に卒す。

ケンコウ 阮洪威 (南北)豫州刺史に除せられ、尋て趙繼宗等と亂を起す。後に誅せらる。
ケンコウ 嚴毅 (清)字は佩之。生軒と號す。無錫の人。性孝友、篤學好古。經史百家讀まざるなし。猶心を易春秋に潛む。著す所の書、率れ經學多し。布衣を以て終る。
ケンコウ 堅胡常 (宋)乾道三年、右朝散大夫を以て豫州に知たり。
ケンコン 阮暉 (晉)阮瑀の次子。字は長成。乃父の風あり。
ゲンサ 元叉 (五代)魏に仕へ侍中領軍將

軍たり。太傅侍中清河文獻王暉に諱す。曾て陰に謀る所あり。暉を殺し延て太后を幽す。後に死を賜はる。
ケンサイ 甄濟 (唐)字は孟成。無極の人。學を好みて奇巖山に隱居す。遠近その節を高しとし、山を環りて敢て樵採せず。諸府の辟召、皆起たす。玄宗、嘗て強ひて安祿山の中府に致す。濟、祿山の反謀あるを知り、遂に脱遁す。祿山反す。刃を緘して以て使に授けて曰く、即ち起たすんは其頭を斷ちて來れと。使至る。濟、頭を引きて刃を待つ。使、嗟歎して止む。後、肅宗召して耶を授く。太子會人に遷る。

ケンサイ 嚴載 (清)嚴怪を見よ。
ケンサン 嚴榮 (宋)字明卿。邵武の人。毛詩に精し。輯る所の詩、嚴氏詩輯と名く。
ケンシ 涓子 (周)涓淵を見よ。
ケンシ 元志 (南北)北魏の公子也。少にして清辯志操あり。
ゲンシ 源師 (南北)字は踐言。彪の子。少にして名を知らる。明辨にして識あり。齊に仕へて尚書左丞となる。明幹を以て稱せらる。
ゲンシ 元氏 (元)元道山の妹。張平章之を娶らんと欲し往いて其向ふ所を探る。元氏補天花板の詩を作る。曰く、補天手殷曾應張、不許纒塵落畫堂、寄語新來雙燕子、移巢別處舊離梁。張見て悚然として敢て言はずして退く。

ゲンジ 嚴滋 (宋)字は泰伯。臨川の人。
萬を四郊に成く。民情洵々たり。之を至り心を盡して調劑す。明年五月、獻忠復た反し原を劫し囚を縱し、其城を毀つ。之を綱樂を仰いて未だ絶えず。獻忠使を遣して印を索む。堅く與へず。賊遂に之を殺す。後詔して尚書少卿を贈る。
ゲンシフキヨ 元集虛 (唐)河内の人。少にして群籍を好み、仕へて協律郎となる。三教に精通し儒を以て主となす。南游して廬山の勝を愛し、溪亭を東南五老峯下に結び、自ら山人と稱して復た出で仕へず。白居易、柳宗元、韓愈と善し。
ケンシフケイ 權襲慶 (南北)起の子。周に仕へて開封府に奉職す。齊と并州に戦ひ、圍を破ると百餘重。力戦矢盡き、短兵相接戦す。殺傷甚だ衆し。刀稍皆折る。胃を脱して地に擲ち、賊に向て大に罵て曰く、何ぞ來りて頭を斫らざると。賊遂に之を殺す。
ケンジン 堅鐔 (漢)字は子儂。襄城の人。吏能を以て光武に従つて偏將軍と爲り、每戦輒ち先づ矢石に當る。功を以て合肥侯に封せられ形を雲臺に繪る。
ゲンシン 原臣 (漢)高平の人。周大夫原伯魯の後。嘗て谷口令となる。古の循史に方ぶ。子孫遷りて陽城に居り。
ゲンシン 元稹 (唐)字は微之。河南の人。元和の初、對策して制科第一に擧げられ、左拾遺に拜せらる。憲宗の時、西北の邊事を陳ぶ。召して得失を問ふ。當路者之を惡み、出して河南尉と爲す。既にして監察御

端莊明敏。進士に擧して第せず。十論叩關を著す。晚に賓陽主簿たり。密松憲稱、守軒草錄、征東雜著あり、家に藏す。

ケンシウ 奉秀 (晉)字は成叔。辯博にして學あり。弱冠にして美名を得、新安令と稱せらる。金谷二十四友、秀は其一也。
ケンシウ 阮脩 (晉)字は宣子。咸の從子。老易を好む。性簡約、意度豁然、俗人を見ざるを喜ばず。時に誤つて相逢へば即ち舍て去る。常に歩行するや百錢を以て杖頭に掛け、酒肆に至り便ち獨り暢飲す。世爵富貴其の懷に入らず。家に擔石の儲無くして晏如たり。林阜の間に自得す。後太子洗馬となる。年四十貧にして未だ室有らず。王敦等錢を飲して爲に娶る。時に錢を入れむことを求めて得ざるものあり。

ケンシウブン 元秀文 (宋)德昭の子。奉宗の父。
ケンシウホ 蹇周輔 (宋)善く文を著はす。神宗、高麗に答ふる書を命じて旨に稱ふ。
ケンシキヨウ 源子恭 (南北)字は靈順。子邕の弟。聰明にして學を好む。尚書主客郎に遷る。前後征討の功あり、臨穎縣侯に封せらる。

ケンシゲン 乾思彦 (唐)性剛備、質遠亮。贈るに詩を以てして云く、志氣百年内、平生一寸心、欲友天下士、未面已傾襟。
ゲンシシヤウ 元仔昌 (五代)德昭の父。
ゲンシセキ 元子哲 (唐)崇仁令。惠澤民に及ぶ。時人爲に遺愛碑を立つ。

ゲンシツウ 阮思聰 (宋)字は仲謀。固始縣の人。弱冠にして臂力人に絶し、騎射を善くす。善く左氏春秋及兵家の書を讀む。戰功を積み、吉州團練使知黃州事に累官し、來りて健康に居り。至る所聲あり。嘗て人を遣り賈似道に詣り、重兵を以て鹿門山を守らむと欲す。又言ふ當に海道に由り以て青齊を擣げば、則ち襄陽の圍自ら解くべしと。皆聽がれず。所潰ゆ。思聰健康に歸る。權司馬徐王榮、都統翁福等來り告げて曰く、大兵且に至らむとし、趙制置巴に去り、城中惟だ節史、官高し、望むらくは一城の命を救へ。思聰曰く、我は宋の臣子也、宋に恩を受くること厚し、敢て城を以て獻せず。王榮等強ふ可らざるを知り乃ち止む。

ゲンシダウ 阮思道 (宋)字は思恭。建陽の人。中ごろ南唐進士たり。後宋に歸して史館檢討たり。歷官して韶衢永三州を守る。威な政聲あり。
ゲンジツ 嚴實 (元)字は武叔。泰安長清の人。志氣豪放。宗末降す。尚書省の事を行ふ。征行に無辜を戮せず。太宗の時卒す。遠近悲悼せざるなし。中統の初、魯國公に追封し、武惠と諡す。

ゲンシデン 阮之錮 (明)字は實甫。桐城の諸生。崇禎中、詔を下して人才を保舉す。同郡の驗德劉若宰、之錮を以て應ず。殺城知縣を授けらる。十一年正月、之錮未だ至らず。張獻忠、襲て其城を陥れ、搥て以て撫を求む。總理熊文燦之を許す。乃ち其衆數

史に拜せられ、事に遇ひて教育す。太和間、尚書左丞となりて卒す。長詩に於ては白居易と名を齊しうす。時に元白と稱し元和白と號す。宮中呼んで元才子と爲す。元、湖西に守たり、白、綵畫に牧たり。驛を呼んで詩商を過す。酬和千篇に至る。云へるあり、有月多同賞、無杯不共持と。又、寶蓋と唱和し、蘭亭絶稱と號す。元氏長慶集百卷及び小集十卷あり。世に傳はる。

ゲンシン 阮説 (唐)字は孝祥。奉化の人。茂德粹和。煩劇に處して遜色なし。三禮穀梁春秋に通す。徒に其辭に習ふのみならず、幼くに程法あり。海右の士譽て其淳風を慕ふ。父毅、太子右贊善大夫たり。進士に擧げられて第せず。父の任を以て太廟齋郎となり、臨黃東海尉を歴。東海に父子居を異にし、子養をなさざるものあり。誦人をして之を問はしむ。對ていふ以て奉ずるなきのみと。之に米肉を遣り且つ贖金を以て之に資す。其子悔悟して克く孝なり。尋て婺州法曹參軍に調せられ、大理評事員外司勳尚書郎に累遷す。桂冠して里に歸る。里中の附職士二三名士と徜徉して以て終ふ。子綜、縉皆郷貢に擧げらる。

ゲンシン 嚴俊 (唐)梓州の人。震の兄也。進士に擧げられ行軍司馬に累官す。ゲンシン 嚴震 (唐)梓州の人。與鳳阿州の團練使と爲る。積草其治行を狀し山南第一と爲す。後山南西道節度使に遷り同平章事に累進す。卒して太保を贈らる。忠穆と

諡す。ゲンシン 嚴參 (宋)字は少魯。羽の族也。或人交を廣めて譽を延くを勤むれば、則耳を掩うて答へず。山林に高臥して一切を廢視す。自ら三休居士と號す。羽、仁名を齊うす。世に三嚴と號す。ゲンシン 彦深 (元)工に佛像を寫す。尤も善く觀音を畫く。ゲンシン 元津 (月)字は人。震濼を討するの功を以て、入つて史に擢任せらる。直聲あり、福建副使に終る。ゲンシン 原眞 (明)高僧。用藏と號す。松江上海の朱氏の子。與聖寺に居り。洪歷乙丑四十二歳にして寂す。

ゲンジン 嚴仁 (宋)字は次山。羽の族也。好古博雅。嘗て長恨歌を作り、時に傳誦せらる。又清江歌乃歌あり世に行はる。ゲンジンケイ 元仁憲 (唐)洛陽の人。北魏武陵王雄の孫。幼にして岐嶷、器局あり。大業中、隱れて山林に居り。唐高祖と舊あり。武徳の初、右千牛を以て河源縣令に擢てられ、克己政を爲す。變額其忠信に化す。淳州刺史に終る。ゲンシンチヨク 元震直 (明)字は子敏。烏程の人。洪武中頼りに糧餉を給せしを以て特に通政司參議を授けらる。工部尚書に累遷す。成祖即位の初山西を巡視し澤州に至り病て卒す。ゲンジメイ 嚴自明 (清)陝西鳳翔の人。明の參將たり。順治元年清に降り、荐に廣

東提督に擢てらる。進忠等を征し功あり。康熙十二年吳三桂の僞勅を得、叛して之に應ず。未だ機ならずして歸順す。尋て病死す。ゲンシヤウ 弦章 (周)齊の景公、宋を伐つ。高きに登りて歎息して曰く、今臣に管仲なしと。管對て曰く、臣之を聞く、水廣ければ則ち魚大に、君明かなれば則ち臣忠なりと。昔は桓公あり、固より管仲あり、假令へば桓公をして此に在らしめば則ち軍下の臣必ず管仲あらんと。ゲンジヤウ 玄奘 (唐)高僧。本姓は陳氏。漢の太丘仲丘の後なり。初め兄長捷法師に淨土寺に就き、貞觀三年西遊し百難を排して印度に入り、唯識を戒賢論師に受け、同十九年長安に歸る。弘福寺、慈恩寺、玉華宮に於て諸經論を譯す。凡そ七十一部、玉華宮に寂す。壽六十五。帝朝を觀むること三日、勅して之を葬る。會葬者萬人といふ。弟子窺基、神泰、棲元、會隱、慧立、明滂、義褒、大乘光等の俊傑あり。ゲンジヤウ 元讓 (唐)明經に擢てらる。母の病を以て背て調せられず。郷里の訟ふる者、皆讓の判を誼しとす。ゲンシヤウエイ 嚴昌裔 (宋)字は慶會。靈陵の人。紫巖先生張洙水州に誦せらる。昌裔其門に登て學を受く。南軒實之と友たり。

ゲンシヤウジン 蹇昌仁 (唐)陰符經一卷を註す。

ゲンシヤウレイ 阮昌齡 (宋)建陽の人。

俊敏賦を能くす。楊億稱して奇才となす。劍外に仕へて異政あり。張詠の知る所となり、代を得て徒行して北に歸る。詠遠るに所乘を以てす。仍て朝に薦め終に殿中丞たり。

ゲンジユ 嚴綬 (唐)初湖州を過ぎて閩州尉李達に謁す。達他客に飯して之に接せす。後達并州に謫せられて綬に謁す。綬方に宴し謂て曰く、吾昔羈旅にして君我を顧みず今我も亦敢て公を留めざらんぞ。達慚ちて去る。綬、才中人に踰えずして而も三鎮に歴す。奏辟する所にして將相に位するもの九人あり。憲宗の朝左僕射に拜せられ鄭國公に封せらる。

ゲンシユク 元淑 (南北)字は質仁。魏に仕へて河東太守となる。俗、商賈多く、年三十に至るも未稍を識らず。淑、車を下りてより、勸課射往教示するこ二年、家給し人足る。之が爲に諺て曰く、秦州河東、杆袖代春、元公至止、田疇始理と。ゲンシユク 嚴肅 (宋)字は威之。大中祥符間、大理丞より南安軍に知たり。通捷の才、正直の氣を以て善を勤め惡を懲らす。詞訟止息し聲運滞無く物産盈美也。ゲンシユクカン 元叔開 (唐)結の子。ケンシユクジュン 甄叔遵 (漢)七要本啓三卷を撰す。ゲンシユクセイ 元叔靜 (唐)結の子。ケンシユン 蹇遵 (三國)左傳斷義七卷を

著はす

ゲンシユン 嚴峻 (三國)字は曼才。彭城の人。少にして學に耽る。性純直。亂を江東に避く。張昭之を薦む。孫權以て騎都尉と爲す。魯肅卒するに及び代りて權に陸口を鎮せしむ。峻固辭す。後尉衛を爲て蜀に使す。蜀の丞相諸葛亮之を善とす。孝經傳、潮水論を著す。

ゲンシユン 嚴浚 (唐)字は挺之。資質軒秀。制科に擢つ。義興尉に調せらる。材吏と號す。給事中に累遷す。俄に漢汴二州刺史に改む。開元中張九齡薦めて尚書左丞知吏部と爲す。天寶の初李林甫の爲に擠られ詹事に降りて卒す。ゲンジユン 嚴遵 (漢)字は君平。西漢の時の人。成都の市に卜筮す。毎に卦辭に依て人に教ふるに信義忠孝を以てす。日に百錢を得、以て自養ふに足れば則ち肆を閉ち嚴を下して老子を讀む。楊雄少かりし時、之に従て學ぶ。曰く其風聲以て食を激し俗を勵ますに足る、亦近古の逸民也。蜀人羅沖爲に車馬衣糧を具へて之が仕を勤む。君平曰く、我餘りありて君足らず奈何ぞ足らざるを以て餘るに奉ずると。沖曰く吾は萬金の子なり、君擔石の儲なくして何ぞ餘りありと謂ふやと。曰く吾嘗て子の家に宿し子の晝夜汲々として未だ嘗て足ること有らざるを知る、我今卜を賣り床を下らず而して錢尙數百を餘す、塵埃の積む厚さすと雖も用ふる所を知らず、明かに我は餘りありて子は

足らざる也と。

嘗て歎じて曰く、我が貨を益する者は我が神を損し、我が名を生ぜしむる者は我が身を殺すと。益州の牧李強召して從事と爲す。就かず。年九十餘にして卒す。ゲンジユン 元淳 (唐)女子。洛中の人。詩に工なり。ゲンジヨ 嚴助 (漢)忌の子也。賢良に擧げらる。武帝の朝、官都尉に至る。ゲンジヨ 阮恕 (宋)字は伯寬。寅の子。父の陸を以て分寧に宰たり。淳祐中善化に更め、陞りて通判建寧府たり。初め善化に赴く時山間に宿す。商十余人の先づ在るあり、吏と争ふ。恕爲に其の吏を杖ちて之を慰む。吏返り語つて曰く、官を有して此くの如し、何を以て仕を爲さむと。恕亦意に介せず。眠に及び商來り謝して曰く、某等粗疏、公の弘量に感ず、第だ夜半先づ起く、倘し小喧あるも、官第だ安く寢よと。恕唯々す。夜半の比喧甚し。恕僕を戒め戸を堅うす。俄にして寂然たり。起つて之を燭せば殺人縱横、乃ち強寇なり。是の夕命を毫厘に脱す、人以て寛厚の報となす。ゲンジヨイク 嚴如煜 (清)字は炳文。樂園と號す。湖南淑浦人。知縣より累て按察使に擢てらる。皆特簡に出づ。上毎に廷臣と疆吏の才を言へば皆炳文を首とす。炳文南山に在る事久しく亭障村寨曲折皆指畫し、心に之を築練せざるなし。窮郷遠谷の老兵婦孺も皆其姓字を識る。卒する夕秦民巷



に哭して慈父母を喪ふが如し。記して宣稱と名く。炳文軍事一時に冠絶す。嘗て海寇を掃し洋防備あり。苗族を掃し苗蕃備あり。屯田を繕し屯防書あり。又三省邊防備等の書あり。

ゲンシヨウ 源子邑 (南北)字は豊和。少にして文雅を好み、志を學に篤くす。誠を推して士を待つ。士多く之に歸す。夏州刺史に累遷す。後、戦歿す。司空を贈り莊穆と諡す。

ゲンシヨウ 嚴升 (明)建文中の進士。大理寺右少卿に歴官す。法を執りて撻まず。南京食部御史に調せらる。曾て神羊賦を著はして志を見す。

ゲンシヨウシユン 阮鍾儀 (宋)銅陵の人。十一世居を同じうす。朝廷之を嘉みす。鍾儀天性純厚、時の稱する所たり。仕へて終に秘書郎たり。

ゲンジヨウソウ 嚴繩孫 (清)字は孫友。無錫の人。康熙乙未鴻詞博學に擧げ、檢討を授けらる。明史を修するに預り隱逸傳を分纂す。田に歸りて後自ら編湯源人と號す。書に工に繪事を善くす。猶風を畫くを善くす。暇あれば輒地を掃ひ香を焚く。康熙四十年壬午卒す年八十。秋水集二卷を著す。

別る。慷慨然として之を遺る。ゲンシヨクシ 嚴植之 (南北)字は孝源。柿歸の人。少にして莊老を善くし、長じて編く鄭氏禮周易毛詩左氏春秋を纂む。謹みて長ずる所を以て人に高ぶらず。梁の天監中五經博士を兼ね、生徒常に數百。講總て區段次第ありて折理分明なり。後中撫記室參軍に遷す。

ゲンシヨクシ 嚴植之 (宋)嘗て山に行きて一患者を見る。之を問へども答ふる能はず。因て載せて俱に歸り爲めに醫藥を營む。患人水の傍に臥せるを見て之を問へば、曰く、家は本荊州、人の備と爲りて貧す、會々疾篤し、船主我を此に棄つ。植之惻然として之を憫み載せ歸りて治療す。年を経る乃ち愈ゆ。其人恩に感じて終身奴と爲らん事を願ふ。竟に許さず。

ゲンシレイ 源思禮 (南北)賀の子。名を懷と賜ふ。謙恭寬雅、大度あり。文成の末、侍御中散となる。詔して節を持して北邊を巡行し、恒燕朔三州を鎮す。事宜三十餘條を上る。皆嘉納せらる。

ゲンスウ 嚴嵩 (明)世宗の時東部尙書と爲る。世宗久しく朝を見ず、日に齋醮を事とす。嵩之に乗じて事を用ひ甚だ信親せらる。賄賂公行、邪佞に進む。舉廷之を疾む。會々上書して其奸を言ふものあれば嵩事を以て之を陷る。爲に廢黜殺戮せられしもの勝て敷ふべからず。既にして上稍々其姦を悟る。四十一年遂に之を放ち其子世

蕃を賦に下す。嵩遂に餓死す。ケンスウシ 卷須氏 (上古)大古の君長。ケンス井 權倖 (唐)秦州の人。唐僖宗と懿文を以て相友たり。官、羽林軍參軍に至る。

ゲンズキ 嚴榮 (宋)字は幼芳。天台の歌妓。名譽一時に冠絶す。太守唐仲友常に之を召す。仲友と隙ある者あり其罪を誣せんと欲し、榮唐と濫せりと爲し獄に投ず。月餘備さに錘楚を受くれども一語唐に及ばず。且つ曰く、賤妾雖ひ太守と濫せりとすも、罪死に至らず、然も妄言して以て士大夫を汚す者あらば死罪ふ可らざる也。幾ばくならずして獄に投ぜし者改除せられ岳商卿之に代る。即ち榮を放ちて判して落籍せしむ。

ケンセイ 縣成 (周)字は子祺。魯人。孔子の弟子。

ケンセイ 賢政 (晉)南涼の樂都潰え、城堵皆降る。政、固守して下らず。節を守りて死す。

ゲンセイ 嚴崑 (漢)會稽の人。貧にして常に山中に炭を作る。忽ち神人に遇ふ。神人之に書一卷を授けて曰く、汝が骨長生すべし。井に石髓法を教ふ。崑之を受けて即ち左右を見れば常に數十人有りて之に侍す。常に夜行く。都巡問す何人ぞと。崑亦た呵問す。都巡怒て從兵を叱して之を取めんとす。崑亦た從神を叱して之を誅せしむ。崑徑ち去る。而して都巡等入馬動く能

はず。明且郷人曰く、必 公ならんぞ。其家に報して往て謝す。崑乃ち放ち去らしむ。青後殺を斷つこゝ一年、仙去す。

ゲンセイ 元正 (唐)名節を修む。明經に擢んでられて監門衛兵曹參軍を授けらる。肅宗の時、河南節度使崔光遠、幕府を表置し、史思明、河洛を陷る。父と共に山中に匿る。賊、其の名あるを以て正を購ふ。事の急なるを度り、弟に謂て曰く、賊は親を養ふべからず、彼は利、我は名、免れ難し、然れども身を汚さずして死するは吾れ猶ほ生けるが如しと。賊既し得、誘ふに高位を以てす。目を瞞らして固く拒む。兄弟皆害に遇ふ。父聞きて藥を仰て死す。路人爲めに哭す。事平く、詔して仗節十一姓を録す。而して正、之が冠さなる、秘書少監を贈らる。

ゲンセイ 嚴清 (明)字は公直。雲南後備の人。嘉靖二十三年の進士。知縣に除せらる。隆慶萬曆の交中外に出入し刑部尙書を歴、疾を以て去る。萬曆十五年、兵部尙書に起す。疾て赴く能はず。又三年にして卒す。太子太保を贈り恭肅と諡す。

ゲンセイキ 嚴世期 (南北)有司奏して其門に榜す。曰く義行嚴氏之門。

ゲンセイジユン 元世運 (南北)孝明の時、荊州刺史となる。州は湯境に居り、前代以來、互に相抄掠す。世運州に至りて侵擾を聽さず。其弟均、時に荊州に在りて朝陽成主となる。南成主の妻、三月三日を以て河水の側に遊戯するあり。均、輒ち都曲を遣し

て掠取せしむ。世運之を聞き、均を責め逐ひて木成に遣し還す。吳人之に感す。於定刺史を以て薨す。諡して康王といふ。

ゲンセイホ 嚴世父 (宋)新喻の人。隱居して仕へず。朱子に師事して疑義を問答し書帖を往來す。郷人之を學ぶ記る。

ケンセウ 奎招 (三國)魏の文帝の時、右中郎將に拜せらる。子弘。

ゲンセウ 元昭 (宋)高僧。字は湛然。杭州靈芝寺に住す。姓は唐氏。餘杭の人。資持記を作る。政和六年九月一日寂す。諡して大智といふ。

ゲンセキ 阮籍 (晉)阮瑀の子。字は嗣宗。容貌魁傑、任情不羈、或は目を閉じて讀書し累月出でず。或は山に登り水を遊び日を竟へて歸るを忘る。車跡の窮まる所輒ち慟哭して反る。尤も老莊を好み、能く嘯し能く琴す。酒を嗜みて放曠、人之を痴と謂ふ。步兵の尉に酒三百斛有るを聞き、乃ち歩兵校尉たむむを求む。籍能く青白眼をなす。世死す。稽喜來り叩す。白眼を作す。稱康酒を瀆らし琴を挾みて遺る。乃ち青眼を見けす。咏懷八十余篇、及び雜論、大人先生傳を作る。王孝伯、王大に問ふ阮籍司馬相如何如と。王大曰く、阮籍胸中磊塊あり、故に酒を須て之を澆ぐと。籍兄の子仲容、籍康、山濤、向秀、劉伶、王戎と時に竹林の下に集り意を肆にして酣暢す。世竹林の七賢と號す。長子瞻、次子孚。

たり。常例、二千石官に死するときは、賦飲して葬を送ること皆十萬以上。時に又三年の喪を行ふもの少し。涉、父の死するに及びて、南陽の贈送を讓還し、柩を護りて歸り葬り墓に廬する、こゝ三年。

ゲンセン 減宣 (漢)司隸校尉たり。武帝の時上書して張禹を諫ると告ぐるあり。減宣に下して治せしむ。宣禹と隙あり、乃ち其の事を窮む。禹自殺す。

ゲンセン 阮瞻 (晉)阮籍の長子。字は千里。嘗て王戎に見ゆ。戎問うて曰く、聖人名教を貴ぶ、老莊自然を明かにす、其の旨同じなりや異なりやと。瞻曰、將無同と。戎歎じ良や久しうす。即ち命じて之を許す。時人之を三閤標と謂ふ。永嘉中太子舍人となる。

ゲンセン 嚴譔 (唐)字は善思。武后の時太史令と爲る。長安元年癸感月に入て天關を犯す。譔曰く乱臣罪に伏すべしと。譔餘、東東之果して二張を誅す。是より先、監察御史を爲りて公直敢言を以て稱せらる。

ゲンセン 阮籍 (宋)字は仲元。新昌の人。少うして多難。後大學中舎に入る。日者あり謂て曰く、公宜しく隱居すべしと。即ち翻然として南に歸り、林壑に隱居し、詩を以て自ら娛しむ。復た仕ふる意なし。乾道中本州學正に辟す。就かず。

ケンソウ

遷す。帝學を視、命じて孝經を誦せしむ。義理を敷陳し、兼ゆるに諷諭を以てす。帝大に悦び、賞賜甚だ厚し。

ケンソウ

趙郡柏人の人なり。初め信都の僧法法師に投じて出家し、道江と稱す。開皇三年、隋高祖に見ゆ。因りて辨教論を作る。又煬帝の爲めに金光明經等を誦す。十三年、勅して召して京に入らしめ、大興善に住し、復た翻譯を掌らしむ。後日嚴寺に移り、専ら講説を務む。又大業二年、特に召されて内禁に入り、勅して翻譯館を立て、以て之に處らしむ。大業六年七月二十四日寂す。春秋五十四。葬在世譯するところの經、合して二十三部一百餘卷あり。

ケンソウカウメイクワウテイ 顯宗孝明皇帝 (漢)後漢第二世。姓は劉。名は陽。光武の第四子。十歳にして能く春秋に通ず。初め東海王たり。後に皇太子となる。永平三年中興の功臣二十八將を南宮の雲臺に圖畫す。鄧禹を首とし、次は馬成、吳漢、王梁、賈復、陳後、耿弇、杜茂、寇恂、傅俊、岑彭、堅鐔、馮異、王霸、朱祐、任光、祭遵、李忠、景丹、萬脩、蓋延、邳彤、姚期、劉植、耿純、臧宮、馬武、劉隆。惟だ馬援のみ皇后の父なるを以て與からず。帝光武の

ケンソウ

制度を遵奉し致て違ふ者なし。後宮の家は侯に封ぜられ、政に與かるを得ず。館陶公主子の爲に耶たるを求む。許さずして錢千萬を賜ふ。群臣に謂て曰く、耶官は上列宿に應下出で、百里に宰たり、其人に非ざるあれば則ち其禍を受く、是を以て之を難すと。尙書閣章の二妹貴人たり。章精力畜典を曉る。久次當に重職に遷るべし。帝後宮の親屬たるを以て竟に用ひず。是を以て更其人を得、民其業を樂み遠近畏服す。在位十八年。壽四十八。改元する者一、永平。

ケンソウ

ケンソウクワウテイ 憲宗皇帝 (唐)第十世。姓李。名純。順宗の長子。在位十五年。宦者に弑せらる。改元一、元和。ケンソウクワウテイ 憲宗皇帝 (元)姓は奇渥温氏。名は蒙哥。太祖の孫。屢々征伐に従ひ奇功を立つ。帝宋を攻め合州を圍む。五閱月克たず。精兵を留て歸る。魚釣山に至り崩す。壽五十二。桓蕭皇帝と追諡す。廟を憲宗と號す。ケンソウクワウテイ 玄宗皇帝 (唐)第六世。姓李。名隆基。睿宗の第三子。韋皇后の中宗を弑するや隆其兵を起して之を誅す。功を以て平王となり。遂に太子となる。位に即いて宋璟、姚崇、張說等を登用して政事に勤む。天下翕然として貞觀の治に復するの觀あり。既にして意漸く倦み、土木を窮極し奢侈を極め、李林甫を相と爲し、楊太真を寵幸して、唐の紀綱再び紊る。天寶十四年安祿山亂を作す。州縣瓦解、一人の

ケンソウ

兵を執つて起つものなし。遂に進入て長安を陥る。上西蜀に出奔す。太子位に靈武に即く。在位四十五年。改元三、先天、開化、天寶。

ケンソウ

ケンソウセイクワウテイ 顯宗成皇帝 (晉)東晉第三世。姓は司馬。名は衍。字は世根。明帝の長子。五歳にして即位す。司徒王導帝の舅中書令庾亮と政を輔く。在位十八年にして崩す。頗る勤儉の徳あり。改元するもの二、咸和、咸康。

ケンソウ

ケンソウケンブンクワウテイ 顯祖宣皇帝 (南北朝)魏第五世。姓拓跋。後元氏を改む。名弘。文成帝の長子。帝勅めて治を爲し賞罰嚴明なり。而して黃老浮屠の學を好み、遂に位を太子に傳へ、太上皇と爲る。皇后憑氏帝を怨むことあり、之を鳩殺す。在位五年。改元二、天帝、皇興。ケンソウケンブンクワウテイ 顯祖宣皇帝 (清)姓は愛親覺羅。名は塔克世。景祖の第四子。之を太祖の父と爲す。滿州圖倫城の尼堪外關と戦ひ爲に殺さる。ケンソウケンブンクワウテイ 顯祖文宣皇帝 (南北朝)北齊第三世。姓高。名洋。字子進。神武の第二子。深沈にして大度あり。乍ら智よして乍ら愚、人能く測るなし。東魏に逼て位を禪らしむ。初意を政術に留む。六七年の後

功業を以て自ら矜り、肆行淫暴至らざる所なし。醉ふ毎に輒手づから人を殺して戯樂と爲す。宰相楊愔爲めに鄴下の死囚を簡び、之を杖内に置き、之を供御囚といふ。後遂に疾を成し食ふこと能はず。在位十年にして崩す。改元一、天保。ケンソウ 嚴尊 (漢)閩中の人。長安の令となる。政治嚴明なり。揚州刺史に遷る。吏民道を遮りて之を止む。凡三遷して輒行くことを得ず。

ケンタイコウ

阮太后(文宣) (南北朝)梁の武帝の妃。名は令嫺。會稽餘姚の人。本姓は石。初め齊の始安王暹光、之を納る。暹光敗れて東昏宮に入り、武帝の采女となり。元帝を生む。姓を阮氏と賜ふ。江州に薨す。時に年六十七。

ケンタウ

阮紹 (南北朝)字は長明。陳留の人。裕の玄孫。南兖州別駕刺史たり。江夏王義恭、資費錢を逆求す。紹曰く、此れ朝廷の物なりと。執て與へず。紹少うして清官を歴す。宋孝武帝中四人を選ぶ。并に風貌を以てす。王彧謝莊第一たり。紹は何儀と一雙たり。官散騎常侍金紫光祿大夫領始興王師に至りて卒す。

ケンタツ

權達 (唐)字は達吉。元和中、令と爲る。邑に四湖あり。久しく廢す。達これを濬に復す。

ケンタツ

元達 (宋)洛州鶴澤の人。身長八尺、臂力あり。射を善くす。嘗て酔ひて道傍に槐樹を見、劍を抜て之を斬る。樹立

ケンソウ

るに斷つ。初め山林に亡命し、後太宗の帳下に隸して北面行營都部署に累遷す。士大夫と交り、能く節を折り禮を盡す。人は是を以て稱す。ケンタン 甄宜 (唐)字は道一。中山の人。慷慨にして大略あり。孝を以て徵されて夏州都督に累官す。ケンタン 甄且 (宋)知麗水縣たり。吏道詳敏、而して飾るに文學を以てす。清白以下を率ゐ、明察以て奸を服す。任に赴きて未だ期ならざるに政治大に成る。

ケンタン

阮湛 (晉)三禮圖九卷を著す。ケンタン 嚴置 (南北朝)侯景の梁武帝に叛くや、奔り麾下に投じ頗る効す所あり。景の敗るゝに及び併せ斬らる。ケンタン 元澄 (唐)字は行沖。河南の人。博學にして尤も訓故に通ず。進士に登第して通事舍人に累官す。狄仁傑之を器とす。嘗て仁傑に謂て曰く、下の上事ふる、譬へば富家儲積以て自資するが如し、脯腊脯臠以て滋膳に供へ、參朮桂以て疾病を防ぐ、門下旨味に充つるもの多し、願くは小人を以て一藥石に備ふ、可ならんか。仁傑曰く、君が藥は正に吾が籠中の物、一日も無かるべからず。後、弘文館學士となる。玄宗自ら孝經を注し、澄に詔して疏を爲らしむ。卒して諡して獻といふ。

ケンダロク

韓陀勒 (晉)高僧。本西域の人。來りて洛陽に居ること積年、衆其風操を敬すといへども終に能く測るなし。後終

ケンタン

る所を知らず。ケンチウ 阮仲 (晉)字は德獻。陳留尉氏の人。弱冠にして殊操あり。賢良に擧げられ對策第一たり、中書郎に遷る。己を正しうして人を率う、朝廷皆其の威を憚る。再び平原の相に遷る、治聲有り。ケンチウ 元胃 (隋)洛陽の人。英果にして武藝多し。鬚眉美しく犯すべからざるの色あり。官、大將軍に至る。周の趙王、隋の高祖を害せんことを謀る。胃身を以て入りて衛る。故に免るゝを得たり。ケンチウ 阮中度 (宋)字は正甫。建陽の人。思道の從子。博學最も易に達し。端拱中進士に第す、官に居て仁恕其の民を累はすなし。徵して御史に拜す。ケンチウ 元仲文 (宋)德昭の子。ケンチウ 玄暢 (南北朝)高僧。姓は趙。河西金城の人。華嚴及び三論に善し。宋の文帝、深く歎重を加ふ。齊后山に草菴を結ひて居り。後魏根寺に止住し、少時にして卒す。春秋六十有九。齊永明二年十一月十六日なり。

ケンチウ

ケンチウ 嚴長明 (清)字は冬友。一字は道甫。江蘇江寧人。幼にして奇慧書として讀とざる所なし。乾隆二十七年車駕南巡せし時諸生を以て詩を賦す。内閣中書を授けらる。通鑑輯覽一統志熱河志纂修官に歴充す。著書凡念餘種。

ケンチウ

塞重 (周)魏文侯、大夫を曲陽に屬す。飲酣に、文侯喟然として嘆じて

ケンチウ

曰く、吾獨豫讓を以て臣と爲す無し。養重酒を擧げて進んで曰く、臣請ふ君に浮せむ。文侯曰く何を以ての故ぞ。對て曰く、臣之を聞く石命の父母は孝子を知らず、有道の君は忠臣を知らず、夫の豫讓之君亦何如ぞや。文侯曰く善しと、浮を受けて之れを飲む。酌して譲らずして曰く、管仲鮑叔以て臣と爲る無し、故に豫讓之功ありと。

ゲンチヨウ 元澄 (南北)字は道鏡。宗室。楊州刺史に位し壽春を鎮す。車を下りて孫叔敖の墓を封じ、蔣子文の祠を毀つ。衆を總べて南侵し、所在尅捷す。詔書褒美す。司徒公侍中尚書令に遷りて薨す。文宣と諡す。

ゲンテイ 元帝 (漢)孝獻皇帝を見よ。  
ゲンテイ 元帝 (漢)孝元皇帝を見よ。  
ゲンテイ 元帝 (晋)中宗元皇帝を見よ。  
ゲンテイ 元帝 (南北)梁の世祖元皇帝を見よ。

ゲンテイ 元定 (南北)字は順安。洛陽の人。魏に仕へて婺州刺史となる。雄略あり。征伐に従ひ、每戦必ず陣を陷る。爵を進めて公となる。  
ゲンテイ 嚴挺 (宋)字は玉甫。性學を嗜む。才識高邁、體高遠、言論侃々たり。劍南節度使となる。民其惠に懷く。  
ゲンテウ 阮雄 (漢)永平中劉晨と山に入り新を探つて道を失ふ。行くこと數里瀕瀕に至る。二女候ひ迎へて洞に入れ、食せしむるに胡麻飯を以てす。後去らむことを求む。

む。女爲に原路を指示す。家に至れば子孫已に七世なり。天台縣の西北に廟あり。ゲンテウタツ 嚴超達 (南北)梁の將たり。齊の天保間、衆を率ゐり涇州を侵す。胎野の役大に潰れ擄斬せらる。  
ケンテン 甄恬 (南北)字は彦約。中山の人。母の喪に慕側に處す。白鳩白鳥あり。常に其廬に栖宿す。州、其行狀を表す。仕へて安南參軍に至る。  
ゲントウ 鉞登 (元)敬徽の叔祖にして金の進士たり。元の初、中都提學と爲る。春秋備忘四十卷を著す。仁宗の朝命して其書を刻す。世に行はる。  
ゲントク 嚴德 (明)太平の人。太祖に従軍し、積功して海寧衛指揮たり。朱亮祖に従つて方國珍を討ち、台州に戦死す。天水郡公に追封す。  
ゲントクシウ 元德秀 (唐)字は紫芝。河南の人。少にして孤、母に事へて孝なり。母亡して其墓に處す。天寶中、魯山令に任せらる。天下其行を重んじ、稱して元魯山といふ。房瑁嘆つて曰く、紫芝の眉宇を見れば人を名利すべて盡きしむと。卒するに及び、家に惟だ杖履軍瓢のみ。諡して文行先生といふ。  
ゲントクセウ 元德昭 (唐)危德昭を見よ。  
ゲントクミン 嚴德珉 (明)吳人。御史より左倉部御史に擢てらる。疾を以て歸を求む。帝怒て其面に黥し、南丹に謫成す。赦に遇ひ放還せられ、布衣徒歩、自ら庶民に

櫛の憂懼の色あるを見て、輒ち義理を陳し之を慰諭す。江都の亂に、櫛害に遇ふ。字文化及、妃を以て其黨元武達に賜ふ。武達醉に困て之に逼る。妃誓て罵せず。武達之を縛つ百餘。詞色彌々厲し。武達之を釋す。妃悲憤因て食せずして死す。  
ゲンビセイ 阮美成 (宋)舒城の人。元豊中の進士。某縣に知たり。政を爲すこと豈第なり。吟咏を喜ぶ。時に阮絶句と號す。  
ケンヒン 甄彬 (南北)定州の人。行業あり。郷黨、善を稱す。嘗て亭を以て人に就きて錢を質す。後、亭を贖ふ。東中に於て五兩の金を得たり。之を還送す。益州録事參軍となり郵驛令を帶す。將に行かんとして、同列五人。梁武帝、誠むるに廉慎を以てす。彬に至りては獨り曰く、卿、金を還すの美あり。故に復た此言を以て相屬せずと。  
ゲンヒン 元賓 (漢)孝廉を以て三署に入り、蒼龍司馬衛尉に除せられ吳令に遷る。事を視ると二檢、民以て廉寧なり。州の從事に辟さる。後、召されて歸郷に拜せらる。  
ゲンヒン 嚴賓 (明)字は子寅。鶴丘と號す。家に名書を藏する甚多し。尤も賞鑒に精しく、文待詔と友とし善し。小景を畫く、胎だ之に似たり。  
ケンブ 權武 (隋)字は武弄。襄陵の子。父の功を以て開府に拜せらる。武、少にして勁勇、力人に絶す。陳を平ぐる功を以て豫州刺史に拜せられ、位、大將軍に進む。  
ゲンフ 阮孚 (晋)阮籍の次子。字は遙樂。

齒齋す。宣德中、事を以て遠はれ、僅に免るゝを得たり。後人に謂て曰く、先時國甚だ嚴峻なれば首領を保たず、此の斃冠戴き易からずと。乃ち北面拱手して聖恩々々を稱す。  
ゲントクヨ 權德輿 (唐)字は載之。天水洛陽の人。臬の子。四歳にして詩を能くす。德宗の朝、知制誥たり。西掖に在ると八年、風流飄飄、精神の羽儀と爲る。廬を江南に結び、蓬蒿晏如、一勝境に遇ふ毎に一佳句を得。怡然として獨り笑ひ珍寶を獲るが如くす。元和中、同平章事たり。凡ち貴人名士受後銘記を以て請ふ者、什の八九、一世の宗匠たり。子。  
ゲントツ 嚴訥 (明)字は敬卿。常熟の人。嘉靖二十一年の進士。庶吉士より編修に改め侍讀に遷る。太子太保兼武英殿大學士を以て致仕す。已にして世宗崩す。遂に復出せず。家唐二十年にして卒す。年七十有四。少保を贈り、文靖と諡す。  
ゲンハウ 元漢 (隋)字は孝賢。孝矩の弟。開皇の初、安州刺史に拜せらる。商人あり。金を亡ひて同宿者を疑ふ。變察して之を釋す。商人、囊か金を受けて賊を疑ふと訟ふ。輒ち自ら誣服して曰く、恐くは良善を累さんと。後、盜、他所に發す。帝、之を歎異し、稱して長者となす。  
ゲンバウ 嚴望 (漢)朱雲の學を傳ふ。宣帝の時博士と爲る。後泰山太守に至る。  
ケンハウゲン 權邦彦 (宋)字は朝美。河

問の人。七歳にして能く毛詩を誦す。十三にして郡庠に入る。頭角嶄然たり。崇寧中、上舍登第、滄州教授に調せらる。紹興の初、簽書樞密院事に累官す。嘗て十議を獻し以て中興を圖る。又、宜しく機に乗ずべきもの三を言ふ。尋いて權參知政事を兼ね。遺稿十卷あり。瀛海殘編と號す。楊誠齋、嘗て邦彦を讀して云ふ、補天重光、扶日再中と。ゲンハウツ 嚴彭祖 (漢)字は公子。下邳の人。春秋公羊を以て名家たり。宣帝の時博士となる。河南東郡太守に歴す。入て左馮翊と爲り太子太傅に拜せらる。廉直にして權貴を事せず。人或は其自勉強せんことを勸む。彭祖曰く、凡経術に通せんには固より當に行を備むべし、委曲從容、苟も富貴を求む可けんやと。  
ケンパンキ 權萬紀 (唐)京兆の人。元勳王珪、内外の官考を掌る。萬紀、上疏して之を劾す。  
ゲンパンケイ 元萬頃 (唐)儒者。時に北門學士といふ。  
ゲンヒ 元妃 (南北)周の文帝の妃。魏孝武の妹。初め平原王公主に封せられ、開府張歡に適く。歡性貪殘、后を逼するに禮無し。帝歡を殺し改めて后を封じ馮翊公主となし以て周文帝に配す。孝閔帝を生む。追尊して皇后となす。  
ゲンヒ 元妃 (隋)華陽王楷の妃。元慶の女。妃姿色あり性婉順。初め選を以て妃と爲る。楷幽廢せられ、妃權に事へて愈々謹む。

作り以て之を危む。鄭國公に封ぜらる。  
 ゲンフク 師復 (唐)開元中、冀州刺史となる。政令典舉し、四境肅然たり。  
 ゲンフクカイ 阮福海 (明)北人。儒を善くす。道釋神像は子誠に似く。  
 ゲンフジン 拳夫人 (漢)鉤弋夫人を見よ。  
 ゲンブツテウ 嚴佛調 (漢)高僧。本臨淮の人。安玄と共に法鏡經を譯す。世に安侯都尉佛調三人の傳譯を誦して繼ぎ難しきなり。調、又、慧を撰す、世に傳ふ。  
 ゲンブンエウ 元々 (南北)字は德遠。洛陽の人。王佐の才あり。北齊に仕へて三主、歴事し、官、尙書左僕射に在る。  
 ゲンブンタン 傅文誕 (南北)泰安の人。仕へて上庸太守と爲り、荊州大都督に至る。卓として聲烈あり。史に平陽公と稱す。  
 ゲンブンテイ 獻文帝 (南北)魏の顯祖。獻文皇帝を見よ。  
 ゲンブンテイ 建文帝 (明)惠皇帝を見よ。  
 ゲンヘキウン 阮碧雲 (元)女子。才思あり。  
 ゲンホウ 甄逢 (唐)濟の子。常に父の名の書史に載るを得ざるを以て、京師に詣りて自ら陳せんと欲す。元和中、袁滋、濟の節行が稱卓と同科なるを表し、その宜しく國史に載すべきをいふ。詔ありて濟に秘書少監を贈り、書を史館に移す。是に由りて父子俱に名を顯はすを得たり。  
 ゲンホウソウ 元奉宗 (宋)字は知禮。秀文の子。景德二年甲科及第、通州海門縣に

知たり。地斥鹵に苦しむ。奉宗、爲に池を鑿ちて甘泉を注ぐ。人甚だ之を利とす。博士に遷り、屯田員外郎に拜せらる。老を告げて杭に歸る。天性恬靜、舊地は閩閩に在り。乃ち家人と謂て曰く、富春の佳山水、眞一吾が退閑の地と。遂に焉に卜居す。  
 ゲンホン 嚴本 (明)字は志道。江陰の人。永樂十一年、刑部主事を授けらる。仁宗の時、大理寺正、累擢せらる。卒する年七十八。方嚴を以て開ゆ。  
 ゲンミツ 甄密 (南北)字は叔雍。清謹にして嗜欲少く、頗る書史に涉り、榮寵を乾没す。曾て風の賦を作りて以て意を見はす。後、魏士英の軍に參す。英敗る。郷人蘇真、賊中に没す。密、爲に金を募りて之を贖ふ。真歸り、資を傾けて密に報ゆ。密一も受けず。魏の孝莊の時、密を封じて安市縣子と爲す。  
 ゲンムクワウノハハ 元務光母 (隋)盧氏。范陽の人。少うして讀書を好む。盛年寡居す。諸子幼弱、家貧しく學に就く能はず。盧氏毎に自ら教授し、勵むるに義方を以てす。漢王諒、反するに及び、務光を以て記室と爲す。事敗るに及び、慈州刺史上官政務光の家を簿籍す。盧氏を見て之に逼る。盧氏死を以て誓ふ。政凶悍怒る甚し、燭を以て其面を燒く。盧氏竟に節を屈せず。  
 ゲンメイゼン 元明善 (元)字は復初。大名清河の人。尤も春秋に深し。仁宗の朝成宗實錄を預修す。尙書の中、政要に關する

者を譯し以て進む。帝大に賞美す。延祐の初、翰林學士に拜せらる。英宗嘗て過も渥し。卒して清河郡公に封じ、文敏と諡す。  
 ゲンモク 元默 (明)字は中象。靜海の人。萬曆四十七年の進士。推官より吏科給事中に擢す。熹宗の時、尙御史に進む。賊李自成に敗られ逃へらる。之を久うして釋くを得。家に卒す。  
 ケツモンケイキ 關門慶忌 (漢)郡の人。武帝の時、魯中、詩を以て教授す。慶忌、周覇徐偃等と同じく業を受け共に名を顯す。後に膠東内史となり、廉節を以て稱せらる。  
 ケンヨク 權翼 (南北)洛陽の人。秦の符堅に仕へて給事黃門侍郎と爲る。北海の王猛、太原の薛讚と並に王佐の才と稱せらる。  
 ゲンヨシ 元與子 (宋)香山の人。天性純篤。頗る讀書を好み大義に通ず。父母に事へて色養を盡し惟だ謹しむ。德祐元年父元輔病劇し。與子旦夕北辰を禱類し身を以て代らむと請ふ。而て病癒えず。乃ち人に叫びて懇禱し、腦を開き肝を割き一臂を取て以て療す。病即ち爲に瘥ゆ。郷里之を異とす。事聞す。帛二を贈り仍其の居里を表して孝行坊とす。  
 ゲンラウ 玄朗 (唐)高僧。字は慧明。傅氏。婺州東陽の人。雙林大士六世の孫。天官慧威に師事す。天寶十三年十月十九日寂す。年八十二。嘗すとる、法華科文三卷あり。

ゲンラン 玄覽 (南北)東陽の陳敦公の孫度と與に對策して治中と爲る。  
 ゲンリウ 嚴隆 (唐)閩中の人。節度使武元の孫。父廣濟馬氏に仕へて評事と爲る。因て女を以て適す。周行遂に隆遂に至り華容に遷りて死す。石首鹿湖山に葬る。今其家分れて八族を爲す。  
 ケンリウテイ 乾隆帝 (清)高宗純皇帝を見よ。  
 ケンリン 權倫 (明)謹の子。永樂中の郷試に擧げらる。親を養ふこと二十年。親終て仕へず。  
 ゲンレイ 嚴厲 (唐)梓州の人。震の從弟也。興州刺史と爲る。尙書左僕射節度東川一累官す。奉して司空を贈らる。  
 ゲンワイ 元淮 (元)字は國泉。水鏡と號す。邵武の人。至元間、溧陽府を治む。任を去る時詩を作て云ふ、問歸行李輕如羽、沿路吟詩有一船と。其廉謹斯の如し。今國吟一卷を著はす。  
 ケンワウ 顯王 (周)周第三十五世。姬姓。名は顯。安王の子。烈王に嗣ぐ。九年文武の胙を奉孝公に致す。二十五年秦諸侯を周に會す。周、伯を孝公に致す。四十四年秦惠王と稱す。其後諸侯皆王と爲る。在位四十八年。  
 ケンワウ 憲王 (漢)常山王。姓は劉。名は舜。景帝の子。子勃に至り國除せらる。  
 ケンワウ 獻王 (漢)河間王。姓は劉。名は德。景帝の子。學を脩めて事實の是を求

む。民に從て善書を得れば必ず好寫して之を與へ其真を留む。金帛の賜を加へて以て之を招く、是に由て四方道術の士、千里を遠しとせずして之に赴く。或は先祖の舊書あれば以て之を奉ず。故に書を得ると漢朝と等し。是時淮南王安も亦書を好む。招致する所率以て浮辭多し。而して獻王の得る所は皆古文先秦の舊書なり。且端にして行治まる。其後元に至り殘賊なり國除せらる。成帝又元の弟良を立て、獻王の祀を奉ぜしむ。良獻王の行を修め宗室の儀表たり之を惠王と爲す。子尙王莽の時絶つ。  
 ケンワウ 憲王 (漢)淮陽王。姓は劉。名は欽。宣帝の子。壯大にして經書法律を好み聰達にして材あり。上甚だ之を愛す。而して皇太子は寬仁にして儒術を喜む。上數々憲王を嗟嘆して曰く眞に我が子なりと。其孫續、王莽の時絶つ。  
 ケンワウ 獻王 (漢)沛王。姓は劉。名は輔。光武帝の子。矜嚴にして法度あり好て經書を讀み善く京氏易、孝經、論語傳を説く五經論を作る時に之を號して沛王通論といふ。稱して賢王と爲す。其後契に至り魏の初に崇德侯と爲る。  
 ケンワウ 憲王 (漢)東平王。姓は劉。名は蒼。光武の子。少くして經書を好み雅より智慮あり。人と爲り饒美に腰帶十圍。明帝甚だ之を愛重す。位に即くに及び驃騎將軍に拜す位三公の上に在り。是時中興の後三十餘年四方安なし。蒼以爲らく天下化平なり

宜しく禮樂を修むべしと。乃ち公卿と共に議して南北郊冠冕、車服の制度及び光武廟の登歌、八佾の舞を定む。帝巡狩する毎に蒼毎に留て鎮す。既にして乞うて國に就く。蒼嘗て京師に朝し月餘にして國に還る。帝臨て送り宮に歸り手詔して曰く辭別の後獨坐樂まず因て車に就き賦に伏して瞻望永懷、實勞我心を吟じ誦して采菽に及び以て歎息を増す。日者東平王家に處して何等か最も樂しきと問ふに、王言善を爲すと最も樂しき。其言甚だ大にして是の要腹も副も。皇帝位に即き尊重禮前時に踰ゆ諸王共に比するなし。卒して子思嗣く。別に封を分け子尙を封じて任城王と爲す。其後凱に至り魏初に崇德侯に封せらる。  
 ゲンワウ 元王 (周)周第二十七世。姬姓。名は仁。敬王の子。在位八年。  
 ゲンワウ 元王 (漢)楚王。姓は劉。名は交。字は游。高祖の同父小弟。書を好み材藝多し。少き時に詩を浮丘伯に受く。高祖に從て功あり。楚王に封せらる。孫戊十國の反に與して誅せらる。景帝又宗正禮を以て元王の祀を嗣かしむ。後四世にして延壽に至り罪を宣帝に得國除せらる。  
 ゲンワウ 元偉 (南北)字は茂宏。洛陽の人。少にして學を好み文を能くす。周に仕へて少司空に累遷す。嘗て齊に報聘し、齊人に執はる。後三年、齊平く。偉、方に釋さる。高祖其の久しく幽繫せられて節義凜然たるを以て、爵を進めて賜を厚くす。庚信、詩



遷る。コウアン 鴻安 (漢)成都の人。嚴遠と友とし善し。遷の諫を作りて云ふ、無營無欲、澹然淵清と。

コウアンコク 孔安國 (漢)孔子の後。武帝の末、魯の共王、孔子の宅を壞ちて以て其宮を廢めんと欲す。而して古文尙書、及び禮記、論語、孝經、凡そ數十篇を得たり。皆古字なり。安國悉く其書を得て之を考ふ。コウアント 侯安都 (南北)字は成師。曲江の人。騎射を善くす。邑里雄豪と爲す。侯景の亂、陳の武帝入つて臺城を援く。安都兵を引て之に従ひ、遂に侯景を平く。功を以て南徐州刺史を授けらる。後、爵を清遠郡公に進めらる。威名甚だ重し。

コウアンホ 賈安甫 (明)字は克仁。江陰の人。弘治九年の進士。長垣知縣を授けられ、御史に擢てらる。嘗て數々上疏して上官を劾し、遂に劉瑾の厄に罹りて家居する事十年、また起ちて山東倉事たり。三月にして疾を引きて歸る。

コウイ 孔夷 (宋)字は万平。涇州先生と號す。劉放韓維の長反なり。元祐の頃の人。コウイウ 孔融 (漢)字は文舉。孔子二十代の孫褒の弟。年十歳、父に隨ひて洛に至る。時に李膺、盛名あり。司隸校尉と爲る。門に詣るもの皆俊才清稱及び中表親戚は乃ち通ず。文舉、門に至り、關者に謂て曰く、我は是れ李府君の親也。既に通じて前に座す。膺問て曰く、高明の祖父、僕と舊恩

ある乎。對て曰く、昔は先君仲尼、君の先人伯陽と道を同じうして相師友たり、則ち融と君とは累世の通家と。膺及び賓客之を奇とせざる莫し。大中大夫陳騭後れ至る。人其れを以て之に語る。騭曰く、少時の了は大にして未だ必ずしも佳ならず。文舉曰く、想ふに君が少時、必ず當に了了たりしなるべしと。騭大に踴躍たり。北海の相と爲り、學校を立て儒術を表す。獻帝召して大中大夫に拜す。融、高談清談、玩して而して誦すべし。名、當時に重んぜらる。漢室の亂に値ひて志靖難に在り。然れども才疏意高、訖に成効なし。曹操その威望を忌みて之を害す。常に曰く、座上客常滿、樽中酒不空、吾れ憂なしと。融、蔡中郎と素より厚し。蔡亡びて後、虎賁士あり、融、蔡に類す。文舉、酒後ごとに呼んで與に共に坐す。曰く、老成人なしと雖も尚ほ典型ありと。融の收へらるるとき中外惶怖す。二子なほ少なり、故に釘刺して了に過容なし。融、使者に謂て曰く、眞はくは罪一身に止まり、一兒全うするを得べしや否やと。見餘るに進んで曰く、大人豈に覆巢の下なほ完卵あるを見る乎と。尋て收へられて至る。女、輿に七歳、亦た叔内に在り。將に融を加へられんとす。女、兄に謂て曰く、若し死して知るあらば父母に見ゆるを得ん、豈に至願に非ずやと。乃ち頸を延べて刑に就く。

コウイウ 孔祐 (南北)山陰の人。四明山

に隱る。嘗て山谷中數百斛の錢あるを見る。鹿あり、矢に中り、祐に投ず。祐之を養ふ。創愈て乃ち去る。既にして群を引いて復た來り、祐に依る。大守王僧虔、張緒に書を與へて曰く、孔處士、行動幽祕、德、松桂を標すべし、辟拜すれども就かず、此れ古の遺德なりと。子道徽、亦た高行あり。コウイウリヤウ 孔友諒 (明)長洲の人。永樂十六年の進士。庶吉士より知縣に歷す。宣宗の初、時務を陳す。帝、嘉納す。未だ官を授くるに及ばずして卒す。

コウイン 后胤 (唐)字は嗣宗。昆山人。永徽中、金紫光祿大夫を加ふ。コウウ 賈禹 (漢)字は少翁。琅邪の人。明經高行を以て博士に擢さる。元帝の朝、御史大夫に累官す。數々得失を言ふ。年八十一、歸を乞ふ。帝報じて曰く、卿、伯夷の廉、史魚の直あり、故に卿に親近して國政を參するを幾ふ、而かも卿は云ふ退くを欲すと、意豈に恨むる所あるか、即其れ加餐して疾を慎み、以て自ら輔けよと。官に卒す。其子、初め河南の令と爲り、職事を以て責められ、官を免す。禹に謝して曰く、冠一たび免す、安んぞ復た冠す可むやと。遂に去る。王吉と相友とし善し。世に王陽在位賈萬禪冠といふものは取會同じきを言ふなり。

コウウ 洪羽 (宋)字は鴻父。豫章の人。師民の季子。四洪の一。元符の末、黨籍に入り、遂に其身を終る。紹興間、朝廷その

行く日を數へ、晉郗の軍に至るの日を以て、北に向ひ自ら到れて以て公子を送らんと。公子郗に至る。晉郗、符を合して果して之を疑ふ。朱亥、袖にする所の四十斤の鐵椎を用て之を殺す。侯生、果して自到して死す。公子既に兵を率ゐて進み、遂に秦を卻け、趙を存し、大に秦の軍を邯鄲に破る。コウエイ 寇榮 (漢)寇恂の孫。桓帝の時、侍甲と爲る。コウエイ 勾頤 (宋)何許の人なるを知らず。紹聖の初夏州教授と爲る。著す所、座右書あり。コウエイ 洪瑩 (清)字は實華。榜の女子也。嘉慶己巳、一甲一名進士。修撰を授けらる。仕進に淡し。五經、各著述あり。コウエイタツ 孔穎達 (唐)クの終を見よ。コウエキ 侯益 (五代)汾州平遙の人。天福四年、晉祖、虎牢の功を追念して、武寧軍節度、同平章事に遷し、侍中を遣はし益に謂て曰く、朕、卿の前身七月九日大に戦功を立てしを思ひ、故に復た此月此日を以て卿を鎮影門に徙すと。九月徐州大火あり。益、金粟を出して之を賑はす。コウエン 弘演 (周)衛の懿公の臣。命を奉じて遠く使し、未だ還らざるに、狄人衛を攻め、懿公を桑津に追ひて之を殺し、盡く其肉を食ひ其肝を食つ。弘演使を報じて至れば肝畢す。天に呼びて號哭し哀を盡くして止む。曰く、臣請ふ爲に表せん。因て自ら其腹を割き懿公の肝を内にして、死す

一子を官にす。コウエイ 侯蘇 (周)魏の隱士也。年七十にして家貧しく、夷門監者と爲る。魏の公子信陵君、置酒して大に賓客を會す。坐定まる。公子、車馬を從へ左を譲りて自ら之を迎ふ。侯生直ちに上載して譲らざ。公子、轡を執る其だ恭し。侯生至るに及びて引て上坐に就かしむ。賓客皆驚く。秦、趙を圍む。趙の平原君の夫人は信陵君の姉なり。援を魏に求む。魏、晉鄙を將として趙を救はんとす。而かも秦を恐れて鄭を鄭に留めて敵て進まざらしむ。平原君、公子を責む。公、乃ち賓客に屬し、車馬百餘乘を約し、趙を馳せて以て趙に死せむとす。過ぎて侯生を見る。侯生曰く、公子、他端無くして秦軍に赴くは、肉を以て餓虎に投ずるが如き耳、何の功か有らむと。公子再拜して計を問ふ。生曰く、吾聞く、晉鄙の兵符は王の臥内に在り、如姫蘇も王に奪せらる、力能く之を竊まむ、且つ公子嘗て姫の爲めに其父の仇を報ず、姫、常に公子の爲めに死せむことを欲す、試に一たび口を開きて虎符を得ば、晉鄙の兵を奪ひ、北は趙を救ひ西は秦を卻け、以て五霸の功を致さんと。公子其言の如くにして兵符を得たり。侯生曰く、將軍外に在ては、君令も受けざる所あり、如し鄭、疑つて之を請はば則ち事急なり、臣の客朱亥、力士なり、與に俱にすべし、鄭若し難かざれば之を擊たしめよ、臣宜しく從ふべし、老いて能はず、公子が

行く日を數へ、晉郗の軍に至るの日を以て、北に向ひ自ら到れて以て公子を送らんと。公子郗に至る。晉郗、符を合して果して之を疑ふ。朱亥、袖にする所の四十斤の鐵椎を用て之を殺す。侯生、果して自到して死す。公子既に兵を率ゐて進み、遂に秦を卻け、趙を存し、大に秦の軍を邯鄲に破る。コウエイ 寇榮 (漢)寇恂の孫。桓帝の時、侍甲と爲る。コウエイ 勾頤 (宋)何許の人なるを知らず。紹聖の初夏州教授と爲る。著す所、座右書あり。コウエイ 洪瑩 (清)字は實華。榜の女子也。嘉慶己巳、一甲一名進士。修撰を授けらる。仕進に淡し。五經、各著述あり。コウエイタツ 孔穎達 (唐)クの終を見よ。コウエキ 侯益 (五代)汾州平遙の人。天福四年、晉祖、虎牢の功を追念して、武寧軍節度、同平章事に遷し、侍中を遣はし益に謂て曰く、朕、卿の前身七月九日大に戦功を立てしを思ひ、故に復た此月此日を以て卿を鎮影門に徙すと。九月徐州大火あり。益、金粟を出して之を賑はす。コウエン 弘演 (周)衛の懿公の臣。命を奉じて遠く使し、未だ還らざるに、狄人衛を攻め、懿公を桑津に追ひて之を殺し、盡く其肉を食ひ其肝を食つ。弘演使を報じて至れば肝畢す。天に呼びて號哭し哀を盡くして止む。曰く、臣請ふ爲に表せん。因て自ら其腹を割き懿公の肝を内にして、死す

コウエン 孔延之 (宋)字は長源。新喻の人。孔子四十七代の孫。幼にして孤貧、晝は書を帯びて耕鋤し、夜は松を燃して書を讀む。慶曆間、進士に擧られ、九遷して司封郎中に至る。平生惟周敦頤曾鞏と最も友とし善し。三子あり文仲武仲平仲。コウエンシヤウ 侯延實 (宋)延平間、施

コウエン 洪瑩 (宋)字は叔毅。淳安の人。弟撰と同じく紹興元年の進士に登る。瑛、南陳の體を主り縣令を理す。歳旱す。郡官缺を履むに實を以てせず。飢民嗷聚す。瑛從容として應散す。尋いて肝胎の司法に遷る。青年盜起る。瑛、渠魁を致して之を斬る。盜即ち潰散す。清江に改る。決獄神の如し。人咸之に服す。コウエン 洪炎 (宋)字は玉父。豫章の人。師民の三子。四洪の一。元祐の末に登第し、紹聖の初に試吏し、宣和に顯れ、紹興に貴し。官、著作郎秘書少監に至る。嘗て上に對して曰く、世人皆心に聳し臣獨り耳に聳す、心は則ち了了、惟だ上の使ふ所と。コウエンクワウ 侯延廣 (宋)平遙の人。太宗の時出て延州の軍を護る。李繼、靈州に寇するに及び、以て海州團練使と爲す。戎人衆と其威名に服し皆引退す。病を被るに及んで曰く、家世々國恩を被り今乃ち死所を得、但だ未だ尺寸の功を立て、以て上に報いざる耳と。言訖て卒す。コウエンケイ 勾延慶 (三國)錦里善仙傳八卷を注す。

コウエン 孔延之 (宋)字は長源。新喻の人。孔子四十七代の孫。幼にして孤貧、晝は書を帯びて耕鋤し、夜は松を燃して書を讀む。慶曆間、進士に擧られ、九遷して司封郎中に至る。平生惟周敦頤曾鞏と最も友とし善し。三子あり文仲武仲平仲。コウエンシヤウ 侯延實 (宋)延平間、施

コウエン

州巡檢使と爲る。蠻民懐服す。眞宗嘗て召して蠻事を問ふ。延實曰はく、蠻、他求なし、惟隨を欲するのみと。乃ち愛路轉運使丁を召して措置せしむ。即ち諸藩に傳告す。軍變恐悦す。因て相與に寇を爲さざる事を盟約す。且曰く天子我を濟ふに食糧を以てす、我願はくは輸するに兵食を以てせむと。是より邊戢三年の積あり。

コウエン子 孔延年 (漢)武の子。武帝の時、博士と爲り、少傅に轉じ、大將軍に遷る。子な嗣とす。

コウカ 侯嘉 (漢)濟陰の人。哀帝の朝、襲勝の薦を以て、徵されて諫議大夫と爲る。

コウカウ 洪皓 (宋)字は光弼。樂平の人。少にして氣節を負ひ四方を經略する志あり。博學強記なり。政和間、進士に擧げられ、初め寧海の簿と爲りて賞賜四千八百戸の税を調く。縣境、荷花桃實竹幹連理の瑞あり。三瑞堂と號す。宣和中、秀州、水あり。皓、粟を有する者を集めて賞贖する無からしめ、米肆を戒めて價を背白旗上に掲げしめ、自ら食ふ能はざる者之を食はしめ、九万五千人を活す。皓出つれば百姓皆手を以て額に加へて洪佛子と呼ばざる無し。建炎中、徽猷閣待制假禮部尙書に擢てられ大金國使に充てらる。金人之を拘し追りて劉豫に仕へしむ。皓曰く、萬里命を啣む、兩宮を奉じて南歸するを得ず、恨むらくは力、逆豫を礎する能はず、之に事ぶるに忍びむや。願はくは鼎鑊に就かむと。

コウカウ

金人怒りて之を殺さむとす。而かも其志に感して之を冷山に流過す。皓、冷山に居りて、屢謀者によりて敵情を密與し、且つ力めて和議の計に非ざるを言ひ、師を興して進撃し以て恢復を圖らむを乞ふ。又嘗て聖太后の書を求め、李徽を遣し持ち歸りて帝に獻せしむ。帝大に喜んで曰く、朕太后の書否を知らざる幾ど二十年、使百輩を遣すと雖此一書に如かずと。皓、金に留る十五年、印符を抱きて臥起す。金人唱はすに美官を以てす。皓心を動かさず。身傍に在りと雖心宋を忘れず。嘗て歎じて曰く、國讐未だ復せず吾の耻也と。紹興十三年に至り朱弁、張邵と共に始めて還り、入りて内殿に對す。即ち群を求めて母を養ふ。帝曰く、卿忠日月を貫き志君を忘れず、蘇武と雖過ぐる能はず、豈朕を捨て去るべむと。皓、秦檜に見え之に語て曰く、張魏公は金人の憚る所、乃ち用ふるを得ずして錢塘に閑住せしむ。景靈宮大廟は不切の役、皆土木の華を極む。豈中原の意無きを示すに非ざやと。檜、皓の子適に謂て曰く、尊公信に忠節あり、上の眷を得、但官職は讀書の如し、速なれば則ち終り易くは乃ち可也。復須らく黃鐘大呂の如くなれば乃ち可也。復た論事を以て檜に忤ひ出で、饒州に知たり。後、英州に徙り又袁州に徙り南雄に至りて卒す。忠宣と諡す。皓、金人の敬する所と爲り既に歸るも金使至れば必ず皓何官たり何地に居るかを問ふ。不幸、檜の陥る

コウカウ

所と爲りて死す。聞く者之を悲む。皓、三子あり。長適、次邁、季邁。俱に詞科に中る。帝曰く皓の身傍庭に陥りて乃ち王室を心とす、三子の詞科は忠孝の報也と。コウカウ 侯剛 (漢)新安の人。仕へて郎中と爲る。王莽、位を篡ふ。剛伴り狂して宋を眞ひ、日に關を守りて號哭す。莽、人を遣はして之を問ふ。剛曰く漢祚窮りなし、主に非ざる者に傳ふるに忍びざる也と。莽遂に之を殺す。コウカウ 侯剛 (五代)果官して侍中左衛將軍たり。尋て魏の左衛將軍となる。元又と姻親あり、常に相往來して俱に奸を成す。遂に誅せらる。コウカクハン 洪覺範 (宋)新昌の人。書に奇なり。鄒元佐は命に奇、彭淵材は樂に奇、之を新昌三奇と號す。コウカシユ 公夏首 (周)字は乘。魯人。孔子の弟子。コウカン 荀諫 (漢)上黨太守。王莽、鮑宣の已に附かざるを以て之を殺し、後ち復其子永を滅せむとす。諫力めて之を保全す。コウカン 孔勸 (唐)字は勝始。孔子三十八代の孫なり。進士に及第し、大理評事に補せられ昭義軍に佐たり。盧從史、僣遷不軌、勸之を極諫せし。從史はざりしかば遂に疾を以て洛陽に歸る。未だ幾ばくならずして李吉甫揚州を鎮し表して幕府に置く。從史誣ふるに事を以てす。奏三たび上る。詔して勸、簡尉丞を以て司を東都に分つ。

呂元所執つて可かず。憲宗使を遣はし諭して曰く、朕非不知、勸行用之矣と。卒して勸動員外郎を追贈す。

コウキ 公季 (殷)姬姓。名は季歷。古公重父の子。古公の長子を太伯といひ次を虞仲といふ。妃太姜、少子季歷を生む。季歷太任を娶り昌を生む。聖瑞あり。古公曰く我が世當に興る者あるべし其れ昌に在らんかと。太伯虞仲、古公の季歷を立て、以て昌に傳へんことを欲するを知り乃ち亡げて荆蠻に入り以て季歷に繼る。古公卒して季歷立つ之を公季と爲す。公季古公の遺道を修め行義に篤し。諸侯之に順ふ。後武王殷に克ちて王季と追稱す。

コウキ 孔偁 (漢)字は仲和。孔子十九代の子。安國より以下尙書を世傳す。偁、肅宗に仕へて蘭臺令史と爲り、幸に蘭里に從ふ。帝曰く今日蘭に於て光ありやと。偁曰く陛下先儒を崇禮し聖德を増輝す光榮に至ては敢て承る所に非ずと。帝大笑して曰く聖門の子孫に非ずんば安ぞ斯言あらんやと。

コウキ 荀晞 (晉)字は道將。山陽の人。東海王越、叛者を討つ。晞、先鋒と爲りて群盜を破り、威名甚だ盛なり。時人稱して練達し決斷流るゝが如し。從母の子、法を犯す。晞之を斬る。既にして晞服流涕して曰く、卿を殺す者は兖州刺史、弟を哭する者は有道將と。卒す。東平侯に封せらる。

コウキ 勾敷 (南北)周易廣説を著す。

コウキ 孔觀 (南北)字は思遠。山陰の人。宋の孝武の時、長史と爲る。權貴に媚びず、性酒を嗜みて、醉日常に多し。朝政事に明曉し、國むるに及んで列決す。未だ嘗て進する所有らず。衆語つて云く孔公一月二十九日醉ふも世人一月二十九日醒むるに勝ると。孝武帝毎に引見せんと欲す。先づ人を以て辭解を規はしむ。觀、骨鯁風力あり、是非を以て已か任さざる。口吃讀書を好む。秀才に擧られ、主簿に補し、官、御史中丞に至る。都に在る時諷歌に値ふ。弟道存江夏内史と爲る。中丞の貧乏を慮り吏を遣し米五百を載せて之に餉す。中丞、吏を呼んで曰く我彼に在ると三載、去る日路糧ある無し、耶至ると未だ糧はくならず何に緣て此を得ると。竟に叱して還らしむ。後、道存從弟道徽と請うて東に假還す。觀、道存之を迎へ、輜車十餘輛を見る。觀爲り喜んで曰く、我正に困乏甚し、此を待つと久しと。因て命して岸に上らしむ。既にして正色語つて曰く、汝輩士流を慕預す、何ぞ東道買客と作るに至る邪と。左右に命じて火を取り之を焚盡さしめて乃ち去る。

コウキ 侯喜 (唐)元和、中、詩名あり。軒轅彌明、指石鼎と稱句す。彌明好句層出。喜大に服す。

コウキ 孔叡 (唐)字は君殿。某父の子。進士に擧げられ、諫議大夫に累遷す。穆宗召して左丞と爲す。老を以て骸骨を乞ふ。韓愈曰く公尙壯、上三たび留む何ぞ之を去る

の果なるやと。數曰く吾年、一宜しく去るべし、吾左丞と爲り耶官を進退する能はず、二宜しく去るべし。愈曰く公餘資なし何を恃んで歸るや。叡曰く吾二宜去を乞ふ尙ほ奚そ子が言を願みんやと。愈上疏して曰く、殺守節清苦謙論正平國を憂へ家を忘る用意至到今退くを求む陛下若し聽許せんば亦義を傷る無して食賢之美あらんと。報せず。禮部尙書を以て致仕す。羊酒を賜ふと。叡士の如し。卒す。諡して貞と曰ふ。子緯、官尙書左僕射に至る。

コウキ 孔宜 (宋)字は不疑。仁玉の子。宋太祖乾德四年、闕に詣り上書して其家世を述ぶ。詔して宜を以て曲阜主簿と爲し、黃州軍事推官に調す。太宗召見す。司農寺丞轉運使に遷り、太子右贊善大夫に遷る。太宗北征す。詔して軍閫を督せしむ。巨馬河を涉りて卒す。子三人、延世、延澤、延淵。

コウキ 侯儀 (宋)滑縣の人。家貧にして産なし。傭ははれて以て母に事ふ。母卒す。葬つて瘞する事能はず。儀は即ち土を負ひ塚を築く。夜は則ち棺に哭し、年を論ゆ。墓間の木連理を生じ、野鶴馴れて去らず。嘗て盜其衣服を劫す。既にして義物爲ることを知り、悉く之を送還す。

コウキウ 孔丘 (周)字は仲尼。世に孔子と稱す。其先は宋人。父は叔梁紇。母は顔氏。魯の襄公二十二年庚戌の歲十一月を以て孔子を魯の昌平郷の陳邑に生めり。兒と爲りて嬉戯するに常に粗豆を陳れ禮容を設

コウキ 孔丘 (周)字は仲尼。世に孔子と稱す。其先は宋人。父は叔梁紇。母は顔氏。魯の襄公二十二年庚戌の歲十一月を以て孔子を魯の昌平郷の陳邑に生めり。兒と爲りて嬉戯するに常に粗豆を陳れ禮容を設

コウキ

コウキ

コウキ

三四一

く。長ずるに及びて委吏と爲る、料廩、平  
かなり。司職の吏と爲る、善、善息す。周  
に往きて禮を老子に問ふ。既に反りて弟子  
益々進む。昭公二十五年甲申、孔子年三十  
五、昭公齊に奔り魯亂る。是に於て齊に適  
き高昭子の家臣と爲り以て景公に通ず。公、  
封するに尼谿の田を以てせんと欲す。晏嬰、  
可かず。公これを惑ふ。孔子遂に去りて魯  
に反る。定公元年壬辰、孔子年四十三、時  
に季氏強横、魯の臣陽虎、亂を作し政を專  
にす。故に孔子仕へずして退く。詩書禮樂  
を脩む。弟子彌衆し。九年庚子、孔子年五  
十一、公山不狃、費を以て季氏に畔き孔子  
を召す。往かんと欲して遂に行かず。定公、  
孔子を以て中都の宰と爲す。一年にして四  
方これに則る。遂に司空と爲り又た大司寇  
と爲る。十年辛丑、定公を相けて齊侯に夾  
谷に會す。齊人、魯に侵地を請す。十二年  
癸卯、仲由をして季氏の宰たらしめ三郿を  
毀ち其甲兵を收めんとす。孟氏、成を毀つ  
とを肯んぜず。之を圍みて克たず。十四年  
乙巳、孔子年五十六、相の事を攝行し少正  
卯を誅す。國政を興り聞くこと三月、魯國  
大に治る。齊人、女樂を贈りて以て之を祖  
む。季桓子これを受く。郊してまた嬖臣を  
大夫に致さず。孔子去る。衛に適き子路が  
妻の兄顔淵の家を主とす。陳に適き匡に  
過ぐる。匡人、以て陽虎を爲し之を拘ふ。  
既に解けて南に還り、蘧伯玉の家を主とす。  
南子を見る。去りて宋に適く。司馬桓魋、

れを殺さんと欲す。又去りて陳に適き司城  
貞子が家を主とす。居ると三歳にして南に  
反る。魯公、用ふる能はず。晉の趙氏の家  
臣佛射、中牟を以て時き孔子を召す。孔子  
往かんと欲して亦果さず。將に西して趙簡  
子を見んとし河に至りて反る。また蘧伯玉  
が家を主とす。魯公、陳を問ふ。對へずし  
て去り復た陳に適く。季桓子卒す。康子に  
遺言して必ず孔子を召さしむ。其臣之を止  
む。康子乃ち再求を召す。孔子、蔡及び葉  
に適く。楚の昭王、將に魯社の地を以て孔  
子を封せんとす。令尹子西、可かず。乃ち  
止む。また衛に反る。時に魯公已に卒す。  
衛君輒、孔子を得て政を爲さんと欲す。而  
して再求、季氏の將と爲り齊と戦ひて功あ  
り。康子乃ち孔子を召す。而して孔子、魯  
に歸る。實に哀公の十一年丁巳、孔子年六  
十八。然れども魯、終に孔子を用ふる能は  
ず。孔子もまた仕を求めず。乃ち魯傳禮記  
を叙し詩を刪り樂を正し易家繫辭卦文言  
を序す。弟子皆し三千、身、六藝に通ずる  
者七十二人。十四年庚申、魯、四狩して麟  
を得たり。孔子、春秋を作る。明年辛酉、  
子路、衛に死す。十六年壬戌四月己丑、孔  
子卒す。年七十三。魯の城北の河上に葬る。  
弟子皆な心喪を服すと三年にして去る。  
たじ子貢、緊上に慮すと凡そ六年。孔子、  
鯉を生む。字伯魚。先だちて卒す。伯魚、  
魯を生む。字子思。中庸を作る。  
コウキウゲン 孔休源 (南北字は疑結)

山陰の人。秀才に擧げられ大學博士と爲る。  
梁の大連中、荆徐州府事を行ふ。晝は詞訟を  
決し、夜は墳籍を覽、書を聚むる七千卷。後、  
晋安王の時、良史と爲り、荆州府事を行ふ。  
是れ孔長の坐と。其禮せらるゝと此の如し。  
コウキウメイ 孔邱明 (周)時人駱法道等  
十人と典に乱を避け、相交通す。仙道を訪  
うて玉笥山に來り修煉歳久し。道成り空に  
騰つて去る。  
コウキウリン 洪球琳 (清)疑賊に投じて  
重んぜらる。遂に誅せらる。  
コウキウガク 孔希學 (明)字は士行。孔子  
五十六代の孫。世々曲阜に居り。太祖を  
召し、命じて行聖公を襲封せしむ。希學、  
讀書を好み、詩法文詞を善くす。翰林官に  
拜せらる。奉して孔廟を飾り蓋観に復す。  
卒す。守臣、命じて祭を致さしむ。  
コウキウキウ 公儀休 (周)魯の人。魯公の  
相。奉法循理變化する所なく、百官自ら正  
し。食味の者をして下民と利を争ふを得ざ  
らしむ。嘗て其園菜を採きて之を棄て、又  
其糞を掃きて曰く、農士工女と利を争ふ  
べけんやと。休、魚を嗜む。客有り魚を遺  
る。休之を受けず。客曰く、君の魚を嗜む  
を聞き之を遺る、君何ぞ受けざるかと。休曰  
く魚を嗜むを以て之を受けざるなり、吾相  
と爲りて能く自ら魚を給す、今魚を受けて  
免れば誰か復た我に魚を給する者あらん  
や、吾故に受けざるなりと。

コウキク 孔季詒 (唐)孔頴の子。制科に  
擢して秘書郎を授けらる。陳子昂其の神韻  
遠く衛玠に比す可きを稱す。  
コウキクゲン 孔季彦 (漢)孔子二十代の孫。  
嘗て梁を過ぐ。梁人繼母あり、父を殺す。  
其子之を殺す。有司大逆を以て論せんと欲  
す。季彦曰く繼母の加きは父有るを以て之  
を誦ふ也今既に父を殺す母名已に絶す、擅  
殺を以て之に當つ可し道を以て論す可から  
ずと。延光二年河南大に雨雹す。帝召見し  
て其故を問ふ。對て曰く此乘陽の徵也今貴  
臣權を擅にし母后の黨繼なり陛下宜しく聖  
德を脩め此二者を慮るべしと。帝默然たり、  
左右皆之を惡む。季彦曰く吾豈勢臣に媚容  
し人主を欺かんやと。終に家に歸る。  
コウキクゲン 洪葵元 (清)賊魁洪秀全の族。  
咸豐中、將を爲り、群衆を率めて屢く官軍  
に抗す。同治三年誅せらる。  
コウキクセン 公儀潛 (周)魯の人。砥切彌  
行にして道を樂み善を好む。榮利に恬と  
して諸侯に事へず。子思之と友たり。穆公  
子思に因り命を致して以て相と爲さんと欲  
す。子思曰く、君賢を待つも讒譎の如く、  
其謀を納るゝと大海の如くなれば蔬食飲水  
するも天下の賢者皆下風を在るを願はん、  
若し高官厚祿を以て釣餌となし之を信用す  
るの心なければ君の庭を踰えざるべし、且  
臣不佞なるも又君の爲めに筆を操り釣を下  
して以て守節の士を傷つくるを欲せずと。  
潛竟に終身屈せず。

コウキクツラツクワウコウ 弘吉刺皇后 (元)  
太祖の後。名は祖眞。特穆禪の女。後の父  
兄、太祖に從ひて大功あり。故を以て諸后  
多くは其族に出づ。至元三年、尊諡を追上  
して光獻皇后と曰ふ。太祖の廟に升附す。  
武宗至大二年尊諡を加上して、光獻翼聖皇  
后と曰ふ。  
コウキクツラツクワウコウ 弘吉刺皇后 (元)  
憲宗の後。名は忽都台。特穆禪の孫。忙哥  
陳の女。蚤く崩す。至元二年貞節皇后と追  
諡す。憲宗の廟に升附す。  
コウキクツラツクワウコウ 弘吉刺皇后 (元)  
憲宗の後。名は也速兒。貞節皇后の妹也。  
皇后蚤世せしを以て繼て皇后と爲る。己未、  
憲宗に從ひ、南伐して六盤に薨す。  
コウキクツラツクワウコウ 弘吉刺皇后 (元)  
世祖の後。名は帖古倫。濟寧王按陳の孫。脱  
機の女。至元十年三月冊立して皇后と爲る。  
東晉て京城外の近地を割きて、牧場と爲さ  
んことを請ふ。帝之を允す。后、太保劉秉  
忠を責めて曰く、汝何ぞ諫めざる、初め都  
を定むる時民地を以て馬を牧する尙ほ可な  
り、今軍民分業已に久しきに忽ち之を奪ふ、  
何ぞ可なりと謂はむやと。帝默然たり。遂に  
事廢む。后宮人を率めて親から女工を執る。  
嘗て諸の舊弓絃を取り、之を縛り結めて袖  
と爲し衣を製す。其親密縫紉に比すべし。  
宣徽院の羊羶皮、置いて用ひず。后之を合  
體して地毯と爲す。其勤儉此に類す。宋の  
幼主入朝するや、后獨樂まず。帝其故を問

ふ。跪き奏して曰く、妾聞く古より千歳の  
國なしと、吾子孫をして此に及ばしむるゝ  
くんば幸なりと。帝、宋の府庫寶物を殿庭  
に陳し、后を召して視せしむ。后一視して  
即ち去る。帝人をして其故を問はしむ。后曰  
く宋人貯して以て子孫に遺す、子孫保つ能  
はずして今我に歸す、我又視るに忍びむや  
と。宋太后全氏京に至り、風土に習はず。后、  
江南に回さんことを請ふ。帝允さず。后厚  
く之を待す。后一衣を製す、前に裳ありて袴  
袴を以てす。名つて比甲と曰ふ。以て弓  
馬に便にす。后性明敏事務を識る。國家初政  
の時に方り匡維力あり。十八年二月崩す。  
尊て尊號を上つり、貞懿昭聖順天睿文光應  
皇后と曰ふ。成宗即位するや、尊諡を追上  
して昭睿順聖皇后と曰ふ。世祖の廟に升附  
す。  
コウキクツラツクワウコウ 弘吉刺皇后 (元)  
世祖の後。仙童の女。名は喃必。至元二十年、  
納れて后と爲す。繼て正宮を守る。時に世  
祖春秋高し、后頗る政に預る。大臣帝に見  
るを得ざる毎に、轍ち后に因て事を白す。  
子あり鐵腕赤といふ。  
コウキクツラツクワウコウ 弘吉刺皇后 (元)  
成宗の後。名は失機答里。幹羅陳の女。大  
德三年、立て后と爲る。十德壽を生めり。早  
く薨す。武宗至大三年、尊諡を追上して、貞  
慈靜懿皇后と曰ふ。成宗の殿室に升附す。  
コウキクツラツクワウコウ 弘吉刺皇后 (元)



武宗の後。名は眞哥。遊不刺の女。至大三年册して后と爲す。子なし。英宗即位して鈔七十萬貫を給す。泰定四年崩す。尊諡を上つて宣惠聖皇后と曰ふ。順帝元統二年、武宗の後主を立つるを議す。丞相問て曰く、先朝既に眞哥皇后、子なきを以て廟に附せず、今附すべき者は、明宗の母、或は文宗の母ならむと。太常博士對て曰く、眞哥皇后、早く冊實に膺る。文、明、二母の如きは皆妾なり。豈子なきの故を以て、主たるを妨げんやと。是に於て升廟の議定る。コウキツラツクワウコウ 弘吉刺皇后 (元) 仁宗の後。名は阿納失舍里。子碩德八剌を生む。是を英宗と爲す。皇慶二年八月立つて后と爲る。英宗位に即くや、尊んで、皇太后と爲し、尊號を上つりて、儀天興聖慈仁昭懿壽元金德壽寧福慶皇太后と曰ふ。至治二年崩す。追て尊諡を上つりて莊懿聖皇后と曰ふ。仁宗の廟に升廟す。コウキツラツクワウコウ 弘吉刺皇后 (元) 泰定帝の後。名は八不罕。幹留察兒の女。泰定元年三月立ちて后と爲る。天曆初に東安州に徙る。コウキツラツクワウコウ 弘吉刺皇后 (元) 文宗の後。名は卜答失里。魯王彌阿不刺の女。天曆元年立つて后と爲る。燕帖古思を生む。十一月、后銀五萬兩を出だし、助けて大承天護聖寺を建つ。至順三年八月文宗崩す。丞相燕帖木兒、燕帖古思を立てむと請ふ。后從はず。復た文宗園陵の初志を申す。

乃ち明宗の太子を立つ、是を寧宗と爲す。時に年七歳、后同しく政を聽く。十一月尊んで皇太后と爲す。興清宮に御し朝賀を受く。寧宗在位論月にして崩す。丞相復た燕帖古思を立てむとを請ふ。后曰く天位至重、吾子尙ほ幼し、明宗の長子妥懽帖睦爾は廣西に在り、今十三歳、理當に立つべきなりと。是に於て使を遣はして之を迎ふ。順帝元統二年尊號を上つりて贊天開聖仁壽懿昭宣皇太后と曰ふ。後至元年更に尊號を加して貞文慈佑壽寧行慶福元太皇太后と曰ふ。仍て制を稱し朝に臨む。六年六月詔して尊號を削去し、東安州に安置す。尋て徒所に卒す。コウキツラツクワウコウ 弘吉刺皇后 (元) 寧宗の後。名は答里也志迷失。至順三年十月立つて后と爲る。至正二十八年崩す。寧宗の廟に升廟す。コウキツラツクワウコウ 弘吉刺皇后 (元) 順帝の後。名は伯顔忽都。統德王孛羅帖木兒の女也。至元三年立つて后と爲る。太子を生む。后、性妬忌せず。時に奇氏麗あり興聖西宮に居り。帝東内に幸するに希れなりと雖、后少しも怨望の意なし。后、帝に從ひて上京に巡する時、中道に次す。一夕、帝内官を遣はし、旨を傳て臨幸せむとす。后曰く暮夜至尊往來すべきにあらずと。中使反復する者再三、竟に納れず。帝益々之を賢とす。坤德殿に居り、終日端坐して、未だ嘗て妄りに戸を踰えず。至正二十五

年八月崩す、年四十八。月を踰えて皇太子、眞寧より歸り、慟哭之を久す。コウキツラツヒ 弘吉刺妃 (元) 世祖の妃。按陳那顔の女。名は察必。太子眞金を生む。コウキツ 孔伋 (周) 字は子思。魯人。孔子の孫。業を曾子に受く。時、孔子を去ると稍く遠く諸子各々其説を異にす。子思乃ち中庸を著し以て孔子の道を明かにす。後世の儒者が性命の論は皆こゝに本づく。孟子は蓋し子思の門人に學ぶと云ふ。コウキツ 侯瑾 (漢) 字は子瑜。禮を以て自ら牧す。獨り房に處る嚴實に對する如し。熾世の論を作り、以て切に當時を諷る。四河の人其才を敬ひ、敢て其名を云はず、皆侯瑾と稱す。コウキツ 孔均 (漢) 字は長平。孔霸の孫。福の子。學を好み大才あり。平帝の時褒成侯に封ぜらる。王莽殺して大尉と爲す。疾を以て辞す。コウキツ 洪沂 (宋) 慶曆の初、都昌縣に知たり。民に教ふるに陶瓦を以て竹に代ふるを以てす。民安く物阜に、政事一新す。人、爲に坊を立て新政と曰ふ。コウキツ 洪芹 (宋) 樂平の人。適の曾孫。進士に擧げられて太學博士と爲り將作少監に遷る。屬詞の臣、上の意に可なる者無し。宰相程元鳳之を薦む。翰林權直秘書少監を兼り吏部侍郎中書舍人に累官す。朝に立ちて慷慨敢言、節量あり。

コウキン 侯均 (元) 字は伯仁。積學四十年、羣經百氏淹貫せざるなし。名、關中に振ふ。薦を以て太常博士と爲る。後ち上疏して相に忤ふ。報を待たずして即ち歸る。方言古語 皆通曉せざる無し。世其博洽に服す。

コウキン 孔金 (明) 山陽人。父早く亡す。母謝氏遺腹三月にして生る。謝氏、大賈杜言の爲に娶を逼られ、河に投じて死す。金、屢官に訴ふるも達するを得ず。誠訴して已まず。言大辟に坐す。讒を被りて完膚無し。獄中に死す。金の子良、亦孝行あり。萬曆四十三年、父子並に旌せらる。

コウキン 洪鈞 (明) 陳友諒に隸し、池州に據り以て明軍に抗す。至正十九年、討平せらる。

コウキンリヨウノツマ 荀金龍妻 (南北) 劉氏。魏の平原の人。宣武の時、金龍、郡守と爲り、關城城主を帯ぶ。梁人、城を圍む。金龍、疾病に會ひ、部分に堪へず。劉氏城人を厲まし、戦具を修理し、夜悉く城に登り拒戦する。こゝ百餘日、兵士、死傷するもの過半。成副高景、陰に叛逆を圖る。劉氏、城人と謀り、景及び其黨數十人を斬る。自餘將士に衣食を分與し、勞逸必ず同す。故を以て畏れて懐かざるなし。井外城に在り、尋て賊に陥れられ、城中渴死する者多し。劉氏乃ち號叫天に訟ふ。俄にして大雨あり。劉氏命して公私の布帛及び衣服を出さしめ、之を城外に懸け絞りて水を取り、

有る所の雜器に悉く之を儲ふ。是に於て人心益々堅し。益州刺史傅堅服至り、梁人乃ち退くに會ふ。堅服之を嘆異し、具狀奏聞す。宣武帝之を嘉し、其子を録賞す。コウキヨウキヨク 侯拱極 (明) 世祿の子。崇禎中、官、參將たり。屢賊を討して功あり。山海總兵官に擢し病謝して歸る。後廷臣の薦を以て詔に應じ都に入る。未だ用ひられずして歸る。十六年、父と俱に戦死す。コウキヨク 孔昂 (宋) 字は自牧。仁玉の子。進士の第に登り殿中丞を以て廣州に通判たり。清潔を以て聞け治行あり。召對して博士を授けられ尙書工部侍郎を歴て致仕す。

コウギヨクタイ 公玉帶 (漢) 濟南の人。武帝明堂を作らん欲するも其制を知らず。帝、明堂の圖を進む。帝乃ち命して明堂を作り汶上に奉し、其圖の如くす。コウク 洪矩 (三國) 宣城の人。廬江太守。性酒を嗜む。親友に與ふる書に曰く今年田稼を得る七百石、麴糵を了するに足らず。其沈此の如し。仕へて中丞に至り、卒す。コウクンシフ 侯君集 (唐) 三水の人。才雄を以て稱せらる。太宗に從つて征伐す。功あり。高昌を平ぐ。石を刻し功を記して遷る。陸國公に封ぜられ、凌煙閣に圖形せらる。

コウクンシヤウ 洪君祥 (元) 小字は雙叔。福源の五子。高麗を鎮撫して聲績あり。宋に

降り同食糧幣院事に歷遷す。大德間江浙に奉使し、民の疾苦を問ふ。歸りて皇華山に退居す。後召されて遼陽行省左丞と爲り位に卒す。コウクンセウ 侯君昭 (明) 知汾州たり。崇禎十六年正月太原已に陥るや、出て、賊を罵りて死す。コウクンテキ 侯君權 (明) 字は際明。咸安の人。家を舉人に起す。崇禎十五年二月、李自成數十萬衆を率ゐて來り攻む。關永傑を佐け、身づから士卒に先じて木石を運び賊を撃つ。城濬皆滿つ。後縛せらる。罵り口を絶たずして死す。右參議を贈らる。

コウクワウ 孔光 (漢) 字は子夏。成哀平三朝に仕へて御史大夫に至る。靈壽杖を賜はる。

コウクワウコウ 孔皇后 (五代) 唐の愍帝の子。父循、横海節度使たり。后賢行あり。四子を生む。愍帝即位するや、立ちて皇后と爲る。未だ冊命に及ばざるに難起り愍帝出奔す。后病み子幼にして皆從ふ能はず。愍帝立つに及びて、后及び四子皆殺さる。晋高祖立ち追諡して哀と曰ふ。コウクワウシン 孔廣森 (清) 字は衆仲。又の字は協約。荏谷の猶子なり。乾隆三十六年進士となり、官、檢討たり。廣森、聰穎、經史小學に特達し、沈覽妙解、少うして學を戴東原に受く。學ぶ所、公羊春秋に在り。性冲淡、著述に耽る。後、謁を通じ養を告げて歸り、復た出でず。大母と父の喪に居

るに及び愛毀を以て卒す。時に乾隆五十年なり。年三十有五。

**コウケイ** 後皇帝 (三國) 蜀主。姓は劉。名は禪。字は公嗣。烈帝の子。年十七にして位に即く。諸葛亮先帝の遺詔を受け内外の政を統ぶ。建興十二年亮卒す。炎興六年魏の兵蜀に入り帝降る。安樂縣公に封ぜらる。在位四十一年。改元する者四、建興、延熙、景耀、炎興。

**カウケイ** 洪和元 (清) 洪秀全の族。僞王に封せられ、髮賊の一鎮雄たり。同治三年四月誅に伏す。

**コウケイ** 孔括 (五代) 字は端仲。伯源父、叔淑滋、皆登第す。括、西安縣に宰たり。公廉清介にして名行都に震ふ。終に涼州に守たり。

**コウケイ** 洪适 (宋) 字は景伯。號は盤州。樂平の人。皓の長子。幼にして穎悟、日に三千言を誦す。紹興中、弟遵と同しく博學宏詞科に中り、秘書省正字に擢てらる。後、秦檜、皓を惡む。适亦論じて罷む。檜死して復起つ。曾て淮東の軍馬錢糧を總領し心を究めて調度し饋餉闕く無し。官、尙書右僕射兼樞密使に至りて卒す。文惠と諡す。

**コウケイ** 孔奐 (周) 陳の哀公に事へて大夫に除せらる。曾て公子招等の逆に擊す。後楚の陳を亡すに方り戮せらる。

**コウケイ** 孔奐 (南北) 字は休文。陳の永定中晋陵太守に除す。郡中號して神君と

曰ふ。曲阿の富人殷綺、其儉素を見て饒るに衣靴一具を以てす。太守曰く、身美祿に居る豈此を辨する能はざらんや、但百姓未だ周知からず、爾温飽を享くる能はず、厚意を煩はさじと。

**コウケイ** 孔道 (唐) 性抗直にして才藻あり。嘗て東都賦を作る。時之を稱す。

**コウケイ** 孔環 (明) 南宮の人。歲貢生より來安知縣を授けらる。劉瑾の黨に陥れられ、西華教諭に左遷せらる。正徳中、賊の爲に執はる。賊曰く、我を主と呼ば、即ち汝を釋さんと。聲を厲まして曰く、我恨むらくは汝を碎くこと萬段なるを得ず、肯て汝に媚びて活を求めんやと。遂に殺さる。

**コウケイ** 侯景 (南北) 字は萬景。魏の懷朔鎮の人。少うして不羈。初め兵法を慕容超宗に學ぶ。魏の末に北方大に亂る。屢々軍功を立て、重川せらる。景右足短くして馬に便ならざれども頗る智謀に長ず。高歡、東魏の大丞相たり、卒す。其子澄に囑して曰く、侯景、飛揚跋扈の志あり、汝の能く御する所にあらず、景に敵するに堪ふる者は唯慕容紹宗あるのみと。果して河南を以て西魏に降り、未だ幾ならずして復た梁に附く。梁、景を封して河南王と爲す。景の使、梁に至りしとき、梁の群臣皆景を納るゝを欲せず。梁の武帝も亦いふ我が國家は金甌の如し、一の傷缺あるなし、恐らくは景を納るれば因て以て事を生ぜん、唯々朱异のみ力勤して之を納る。東魏、

慕容紹宗をして景を擊たしむ。景敗れて南に走り梁の壽春を襲ひ、之に據りて以て命を請ふ。梁就いて以て南豫州牧と爲す。既にして東魏、梁に求め、意に景を得んことを欲す。景、梁の東魏に通ずるを恨み、遂に壽陽に反す。兵を引いて南に渡り建康を圍み、進て梁主に壽陽に迫る。梁主、人を遣して景と盟ひ以て大丞相と爲す。臺城を圍む。五月にして之を陷る。景入つて梁の武帝を見、遂に之を弑し、太子綱を立つ之を簡文帝と爲す。已にして自ら漢王と稱し、又梁主を弑す。是より先き始興太守陳霸先、兵を起して景を討す。湘東王暉も亦、僧辨をして景を討せしむ。景立數月にして僧辨霸先に敗られ、亡げて突に入り海に入らんと欲す。其下に斬らる。尸を建康に送り、首を江陵に傳へ、其手足を截り北齊に送る。

**コウケイ** 孔繼 (唐) 貞元中、及第す。龍虎榜と號す。齊簡王鐔、河南尹と爲り、繼を辟して參議官と爲す。韓愈送るに詩を以てす。曰く君今得所附、勢如龍輔也。

**コウケイ** 孔繼 (清) 字は莊谷。孔子六十七代の孫。曲阜に居り。乾隆辛巳進士となり、官、戶部郎中たり。三禮に深し、徵波樹嚴書を校刻す。

**コウケイ** 洪慶善妻 (宋) 丁氏。賢にして文字あり。晝亦勤勵。

**コウケイ** 孔敬宗 (金) 字は仲先。靜江軍節度、石辰信磁四州刺史、寧昌歸德二軍節度使を歴し、大定二年卒す。

**コウケイ** 洪經綸 (唐) 德宗の建中元年、命ぜられて河北黜陟使と爲る。父奐、起居舎人、祖察、本姓弘氏、常州に居り姓を洪と改む。

**コウケイ** 孔巖 (晉) 會稽の人。尙書左丞たり。隆和元年、天文度を失す。哀帝鴻記の制に依らんと欲し、太極殿前庭に制し親ら度齋を執る。巖諫めて曰く、鴻記、尙書太傅に出づと雖も先儒の究めざる所、歴代之を興す莫し、天を承けて神に接す。豈以て行事を設給すべけむや、天道親無し、惟だ德是れ輔く、陛下祗順恭敬、心を庶兆に留めば災を消し咎を復すべく、已れ踏んで而て之を行はば德神明に合すべし、丘禱ること久し、豈萬乗の尊を風し雜祀の事を修すべけむや、君舉必ず書す、慎まざる可けむやと。帝之を嘉納して止む。

**コウケイ** 侯元演 (明) 嗣曾の次子。明末、父と共に瀾に沈みて國に殉す。

**コウケイ** 洪彦華 (宋) 字は叔炳。淳安の人。天資樸茂、學問該洽。淳熙の進士に登る。居常自ら曝まし言行一の如し。官に蒞み民を治むるに専ら德化を務む。其の茶陵に宰たるや歲歉に値ふ。心を悉して撫字し民流亡無し。眞德秀嘗て之を薦む。累官して朝請大夫知興化軍に至る。

**コウケイ** 寇彥胤 (五代) 騎射を善くす。梁の太祖、乘る所の馬高き一丈餘なるを賜ひて曰く、眞に神將也と。

**コウケイ** 侯元深 (明) 嗣曾の次子。

明末、父と共に水に赴き、國に殉す。

**コウケイ** 寇耀之 (南北) 昌平の人。仙人成功典に遇ひて之を嵩華に遊び、仙藥を食ひ遂に松陽元に隱る。魏の初、光宗に召されて關に至る。耀之一日弟子に謂つて曰く、昨夢に功與我を中嶽仙宮に召し、遂に羽化せりと。素氣あり烟の如く口中より出て天半にして乃ち消え其體漸く縮む。觀者戸解と謂ふ。後東郡の沈斌、耀之の嵩山に在るを見る。身は銀色をなし光明日の如し。始めて其仙と爲りしを知る。

**コウケイ** 孔彦舟 (宋) 字は臣濟。相州林慮の人。少にして亡頓、牛産を事せず、亡命して盜と爲る。靖康の初、募に應じて京東西路兵馬鈐轄に累官す。劉豫、人を遣して之を招く。彦舟乃ち降服す。既にして齊國廢せられ、彦舟また宋に歸す。累官して工兵二部尙書と爲り、後、南京留守を以て汴に死す。年五十五。彦舟、平生酒色に耽み禽獸の行あり。士大夫の指彈する所と爲る。

**コウケイ** 洪彦昇 (宋) 字は仲達。樂平の人。元豐間、進士の第に登り、殿中侍御史に累遷し、孤立言實に任す。蔡京の國を誤るを論じ、及び何執中、呂嘉嗣を論じて其の過を極す。後、給事4に遷る。

**コウケイ** 孔彥 (明) 字は朝武。衢州西安の人。孔子五十九代の孫。正徳の初、翰林院五經博士を授けらる。子孫世襲す。并に其祭田の税を減す。卒す。子承榮、

墓容紹宗をして景を擊たしむ。景敗れて南に走り梁の壽春を襲ひ、之に據りて以て命を請ふ。梁就いて以て南豫州牧と爲す。既にして東魏、梁に求め、意に景を得んことを欲す。景、梁の東魏に通ずるを恨み、遂に壽陽に反す。兵を引いて南に渡り建康を圍み、進て梁主に壽陽に迫る。梁主、人を遣して景と盟ひ以て大丞相と爲す。臺城を圍む。五月にして之を陷る。景入つて梁の武帝を見、遂に之を弑し、太子綱を立つ之を簡文帝と爲す。已にして自ら漢王と稱し、又梁主を弑す。是より先き始興太守陳霸先、兵を起して景を討す。湘東王暉も亦、僧辨をして景を討せしむ。景立數月にして僧辨霸先に敗られ、亡げて突に入り海に入らんと欲す。其下に斬らる。尸を建康に送り、首を江陵に傳へ、其手足を截り北齊に送る。

**コウケイ** 孔繼 (唐) 貞元中、及第す。龍虎榜と號す。齊簡王鐔、河南尹と爲り、繼を辟して參議官と爲す。韓愈送るに詩を以てす。曰く君今得所附、勢如龍輔也。

**コウケイ** 孔繼 (清) 字は莊谷。孔子六十七代の孫。曲阜に居り。乾隆辛巳進士となり、官、戶部郎中たり。三禮に深し、徵波樹嚴書を校刻す。

**コウケイ** 洪慶善妻 (宋) 丁氏。賢にして文字あり。晝亦勤勵。

**コウケイ** 孔敬宗 (金) 字は仲先。靜江軍節度、石辰信磁四州刺史、寧昌歸德二軍節度使を歴し、大定二年卒す。

字は永實、襲く。卒す。其子弘章、字は以遠。其子開首、字は知政。其子自運、字は用行。世襲す。時に曲阜に在るを北宗と爲し、西安に在るを南宗と爲す。

**コウケイ** 侯彦直 (元) 雅州の人。校尉副千戸と爲る。至元間、賊至りて州を犯す。彦直、力疲れ援絶つ。賊之を縛し去らむとす。乃ち自刎して死す。

**コウケイ** 公堅定 (周) 孔子の弟子。魯人。或はいふ魯人。

**コウケイ** 孔元龍 (宋) 字は季駒。孔子五十代孫。尙志篤學、眞德秀に従ひて遊ぶ。餘干縣簿に任す。後ち柯山精舍山長と爲り、宣教郎を以て致仕す。年九十餘に至る猶手に卷を轉てず。著柯山講義、論語集說、魯樵變葉、養路整壁等の書あり。卒す。太子少師を贈らる。

**コウケイ** 侯固 (唐) 大中の間、漳州刺史たり。奏して桑を増植し、税を加ふるなきを乞ふ。

**コウケイ** 洪梧 (清) 字は桐生。榜の弟。乾隆庚戌の進士。編修を授けられ知府に官す。博く今古に通じ論翰に工に亦經學に通ず。

**コウケイ** 侯公 (漢) 高祖、之を遣はして項羽を説き、天下を中分にする。

**コウケイ** 伍洪 (明) 字は伯宏。安福の人。洪武四年の進士。績溪主簿を授けられ上元知縣に擢てらる。外眼に丁す。服除く。母の老を以て復た仕へず。資産を諸弟に與へ、獨り隱居して母を養ふ。異母弟罪を得て逃る。

コウコウ

使者捕へて獲ず、乃ち其母を執ふ。洪異訴して代らんことを求む。母曰く、汝往かば必ず死せん、吾自ら之に當るに如かずと。洪曰く、安んず在て母を累す者あらんと。遂に行いて市に死す。

コウコウジツ

侯弘實 (唐)年十三四、夢に虹と爲りて河に飲む。數月、僧あり、之を相して曰く此蜺龍なりと。後、節度使と爲る。

コウコウジュン

孔公恂 (明)字は宗文。孔子五十八世の孫。景泰五年の進士。英宗、憲宗、二朝に歴し、禮科給事中より南京詹事府に累進し、之を久しうして卒す。

コウコウツ

洪興祖 (宋)字は善慶。紹興中、孔端明、張炳、周林と四人俱に召試せらる。上、策を覽て曰く、興祖謹直、第一に當ると。遂に孔と並に秘書省正字に除せらる。張と周とは諸州の學官たり。

コウコクケン

勾克儉 (宋)郡の人。進士に擧げられ累官して殿中侍御史たり。出て、河東路轉運使と爲る。忠清明敏を以て聞ゆ。

コウコクジン

孔克仁 (明)句容の人。嘗て宋濂と俱に太祖に侍し、數時務を談論し、頗る旨に稱ふ。行省都事より郎中に進む。後ち出て、江州を知し、入つて參議に拜せらる。事に坐して死す。

コウコクハウ

寇國寶 (宋)除州の人。進士に擧げられ、吳縣主簿に任せらる。

コウコマンイ

公戸滿意 (漢)高堂生の弟

コウコン

子。禮官大夫たり。

コウコン

后焜 (晋)永和修撰に預る。詩成らず、罰酒三觥を賜はる。

コウサイ

苜蓿 (南北)穎川の人。梁武と舊あり。後ち北朝に仕ふ。嘗て馬上墨を磨して楸を作る。

コウサイ

弘濟 (元)高僧。字は同舟。別號は天岸。越の餘姚の人。姓は姚氏。圓覺、集慶、顯慈、萬壽、圓通、普福に歷住す。至正十六年三月十日、世壽八十六にして寂す。著すところ、四教儀紀正、天岸外集若干卷あり。

コウサウ

后蒼 (漢)字は近君。孟卿に從ひ禮記を受く。禮を説くこと數萬言、后氏曲盡記と號し、戴德に授く。兼、齊詩に通じ、蕭望之に授く。宣帝の朝博士と爲る。

コウザウ

孔臧 (漢)孔子十一代孫。初め文舉、漢都尉と爲りて項羽を破り、嬰侯に封せらる。臧、爵を嗣ぎ位九卿を歴、武帝の時御史大夫に遷る。辭して曰く、臣世、經學を以て相承け訓法を作す、今俗儒繁說本に遠く離るに妖妄を以てし、訓す可からず、偶々侍中安國、詔を受けて古義を綴集す、臣乞ふ大常と爲り臣の家業を典り安國と古訓を紀綱し、永く後嗣に垂れんと。帝之に従ふ。禮賜三公の如し。著書十篇、賦二十篇。又嘗て書を作りて從弟安國に與ふ。

コウサウホ

孔某父 (唐)字は弱翁。冀州の人。孔子二十七代孫。少して學に力む。李季卿薦めて參軍と爲す。德宗の時、李白、

コウサキ

孫愈、裴政、張叔明、陶河と徂徠山に隠れ、竹溪六逸と號す。後ち李懷光に使し害に遇ふ。

コウサキウ

洪茶丘 (元)本名は俊哥。茶丘は其小字也。職名あり。中統の初、關に設て父の冤を申す。世祖父の職を襲かしむ。遂陽行省右丞に遷る。尋て遂左に卒す。

コウサフ

公沙孚 (漢)公沙穆の子。上谷の太守たり、累官して尙書に登る。

コウサボク

公沙穆 (漢)字は公義。北海膠州の人。桓帝の時、弘農令に遷る。螟虫あり稼を食ふ。乃ち糧を設け身を以て禱る。大に雨降り既にして雲れ螟虫自ら消す。百姓稱して神明といふ。穆、少くして大學に遊び、資糧なし。服を變して客傭し、吳祐の爲めに春く。祐、典に語りて大に驚き、遂に交を許す。白の間に定む。穆の五子並に令名あり。京師號して公沙の五龍といふ、天下無雙たり。

コウサン

寇讚 (南北)字は奉國。上谷の人。魏に仕へて河南の太守と爲る。未だ幾ばくならざるに南雍州刺史に拜せらる。流民賑貸して遠きより至る。爵、河南公に進み、安南將軍を加へらる。位高く爵重しと雖も接待倦まず。

コウサンフチウ

公山不狝 (周)字は子洩。季氏費邑の宰たり。定公十二年、叔仲敬と魯公を襲ひ、三子と季氏の宮に入る。已にして國人に逐はれ、齊に卒す。

コウシ

孔子 (周)孔丘を以て。若思の子。中宗の時、著作に歴す。氏族の學に精しく、章述、蕭穎士、柳沖と名を齊しうす。嘗て百家類例を撰し、張說等が近世の新族なるを以て削り去る。說の子伯、方に寵あり。怒る。至、懼れて之を増損せん欲す。章述曰く、士大夫、筆を奮ひて一家の書を成す、奈何ぞ人に因りて動かんや、死するも改むべからざる也。至、乃ち止む。

コウシ

寇泚 (唐)開元中、宋州刺史と爲る。玄宗、州に至り、城臣を從へて權上に宴す。泚亦與る。

コウシ

侯學 (金)初の名は師尹。字は莘卿。東阿の人。明昌二年進士となる。天興元年大司農となり、平章政事に拜せられ、蕭國公に封せらる。崔立の變に及び殺さる。生平朴直蘊藉無し。

コウシウ

洪衆 (明)四川の白蓮賊。衆を率ゐて鴻儒に應ず。遂に捕へられて法に正さる。

コウジウ

弘光 (南北)高僧。涼州の人。初め多寶寺に止まる。法華十地を講ずることとに聽く者堂に盈つ。宋太宗江夏文獻王義恭、雅より之を重んず。明帝踐祚し、湘宮寺を起し、充を請して綱領となす。永明中、春秋七十有二にして卒す。文殊問菩薩經及び首楞嚴經を註す。

コウシウゼン

洪秀全 (清)廣東花縣の人。鴉片戦役の後、廣西廣東の地に亂

コウシ

み、盜賊蜂起す。秀全時に廣西の桂平縣に在り、天主教を以て徒弟を教誨す。國勢の漸く衰へたるを見て、遂に兵を金田村に起す。馮雲山、蕭朝貴、楊秀清、韋昌輝、石達開等之が羽翼たり。秀全自ら稱して天帝の次子と爲し、耶穌を天兄と稱す。直言實語の諸書を作りて之を散布す。期月にして來り從ふ者雲の如し。廣西巡撫鄭祖琛其事を忌みて奏せず。是を以て秀全の勢益盛に、所在官兵を破り、象州の境に入り廣西を犯し永安を陷る。文宗の咸豐元年、國を建て太平天國と號し、自ら天王と爲り大に功臣を封ず。其下をして髮を蓄へしむ、故に清人之を髮匪と稱す。道州桂陽を下し、洞庭に出で、岳州を取り、更に東下して漢陽武昌を陷る。二年九江安慶蕪湖を徇へ、遂に金陵を下し之に據る。制度律令を定め、奴婢を放ち、妾媵を禁じ、纏足を止む。其他四教によりて改革を施せるもの頗る多し。更に諸將を出して四方を略せしむ。此時に當り滿州入旗の兵、皆屈弱にして戰に堪へず、官軍至る所に常に敗る。朝廷曾國藩に詔を下し討平の事を任ず。國藩乃ち湘勇の制を設け、李鴻章、左宗棠等を率ゐて秀全に當る。英將戈登亦常勝軍を率ゐて之を助く。同治二年國藩等金陵を圍む。城中食盡く。秀全事の濟すべからざるを知り藥を仰いで死す。兵を起してより此に至るまで十五年。其攻略する所十六省に及び、一時清室の基礎を撼揺したり。

コウシキ

洪春暉 (宋)字は舜翁。於潜の人。嘉定の初、進士たり、監察御史に歴官す。權人主に歸し、政中書に出づれば天下未だ治らざるを有らざるを論じ、又聖學を講明すると六條を言ふ。司馬尙書翰林學士に進む。コウシキヨ 孔子祚 (晉)少うして孤。學を好み耕、耘樵探常に書を讀にして自ら隨ふ。古文尙書に明なり。國子助教となる。四書學士に遷り中書通事舍人に累遷す。武帝、五經講疏及孔言正言を撰す、子社常に群書を考閱し以て義註をなす。又自ら尙書を註して尙書義を撰す。後、散騎侍郎を加へらる。官に卒す。

コウシクワイ

孔思晦 (元)字は明道。至大中范陽教諭と爲る。儉約自ら持し、教養法あり。卒す、文廟に祀す。

コウシケン

孔子建 (漢)孔子十六代の孫。少にして長安に遊び崔篆と友とし善し。篆の王莽に仕ふるに及び、よた子建に仕ふるを勸む。對へて曰く、吾は布衣の志あり、子は衰冕の志あり、各々志す所に從ふ、亦た善からずやと。篆、敢て強ふる能はず。遂に歸りて家に終す。

コウシタイ

賈師泰 (元)字は泰甫。寧國宣城の人。至正の才。秘書卿と爲る。杭の海寧州に至りて卒す。師泰、文字を以て名を知らる。尤もやんで後進を引接す。著はす所玩齋集あり。

コウシテイ

孔師程 (明)昆明の人。軍に従ふを以て官を得。明末、晋寧呈貢の諸州

コウシフ

縣を糾合し、兵を起して賊を拒ぐ。李定國  
衆を率ゐて奄ひ至る。遂に難に死す。  
コウシフ 孔載 (唐)字は方舉。勸の弟。  
初め父難に死す。詔あり、一子に官を興へ  
て修武尉に補せんとす。載受けずして其の  
兄に譲る。載明經に擢てられ、校書郎を判  
し京兆尹に累遷す。時に歳旱す。文宗憂ふ  
ること甚し。載、躬ら曲江の池に祠る。一  
夕大に雨る。帝悦び詔して御史大夫を兼れ  
しむ。卒して工部尚書を贈らる。子温。  
コウシミン 洪師民 (宋)豫寧の人。四子  
明、弼、炎、羽、俱に才名を負ふ。四洪と號す。  
黃山谷の甥。

コウシン 侯晉 (周)鄭の簡公の時、公子  
驩、田湫を爲る。侯晉、田を失ひ産を殺ぐ  
に因り、附止等と謀て反し、公子數人を殺  
す。後ち國人に逐はる。  
コウシン 寇謙 (南北)字は仙勝。年二十  
にして父の變に遭ひ喪に居り。孝を以て稱  
せらる。財を輕んじ士を好む。獻文の末、  
中山太守となる。

コウシン 侯深 (南北)魏の莊帝に仕へて  
燕州刺史と爲る。時に葛榮の別帥、韓德、  
鄒長等叛して薊城に據る。乃ち深を以て權  
を討らしむ。深、賊帥陳周の馬歩萬餘に遇  
ひ大に之を敗る。功を以て爵を賜ひ侯と爲  
る。  
コウシン 侯建 (明)字は廷玉。澤州の人。  
宣德二年の進士。行人を授けられ兵部主事  
に遷る。正統中、兵部尚書に累進し、景泰

元年八月勞瘁を以て薨定に卒す。年五十三。  
コウジンカン 洪仁汗 (清)秀祖の同祖弟  
なり。初め粵西に在り、後ち來りて洪秀全  
に附き、干王と號す。同治三年江寧に敗れ、  
誅に伏す。  
コウジンギヨク 孔仁玉 (五代)字は温如。  
光嗣の子。孔子四十三代の孫。六藝を善く  
し、尤も春秋に精し。初光嗣仕へて泗水令  
と爲る。害に逢ふ。時に仁玉方に生て九月  
母張氏抱き歸り外家に育す。後ち魯人之を  
官に訴ふ。事朝に聞す。乃ち仁玉を以て爵  
を賜かしめ、文宣公に襲封す。後ち太祖廟  
に幸し召對して章服を賜ひ卒して兵部尚書  
を贈る。後世孔子の苗裔と絶えて復た續  
ぐ。中興の祖と爲す。子四人、宣憲、勉、昂、  
コウジンク 侯仁矩 (五代)漢。隰州刺史  
たり。郡に至り滯獄を決す。一日にして繫  
囚を釋すと自餘。獄之が爲に空し。民情悦  
服す。  
コウシンシヨウ 侯晉升 (宋)字は德昭。  
曲江の人。元豊中進士に擧げらる。程軫令  
と爲る。蘇軾と往還す。仕へて南恩太守に  
終る。  
コウジンセイ 洪仁政 (清)秀全の同祖兄。  
鄭王と號す。同治三年擒せられて誅に伏す。  
コウジンタツ 洪仁達 (清)秀全の異母兄  
たり。性鄙吝く知らず。福王と稱す。  
同治三年擒せらる。  
コウジンハウ 侯仁實 (宋)李建の人。益  
の子。薩を以て官に入る。出て、崖州に知

コウジン

の秩俸、厚く朋友故人及び従ふ所の吏士に  
施す。常に曰く吾れ士大夫に由つて以て此  
の如きを致す、其れ爾之を享く可けんやと。  
時人以て宰相の器ありと爲す。  
コウジン 孔福 (五代)梁の太祖に勤め、  
昭宗を廢し何皇后を弑せしむ。後ち事を  
用ひて獨りに功臣を戮す。遂に南海に謫せら  
る。  
コウジン 洪進 (宋)字は景殿。樂平の  
人。贈り次子。刻苦學、制科に試して魁  
選に中り秘書省正字に擢てらる。紹興の末、  
起居舍人に拜せられ、後、平江に知りたり。  
金人海道より二湖を窺ふ。副總管李寶を助  
けて之を棄てて成功す。孝宗の時、同知樞  
密院事に拜せられ、後、建康府に知と爲り  
て惠政あり。資政殿學士提舉洞霄宮を以て  
卒す。文安と諡す。  
コウジン 寇準 (宋)字は平中。華州の  
人。入歳にして華山の詩を吟す。太宗魏に  
幸せし時、準年十六。父陥られたるを以て行  
在に上書す。辭色激昂し舉止長る、所なし。  
上之を壯とし有司に命じて姓名を記さし  
む。後二年進士たり。初め巴東縣に知たり。  
手づから雙栢を庭に植ふ以て甘棠に比す。  
蔡公相と名づく。準、外著りて内儉なり。  
曹州に貶せらるるに及びて道に竹を剪りて  
以て神祠に挿み而て之を祝して曰く、準若  
し朝廷に負かずんば枯竹再び生ぜん。果  
して生ず。後人相公竹と號す。仁宋の初、中  
書令を贈り蔡公に封す。忠愍と諡す。

たり。太宗の時交州を取るの策を上言す。  
交州水陸計度轉運使を授けらる。子延齡、  
殿中丞延世太子中舍たり。  
コウジンハツ 洪仁發 (清)秀全の異母兄、  
性貪婪なり。安王と號す。同治三年誅に伏  
す。  
コウシンヤウ 侯震鳴 (明)字は得一。嘉  
定の人。萬曆三十八年の進士。行人を授け  
らる。天啓中、吏科給事中に擢除せらる。  
會々清兵寇す。震鳴、策を獻す。後又魏忠賢  
の奸を論じて竟に調せらる。崇禎の初召さ  
れて故官に復せんとす。未だ至らずして卒  
す。太常少卿を贈る。  
コウシヤウ 孔璋 (唐)許昌の人。李邕、  
獄に下り當に死せむとす。璋、布衣を以て上  
書して曰く邕、往には二張の角を折り章氏  
の鋒を挫きて國功あり、臣に於ては時に益  
なし、願はくは身を以て之に代へむと。遂  
に邕の死を藏す。  
コウジヤクシ 孔若思 (唐)博學廣識。唐  
初、明經に擢て庫部郎中を歴。常に曰く仕  
官して郎中にすれば足ると。座右水一石を  
置き自足の意を明にす。後、禮待に遷る。  
コウシニ 後主 (三國)後皇帝を見よ。  
コウシニ 後主 (南北)北齊第七世。姓は  
高。名は緯。字は仁綱。武成帝の長子。性暗  
愚、無愆天子と號す。周武帝之を伐ち執へ  
歸りて之を殺す。在位十三年。改元三、天  
統、武平、隆化。  
コウシニ 後主 (南北)陳の長城公を見よ。

コウジン

コウシニクケン 侯叔獻 (宋)字は景仁。  
定黃の人。志節あり。進士に擧げらる。同  
常平使者兼都水監に累官す。建隆して揚  
州游田司と爲り、地利を相し、樊山の水を  
引き、田四十萬頃に灌ぐ。南北水陸轉運判  
都水監に遷る。治水尤も其法を得。美談あ  
り。  
コウシニクケン 孔淑玄 (晉)孔食の子。  
文學を以て著はる。官、大學博士に至る。  
コウシニクケン 公叔文子 (周)南の大  
夫。人と爲り廉靜なり。時に其不言不笑不  
取を稱す。嘗て其の家臣を罵めて大夫と爲  
し同じく公朝に升る。卒して貞惠文子と諡  
す。孔子其の文あるを稱せり。  
コウシニセイ 孔守正 (宋)河南浚儀の人。  
初め後唐に事ふ。宋に歸して各處に轉戦し  
て功あり。咸平四年、彰德軍留後に累遷し、  
風疾を以て安化軍に改められて卒す。年六  
十六。恭寧軍節度使を贈る。  
コウジン 寇恂 (漢)字は子真。上谷昌  
平の人。光武の時偏將軍たり。南河内を定  
むるに及びて、帝其守を難んじ鄧禹に問ふ。  
禹曰く、寇恂は文武備足し収民聚衆の才あ  
り。乃河内太守に拜し大將軍の事を任は  
しむ。後ち潁川汝南の守と爲る。恂、素と學  
を好む。乃將校を簡し生徒を教へ能を轉す。  
後潁川寇起るや、恂、帝に從て出て、征し、  
賊平ぐ。百姓恂の留らんを帝に乞ふ。乃  
留て鎮撫す。卒す。潁台に圖形す。恂經に  
明かに行跡より朝廷に遺んやらる。得る所

コウシニクケン 洪春元  
同治中誅せらる。  
コウジン 孔淳之 (晉)字は彦深。  
人。孔子二十六代の孫。會稽剡縣に居り。性  
山水を好む。遊ふ毎に或は旬日歸るを忘る。  
會稽太守之を苦邀すれども致す能はず。乃  
ち謂て曰く初も吾郡に入らず、何爲そ吾郡  
に入るやと。淳之笑て曰く潛游する者は其  
水を識らずと。終に肯て往かず。宋元嘉の  
初、徵して散騎常侍と爲す。亦就かず。  
コウシヨ 后處 (周)字は子里。孔子の弟  
子。  
コウシヨ 洪子典 (唐)睿宗、侍御史と爲  
す。姜晦、時に中丞たり。子典、諷して章安  
石を勅せしむ。子典從はず。  
コウシヨウ 侯勝 (漢)始昌の族子。少に  
して孤、貧にして學を好む。始昌に從つて  
尚書及び洪範五行傳を學ぶ。嘗て曰く士の  
病は經術に明ならざるにあり、經術も明  
なれば貧窮を取ると地芥を拾ふが如きの小  
と。宣帝の朝、諫議大夫と爲り、太子太傅  
と爲る。  
コウシヨウ 荀悅 (宋)資陽の人。元豊、宣  
和の間、兄弟名あり、同聲對策して奸佞を  
排斥す。蔡京に嫉まる。變、三台生を以て、  
潁州文學を授けらる。  
コウシヨウ 洪鑑 (明)字は宣之。錢塘の  
人。成化十一年の進士。刑部主事たり。爾  
來中外、歴官し、績著あり。太子太保に擢  
てらる。嘉靖三年卒す。襄惠と諡す。

三五〇

コウシニ

コウシニ 寇準 (宋)字は平中。華州の  
人。入歳にして華山の詩を吟す。太宗魏に  
幸せし時、準年十六。父陥られたるを以て行  
在に上書す。辭色激昂し舉止長る、所なし。  
上之を壯とし有司に命じて姓名を記さし  
む。後二年進士たり。初め巴東縣に知たり。  
手づから雙栢を庭に植ふ以て甘棠に比す。  
蔡公相と名づく。準、外著りて内儉なり。  
曹州に貶せらるるに及びて道に竹を剪りて  
以て神祠に挿み而て之を祝して曰く、準若  
し朝廷に負かずんば枯竹再び生ぜん。果  
して生ず。後人相公竹と號す。仁宋の初、中  
書令を贈り蔡公に封す。忠愍と諡す。

コウシニ

コウシニクケン 洪春元  
同治中誅せらる。  
コウジン 孔淳之 (晉)字は彦深。  
人。孔子二十六代の孫。會稽剡縣に居り。性  
山水を好む。遊ふ毎に或は旬日歸るを忘る。  
會稽太守之を苦邀すれども致す能はず。乃  
ち謂て曰く初も吾郡に入らず、何爲そ吾郡  
に入るやと。淳之笑て曰く潛游する者は其  
水を識らずと。終に肯て往かず。宋元嘉の  
初、徵して散騎常侍と爲す。亦就かず。  
コウシヨ 后處 (周)字は子里。孔子の弟  
子。  
コウシヨ 洪子典 (唐)睿宗、侍御史と爲  
す。姜晦、時に中丞たり。子典、諷して章安  
石を勅せしむ。子典從はず。  
コウシヨウ 侯勝 (漢)始昌の族子。少に  
して孤、貧にして學を好む。始昌に從つて  
尚書及び洪範五行傳を學ぶ。嘗て曰く士の  
病は經術に明ならざるにあり、經術も明  
なれば貧窮を取ると地芥を拾ふが如きの小  
と。宣帝の朝、諫議大夫と爲り、太子太傅  
と爲る。  
コウシヨウ 荀悅 (宋)資陽の人。元豊、宣  
和の間、兄弟名あり、同聲對策して奸佞を  
排斥す。蔡京に嫉まる。變、三台生を以て、  
潁州文學を授けらる。  
コウシヨウ 洪鑑 (明)字は宣之。錢塘の  
人。成化十一年の進士。刑部主事たり。爾  
來中外、歴官し、績著あり。太子太保に擢  
てらる。嘉靖三年卒す。襄惠と諡す。

コウシニ

コウシニクケン 洪春元  
同治中誅せらる。  
コウジン 孔淳之 (晉)字は彦深。  
人。孔子二十六代の孫。會稽剡縣に居り。性  
山水を好む。遊ふ毎に或は旬日歸るを忘る。  
會稽太守之を苦邀すれども致す能はず。乃  
ち謂て曰く初も吾郡に入らず、何爲そ吾郡  
に入るやと。淳之笑て曰く潛游する者は其  
水を識らずと。終に肯て往かず。宋元嘉の  
初、徵して散騎常侍と爲す。亦就かず。  
コウシヨ 后處 (周)字は子里。孔子の弟  
子。  
コウシヨ 洪子典 (唐)睿宗、侍御史と爲  
す。姜晦、時に中丞たり。子典、諷して章安  
石を勅せしむ。子典從はず。  
コウシヨウ 侯勝 (漢)始昌の族子。少に  
して孤、貧にして學を好む。始昌に從つて  
尚書及び洪範五行傳を學ぶ。嘗て曰く士の  
病は經術に明ならざるにあり、經術も明  
なれば貧窮を取ると地芥を拾ふが如きの小  
と。宣帝の朝、諫議大夫と爲り、太子太傅  
と爲る。  
コウシヨウ 荀悅 (宋)資陽の人。元豊、宣  
和の間、兄弟名あり、同聲對策して奸佞を  
排斥す。蔡京に嫉まる。變、三台生を以て、  
潁州文學を授けらる。  
コウシヨウ 洪鑑 (明)字は宣之。錢塘の  
人。成化十一年の進士。刑部主事たり。爾  
來中外、歴官し、績著あり。太子太保に擢  
てらる。嘉靖三年卒す。襄惠と諡す。

三五二

コウジヨウ 孔乘 (南北)字は敬山。鮮の子。

コウジヨウオク 公乘徳 (唐)字は壽山。成通中、宏詞の進士に第す。朱才集一卷及び藝文集を著す。

コウシヨウキヨウ 孔承恭 (宋)字は光祖。父祖の隆を以て秘書正字を授けられ、端拱三年、太常少卿に歴官す。後、疾を以て致仕して卒す。年六十二。晩年、佛を奉じ、帝に不殺を勧め、また征戦の地に寺を修め及び普く僧尼を度せんと請ふ。人、其迂闊を病ふ。

コウジヨウジ 公乘似 (周)魯の公乘子皮の姉也。族人死するや娘哭するを甚し。皮之を止めて曰く、之を安せよ吾は姉の嫁せんと欲するを知ると。後魯君皮を以て相と爲さんと欲す。娘、子皮を止めて曰く、夫れ喪に臨みて嫁を曰ふ一に何ぞ禮に習はざるや、後ち時を過ぐる迄言はず一に何ぞ人事に達せざるや、斯の如くにして相たらんと欲するも亦難い哉と。子皮聽かずして卒に受く。未だ幾年ならざるに果して誅せらる。

コウジヨウヤウケイ 公乘陽慶 (漢)臨淄の人。醫に精し。年七十、子なし。淳于意を見て喜び之を謂て曰く、吾れ古先遺傳黃帝扁鵲の脈書及び藥論の書あり、吾が心竊し公を愛す、盡く我が禁方を以て公に教ん。是に於て意、之を學ぶ三年、遂に醫道に精し。

コウシヨク 后稷 (上古)名は弃。帝嚳の

子。兒たりし時より好て麻蕪を種樹す。成人と爲るに及び、遂に耕農を好み、地の宜を相て、穀に宜き者は稼穡す。民皆之を則とる。帝堯擧げて農師と爲す。天下其利を得。帝舜曰く、弃、黎民始て飢う、爾ら后稷百穀を播す。弃を部に封じ號して后稷といふ。別姓は姬氏。周の遠祖。

コウシリヤウ 勾士良 (宋)少城の人。嘉祐の間、秘書郎中たり。堤を築き、江を捍ぐ。生平民を憂ひ、慮遠し。

コウスウ 孔嵩 (漢)字は仲山。南陽の人。家貧にして親老ゆ。乃ち姓名を變し新野の備と爲る。友人范滂、部を行る。見て之を識る。嵩の臂を把て曰く、子は孔仲山に非ず邪と。嘆息して語平生に及ぶ。曰く、昔與に家學に遊集す、吾國恩を蒙り、位牧伯に致る、而て子道を懷き身を隠して卒伍に處す亦惜からず乎。嵩曰く昔侯麻長く賤業を守り、志を晨門抱關に肆ま、に、子九夷に居り其陋を患へず、貧は士の常、豈鄙と爲さむ哉と。備するを故の如し。

コウスウ 洪蜀 (宋)字は駒父。豫章の人。師民の二子。四洪の一。進士に第す。江湖に放蕩して閑達を求めす。詩千餘篇。前後老圃集あり。靖康中、諫議大夫と爲り、事に坐して海上に貶せらる。

コウスフ 蘇遂 (漢)項邪の人。成帝の時の大儒。數百人に教授す。項邪の守となる。其吏事に習はざるを以てまた閑に之を習へ

コウスフ 孔隨 (漢)字は元路。鮪の子。父に繼ぎて封を襲ふ。

コウセイキヤウ 勾井疆 (周)孔子の弟子。衛人。(勾、一に句に作る)

コウセイシ 郗成子 (周)魯人。魯より晋に聘し衛を過ぐ。右宰穀臣止めて之に屬す。樂を陳して作さず。郗曰く辭せざるは何ぞやと。成子曰く夫れ止めて我に屬するは我を親しむ也、樂を陳して作さざるは我に哀を告ぐる也、我に送るに璧を以てするは我を肥する也、此に由て之を觀れば、衛其れ亂れむかと。行くこと三十里にして、衛の亂作り、右宰穀臣之れに死す。成子之を聞き其妻子を迎へて其璧を還し、宅を隔て、之に居らしむ。

コウセイシン 公西蒧 (周)字は子上。魯人。孔子の弟子。

コウセイシン 洪清臣 (宋)字は直侯。長溪の人。建炎の進士。人々爲り篤厚誠懇、官に居り清白を以て著聞なり。時に邑に火災あり。清臣、中庭に默禱す。既に邑に四隣皆燼、其家歸然として獨り存す。人にして清操の感する所と爲す。官、朝散大夫知邵武軍に至る。

コウセイシユン 洪成春 (清)秀金の族。コウセイセキ 公西赤 (周)字は子華。魯人。孔子の弟子。孔子より少きと四十二歳。嘗て二三子と志を言ふ。曰く、之を能くすと曰ふに非ず、願はくは學ばん、宗廟の事、

若しくは會同に端章甫して願はくば小相たらん。孔子曰く、赤之れが小たらば孰れか能く之が大たらんと。(公西赤は姓)

コウセイテイ 公齊定 (周)孔子の弟子。コウセイヨ 公西典 (周)魯人。字は子之。孔子の弟子。

コウセイヨウノヂヨ 貢生繡女 (明)元氏。崑山の人。趙一鳳に嫁す。一鳳死するや、尤氏殉せんとし、二子の隠微なるを顧みて爲めに強食す。二子寤す。即ち自ら棺を造りて縊死す。或人之を解く。乃ち趨て棺中に臥して死す。

コウセイロク 侯世祿 (明)翰林の人。世職より累官して涼州副總兵遼寧丞たり。總兵官に擢る。天啓崇禎の間事に坐して削籍せらる。十六年李自成に執へらる。屈せず。父子偕に死す。

コウセウアン 孔紹安 (唐)甄に名を知らる。志、學にあり。陳亡ぶるや、外兄虞世南、紹安を謂て曰く、本朝淪覆して吾が分運滅す、而も汝あり、此のごとく世に知らる、亡びずといふべきなりと。紹安、孫萬壽と與に皆文辭を以て稱せらる。時に之を孫孔と謂ふ。子諱。

コウセウシユク 侯小叔 (金)河東縣の人。昭毅大將軍に遷り孟州防禦使同知河中府事を授けらる。元光二年城破れて死す。

コウセキアイ 公皙哀 (周)字は季次。齊人。孔子の弟子。獨行君子の徳を懷きて義、苟くも當世に合はず。蓬戸完からず。粗食服

かず、遂に草廬に窮死せしも、未だ嘗て節を屈して人に仕へず。世、季次原憲と併稱す。(公皙は姓)

コウセン 寇先 (周)宋人。釣魚を以て業とす。雎陽の傍に居ると百余年。魚を得れば或は放ち或は鬻ぎ或は自ら之を食ふ。冠帯體を去らず、好て荔枝を嗜む。日に菹實を取りて茹を食す。宋の景公召し見て其道を問ふ。言はず。之を殺す。後數年宋の城門に臨みて琴を鼓すると十日にして去る。

コウセン 勾踐 (周)越の君。姬姓。禹の苗裔。夏后少康の庶子。會稽に封せられ文身斷髮草萊を披きて邑す。其後春秋の末、尤常あり其子を勾踐といふ。之を越王とす。吳王闔廬、尤常死すと聞き師を興して越を伐つ。勾踐死すとして戦を挑ましめ三行にして吳の陣に至り大に呼て自刺す。吳の師之を觀る。越因て急に擊ち大に吳を擒すに敗り吳王闔廬を殺す。吳王夫差日夜兵を勦して將に以て報するあらんとす。越王其未だ發せざるを先じて之を伐つ。大に夫椒に敗らる。越王餘兵五千人を以て會稽に保棲す。越王范蠡が計を用ひ大夫種をして成を吳に行はしめ身は臣と爲り妻は妾と爲らんと請ふ。又竊に美女寶器を以て吳の太宰嚭に賄ふ。吳王遂に越を許す。越王の會稽に困しむや喟然として曰く吾此に終らんか。種曰く湯は夏桀に繋がれ文王は羑里に囚はれ晉重耳は翟に奔り齊小白は莒に奔り其れ

竟に王霸たり、是に由て之を觀れば何ぞ速に福と爲らざらんやと。越王國に反り身を苦しめ思を焦し膽を坐に置て坐臥するに即ち膽を仰き飲食するるとき亦膽を嚙む。曰く汝會稽の耻を忘れたるか。身自ら耕作し夫人自ら織る。食に肉を加へず衣に米を重れず。節を折て賢人に下り厚く賓客を遇す。貧を振はし死を吊して百姓と勞を同す。范蠡をして國政を治めしめんと欲す。蠡曰く兵甲の事は種は盡に如かず、國家を鎮撫し百姓を親附するは蠡は種に如かずと。是に於て國政を擧げて大夫種に屬す。居ること七年士民用ひられて以て吳に報せんと欲す。大夫遂同曰く、鷲鳥の撃つや必ず其形を匿くす、計るに齊に結び楚に親み晋に附し以て吳に厚くするに如かず、吳王徳少くして功多し必ず淫して自ら矜り戦を輕せん、三國之を伐て越其弊を承げば克つべきなりと。勾踐之に従ふ。居ること二年吳王齊を伐て之を艾陵に敗る。大夫種曰く吳王驕る、試に粟を貸り之をトせんと。吳果して粟を與ふ。後四年吳王北のかた諸侯を黃池に會す。吳國の精兵皆王に従ひ留て守る者唯老弱のみ。范蠡曰く可なりと。乃ち習流二千教士四萬人君子六千人諸御千人を發して吳を伐て大に之を敗る。後四年越又吳を伐つ吳の士民罷弊し輕敵は盡く齊晋に死す。越因て大に吳を破り留て之を圖む。三年吳王を姑蘇に縊ましむ。吳王自殺す。勾踐已に吳を平げ北のかた淮を渡り齊晋の

コウセン

コウセン

賈侯と徐州に會して賈を周に致す。周元王人をして賈を賜ひ命じて伯たらしむ。范蠡遂に去り大夫種に書を遺りて曰く、越王人と爲り長頸烏喙、與に患難を共にすべく與に安樂を共にすべからずと。種病と稱して朝せず。人或は之を諷す。王乃ち劍を賜うて曰く子寡人に吳を伐つて七術を教へたり、寡人其三を用ひて吳を敗る、其四は子に在り、我が爲に先王に從て之を試みよと。種自殺す。勾踐の後、王無疆に至り楚威王の爲に敗られ盡く吳の故地を失ひ楚に服朝す。

**コウセン** 孔穿 (周)字は子高。箕の子。孔子六代の孫。楚魏趙三國交聘す。就かず。嘗て公孫龍と平原君の所に會す。龍能く堅白異同之辯を爲す。穿と臧三耳を論ず、其辯甚だ明析なり。穿應せず。平原君之を問ふ。穿曰く、幾んど能く臧をして三耳たらしむ、然も三耳と謂ふ甚だ難くして實は非也、兩耳と謂ふ甚だ易にして實は是也、知らず君易にして是なる者に從はん乎、其れ亦難くして非なる者に從はん乎と。平原君龍に謂て曰く、公復た孔子高と事を辯ずる無れ、其人理、辭に勝つ、公は辭、理に勝つ、終に必ず誰を受けむと。嘗て儒家の語十二篇を著す、名て調言と曰ふ。

**コウセン** 侯選 (漢)靈帝の時、關中に守たり。中平十六年大兵四に出つ。選等已を襲ふとなし、衣を合して叛く。後誅せらる。

**コウセン** 孔奐 (晋)五經に通ト尤も一禮

孝經論語に明かなり。生徒數百人。三たび五經博士となる。太清の亂に値ひ家に卒す。子淑玄、亦文學を以て著はれ、官大學博士に至る。兄の子元素、三禮に著く亦盛名あり。

**コウセン** 寇簡 (南北)字は祖簡。禮の孫。幼にして識量あり。好學強記。性又廉恕。魏に仕へて司馬に累官し出て、梁州刺史と爲る。庠序を立て桑梓を勤む。禮讓に教く風俗頓に革る。後東魏洛州刺史と爲る。卒す。年八十二。

**コウセン** 孔祥 (南北)字は鮮之。懿の子。孔子二十六代の孫也。恢廓大度有り常に學を好みて博覽なり。宋の元嘉中聖孝侯に封ぜられ、改めて崇聖侯に封せらる。子乘、**コウセン** 侯宣 (宋)衡山の人。少にして四方に遊ぶ。家に還り、室を道の傍に築き、游學の士をして館に往來せしむ。之を行ふこと二十年、曾て倦意なし。遠近號して侯家書院と曰ふ。

**コウセン** 勾踐夫人 (周)越王勾踐の夫人也。越、吳の爲に敗られ、勾踐國を去つて人に事ふ。身は臣と爲り夫人は妾と爲る。浙江を渡るに及びて夫人烏鵲の江渚の蝦を啄み飛び去りて復來るを見、船に據て慟哭して歌を作る。王歌を聞きて心中自ら働き乃ち夫人に謂て曰く、孤何ぞ愛へん吾の六副備はれりと。遂に吳に入りて共に臣妾と稱す。

**コウソウクワウテイ** 興宗皇帝 (遼)七世。

姓は耶律。諱は宗眞。字は奇不董。小字は只骨。聖宗の長子也。幼にして聰明、騎射を善くし、備衛を好む。宋と和議を結ぶを以て在位の間國內晏如たり。崩す壽四十。改元三つ、景福、宗興、重熙。諡して神聖孝章皇帝と曰ふ。廟を興宗と號す。

**コウソウダウ** 荀宗道 (元)字は正甫。保定の人。郝經に從ひ宋に往きて書佐と爲り歸りて官國子祭酒に至る。詩文書法、皆晉唐の風致あり。

**コウゾクシンカイ** 公族進階 (漢)北海の人。危言深論す、人其高きに服す。

**コウソクコウジ** 公祖句茲 (周)字は子之。魯の人。孔子の弟子也。令儀あり。

**コウソクヨクワウテイ** 興祖直皇帝 (清)姓は愛親覺羅、名は福滿。父は錫寶齊篇古祖光善、繼祖の曾孫なり。

**コウソクブン** 貫祖文 (宋)字は仁德。大名の人。靖康中武德大夫を授けらる。軍將を都總して扈從し宣城に居り。岳武穆と友とし善し。恢復の志を協はす。秦檜に當るに及びて家に廢せらる。岳氏禍を受くるや、祖文其風を別墅に潛置す。

**コウソクアウ** 公孫鞅 (周)衛の諸庶孽公子。少にして刑名の學を好む。秦の孝公、命を下して賢者を求むと聞き秦に入り孝公の寵臣景監に因りて孝公に説き大に秦に用ひらる。是に於て法令を變じて内は耕織を奨勵し外は國境を拓き峻刑黜擯、血を流して法威を立て遂に以て其國を富強にす。鞅、之

を商於の十五邑に封ず。因て商君と號す。孝公卒して後、晉追せられて徒族と邑兵を發す。秦兵之を殺して車裂して國中に徇ふ。世に傳ふる商子の一書、恐らくはその自著に非ずといふ。

**コウソウエイ** 公孫永 (晋)字は子陽。襄平の人。平郭南山に隱れて妻を娶らず、巖間に吟詠して欣然自得す。年九十を超は操尙虧けす。諡して崇巖先生と云ふ。

**コウソウガ** 公孫賀 (漢)公孫昆邪の子。少くして醫士と爲る。武帝位に即ちや還つて太僕に至り、後軍衛を以て大將軍衛青に從ひ出戰して功あり。南野侯に封せらる。後八歳にして遂に石慶に代つて丞相と爲る。子振聲代りて太僕と爲り父子並に公卿の位に居り。

**コウソウクワウ** 公孫閱 (漢)平帝の時琅邪の太守たり。時に太后朝に臨み、王莽政を乘る。方に太平を文飾せんとし使者を遣して頌聲を采らしむ。閱獨り言ふ、公府に災害ありと。大司空甄豐、其不祥を空遺するを効す。獄に下されて死す。

**コウソウクワク** 公孫霍 (周)蔡の昭侯に事へて大夫と爲る。侯の弑せらるゝや、嗣に逐はれて吳に奔る。

**コウソウケイモ** 公孫景茂 (南北)字は元尉。阜城の人。魏の伊州の刺史也。官に在りて公清なり。疾を以て辭するや民、道に號泣す。

**コウソウケンケウ** 公孫簡 (周)字は子産。鄭

の大夫たり。刑書を鑄る。其國に當るの間は晋楚の強も兵を加ふるを得ず。卒せんとする時、其子太叔に謂りて曰く、吾死せば汝必ず政を爲さん、唯だ有徳者能く寛を以て民を服す、寛に次ぐものは即ち勇、夫れ火は烈なり民望みて之を畏る故に死するもの鮮し、水は懦弱なり民狎れて之を誑ぶ故に死するもの多し、故に寛を以て難しと爲す。孔子之を聞き出て、涕いて曰く古の遺愛なりと。又嘗て其君子の道、四つあるを稱す。

**コウソウコンコウ** 公孫弘 (漢)淄川の人。家貧にして家を海上に牧す。年四十餘乃ち春秋雜説を學ぶ。武帝の初め賢良に舉げられ對策第一たり。詔を會馬門に待たしむ。元朔中丞相と爲り平津侯に封せらる。東園を開いて以て士を延く。食毎に脱粟に止まる。故人高賀、之に從ふ。弘、嘘はしむるに脱粟を以てし、覆ふに布被を以てす。賀、恐みて曰く、何ぞ故人の富貴を用ふるをせん。弘、嘆じて曰く寒る無實に違ふも故人に逢ふ莫れと。賓客を佐くるを以て家に餘資なし。子度、山陽の太守となる。

**コウソウコンヤ** 公孫昆邪 (漢)魏攝の人。景帝の時隴西守となり將軍を以て吳楚を擊ちて功あり。平曲侯に封せらる。著書十五篇あり。

**コウソウサン** 公孫瓚 (漢)字は伯珪。遼四令支の人。初め郡の會佐郡たり。郡守劉道、之を器として女を以て妻はす。後守、

事に坐して日南に徙さる。瓚容を改めて之に從ふ。出づるに及び鞭を具へて其先人を祭り祝して曰く日南瘴氣多し或は還らざるを恐る先人と此に辭すと。再拜して去る。道に岐に遇ひて歸る。後孝廉に舉げられ遼の屬國長史となる。光和中兵將として張純を漁陽に擊ち功を以て騎都尉に封せられ郡亭侯を加へらる。屬國長史を兼ね。常に白馬に乗りて出入す。高祖、之を畏れ相告げて曰く白馬長史を避けよと。後劉虞と嫉妬し事を構て兵を舉ぐ。城陷りて焚死す。

**コウソウシ** 公孫枝 (周)字は子桑。岐州の人。秦の穆公の大夫なり。孟明を穆公に薦めて遂に四戎に霸たらしむ。君子、子桑の忠にして其人を知り能く善を舉ぐるを稱せり。

**コウソウシン** 公孫臣 (漢)魯の人。文帝の十三年、上書して曰く、秦は水徳を得たり、漢之を受くるに及び、其終始を推考せば土徳に當れり、土徳の應は黃龍見はる、宜しく正朔を改め、服色黄を尙ぶべしと。明年黃龍成紀に見はる。是に於て公孫臣を博士に拜し、諸生と土徳を申明せしめ、曆及び服色を革む。

**コウソウジツツ** 公孫述 (漢)字は子陽。扶風郿陵の人。父仁河南郡尉たり而して述、清水長に補せらる。仁述が年少なるを以て門下の操を以て讓て官に之がしむ。月餘にして操辭し歸り仁に白して曰く述は教を待つ者に非ずと。後に太守其能を以て五縣を

兼攝せしむ。政事修理して姦盜封せず。郡中鬼神有り謂へり。更始の立つに及び秦傑各其縣に起り以て漢に應ず。南陽人宗成、商人王岑も亦衆數万人を合す述之を聞て成等を迎へしむ。成等成都に至り虜掠暴横なり。述之を惡み縣中の豪傑を召し精兵を選

コウソウシヨキウ 公孫杵臼 (周)太原の人。程嬰と與に晉の大夫趙朔の客たり。屠岸賈、朔を誅す。杵臼、嬰に謂つて曰く胡ぞ死せざるや。嬰曰く朔の婦に遺腹あり若し男なれば我之を奉ぜんとす故に死せず

く管仲は曾四の爲さざる所なり而して子は我が爲す之を願ふかと。即ち浩然の氣を養ふことを説く。コウソウノド 公孫度 (漢)公孫弘の子なり。山陽の太守となる。コウソウノブタツ 公孫武達 (唐)饒陽の人。豪俠を以て稱せらる。唐の初て兵を起すや、武達、長春宮に至り、上謁して秦王に従ひ、劉武周を討ち苦戦して功多し。秦府右三軍驍騎に累遷し、清水縣公に封せらる。

任せらる。淵、曾て貳心を懷き數々吳と通ず。遂に叛して誅せらる。コウソレイ 寇祖禮 (南北)魏の子。兄祖訓と並に孝友敦睦なり。白首にして同居し、父母亡せて久しと雖も、猶平生處たる所の堂宇に帷帳几杖を設け、時節を以て堂を開き列拜垂涕すること宗廟に陳荐する若し。吉凶の事必先つ啓告し、遠行して反れば亦此の如くす。宣武の末に河州刺史と爲る。コウタイ 荀頌 (南北)代の人。本姓は若干。厚帝寡母、少して嚴毅清直、武力人に過ぐ。推されて中散と爲る。小心謹敬也。太武以て爵建德男を賜ふに至る。司街監、洛州刺史に遷る。

コウタイ 侯泰 (明)字は順懷。南和の人。薦擢を以て家を起す。建文の初、仕へて尙書に至る。會々燕王兵を擧ぐ。泰、抗禦の策を陳し、餉を濟寧淮安に督す。既にして京師、燕兵の爲に陥らる。泰執へられ弟敬祖子也と俱に殺さる。コウダイ 公鼐 (明)字は孝興。蒙陰の人。翰林編修家臣の子。萬曆二十九年の進士。初め庶吉士たり。左庶子に累遷す。疾を以て歸る。光宗、以て祭酒に擢拜す。熹宗の時、禮部右侍郎協理詹事府を以て、實錄副總裁に充てらる。魏忠賢の爲に劾せられて罷む。未だ幾ばくならず卒す。崇禎の初、官を復し、文介と諡す。コウタイシヤウ 勾大章 (宋)士良の後。嘉泰元年、中江に任ぜらる。期年、廢を修め

鑿を擧し、知りて行はざることなし。石隄を築きて民の患を慮り、知周れく功備はる。コウタイゼン 洪大全 (清)湖南衡州の人。性狠毒。初め粵西に亡命す。秀全と宗誼を聯れて其黨に入り天德王と號す。永安の役、擒へられて市に陳せらる。コウタイフ 句台符 (南北)青城山方物志五卷を撰ぶ。コウタウ 勾濤 (宋)字は景山。新繁の人。進士に擧げられ、史官修撰に累官し、後、湖北宣撫使と爲る。潭州に知たり。秦檜嘗て人をして諭意せしめ政を與に共にせむと欲す。濤辭し、乃ち上書して時事の政を害する者を論ず。高宗其忠を嘆す。濤身長く貌偉に、忠亮を以て自許す。邊情目前に在るが如し。知名の士多く薦進せらる。文集西掖制書奏議數十卷あり。コウダウビ 孔道微 (南北)孔祐の子。高行あり。コウダウホ 孔道輔 (宋)字は原魯。孔子四十五世の孫。初め任ぜられて寧州推官と爲る。時に道士あり眞武像を治む。巨蛇其前を穿つ。州將僚屬を率ゐ往て之を拜す。道輔即ち笏を擧げ其首を碎く。衆皆驚服す。天聖の初、龍圖閣待制を以て契丹に使す。優人あり文宣王を以て戲を爲す。道輔拂然として徑ちに出づ。契丹器を主る者道輔を遊へて還せしめ且之を劄す。道輔色を正しうして曰く、中國北朝と好を通し禮文を以て相接す、今俳優の徒先聖を侮慢す、之を禁

として曰く大丈夫將に終らんとす、安國軍家の術を問はずして乃ち見女子の相向へるが如きを爲すやと。庚之を聞て固辭して之と興に話言す。

コウタン 洪瑛 (宋)上元の人。幼にして學を好み五歳にして詩を能くす。進士に擧げられ蘇州に遷りたり。嘗て蘇州に知たり。眞宗の時凡そ五たび西北に使し邊要を論ず。文集十卷あり。

コウタンイウ 孔端友 (宋)字は子文。孔子四十八代孫。衍聖公に封ぜらる。徽宗靖康の時其子致と高宗に隨ひて南渡す。因て地を賜ひ三衢に居り。宋の世を終るまで皆封を衛に襲ぐ。端友の弟權、衍聖公を襲ぐ。

コウチウ 孔忠 (周)孔子の兄の子。後世孔子の庶庭に祀る。

コウチウイウ 侯仲逸 (宋)金壇の人。天聖中、書院を三茅に創して身を以て教事に任ず。仁宗嘗て粟帛を賜ふ。郷人先生を以て之を稱す。

コウチウウウ 侯仲莊 (唐)蘇州の人。定武將軍と爲る。安太清を擒にして功あり。寇軍將軍を累加せらる。僕固懷恩叛す。仲莊兵を訓して自ら守る。德宗奉天に幸せしとき、神功衛將軍たり。奉天に留鎮する者數

んど二十年。コウチウシ 孔仲思 (唐)若思の弟。給事中に累遷す。

コウチウセイ 勾中正 (五代)華陽の人。孟蜀の時進士に擧げられ、曾州録事參軍に補せらる。中正學古文に精しく篆隸行草工ならざるはなし。太宗の時嘗て八體の書を獻す。召されて著作左郎直史館を授けらる。詔して龍圖及び雍熙廣韻を詳定す。子希古、希仲、並に進士たり。

コウチウフ 洪中孚 (宋)休寧の人。成都縣簿と爲る。周門の變叛す。蜀帥以て中孚に屬す。中孚親しく酋長を呼び諭すに禍福を以てし自ら歸服せしむ。人以謂ち其體身よりも大なりと。後、龍圖閣待制を以て致仕す。

コウチウリヤウ 侯仲良 (宋)字は師聖。二程を呼んで舅氏と爲す。伊川嘗て謂ふ、侯子の議論は只隔壁の聽あり。朱子曰く、其學清白動正にして、深潛靜郁の味なしと。人侯子を館せんと欲する者あり。侯子遺る。其家壁佛像を垂れ、凡て佛書を積む。侯子之を去つて曰く、吾夏を以て夷を變ずる者を聞く、未だ夷に變ずる者を開かざるなりと。

コウチウレン 公仲連 (周)趙の烈侯に仕へて相と爲る。

コウチウワン 寇仲温 (宋)諸暨令たり。學校を興し淫祀を廢す。民皆之を稱す。コウチケイ 孔稚珪 (南北)字は德璋。會

稽山陰の人なり。少うして美譽あり、風韻清疎、文詠を好み、酒を飲む事七八斗。外兄張融と情趣相得、又琅琊王思慮、廬江の何點等と款款して、世務を樂まず。居宅幽雅、山水の間に營み、几に憑りて獨酌し、傍に雜事なし。門庭の内、草萊剪らす。中に蛙鳴あり。或人之を問うて云く、陳蕃たむと欲するかと。稚珪笑て云ふ、我此を以て兩部の鼓吹に當つるのみと。官太子詹事散騎常侍に至る。卒する時年五十五。金紫光祿大夫を贈らる。嘗て汝南の周顒が舍を繼嶺に結びて棲陰の志ありしも後復た出て、山陰令となりて此山を經るに及び、稚珪山陰に代り移文を作りて之と絶つ。評甚だ高し。北山移文即ち是なり。

コウチヨ 洪儲 (清)字は退翁。興化李氏の子。甲申の變、僧と爲り麗巖に住すると最久し。每歲三月十九日、必ず素服焚香、北に向ひて揮泣拜するもの、二十八年一月の如し。

コウチヨキヨウ 公緒恭 (漢)後漢靈帝の時、八及中の人。

コウチイ 孔頴 (唐)孔紹安の子。性狷介。官監察御史を歴と雖も門に賓客なし。時人之を譏る。子季詡。

コウチイウン 孔貞運 (明)句容の人。孔子六十三代の孫。萬曆四十七年の進士。編修に除せらる。天啓崇禎の間、累擢せられて吏部左侍郎たり。議契はす詳し去る。崇禎十七年五月疾を得て遽に卒す。

コウチイハク 孔貞興 (明)曲阜の人。伊陽知縣たり。崇禎間、李自成の兵來り寇して城に據る。守禦堅きを以て圍を解て去る。他日汝陽に事あり。道にして賊に遇ひ執へらる。風せすして死す。

コウテン 侯煥 (南北)四苑の人。梁の時、累擢せられて蜀賊を平げ、侯景を破つて功あり。南陳州刺史に遷る。結熱を鎮め、又陳軍を鎮む。司空大尉に歴遷す。兵を率ゐて王琳の軍を敗る。詔して五州に都督たり。益城を鎮む。尋て功を以て零陵郡公に封ぜらる。卒して大司馬を贈り莊肅と諡す。

コウテンキ 洪天麟 (宋)字は煥。晉江の人。淳祐の進士。建寧尉に任ぜらる。奸を發し伏を捕し官を當りて回換する所無し。毎々文章を以て邑に擧す。邑士皆向方する所を知る。累官して湖州に知たり。兄を天錫といふ。

コウテンキフク 洪天實 (清)秀全の子。秀全已に死す。群賊之を擁立し、暫らく僞號を張る。然もなく敗れて死に處せらる。年僅に十六。

コウテンゴ 侯天駿 (南北)上谷の人。少くして學を好み群籍に博通す。無終、楊尼、頼印、李暉と時を同うし又之と名を齊うす。

コウテンシヤク 洪天錫 (宋)字は君暉。天麟の兄。寶慶の進士。無明殿學士に累官す。官勳準繩あり。官に居り清介、事に臨みて是非回折すべからず。卒して文毅と諡す。

コウテンシヤク 侯天錫 (明)長柱の子。崇禎中、父の歎に死するや、闕に伏して賊を平げ父の耻を雪んと請ふ。帝深く之を嘉し遊擊を授く。楊嗣昌に屬して戦功を立つ。嗣昌其大に用ふべきを言ふ。帝益嘉稱し、二秩を増す。

コウテンジヨ 寇天叙 (明)字は子惇。榆次の人。正徳三年の進士。南京大理評事より寺副に進み、應天府丞に擢てらる。嘉靖中、山丹の賊を却く。兵部右侍郎に卒す。嘗て太學に在りしとき父疾むと聞き、馳する六晝夜にして家に抵る。父の疾亦癒ゆ。

コウトウ 孔騰 (漢)字は子襄。鮪の弟。漢高祖、魯を過ぎ、大軍を以て孔子を祀り、子襄を封じて奉祀君と爲す。惠帝の朝、長沙太守に遷る。子を忠といふ。

コウトウソウ 侯嗣曾 (明)嘉定縣の人。字は謙。給事中龔鳴の子。天啓五年の進士。南京武選司主事たり。崇禎中、順天府丞に擢てらる。福王の時、郷兵を率ひ清兵を拒ぐ。力竭きて湖に赴て死す。

コウトツ 孔訥 (明)字は言伯。希孟の子。父の封を襲き教坊を以て送り國學に至る。自後毎歲入謁せしむ。性恭謹宗族に恩あり。建文の初卒す。子公鑑。

コウハ 孔穎 (漢)字は次儒。昭帝の時、博士と爲る。宣帝朝を大中大夫に拜し皇太子に經を授けしむ。詹事に遷り、高密相と爲る。元帝即位して太師に拜し、爵關内侯、食邑八百戸を賜ひ、褒成君と號す。嗣上書して

先聖の祭祀を奉せんことを求む。詔して所食の邑を以て孔子を祀らしむ。子四人、福捷、喜、光、福の子を均といふ。

コウハ 侯霸 (漢)字は君房。河内密の人。矜嚴威容あり。穀梁春秋を治む。淮平大尹に累官す。更始、霸を徵す。百姓號哭し、道に遮り留まらむ事を乞ふ。光武の初、徵されて尙書令に拜す。操行清潔、故事を明習す。大司徒に進み、關内侯に封ぜらる。諡して貞侯と曰ふ。

コウハ 侯邑 (漢)鉅鹿の人。少にして放肆、學を力め、四方に壯游す。師楊雄、授くるに玄法言を以てす。悉く其旨を得。コウハイテイ 後廢帝 (南北)蒼梧王を見よ。

コウハウ 孔褒 (漢)孔子二十代の孫。時に山陽の張儉、褒と著あり。中常侍侯覽に怒まれ亡げて褒に抵る。遇はず。其弟融年十六、之を匿す。後事泄る。儉、復た他に走る。國相、融褒を收め獄に送り、未だ坐する所を知らず。融曰く、保納舍藏するものは融也、坐すべし。褒曰く、彼來りて我を求む、弟の過に非ず、請ふ其罪に甘せん。更其母に問ふ。母曰く、家事は長に任ず、妾其罪に當ると。一門死を争ひ疑て決する能はず。乃ち獻す。詔書竟に褒を坐せしむ。

コウハウ 侯休 (明)贊皇の人。國子生より知縣に擢てらる。善政あり。交州右參政を歴。永樂十八年、賊黎利を討じ、戦利あり。



らずして之を死す。  
**コウハク 洪滂** (清)字は汝覺、一字は初堂。歙縣の人。乾隆戊子、郷に擧げられ、丙申、召試に應じ、内閣中書を授けらる。性孝友、平生學ぶ所、戴氏真原を服膺す。著、四聲韻和表、示見切韻等あり。  
**コウハク 侯邦佐** (明)初め陳友諒に仕て重用せらる。浮梁を陥れて之に據りて明軍に抗す。尋て討平せらる。  
**コウハク 侯方域** (清)字は朝宗。歸苑と號す。河南の商邱の人。父祖皆明の顯官と爲る。父、京師に從ひ、中期の事を習知し、君子小人門戸始終の事を熟悉す。阮大鍼なる者は故の魏閣の義兒なり。金陵に屏居して用ひられんを謀る。諸名士、檄を作りて其罪を鳴らす。大鍼懣り、志を得る。及びて大獄を興す。方域出走して免る。明亡ぶるに及び、父を奉じて商邱に歸る。順治十一年、年三十七を以て卒す。方域、實性豪邁不羈、經世の大略多し。古文を以て一世に雄視せり。壯悔堂文集を著す。  
**コウハク 孔白** (周)字は子上。偃の子。傳く詳書し難す。齊の威王、兩たび召して國相と爲す。就かず。年四十九にして卒す。  
**コウハク 公伯** (周)棄の君。顧姓。棄侯の子。立て三年にして卒す。  
**コウハク 侯白** (隋)字は君素。臨軍の人。學を好み捷才あり。秀才を以て擧げられ儒林郎と爲る。高祖其名を聞き召して與に語る。大に悦び秘書省修史に命たりしむ。毎

に之を擯むとす。輒曰く侯白官に勝へずと。而して止む。後五品食に進む。月餘にして卒す。時人其壽命を傷む。  
**コウハク 公伯** (周)魯人。孔子の弟子。  
**コウハン 侯犯** (周)魯の叔孫氏の邸馬正たり。定公九年、驛を以て叛く。幾も無く齊に奔る。  
**コウハン 孔瑒** (金)字は文老。子孫、總と與に德行を以て稱せらる。  
**コウハラウ 洪霸** (五代)無様の人。唐の廣明中、亂に乗じ、起つて盜を爲す。遂に討平せらる。  
**コウヒ 侯妃** (五代)唐の莊宗の嬖妾。初め符道昭の妻たり。莊宗梁軍を夾城に攻め、之を得て愛せし、龍諸宮に冠たり。宮中之を夾害天人と謂ふ。莊宗兵を四方に出たす。常に侯氏を以て從ふ。其後劉氏争せられ子を生む。是に由て寵衰ふ。  
**コウヒン 孔斌** (周)字は子順。穿の子。魏王其賢を聞き聘し以て相と爲さんとす。斌使者に謂て曰く、若し王能く吾が道を信用せば、吾が道固より世を治むるに在り、然らざれば吾論は一夫のみと。使者固く請ふ。乃ち魏に之を。魏其言を用ひず。位に居る九月、喟然として曰く言用られず、官に居り餘を食む、是尸位素餐也と。遂に疾を辭し歸る。嘗て歎じて曰く、死病良醫無し、二十年を出ずして天下其れ棄て爲らむ乎と。初秦、趙を伐つ。魏人皆以て便と爲す。

誠曰く然らず、秦は貪暴の國也、趙に勝たば必復他に求めん、吾恐らくは、時に魏其師を受けむとす、先人言あり、燕雀室に處り、母子相哺し、向々として相樂み、自ら以爲く安と、鷹隼襲上し、棟宇將きに焚けむとす、燕雀顧望せず、鷹の已に及ぼんとするを知らず、今、趙破れば患の已に及むとするを悟らず、人を以て燕雀に同じかる可けん乎と。  
**コウヒン 侯賈** (宋)太原の人。初め三門發運使と爲る。其事を掌る三十年、國用缺くる事なし。開寶中、太宗即位す。福州尉を授けられ、右尉大將軍に遷り監州に知たり。人心を得るを以て鄂内大に治まる。  
**コウビン 孔敗** (宋)字は寧極。孔子四十六代の孫。汝州汝陽城に隱居す。親に事へて至孝、讀書禮法に精ひ、性孤潔にして善を聞を好む。環府百里の人、皆之を愛慕す。敗を路に見れば、輒ち襪を敷めて以て避く。其父を葬り墓に廬すること三年、破棺中に臥し、日に米一盞を食す。行禮を以て聞ゆ。特に旌表を賜ふ。  
**コウヒンシウ 公賈** (漢)北海の人。校尉たり。王莽の首を斬る。  
**コウフ 孔鮒** (秦)字は子魚。孔子九世の孫。博く經史に通す。始皇天下を併せ、召して魯國文通君と爲し、少傅に遷る。李斯始め書を焚くを議す。鮒之を聞き、其家の論語尙書等經等の書を收め菑宅壁中に藏す。嵩山に隱居し弟子百餘人を教ふ。後陳涉楚王

と爲る、聘して太傅と爲す。凡そ仕ふるは六月、疾に託して退き陳に卒す。若しす所の書二十篇。先聖、及び子思、子上、子高、子順、及び己れの行事を記す。名づけて孔叢子といふ。世に行はる。  
**コウフ 勾扶** (漢)平同郡の人。忠勇寛厚、數々戰捷の功あり。官左將軍に至る。岩渠公に封せらる。  
**コウフ 孔武** (漢)字は子威。忠の子。文帝の時、博士と爲り、官、臨淮太守に終る。子延年。  
**コウフク 侯居** (宋)字は道子。總清の人。三たび擧買となり、兩たび轉運使に試みられ、皆第一たり。武學を以て合浦尉を授けらる。寶元中、海州に通判たり。李松壽、連瀆に應ず。高城下に圍戦して之に死す。閩室書に遇ふ。海州及び其屬皆廟を立て、額を旌忠と賜ふ。節毅と諡す。著す所、霜崖集あり。  
**コウフクキ 孔福壽** (明)山水に工なり。  
**コウフクゲン 洪福源** (元)始め高麗に居り。太祖の兵至りしとき福源衆を率て來歸す。帝管領を授け、高麗軍民を招討せしむ。定宗の時、命を奉じ諸國を平定す。尋て諡を以て殺さる。後ち潘陽侯を贈り忠憲と諡す。

に居らしむ。是に由て後宮多く進御するを得ず。侯夫人美色あり。一日樓下に遊る。臂一蠶を繋ぐ。中に詩あり。左右取て以て帝に進む。帝詩を見て反復驚感し因て厚く禮して之を葬る。  
**コウブチウ 孔武仲** (宋)字は常父。新喻の人。孔延之の子。官、直學士に至る。所著唐書集註一百三十卷世に行はる。  
**コウブン 孔奮** (南北)姑臧と爲る。姑臧は富邑と稱す。縣に居ると數月に盈たず輒ち豐積に至る。奮在職四年、清苦自ら甘ず。惟老母の膳を極め、妻子と並に蕪菜を食ふ。人咸其自潤する能はざるを笑ふ。嘗既に節を立つ。太守梁統深く相敬待す常に出迎して門に至り、引き入れて見る。敢て官屬を以て之を禮せず。  
**コウブン 吳羽文** (明)字は長卿。南昌の人。萬曆四十一年の進士。神光熹思四世に歴事し、官考功文選郎に至る。直言避けず。旨に忤ひ論せらる。文薦すれども復起たず。  
**コウブンエウ 公文要** (周)衛の大夫。褚師比等と亂を作し、出公を逐ふ。  
**コウブンカウ 洪文衛** (明)字は平仲。欽人。萬曆間の進士。戶部主事を授けらる。上言して用ひられず、病を引て歸る。壽昌間太常卿と拜せられ、尋て卒す。工部右侍郎を贈る。天性孝友、平生妄りに一介を取らず。

喩の人。孔延之の子。麟寧の初、詔して賢良に擧げらる。上、之を親策す。文仲對ふるに九十餘言を以てし、力めて王安石を排す。安石怒り其官を奪ふ。哲宗の立つに及びて、召て左諫議と爲す。尋て卒す。朝士之を哭し皆失聲す。蘇軾其柩を擔して曰く、舉世皆歎熱、勁直君の如きを求む、今や有る無しと。所著文集十卷あり。  
**コウブン 洪文撫** (宋)建昌の人。六世同居す。太宗親から飛白一軸を書して義居と曰ふ。以て之を賜ふ。其弟文學に命じて江州助教と爲し、復た其門に旌す。  
**コウブンメイ 苟文明** (清)巴州の人。嘉慶中、羅其清を推して帥とし、兵を方山坪に起す。幾くもなくして誅せらる。  
**コウヘイ 寇平** (宋)熙寧中知龍州事たり。雙筒田現を招納するを以て功あり。熊本等と同じく賞せらる。  
**コウヘイチウ 孔平仲** (宋)字は敏父。新喻の人。孔延之の子。治平間進士に擧げられ、集賢校理と爲る。文詞に巧なり。禮世說等の書を著はし、世に行はる。兄弟皆文章を以て顯る。時人臨江の三孔と稱す。  
**コウヘン 苟變** (周)衛の人。其才五百乘と將とすべし。衛侯其吏と爲りて人の二難子を食ふを以て遂に用ひず。子思曰く二難を以て干城之將を棄るは隣國に聞えしむ可からずと。

**コウフクテイ 孔復貞** (明)字は堯生。楊州人。畫に工なり。  
**コウフジン 侯夫人** (隋)煬帝の宮人。帝迷權を建て其家の女數千を擄びて以て其中

**コウブンキヨ 洪文舉** (宋)文撫の弟。  
**コウブンチウ 孔文仲** (宋)字は經父。新

**コウホウ 洪朋** (宋)字は龜父。臨軍の人。師民の長子。四洪の一。詩あり、傳ふべし。

コウボウ

コウボウコウ 侯慈功 (明)字は夷門。吳縣の人。雷に工也。山水疎淡にして雅なり。コウボク 洪瑛 (宋)字は叔玉。淳安の人。仕へて鎮東節度推官と爲り備邊入策を陳す。楊慈湖之を罵めて曰く、守官數十年、而も屋居るべき無く、學家三百指、而も田養ふべき無しと。其廉介此の如し。兄を瑛といふ。

コウマイ 洪邁 (宋)字は景盧。號は容齋。樂平の人。皓の季子。兩兄と同じく博學宏詞科に中る。紹興の末、假翰林學士として金に使す。書、敵國の禮を用ふ。金人怒りて使館を鎖す。後還るを得たり。孝宗即位す。中書舍人直學士院に拜せられ、後、建寧府州に知たり。皆善政あり。端明殿學士を以て致仕す。文敏と諡す。

コウマウシカウ 公孟子高 (周)昔て君子の禮を願孫子真に問ふ。子真曰く爾の外屬と爾の内折と色勝ちて心自ら之を取るとを去れと。公孟知らず、以て曾子に告ぐ。曾子曰く、大哉曾子乎、夫れ外屬の者は必ず内折す、色勝ちて而て心自ら之を取る者は、必ず人の爲めに役せらる、是故に君子は德行成りて而て容知らず、聞識博くして而して辭、争はず、知慮微達して外屬なるが若しと。

コウシ 顧雲 (唐)池州の人。少して諸賢と業を九華山に就ふ。文名籍甚。登第の後、門を杜ら書を書はす。後三朝實錄を起修す。虞部員外郎を加へらる。著はす所、

コウシ

風策聯華編、昭亭雜錄、共に五十卷あり。コウシ 伍雲 (明)定遠の人。荊州護衛指揮同知を以て、軍に従つて交趾を征す。賊平きて昌江衛に調せらる。仁宗の初、又軍に従つて黎利を討ち、陣歿す。優卹制の如し。

コウシ 吳雲 (明)宜興の人。元の翰林待制。太祖に仕て湖廣行省參政たり。洪武八年九月、太祖再び使を遣し梁王を招諭せんとす。雲を召して曰く、今天下一家なり、獨り雲南未だ正朔を奉ぜずして、我使臣を殺せり。卿よく我が爲に陸賈と作るか。雲頓首行かんと言ふ。是より先、梁王、鐵知院輩二十餘人を漢北に遣す。大將軍の爲に獲られ、京師に送らる。太祖釋して雲と偕に行かしむ。既に境に入る。鐵知院等謀て曰く、吾使臣を奉じて執はる、罪且に死せんと言ふ。乃ち雲を誘ひ、詐て元使を爲し、制書を改めて共に梁王を給かしむ。雲死を誓て従はず。鐵知院遂に雲を殺す。雲の子徹事を朝に上す。雲に刑部尙書を贈り、忠節と諡す。雲又畫に名あり、善く山水を畫く。

コウメイカウ 公明高 (周)南武城の人。曾子の弟子。コウメイギ 公明儀 (周)南武城の人。子張の門人。昔て周公の言を誦して曰く、文王は我師なり、周公豈我を欺かんやと。コウメイセン 公明宣 (周)南武城の人。曾子に學ぶ。三年書を讀まず。曾子之を問ふ。

コウモウ

宣曰く、夫子の庭に在るを見る親をせば叱咤犬馬に及ばず、賓客に應ずるに、恭儉して懈惰ならず、朝廷に居て下に臨むに毀傷せず、三つのもの宜之を悦び學ぶも未だ能はず、安んぞ敢て學ばざらんやと。コウモウ 侯蒙 (唐)知柏郷たり。縣民の訟、皆慈敏に決し、淹繫する事なし。轉運使黃滉、薦めて之を用ふ。

コウモウ 侯蒙 (宋)南密の人。進士に擧げられ、殿中侍御史に歷す。星變に因て十事を疏す。徽宗之を納る。四師利を失ふ。帝五路の將を責め、十八人皆死に償かる。蒙旨を被り按問し、力めて申理を爲す。遂に之を釋す。中書侍郎に歴陞す。蔡京と協はず、出でて、典外たり。任に卒す。文穆と諡す。

コウヤウカウ 公羊高 (周)子夏の弟子。春秋を受け公羊傳をつくる。コウヤシユ 弘夜珠 (南北)梁の元帝の妃。善く文を屬す。帝東宮に在る時叙を賜ふ。珠啓を作つて答へて云はく、未得投壺、先應含笑、不因驚風、自能歇舞、夜珠昔住陽臺、雖逢四照、曾遊澧浦、憤讎九衢、未有仍代許叙、還勝翠羽、飾以南金、裝茲麗玉、修麗夫人、本分重華之裏、山中孺子、獨荷春宮之恩、有志當熊、無期投壺と。コウヤチヤウ 公治長 (周)字は子長。齊人。孔子の弟子。昔て事を以て操練に遭ふ。孔子、以て其練に非ずと爲し其子を以て之に妻はす。

コウユ

コウユ 孔簡 (晋)字は敬康。山陰會稽の人。華族を討ち功を以て餘不亭侯に封ぜらる。少くして昔て行き此亭を經、龍龜を路に見る。買て之を餘不溪中に放つ。龜腹中に至り左顧する數四、封を受るに及びて印を鑄るに龜紐皆左顧す。三鑄初の如し。簡悟て之を「ぶ。要路に歴登し、空裏にして歸る。布衣茅舍澹如たり時に同郡の張茂字は偉康丁諱字は世康と名を齊しうす、世に會稽三康と號す。

コウヨウ 孔雍 (明)字は韶文。長洲の人。景泰五年の進士。知縣たり。弘治中、工部右侍郎に擢でらる。二年卒す。年六十三。コウヨクフジン 鈞七夫人 (漢)昭帝の母。姓は趙氏。初武帝河間を過りて奇女あるを聞き、召して之を見るに兩手皆拳す。上自ら之を披けば手即ち伸ぶ。是に由て帝を得。號を拳夫人と曰ふ。後鈞七の宮に居り。子一人を生む。武帝之を立てんと欲すれども其幼にして其母少きを以て、女主恣に國家を亂さんとを恐れ猶豫之を久うす。一日鈞七甘泉宮に侍す。過あり。帝之を躡責す。夫人警蹕を脱して叩頭す。帝曰く引持して去て掖庭の獄に送れと。夫人還顧す。帝曰く趣に行け、女活くることを得ずと。夫人雲陽宮に死す。夫人の子立て太子と爲り後位に即く。之を昭帝と爲す。鈞七を追尊して貞太后と爲す。

コウヨレイ 苟與齡 (宋)來安の人。忠高深を尙ぶ。其親に事る生養死葬、力竭くし

コウユ

て禮盡くす。母没し墓に廬す。事聞す。其門に旌す。

コウラク 寇洛 (南北)上谷昌平の人。累世將吏たり。洛、性明辨、小節に拘らず。賈成岳四征す。洛岳と里を同うす。乃ち墓に從ひ關に入り力戦して功あり。安鄉縣子に封ぜらる。

コウリ 孔鯉 (周)字伯魚。魯人。孔子の子。孔子に先だちて卒す。子の言行、論語中に散見す。子伋。コウリウ 公劉 (殷)姬姓。后稷の後。祖父不窋、夏后氏の政衰ふるに遇ひ其官を失ひ戎狄の間に奔る。公劉戎狄の間に在りて雖も復后稷の業を修めて耕種を務む。行く者資あり居る者畜積あり民其慶に頼る。多く徒りて之に歸す。周の道の興る此より始まる。

コウリゲン 洪利元 (清)洪秀全の族。秀全之に王號を加へ雄鎮に任ず。同治三年江寧の役に敗死す。コウリンシ 孔琳之 (南北)字は彦琳。孔子二十八代の孫。文藝を好み、音律を解し、草隸に妙。桓玄政を輔け以て四閣と爲す。琳昔て玄の旨意に順はず、故に知られず。尙書左丞に累遷す。宋永初二年御史中丞に拜す。法を執りて撓む所なし。武帝崩臺に行經し親ら臨幸を加ふ。卒して大常を贈る。琳産業を事とせず、家貧素なり。著書文集十卷あり。コウリンノツマ 孔琳妻 (南北)宋人。附

コウラク

氏。書を善くす。

コウリヤウキツ 洪亮吉 (清)字は稚存。江蘇陽湖の人。乾隆庚戌、進士と成り、第二名を賜ひて及第し、編修を授けらる。嘉慶己未、事坐して伊犁に戌し、尋いて赦され還るに及んで自ら更生居士と號す。亮吉、書に於て魏はざる所なく詩文奇氣あり。少にして武進の黃仲則と名を齊しうす。江左、洪黃と號す。仲則汾州に客死す。十里其喪に奔る。世、巨卿の目あり。其後經術を沈研し同里の孫星衍と學を論じて相長す。人又孫洪と稱すと云ふ。卒する年六十有四。詩文集六十卷あり。世に行はる。

コウリヤウジュ 公良孺 (周)字は子正。一に子幼と作る。陳人。孔子陳を去り蒲を過ぐ。公叔氏蒲を以て呼く會ふ。蒲人孔子を止む。良孺私車五乘を以て孔子に従ふ。其人となり長臂にして勇力あり。謂て曰く吾夫子に從ひ難に匡に遇ひ、今又難に此に遇ふは命なり、吾夫子と再び難に罷る、寧ろ我闕死せん。劍を挺して而して合ふ。衆將に之と戦はんとす。蒲人圍れて孔子を適かしむ。孔子遂に蒲に適く。

コウリヤウチウ 侯良柱 (明)字は朝石。永寧衛の人。天啓中四川總兵官を歴、崇禎中、左都督に累進す。十年十月、李自成の爲に綿州に敗られ、詔獄に下されて死す。後其子天錫の功を以て之を赦す。コウリヨウジヤウ 勾龍驥 (宋)字は文學。秦州の人。紹興の進士。朱熹と師を同じく

コウリヤ

コウリヨウテイジツ 勾龍庭實 (宋)嘉州夾江の人。政和の進士。學士院に召試し校書郎に除せらる。後眉州に知たり。濟堰を作通して民田に溉ぐ。眉州の民之を徳とし石を刻して以て其事を傳ふ。

コウリヨウデン 勾龍傳 (宋)春秋三傳、分國記事本末を撰ぶ。

コウレイコゼンウ 句黎湖單子 (漢)匈奴の主。烏維單子の弟。初め右賢王たり。見單子死して之に代はる立て一年にして死す。

コウレイサン 孔璽産 (南北)晉安太守と爲る。宋の泰始中、郡を罷め隱遁の志有り。禹井山に於て館を立て道な事とす。精篤にして頗る墨文を解し術數を好む。齊高帝の時、沈攸之兵を起す。璽産高帝に白して曰く、攸之の兵衆強と雖も、天時其數を以て觀るに能く爲す無き也と。帝其言を驗し擢て光祿大夫と爲し、璽を以て璽産を盛り璽産に上せ其候を占せしむ。璽産に白羽扇衆人を賜ひ、之に諭して曰く、君古人之風あり、君に贈るに古人之服を以てすと。當世之を榮とす。

コウキ 孔維 (宋)字は爲則。雍丘の人。乾德中九經を以て及第す。國子博士たり。高麗に使す。王治、禮を問ふ。維對ふる父君子臣の道升降尊威の序を以てす。治悅んで曰、今日復た中國の夫子を見ると。國子祭酒に累遷し、五經疏義を校定す。

コウエン 洪垣 (明)字は峻之。婺源の人。嘉靖十一年の進士。業を湛若水に受く。知縣より御史に擢てらる。莽りに疏して奸佞を斥く。嘗て温州知府たる時、歲饑う。糶を閉づる者あり。饑民之を殺す。垣坐して落職し歸り、若水に従つて寄食して卒す。

コウラン 孔温 (唐)孔戣の子。書を業とす。進士と擧げられ、大中の時吏部侍郎となる。復た太子賓客たり。

コウランフクワ 口温不花 (元)太宗の時、鉤州を攻め金師を敗る。後ち數々戰功を立つ。常に兵柄を掌さん。人之を推重す。

コウイ 胡頰 (南北)吳縣の人。姿容偉にして性寛厚なり。陳の武帝に從ひて征伐し、屢々功業を建つ。武帝、譚を受く。頰、乃果官して吳興太守たり。卒して謚して莊と曰ふ。

コウイ 胡頰 (宋)字は叔猷。湘潭の人。紹定間、進士の第に登り、知平江府に歴官す。後、廣東經畧安撫使たり。潮僧寺に大蛇あり。能く人を驚動す。頰、僧に激して蛇を昇き至らしめ、令し曰く、爾が神靈あらば、當に三日に怪を見はずべしと。期に及びて蓋然たり。遂に之を殺す。平生正直剛果、博學強記、辭を吐けば文を成す。政に臨みて善く斷じ、暴を畏れず。

コエイ 胡榮 (明)濟寧の人。洪武間、其長女官と爲る。永樂間、第三女皇太孫の妃と爲る。故を以て光祿寺卿に擢拜せらる。宣德間后廢せられて胡氏遂に擢はす。

コエイ 吳瑛 (宋)字は德仁。新州の人。柳に知たり。虞部員外郎を以て少壯にして致仕して歸り、溪に臨みて室を築き、花を種ふ酒を醸し、賓至れば必ず酔ひ、或は花間に困臥す。客、人物を感否する者あれば、一言を酬いず。人、其樂易を愛し其高尚を敬せざる者なし。卒する年八十有四。

コエイ 吳瑛 (清)字は元期。太倉州の人。梅村の子。詩工なり。康熙戊辰の進士。累官して給事中たり。著、四齋集あり。

コエイ 吳永素 (唐)群公座に在り、雪に對す。尚隆之曰く、麴推金井、誰調湯餅と。永素曰く、玉滿天山、誰刻佩環と。坐間、其清韻に服す。

コエイ子ノツマ 吳永年妻 (宋)何氏。吳人。金兵三吳を犯す。永年姉及び何氏と母を奉じて逃れ、賊に得らる。賊之を繫がむとす。何氏給きて曰く、諸君何ぞ武ならざる、婦人は東西惟命のみと。賊之を信ず。行て水濱に次す。其夫に謂て曰く、我君に負かずと。遂に河に投ず。其姉之に繼ぐ。

コウキ 胡頰 (明)沐陽の人。初め宣春知縣と爲る。三遷して都給事中たり。嘗て高拱を劾す。拱、嘉を街むこと甚し。穆宗即位の初、大政を面議し、旨に稱ふ。拱の再び國に當るや、驚怖して卒す。

コウキ 吳應箕 (明)字は次尾。貴池の人。今古の文を善くす。明の漸く衰ふるや、義兵を率ひて頗る努む。已にして山中に走る。獲られて死に就く。

コウキ 吳應箕 (清)字は小眉。號は眉菴。又の號は青靈山人。歸安の人。康熙乙未の進士。翰林に入り、官、兵部右侍郎に至る。詩に工に、好んで墨竹を寫す。嘗て扇上に竹石小景を作る。

コウキ 吳應箕 (宋)蘇州の人。仕へて閻平主簿たり。兄弟六人。嘗て父の命を以て居を拆つ。延祐間、父卒す。葬を治め畢りて、泣きて其母に告げて曰く、吾が兄弟別處するに十餘年、今多くは産を傾く。一母の生む所を以て苦樂を均しからざらむるに忍びんやと。即ち家財を以て其遺を代還し、更に其居を復す。事聞す。其間に表す。

コウキ 胡海 (明)字は海洋。定遠の人。

コウキ 胡海 (明)字は海洋。定遠の人。

コウキ 胡海 (明)字は海洋。定遠の人。

コウキ 胡海 (明)字は海洋。定遠の人。

コウキ 胡海 (明)字は海洋。定遠の人。

コウキ 胡海 (明)字は海洋。定遠の人。

コウキ 胡海 (明)字は海洋。定遠の人。

コウキ 胡海 (明)字は海洋。定遠の人。

コウキ 胡海 (明)字は海洋。定遠の人。

コウキ 胡海 (明)字は海洋。定遠の人。

コウキ 胡海 (明)字は海洋。定遠の人。

コウキ 胡海 (明)字は海洋。定遠の人。

曾て土表赤塘王に入り總管たり。自ら拔き來り歸す。太祖之に百戸を授く。從て四方を定むるの功あり。東川侯に封ぜらる。征南將軍に進む。平定の後、乞うて郷里に還り、洪武二十四年七月、疽を病み卒す。年六十三。子城。

コカイ 胡亥 (秦)二世皇帝を見よ。

コカイ 吳玠 (宋)字は晉卿。隴州の人。少より穎悟、志節あり。日に書史を誦す。凡そ往事の師とすべき者は録して座右に置く。久しきを讀みて牆壁皆格言なり。兵を用ふる孫吳に本づく。遠略を務めて近利に就かず。下を御する嚴にして恩あり。慮心請受し、卒伍最下の者と雖も皆情を以て達するを得。將佐を選用するに勞を視て能く高下をなし、親故備費を以て之を撓まざる。建炎の初、戦功を以て涇源路副總管に累遷し、秦鳳に徙る。張浚、制を承け、川ひて都統制と爲す。金人漢陽に寇す。劉子羽、驛書を以て玠を招く。玠、夜三百里を馳せて之に赴き、黃柑を以て敵に遺りて曰く、大軍遠く來る、聊か以て渴を止むと。敵驕喝大に其神速に驚き、兵遂に潰ゆ。弟璘と戮力協心、險に據りて敵に抗し、遂に蜀を保全す。累遷して四川宣撫使たり。陝西階成等の州、俱に節制を聽く。帝、内侍を遣はし、親札を奉て以て賜ふ。使者至れば玠病已に篤し。且つ國醫に救して馳せ往きて視しむ。未だ至らざるに、玠、仙人關に卒す。年四十七。少師を贈り錢三十萬を賜ふ。孝

宗の時、涪王に追封し。武安と諡す。四人之を思ひ、爲に廟を作り以て奉ず。弟璘。子拱。

コカイ 吳漸 (宋)龍溪の人。陳知柔と善し。知柔、嘗て漸を稱して曰く、貌古、心古、學古、文古、其をして戸を閉ちて書を著はさしめば當に子雲の下に在らざるべしと。著す所、省覽録あり。

コカイ 吳海 (明)字は朝宗。閩縣の人。學行を以て稱せらる。洪武の初、累召皆固辭す。平居過を規する者あれば、欣然として立どころに改む。開過齋集あり世に行はる。ゴカイ 伍概 (明)字は廷節。臨川人。畫法に精しく工に翎毛を畫く。

コカイ 胡諧之 (南北)豫章の人。南齊武帝の時、江州別駕たり。左衛將軍に歷遷し給事中を加へらる。後、都官尚書に進む。識見あり。朝廷缺官ある毎に、密に用ふべき人を量る。皆其言の如し。人其明に服す。卒して蕭と諡す。

コカイ 顧愷之 (晉)字は長康、無錫の人。博學として才氣あり。嘗て恒溫及び殷仲堪の參軍と爲る。謝安深く之を器重す。丹青圖畫に善し。人を畫く毎に數年日晴を點せず。曰く、傳神寫照は正に阿堵に在る耳と。羲之の初、散騎常侍と爲る。尤も小術を信じ、以爲らく之を求むれば必ず得と。故に世に傳ふ。愷之三絶あり、才絶、藝絶、癡絶。嘗て虎頭將軍と爲る。人顧虎頭と號す。著はす所、文集及び啓蒙記あり、世に行は

る。或は長康に問ふ、君の筆賦と稽康の琴賦と如何。答て曰く、賞せざる者は必ず後出を以て相遺れ、深く識る者は亦た高奇を以て賞ぶと。恒溫、江陵城を治む甚だ麗はし。謂ふ僚佐若し能く此城を目する者は賞せん。長康即ち目して曰く、遙望層城、丹樓如霞。恒賞するに二婢を以てす。甘蔗を食ふ毎に末より本に至る。云ふ漸く佳境に入る。愷之吏部郎中と爲る時、庭中に於て嘉樹を植て曰く、吾れ愷之の爲め植うる耳と。愷之は愷之の孫也。

コカイ 顧凱之 (南北)字は偉仁、山陰令、政清簡を尚び、案に留履無し、日に塵を垂れ端坐する而已。幸臣戴法興、權人主を傾むく。凱之未だ嘗て色を降さず。或は其風節峻に過ぐるを嫌ふ者有り。凱之曰く辛毗云はすや、孫劉吾れをして三公と爲さしむるに過ぎざるのみと。

コカイ 胡海隆 (清)性殘忍酷薄。殺戮を好み、楊逆に誦事す。遂に併せ誅せらる。

コカイ 顧翽 (漢)吳人。少して父を失ひ、母に事へて孝。母離胡飯を食ふを好む。常に子女を帥ひ、躬自ら探糶し、水を導き川を鑿して供養す。家大湖に近し、湖中乃ち雕胡を生し復た雜草無し。郡邑其開舎に表す。

云ふ、坊舒之政、於茲有賴と。

コカウ 胡杲 (唐)會昌の間、胡吉劉鄭盧白張季及び僧如滿の九人、尙齒の會を合し號して香山九老となす。

コカウ 胡向 (宋)清江の人。皇祐間、進士に擧げられ、累官して越州に俸たり。考課、天下第一たり。後、大理卿と擢てらる。獄を決する仁慈、冤を雪ぎ死を免る者甚だ多し。

コカウ 胡昊 (明)晏の弟。畫を善くす。

コカウ 胡昂 (明)晏の弟。畫を善くす。

コカウ 胡澤 (明)字は原荆。無錫の人。嘉靖末の進士。知縣より御史に擢てらる。神宗の時、奏中に唐高君たらす、則天虐を爲すの語あり、爲に諱忌にふれて斥けられ之を久うして卒す。

コカウ 胡剛 (漢)南郡華容の人。清高にして志節あり。大司徒馬公、之を辟す。王莽の播に居るに値ふ。剛、其衣冠を解き、府門に懸けて去る。遂に亡けて交趾に入り、屠肆の間を隱る。後、莽、敗る。乃ち郷里に歸る。

コカウ 胡剛 (明)浙江新昌の人。洪武の人。父誦せられて酒上に役す。逃亡を以て

死に當す。贈馬郡尉梅股に較して刑を監せしむ。剛時に方に行きて奮す。河上に立ちて渡を映つ。之を聞て即ち衣を解き、水を漉て往く。哀號して泣いて代らんとす。股之を觸みて奏聞す。詔して其父を宥し、並に同罪の者八十二人を宥す。

コカウ 顧龍 (清)吳縣の人。父仲常、金瑞甫に殺さる。龍、金に臂口に遇ひ、刀を抜いて之を刺す。金躍つて水に入る。龍之に従ひ連刺已ます。後諸を官に擢ふ。金諒に伏す。

コカウ 吳沆 (宋)崇仁の人。少にして孤母に仕へて孝なり。政和間、書を朝に獻す。用ひられず。環溪に歸隱す。後擧げらる。限ぜず。著、易論語發微、老子解、環溪集あり。

コカウ 伍詒 (宋)字は純甫。安福の人。治平の進士。知縣事たり。才思天成、大に豚の辞を肆にし、孟子を祖とし下司馬子長に及ぶ。文雄渾を尚び、一時絶倫なり。王安石其の文を薦む。性剛直寡合、人多く之を忌む、故に大に顯はれず。

コカウ 吳康 (宋)升の從子。

コカウ 吳剛 (漢)西河の人。仙を學ぶ。過ち有りて誦せられ、月中の桂を伐る。桂、高さ五百丈。之を斫れば梓痕隨つて合す。云ふ。

コカウ 胡奕修 (宋)宗炎の從子。字は已懋。崇寧の進士。直學士院兼侍讀たり。首として天下の大勢を論じ、又た詔に應じ

て、盜を弭め民を保ち、財を豊にし國を裕にし兵を強うし戎を禦ぐの要を對ふ。後、翰林學士に陞り、刑部尚書に遷る。奕修、簡重寡言、進止度有り。文を爲るに彫琢を事せず。同亮に在りて職に稱ふを稱せらる。

コカウ ツマ 吳江妻 (明)李氏。餘姚の人。年二十のとき夫舅と俱に卒す。家貧しくして恒に凍餒す。姑陰に父家と約し母暴疾を稱し肩輿來迎す。既にして其計を知る。婦伴り喜色を爲し其聘財を姑に奉じて歸らしむ。沐浴して久しく出でず。戸を闢き之を見れば則ち縊死す。

コカウ 胡臥雲 (清)天游の妹。姉石蘭景素と共に俊才あり。詩に工なり。時に之を劉家の三妹に比す。

コカウ 顧我綺 (清)字は湘南。江蘇吳江の人。邑の廩生たり。鄂文端江蘇に任じ政を布く。時に古學を以て士を試み五十三人を得、湘南を冠す。遂に南邦黎獻之刻あり。後博學鴻詞科を擧ぐ。詔下るに及びて湘南歿す。著はす所湘南詩集といふ。

コカウ 吳可幾 (宋)安吉の人。弟知幾と與に好古博學、千姓編を著す。凡そ姓の出づる所、悉く源委あり。時に二吳と號す。父死す。兄弟、墓に廬すると三年、忽ち平地に泉出づ。因て孝子泉と號す。

コカウ 吳嘉紀 (清)字は寶賢。號は野人。泰州の布衣。著、陋軒集あり。漁洋尚書に賞識せらる。